

砂子瀬遺跡Ⅲ

－ 津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 －

2012年3月

青森県教育委員会



調査区全景 上方が北

巻頭図版1



環状部完掘 上方が西



北区完掘 上方が西



第1号掘立柱建物跡・第4号焼土遺構検出



第4号掘立柱建物跡・第1号焼土遺構完掘



第12・13号掘立柱建物跡検出



柱穴群検出（VP-58付近）



第4号焼土遺構 土層 (第1号掘立柱建物跡)



第1号焼土遺構 土層 (第4号掘立柱建物跡)



第417号土坑 確認



第417号土坑 土層



第261号土坑 (第1号掘立柱建物跡 柱3) 確認



第78号土坑 (第13号掘立柱建物跡 柱3) 柱痕完掘



第59号土坑 (第12号掘立柱建物跡 柱3) 土層



第168号土坑 (第19号掘立柱建物跡 柱5) 土層



土器・石錘



土製品・石製品

序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、平成15年度から津軽ダム建設事業予定地に所在している遺跡の発掘調査を実施しています。砂子瀬遺跡は平成18年度から発掘調査を開始しており、平成22年度は5回目の調査となります。本報告書は平成21年度と22年度に行った調査成果についてまとめたものであります。

これまでの調査では、縄文時代後期の竪穴住居跡や土坑が発見されており、集落が営まれていたことが分かっていました。今回の発掘調査では、さらに縄文時代後期の掘立柱建物跡が多数発見され、集落の構成要素が徐々に明らかとなってきております。

この成果が、広く埋蔵文化財の保護と研究等に活用され、地域の歴史を理解する一助となることを期待いたします。

最後に、日頃から埋蔵文化財の保護と活用に対してご理解を頂いている津軽ダム工事事務所に厚くお礼申し上げるとともに、発掘調査の実施と報告書の作成にあたり、ご指導・ご協力を頂きました関係各位に対し、心より感謝いたします。

平成24年3月

青森県埋蔵文化財調査センター
所 長 松 田 守 正

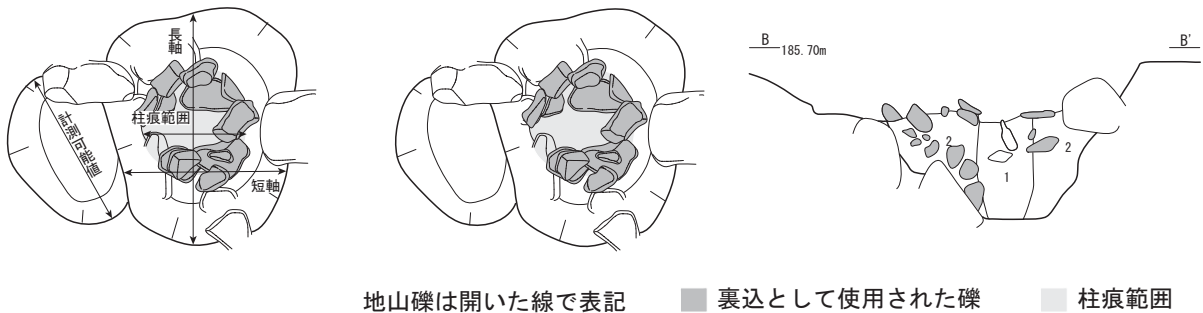
例 言

- 1 砂子瀬遺跡は、国土交通省 東北地方整備局 津軽ダム工事事務所による津軽ダム建設事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成18年度から発掘調査を実施しており、本書は平成21年度と、平成22年度に行った調査成果について掲載している。砂子瀬遺跡は調査区をA～E区に分けており、本書はA区の一部（6,000㎡）について報告するものである。なお、本遺跡については、既に2冊の報告書を刊行しており（2009年3月、2010年3月）、C～E区の調査成果について報告している。
- 2 砂子瀬遺跡の所在地は、青森県中津軽郡西目屋村大字砂子瀬字宮元、青森県遺跡番号は343008（旧番号25008）である。緯度と経度については報告書抄録に示した。
- 3 発掘調査と整理・報告書作成の経費は発掘調査を委託した国土交通省東北地方整備局津軽ダム工事事務所が負担した。
- 4 本書で報告する調査区の発掘調査から整理・報告書作成までの期間は、以下のとおりである。

発掘調査期間	平成21年5月7日～同年11月13日
	平成22年5月6日～同年10月28日
整理・報告書作成期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日
- 5 本書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆は、小山浩平文化財保護主査が南区の遺構及び土器、岡本洋文化財保護主事が北区の遺構及び石器・石製品、小田川哲彦総括主幹が土製品を担当した。遺構計測表および遺物観察表の作成についても上記の分担により各職員が行った。依頼原稿については文頭に執筆者名を記した。
- 6 発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務を委託し実施した。

空中写真撮影	株式会社 シン技術コンサル
路線測量	株式会社 キタコン
黒曜石産地推定	株式会社 アルカ
剥片石器の実測	株式会社 アルカ
遺物の写真撮影	シルバーフォト、フォトショップいなみ
放射性炭素年代測定	株式会社 加速器分析研究所
石質鑑定	青森県立郷土館主任学芸主査 島口 天
- 7 発掘調査成果の一部は、発掘調査報告会等において公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合は、正式報告として刊行する本書がこれらに優先する。
- 8 発掘調査および整理・報告書作成における出土品、実測図類、写真類、版下等は、青森県埋蔵文化財調査センターが保管している。
- 9 発掘調査および整理・報告書作成に際して、下記の方々と機関からご協力・ご指導を得た。
上條信彦、石井 寛、三宅徹也、瀬川 滋、中村隼人、西目屋村教育委員会（順不同・敬称略）
- 10 本報告書に掲載した遺跡位置図は、国土地理院発行の1/25,000地形図を複写して使用した。
- 11 測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。

- 12 挿図中の方位は座標北を示している。
- 13 全体図等の縮尺は各挿図にスケールを示し明示してある。
- 14 遺構については、検出順にその種類を示す略号と通し番号を付した。遺構に付した略号は次のとおりである。
- S I - 竪穴住居跡、S K - 土坑、S R - 土器埋設遺構、S P - ピット、S N - 焼土遺構、S B - 掘立柱建物跡、S Q - 配石遺構。
- 15 遺構実測図の土層断面図等には、水準点を基にした海拔標高を付した。
- 16 竪穴住居跡・土坑挿図の縮尺は1/60、土器埋設遺構は1/20、焼土遺構は1/30、配石遺構は1/40の縮尺で掲載した。
- 17 遺構図において破線で表記したものは推定線である。遺構図で使用した網掛けの指示と遺構の計測基準は以下のとおりである。



- 18 遺跡の基本層序にはローマ数字、遺構の層順には算用数字を使用した。
- 19 土層の色調表記等には、『新版標準土色帖 2004・2005年度版』（小山正忠・竹原秀雄編農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を使用した。
- 20 遺物に使用した略号は次のとおりである。P - 土器、S - 石器、C - 炭化材
- 21 遺物実測図の縮尺は、原則として縄文土器・礫石器は1/3、剥片石器・土製品・石製品は1/2としたが、大形の石器については1/5で示し、挿図中にスケールと縮尺率を示した。
- 22 石器実測図に使用した網掛けの指示は、以下のとおりである。
- スリ範囲
 スス付着範囲
- 23 遺物写真は縮尺不同で、個々の遺物番号は挿図番号と一致する。(図5-13は5-13と表記)
- 24 掲載遺物観察表には、出土地点・法量・諸特徴等を示した。破損品の現存値については()表記してある。本文中で掲載した土器の重量分布図に関しては5次調査で出土した土器を対象としている。
- 25 参考文献については巻末に収めたが、依頼原稿分は各文末に付した。

目次

序	
例言	
目次	
図版目次	
第1章 調査の概要	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 これまでの調査経過	3
第3節 4次・5次調査の経過	5
第4節 調査の方法	7
第5節 整理・報告書作成作業の経過と方法	8
第6節 周辺の遺跡	10
第7節 遺構の概要	11
第8節 遺物の概要	11
第9節 基本層序	16
第2章 検出遺構と出土遺物	20
第1節 竪穴住居跡	20
第2節 土坑	32
第3節 掘立柱建物跡	91
第4節 土器埋設遺構	106
第5節 焼土遺構	106
第6節 配石遺構	107
第7節 ピット	111
第8節 遺構外出土土器	133
第9節 遺構外出土石器	139
第10節 遺構外出土土製品・石製品	165
第3章 自然科学分析	174
第1節 放射性炭素年代測定	174
第2節 砂子瀬遺跡の火山灰	180
第3節 黒曜石産地推定	182
第4章 総括	190
参考文献	193
遺構計測表・遺物観察表	194
写真図版	240
報告書抄録	293

挿図目次

図1 遺跡位置図……………2	図48 北区環状外土坑(4)……………77
図2 調査区域図……………4	図49 北区環状外土坑(5)……………78
図3 遺構配置図・地区区分図……………12	図50 北区環状外土坑(6)……………79
図4 基本層序位置図……………17	図51 北区環状外土坑(7)……………80
図5 基本層序……………18	図52 北区環状外土坑(8)……………81
図6 第1号竪穴住居跡……………21	図53 北区環状外土坑(9)……………82
図7 第1号竪穴住居跡出土遺物……………22	図54 北区環状外土坑(10)……………83
図8 第2号竪穴住居跡・出土遺物……………24	図55 北区環状外土坑(11)……………84
図9 第3号竪穴住居跡・出土遺物……………25	図56 北区環状外土坑(12)……………85
図10 第4・5号竪穴住居跡・出土遺物(1)……………26	図57 北区環状外土坑(13)・環状部内側土坑……………86
図11 第5号竪穴住居跡出土遺物(2)……………27	図58 北区環状外土坑出土遺物(1)……………87
図12 第6号竪穴住居跡……………30	図59 北区環状外土坑出土遺物(2)……………88
図13 第7号竪穴住居跡・出土遺物……………31	図60 北区環状外土坑出土遺物(3)……………89
図14 南区環状外遺構配置図……………43	図61 北区環状外土坑出土遺物(4)……………90
図15 南区環状外土坑(1)……………44	図62 掘立柱建物跡配置図①(北区環状外)……………93
図16 南区環状外土坑(2)……………45	図63 掘立柱建物跡配置図②(環状部)……………94
図17 南区環状外土坑(3)……………46	図64 掘立柱建物跡配置図③(南区環状外)……………95
図18 南区環状外土坑(4)……………47	図65 掘立柱建物跡(1)……………96
図19 南区環状外土坑(5)……………48	図66 掘立柱建物跡(2)……………97
図20 南区環状外土坑(6)……………49	図67 掘立柱建物跡(3)……………98
図21 南区環状外土坑(7)……………50	図68 掘立柱建物跡(4)……………99
図22 南区環状外土坑(8)・ 南区環状外土坑出土遺物(1)……………51	図69 掘立柱建物跡(5)……………100
図23 南区環状外土坑出土遺物(2)……………52	図70 掘立柱建物跡(6)……………101
図24 南区環状外土坑出土遺物(3)……………53	図71 掘立柱建物跡(7)……………102
図25 環状部遺構配置図……………54	図72 掘立柱建物跡(8)……………103
図26 環状部南側土坑(1)……………55	図73 掘立柱建物跡(9)……………104
図27 環状部南側土坑(2)……………56	図74 掘立柱建物跡(10)……………105
図28 環状部南側土坑(3)……………57	図75 土器埋設遺構・出土遺物……………108
図29 環状部南側土坑(4)……………58	図76 土器埋設遺構出土遺物・焼土遺構……………109
図30 環状部南側土坑(5)……………59	図77 配石遺構・出土遺物……………110
図31 環状部南側土坑(6)……………60	図78 ピット掲載区分図(1)……………112
図32 環状部南側土坑(7)……………61	図79 ピット掲載区分図(2)……………113
図33 環状部南側土坑(8)・ 環状部北側土坑(1)……………62	図80 ピット掲載区分図(3)……………114
図34 環状部北側土坑(2)……………63	図81 ピット配置図①……………115
図35 環状部北側土坑(3)……………64	図82 ピット配置図②……………116
図36 環状部北側土坑(4)……………65	図83 ピット配置図③……………117
図37 環状部北側土坑(5)……………66	図84 ピット配置図④……………118
図38 環状部北側土坑(6)……………67	図85 ピット配置図⑤……………119
図39 環状部南側土坑出土遺物(1)……………68	図86 ピット配置図⑥……………120
図40 環状部南側土坑出土遺物(2)……………69	図87 ピット配置図⑦……………121
図41 環状部北側土坑出土遺物(1)……………70	図88 ピット配置図⑧……………122
図42 環状部北側土坑出土遺物(2)……………71	図89 ピット配置図⑨……………123
図43 北区環状外遺構配置図①……………72	図90 ピット配置図⑩……………124
図44 北区環状外遺構配置図②……………73	図91 ピット配置図⑪……………125
図45 北区環状外土坑(1)……………74	図92 ピット配置図⑫……………126
図46 北区環状外土坑(2)……………75	図93 ピット配置図⑬……………127
図47 北区環状外土坑(3)……………76	図94 ピット配置図⑭……………128
	図95 ピット配置図⑮……………129
	図96 北区ピット……………130

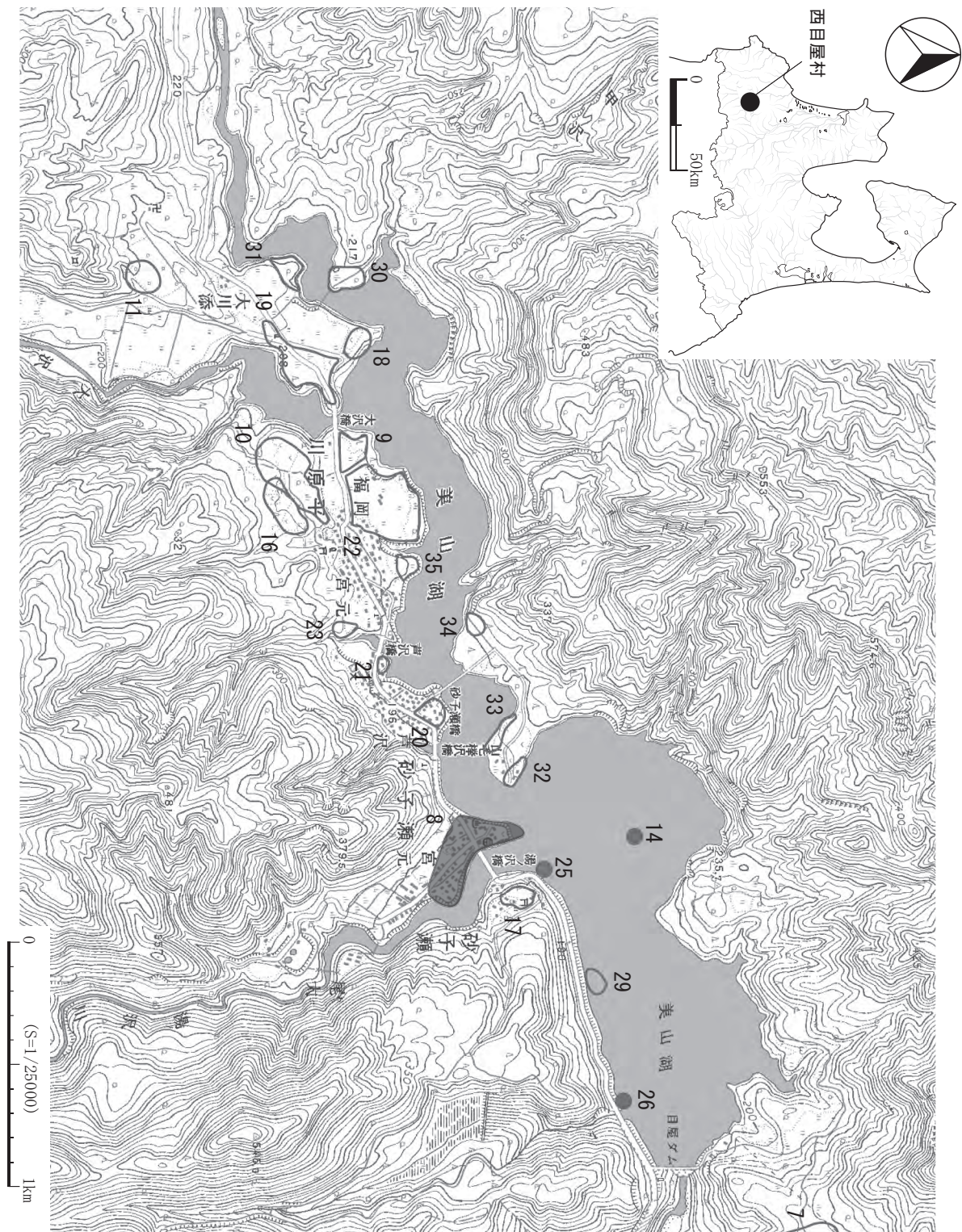
図97	ピット出土遺物(1) ……………	131	図114	南区遺構外出土石器(5) ……………	155
図98	ピット出土遺物(2) ……………	132	図115	南区遺構外出土石器(6)・ 環状部出土石器・出土地区不明石器 ……………	156
図99	土器の重量分布 ……………	133	図116	北区遺構外出土石器(1) ……………	157
図100	南区遺構外出土石器(環状外)(1) ……………	141	図117	北区遺構外出土石器(2) ……………	158
図101	南区遺構外出土石器(環状外)(2) ……………	142	図118	北区遺構外出土石器(3) ……………	159
図102	南区遺構外出土石器(環状外)(3) ……………	143	図119	北区遺構外出土石器(4) ……………	160
図103	南区遺構外出土石器(環状外)(4) ……………	144	図120	北区遺構外出土石器(5) ……………	161
図104	南区遺構外出土石器(環状外)(5)・ 環状部・環状内) ……………	145	図121	北区遺構外出土石器(6) ……………	162
図105	北区遺構外出土石器(環状外)(1) ……………	146	図122	北区遺構外出土石器(7) ……………	163
図106	北区遺構外出土石器(環状外)(2) ……………	147	図123	北区遺構外出土石器(8) ……………	164
図107	北区遺構外出土石器(環状外)(3) ……………	148	図124	遺構外出土土製品(1) ……………	166
図108	北区遺構外出土石器(環状外)(4) ……………	149	図125	遺構外出土土製品(2) ……………	167
図109	北区遺構外出土石器(環状外)(5) ……………	150	図126	遺構外出土石製品(1) ……………	169
図110	南区遺構外出土石器(1) ……………	151	図127	遺構外出土石製品(2) ……………	170
図111	南区遺構外出土石器(2) ……………	152	図128	遺構外出土石製品(3) ……………	171
図112	南区遺構外出土石器(3) ……………	153	図129	遺構外出土石製品(4) ……………	172
図113	南区遺構外出土石器(4) ……………	154	図130	第Ⅲ群3・4類出土遺構 ……………	191

写真図版

写真1	調査区全景 ……………	240	写真29	土坑(南区環状外) ……………	268
写真2	遺跡遠景 ……………	241	写真30	土坑(環状部南側) ……………	269
写真3	環状部 ……………	242	写真31	土坑(環状部北側・環状部内側) ……………	270
写真4	環状外 ……………	243	写真32	土坑(北区環状外) ……………	271
写真5	遺物出土状況・作業風景・基本層序 ……………	244	写真33	土器埋設遺構・焼土遺構(1) ……………	272
写真6	竪穴住居跡(1) ……………	245	写真34	焼土遺構(2)・配石遺構 ……………	273
写真7	竪穴住居跡(2) ……………	246	写真35	竪穴住居跡出土遺物① ……………	274
写真8	掘立柱建物跡(1) ……………	247	写真36	竪穴住居跡出土遺物②、土坑出土遺物① ……………	275
写真9	掘立柱建物跡(2) ……………	248	写真37	土坑出土遺物② ……………	276
写真10	掘立柱建物跡(3) ……………	249	写真38	土坑出土遺物③ ……………	277
写真11	掘立柱建物跡(4) ……………	250	写真39	土坑出土遺物④ ……………	278
写真12	掘立柱建物跡(5) ……………	251	写真40	土坑出土遺物⑤、土器埋設遺構 ……………	279
写真13	掘立柱建物跡(6) ……………	252	写真41	配石遺構出土遺物、ピット出土遺物 ……………	280
写真14	掘立柱建物跡(7) ……………	253	写真42	遺構外出土石器(1)(南区環状外①) ……………	281
写真15	掘立柱建物跡(8) ……………	254	写真43	遺構外出土石器(2)(南区環状外②) ……………	282
写真16	掘立柱建物跡(9) ……………	255	写真44	遺構外出土石器(3)(南区環状外③) ……………	283
写真17	掘立柱建物跡(10) ……………	256	写真45	遺構外出土石器(4)(南区環状外④・ 環状部・環状部内側・北区環状外①) ……………	284
写真18	掘立柱建物跡(11) ……………	257	写真46	遺構外出土石器(5)(北区環状外②) ……………	285
写真19	掘立柱建物跡(12) ……………	258	写真47	遺構外出土石器(6)(北区環状外③) ……………	286
写真20	掘立柱建物跡(13) ……………	259	写真48	遺構外出土石器(7)(北区環状外④) ……………	287
写真21	掘立柱建物跡(14) ……………	260	写真49	遺構外出土石器(1)(南区環状外①) ……………	288
写真22	掘立柱建物跡(15) ……………	261	写真50	遺構外出土石器(2)(南区環状外②・ 環状部・出土地区不明・北区環状外①) ……………	289
写真23	掘立柱建物跡(16) ……………	262	写真51	遺構外出土石器(3)(北区環状外②) ……………	290
写真24	掘立柱建物跡(17) ……………	263	写真52	遺構外出土石器(4)(北区環状外③)、 遺構外出土土製品・石製品(1) ……………	291
写真25	掘立柱建物跡(18) ……………	264	写真53	遺構外出土土製品(2) ……………	292
写真26	掘立柱建物跡(19) ……………	265			
写真27	掘立柱建物跡(20) ……………	266			
写真28	掘立柱建物跡(21) ……………	267			

第1章 調査の概要





地図 番号	遺跡番号	遺跡名
8	343008	砂子瀬遺跡
9	343009	川原平(1)遺跡
10	343010	川原平(2)遺跡
11	343011	焼山遺跡
14	343014	砂子瀬村元遺跡
16	343016	川原平(3)遺跡
17	343017	水上(1)遺跡
18	343018	大川添(1)遺跡
19	343019	大川添(2)遺跡
20	343020	青沢(1)遺跡
21	343021	青沢(2)遺跡
22	343022	川原平(4)遺跡
23	343023	川原平(5)遺跡
25	343025	水上(2)遺跡
26	343026	水上(3)遺跡
29	343029	水上(4)遺跡
30	343030	大川添(3)遺跡
31	343031	大川添(4)遺跡
32	343032	鬼川辺(1)遺跡
33	343033	鬼川辺(2)遺跡
34	343034	鬼川辺(3)遺跡
35	343035	川原平(6)遺跡

図1 遺跡位置図

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

岩木川総合開発事業の一環として建設される津軽ダムは、昭和35年に完成した目屋ダムの度重なる計画規模を超えた出水による洪水や渇水の被害などを繰り返さないため、昭和58年から建設省東北地方建設局青森工事事務所による予備調査や実施計画調査が行われ、平成5年11月に「ダム基本計画」が告示された。

平成14年には、国土交通省東北地方整備局津軽ダム工事事務所から青森県教育庁文化財保護課へ、津軽ダム建設予定地内に所在している埋蔵文化財包蔵地の取り扱いに関する協議の依頼があり、これを受けて同年7月に、津軽ダム工事事務所、県文化財保護課、西目屋村教育委員会の3者により、現地踏査と津軽ダム建設工事の工程・内容、津軽ダム建設予定地内の埋蔵文化財調査の進め方等についての協議が行われた。その後、文化財保護課による分布調査が実施され、津軽ダム建設予定地常時満水区域内の埋蔵文化財調査対象範囲を12地区、総面積768,000㎡と確定した。発掘調査は県埋蔵文化財調査センターが担当して実施することとなり、平成15年度から調査を開始した。

砂子瀬遺跡の発掘調査に関わる協議は、平成18年11月に津軽ダム工事事務所及び県文化財保護課、県埋蔵文化財調査センターの3者で行われ、本発掘調査は平成19年度から湯ノ沢橋付け替え道路区域から開始することとなった。なお、土木工事等のための発掘調査に関する通知書は平成19年4月に、国土交通省津軽ダム工事事務所所長から提出され、同年に青森県教育委員会教育長から発掘調査の実施が指示された。

第2節 これまでの調査経過

砂子瀬遺跡の発掘調査は、平成18年度に開始され、これまで6次の調査が行われている。調査対象範囲は広大であることから、既存の道路を境として便宜的にA～E区に区分けして調査を進めた（図2）。本発掘調査は平成19年度に開始し、調査対象区は工事の優先度に合わせてC・D区から始めた（2次調査）。平成20年度にはE区の本発掘調査（3次調査）を、平成21年度にはE区の本発掘調査（4次-E調査）とA区の遺構確認調査（4次-A調査）を、平成22年度にはA区の本発掘調査（5次調査）を行った。各区における調査成果の概要は以下のとおりである。

2次調査（C区）

（検出遺構）

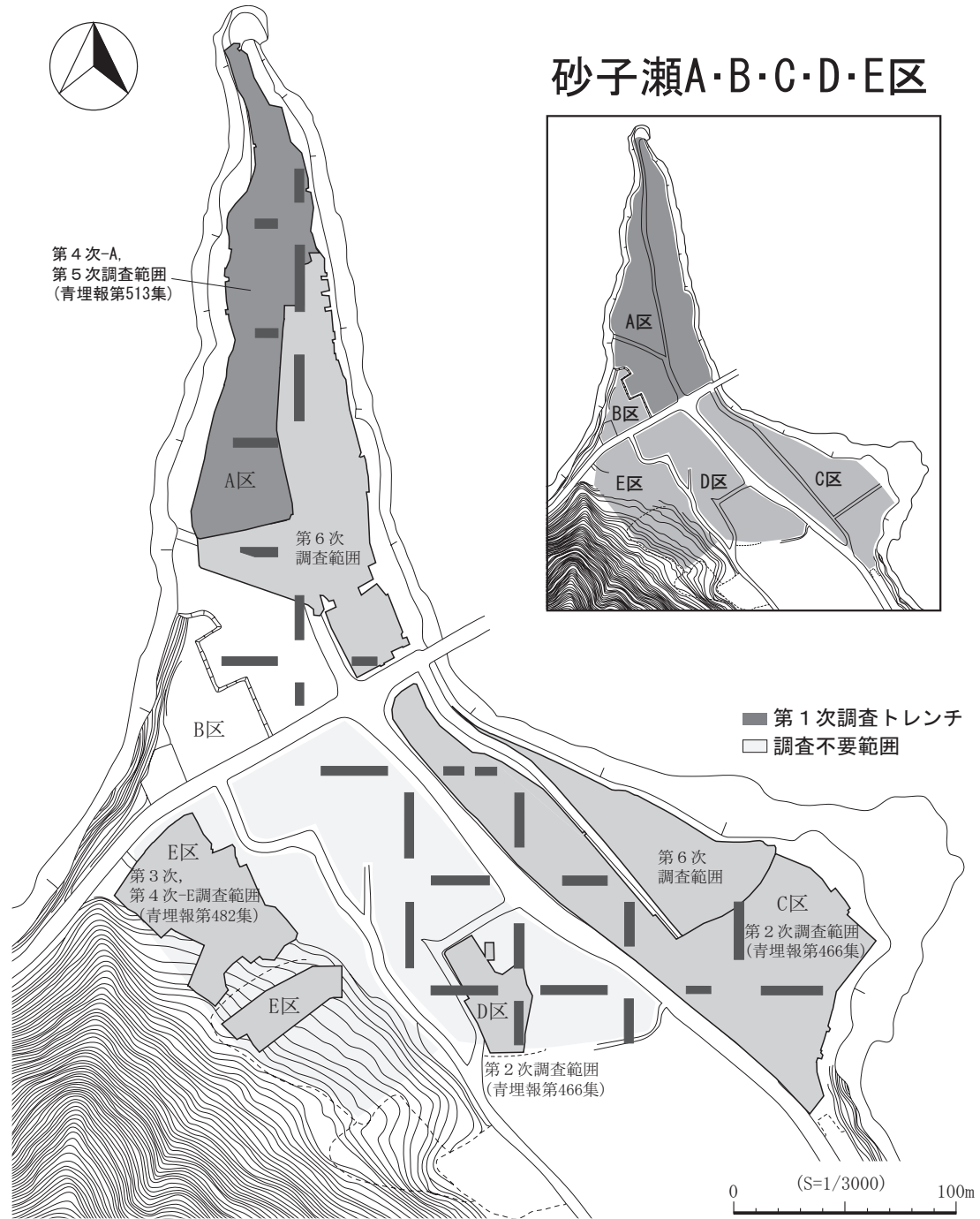
竪穴住居跡1軒、土坑30基、土器埋設遺構14基、配石遺構5基、屋外配石炉1基が検出され、遺構の時期は出土遺物から後期前半と推定されている。なお、特筆すべき遺構として屋外配石炉があげられている。

（遺構外出土遺物）

縄文時代中期後半から晩期前葉までの土器が出土しているが、主体を占めているのは後期初頭～前葉の土器群である。

2次調査（D区）

1次調査の結果、大部分が既に削平されていることが明らかとなり、遺構が残存している範囲を調



調査年月日	西暦	調査内容	調査回数	報告書
平成 18 年 9 月 5 日～10 月 27 日	2006 年	遺跡全体の範囲・内容確認調査	第 1 次	青埋報第 466 集 2009 年 3 月
平成 19 年 5 月 8 日～10 月 31 日	2007 年	調査 C・D 区の本発掘調査	第 2 次	
平成 20 年 5 月 7 日～10 月 2 日	2008 年	E 区範囲確認・本発掘調査	第 3 次	青埋報第 482 集 2010 年 3 月
平成 21 年 5 月 7 日～7 月 23 日	2009 年	E 区本発掘調査	第 4 次-E	青埋報第 513 集 2012 年 3 月 (本書)
平成 21 年 5 月 7 日～11 月 13 日	2009 年	A 区本発掘調査	第 4 次-A	
平成 22 年 5 月 6 日～10 月 28 日	2010 年	A 区本発掘調査	第 5 次	
平成 23 年 5 月 11 日～10 月 28 日	2011 年	A 区本発掘調査	第 6 次	

図 2 調査区域図

査対象とした。土坑が3基検出されており、出土遺物から後期前半の遺構と推定されている。

3次調査（E区）

（検出遺構）

竪穴住居跡1軒、土坑100基、土器埋設遺構1基、焼土遺構1基が検出されている。竪穴住居跡は出土遺物から後期後葉、土坑は後期初頭～前葉と後葉のものと推定されている。

（出土遺物）

縄文時代前期の円筒下層式から弥生時代までの土器が出土しているが、主体を占めているのは後期の土器である。中でも後期初頭～前葉の遺物が多いが、後期後葉の遺物も相当量が出土しており、その出土量はC・D区より多い。

以上の事から、砂子瀬遺跡C～E区では縄文時代前期から弥生時代までの土器が出土しているが、主体を占めているのは縄文時代後期である。中でも、後期初頭～前葉、後葉に集落が展開していたことが明らかとなっている。

第3節 4次・5次調査の経過

本書で報告するのは平成21年度（4次-A調査）と平成22年度（5次調査）の2カ年であることから、発掘作業の体制及び経過を年度毎に記載する。

[平成21年度（4次調査）]

調査主体 青森県埋蔵文化財調査センター

所長 新岡 嗣浩

次長 工藤 大

総務GM 木村 繁博

調査第一GM 成田 滋彦

総括主幹 中嶋 友文（現調査第一GM）

文化財保護主査 新山 隆男、佐々木 雅裕、伊藤由美子、佐藤 純子

文化財保護主事 菅原 優太

調査補助員 出町 好、山上 猛、森山 裕行、白戸このみ、太田 雄、佐藤 裕香、
佐藤 大介、中村 晃菜、岩佐 良子、坂本真由美、福田 南、山崎 淑恵、
一戸佐知絵

専門的事項に関する指導・助言

調査指導員 村越 潔 国立大学法人 弘前大学名誉教授・故人（考古学）

調査員 葛西 勵 前青森短期大学教授（考古学）

調査員 関根 達人 国立大学法人 弘前大学人文学部准教授（現教授）（考古学）

発掘作業の経過は以下のとおりである。

5月上旬から重機を使用した表土剥ぎ作業を開始し、終了後は人力による検出作業を行った。また、6月上旬には調査区を拡幅するため、再度重機を用いて表土剥ぎ作業を行い、終了後は人力による検出作業を行った。8月上旬にはほぼ検出作業を終了した。

[平成22年度（5次調査）]

調査主体 青森県埋蔵文化財調査センター

所長 新岡 嗣浩

次長 畠山 昇

総務GM 木村 繁博

調査第二GM 中嶋 友文（現調査第一GM）

総括主幹 小田川 哲彦（現調査第一GSM）

文化財保護主幹 木村 高

文化財保護主査 小山 浩平

文化財保護主事 岡本 洋、菅原 優太

調査補助員 森山 裕行、池田 敬亮、馬渕恵理香、佐藤 裕香、佐藤 大介、澤田 知里
岩佐 良子、山崎 淑恵、佐井かなえ、山田 真穂、大山 浩平

専門的事項に関する指導・助言

調査指導員 村越 潔 国立大学法人 弘前大学名誉教授・故人（考古学）

調査員 葛西 勵 前青森短期大学教授（考古学）

調査員 関根 達人 国立大学法人 弘前大学人文学部教授（考古学）

調査員 島口 天 青森県立郷土館主任学芸主査（地質学）

調査員 高島 成侑 前八戸工業大学教授・故人（建築学）

発掘作業の経過は以下のとおりである。

5月6日、5次調査を開始した。調査区内は4次調査で既に表土等を除去していた事から、調査は遺構検出作業及び基本層序の確認作業から始めた。検出作業では礫層のため鋤簾が使用できず、手斧やねじり鎌等を使用しながら行った。そのため、想定していた以上に、検出作業には時間を要した。また、土の乾燥が早い為、検出したらすぐにスプレーでマーキングするという事を心がけた。作業を進めていくうちに、礫が人為的に配されているプランが何基か検出され、精査した結果、遺構であることを確認した。調査開始当初は自然礫と人為的に埋められた礫との識別が困難であった。5月下旬に担当職員で遺構の検討を行い、土坑として調査していた遺構の多くが柱穴であることが判明した。遺構名については、規模の大きなものは土坑番号を付して調査を進めていくこととしたが、ピット番号を付したものもある。

6月上旬には調査区を台地の先端まで拡げるため、重機を使用して表土剥ぎを行い、その後、人力で検出作業を行った。台地の先端では、東方向へと落ち込んでいく埋没沢を2カ所検出し、遺構は検出されなかった。また、業者に委託した測量基準点の設置が終了し、今後はこの基準点を使用していくこととした。6月下旬には遺構が先端部を除いた区域に拡がっていることが明らかとなり、この段階で、空中写真撮影を業者に委託して行った。7月からは芦沢(1)遺跡の調査を終了した1チームが、水上(2)遺跡の調査が開始されるまでの1ヶ月の間、砂子瀬遺跡に合流することとなった。7月後半からは気温が上がり連日30度を超える猛暑の日が続いたことから、熱中症対策を図りながら調査を進めた。9月上旬には土坑群（掘立柱建物跡の柱穴）が調査区の中央で半円状に巡っていることが明

らかとなる。中旬には2回目の空中写真撮影を業者に委託して行った。下旬には調査指導員・調査員の現地指導を受けた。10月2日には現地見学会を行い、100名を超える見学者があった。10月上旬には、調査区の東側部分の表土剥ぎ作業を行い調査区の拡幅を行った。10月28日には調査対象範囲の遺構精査を全て終了し、現場を撤収した。4次・5次調査の調査終了面積は6,000㎡である。

第4節 調査の方法

表1 グリッド対応表

4次-Aの調査で縄文時代の竪穴住居跡や土坑を確認し、5次調査では、遺構精査に重点を置いて調査にあたった。

[測量基準点・水準点・グリッド設定]

測量基準点及びレベル原点は、調査開始当初E区から移動したものを使用していたが、A区の調査は今後も継続していくことが明らかなことから、5次調査において測量基準点を業者に委託して設置した。測量基準点は世界測地形に基づいたものを使用し、これにレベル原点も併せて付与した。調査区域内にある主要基準点の座標値は表1のとおりである。グリッドは2次調査時に調査対象範囲を覆うように組んでいることから、そのまま使用した。グリッドの呼称も2次調査から継続したものを使用しており、南から北にアルファベット、西から東に算用数字を付して、南西隅の組み合わせで呼称した。

[基本層序]

基本層序については4次-A調査で確認したものを継続して使用した。なお、VR-60グリッド付近から北方向へ向かって小規模な埋没沢があるが、黒色土を主体とした土で埋まっていたことから、基本層序と対応させた。ただし、調査区の北端及び北東端にある沢については、それぞれの沢で算用数字を付し調査を行った。

[表土等の調査]

表2 遺構番号表

調査区内の表土除去作業は、調査開始時にトレンチ調査を行い、土層の堆積状況を確認した後、遺物包含層直上までは重機を使用して掘削した。

[遺構の調査]

5次調査ではグリッドのVKラインを境として、調査区を北区と南区に便宜的に分け調査を行った(図3)。検出遺構の主体を占めている土坑・ピットの遺構名は、北区と南区で重複を避けるために表2のように、土坑は40基毎、ピ

南 区		北 区	
SK001~040	SP001~050	SK041~080	SP051~100
SK081~120	SP101~150	SK121~160	SP151~200
SK161~200	SP201~250	SK201~240	SP251~300
SK241~280	SP301~350	SK281~320	SP351~400
SK321~360	SP401~450	SK361~400	SP451~500
SK401~440	SP501~550	SK441~480 SK521~524	SP551~600

ットは50基毎に遺構番号を割り振り、それぞれ検出順に付した。なお、竪穴住居跡・土器埋設遺構・焼土遺構・配石遺構など検出数が少ないと予想された遺構に関しては区に関係なく検出順に通し番号を付した。堆積土層観察用のセクションベルトは遺構の形態、大きさに応じて4分割又は2分割で設定したが、遺構の重複や付属施設の有無等により必要に応じて追加した。遺構内の堆積土層は、算用

数字を付して基本層序と区別した。遺構の平面図・土層図・出土遺物の形状実測図等は簡易遣り方測量と株式会社 CUBIC 製「遺構実測支援システム」を用いたトータルステーションによる測量とを併用して作成した。実測図の縮尺は遺構の形状等に合わせて 1 / 20、1 / 10 を適宜選択して作図した。遺構内の出土遺物については、層位ごとに取り上げることを基本としたが、出土状態が良好なもの以外は覆土一括で取り上げている。

[遺物包含層の調査]

上層から層位毎に人力で掘削した。遺物が密集して出土した区域では、トータルステーションによるドットマップ図を作成したが、遺物が散発的に出土した区域では、原則としてグリッド単位で層位毎に取り上げた。

[写真撮影]

写真撮影は原則として 35mm モノクローム、35mm カラーリバーサルの各フィルム及び 1,000 万画素のデジタルカメラを併用し、発掘作業状況、土層の堆積状況、遺物の出土状態、遺構の検出状況、精査状況、完掘後の全景等について記録した。掘立柱建物跡の検出状況や規模の大きな遺構の写真撮影にあたっては適宜ローリングタワーを設置して中高度からの撮影を行った。

第 5 節 整理・報告書作成作業の経過と方法

1 報告書作成作業の体制と経過

4 次・5 次調査では、竪穴住居跡 7 軒、土坑 416 基、土器埋設遺構 3 基、焼土遺構 5 基、配石遺構 2 基、ピット 729 基の調査を行った。土坑やピットとして調査したものの中には掘立柱建物跡の柱穴となるものも含まれており、柱穴の配置状況をもとに、掘立柱建物跡 20 棟を確認した。掘立柱建物跡は、調査区のほぼ中央で半円状に巡っており、東側の未調査区域にもう半分が埋存し、全体として環状に巡っているものと推測された。このことは、翌年の 6 次調査で確認された。このことから、本書では竪穴住居跡、掘立柱建物跡群などの構築時期・集落の変遷などの検討に重点をおいて進めた。整理期間は平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日までである。

整理・報告書作成体制は以下のとおりである。

整理主体 青森県埋蔵文化財調査センター

文化財保護主査 小山 浩平

文化財保護主事 岡本 洋

調査補助員 馬渕恵理香、佐藤 裕香、山崎 淑恵、岩佐 良子、山田 真穂、
大山 浩平、佐井かなえ

整理作業員 岸田 美雪、半田さくら、高木 邦治、名古屋 陽子、松井有文乃

整理・報告書作成作業の経過は表 3 にまとめた。業務委託状況は 6 月に火山灰分析を弘前大学理工学研究科の柴正敏教授に依頼し、7 月・8 月に黒曜石の産地推定と石器の実測を株式会社アルカに委託した。また、土器の個別写真は 11 月に、石器の個別写真は 12 月に、遺物の集合写真は 1 月に、シルバードットとフォトショップいなみに委託して撮影した。

表3 整理・報告書作成作業の経過

作業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
遺物集計（土器）	→								
土器類接合・復元	→			→					
遺物分類（土器）・ ピックアップ			→			→			
土器類拓本					→	→			
土器類実測						→			
土器類トレース							→	→	
剥片石器集計・分類 ピックアップ				→					
剥片石器実測委託									→
礫石器分類・集計・ ピックアップ							→		
剥片石器 礫石器実測							→	→	
石製品類実測							→	→	
礫石器類トレース								→	→
石製品類トレース								→	→

2 整理・報告書作成作業の方法

[図面類の整理]

各遺構の平面図と土層図の調整を行ったほか、遺構の重複関係や発掘作業時の所見を整理した。また、エレベーションが必要な遺構に関しては、レベル値を基に復元したのものもある。遺構配置図に用いた各遺構図は整理したものを使用している。

[写真の整理]

モノクロームフィルムは撮影順にネガアルバムに整理収納し、カラーリバーサルフィルムは発掘作業状況や遺構毎に整理して、スライドファイルに収納した。デジタルカメラのデータも遺構毎のフォルダに整理してハードディスクに保存した。

[遺物の洗浄・注記と接合・復元]

土器の洗浄は、文様が消えないように留意して行った。遺物の注記は、調査年度・遺跡名・出土地点・遺構名・層位・遺物番号などを略記したが、剥片石器や土製品などに関しては、収納してあるポリ袋に注記した。土器の接合作業は、出土地点毎の重量を計測し、注記に間違い等がないか確認した後に進めた。作業にあたっては遺構間接合や、出土地点の異なっているものとの接合も試み、遺物がどのように移動したのかを把握するように努めた。

[報告書掲載遺物の選別]

遺物全体の分類を行った上で、遺構の構築・廃絶時期を示す資料、遺存状態が良く時期・型式・器種が分かる代表的な資料のほか、希少な資料や特異で不明点のある資料を選別した。

[遺物の観察・図化]

個々の遺物を目視及びルーペで観察し、遺物の特徴を適切に表現するように図化した。掲載用に選別した遺物については、規模や特徴を記載した観察表を作成した。

[遺物の写真撮影]

実測図では表現しがたい質感・文様表現等を伝えられるよう留意し、撮影は業者に委託して行った。

[自然科学分析]

遺構の構築・廃絶時期を推定するための放射性炭素年代測定と、黒曜石の産地推定は業者に委託して行った。基本層序中に含まれている火山灰の同定は弘前大学理工学研究科の柴正敏教授に、石器の石質鑑定は青森県立郷土館の島口天主任学芸主査に依頼して行った。

[遺構と遺物のトレース・版下作成]

トレースは、縄文土器の一部についてはロットリングペンを用いたが、遺構、遺物の大半は、株式会社 CUBIC 製「遺構実測支援システム」と同「トレースくん」を用いてデジタルで行った。版下及び写真図版は Adobe 社製 Creative Suite を用いてデジタルデータをパソコン上でレイアウトした。

[遺構の検討・分類・整理]

遺構毎に、種類と構造的特徴に分け、出土遺物の種類と数量、重複関係等に関するデータと調査時の所見を整理して、構築時期や同時性・性格等について検討を加えた。

[遺物の検討・分類・整理]

土器類・石器類・土製品・石製品に分け、これらを時期・種類毎に整理して出土遺物全体の分類と器種組成などについて検討した。

[調査成果の検討]

遺構と遺物の検討結果を踏まえて、遺跡の時期・種別・構造・変遷・特徴等について検討整理した。

第6節 周辺の遺跡

西目屋村には現在35箇所の遺跡が登録（平成24年3月現在）されており、特に目屋ダムのある美山湖周辺には22箇所の遺跡が周知されている。

平成3年度に、青森県教育委員会が分布調査を実施し、砂子瀬地域では、水上遺跡、芦沢（1）・（2）遺跡、川原平（3）・（4）・（5）遺跡を新たに発見した。平成18年度に実施した確認調査では、新たに水上（2）・（3）・（4）遺跡が青森県遺跡台帳に登録され、従来の水上遺跡は水上（1）遺跡に名称が変更されている。また、砂子瀬遺跡は遺跡が広がっていることを確認したため、平成19年4月9日に遺跡の範囲変更が行われている。平成22年度、23年度に行った分布調査の結果、鬼川辺（1）・（2）・（3）遺跡、川原平（6）遺跡、大川添（3）・（4）遺跡を新規登録している。

美山湖周辺の遺跡は津軽ダム建設事業に伴い青森県埋蔵文化財調査センターが発掘調査を行っているが、これ以外で調査が行われた遺跡として砂子瀬村元遺跡がある。砂子瀬村元遺跡の調査は、弘前大学教育学部考古学研究室の村越潔名誉教授らが行っており、遺構は検出されなかったものの、縄文時代中期の土器や石器が確認されている。砂子瀬村元遺跡の発掘調査の概要と出土遺物については『青森県考古学1』（1984）に掲載されている。

青森県埋蔵文化財調査センターによる調査としては、水上（1）遺跡、水上（3）・（4）遺跡、川原平（1）・（4）遺跡、大川添（2）遺跡が調査され、報告書が刊行されている。

第7節 遺構の概要

砂子瀬遺跡 A 区は遺跡の東西を岩木川と湯ノ沢川に挟まれた標高約190mの河岸段丘上に位置しており、長さ310m、最大幅約100mの舌状に張り出した台地となっている。

4次・5次調査では、調査A区の一部について調査を行った。調査範囲は舌状に張り出した台地の北端及び西側にあたり（図2）、調査面積は6,000㎡である。A区の調査対象面積は約13,000㎡であることから、約半分の調査を行ったことになる。この結果、竪穴住居跡7軒、土坑416基、土器埋設遺構3基、焼土遺構5基、配石遺構2基、ピット729基を検出した。なお、土坑やピットとして調査したものの中には掘立柱建物跡の柱穴であると判断できるものもあり、これらの検出数には柱穴も含まれている。重複している柱穴が多いため正確な棟数を把握するのは困難であるが、柱穴の配置状況等から、掘立柱建物跡20棟を確認することができた。

5次調査で調査区のほぼ中央で半円状に巡っていた柱穴群が、平成23年度に行った6次調査の結果、環状に巡る掘立柱建物跡群の西半部にあたることが明らかとなったことから、本書中では半円状に巡っている範囲について環状という言葉を用いることとした（図3）。

掘立柱建物跡は環状を構成している一群（第12～20号掘立柱建物跡）とそれ以外の一群（第1～11号掘立柱建物跡）とがある。掘立柱建物跡は6本1組で構成されるものが一般的で、棟持柱とされる柱穴が付随している。棟持柱の位置は2種類認められ、第3号掘立柱建物跡等のように柱穴に近接している例と、第1号掘立柱建物跡のように柱穴から離れて構築されている例がある。環状を構成している掘立柱建物跡の棟持柱は、前者である。また、第1・4号掘立柱建物跡の中央から焼土遺構を検出した（巻頭写真）。焼土遺構の検出数が少ない中で、掘立柱建物跡の中央に位置していることから、建物跡に伴う可能性を積極的に捉えている。柱穴は、確認時及び土層観察の状況から柱を設置した後、柱周りに礫を裏込めとして使用しているものが多い。柱の太さは、柱穴底面に観察される柱の痕跡から40～60cmであったと推定できる。掘立柱建物跡の柱穴から出土した土器は縄文時代後期前葉のものが主体を占めている。また、後期前葉の土器と混在して、後期中葉以降の土器が出土している遺構もある（第1号・16号掘立柱建物跡など）。これらのことから、掘立柱建物跡の構築時期は縄文時代後期と捉えることができ、中には後期後葉と判断できるものがある（第2章参照）。

竪穴住居跡は7軒検出し、第1・4・5・7号竪穴住居跡は出土土器から後期後葉に構築されたものと考えられる。検出した炉の形態は地床炉である。床面に壁溝が構築されている例と壁溝がない例がある。土器埋設遺構は3基調査したが、使用されている土器は、後期初頭、前葉、後葉と3基共に時期が異なっている。配石遺構は北区から2基検出した。いずれも礫石器である台石を構築材の一部として用いており縄文時代の遺構と考えられる。詳細な時期は不明であるが、遺構検出面及び遺構外出土土器から縄文時代後期に帰属するものと考えられる。

第8節 遺物の概要

土器は4次・5次調査の結果、総重量481kg出土した。時期は縄文時代前期から後期までの土器に限定されており、他の時期の遺物は出土していない。出土量は、後期初頭から前葉の土器が最も多く、全体の8～9割を占めている。次いで多いのが後期後葉の土器で、前期と中期の土器はごく少数である。石器は剥片石器類、礫石器類が出土している。出土した土器の内容から石器の時期も縄文時

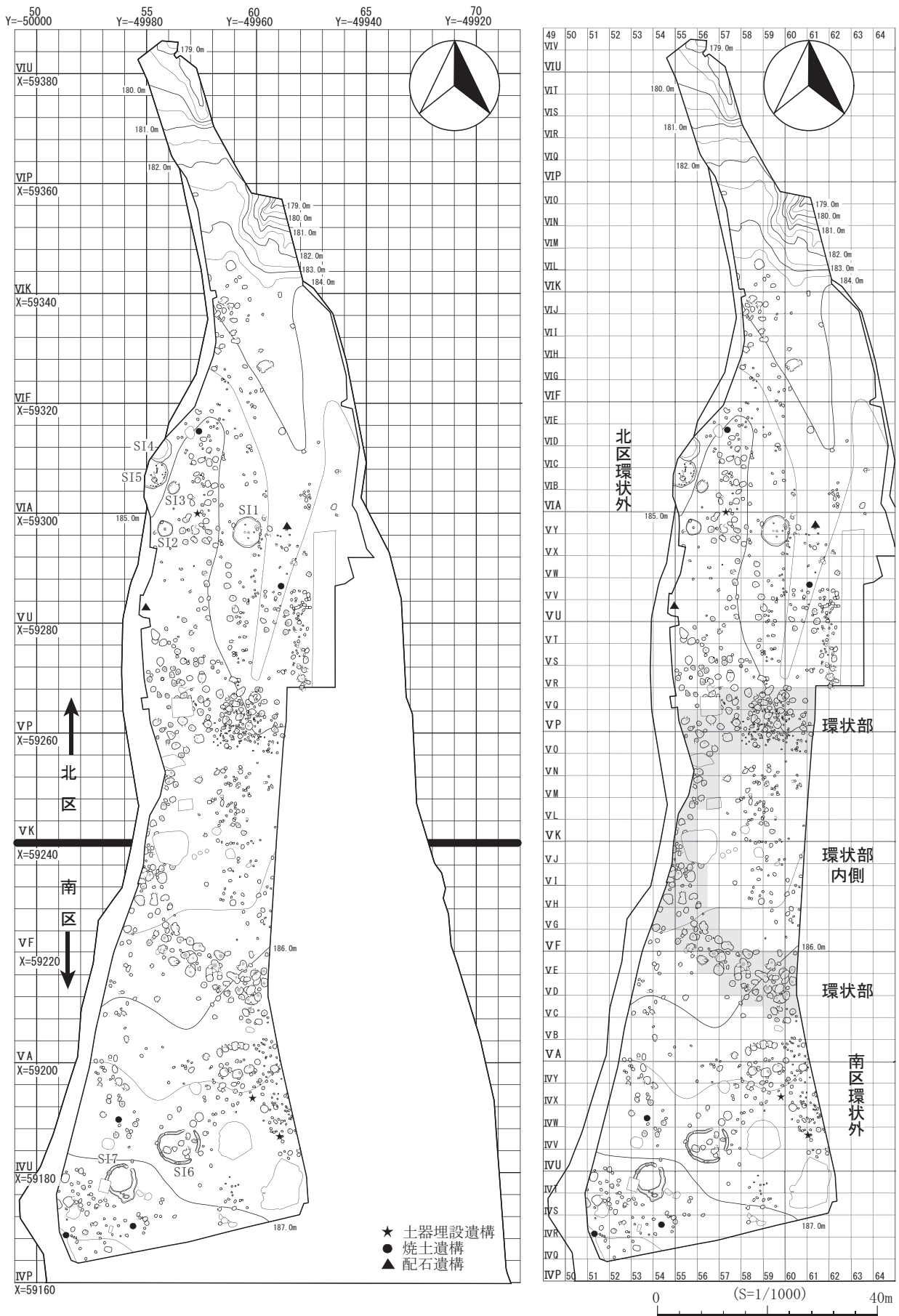


図3 遺構配置図・地区区分図

代後期のものと考えられる。礫石器の中では石錘の出土量が多く、磨製石斧類の出土量が少ない傾向がある。石錘の扱いは素材の規模に関係なく、全て短軸方向に施されている特徴がある。土製品は総数212点、石製品は総数57点が出土しており、特徴的なものとしては図125-8に掲載した動物形土製品や図129-2に掲載した岩偶様石製品がある。土製品・石製品も出土土器の内容から縄文時代後期のものと考えられる。

分類基準

1 土器

時期毎に群別し、出土量の多い後期の遺物に関しては初頭・前葉・中葉・後葉の4期に区分し、各時期の土器型式をあてた。なお、後期の深鉢形土器で地文しか施文されておらず、かつ文様から時期を特定できない土器に関しては、観察表中及び文中でⅢ群としか記していない。

I 群－縄文時代前期の土器

II 群－縄文時代中期の土器

1 中期前葉の土器－円筒上層式土器

2 中期末葉の土器－大木10式併行土器

III 群－縄文時代後期の土器

1 後期初頭の土器－蝿沢式土器（沖附式・弥栄平式土器）

2 後期前葉の土器－十腰内Ⅰ式土器

3 後期中葉の土器－十腰内Ⅱ・Ⅲ式土器

4 後期後葉の土器－十腰内Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ式土器

2 石器

(1) 剥片石器

以下の12器種に大別した。細別分類のないものや破損等により不明のものは、観察表に器種のみを記した。同表で計測値に()を付けたものは、現存値を示す。

・石鏃 鋭利な先端部が作り出された扁平な小形石器で、全長が概ね5cm未満のもの。

I 類：無茎石鏃。基部形状により細別した。

a 類：凹基、b 類：平基、c 類：円基、d 類：尖基。

II 類：有茎石鏃を一括した。基部および肩部形状による細別は行っていない。

・石槍 鋭利な先端部が作り出された刺突具と考えられる石器で、全長が概ね5cmを超えるもの。

・石錐 剥片の一端に横断面が菱形の刃部が作り出された石器。対象物への穿孔機能が想定される。

I 類：全体が棒状を呈し、つまみ部をもたないもの。

II 類：基部に整形されたつまみ部をもつもの。

III 類：不定形な剥片の一部に尖鋭な刃部が作り出され、刃部とつまみ部の区分が明瞭でないもの。

・石匙 素材剥片の一端に扱いを施し、つまみ部を作り出した石器。

I 類：縦型。つまみ部に対し、縦長の身部をもつもの。

II 類：斜刃型。つまみ部に対し、斜めの身部をもつもの。

Ⅲ類：横型。つまみ部に対し、横長の身部をもつもの。

- ・石筥 剥片の周縁を加工し、ヘラ状に整形した石器。主要な刃部は下端に設けられる。

I類：平面が撥形で、刃部が直線的なもの。

Ⅱ類：平面が楕円形に近く、刃部が弧状をなすもの。

Ⅲ類：柄状の基部が作り出された小形品で、いわゆる大石平型石筥とされるもの。

- ・スクレーパー 上述の定形石器には属さないが、縁辺に連続する二次加工が施され、意図的な刃部が作り出された石器。急角度に調整された刃部をもつものを搔器（Ⅱ類）、その他を削器（Ⅰ類）とした。

- ・異形石器 三脚形など特異な形状に整形しており、定形石器に含めることのできないもの。

- ・楔形石器 対となる位置に顕著な階段状剥離が認められるもの。折損などで一方にのみ両極加撃痕の認められる剥片を含めた。

- ・二次加工剥片 剥片の一部に二次加工が施されたもの。器種が判断できない定型石器の破片を含む。retouched flake の略で R.F. と表記したことがある。

- ・微細剥離痕のある剥片 剥片の一部に微細な剥離が認められるもの。剥離の要因は使用痕に限定できないが、utilized flake の略で U.F. と表記したことがある。

- ・石核 剥片を剥離した残核をまとめてⅠ類とし、石器素材の可能性のある両面加工石器をⅡ類として分離した。なお、図中の2点鎖線範囲は節理面である。

- ・剥片類 二次加工のない剥片・碎片。黒曜石製の一部を図化した。

(2) 礫石器

以下の7器種に大別した。細別分類不明のものは、観察表に器種のみを記した。

- ・磨製石斧

- ・磨石 主要な使用痕が研磨によるもの。

I類：扁平な礫を加工し、側面を使用したもの。

Ⅱa類：扁平な礫を加工せず用いており、側面に使用痕があるもの。

Ⅱb類：扁平な礫を加工せず用いており、側面に使用痕がないもの。

Ⅲ類：球状の礫を素材とするもの。

- ・敲石 主要な使用痕が敲打によるもので、顕著な凹みを生じていないもの。

I類：一般的な敲石。

Ⅱ類：珪質頁岩を素材とする多面体敲石。

- ・凹石 主要な使用痕が、敲打の累積により顕著な凹みを形成するもの。

I類：1面のみに凹み痕をもつもの。

Ⅱ類：複数面に凹み痕をもつもの。

- ・石錘 紐かけのための抉りを施し、錘具として使用された石器。本遺跡からは基本的に短軸両端に抉りを施したものだけが出土している。

I類：切目石錘。鋭利な工具によって溝状の抉りを施したもの。

Ⅱ類：打欠石錘。剥離または敲打によって抉りを施したもの。

- ・石皿 礫の平らな部分に平滑で広範囲な使用痕が認められる大形石器。
 - I類：礫に加工を施した有縁のもの。
 - II類：礫を加工せずに用いた無縁のもの。
- ・台石 加工のない大形礫を部分的に使用しているもの。使用痕は敲打による場合が多い。

3 土製品

以下のものを土製品とした。

- ・ミニチュア土器
- ・土器片円盤
- ・土偶
- ・動物形土製品
- ・耳飾り
- ・棒状粘土製品
- ・両頭土製品
- ・三角形土製品

4 石製品

実用的な石器ではない加工礫と、特異な形状の自然石である。以下の8器種に大別した。

- ・石棒 断面が円形の棒状石製品。
- ・石刀 一方の側面に刃部様の稜が形成される棒状石製品。
- ・石冠 三角柱状の石製品。
- ・円盤状石製品 平面が円形を基調とする板状の石製品。
 - I類：周縁を打ち欠き整形したもの。
 - II類：周縁に研磨加工が認められるもの。
- ・岩版 上記2者に該当しない板状の石製品。
 - I類：平面が大形の楕円形であるもの。
 - II類：平面が円形であるもの。
 - III類：平面が小形の楕円形であるもの。
 - IV類：平面が隅丸方形であるもの。
 - V類：平面が不整形なもの。
- ・三角形岩版 平面三角形を基調とする板状の石製品。
- ・不明石製品 上記分類に該当しない石製品で、特定の器種名を充てられないもの。
 - I類：頭部のような突起や、目・鼻状の凹みを作り出された岩偶様石製品。
 - II類：有孔石製品
- ・搬入礫 石質や形状が特異な自然石で、遺跡内に意図的に持ち込まれた可能性があるもの。

第9節 基本層序

本報告に関わる砂子瀬遺跡 A 区の層序は、Ⅱ層を遺物包含層とする 4 次-A 調査の所見を引き継いだものである。1 次調査の確認トレンチではⅣ層以下を無遺物層としている（青埋文報第466集）が、5 次調査開始時において遺物包含層のほとんどが掘り上げられており、無遺物層直上で遺構確認が行われている状況であった。このため、遺物包含層が上下に分離できる地点を確認できておらず、本報告ではⅢ層以下を無遺物層として扱っており、1 次調査の層序とは整合しない。4 次-A 調査および 5 次調査における遺物取り上げ区分を反映した土層堆積状況は、基本層序①として図化したもので代表させる。大区分としては、Ⅰ層が表土、Ⅱ層が遺物包含層、Ⅲ層が無遺物層（地山）である。調査過程ではⅠ層の大部分を重機により掘削し、Ⅱ層は人力で掘り下げてⅢ層上面を遺構確認面とした。出土遺物の多くはⅡ層に帰属するが、同層を細分しての遺物取り上げは基本的に行っていない。削平によりⅡ層が存在せず、表土直下で地山が露出する区域もある。地山は後述する砂礫が主体のため、遺構完掘後には遺跡全体に人頭大以上の礫が非常に多く露出した状態となっているが、本来はその上部をⅡ層が覆っており、縄文時代の生活面に礫が露出していたものではないと考えられる。

①は、VX-61グリッドに位置する。北流する埋没沢の縦断面で2009年度調査区の東壁にあたる。

Ⅰ層 黒褐色土（10YR3/2） 旧表土である。本層の上位に碎石等が敷かれていた。

Ⅱa層 暗褐色土（7.5YR3/4） 遺物をほとんど含まない。遺跡全体で確認され、住居跡等の窪地の上部にも堆積する。

Ⅱb層 黒褐色土（10YR2/3） Ⅱ層の中で最も厚く堆積しており、主要な遺物包含層である。

Ⅱc層 黒褐色土（10YR3/2） 確認範囲が狭く、埋没沢内に限定された層の可能性が高い。

Ⅱd層 黒褐色土（10YR2/2） 本グリッドでは遺構の掘り込み面であるが、遺跡全体に広がる層であるかどうかは確認できない。本層では円筒上層c式（図105-5）が出土しており、それより後の堆積層と考えられる。遺物量は少ない。

Ⅲ層 褐色土（10YR4/4） 無遺物の粘質土。

図5①の1～4層は遺構の可能性が高いものの、調査区拡張時に平面プランが確認できなかったため遺構番号は付していない。同図5層は第575号ピットの堆積土である。

図5②は、①に直交する埋没沢の横断面で、VW-61グリッドに位置する。土層観察の詳細は①とやや異なるが、堆積層は対応したものである。埋没沢は20～50cmの深さでⅢ層を削って北流しており、Ⅱb層の堆積時期にはほぼ平坦な地形が形成されていたと考えられる。同層の堆積時期は、沢内のグリッド出土土器から考えて縄文時代後期前葉である。

調査区北端では、小規模な埋没沢と考えられる自然地形が2箇所確認された。南側のものは、調査区を北流する埋没沢の末端と考えられる。VIM-60グリッドで横断面を図化し、これを基本層序③とした。北側のものは独立した落ち込みである。VIT-57グリッドで縦断面を図化し、これを基本層序④とした。③では1～4層がⅡ層に相当する。4層では、縄文時代後期前半の土器（図109-1）がややまとまって出土している。地山は、Ⅱ層直下で基盤の岩盤が露出する部分があるほか、南側では砂礫層の堆積が認められる。④では、後述の火山灰分析と土層観察結果から1層がⅡa層に、2～5層はⅡ層に対応すると考えられる。地山は①でみられたⅢ層に対応する粘質土で、その下位は岩盤となっている。

基本層序①・④から採取した土壌サンプル6点について火山灰分析を依頼した(第3章第2節)。I層でTo-aが、II層の各細分層と④の1層では再堆積To-Hが検出された。III層では火山ガラスが検出されていない。上記の結果から、II層については上部も含めて10世紀前葉より古い堆積層、III層はTo-H噴出時期(約12,000年前)より古い堆積層と認識される。

今回の調査では地山について細分していない。地山は粘質土・砂礫・シルト質土などで構成されるが、後述のように砂礫が互層を成している状況で各層の対応が困難だったためである。これらの堆積状況は本ページ下段に写真で示した。A地点はIVU-59グリッド、B地点はVK-55グリッドの深掘箇所である。A地点では、III層に相当する粘質土が約20cmの厚さで堆積する。その下位には最大径30～50cmの垂円礫を多量に含む砂礫層が約50cmの厚さで堆積している。B地点ではIII層相当の粘質土がみられず、II層直下が砂礫層となっている。砂礫層の下位には、礫をほとんど含まないシルト質土が約15cmの厚さで堆積し、その下位は再び砂礫層となる。上位の砂礫層の方が混入礫の割合が高く、礫も大形である。これらの礫は、段丘構成層と考えられるが、堆積時期については明らかにできていない。土坑覆土に顕著にみられる礫は本層に由来し、埋め戻し土に混入したものである。

VB-54グリッド付近に位置する第4・5号竪穴住居は、西側に崖面が迫っており全形を留めていない。これは、本遺跡A区が岩木川本流と湯ノ沢川の合流点に突き出すように立地していて調査区の西側が岩木川の攻撃面にあたり、河川営力による崖面の崩落が生じたためと考えられる。本遺跡に集落が営まれていた時点では、集落の立地する平坦面は現在よりやや広がったと考えられる。

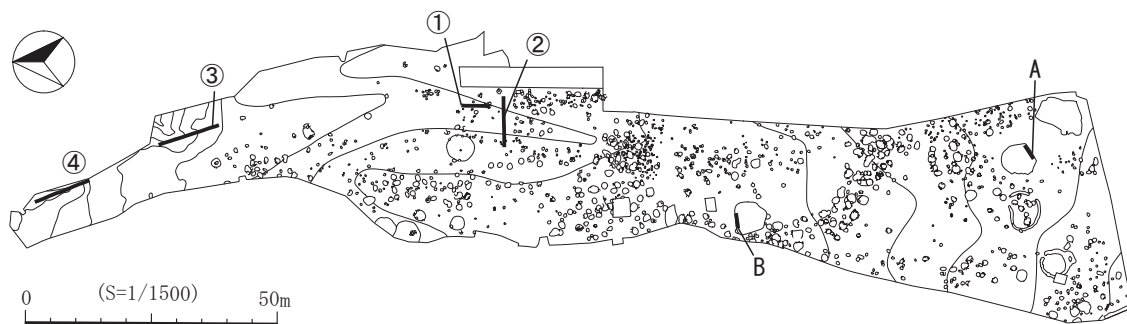


図4 基本層序位置図



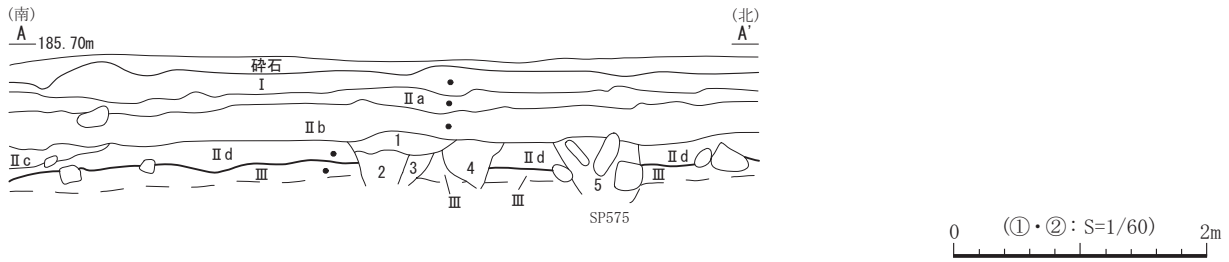
A地点(IVU-59)深掘り



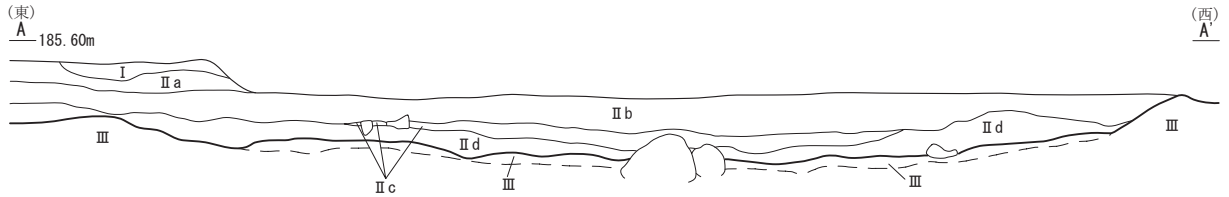
B地点(VK-55)深掘り

基本層序①(VX-61)

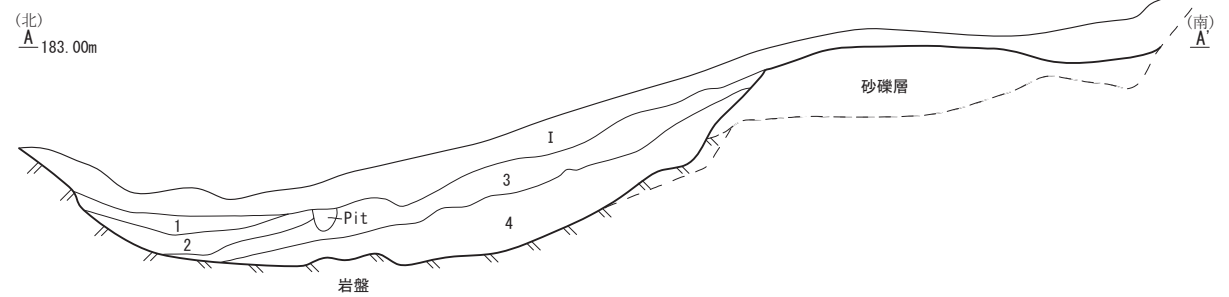
・火山灰サンプル採取位置



基本層序②(VW-61)

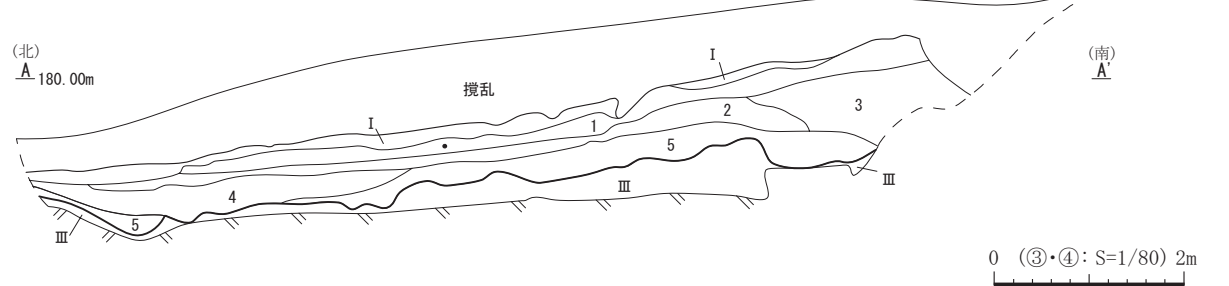


基本層序③(VIM-60)



基本層序④(VIT-57)

・火山灰サンプル採取位置



基本層序①

I 層	10YR3/2	黒褐色土	褐色土5%、礫(φ10~100mm)3%混入。
II a層	7.5YR3/4	暗褐色土	黒褐色土10%、礫(φ5~100mm)5%、炭化物(φ1~5mm)1%混入。
II b層	10YR2/3	黒褐色土	礫(φ10~200mm)20%、炭化物(φ1~10mm)3%混入。
II c層	10YR3/2	黒褐色土	礫(φ5~10mm)5%、炭化物(φ2~5mm)1%、明褐色焼土粒(φ1~2mm)1%未満混入。均質な土。
II d層	10YR2/2	黒褐色土	礫(φ10~150mm)20%、炭化物(φ2~10mm)2%、赤褐色焼土粒(φ1~2mm)1%未満混入。土の粒子が粗く、混入物多い。礫は丸味のない破砕礫が目立つ。
III 層	10YR4/4	褐色土	礫(φ10~200mm)30%混入。
1 層	7.5YR3/1	黒褐色土	礫(φ10~40mm)7%、黒色土5%、炭化物(φ2~5mm)2%、明赤褐色焼土粒(φ1mm)1%未満混入。
2 層	10YR2/3	黒褐色土	礫(φ20~150mm)40%混入。
3 層	10YR3/4	暗褐色土	礫(φ5~10mm)2%混入。
4 層	7.5YR3/1	黒褐色土	礫(φ50~120mm)10%、炭化物(φ1~2mm)2%混入。 ※1~4層は、遺構の可能性もあるが、拡張時に平面プランの確認はできなかった。
5 層	10YR3/3	暗褐色土	礫(φ10~200mm)40%混入。第575ピット堆積土。

基本層序②

I 層	10YR2/2	黒褐色土	炭化物(φ1~3mm)1%混入。
II a層	10YR2/3	黒褐色土	炭化物(φ1~3mm)1%混入。
II b層	10YR2/3	黒褐色土	礫(φ10~50mm)・炭化物(φ1~4mm)1%混入。
II c層	10YR3/3	暗褐色土	礫(φ20~60mm)10%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。
II d層	10YR2/3	黒褐色土	礫(φ10~50mm)5%混入。
III 層	10YR4/4	褐色土	礫(φ10~30mm)3%混入。

基本層序③

I 層	—	—	表土。客土主体。
Pit	10YR2/2	黒褐色土	小礫(φ10mm未満)混入。しまりなし。時期判断できない。
1 層	10YR1.7/1	黒色土	褐色土ブロック(φ50mm以下)10%混入。無遺物。
2 層	10YR3/3	暗褐色土	無遺物。
3 層	7.5YR3/3	暗褐色土	礫(φ150mm以下)1%、炭化物(φ5mm以下)1%未満混入。
4 層	10YR2/1	黒色土	礫(φ500mm以下)5%、炭化物(φ10mm以下)2%混入。含まれる礫は砂礫層から転落した物と考えられる。
砂礫層	10YR3/3暗褐色土と10YR4/4褐色砂質土の混合土		礫40%混入。礫は上部が小さくφ200mm以下、下部は大きく最大でφ500mm。

基本層序④

1 層	10YR2/2	黒褐色土	旧表土。暗褐色土、黒色土を中央に多く含む。
1 層	10YR4/4	褐色土	暗褐色土30%、炭化物1%未満混入。
2 層	10YR2/2	黒褐色土	黒褐色土20%、礫(φ5~20mm)5%混入。
3 層	10YR4/4	褐色土	暗褐色土20%混入。大礫を少量含むため、III層の崩落土の可能性もある。
4 層	10YR2/3	黒褐色土	炭化物(φ10mm)1%混入。遺物少量。
5 層	10YR2/2	黒褐色土	安定した黒褐色土。炭化物(φ10mm)1%混入。
III層	10YR4/6	褐色土	にぶい黄褐色土20%混入。

図5 基本層序

第2章 検出遺構と出土遺物



第2章 検出遺構と出土遺物

第1節 竪穴住居跡

第1号竪穴住居跡 (SI1) (図6・7)

[位置・確認] 北区環状外のVY・VI A-58～60グリッドに位置する。Ⅲ層上面で、黒褐色土の落ち込みとして確認した。Ⅲ層およびその下位の砂礫層を掘り込んで構築されている。構築場所は北流する埋没沢の立ち上がり付近の平坦面で、本住居が営まれた時期には沢は浅い窪地になっていたものと考えられる。

[重複] 第92号ピットと重複し、本住居跡が古い。第365号土坑・第375号ピットとは近接しているが、直接の重複関係は認められない。

[規模・形状] 長軸5.5m、短軸5.1mで、平面は円形を呈す。確認面から床面までの深さは、残存状況の良い南西側で35cmである。壁は北側で急角度に、南側はそれより緩斜度に立ち上がっているが、本来ほぼ垂直の壁が崩落したのと考えられる。床面積は18.8㎡である。

[堆積土] 比較的均質な暗褐色ないし黒褐色土を主体とするレンズ状の堆積様相から、廃絶後に自然埋没したものと考えられる。最上部に基本層序Ⅱa層が確認され、住居跡覆土は1～13層に分けられた。14層は貼床で、礫を多量に含む。遺物の取り上げについては概ね覆土一括としているが、セクションベルトの除去時には1～5層を上層、6～13層を下層とした。上層からの出土遺物が多い。

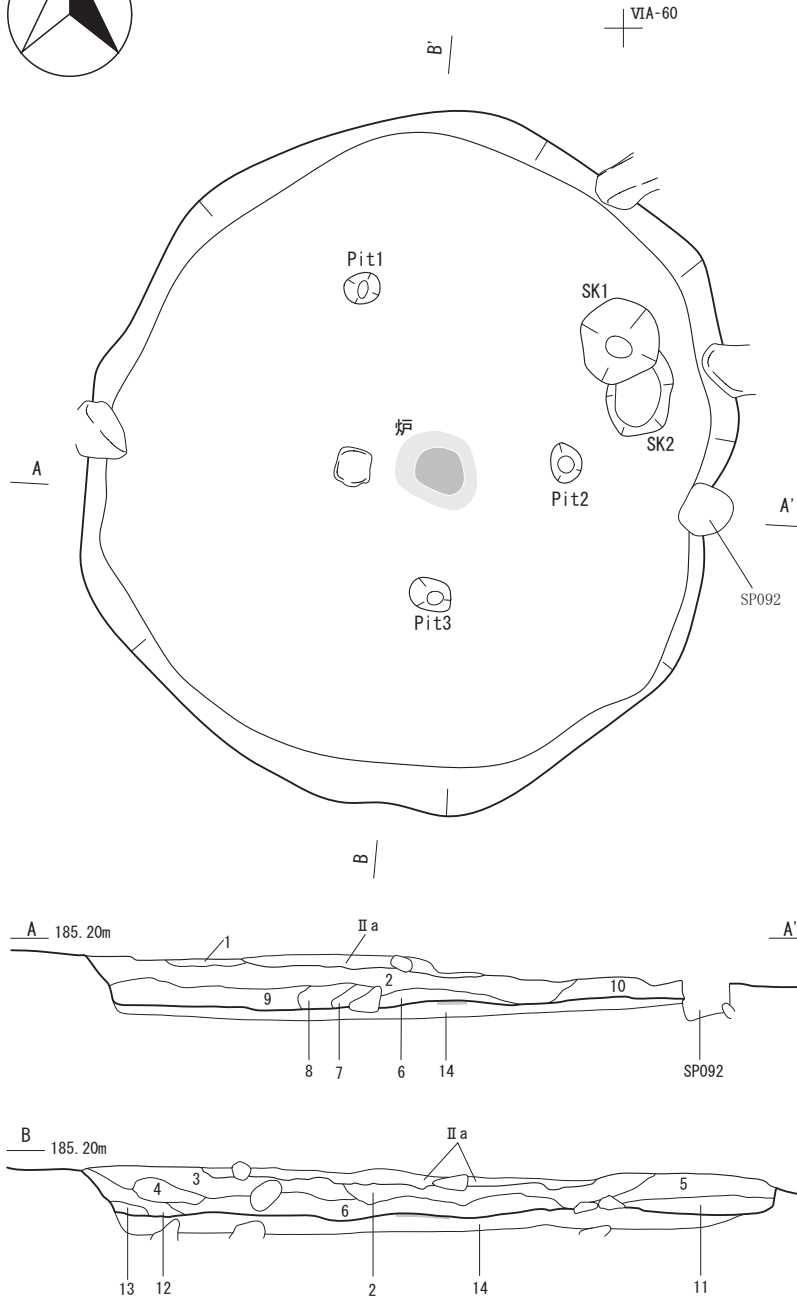
[床面・炉] 床はすべて貼床によってほぼ水平に構築されるが、生活面には貼床内に含まれる礫や地山に含まれる大礫の一部が露出した状態であったと考えられる。貼床上面はセクションで確認し得る限りやや硬化しているが、面的に捉えることができなかつたため硬化範囲は図化していない。住居のほぼ中央で地床炉が1基確認された。掘り込みはもたず、貼床上を直に燃焼部としている。燃焼部上面では細かな炭化物の散布が確認された。被熱面の広がり70×56cmで、中央の40×33cmの範囲がより強く被熱している。被熱の深さは7cmである。なお、炉の西側床面に据え置かれたような大礫を確認しているが、使用痕は認められなかつた。図6-1は炉の北側30cmほどの床面で出土した深鉢であり、床面出土土器はこの1個体のみである。

[付属施設] 北東側の壁際で、住居内土坑が2基(SK1・2)確認された。SK1・2は重複しており、SK1よりSK2が古い。両者は床面で確認しており、上面はやや締まっていた。構築時期や機能を特定できる遺物は出土していない。SK1は直径65cmの平面円形で深さは36cm、SK2は長軸推定70cm、短軸50cmの平面楕円形で深さは22cm、堆積土はともに砂質土を含む暗褐色土の単層である。柱状の小穴は3基確認している。Pit1は平面29×23cmの楕円形で深さ23cm、Pit2は平面32×26cmの楕円形で深さ26cm、Pit3は平面31×23cmの楕円形で深さ33cm、堆積土はいずれも褐色土の単層である。3基が炉を囲む位置にあり、支柱穴の可能性が高い。支柱穴であれば本来4基であったと考えられるが、西側に位置する柱穴は確認できなかった。周溝および壁柱穴は伴わない。

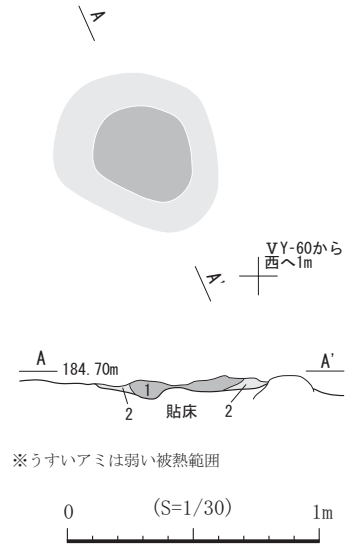
[出土遺物] 土器・石器のほか、土製品が1点出土している。土器は総重量4,056gが出土した。図6-1は床面から出土したもので、深鉢形土器の胴部～底部片である。胴部にはLRとRLの原体が回転施文され羽状となる文様が表出されており、Ⅲ群4類に比定できる。図7に掲載してある土器は堆積土中から出土したものである。図7-1・2はⅢ群1類、3～6はⅢ群2類の土器である。このうち、



第1号竪穴住居跡

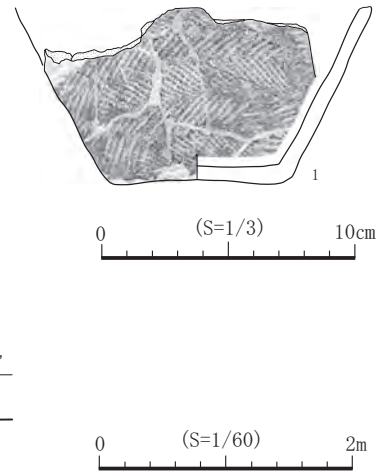


炉



第1号竪穴住居跡 炉
 第1層 7.5YR5/6 明褐色焼土
 上面に炭化物(φ1~2mm)1%混入。
 第2層 7.5YR5/4 にぶい褐色土 弱い被熱。

炉付近床面出土土器



第1号竪穴住居跡

II a層	10YR4/4	褐色土	褐色土(7.5YR4/4)15%(中央部に多く含む)、礫(φ10~100mm)7%、炭化物(φ1~10mm)2%混入。
第1層	10YR2/3	黒褐色土	礫(φ10~30mm)3%混入。
第2層	10YR3/3	暗褐色土	褐色土(10YR4/4)30%(北東側に多く含む)、礫(φ10~70mm)15%(北側に多く含む)、炭化物(φ2~5mm)1%混入。
第3層	10YR3/4	暗褐色土	礫(φ5~40mm)7%、炭化物(φ2~5mm)1%未混入。
第4層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	にぶい黄褐色土(10YR4/3)40%(層外側に含む)、礫(φ10~30mm)5%混入。
第5層	10YR4/4	褐色土	礫(φ10~70mm)5%混入。
第6層	10YR3/4	暗褐色土	礫(φ10~80mm)20%、炭化物(φ10mm)1%混入。
第7層	10YR3/4	暗褐色土	礫(φ10~30mm)10%混入。
第8層	10YR4/4	褐色土	礫(φ10~30mm)15%混入。
第9層	10YR2/3	黒褐色土	礫(φ10~100mm)30%混入。
第10層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	礫(φ5~20mm)20%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。
第11層	10YR3/4	暗褐色土	礫(φ5~50mm)10%、炭化物(φ1~5mm)1%未混入。
第12層	10YR2/3	黒褐色土	礫(φ10~30mm)7%混入。
第13層	10YR4/4	褐色土	礫(φ5~20mm)15%混入。
第14層	10YR5/6	黄褐色土	礫(φ5~40mm)50%混入。貼床。

図6 第1号竪穴住居跡

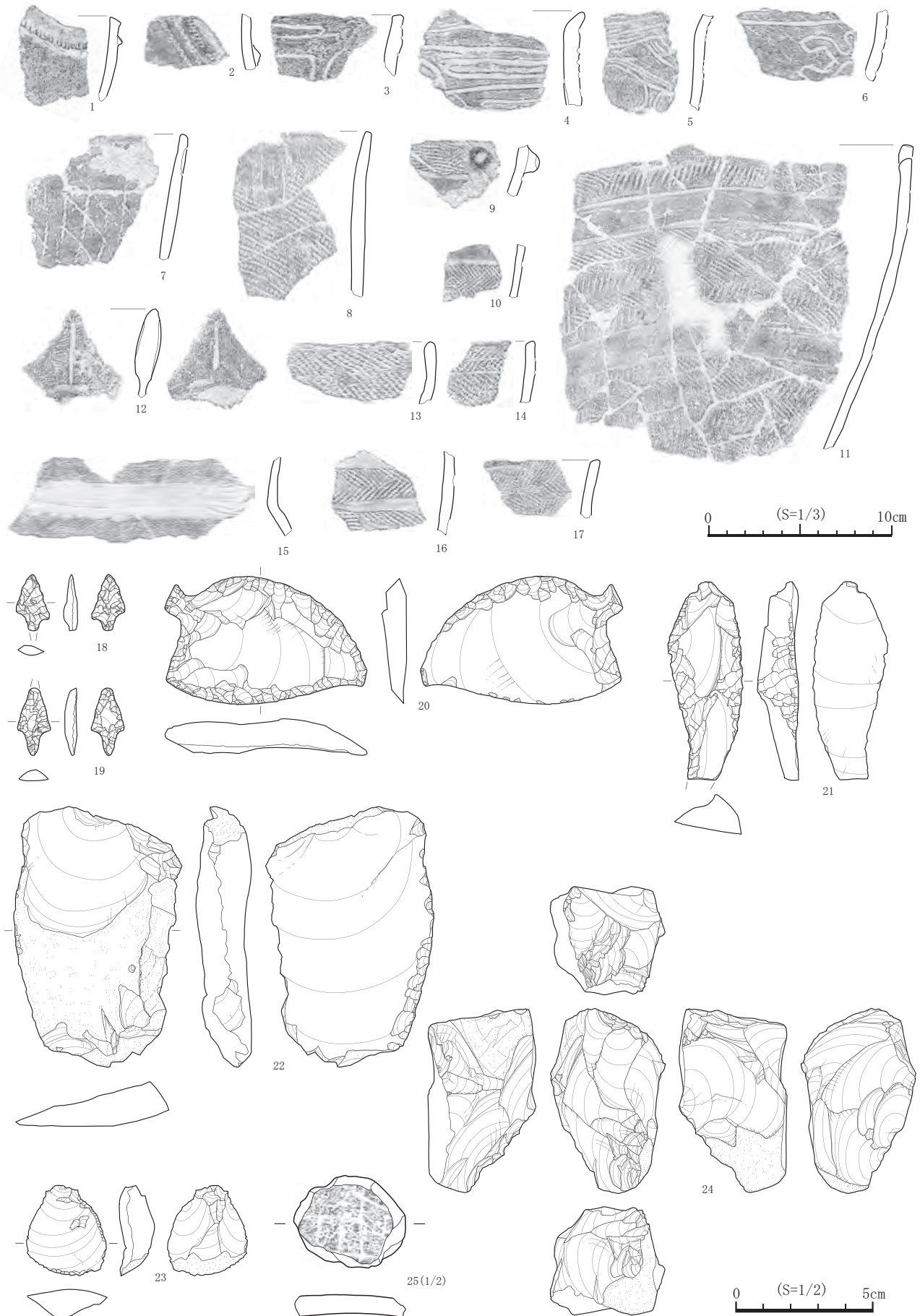


图7 第1号竖穴住居跡出土遺物

6にはカニばさみ状沈線（蓮華花卉文）が施されており十腰内I式の中でも新しい要素が含まれている。7・8はⅢ群の中でも細分できないものであるが、7は単軸絡条体5類が縦位回転されており初頭～前葉に比定されると考えられる。9～17は第Ⅲ群4類の土器である。図7-9は貼瘤が施され、瘤の頂部には刻みが施されている。10～12・14～17は異なった原体が交互に施文されているもので、10・11・14・16・17は文様が羽状となっているものである。

剥片石器は、石鏃2点、石匙1点、スクレーパー5点、二次加工剥片4点、微細剥離痕のある剥片2点、石核1点、珪質頁岩剥片258点（2,960g）、玉髓質珪質頁岩剥片1点（2g）がそれぞれ覆土上層を主体に出土した。図7-18～22は珪質頁岩製の剥片石器である。18・19は床面出土の有茎石鏃で、19の基部にはアスファルトが付着している。20は斜刃型石匙、21・22はスクレーパーで削器に分類した。22は原礫面を残した剥片の縁辺に刃部が作られている。図7-23は黒曜石製の二次加工剥片で、右辺および下辺に細かな剥離が認められる。産地推定では青森県木造出来島群に分類された（第6章第3節）。図7-24はこぶし大の珪質頁岩原礫を素材とする石核である。原礫各面に対し直接打撃による剥片剥離を行っており、打面調整痕が顕著である。なお、礫石器は出土していない。

図7-25は土器片円盤である。使用されている土器片には単軸絡条体5類が回転施文されている。

[小結] 床面出土遺物から、縄文時代後期後葉の遺構と考えられる。

第2号竪穴住居跡（SI2）（図8）

[位置・確認] 北区環状外の平坦面、VX・Y-55・56グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。

[重複] 第308号土坑と重複し、本住居跡が新しい。

[規模・形状] 平面は、2.9×2.8mの不整な円形である。確認面からの深さは、残存状況の良い西側で30cmあり、壁は急角度に立ち上がる。床面積は5㎡である。

[堆積土] 自然堆積と考えられる暗褐色土で、3層に区分された。

[床面・炉・付属施設] Ⅲ層を直に床としている。炉は確認できなかったが、中央に規模の小さな土坑（SK1）が掘られている。平面は50×39cmの楕円形で、深さは8cmである。土坑の周囲には顕著な硬化範囲が認められた。位置的に炉の可能性もあるが火床面および焼土の堆積は確認できなかった。

[出土遺物] 土器・石器が出土しており、土器は総重量1,780gが出土した。図示した遺物は堆積土中から出土したものである。図8-2は沈線が施されており、沈線内にはLRが充填施文されているものでⅢ群2類に比定できる。図8-1・3はⅢ群の中で細分出来なかったものである。1は原体が縦回転施文されていることから初頭期に比定出来る可能性もある。剥片石器は、石鏃1点、二次加工剥片2点、珪質頁岩剥片18点（120g）が出土している。4は小型の有茎石鏃で基部にアスファルトが付着しており、茎部下端は折損している。礫石器は凹石が1点出土した。5は凝灰岩製の凹石で、2面に凹み痕が形成されている。

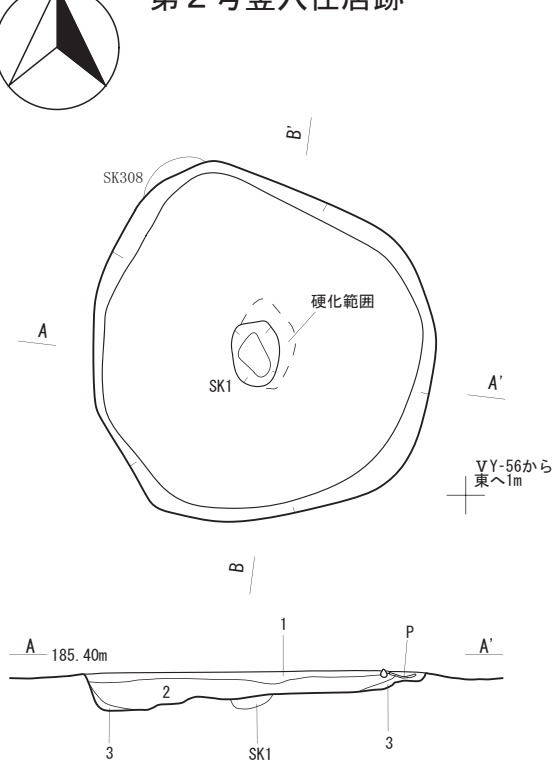
[小結] 出土遺物から、縄文時代後期の遺構と考えられる。

第3号竪穴住居跡（SI3）（図9）

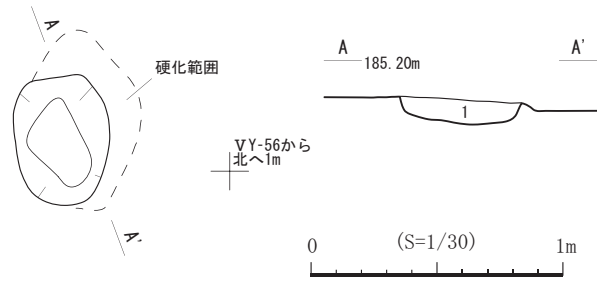
[位置・確認・重複] 北区環状外の平坦面、VIA・B-55・56グリッドに位置する。重複する遺構はない。



第2号竖穴住居跡



SK1



第2号竖穴住居跡 SK1
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/6) (φ10~25mm)7%、
 礫(φ10~130mm)3%、炭(φ2mm以下)1%混入。

第2号竖穴住居跡

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ3~5mm)・炭化物(φ1~2mm)3%混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ3~10mm)10%、黄褐色土2%、炭化物(φ1~5mm)・浮石(φ1~3mm)1%混入。
 第3層 10YR3/4 暗褐色土と褐色土の混合土 炭化物(φ10mm)1%混入。

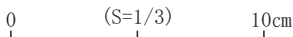
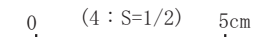
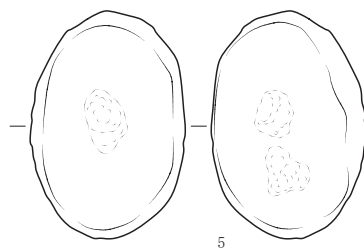
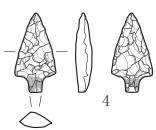
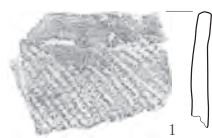
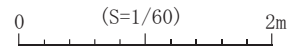


図8 第2号竖穴住居跡・出土遺物

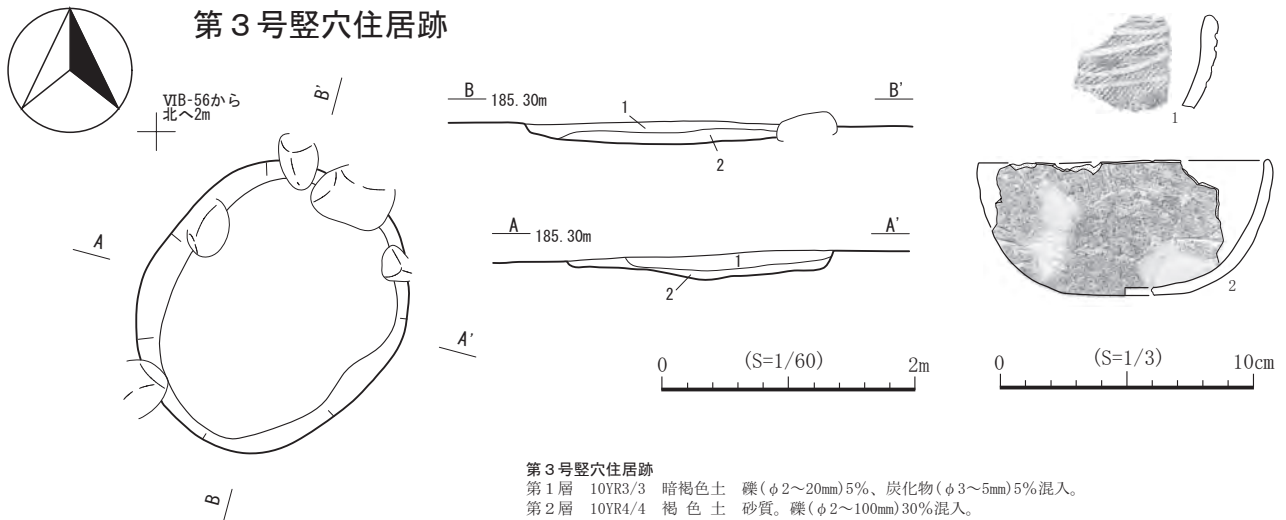


図9 第3号竖穴住居跡・出土遺物

地山の砂礫層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[規模・形状] 平面は2.3×2.0mの楕円形で、深さは20cmである。周辺で検出された土坑よりも平面規模が大きいため、住居跡として扱った。

[堆積土] 2層に区分され、自然堆積か人為堆積かは判断できない。

[床面・炉・付属施設] 底面は砂礫層であり、含まれる礫の凹凸のため住居の床面とは考えづらい。これに対し、1層は混入礫が少ないため、同層上面を床面とし、1・2層を貼床とする掘り込みの浅い住居の可能性も考えられる。炉および付属施設は伴わない。

[出土遺物] 土器・石器が出土しており、土器は総重量555gが出土した。図示した遺物は堆積土中から出土したものである。図9-1は地文施文後に沈線が施されているもので、Ⅲ群2類に比定できる。2は無文の鉢形土器でⅢ群の中で細分出来なかったものである。剥片石器は、二次加工剥片・微細剥離痕のある剥片が各1点、珪質頁岩剥片が16点(92g)、それぞれ1層を主体に出土したが図化はしていない。

[小結] 出土遺物から、縄文時代後期の遺構と考えられる。

第4号竖穴住居跡(SI4)(図10)

[位置・確認] 北区環状外のVC・D-55・56グリッドに位置する。平坦面に構築されたと考えられるが、崖面の崩落によって北西側半分が失われている。地山の砂礫層上面で、IIa層の不整形な落ち込みとして確認された。当初は崖面の崩落によって平坦面が狭くなっている可能性を考えておらず、埋没沢として調査した。断面を図化した時に、底面で露出させた砂礫層上面が平坦なこと、また両側の砂礫層の立ち上がりが不自然なことから竖穴住居跡と考え、遺構番号を付した。

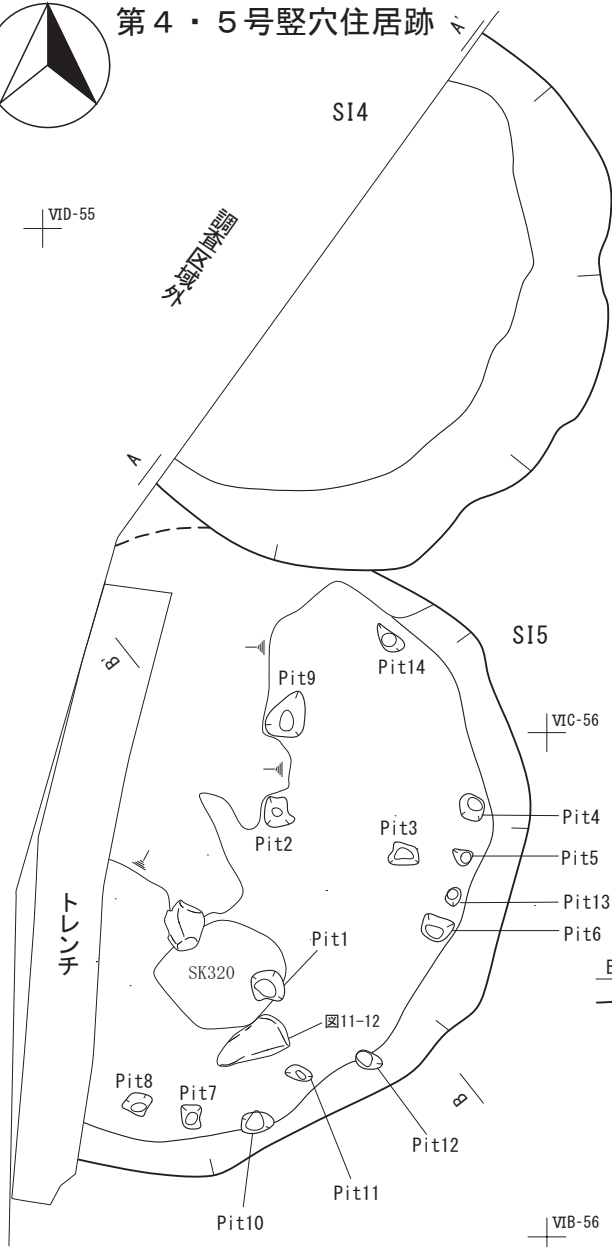
[重複] 第5号竖穴住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

[規模・形状] 計測可能な最大径は4.5mで、平面は円または楕円形と推定される。砂礫層に対する掘り込みは、もっとも深い部分で70cmである。

[堆積土] 掘削終了まで住居跡であるという認識を持っていなかったため、遺物の層位は落ち込み確認面からの深さに応じて付した。断面を図化した時点では遺物の取り上げが終了しており、土層番号

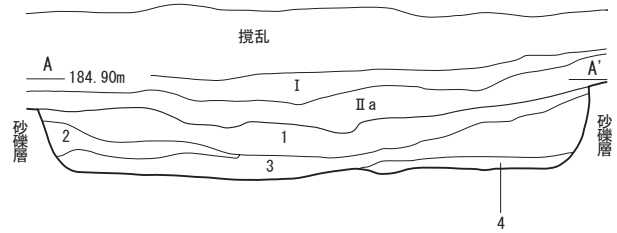


第4・5号竖穴住居跡



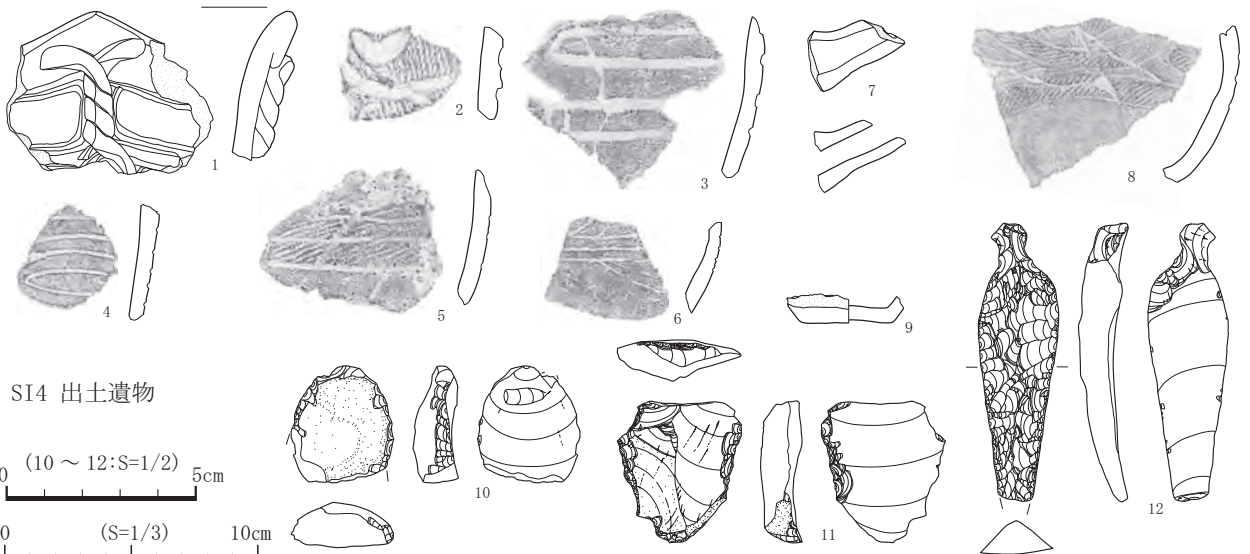
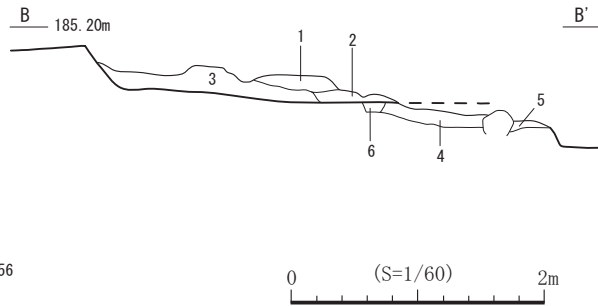
第4号竖穴住居跡

- 第I層 10YR2/2 黒褐色土 礫(φ10~40mm)1%混入。
- II a層 10YR4/6 褐色土 礫(φ10~50mm)1%混入。
- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~100mm)5%混入。
- 第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ10~40mm)3%混入。
- 第3層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ10~70mm)7%、
極暗褐色焼土(7.5YR2/3)5%混入。
- 第4層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ5~20mm)3%混入。



第5号竖穴住居跡

- 第1層 10YR4/4 褐色土 礫(φ10~60mm)5%、
浮石(φ~1mm)・炭化物(φ~1mm)1%混入。
- 第2層 10YR3/3暗褐色土と10YR4/6褐色土の混合土
礫(φ20~200mm)10%、浮石(φ1~2mm)・
炭化物(φ1~2mm)1%混入。
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~190mm)10%、
浮石(φ1~10mm)2%、炭化物(φ~1mm)1%混入。
- 第4層 10YR3/4暗褐色土と10YR4/6褐色土の混合土
礫(φ10~240mm)、浮石(φ~1mm)1%・
炭化物(φ~1mm)1%混入。貼床。
- 第5層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ1~10mm)2%、浮石(φ~1mm)・
炭化物(φ1~4mm)1%混入。貼床。
- 第6層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~60mm)2%、浮石(φ~1mm)・
炭化物(φ1~2mm)1%混入。貼床。



S14 出土遺物

図10 第4・5号竖穴住居跡・出土遺物(1)

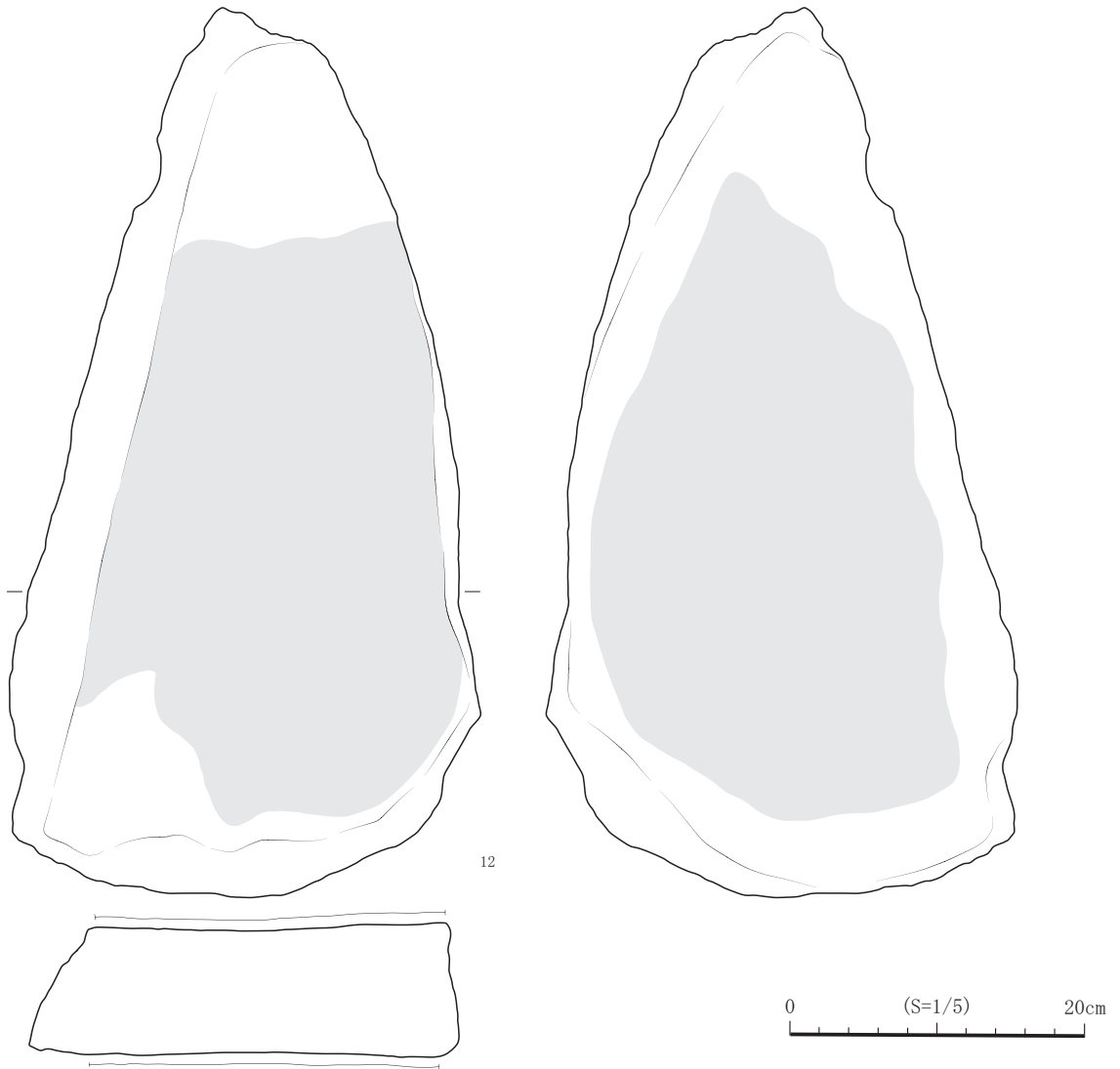
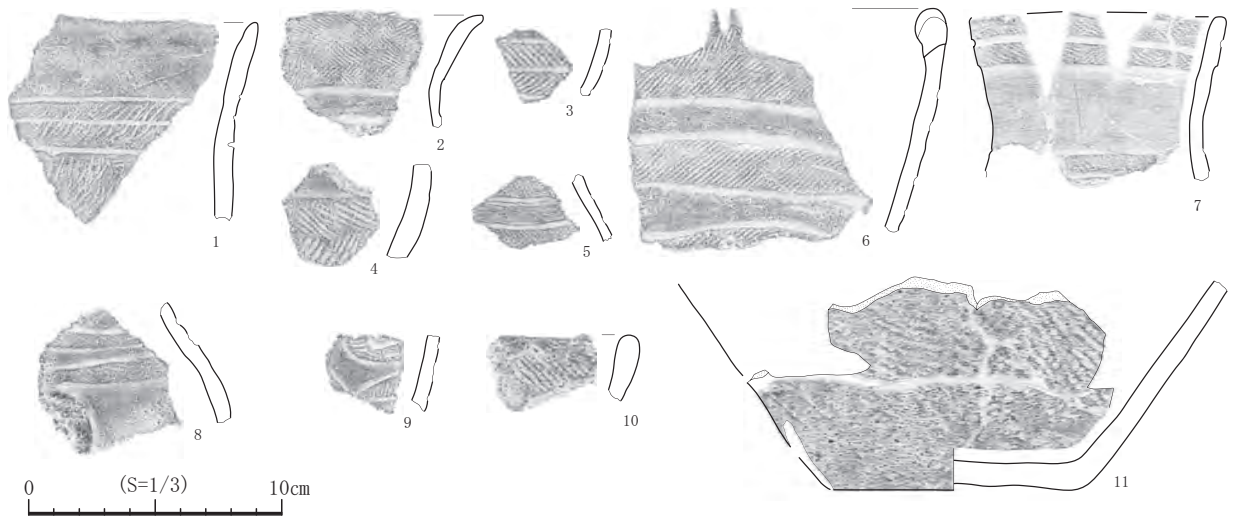


図11 第5号竪穴住居跡出土遺物(2)

とは正確に対応できないが、概ね上層が1層、中層が2～3層、下層が4層である。遺物は上・中層で出土したものが多く。

[床面・炉・付属施設] 明瞭な床面は確認できず、地山である砂礫層上面まで掘り下げた。掘り込み底面の砂礫層は、含まれる礫の凹凸のため住居の床面とは考えづらい。3・4層の色調変化は上位から漸移的であり床面ラインを引くことは困難であったが、両層の下半部が貼床であった可能性が高い。炉および付属施設は検出されていない。

[出土遺物] 土器・石器が出土しており、土器は総重量2,200gが出土した。図示した遺物は堆積土中から出土したものである。図10-1～6はⅢ群2類に比定できる。9は底部片であるためⅢ群の中で細分出来なかったものである。7・8はⅢ群4類に比定できる。7は注口土器の注口部で、文様は施されていない。8は注口ないしは壺の胴部片で、平行帯状、襷掛け状の縄文帯があり、その内部にはLRが充填施文されている。

剥片石器は、石匙・スクレーパー・楔形石器が各1点、二次加工剥片が6点、微細剥離痕のある剥片が2点、珪質頁岩剥片が44点(398g)出土している。図10-10～12は珪質頁岩製の剥片石器である。10はスクレーパーで、急角度の刃部が作られており搔器に分類した。下面は火熱を受けて破損している。11は楔形石器で、上下および左右の各辺に対となる階段状剥離が認められる。12は縦型石匙で、下端が折損している。礫石器は出土していない。

[小結] 出土遺物から、縄文時代後期後葉の遺構と考えられる。

第5号竪穴住居跡 (SI5) (図10・11)

[位置・確認・重複] 北区環状外のVB-54・55、VC-55グリッドに位置する。平坦面に構築されたと考えられるが、崖面の崩落によって西側の一部が失われている。地山の砂礫層上面で、IIa層の不整形な落ち込みとして確認された。当初は崖面の崩落によって平坦面が狭くなっている可能性を考えておらず、埋没沢として調査を開始した。連続した落ち込みとして調査していた第4号竪穴住居跡の認定後、セクションベルトを設定して竪穴住居跡としての調査を行った。第4号竪穴住居跡より古く、第320号土坑より新しい。第320号土坑からは後期後葉の遺物が出土している(図61-18)。

[規模・形状] 計測可能な最大径は5mで、平面は円または楕円形と推定される。確認面から床面までの深さは40cmである。

[堆積土] セクションベルト部分は6層に区分され、1～3層が廃絶後の堆積土、4～6層が貼床である。掘削開始当初は住居跡であるという認識を持っていなかったため、遺物の層位は落ち込み確認面からの深さに応じて付した。セクションベルトを設定した時点で上・中層の掘削はほぼ終了していた。土層番号との対応では、概ね2・3層のレベルが下層、1層のレベルが中層、それよりも上位が上層である。遺物は下層からの出土量が多い。

[床面・炉] 貼床が施され、平坦な床面が構築されている。残存する床面にはやや硬化が認められる。床面の北側には調査過程で掘りすぎた箇所がある。炉は検出されなかった。

[付属施設] 床面を掘り込む柱状の小穴が14基確認されている。小穴は確認順に番号を付した。平面は不整円ないし不整楕円形で、覆土はいずれも砂質の暗褐色土の単層である。配置状況から壁際に巡る10基(Pit4～8、10～14)は壁柱穴と考えられる。やや中央寄りの4基(Pit1～3、9)の機能

は不明である。各小穴の規模は次のとおりである（凡例：番号・長径 - 深さ）。Pit1・28cm-43cm、Pit2・23cm-15cm、Pit3・23cm-23cm、Pit4・21cm-20cm、Pit5・15cm-9cm、Pit6・25cm-17cm、Pit7・18cm-11cm、Pit8・23cm-15cm、Pit9・40cm-27cm、Pit10・24cm-10cm、Pit11・20cm-7cm、Pit12・20cm-7cm、Pit13・14cm-7cm、Pit14・27cm-14cm。

[出土遺物] 土器・石器が出土しており、土器は総重量2,762gが出土した。図11-11は床面直上から出土した土器で、他は堆積土中から出土したものである。11は胴部～底部片である。胴部にはLRが縦位に回転施文されているものである。Ⅲ群の中で細分できなかったが、胎土及び文様の施文方向から後期前半の土器と考えられる。図11-1はⅢ群2類、2～10はⅢ群4類に比定できる。2～5は異なった原体が交互に施文されており、文様が羽状になるものである。5～8は平行帯状文が施文され、縄文が充填されている。9は小破片であるため文様の詳細は不明な点が多いが、襷掛状の文様帯があり縄文が充填されている。10は地文縄文が施文されているだけのものであるが、口縁が肥厚している事から後期中葉以降の土器と考えられる。

剥片石器は、石匙1点、スクレーパー2点、二次加工剥片3点、珪質頁岩剥片32点（275g）が、出土している。破損品が多く、図化はしていない。礫石器は石皿1点が出土した。図11-12は床面出土の石皿で、凝灰岩の板状礫を素材とし、縁は作り出されていない。表裏両面を使用しており、双方に平滑な面が形成される。出土時に上面であった実測図正面側がより使い込まれている。特に破損部はなく、使用時の形状を保っているようである。重量は19.9kgあり、床面に据え付けて使用したものと考えられる。

[小結] 出土遺物及び重複から、縄文時代後期後葉の遺構と考えられる。

第6号竪穴住居跡（SI6）（図12）

[位置・確認] 南区環状外にあたるIVU・V-55～57グリッドに位置している。床面は検出できず、楕円形状に巡っている溝だけを検出した。

[重複] 溝の内側から第2・9・13・81・280・321・322号土坑、第22号ピットを検出したが、新旧は不明である。第111号ピットは溝と重複しているが新旧は不明である。

[規模・形状] 溝は幅40～60cm、深さ10～20cmで楕円形状に巡っているが、北東隅、南東隅で一部途切れている。本住居跡と同様に壁溝だけが検出されている第7号竪穴住居跡の溝跡も、北東隅で一部途切れていることから、出入り口として開口していた可能性も考えられる。溝内側の規模は4.5m×6.6mである。

[堆積土] 溝の堆積土は、黒褐色土の単層で、場所によって混入している礫の量に違いが認められる。

[炉・付属施設] 炉は検出されなかった。床面範囲の中から検出した土坑・ピットの中には、本遺構の柱穴であったものも含まれていると考えられるが、明瞭な柱穴配置は確認できなかった。

[出土遺物] 土器・石器が出土しており、土器は総重量50gが出土した。石器は、二次加工剥片1点、珪質頁岩剥片1点（19g）が出土したが、図化していない。

[小結] 出土土器が少数で、小破片であるため、土器からは時期を推定できない。しかし、本遺構と隣接している第7号竪穴住居跡と形態が似ていることから、これと極めて近い時期に構築・廃絶された可能性もある。

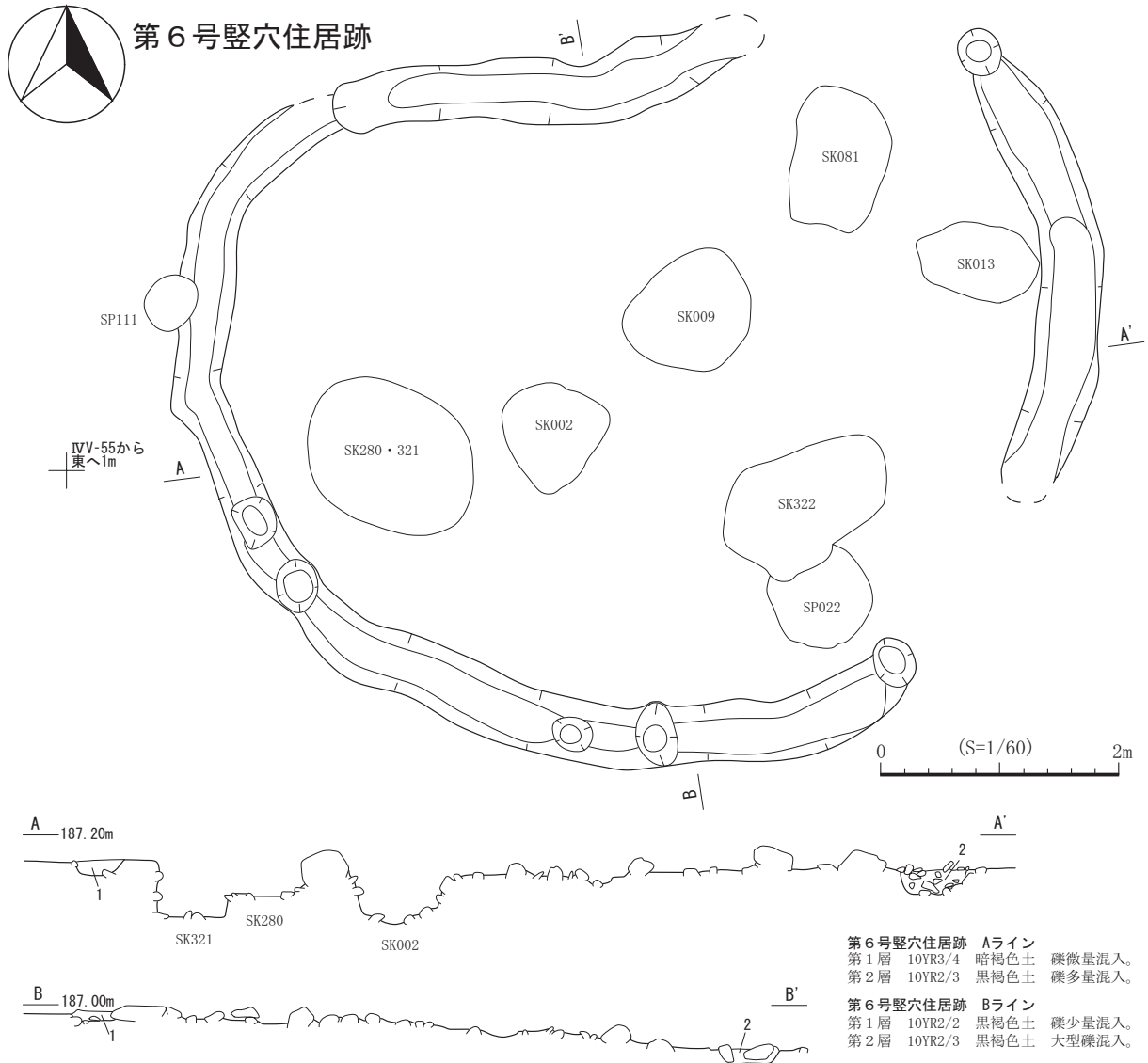


図12 第6号竖穴住居跡

第7号竖穴住居跡 (SI7) (図13)

[位置・確認] 南区環状外にあたるIVS～U-53・54グリッドに位置している。第6号竖穴住居跡と同様に床面は検出されず、壁溝と考えられる円形状に巡っている溝だけを検出した。

[重複] 重複はないが、溝の南西側が現代の攪乱により壊されている。

[規模・形状] 溝は幅40～60cm、深さ10～20cmで円形状に巡っているが、北東隅で一部途切れている。本住居跡と同様に壁溝だけが検出された第6号竖穴住居跡の溝跡も、北東隅で一部途切れていることから、出入口として開口していた可能性もある。

溝内側の規模は4.3m×4.4mである。

[堆積土] 溝の堆積土は、基本的に黒褐色土の単層で、場所によっては混入している礫の量に違いが認められる。

[炉・付属施設] 炉・柱穴は検出されなかった。しかし、溝の内部からピットを5基検出した。溝底面からの深さは、Pit1-10cm、Pit2- 4 cm、Pit3- 9 cm、Pit4- 3 cm、Pit5- 5 cmである。ピットの周辺で

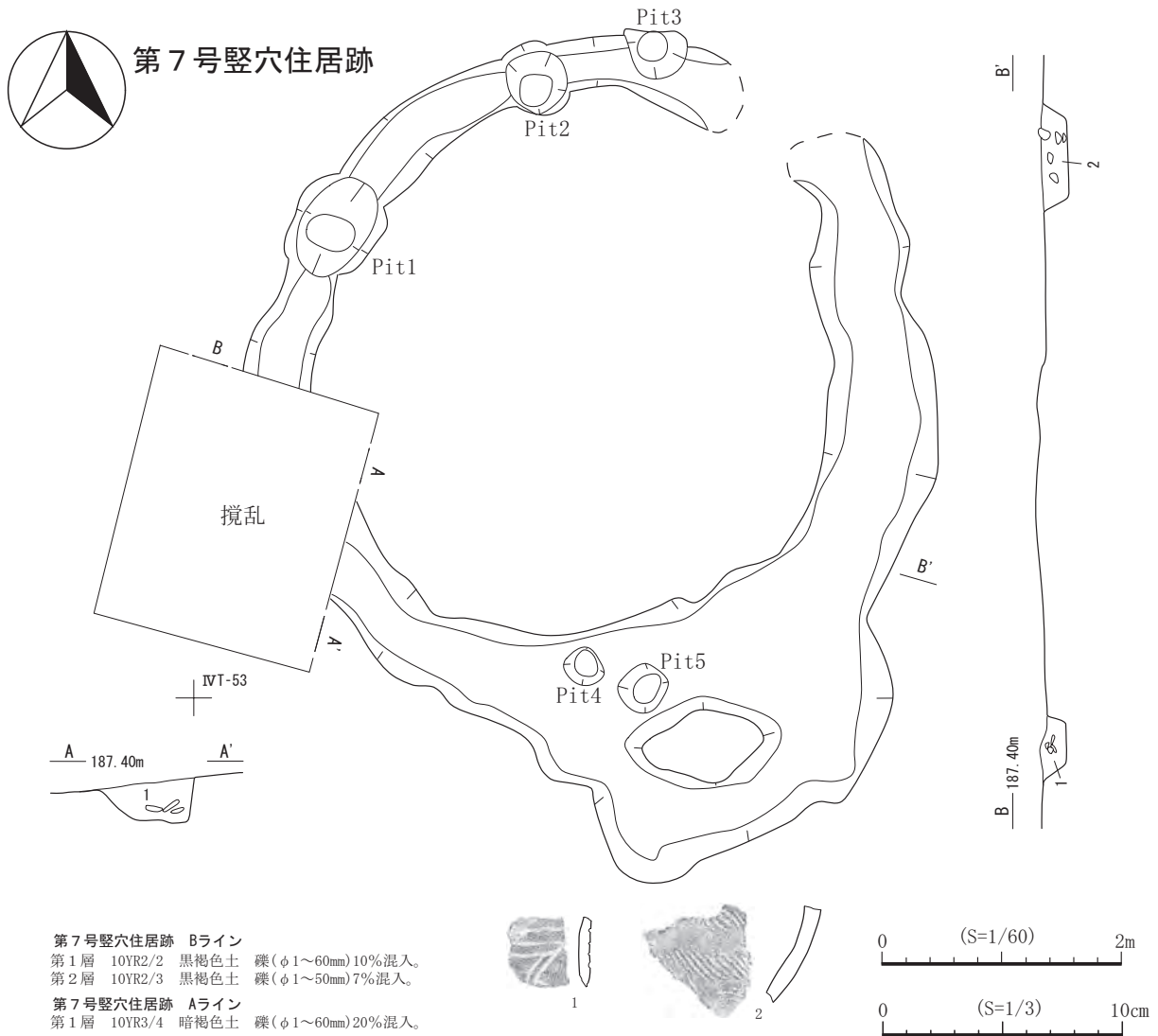


図13 第7号竖穴住居跡・出土遺物

は礫が多量に出土しており、これらは柱を固定する為の裏込め礫であったと考えられる。また、溝の南側で一部張り出している範囲があるが、確認時には黒色土と礫層が逆転しているなど、土層が乱れており風倒木痕として捉えていた。しかし、土層観察で風倒木痕と断定できる堆積状況を確認できなかったことから、施設の一部である可能性もあると考え図示した。張り出し部については、断定は出来ないものの、限りなく攪乱の可能性もあるものと捉えている。

[出土遺物] 土器・石器が出土しており、土器は総重量351gが出土した。時期が判断できる2点を図示した。図13-1は地文(LR)を回転施文後に沈線施文されているもので、第Ⅲ群2類に比定できるものである。図13-2は地文(RL)が帯状に施文され、帯と帯の間隔は比較的広がっている。Ⅲ群4類に比定できる土器である。石器は珪質頁岩剥片11点(20g)が出土したが、図化していない。

[小結] 出土土器から縄文時代後期後葉の遺構と考えられる。

第2節 土坑

総数416基の土坑を調査した。5次調査では、V Kグリッドラインを境として、調査区を北区と、南区に便宜的に分けて調査を行った（図3）。遺構名は北区と南区で重複することを避けるために、40基毎に遺構番号を割り振り、それぞれ検出順に付した。調査の結果、土坑として調査したものの中には柱穴となるものが多いことが明らかとなった。本節では、土坑を検出位置から、1 南区環状外、2 環状部、3 北区環状外、4 環状部内側（図3）に分けて記載していく。個々の遺構の規模、重複状況、遺物の出土量等については計測表に掲載したため、本文中では検出状況や遺構の構造、遺物の出土状況等について記述してある。調査の結果、遺構ではないと判断した土坑については欠番とした。

南区	北区
SK001～040	SK041～080
SK081～120	SK121～160
SK161～200	SK201～240
SK241～280	SK281～320
SK321～360	SK361～400
SK401～440	SK441～480 SK521～524

1 南区環状外

総数94基を調査した（第1・2・3・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・23・26・34・36・39・81・82・92・94・95・96・97・102・114・115・116・117・118・162・163・165・171・178・180・182・184・185・164・173・174・175・176・177・190・191・192・195・197・198・199・241・242・246・249・250・251・255・257・260・261・262・264・265・266・267・268・269・273・274・275・277・278・280・321・322・324・325・326・330・332・333・337・339・340・343・344・345・402・403・422号土坑）。

○ 掘立柱建物跡を構成する柱穴

第251・257・261・262・265・332号土坑は第1号掘立柱建物跡、第264・266・275は第2号掘立柱建物跡、第164・174・177・184・190・241号土坑は第3号掘立柱建物跡を構成している。掘立柱建物跡として次節でも記載するが、平面図や土層図などの各図については本節で掲載した。

○ 検出状況

全ての土坑は基本層序第Ⅲ層上面で検出した。遺構の分布状況は南区環状外の東側にあたるⅣX～VA-58～61グリッドと、南西端にあたるⅣQ～T-51～53グリッド付近で密になるが、それ以外は南区環状外から散在して検出した。

○ 柱痕の有無について

柱痕は第11・13・96・115・117・184・190・241・242・251・261・262・265・267・326・332号土坑で確認できた。なお、検出時に柱痕範囲と認識したものでも、土層断面で柱痕を確認できなかったものについては、柱痕としなかった。第184・190・241号土坑は第3号掘立柱建物跡を構成している土坑で、これら3基における柱痕長径は50～75cmの範囲に収まる。また、掘方の長径は160～190cmである。第251・261・262・265・332号土坑は第1号掘立柱建物跡を構成している土坑で、柱痕長径は55～65cm、掘方の長径は100～115cmである。第11・13・96・115・117・242・267・326号土坑は掘立柱建物跡を組めなかった土坑である。柱痕長径は40～60cm、掘方の長径は85～105cmとなる。以上の事から本地区から検出した柱穴は、掘方の長径が150cmを超えるもの、100cm前後のもの、100

cm未満のもの3つに整理することができ、柱痕長径も掘方の長径に対応していると考えられる。

○ 堆積状況について

柱痕を確認できた遺構の中で、第11・13・96・115・117・184・190・242・251・261・262・265・326号土坑では、柱痕と掘方が明確に区別でき、掘方には礫が堆積している。これらの状況から、柱がきれいに抜き取られた状況や、裏込めとして礫を使用していた状況が推定できる。しかし、このような状況を示しているのは一部であり、大多数では柱痕を確認できなかった。また、確認時に礫の出土状況から柱痕と認識していた範囲でも、半截して土層を確認すると礫の堆積状況が乱れており、柱痕ではなかったというようなことも多々あった。

南区環状外の東側にあたるIVY-60グリッドから検出した第3号土坑は堆積状況が他の遺構とは異なっており、柱穴以外の機能が推定される。第3号土坑の堆積状況は4層が堆積した後、4層上面の全体に礫が敷き詰められたような状態で出土している。出土した礫は自然礫で、大きさはほぼこぶし大で揃っているが、被熱した礫はない。その後、第3号土坑は1・2層が堆積し完全に埋没している。このことから、土坑が廃棄された時点では開口状態であり、堆積過程の中で礫が配された状況が考えられる。特異な遺物等は出土せず、機能・用途は不明である。

○ 遺物の出土状況及び出土遺物について

本地区では、堆積土中から復元できるような土器は出土しておらず、破片での出土が多い。各遺構から出土した土器の量も少ない事から、前述した第3号土坑を除いては、遺物を廃棄したというよりも、埋没する過程で周辺にあった遺物が混在したというような状況が推定できる。土器については、掲載にあたり、時期の判断できるものを中心に選別した。出土土器の大半は後期前葉の土器である第Ⅲ群1、2類が占めているが、これらと混在して後期中葉以降の土器である第Ⅲ群3、4類が出土した遺構もある。第Ⅲ群3、4類土器の特徴が遺構の時期を判断できる材料となるため、本項ではこれらの土器について特徴を記載していく。

第Ⅲ群3類の土器は1点の出土で、第262号土坑の覆土から出土している（図24-21）。図24-21は矢羽根状の沈線が横位に展開しているものである。第Ⅲ群4類の土器は、遺物を掲載した遺構では、第2・11・34・176・257・261・264・267・280・402・422号土坑から出土している。なお、小破片であるため掲載はしなかったが、第10・36・265号土坑からも第Ⅲ群4類と考えられる土器が出土している。第2号土坑から出土した図22-1は覆土中から出土したもので、貼瘤が施されている。また、平行の沈線が施文され、その間には縦位の沈線が施文されている。第11号土坑から出土した当該期の遺物は4点図示した（図22-8～11）。図22-8は壺か注口土器の胴部片で帯状や弧状となる縄文帯が施文されており、胴部屈曲部には貼瘤が施されている。図22-9は波状口縁の口縁部片で、口縁に沿って刻目帯が施されている。図22-10は台付き鉢の腕部分と考えられる破片で、土器の内外面に縄文が施文されている。外面には異なった原体を使用した羽状縄文が表出されている。図22-11は地文が施文されているだけの深鉢形土器であるが、口縁部が肥厚していることから第Ⅲ群3～4類に含めた。第34号土坑から出土した図23-1は深鉢形土器の口縁部片で、口縁に沿って刻目帯が施されている。また、口縁には突起が貼り付けられており、突起頂部には刻みが施されている。また、縄文帯には異なった原体を使用した羽状縄文が充填されている。第176号土坑から出土した図23-21は貼瘤が施されており、瘤を起点として沈線が施文されている。第257号土坑から出土した図24-18は縄文帯に異なった原体を

使用した羽状縄文が充填されている。第261号土坑からは2点を図示した(図24-19・20)。2点共に貼瘤が施されている。第264号土坑では4点を図示した(図24-24～27)。このうち、24・25・27は異なった原体を使用した羽状縄文が表出されている。26は貼瘤が施されているものである。第267号土坑では2点を図示した(図24-28・29)。2点共に柱痕から出土したものである。29は口縁に沿って刻目帯が施され、28は縄文帯にLRが充填されるものである。第280号土坑からは2点を図示した(図24-32・33)。2点共に縄文帯に異なった原体を使用した羽状縄文が充填されている。第402号土坑から出土した図24-34は貼瘤が施され、瘤を起点に沈線が施文されている。第422号土坑から出土した図24-36は柱痕から出土したもので、带状文内にLRが充填されている。

土器と同様に石器の出土量も少ない。本地区の土坑出土土器の多くが破片であることから、石器のほとんどは覆土に混入したものと考えられる。第241号土坑では石鏃2点、スクレーパー1点、二次加工剥片7点、微細剥離痕のある剥片1点、珪質頁岩剥片40点(237g)、石錘3点とややまとまった量が出土しているが、一括性のあるものかどうかについては不明である。掲載した剥片石器はすべて珪質頁岩製である。礫石器には凝灰岩が多く用いられており、石材について記載のないものは凝灰岩製である。図22-5は石篋である。背腹両面に調整加工が施されており、下端に弧状の刃部が作出される。図22-12は安山岩製の磨石である。側面を主要な機能面としており、使用痕はややざらついている。正面の広い範囲に研磨に近い平滑面が形成され、表裏面に各1箇所の敲打痕が認められる。図23-2は磨製石斧である。欠損している基部周辺に剥離痕が認められるため、意図的な切断または折損後に敲石へ転用した可能性がある。器面全体に研磨以前の敲打整形痕が認められる。図23-5は石篋である。腹面の調整加工は刃部のみ施される。図23-6は有茎石鏃である。図23-12・13は楔形石器である。図23-18は打欠石錘で、扁平礫の短軸両端に抉りが施される。図23-26は凹石である。軽微な凹み痕が正面に1箇所認められる。図23-31は楔形石器である。図24-3は凹石である。凹み痕は正面に1箇所、裏面の凹みは自然面である。図24-6・12・13は有茎石鏃で、12は調整が粗く未成品と考えられる。図24-14～16・31は打欠石錘で、いずれも扁平礫の短軸両端に抉りが施される。

○ 自然科学分析について

南区環状外南西端にあたるIVS-52グリッドに位置している第95号土坑と、南区環状外西側にあたるIVX・Y-52グリッドに位置している第274号土坑の覆土中から採取した炭化物について放射性炭素年代測定を行っており、第95号土坑は後期中葉、第274号土坑は現代の値が得られている(詳細は第3章第1節参照)。第274号土坑は現代の攪乱により遺構の一部が壊されており、攪乱に含まれていた炭化物を採取したものと判断される。

○ 時期について

土坑からは縄文時代後期初頭～後葉の土器が出土しており、縄文時代後期に構築されたと考えられる。第262号土坑では後期前葉の土器と混在して縄文時代後期中葉の土器が、第2・10・11・34・36・176・257・261・264・265・267・280・402・422号土坑では後葉の土器が出土しており、これらの遺構については該期の遺構として捉えることができる。第257・261・262・265号土坑は第1号掘立柱建物跡を構成している柱穴、第264号土坑は第2号掘立柱建物跡を構成している柱穴である。また、第95号土坑は、放射性炭素年代測定結果から、後期中葉以降の遺構と考えられる。

2 環状部

調査時にグリッドのVKラインを境として北区と南区に区分けしていたため、本項においても、遺構図及び事実記載は南北に分け、南側から掲載する。

A 環状部南側

総数89基を調査した（第16・17・18・19・20・22・24・25・27・28・29・112・113・30・33・172・32・37・168・38・40・98・84・86・100・87・101・88・169・90・91・93・188・99・106・272・103・248・105・109・104・110・111・179・119・120・186・276・181・329・193・200・254・271・279・331・338・336・346・347・401・341・342・348・421・352・349・350・353・425・354・416・355・356・429・432・359・360・407・410・411・414・413・415・417・430・427・428・431号土坑）。

○ 掘立柱建物跡を構成する柱穴

第19・24・27・33・91・106号土坑は第20号掘立柱建物跡、第37・38・186・193・341は第18号掘立柱建物跡、第86・93・101・120・168・181は第19号掘立柱建物跡、第331・346・347・349・352・421号土坑は第17号掘立柱建物跡、第353・354・360・413・414号土坑は第16号掘立柱建物跡を構成している柱穴である。

○ 検出状況

環状部南区では土坑が幅8mの規模で帯状に巡っている。本区では遺構が密に検出されている範囲と、疎の範囲があり、特にVC～F-57～60グリッド付近で遺構が密に検出されている。この範囲では、土坑が2～3基ほど連なったように検出されている例が多い。このことから、建て替え等が近い位置で行われたことが推定できる。また、重複しているにも関わらず、柱痕が確認できた例も多くある。柱痕が崩れずに残っている状況から、柱を抜き取った事が推定できる。4次調査で本区は既にⅡ層相当の調査が終了しており、土坑は全てⅢ層上面で検出した。そのため、遺構の掘り込み面は確認できなかった。

○ 柱痕の有無について

検出時の状況と土層から柱痕を確認できた遺構は、掘立柱建物跡を構成している土坑では、第413号土坑（第16号掘立柱建物跡）37・38・186・193・341・348（第18号掘立柱建物跡）、第93・120・168・181（第19号掘立柱建物跡）、第19・24・27・33・91・106（第20号掘立柱建物跡）がある。また、掘立柱建物跡として提示できなかったが、第25・112・30・101・105・248・109・110・111・271・356・407・413・415・417号土坑で柱痕を検出している。掘立柱建物跡を構成している土坑から検出した柱痕長径は、第16号掘立柱建物跡で63cm、第18号掘立柱建物跡で60cm（6本の平均値）、第19号掘立柱建物跡で61cm（4本の平均値）、第20号掘立柱建物跡で60cm（6本の平均値）であり、柱痕長径は60cmに近い数値となっている。このことから、本地区で提示した掘立柱建物跡の柱材はほぼ同規模であったと推定できる。なお、掘立柱建物跡を構成していない土坑の柱痕長径は、45～60cm、掘方長径が120cm未満のものと、柱痕長径が60～80cm、掘方長径が150～180cm大のものに整理できる。このことから、掘立柱建物跡として提示できなかったが本地区には柱材規模の異なる掘立柱建物跡が構築されていた可能性もある。

○ 堆積状況について

柱痕の確認できた遺構の堆積状況はほぼ一様で、柱痕部に黒色を主体とした土が、掘方部には礫が埋められている。その他の土坑に関しては、堆積土中に礫が多く混在している特徴がある。このような状況から、柱をきれいに抜き取った遺構とそうでない遺構があると推定できる。

○ 環状部での遺物の出土状況及び出土遺物について

遺物の出土状況は南も北も同様である。環状部では、堆積土中から復元できるような土器は出土しておらず、破片での出土が多い。各遺構から出土した土器の量も少ない事から、遺物を廃棄したというよりも、埋没する過程で周辺にあった遺物が混在したというような状況が推察できる。土器については、掲載にあたり、時期の判断できるものを中心に選別した。出土土器の大半は後期前葉の土器である第Ⅲ群1、2類が占めているが、これらと混在して後期中葉以降の土器である第Ⅲ群3、4類が出土した遺構もある。第Ⅲ群3、4類土器の特徴が遺構の時期を判断できる材料となるため、本項ではこれらの土器について特徴を記載していく。

第Ⅲ群3類は第29号土坑から出土している(図39-7)。7は鉢形土器の口縁部片で、口縁は内湾し、肥厚しており、胴部には平行帯状文が施されている。第Ⅲ群4類は第200・341・355・356・410・414号土坑から出土している。第200号土坑からは2点図示した(図40-3・4)。3は貼瘤が施されている。また、本遺構からは両頭土製品が出土している(図40-5)。5は器体の両端が球状にふくらんでいるもので、ふくらみの最大径の部分には沈線が施されており、地文には節の非常に細かい縄文が施文されている。球状の端部及び器体には使用した痕跡は認められなかった。第341号土坑から出土した図40-9は木の葉状の縄文帯が施文されている。第355号土坑からは3点図示した(図40-19～21)。19は波状口縁の口縁部片で、口唇に小突起が貼り付けられているほか、外面には貼瘤も施されている。19・20共に沈線が施文され、その内側にLRが充填施文されている。21は注口土器の注口部である。文様は施されておらず、全面が弱く磨かれている。第356号土坑からは2点図示した(図40-22・23)。いずれも貼瘤が施され、沈線が施文されている。第410号土坑から出土した図40-25は地文縄文が施文されているだけの深鉢形土器で、器形から第Ⅲ群3・4類と判断した。第414号土坑から出土した図40-30は、柱痕から出土したもので、外面には平行帯状文が施文されている。

本地区の土坑出土土器の多くが破片であることから、石器もほとんどが覆土に混入したものと考えられる。珪質頁岩製の剥片石器および凝灰岩製の礫石器については、文中の石材記載を省略した。図39-8は整形されたつまみ部をもつ石錘である。図39-11は石核である。図39-13は敲石である。軽微な敲打痕が端部と側面に各1箇所認められる。図39-17・18は有茎石鏃で、17は茎部が長く作り出されている。図39-21は原礫面の残る黒曜石剥片で、産地推定では青森県木造出来島群に分類された。図39-22は石錘で、先端が摩滅している。図39-19は打欠石錘で、扁平礫の短軸両端に抉りが施されている。敲打痕の認められる部分があり、敲石を転用した可能性がある。図39-31は石核である。図39-26・27は有茎石鏃である。図39-24は敲石である。正面と端部に各1箇所の敲打痕が認められ、器表面に部分的なスス付着箇所がある。図39-25、図40-2・11は有茎石鏃で、25は肩部の張り出しが弱く、2は身部が長く作り出されている。図40-26は打欠石錘である。図40-24は打点付近に階段状剥離が認められるため、楔形石器に分類した。下端は折損している。図40-31は凹石である。表裏両面に各1箇所の軽微な凹み痕をもつ。

土製品は前述した第200号土坑の他、第88号土坑からは土偶の胴部片(図39-23)が、第109・336号土坑、

354号土坑からは土器片円盤（図39-29、図40-7・18）が、第353号土坑からは耳飾り（図40-16）が出土している。

○ 自然科学分析について

第88・93・193・411号土坑から出土した黒曜石について産地推定を行った結果、すべて青森県木造出来島群に分類された（詳細は第3章第3節）。出土土坑名（略号SK）と分析番号（No）および掲載番号の対比は次の通りで、分析番号43・54・84の図は掲載していない。SK088—No26—図39-21、SK093—No43、SK193—No54、SK411—No84。

○ 時期について

土坑からは縄文時代後期初頭～後葉の土器が出土しており、縄文時代後期に構築されたと考えられる。第29号土坑では後期前葉の土器と混在して後期中葉の土器が、第200・341・355・356・410・414号土坑については後期後葉の土器が出土しており、該期の遺構として捉えることができる。第341号土坑は第18号掘立柱建物跡を構成している土坑である。

B 環状部北側

73基検出した（第50・51・52・53・54・55・59・60・62・68・69・70・78・124・125・132・133・134・136・137・138・140・147・150・153・157・158・159・160・201・202・205・210・212・214・217・218・223・316・378・379・380・384・388・389・390・393・394・395・396・444・447・448・449・450・451・453・454・455・457・458・459・460・461・462・463・464・467・472・473・474・477・521号土坑）。

○ 掘立柱建物跡を構成する柱穴

第59・60・138・379・393・396号土坑は第12号掘立柱建物跡、第78・160・202・205・451・458号土坑は第13号掘立柱建物跡、第51・52・53・70・150・394号土坑は第14号掘立柱建物跡、第157・210・212・214・217・316号土坑は第15号掘立柱建物跡を構成している。掘立柱建物跡として次節でも記載するが、平面図や土層図および出土遺物は本節で掲載した。

○ 検出状況

本地区の遺構確認面はⅢ層上面であり、Ⅱ層中では掘り込み面を確認できなかった。Ⅲ層の一部はⅡ層との区分が困難であり、遺構確認時点でⅢ層を掘り過ぎていた箇所もある。多くの土坑は幅8mほどの帯状の範囲内に分布しており、VP・Q-58・59グリッドで特に重複が激しい。特定の場所にある掘立柱建物を、数回建て替えた様子が窺われる。規模の小さなピットとの重複については、土坑の方が先に構築されている例が多いようであるが、乾燥の激しい地山のため前後関係を捉えきれなかったものもある。調査開始当初は土坑確認直後に半截したが、多くの土坑が柱穴となる可能性が高いことを認識した後は、柱痕の有無およびその規模等の把握に主眼を置き、柱痕を認識できるまで覆土全体を面下げしたり、柱痕を先行して半截するなど多様な手法を採用した。このため、柱痕を先行して掘り抜いたものに関しては堆積土に関する情報を記録していないものがある。

○ 柱痕の有無について

53基（第51・52・53・54・55・59・60・62・70・78・125・132・134・136・138・140・150・157・158・159・160・201・202・205・210・212・214・217・218・316・379・380・388・389・390・393・

394・396・444・448・451・454・455・457・458・459・460・462・463・467・472・477・521号土坑)で柱痕が確認された。これらは本来、掘立柱建物の柱穴であった可能性がある。明瞭な柱当たりが確認されていないため、柱材の太さは不明である。柱痕長軸の平均は46cm、柱痕をもつ土坑の掘方長軸の平均は115cmである。柱痕が確認されなかった土坑のうち、3基(第50・447・474号土坑)については短軸1m程度、深さ50cm程度と規模の面で柱痕をもつ土坑と遜色なく、柱穴の可能性がある。これに対して14基(第68・69・124・133・137・147・153・223・384・395・449・450・464・473号土坑)は、平面規模・深さともに柱穴と考えられるものより小さく、別機能が想定される。第453・461号土坑は、第378号土坑の底面で確認しており、柱穴かどうかは不明である。第378号土坑は確認面で長径1.2mを測る巨大な自然礫(調査時点では人力による移動が不可能であった)が出土しており、機能は不明である。

○ 堆積状況について

柱痕の堆積土は、礫の混入が少ない黒または暗褐色土を主体とする場合が多い。地山の砂礫層に由来する礫が、あたかも柱痕の周囲に配されたような状態で検出された例も多い。巻頭図版4の下段(柱穴群検出(VP-58付近))および巻頭図版5の三段目右(第78号土坑)のような状況がそれであり、顕著なものについては個別の平面図でも示した。このような検出状況は、柱を固定するための押さえ(裏込め)として地山の掘り上げ礫を利用した結果と考えられる。柱痕は確認面よりも底面側が狭くなっているものが多く、廃絶時には柱材が抜き取られたと考えられる。第51号土坑は柱の抜き取りによって堆積層が乱れていると推定された。第52・55・60・125・136・150・157・217・396・451号の各土坑では、掘方底面に達していない柱痕が確認されている。

○ 出土遺物について

第Ⅲ群4類は第150・218号土坑から出土している。第150号土坑から出土した図41-13は口縁に沿って縄文帯があり、LRが充填されている。第150号土坑からは他に第Ⅲ群2類土器(図41-12)や石鏃(図41-15～17)、土偶(図41-14)が出土している。第218号土坑からは2点図示した(図41-27・28)。いずれも地文が施文されているだけの深鉢形土器であるが、28は異なった原体を使用した羽状縄文が表出されている。27は口縁が内湾することから第Ⅲ群3・4類と判断した。

本地区の土坑出土土器の多くが破片であることから、石器もほとんどが覆土に混入したものと考えられる。珪質頁岩製の剥片石器および凝灰岩製の礫石器については、文中の石材記載を省略した。図41-3は有茎石鏃である。図41-4は玄武岩製の磨石で、広く平滑な使用痕が1面に認められ、下半は欠損している。図41-6は有茎石鏃である。茎部の位置が片方に寄っており、平面が対称形ではない。図41-15は尖基の無茎石鏃、16・17は有茎石鏃である。図41-26は石鏃で、剥片の末端を刃部としている。図41-31は石核である。図41-34は有茎石鏃である。図42-2は石鏃I類で、刃部は背面のみの片面加工である。図42-4・5は黒曜石で、4には両極加撃痕が認められる。図42-3は打欠石錘で、扁平礫の短軸両端に抉りを作り出している。図42-7・8は凹石である。各々表裏両面の凹み痕に加え、端部や側面にも敲打痕が認められる。図42-10は黒曜石剥片である。表面が風化しているため分析による産地推定はできなかった。図42-12は打欠石錘である。被熱により全体に薄くススが付着している。

土製品は第150号土坑から出土した土偶の胴部片のほか、第460号土坑から三角形状土製品(図42-18)が出土している。18は無文の胴部片を使用しており、破断面を磨って三角形状に整形している。

共伴遺物がなく、かつ無文であるため詳細な時期は不明であるが、周辺の遺構の遺物出土状況から後期に属すると判断される。なお、胎土の色調・混入物から後期前葉に帰属する可能性もある。

○ 自然科学分析について

出土炭化材のうち、3点について放射性炭素年代測定を実施した（詳細は第3章第1節）。出土土坑名（略号SK）と分析番号（測定機関略号PLD）および測定結果（ 2σ 暦年代範囲）は、次のとおりである。SK059—PLD-17509—1888～1751calBC。SK062—PLD-17510—1890～1751calBC。SK150—PLD-17511—1951～1867calBC・1848～1774calBC。測定試料の出土位置は、第59・62号土坑が柱痕、第150号土坑が覆土（柱痕・掘方のいずれかは不明）である。

出土黒曜石7点の産地推定は、6点が青森県木造出来島群に、1点が不明として分類された（詳細は第3章第3節）。推定産地、出土土坑名（略号SK）、分析番号（No）および掲載番号との対比は次の通りで、分析番号53・55・56・85の図は掲載していない。木造出来島群：SK060—No.56、SK379—No.53、SK390—No.38—図42-4、SK390—No.48—図42-5、SK390—No.55、SK390—No.85。不明：SK396—No.57—図42-10。

○ 時期について

出土土器の多くは後期前葉の十腰内I式であるが、第150号土坑では十腰内I式と混在して後期後葉の土器が出土している。また、第218号土坑の掘方では後期後葉の土器が出土しており、本地区に後期後葉の土坑が存在することは確実である。放射性炭素年代測定の結果、第59・62・150号土坑出土炭化材の示す年代の上限は1956calBC、下限は1751calBCで、1888～1867calBC・1849～1774calBCの間で重なりをもつ。この年代は縄文時代後期中葉に相当する。炭化材の古木効果を含めて考えた場合、年代測定結果は出土遺物と調和的といえる。これら3基は柱痕が確認されており、第59号土坑は第12号掘立柱建物跡、第150号土坑は第14号掘立柱建物跡を構成する柱穴である。上記より、本地区に所在する土坑のうち環状掘立柱建物を構成する可能性のある柱穴群については、出土遺物の下限から縄文時代後期後葉に構築されたものと考えられる。それら以外の土坑については、出土遺物が少ないことや柱穴群に属する土坑との切り合い関係をもたないものが多いため時期判断が難しい。第450・464号土坑の2基については柱穴群より古く、第137号土坑は柱穴群よりも新しいことが切り合い関係から読み取れる。

3 北区環状外

150基検出した（第41・42・43・44・45・46・47・48・49・56・57・58・61・63・64・65・66・67・71・72・73・76・77・79・80・121・122・123・126・127・128・129・130・131・141・142・143・144・145・146・148・151・152・155・156・203・204・206・207・208・211・213・215・216・219・220・221・222・224・225・226・227・228・229・230・231・232・233・234・235・236・237・238・239・240・281・282・284・285・288・291・292・293・294・295・296・297・298・299・300・301・302・303・304・305・306・307・308・309・310・311・312・313・314・315・317・318・319・320・361・362・363・364・365・366・367・368・369・370・371・372・373・374・375・376・377・381・382・383・385・386・387・391・392・397・398・399・445・456・465・468・469・471・475・478・479・480・522・523・524号土坑）。

○ 掘立柱建物跡を構成する柱穴

第235・238・240・293号土坑は第4号掘立柱建物跡、第46・122・127・309号土坑は第5号掘立柱建物跡、第305・306・311号土坑は第6号掘立柱建物跡、第49・144・370・374号土坑は第7号掘立柱建物跡、第58・71・76・79・121・367号土坑は第8号掘立柱建物跡、第41・42・67・366・468・469号土坑は第9号掘立柱建物跡、第73・156・213・215・456号土坑は第10号掘立柱建物跡、第211・376・377・387・465・478号土坑は第11号掘立柱建物跡を構成している。掘立柱建物跡として次節でも記載するが、平面図や土層図および出土遺物は本節で掲載した。

○ 検出状況

基本的にⅢ層上面を確認面としたが、第43号土坑は壁面観察でⅡd層を掘り込んで構築されたことが判明している。また、第397・398号土坑は、十腰内Ⅰ式を包含する黄褐色土を掘り込んでいる。分布状況は、環状部に接するVQ-55・56、VR-55～57、VS-56・57グリッドや、舌状に伸びる185mの等高線の先端付近であるVX～VID-57グリッドにおいて比較的密である。環状部と比較して遺構の重複は少なく、掘方規模も小さいものが多い。

○ 柱痕の有無について

50基（第41・42・49・56・63・71・72・73・77・79・80・121・126・131・141・144・146・155・156・211・213・215・233・235・236・282・293・294・298・306・309・310・311・312・315・363・370・374・376・377・387・392・456・468・469・478・479・480・522・523号土坑）で柱痕が確認された。これらは本来、掘立柱建物跡の柱穴であった可能性がある。明瞭な柱当たりは確認されなかったため、柱材の太さは不明である。柱痕長軸の平均は45cm、柱痕をもつ土坑の掘方長軸の平均は95cmである。また、柱痕は確認されなかったが配置状況等から掘立柱建物跡の柱穴と考えられたものが12基（第46・58・67・76・122・127・238・240・305・366・367・465号土坑）ある。このほか、掘立柱建物跡の柱穴と重複し、規模も同程度のものとして第61号土坑が挙げられ、少なくともこれら63基の機能は柱穴とすることができる。ただし、本地区の掘立柱建物跡を構成する柱穴には第240号土坑のように小規模なものも含まれるため、柱穴として捉えるべき土坑数は63基よりも多くなると考えられる。平面規模・深さとも環状部より小さい柱穴が存在することが、本地区の特徴といえる。出土遺物の少なさとも相俟って、柱穴以外の土坑については、その機能が不明である。この中で、第151号土坑は第6号掘立柱建物跡の、第219号土坑は第11号掘立柱建物跡の中央に位置し、建物と関連する施設の可能性がある。また、一括性の高い遺物が出土した第281号土坑は墓壙の可能性がある。第230・231・232号土坑のように密集する平面楕円形の土坑もその可能性はあるが、推測の域を出ない。

○ 堆積状況について

柱痕の堆積土は、他地区と同様に礫の混入が少ない黒または暗褐色土を主体とする。柱痕周囲に裏込め礫があるのも同様の状況である。円形に残存する裏込め礫から想定される柱材の直径は、第42号土坑や第211号土坑など太いもので40cm程度、第236号土坑など細いものでは20cm程度と考えられるが、明瞭な柱当たりは確認できなかった。また、第298号土坑のように、1.4mの掘方短軸に対し、想定される柱材の直径は25cm程度と両者の規模が大きく異なるものもある。なお、柱穴以外の土坑が自然堆積であるか人為堆積であるかは、判断できなかったものが多い。

○ 遺物の出土状況及び出土遺物について

本地区では、第281号土坑から一括廃棄されたと考えられる遺物が出土した外は、破片での出土が多い。各遺構から出土した土器の量も少ない事から、遺物を廃棄したというよりも、埋没する過程で周辺にあった遺物が混在したというような状況が推察できる。土器については、掲載にあたり、時期の判断できるものを中心に選別した。

第281号土坑では大型の土器片が多量に出土しており、完形に復元出来た個体が3個体ある(図60-1~3)。1は胴部最大径付近に7単位の方形区画が施され、区画内には円形の沈線が描かれている。器形・文様などから第Ⅲ群1類土器と考えられる。図60-2・3はいずれも単軸絡条体第1類が縦位に施文されている。これらの土器は一括して廃棄された遺物と考えられる。第Ⅲ群4類は第48・127・224・285・314・319・320・363・397・522号土坑から出土している。第48号土坑から出土した図58-10は平行帯状文が口縁と頸部屈曲部に施文されている。第127号土坑から出土した図58-19は口縁部片で、口唇は尖っている。また、口縁の破断面の状況から突起が貼り付けられていた可能性もある。文様は弧状の沈線により区切られた内側に、節の小さいLRが回転施文されている。沈線の幅、深さは2~3mm程度である。文様から縄文時代後期のものと考えられるが、文様構成に不明な点が多く、詳細な時期決定を行う上で悩んだものである。分類上はⅢ群としたが後期中葉以降に比定できる可能性もある。第224号土坑からは2点図示した(図59-13・14)。14は口縁が肥厚しており、口縁に沿って縄文帯が施文されている。13は異なった原体を使用した羽状縄文が表出されている。第285号土坑から出土した図59-15、第319号土坑から出土した図61-15はいずれも縄文帯にLRが充填施文されている。第314号土坑から出土した図61-3は注口土器の注口部片である。縄文帯にRLが充填施文されている。第320号土坑から出土した図61-7は小型の台付き鉢で、外面に地文が施文されているだけのものである。口唇部には小突起が貼り付けられており、器形から第Ⅲ群4類と判断した。第363号土坑から出土した図61-8は口縁に突起が貼り付けられ、外面の口縁部付近には横位の波状となる沈線が、頸部屈曲部より下位には弧状となった細い縄文帯が施文されている。文様などから4類の中でも新しい段階に属すると考えられる。第397号土坑から出土した5点(図61-14~18)と、第522号土坑から出土した図61-24は異なった原体を使用した羽状縄文が表出されている。

出土した石器は少ないが、一部で一括性の高い出土事例がある。第281号土坑からは完形土器と大形礫石器がまとまって出土しており、これらは意図的に埋められたものと考えられる。また、第150号土坑では剥片石器3点のほか、珪質頁岩剥片39点(403g)、礫石器2点とやや出土量が多い。他の土坑については土器のほとんどが小片のため、石器も覆土に混入したものと考えられる。珪質頁岩製の剥片石器および凝灰岩製の礫石器については、文中の石材記載を省略した。図58-2は両面調整のスクレーパーである。図58-8はつまみ部のない棒状の石錐である。図58-15は柱状の自然礫を使用した台石である。整形した様子は窺われず、3面に敲打痕を有する。図58-21は珪質頁岩の石核を転用した敲石で、縁辺の稜部に集中して敲打痕が認められる。石器製作のハンマーと考えられる。図58-22は、正面に軽微な敲打痕を有する一般的な敲石である。図58-27は凹石である。敲打の反復による凹み痕が表裏両面に各1箇所形成され、一側面に軽微な敲打痕が認められる。図59-6は石篋で、刃部は両面加工である。図59-7は大形のスクレーパーで、刃部加工は基本的に背面に施されている。図59-8は凹石で、6面すべてに使用痕が認められる。表裏および側面には敲打の反復による深い凹み痕が形成され、両端には平坦面を形成するような敲打痕が認められる。図59-9は流紋岩の球状礫

を用いた磨石と考えられる。全体が被熱により劣化しており、部分的にススが付着する。使用痕は顕著でないが、器面は全体に滑らかである。図59-10は黒曜石製の微細剥離痕のある剥片である。1面に原礫面を有し、背面の右辺上方に微細な剥離痕が認められる。産地推定では青森県木造出来島群に分類された。図59-16はつまみ部をもつ石錐で、先端部を欠損している。図60-5・6はスクレーパーで、削器に分類した。先端部に尖頭状の刃部加工が施される点が共通する。図60-7は打欠石錘である。図60-8～10は台石、11は石皿である。8は扁平礫の片面を使用している。スリ面は滑らかで、部分的に軽微な敲打痕を伴う。敲打痕内に黒色物質の付着が認められる箇所がある。9は1面を使用する台石である。平坦面の広い範囲をスリ面としているようだが、平滑面の発達が弱いため台石として区分した。被熱により図の破線より上部は赤化し、下部にススが付着している。中央付近に軽微な敲打痕を有する。10は扁平礫の片面を使用し、側面にも敲打痕のような凹みが認められる。やや粗いスリ面の中に軽微な敲打痕があり、部分的に凹みを生じている。原礫面全体にうすく黒色物質が付着している。11は破損した有縁石皿である。破損後に被熱しており、一部にススが付着している。縁は片面にのみ作り出されているが、使用痕は表裏両面に認められる。縁が作り出されている側では、敲打整形後にスリ面が形成されたことが明瞭である。裏面は全体に平滑なスリ面が形成される。

土製品は第146号土坑から土偶の脚部（図58-26）が、第239・319号土坑からは土器片円盤（図59-18、61-6）が、第297号土坑の底面付近からは顔面を下にした状態で土偶の頭部（図59-17）が出土している。石製品は2点出土した。いずれも凝灰岩製である。図58-11は上半部を折損した石刀である。棒状礫を研磨加工し、一方の側面に刃部様の稜を作り出している。図59-11は周縁を研磨加工した円盤状石製品で、表裏および側面に擦痕が顕著に認められる。

○ 自然科学分析について

第281号土坑出土炭化材のうち、2点について放射性炭素年代測定を実施した（詳細は第3章第1節）。分析番号（測定機関略号 PLD）と測定結果（ 2σ 暦年代範囲）は次のとおりである。PLD-17513—2132～2084calBC・2056～1946calBC。PLD-17514—2194～2178calBC・2144～2021calBC・1993～1983calBC）。この年代は縄文時代後期前半に相当し、本土坑では後期初頭の一括資料が出土しているため、出土土器の年代とは調和的といえる。第213号土坑で黒曜石が1点出土しており、産地推定では青森県木造出来島群に分類された（分析番号39・図59-10：詳細は第3章第3節）。

○ 時期について

多くの土坑では時期判断の根拠となる遺物が出土しておらず、構築時期が判明するものはわずかである。時期の特定できる遺物として十腰内I式を出土する土坑が最も多いが、第46・48・219・224・232・397・522号土坑では後期後葉の土器と混在している。このほか、第285・314・319・320・363号土坑では後期後葉の土器が出土しているため、環状部と同様に本地区にも当該期の土坑が存在するのは確実である。第281号土坑は出土した一括資料から、縄文時代後期初頭と考えられる。

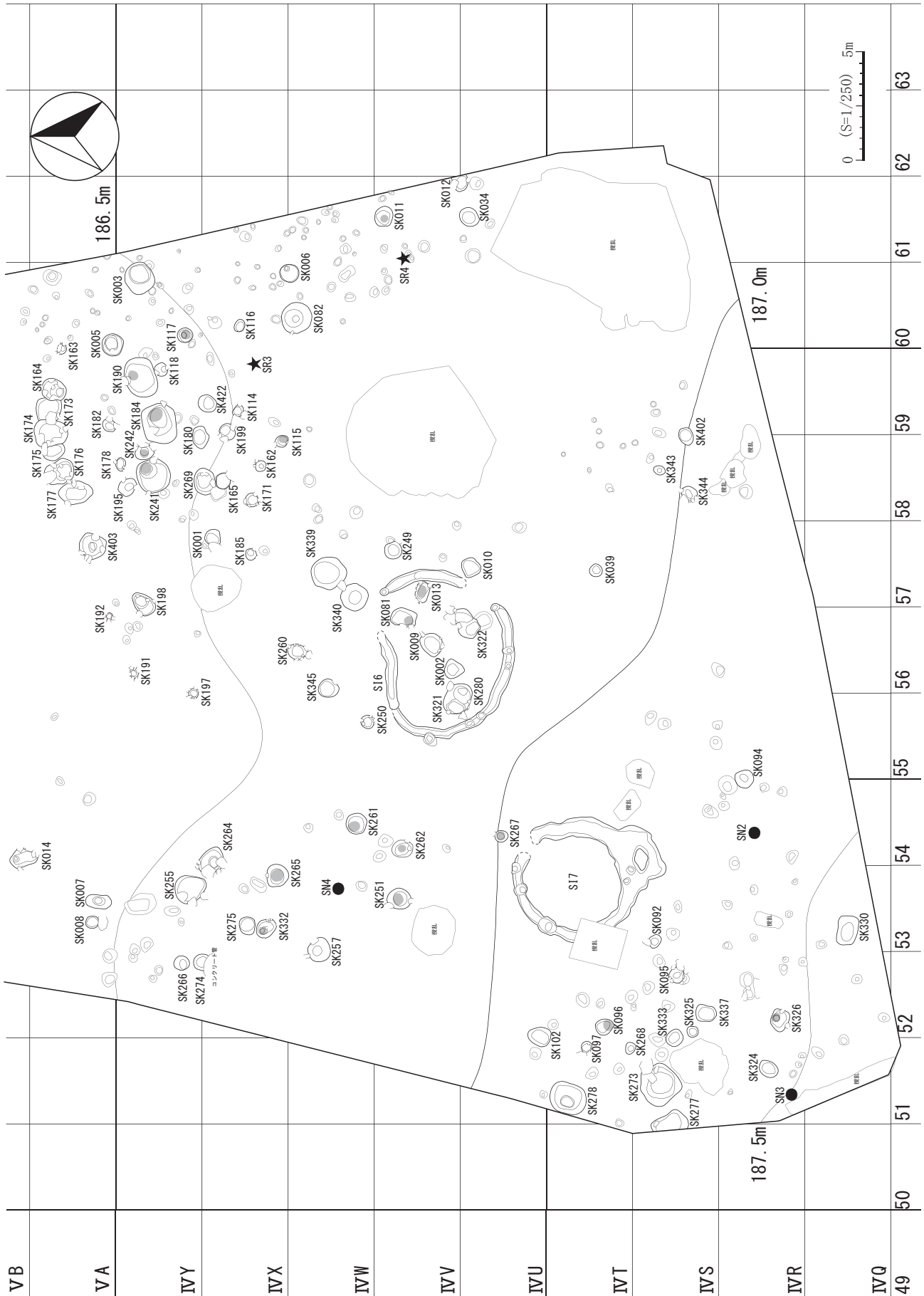


図14 南区環状外遺構配置図

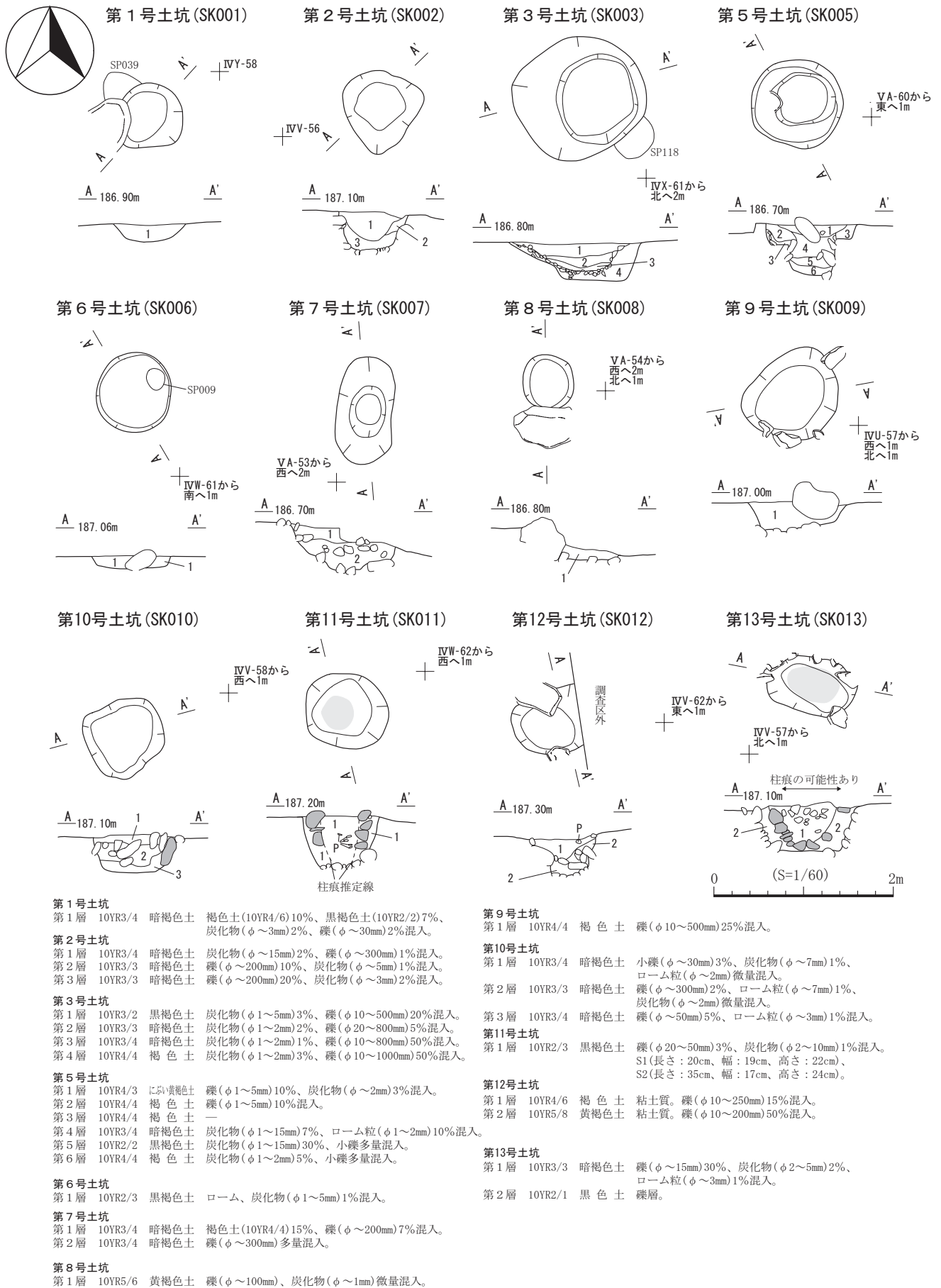


図15 南区環状外土坑(1)(SK001,002,003,005,006,007,008,009,010,011,012,013)

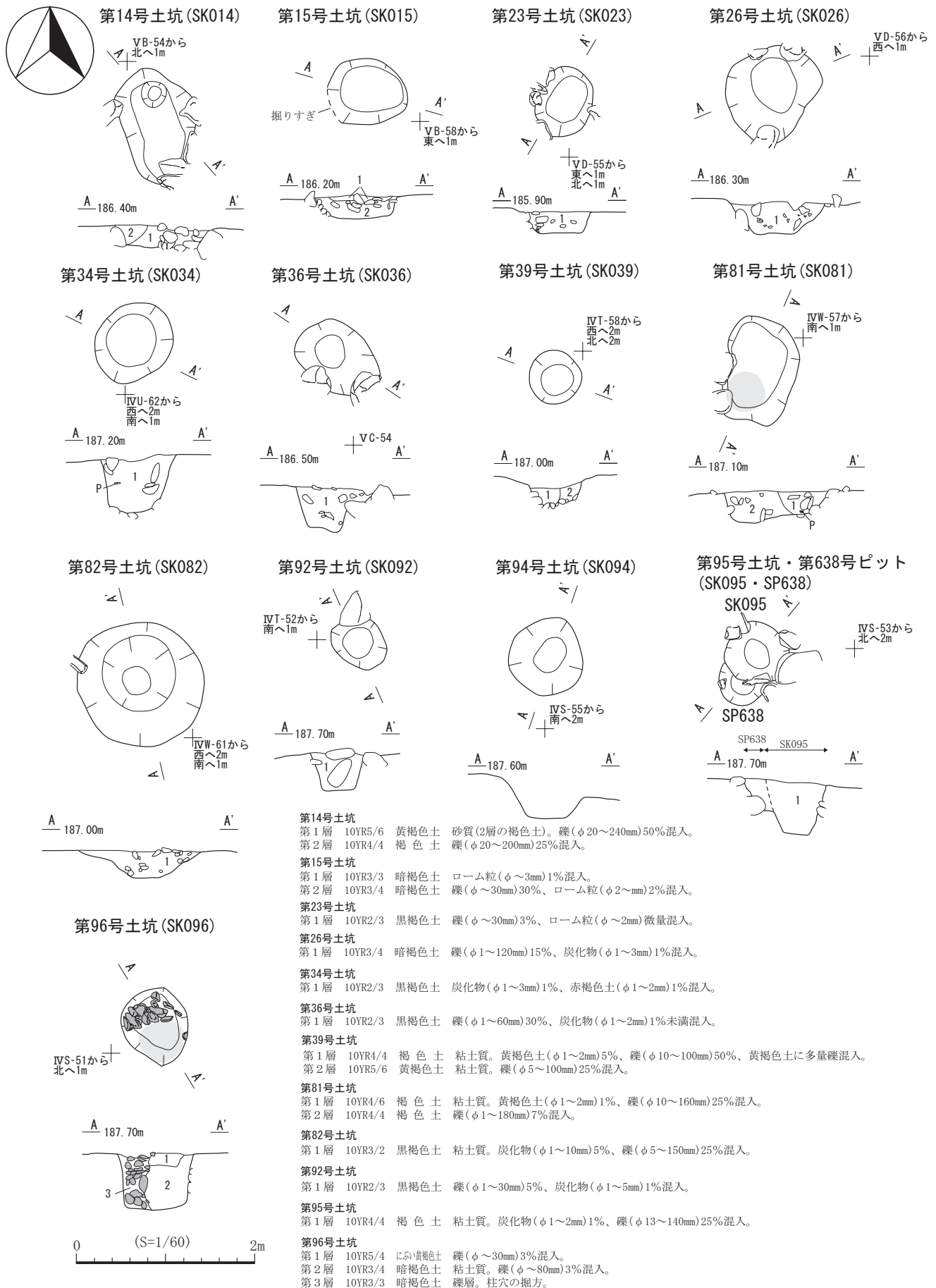
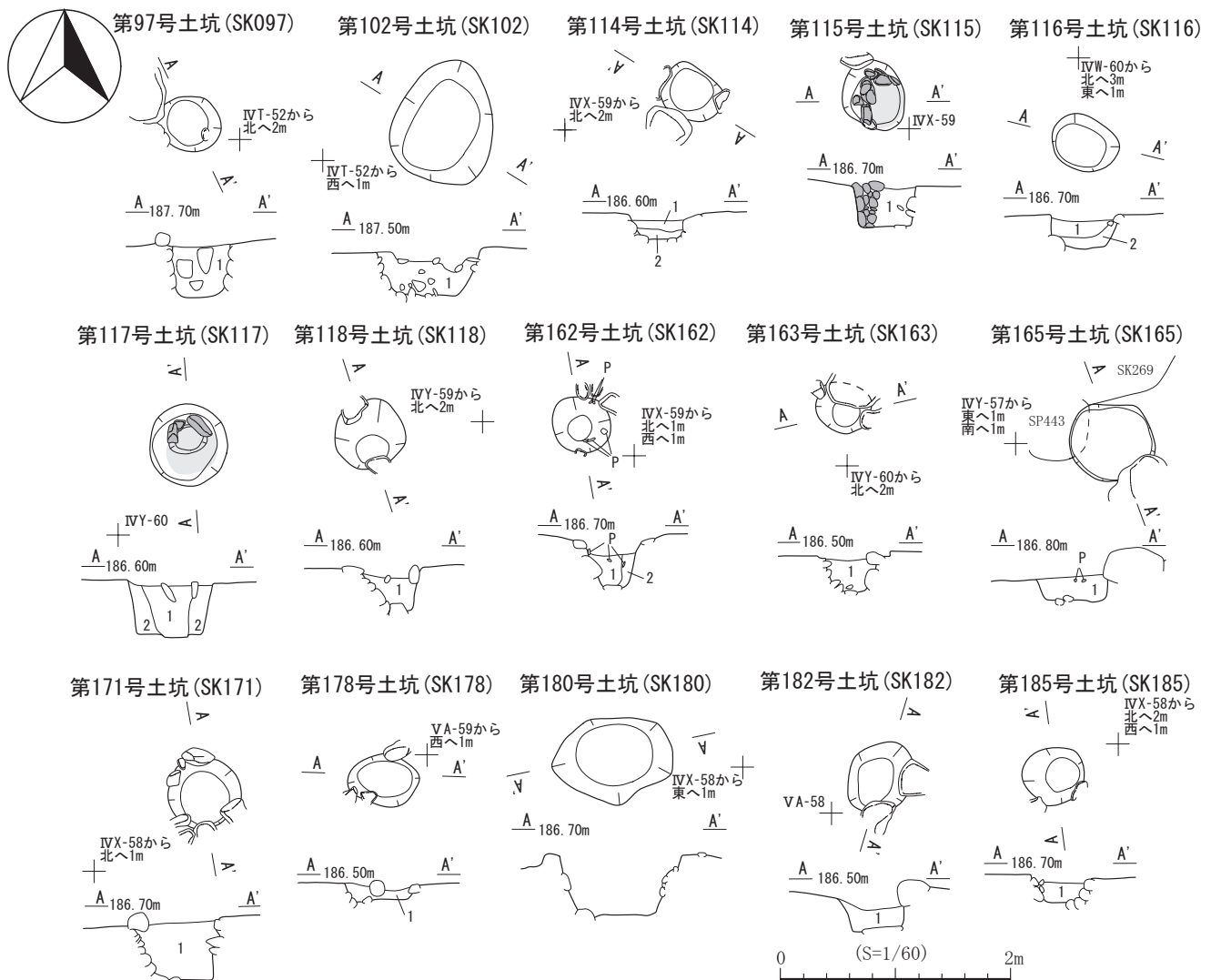
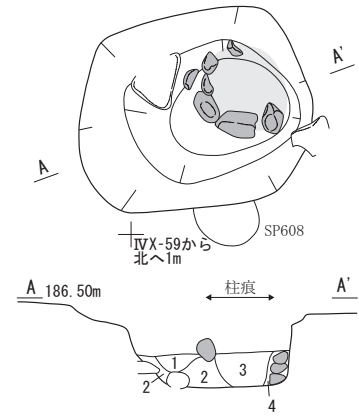


図16 南区環状外土坑(2) (SK014, 015, 023, 026, 034, 036, 039, 081, 082, 092, 094, 095, 096, SP638)



第184号土坑 (SK184)



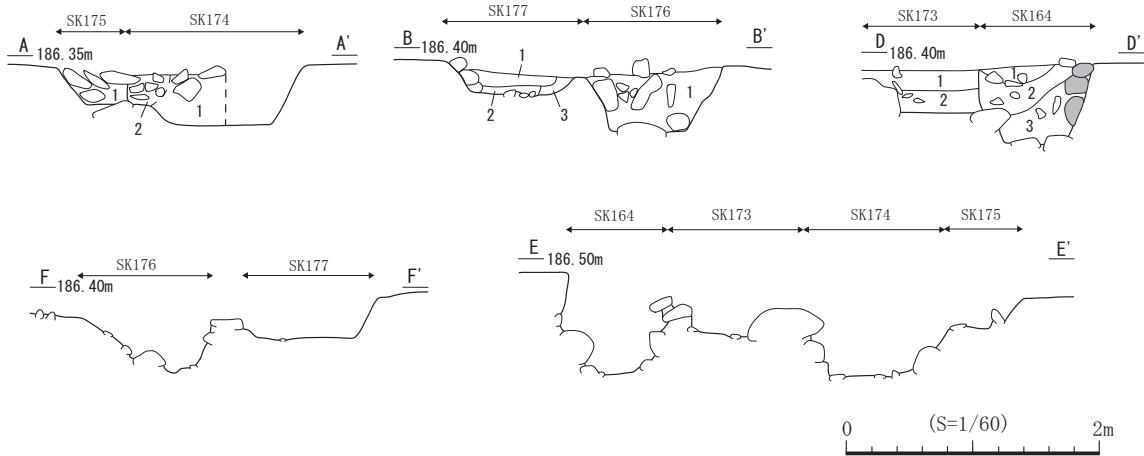
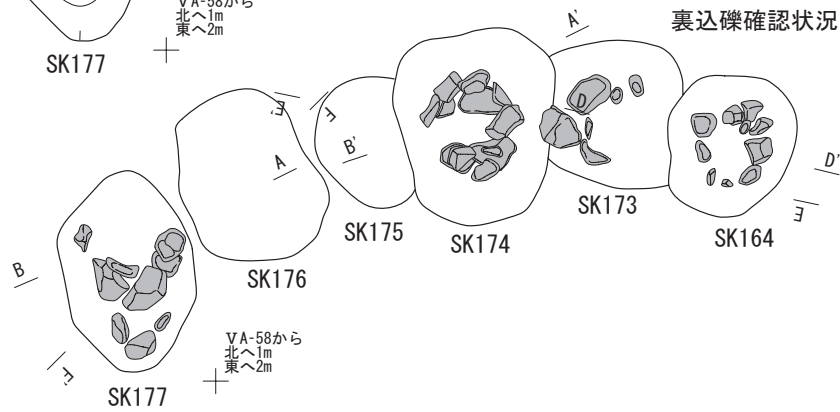
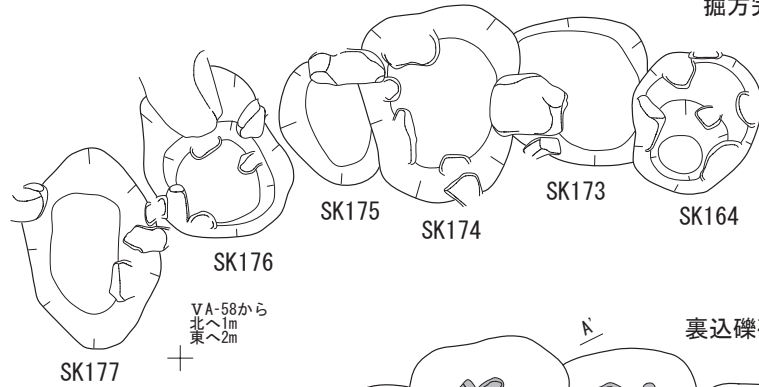
第97号土坑
第1層 10YR4/6 褐色土 礫(φ~300mm以下)30%混入。右壁掘方?
第102号土坑
第1層 10YR5/6 黄褐色土 礫(φ~150mm以下)40%混入。
第114号土坑
第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~50mm)10%混入。
第2層 10YR4/6 褐色土 礫(φ4~150mm)25%混入。

第115号土坑
第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~260mm)25%、酸化鉄(φ5~20mm)3%混入。
第116号土坑
第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ3~10mm)5%、浮石(φ1~3mm)2%混入。
第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ20~80mm)40%混入。
第117号土坑
第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ20~40mm)3%、炭化物(φ3~5mm)3%、浮石(φ1~3mm)2%混入。
第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ20~40mm)10%、炭化物(φ2~4mm)3%、浮石(φ1~3mm)1%混入。
第118号土坑
第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ2~4mm)2%、浮石(φ1mm)1%混入。
第162号土坑
第1層 10YR2/3 黒褐色土 部分的に砂質。浮石(φ1mm)3%、炭化物(φ2~3mm)1%混入。
第2層 10YR3/4 暗褐色土 部分的に砂質。礫(φ3~6mm)5%混入。
第163号土坑
第1層 10YR3/4 暗褐色土 砂質。礫(φ2~180mm)3%、炭化物(φ1~11mm)3%、浮石(φ1~2mm)1%混入。
第165号土坑
第1層 10YR2/2 黒褐色土 砂質。炭化物(φ3~7mm)5%、浮石(φ2~3mm)2%、礫(φ5~60mm)5%。
第171号土坑
第1層 10YR3/4 暗褐色土 砂質。礫(φ3~40mm)10%、浮石(φ1~2mm)混入。
第178号土坑
第1層 10YR3/4 暗褐色土 砂質。礫(φ2~160mm)3%、炭化物(φ1~3mm)2%、浮石(φ1~7mm)1%混入。
第182号土坑
第1層 10YR3/4 暗褐色土 砂質。礫(φ2~370mm)10%混入。下層に下るに従って徐々に礫層に漸移する。
第184号土坑
第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物(φ5~7mm)5%、浮石(φ1~2mm)3%、礫(φ10~20mm)2%混入。
第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ30~50mm)7%混入。
第3層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ5~8mm)5%、浮石(φ1~3mm)3%混入。
第4層 10YR4/4 褐色土 礫(φ20~30mm)10%混入。
第185号土坑
第1層 10YR4/4 褐色土 やや砂質。礫(φ5~30mm)5%、炭化物(φ1~2mm)2%、浮石(φ1~2mm)2%混入。

図17 南区環状外土坑 (3) (SK097, 102, 114, 115, 116, 117, 118, 162, 163, 165, 171, 178, 180, 182, 184, 185)



第164・173・174・175・176・177号土坑(SK164・173・174・175・176・177)
掘方完掘



第164号土坑

- 第1層 10YR4/4 褐色土 粘土質。炭化物(φ2~3mm)1%、礫(φ90~120mm)10%混入。
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 粘土質。炭化物(φ3~10mm)1%、黄褐色土(φ2~5mm)1%、礫(φ15~160mm)5%混入。
- 第3層 10YR4/3 黄褐色土 粘土質。炭化物(φ2~3mm)1%、黄褐色土(φ2~3mm)1%、礫(φ50~160mm)7%混入。

第173号土坑

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 粘土質。炭化物(φ2~3mm)1%、黄褐色土(φ3~5mm)1%、礫(φ10~40mm)3%混入。
- 第2層 10YR3/2 黒褐色土 粘土質。炭化物(φ2~4mm)1%、黄褐色土(φ2~3mm)1%、礫(φ10~80mm)7%混入。

第174号土坑

- 第1層 10YR3/2 黒褐色土 粘土質。炭化物(φ5~10mm)1%、黄褐色土(φ2~5mm)1%、礫(φ150~250mm)5%混入。
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 粘土質。黄褐色土(φ5~10mm)1%、礫(φ40~150mm)7%混入。

第175号土坑

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 粘土質。炭化物(φ1~2mm)1%、黄褐色土(φ2~7mm)1%、礫(φ40~300mm)5%混入。

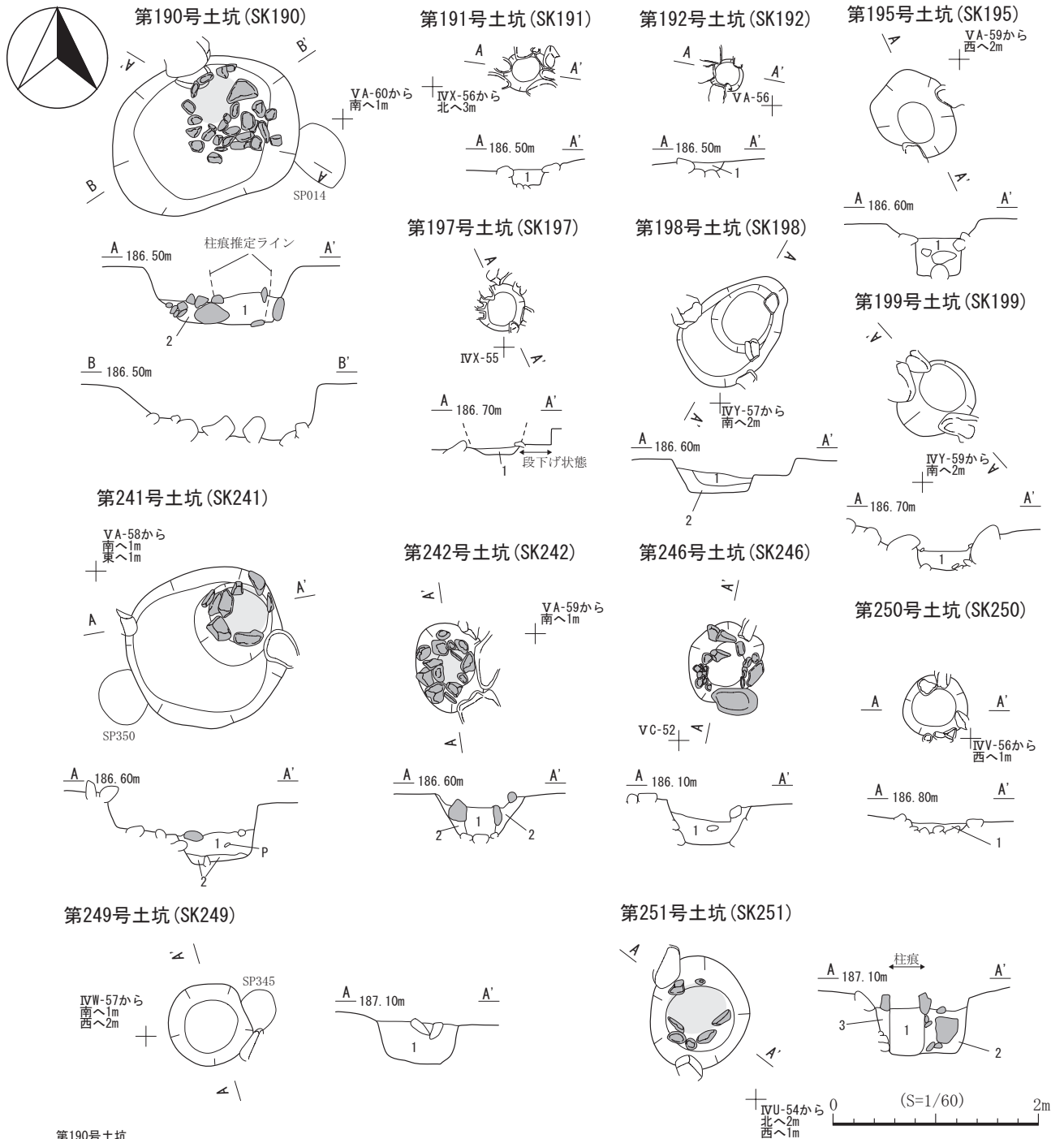
第176号土坑

- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ2~6mm)3%、浮石(φ1~3mm)5%混入。

第177号土坑

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ1~3mm)2%、浮石(φ1~2mm)2%混入。
- 第2層 10YR4/6 褐色土 礫(φ50~150mm)15%混入。
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~50mm)7%、浮石(φ1~2mm)2%混入。

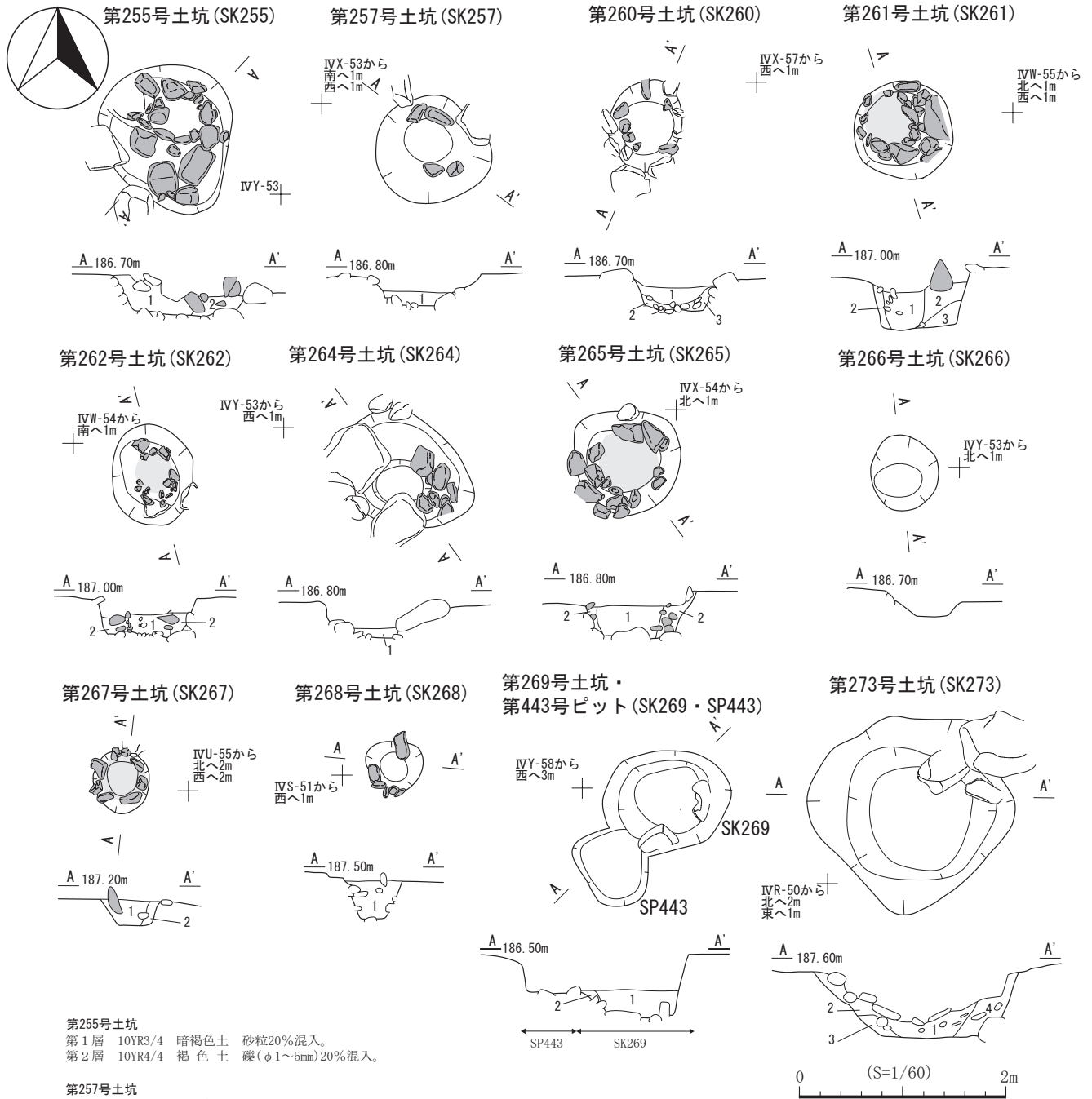
図18 南区環状外土坑(4)(SK164,173,174,175,176,177)



- 第190号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ1~5mm)5%混入。
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ1~2mm)20%、炭化物(φ1~2mm)2%混入。
- 第191号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ2~4mm)3%、礫(φ5~20mm)2%混入。
- 第192号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土(φ1~2mm)5%、炭化物(φ2~10mm)5%、礫(φ2~150mm)25%混入。
- 第195号土坑**
 第1層 10YR3/2 暗褐色土 礫(φ3~50mm)20%、炭化物(φ1~3mm)1%、浮石(φ1~2mm)3%混入。下層に進むほど礫層へ漸移する。
- 第197号土坑**
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 粘土質。炭化物(φ1~2mm)1%、礫(φ15~20mm)1%混入。
- 第198号土坑**
 第1層 2.5R4/3 オリーブ褐色土 礫(φ10~30mm)5%、炭化物(φ2~3mm)2%混入。
 第2層 10YR4/6 褐色土 砂質。礫(φ10~50mm)7%、炭化物(φ2~5mm)2%混入。
- 第199号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘土質。礫(φ15~70mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。

- 第241号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ1~2mm)4%混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土(10YR2/3)2%、礫(φ10~40mm)5%混入。
- 第242号土坑**
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物(φ1~3mm)2%、浮石(φ1mm)1%混入。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 地山礫層へ漸移する。裏込部分。
- 第246号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~80mm)5%、炭化物(φ3~5mm)1%混入。
- 第249号土坑**
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ1~4mm)3%混入。褐色土含む。
- 第250号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ30~110mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。
- 第251号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ1~4mm)6%混入。
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 砂質。礫(φ5~50mm)15%混入。
 第3層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ2~3mm)1%混入。

図19 南区環状外土坑(5) (SK190, 191, 192, 195, 197, 198, 199, 241, 242, 246, 249, 250, 251)



第255号土坑
 第1層 10VR3/4 暗褐色土 砂粒20%混入。
 第2層 10VR4/4 褐色土 礫(φ1~5mm)20%混入。

第257号土坑
 第1層 10VR2/3 黒褐色土 炭化物(φ1~3mm)1%混入。

第260号土坑
 第1層 10VR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1mm)2%、浮石(φ1~2mm)1%、赤褐色粒(φ3~4mm)3%混入。
 第2層 10VR4/4 褐色土 礫(φ50~100mm)30%混入。
 第3層 10VR4/6 褐色土 礫(φ5~10mm)10%混入。

第261号土坑
 第1層 10VR2/3 黒褐色土 炭化物(φ3~5mm)3%、浮石(φ1~3mm)1%。
 第2層 10VR3/2 黒褐色土 礫(φ6~70mm)炭化物(φ2~3mm)3%混入。
 第3層 10VR3/3 暗褐色土 礫(φ2~6mm)20%、炭化物(φ3~5mm)2%混入。

第262号土坑
 第1層 10VR2/3 黒褐色土 礫(φ20~70mm)7%、炭化物(φ2~4mm)2%混入。
 第2層 10VR3/3 暗褐色土 礫(φ4~70mm)20%、炭化物(φ2~3mm)2%混入。

第264号土坑
 第1層 10VR3/3 暗褐色土 褐色土(10VR4/4)2%、礫(φ10~30mm)混入。

第265号土坑
 第1層 10VR2/3 黒褐色土 炭化物(φ2~8mm)7%、炭化物多量混入。
 第2層 10VR2/2 黒褐色土 礫層。

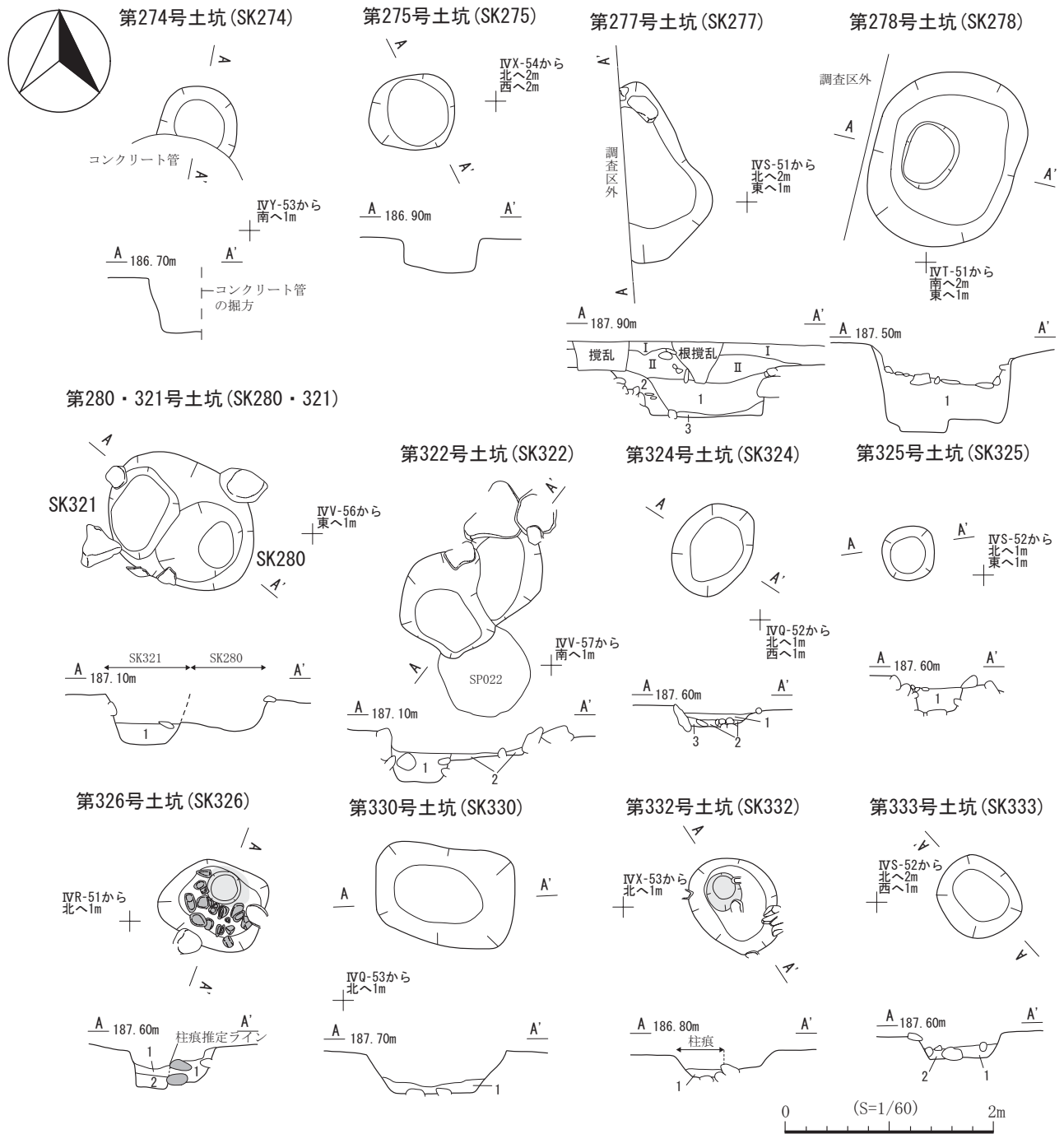
第267号土坑
 第1層 10VR2/3 黒褐色土 礫(φ20~40mm)7%、炭化物(φ1~2mm)2%、浮石(φ1~3mm)2%混入。
 第2層 10VR4/4 褐色土 礫(φ5~20mm)5%、炭化物(φ1~3mm)2%混入。

第268号土坑
 第1層 10VR3/3 暗褐色土 炭化物(φ3~5mm)2%、浮石(φ1~2mm)3%混入。

第269号土坑
 第1層 10VR2/3 黒褐色土 黒褐色土と暗褐色土(10VR3/3)の混合(底面と近いほど砂質強い、暗褐色へ漸移)、円礫(φ20~100mm)30%混入。
 第2層 10VR3/4 暗褐色土 砂質やや粘土質。円礫(φ10~65mm)40%混入。

第273号土坑
 第1層 10VR3/3 暗褐色土 褐色土(10VR4/6)3%、礫(φ5~80mm)30%、炭化物(φ1~5mm)1%混入。
 第2層 10VR3/4 暗褐色土 礫(φ1~15mm)3%、炭化物(φ1~5mm)1%、黄褐色ローム(φ1~6mm)1%混入。しまりがある。
 第3層 10VR3/4 暗褐色土 礫(φ5~40mm)50%混入。
 第4層 10VR4/6 褐色土 礫(φ5~40mm)7%、炭化物(φ1~4mm)1%混入。

図20 南区環状外土坑(6)(SK255,257,260,261,262,264,265,266,267,268,269,273,SP443)



第277号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ2~3mm)5%、浮石(φ1~2mm)1%混入。
 第2層 10YR4/4 褐色土 浮石(φ1~2mm)2%混入。
 第3層 10YR4/4 褐色土 礫(φ30~60mm)7%混入。

第278号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 砂質。礫(φ20~100mm)20%混入。
 砂質土の混入は、1層中~下に集中。

第321号土坑

第1層 10YR4/4 褐色土 礫(φ30~50mm)5%、炭化物(φ3~5mm)3%混入。

第322号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 にぶい黄褐色土(10YR5/3)2%、礫(φ10~80mm)10%、炭化物(φ1~5mm)1%混入。
 第2層 10YR4/6 褐色土 礫(φ10~30mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。

第324号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~2mm)1%、浮石(φ1~2mm)1%混入。
 第2層 10YR4/6 褐色土 礫(φ1~8mm)10%混入。
 第3層 10YR5/6 黄褐色土 礫(φ1~10mm)50%混入。

第325号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ2~3mm)1%混入。

第326号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~10mm)3%混入。
 第2層 10YR4/6 褐色土 礫(φ30~50mm)20%混入。

第330号土坑

第1層 10YR4/4 褐色土 礫(φ5~60mm)15%混入。

第332号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(1~4mm)10%混入。

第333号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ8~60mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。
 第2層 10YR4/6 褐色土 礫(φ10~30mm)5%混入。

図21 南区環状外土坑(7) (SK274, 275, 277, 278, 280, 321, 322, 324, 325, 326, 330, 332, 333)

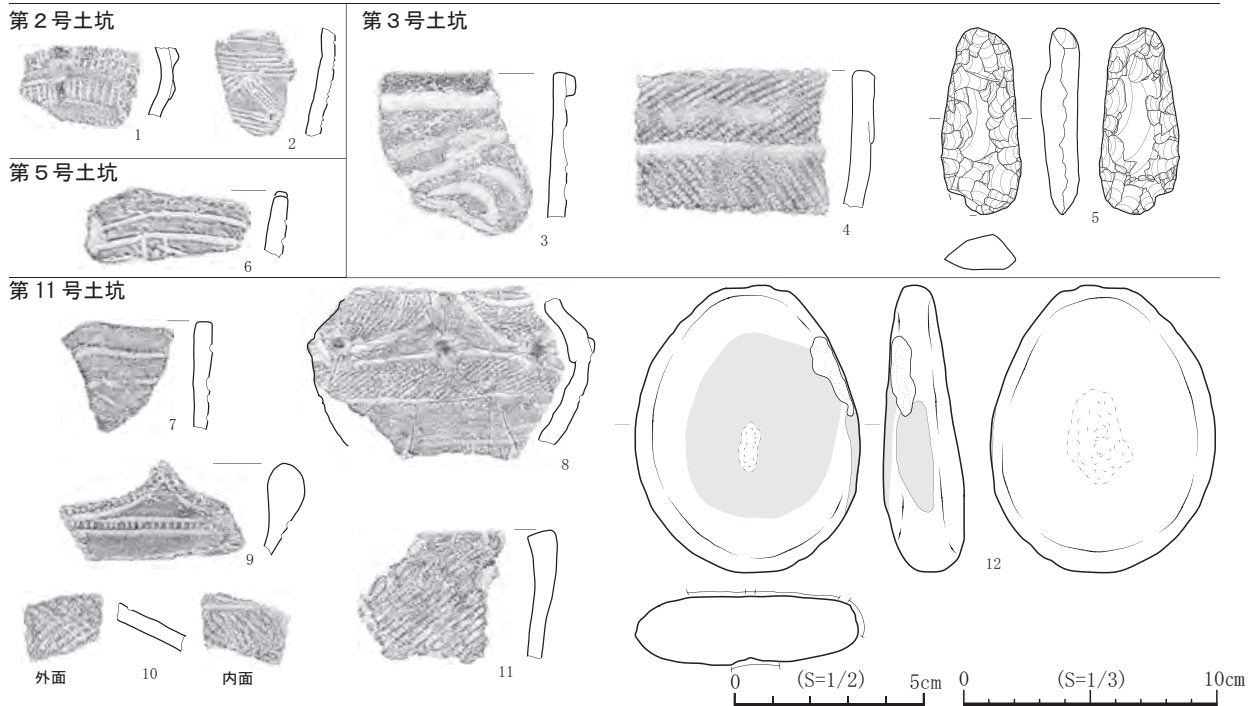
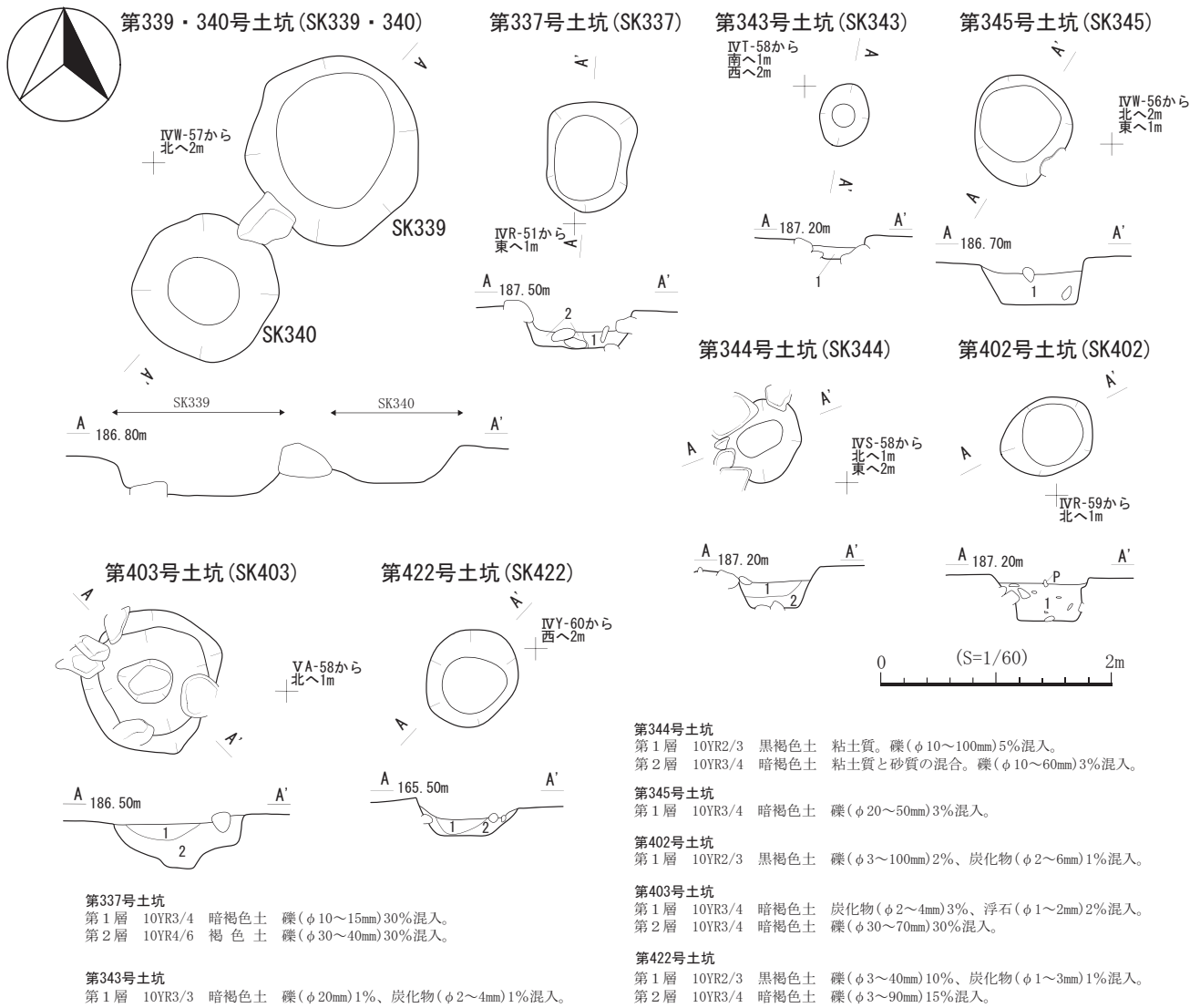


図22 南区環状外土坑(8)(SK337,339,340,343,344,345,402,403,422)
南区環状外土坑出土遺物(1)(SK002,003,005,011)



图23 南区環状外土坑出土遺物 (2)

(SK034, 036, 081, 082, 092, 094, 095, 114, 115, 162, 164, 173, 175, 176, 177, 178, 180, 184)

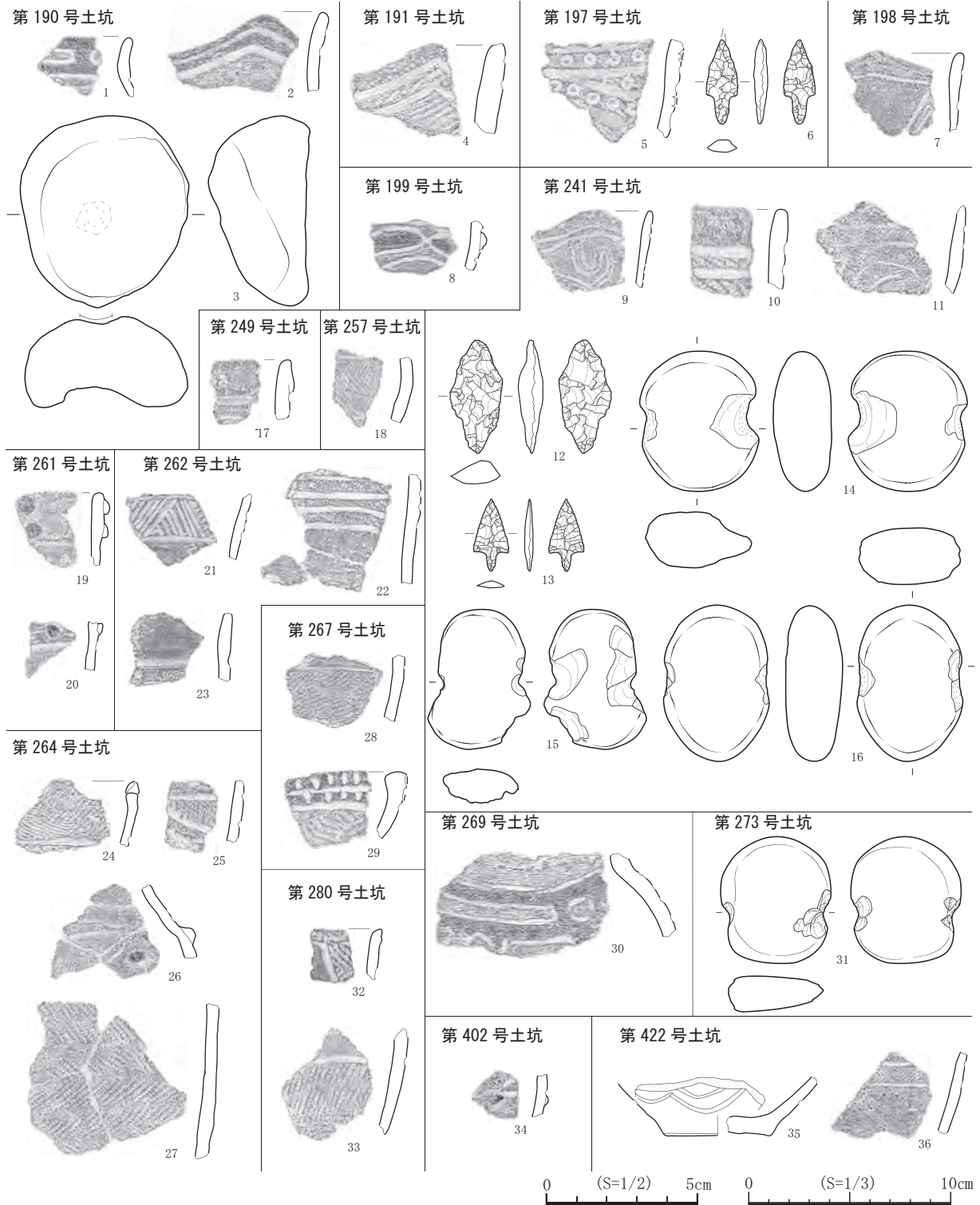


图24 南区環状外土坑出土遺物 (3)

(SK190, 191, 197, 198, 199, 241, 249, 257, 261, 262, 264, 267, 269, 273, 280, 402, 422)

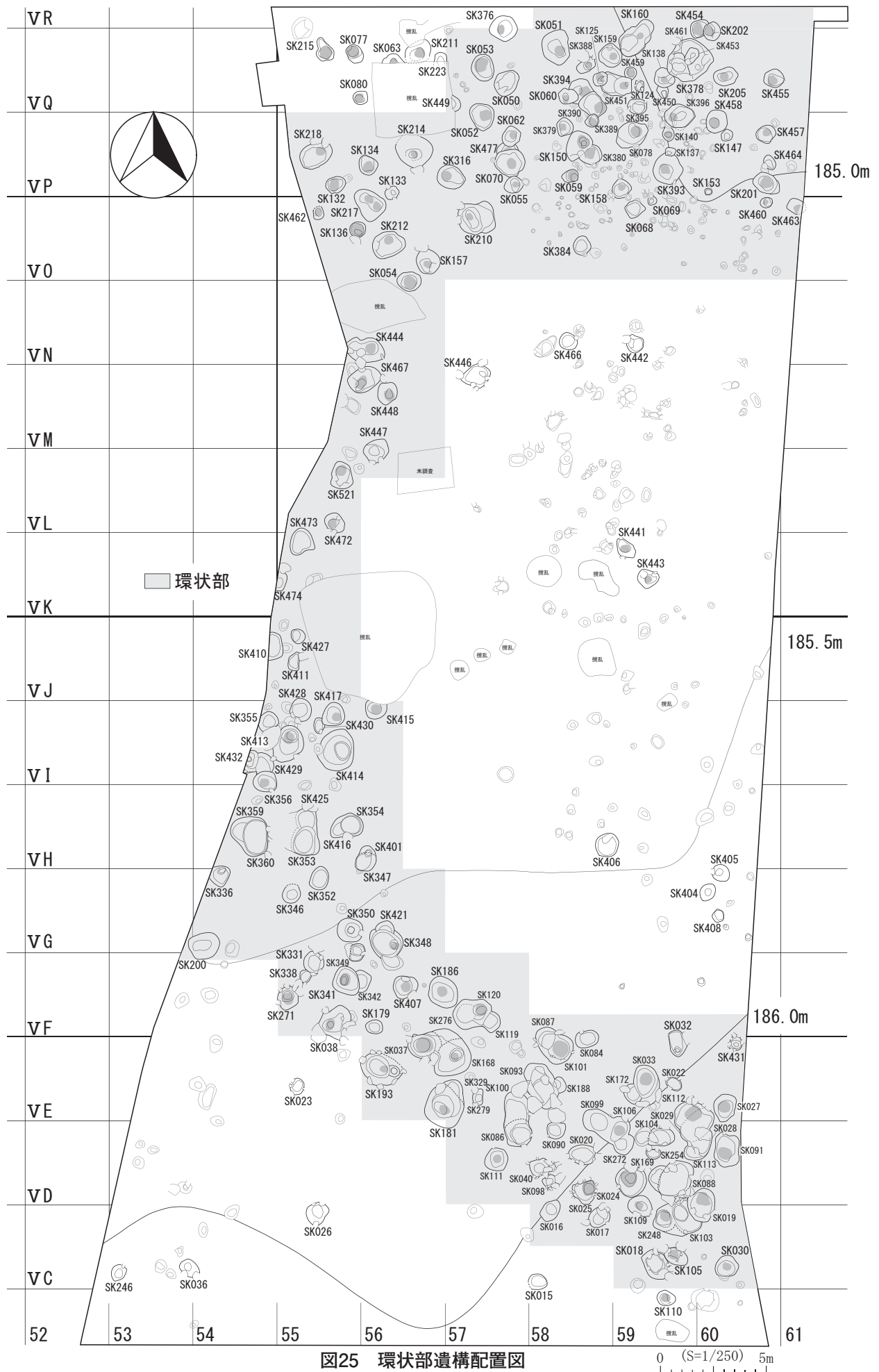
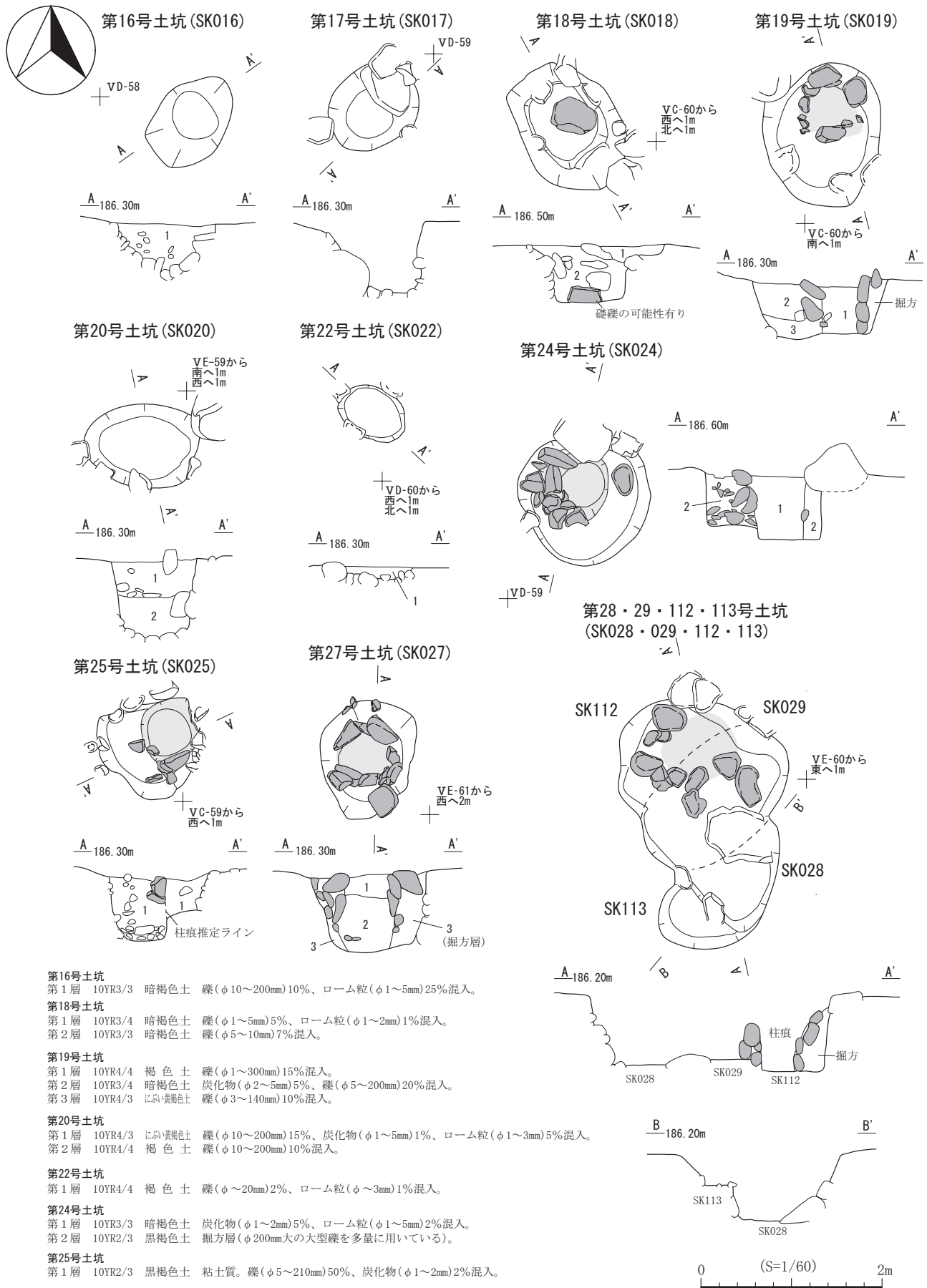
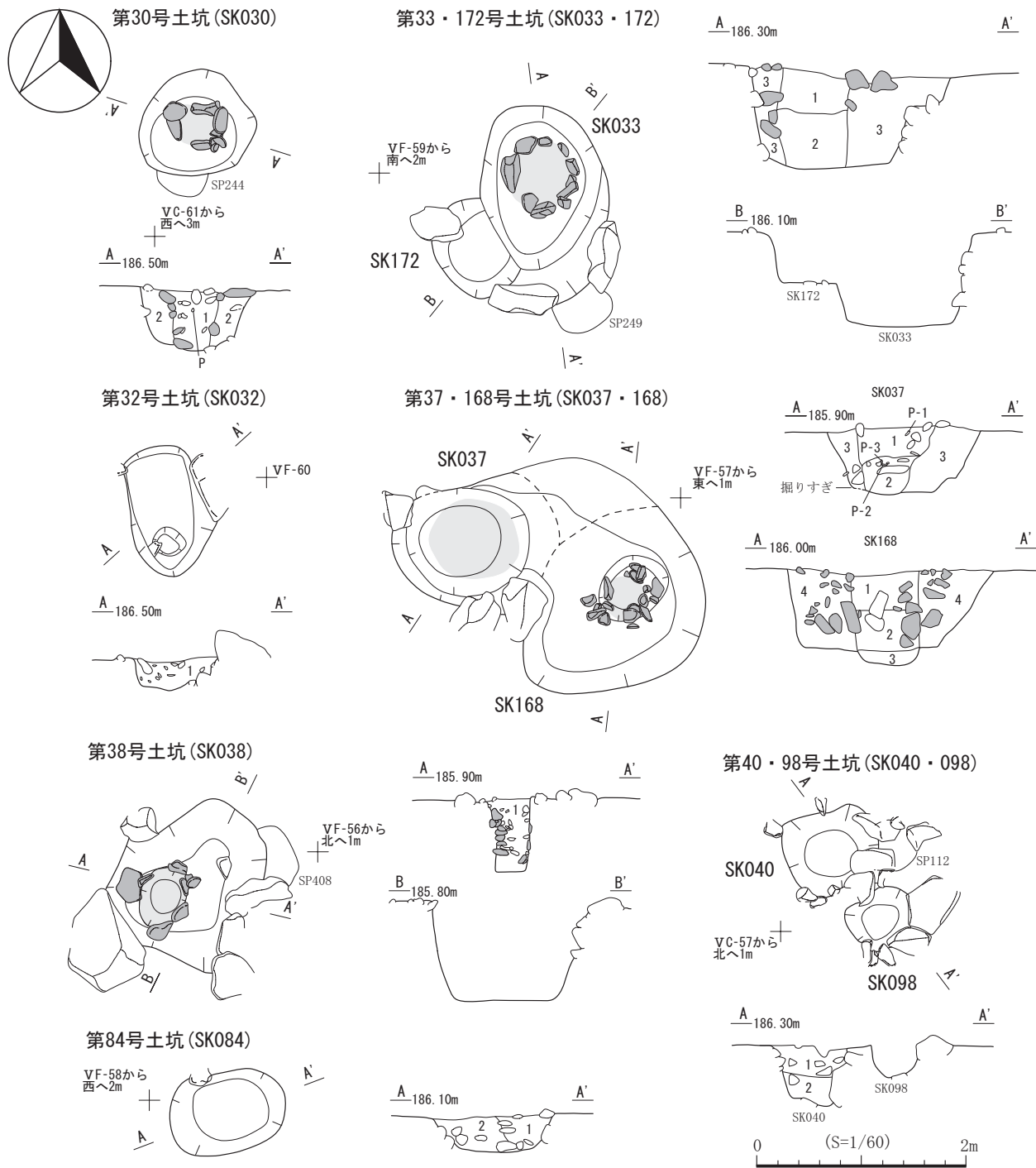


図25 環状部遺構配置図



- 第16号土坑**
第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ10~200mm)10%、ローム粒(φ1~5mm)25%混入。
- 第18号土坑**
第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ1~5mm)5%、ローム粒(φ1~2mm)1%混入。
第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ5~10mm)7%混入。
- 第19号土坑**
第1層 10YR4/4 褐色土 礫(φ1~300mm)15%混入。
第2層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ2~5mm)5%、礫(φ5~200mm)20%混入。
第3層 10YR4/3 濃い黄褐色土 礫(φ3~140mm)10%混入。
- 第20号土坑**
第1層 10YR4/3 濃い黄褐色土 礫(φ10~200mm)15%、炭化物(φ1~5mm)1%、ローム粒(φ1~3mm)5%混入。
第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ10~200mm)10%混入。
- 第22号土坑**
第1層 10YR4/4 褐色土 礫(φ~20mm)2%、ローム粒(φ~3mm)1%混入。
- 第24号土坑**
第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ1~2mm)5%、ローム粒(φ1~5mm)2%混入。
第2層 10YR2/3 黒褐色土 掘方層(φ200mm大の大型礫を多量に用いている)。
- 第25号土坑**
第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘土質。礫(φ5~210mm)50%、炭化物(φ1~2mm)2%混入。
- 第27号土坑**
第1層 10YR5/4 濃い黄褐色土 礫(φ~150mm以下)10%、炭化物(φ~10mm)1%、壁面部礫(φ~30mm)20%混入。
第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ~150mm以下)5%、壁面部礫(φ~400mm)30%混入。
第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~300mm)25%混入。掘方層。

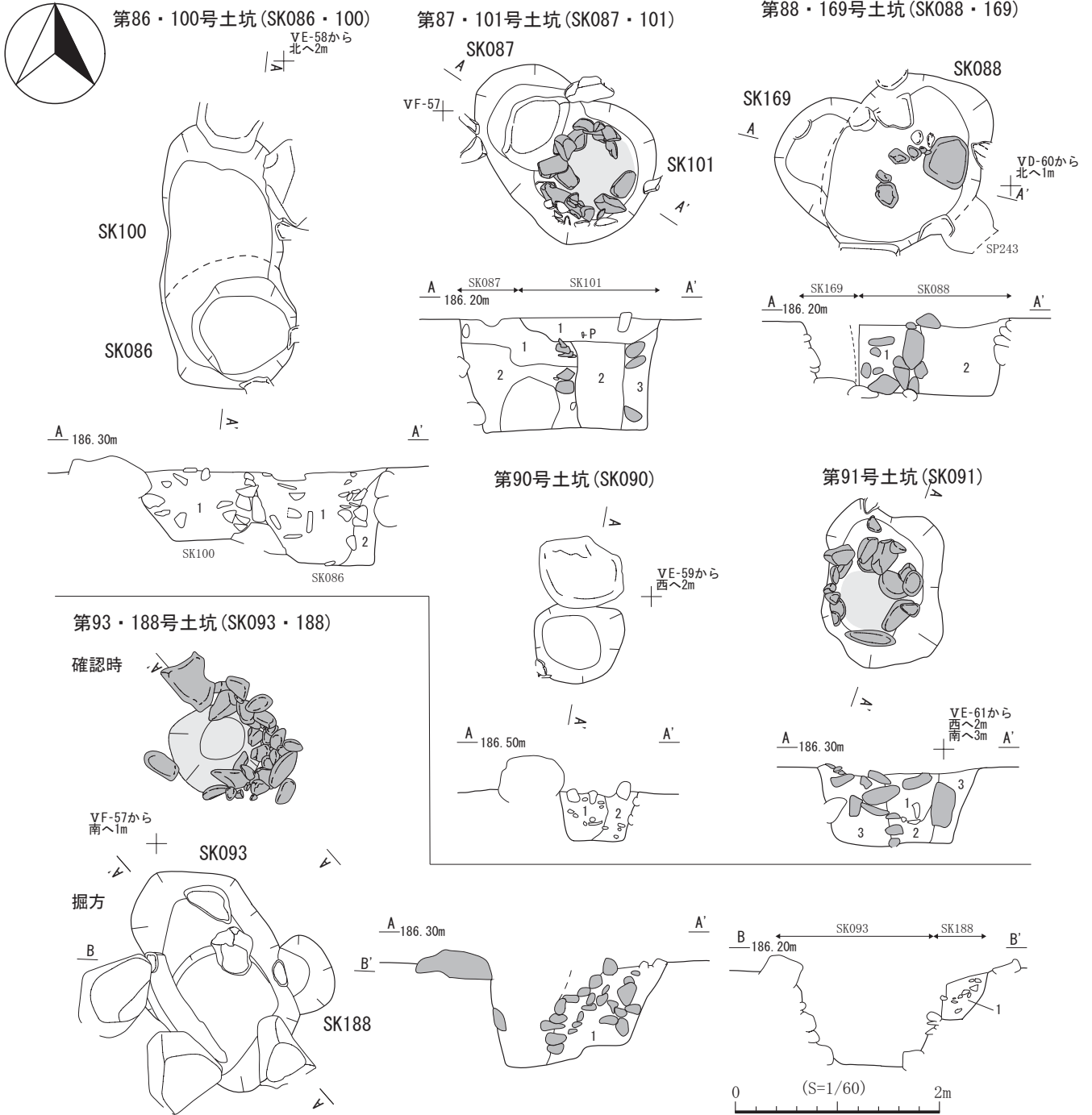
図26 環状部南側土坑 (1) (SK016, 017, 018, 019, 020, 022, 024, 025, 027, 028, 029, 112, 113)



- 第30号土坑**
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 粘土質。礫(φ10~160mm)25%、炭化物(φ1~3mm)2%混入。
 第2層 10YR4/4 褐色土 掘方土層(φ20mm大の礫密集層、裏込に大型礫はほとんど使用していない)。
- 第32号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ1~5mm)20%、炭化物(φ1~6mm)1%混入。
- 第33号土坑**
 第1層 10YR3/2 黒褐色土 中礫(φ50~100mm)25%、炭化物(φ1~3mm)2%混入。
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 小礫(φ10mm大)の混入が上層より多い。
 第3層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ100~140mm)30%、炭化物(φ5~10mm)1%混入。
- 第37号土坑**
 第1層 10YR4/4 褐色土 粘土質。礫(φ1~180mm)7%混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 粘土質。礫(φ1~330mm)25%混入。
 第3層 10YR4/6 褐色土 炭化物(φ1~2mm)1%、礫(φ5~300mm)50%混入。
- 第168号土坑**
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 粘土質。炭化物(φ3~10mm)1%、礫(φ30~200mm)10%混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 粘土質。炭化物(φ2~5mm)1%、礫(φ50~230mm)20%混入。
 第3層 10YR4/3 黒褐色土 粘土質。炭化物(φ5~10mm)1%、礫(φ20~120mm)5%混入。
 第4層 10YR4/4 褐色土 礫多量、掘方層。

- 第38号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 粘土質。礫(φ1~150mm)20%混入。
- 第40号土坑**
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 粘土質。炭化物(φ1~2mm)1%、礫(φ2~140mm)2%混入。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 粘土質。礫(φ2~90mm)1%混入。
- 第84号土坑**
 第1層 10YR5/4 黒褐色土 礫(φ~250mm以下)30%混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ~150mm以下)30%混入。

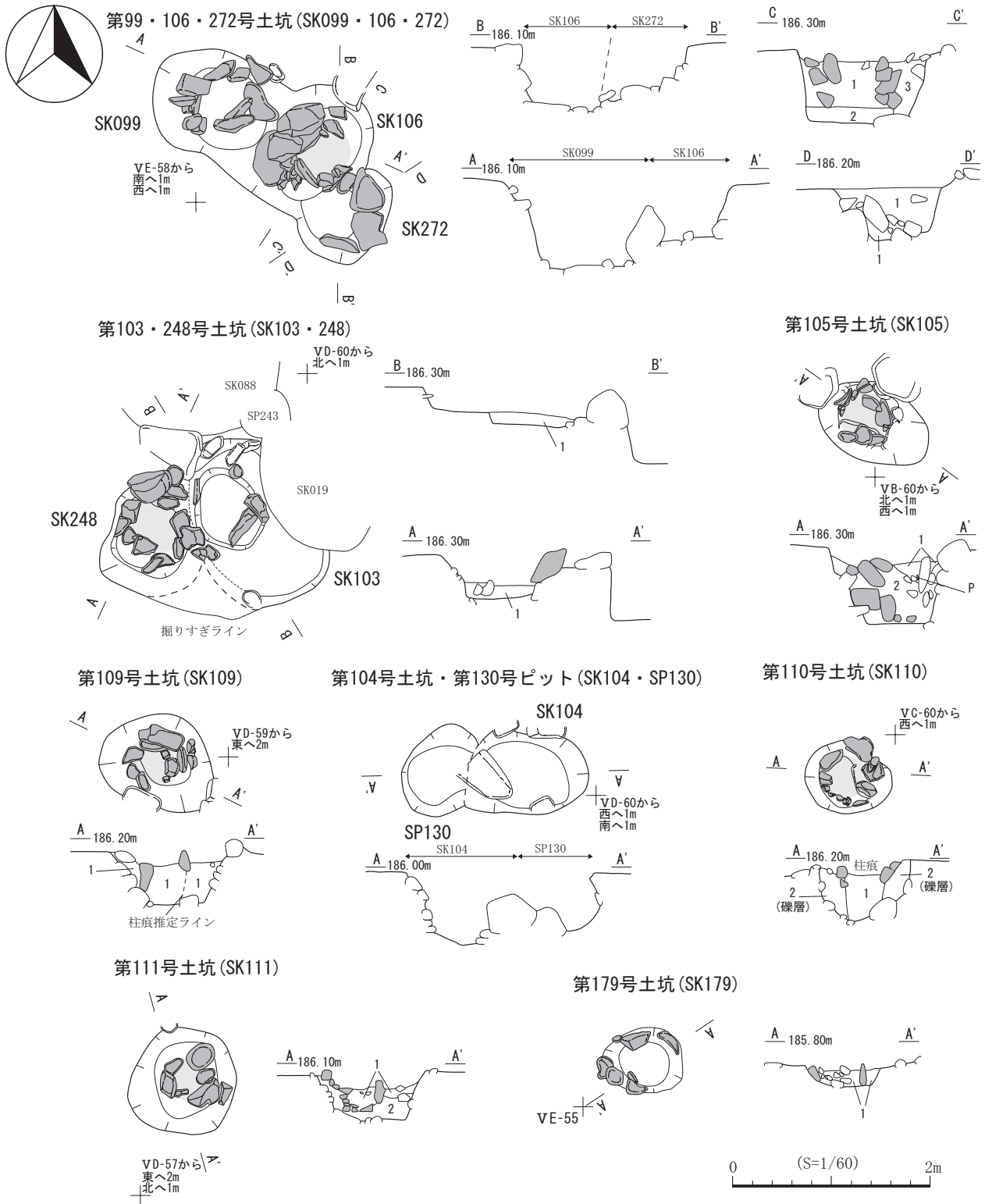
図27 環状部南側土坑(2) (SK030,032,033,037,038,040,084,098,168,172)



- 第86号土坑**
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 粘土質。炭化物(φ1~2mm)1%、礫(φ30~300mm)15%混入。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 粘土質。炭化物(φ1~2mm)1%、礫(φ60~200mm)25%混入。
- 第100号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘土質。黄褐色土(φ1~2mm)1%、礫(φ40~220mm)15%混入。
- 第87号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ1~110mm)30%混入。小石が多い。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ1~30mm)1%混入。
- 第101号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ1~110mm)30%混入。小石が多い。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ1~30mm)1%混入。
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫多量、掘方層。
- 第88号土坑**
 第1層 10YR4/6 褐色土 粘土質。礫(φ20~400mm)50%混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 粘土質。礫(φ15~200mm)10%混入。
- 第90号土坑**
 第1層 10YR4/4 褐色土 礫(φ~250mm以下)30%、炭化物粒(φ~20mm以下)1%混入。
 第2層 10YR5/4 灰黄褐色土 礫(φ~200mm以下)10%、炭化物粒(φ~20mm以下)1%混入。

- 第91号土坑**
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 粘土質。炭化物(φ2~10mm)3%、礫(φ50~300mm)25%混入。
 第2層 10YR3/2 黒褐色土 粘土質。炭化物(φ1~2mm)1%、礫(φ40~150mm)3%混入。
 第3層 10YR4/4 褐色土 粘土質。礫(φ5~350mm)50%、巨大礫がランダムに混在。
- 第93号土坑**
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ1~2mm)2%、礫(φ100~410mm)40%混入。
- 第188号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘土質。礫(φ20~100mm)50%混入。

図28 環状部南側土坑(3) (SK086, 087, 088, 090, 091, 093, 100, 101, 169, 188)



第106号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘土質。炭化物(φ2~10mm)、礫(φ10~220mm)10%混入。
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 粘土質。炭化物(φ4~20mm)、礫(φ10~300mm)15%混入。
 第3層 10YR4/4 褐色土 礫(φ30~200mm)40%混入。掘方層。

第272号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ20~120mm)7%、炭化物(φ2~3mm)2%混入。

第103号土坑

第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ2~4mm)、浮石(φ1~8mm)7%混入。

第248号土坑

第1層 10YR4/3 にお漬艶土 粘土質。礫(φ20~110mm)10%、炭化物(φ2~3mm)1%混入。

第105号土坑

第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ5~380mm)10%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。
 第2層 10YR4/3 にお漬艶土 礫(φ5~400mm)25%、炭化物(φ1~10mm)10%混入。

第109号土坑

第1層 10YR3/2 黒褐色土 炭化物(φ1~2mm)1%、礫(φ7~260mm)50%混入。

第110号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ6~170mm)50%混入。
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 掘方、礫層。

第111号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ1~5mm)1%、明褐色土(φ1~10mm)1%混入。
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 掘方、礫層。

第179号土坑

第1層 10YR4/3 にお漬艶土 礫(φ5~200mm)50%混入。

図29 環状部南側土坑(4) (SK099, 103, 104, 105, 106, 109, 110, 111, 179, 272, 248, SP130)

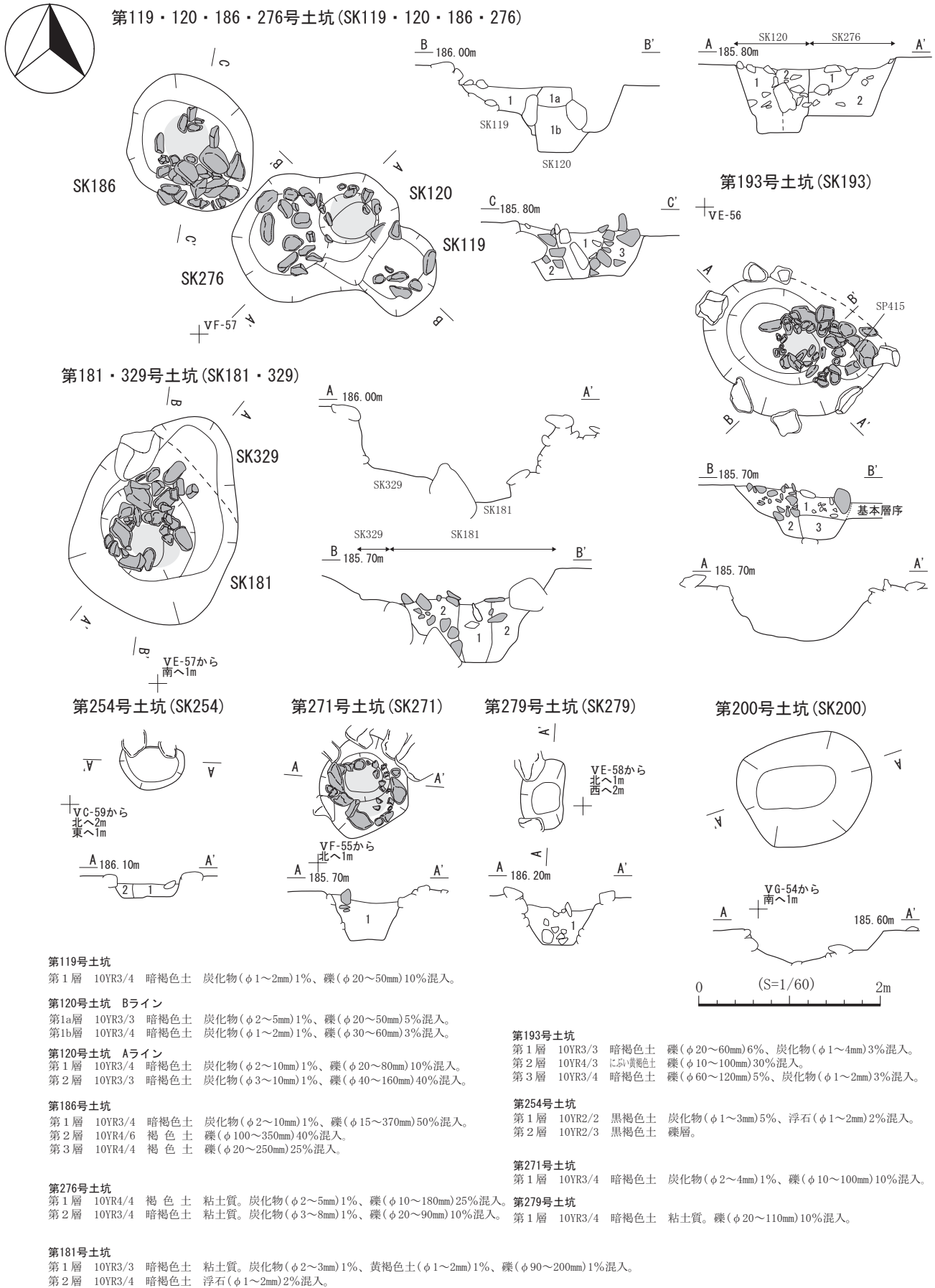
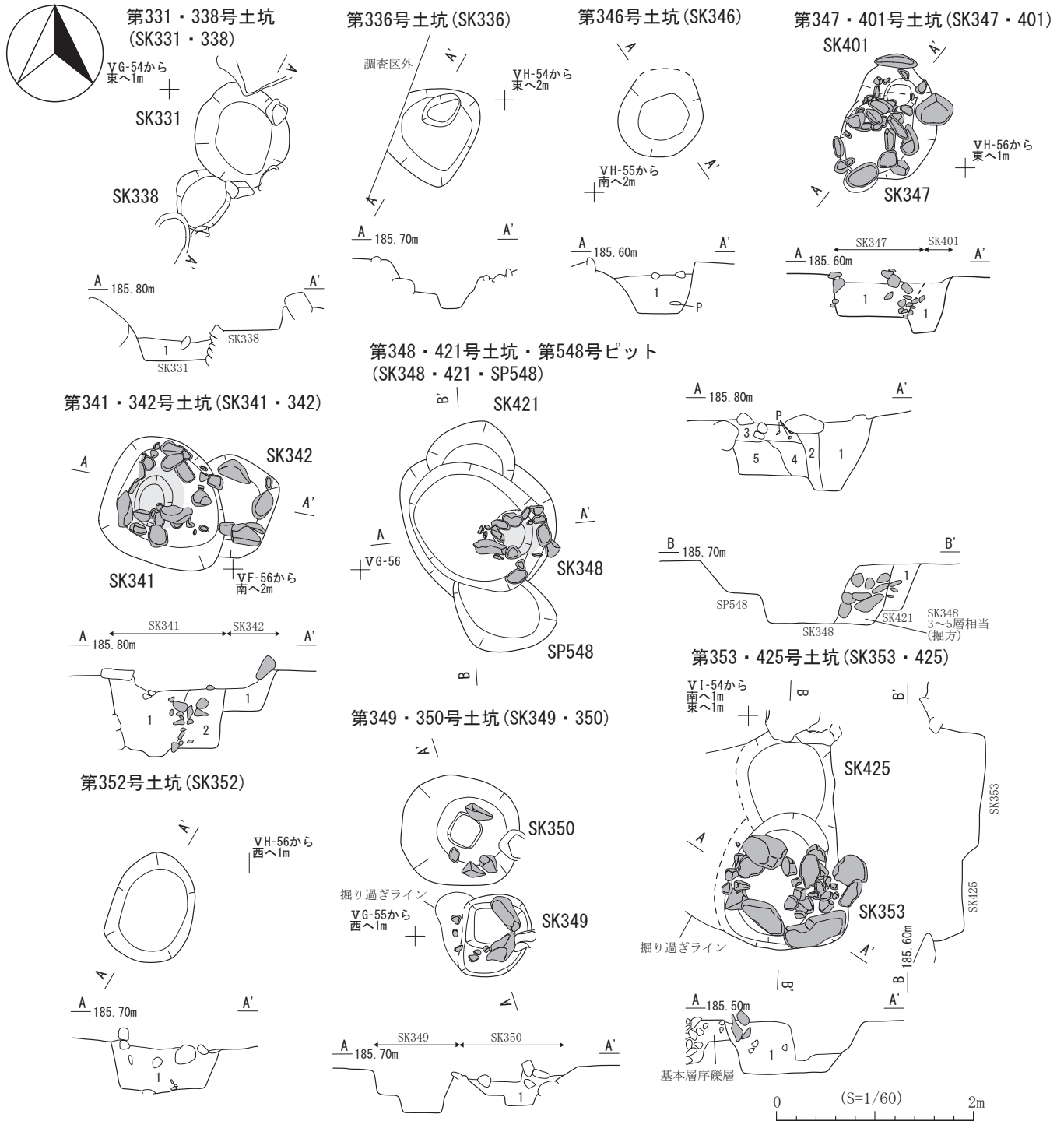


図30 環状部南側土坑 (5) (SK119, 120, 181, 186, 193, 200, 254, 271, 276, 279, 329)



第331号土坑
第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ2~4mm)3%、浮石(φ1~2mm)2%混入。

第341号土坑
第1層 10YR2/2 黒褐色土 礫(φ10~60mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。
第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ10~80mm)5%、炭化物(φ1~3mm)1%混入。
第1層より第2層の方が礫が多い。

第342号土坑
第1層 10YR4/6 褐色土 礫(φ30~40mm)30%混入。

第346号土坑
第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~20mm)5%、炭化物(φ2~5mm)3%混入。

第347号土坑
第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ5~50mm)7%、炭化物(φ1~3mm)2%混入。

第401号土坑
第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ1~4mm)3%、浮石(φ1~2mm)2%混入。

第348号土坑
第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ10~100mm)5%、炭化物(φ1~3mm)5%混入。
第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ10~25mm)7%、炭化物(φ1~3mm)3%混入。
第3層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ2~3mm)2%、浮石(φ1mm)1%混入。
第4層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ3~5mm)5%混入。
第5層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~20mm)3%、炭化物(φ2~3mm)3%混入。

第421号土坑
第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ3~100mm)7%、炭化物(φ2~10mm)2%混入。

第350号土坑
第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~20mm)5%、炭化物(φ1~4mm)2%混入。

第352号土坑
第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~40mm)10%、炭化物(φ1~5mm)5%混入。

第353号土坑
第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ20~160mm)5%、炭化物(φ3~10mm)1%混入。

図31 環状部南側土坑(6)

(SK331, 336, 338, 341, 342, 346, 347, 348, 349, 350, 352, 353, 401, 421, 425, SP548)

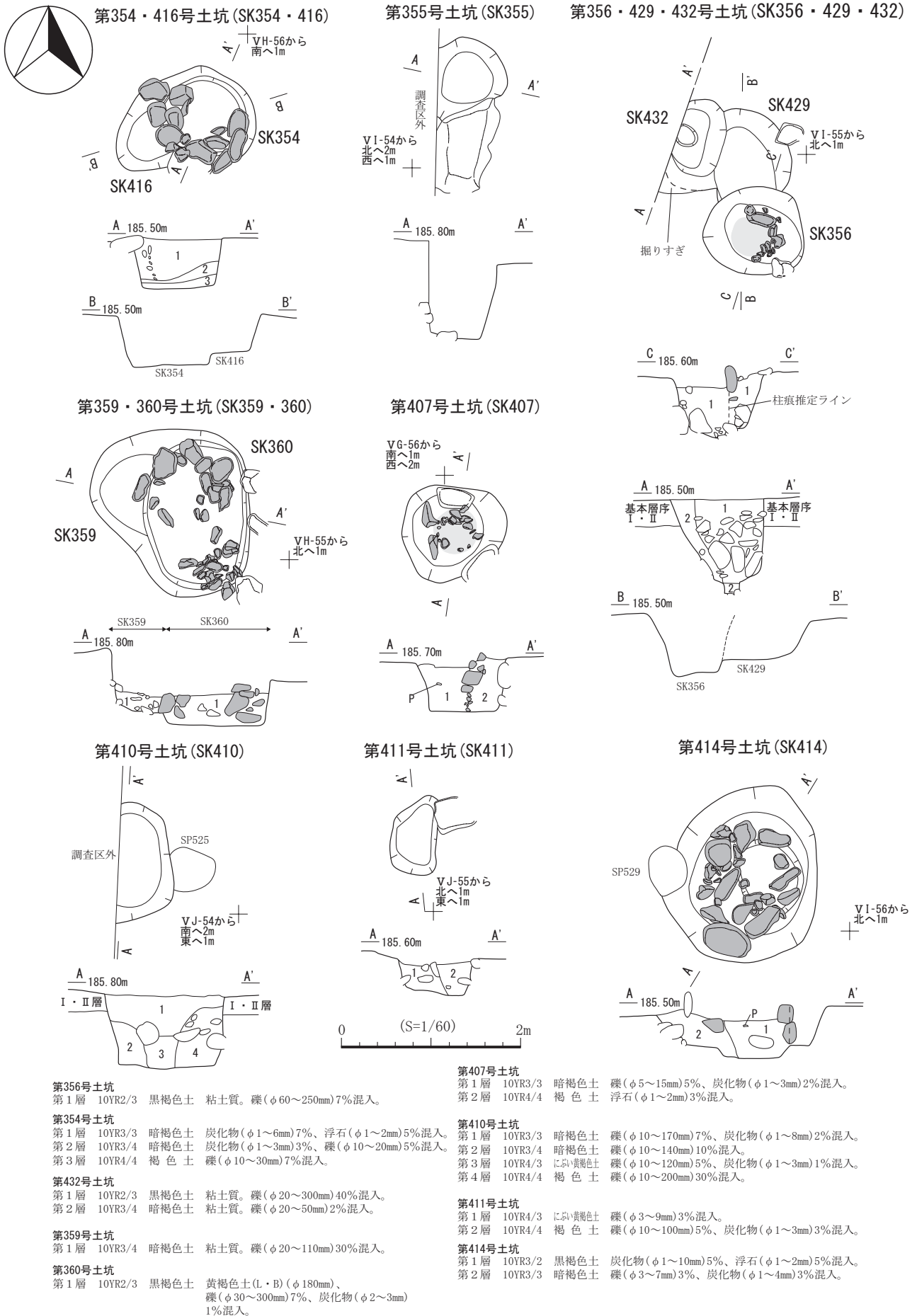
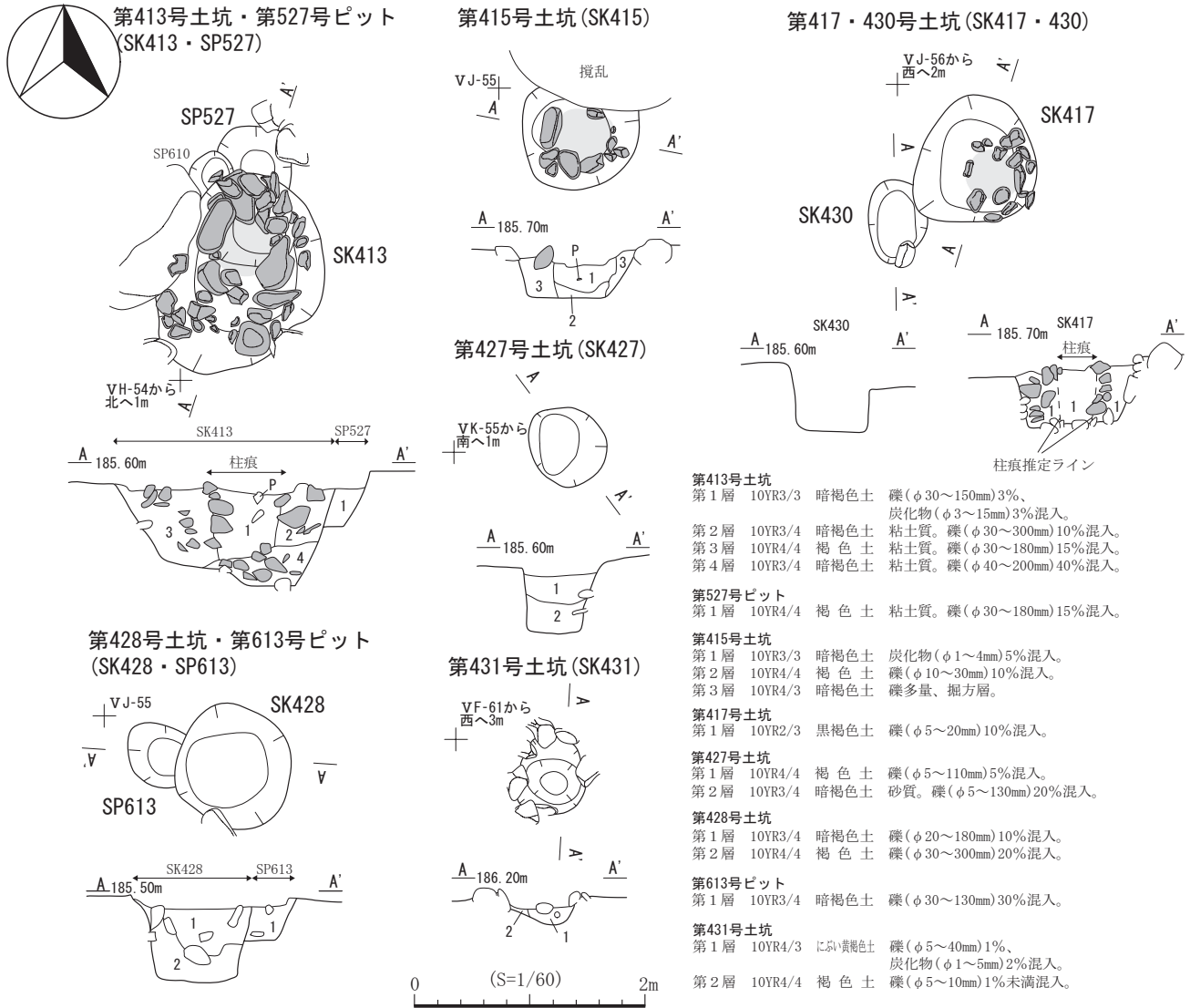


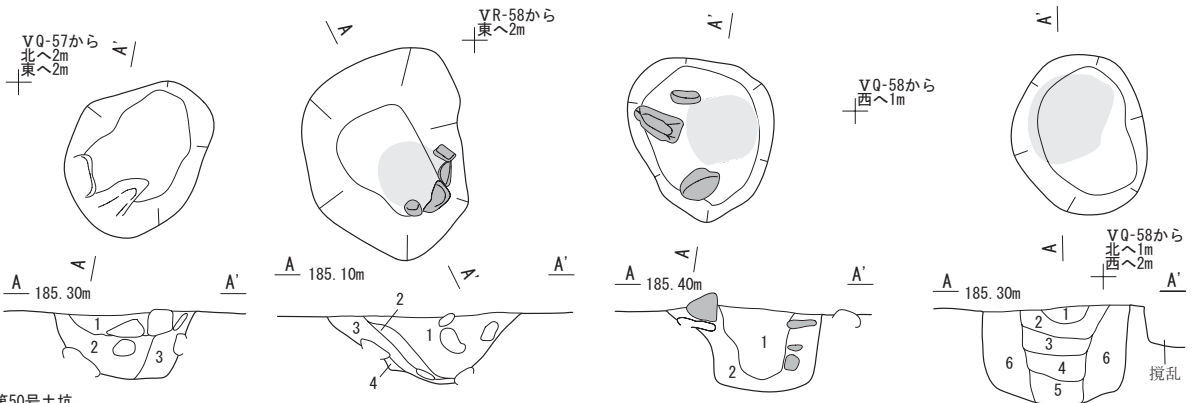
図32 環状部南側土坑(7) (SK354, 355, 356, 359, 360, 407, 410, 411, 414, 416, 429, 432)



- 第413号土坑**
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ30~150mm)3%、炭化物(φ3~15mm)3%混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 粘土質。礫(φ30~300mm)10%混入。
 第3層 10YR4/4 褐色土 粘土質。礫(φ30~180mm)15%混入。
 第4層 10YR3/4 暗褐色土 粘土質。礫(φ40~200mm)40%混入。
- 第527号ピット**
 第1層 10YR4/4 褐色土 粘土質。礫(φ30~180mm)15%混入。
- 第415号土坑**
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ1~4mm)5%混入。
 第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ10~30mm)10%混入。
 第3層 10YR4/3 暗褐色土 礫多量、掘方層。
- 第417号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ5~20mm)10%混入。
- 第427号土坑**
 第1層 10YR4/4 褐色土 礫(φ5~110mm)5%混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 砂質。礫(φ5~130mm)20%混入。
- 第428号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ20~180mm)10%混入。
 第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ30~300mm)20%混入。
- 第613号ピット**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ30~130mm)30%混入。
- 第431号土坑**
 第1層 10YR4/3 黄褐色土 礫(φ5~40mm)1%、炭化物(φ1~5mm)2%混入。
 第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ5~10mm)1%未満混入。

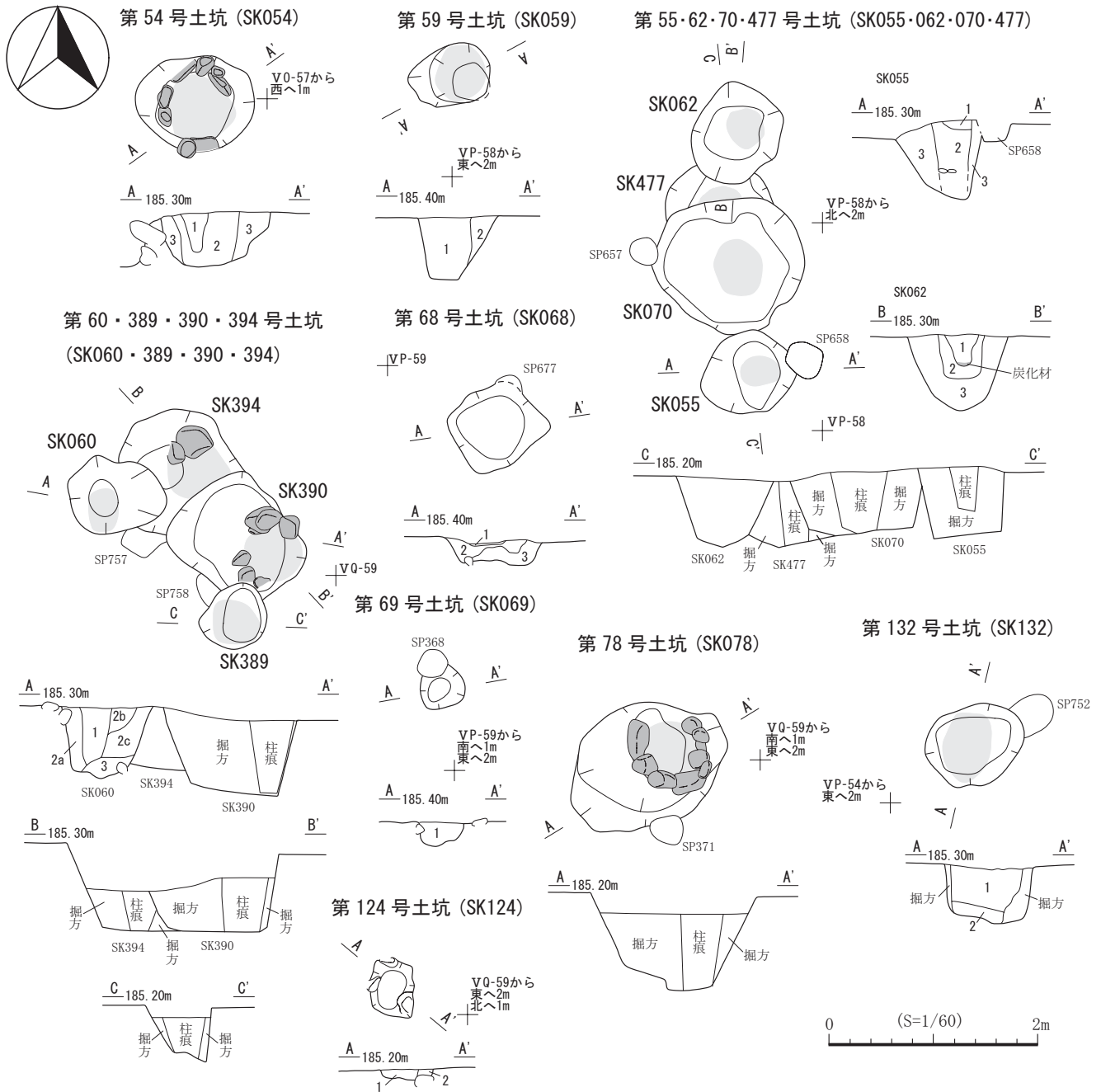
環状部北側

- 第50号土坑 (SK050) 第51号土坑 (SK051) 第52号土坑 (SK052) 第53号土坑 (SK053)



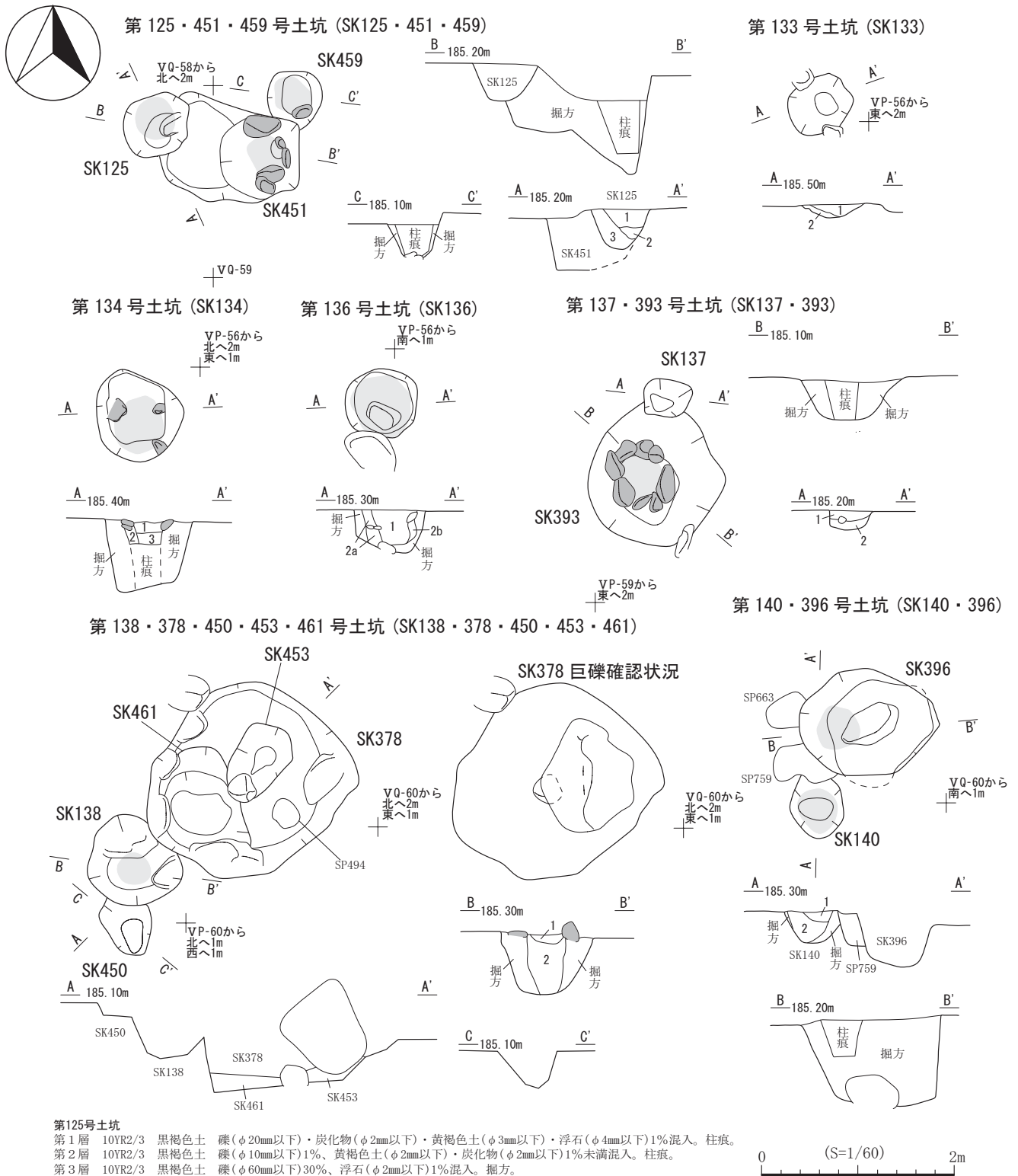
- 第50号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 砂質。礫(φ50mm以下)2%、黄褐色土(φ2mm以下)1%混入。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 砂質。礫(φ50mm以下)40%、黄褐色土(φ2mm以下)1%混入。
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 砂質。黄褐色土(φ3mm以下)2%混入。
- 第51号土坑**
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物(φ3mm以下)2%、黄褐色土(φ3mm以下)1%混入。柱痕。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土(φ3mm以下)1%、炭化物(φ2mm以下)1%未満混入。掘方。
 第3層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ150mm以下)25%、黄褐色土(φ3mm以下)1%混入。掘方。
 第4層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ30mm以下)2%混入。掘方。
- 第52号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ3mm以下)2%、黄褐色土(φ2mm以下)1%混入。柱痕。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ100mm以下)50%、黄褐色土(φ2mm以下)1%混入。柱痕。
- 第53号土坑**
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色土(φ2mm以下)・炭化物(φ2mm以下)1%混入。
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 礫(φ100mm以下)3%、黄褐色土(φ3mm以下)2%、炭化物(φ2mm以下)1%混入。
 第3層 10YR2/2 黒褐色土 礫(φ75mm以下)2%、黄褐色土(φ3mm以下)1%混入。
 第4層 10YR2/1 黒色土 礫(φ80mm以下)・炭化物(φ5mm以下)・黄褐色土(φ3mm以下)1%混入。
 第5層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ50mm以下)・黄褐色土(φ3mm以下)1%混入。
 ※1~5層は柱痕。
 第6層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ110mm以下)40%混入。掘方。

図33 環状部南側土坑(8) (SK413, 415, 417, 427, 428, 430, 431, SP527, 613)
 環状部北側土坑(1) (SK050, 051, 052, 053)



- 第54号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土(φ2mm以下)1%未満混入。柱痕。
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ40mm以下)15%、炭化物(φ10mm以下)1%、黄褐色土(φ3mm以下)1%未満混入。柱痕。
 第3層 10YR3/4暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土 砂質強い。掘方。
- 第59号土坑**
 第1層 10YR2/2黒褐色土と10YR3/4暗褐色土の混合土 礫(φ30mm以下)7%、黄褐色土(φ2mm以下)1%、炭化物(φ5mm以下)1%未満混入。柱痕。
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 掘方。
- 第55号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ3mm以下)1%、礫(φ20mm以下)・浮石(φ7mm以下)1%未満混入。柱痕。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ90mm以下)1%、炭化物(φ2mm以下)1%未満混入。柱痕。
 第3層 10YR3/3 暗褐色土 掘方。
- 第62号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ5~350mm)7%、炭化物(φ1~50mm)3%層下部に多く含まれる。柱痕。
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ5~110mm)30%、炭化物(φ1~10mm)3%、焼土(φ1~5mm)1%混入。柱痕。
 第3層 10YR3/4暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土 掘方。
- 第68号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ2mm以下)1%未満混入。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 小礫(φ40mm以下)3%、炭化物(φ2mm以下)1%未満混入。
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ40mm以下)5%、浮石(φ3mm以下)2%、炭化物(φ2mm以下)1%混入。
- 第69号土坑**
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ5~100mm)10%、炭化物・焼土(φ1~3mm)1%未満混入。
- 第124号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 浮石(φ30mm以下)・炭化物(φ2mm以下)2%混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10mm以下)2%、炭化物(φ3mm以下)・浮石(φ2mm以下)1%混入。
- 第132号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ60mm以下)7%、炭化物(φ7mm以下)3%、浮石(φ2mm以下)1%混入。柱痕。
 第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ40mm以下)2%、黄褐色土(φ4mm以下)1%未満混入。柱痕。
- 第78号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~50mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%混入。柱痕。
 第2a層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ10~150mm)50%混入。掘方。
 第2b層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ5~110mm)30%混入。掘方。
 第2c層 10YR4/4 褐色土 礫(φ5~100mm)15%、黄褐色土(φ1~2mm)1%混入。掘方。
 第3層 10YR4/3 赤褐色土 礫(φ5~80mm)10%混入。掘方。

図34 環状部北側土坑(2) (SK054, 055, 059, 060, 062, 068, 069, 070, 078, 124, 132, 389, 390, 394, 477)



第125号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ20mm以下)・炭化物(φ2mm以下)・黄褐色土(φ3mm以下)・浮石(φ4mm以下)1%混入。柱痕。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ10mm以下)1%、黄褐色土(φ2mm以下)・炭化物(φ2mm以下)1%未満混入。柱痕。
 第3層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ60mm以下)30%、浮石(φ2mm以下)1%混入。掘方。

第133号土坑

第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ5~50mm)2%混入。
 第2層 10YR4/4 褐色土

第134号土坑

第1層 10YR4/6 褐色土 炭化物(φ2mm以下)1%、浮石(φ2mm以下)1%未満混入。柱痕。
 第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ100mm以下)50%混入。柱痕。
 第3層 10YR4/6 褐色土 浮石(φ2mm以下)1%未満混入。柱痕。

第136号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ20~50mm)・炭化物(φ2~8mm)1%、浮石(φ2mm以下)1%未満混入。柱痕。
 第2a層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ30~70mm)3%、炭化物(φ2~5mm)1%混入。掘方。
 第2b層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ20~70mm)1%混入。掘方。

第137号土坑

第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物(φ2mm以下)1%混入。
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 礫(φ70mm以下)2%、炭化物(φ2mm以下)1%混入。

第138号土坑

第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ30~45mm)2%混入。柱痕。
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 礫(φ20~100mm)7%、炭化物(φ2mm以下)2%混入。掘方。

第140号土坑

第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物(φ2mm以下)2%、礫(φ50mm以下)1%、黄褐色土(φ4mm以下)1%未満混入。柱痕。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ4mm以下)・礫(φ50mm以下)1%混入。掘方。

図35 環状部北側土坑(3)

(SK125, 133, 134, 136, 137, 138, 140, 378, 393, 396, 450, 451, 453, 459, 461)

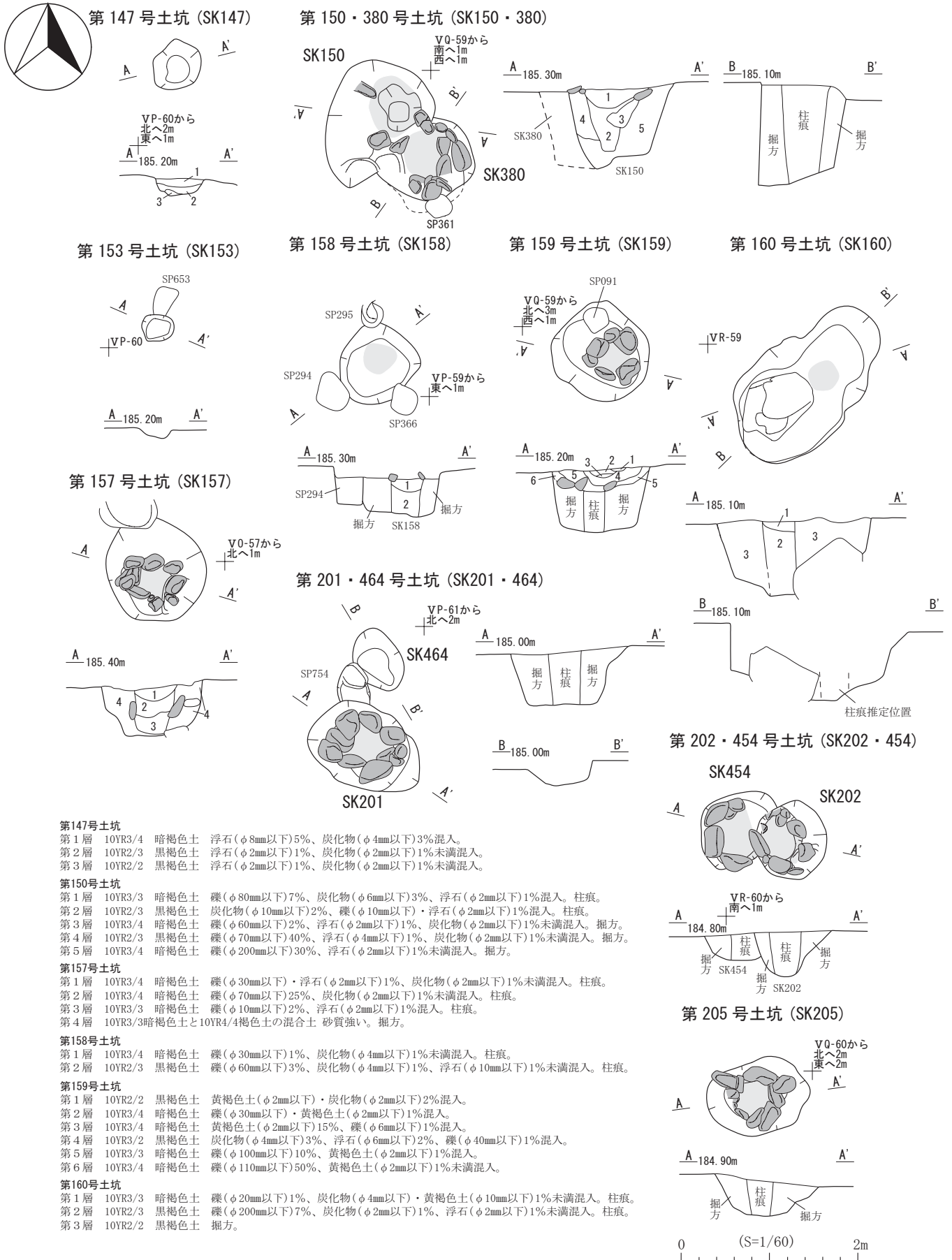
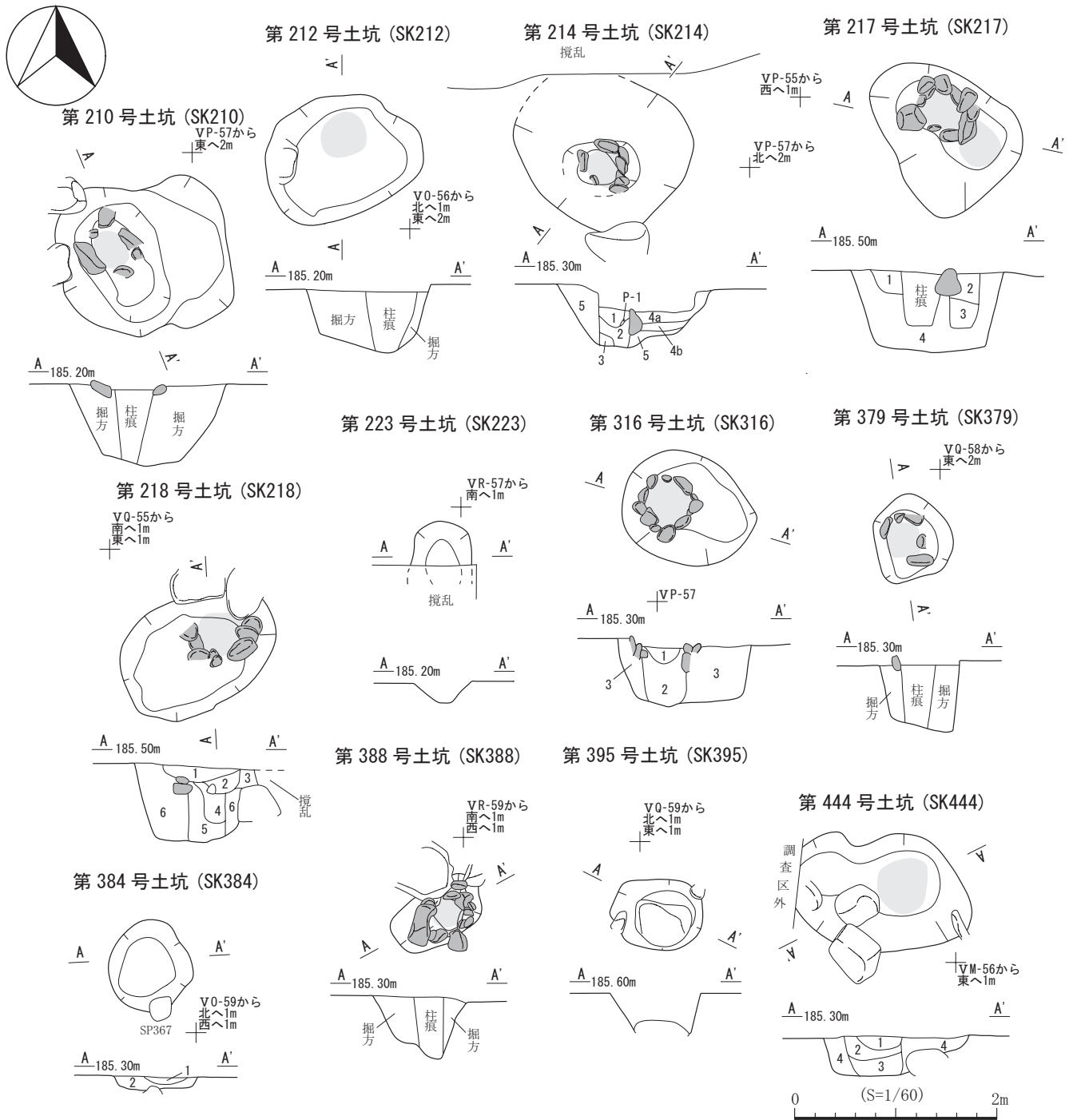


図36 環状部北側土坑 (4) (SK147, 150, 153, 157, 158, 159, 160, 201, 202, 205, 380, 454, 464)



第210号土坑
掘方 10YR3/3 暗褐色土

第214号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ4mm以下)1%混入。柱痕。
第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ10~60mm)30%混入。柱痕。
第3層 10YR3/3 暗褐色土 柱痕。
第4a層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ2~30mm)3%混入。掘方。
第4b層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ20mm以下)2%混入。掘方。
第5層 10YR4/4 褐色土 黄褐色土(φ2mm以下)3%混入。掘方。

第217号土坑

第1層 10YR4/6 褐色土 礫(φ110mm以下)1%混入。
第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ20mm以下)1%、炭化物(φ2mm以下)1%未混入。柱痕。
第3層 10YR4/4 褐色土 礫(φ50mm以下)1%混入。柱痕。
第4層 10YR4/4 褐色土 掘方。

第218号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ6mm以下)3%、礫(φ60mm以下)2%、浮石(φ2mm以下)1%混入。
第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ60mm以下)2%、炭化物(φ4mm以下)1%混入。
第3層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ2mm以下)3%、(φ10mm以下)1%混入。掘方。
第4層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ20mm以下)・炭化物(φ10mm以下)1%混入。柱痕。
第5層 10YR4/4 褐色土 礫(φ50mm以下)2%混入。柱痕。
第6層 10YR4/4 褐色土 礫(φ30mm以下)7%、黄褐色土(φ3mm以下)2%混入。掘方。

第316号土坑

第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ20mm以下)・炭化物(φ4mm以下)1%混入。柱痕。
第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ80mm以下)30%混入。柱痕。
第3層 10YR4/3 赤褐色土 掘方。

第379号土坑

掘方 10YR3/3 暗褐色土
10YR3/4 暗褐色土

第384号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色土(φ2mm以下)2%、礫(φ20mm以下)・炭化物(φ2mm以下)1%混入。
第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ60mm以下)30%、炭化物(φ4mm以下)2%、黄褐色土(φ4mm以下)1%混入。

第444号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~2mm)、礫(φ10~60mm)1%混入。柱痕。
第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ5~30mm)1%混入。柱痕。
第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~100mm)5%、炭化物(φ1~3mm)1%混入。柱痕。
第4層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~50mm)1%混入。柱痕。3層よりやや明るい。掘方。

図37 環状部北側土坑(5) (SK210, 212, 214, 217, 218, 223, 316, 379, 384, 388, 395, 444)

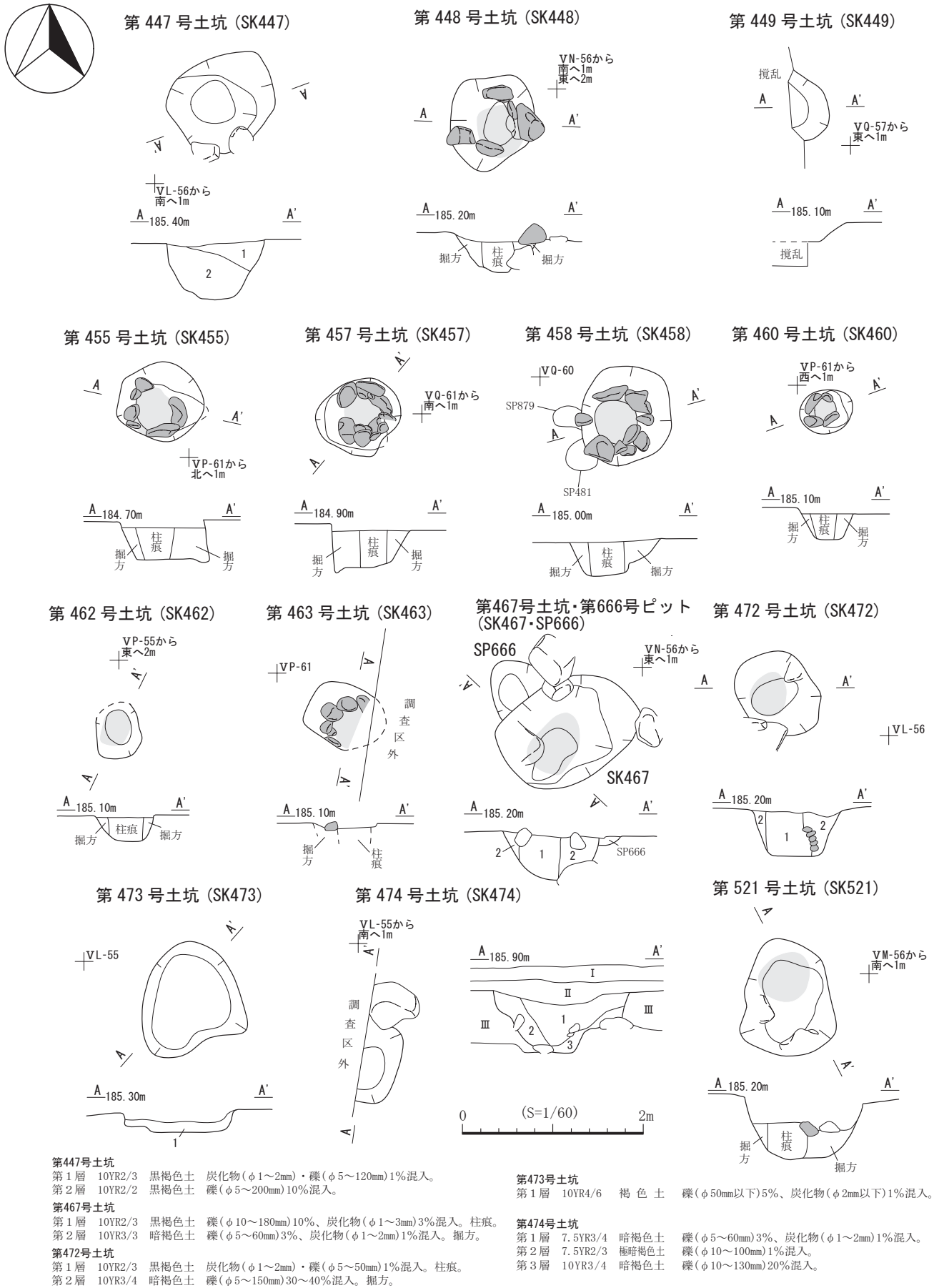


図38 環状部北側土坑(6) (SK447, 448, 449, 455, 457, 458, 460, 462, 463, 467, 472, 473, 474, 521, SP666)

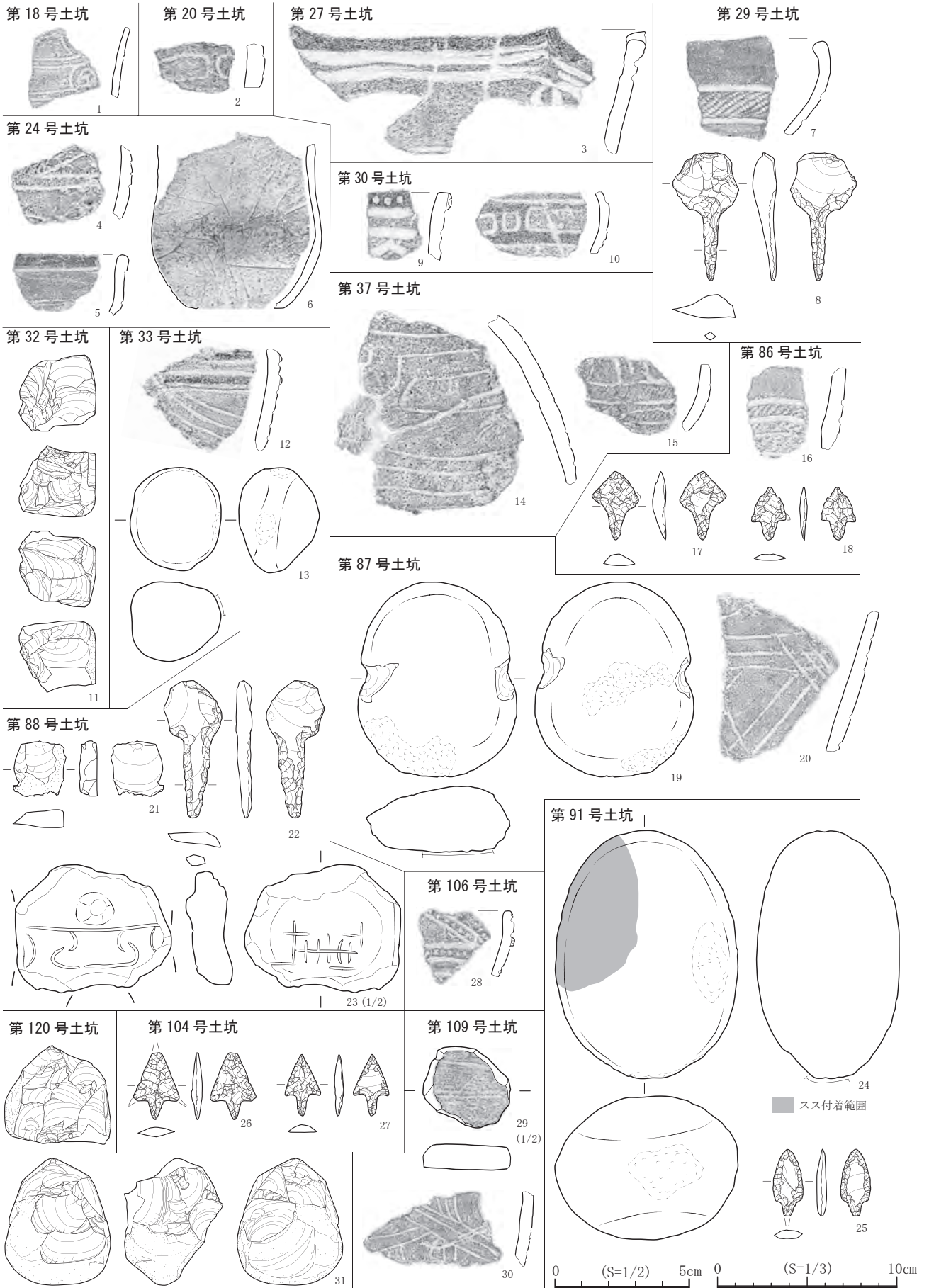


図39 環状部南側土坑出土遺物 (1)

(SK018, 020, 024, 027, 029, 030, 032, 033, 037, 086, 087, 088, 091, 104, 106, 109, 120)

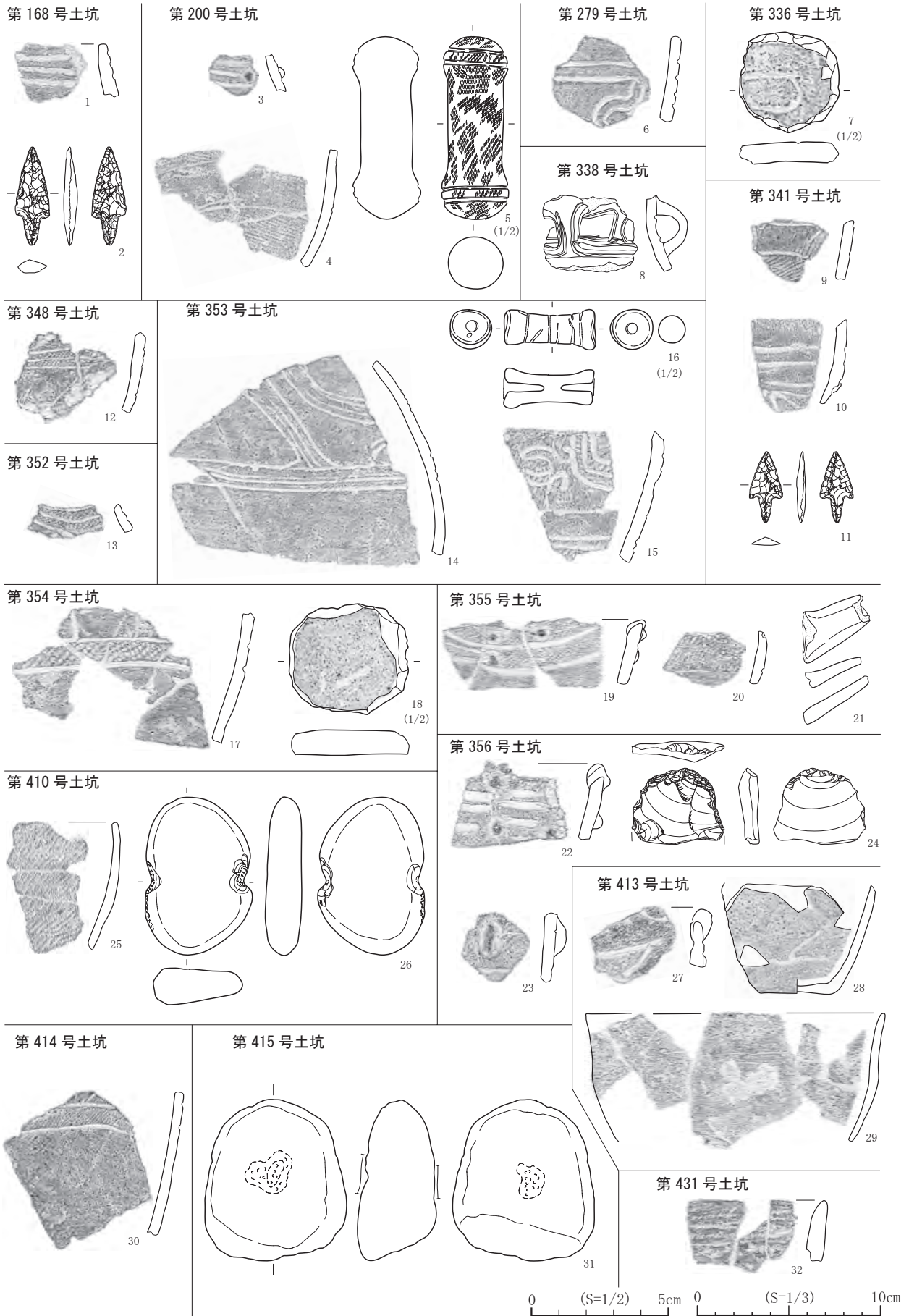


図40 環状部南側土坑出土遺物 (2)

(SK168, 200, 279, 336, 338, 341, 348, 352, 353, 354, 355, 356, 410, 413, 414, 415, 431)

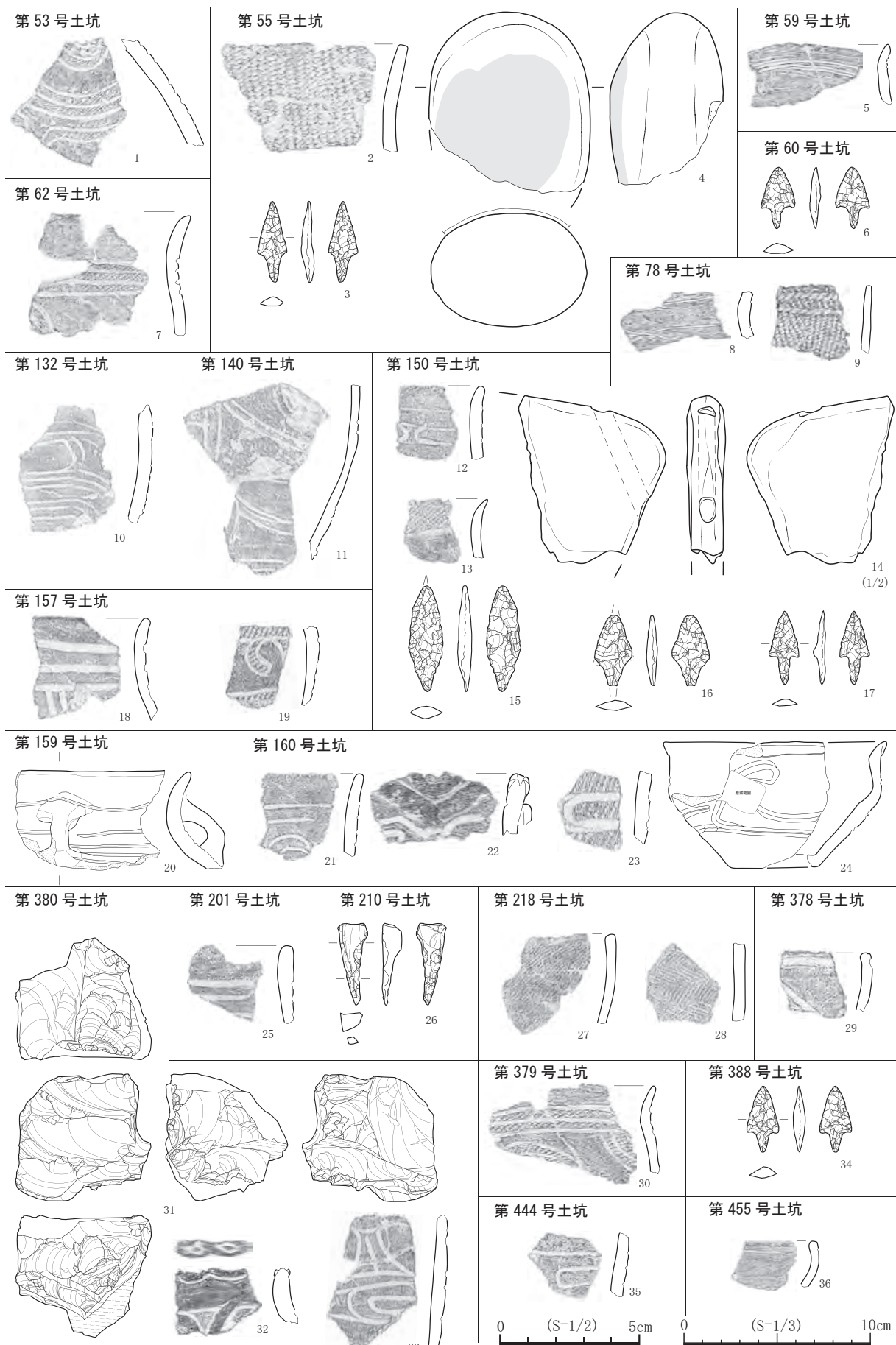


图41 環状部北側土坑出土遺物 (1)

(SK053, 055, 059, 060, 062, 078, 132, 140, 150, 157, 159, 160, 201, 210, 218, 378, 379, 380, 388, 444, 455)

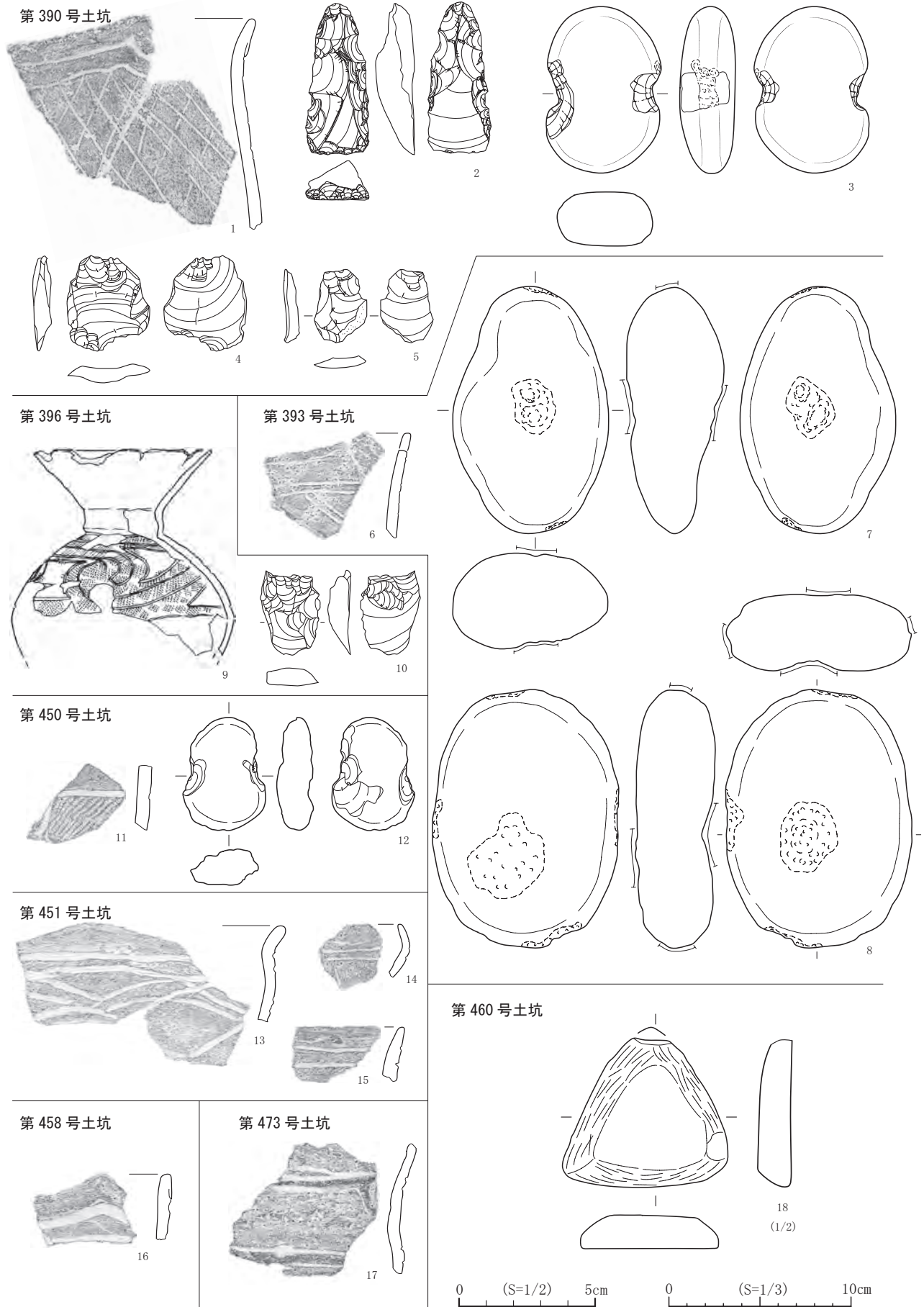


図42 環状部北側土坑出土遺物 (2) (SK390, 393, 396, 450, 451, 458, 460, 473)

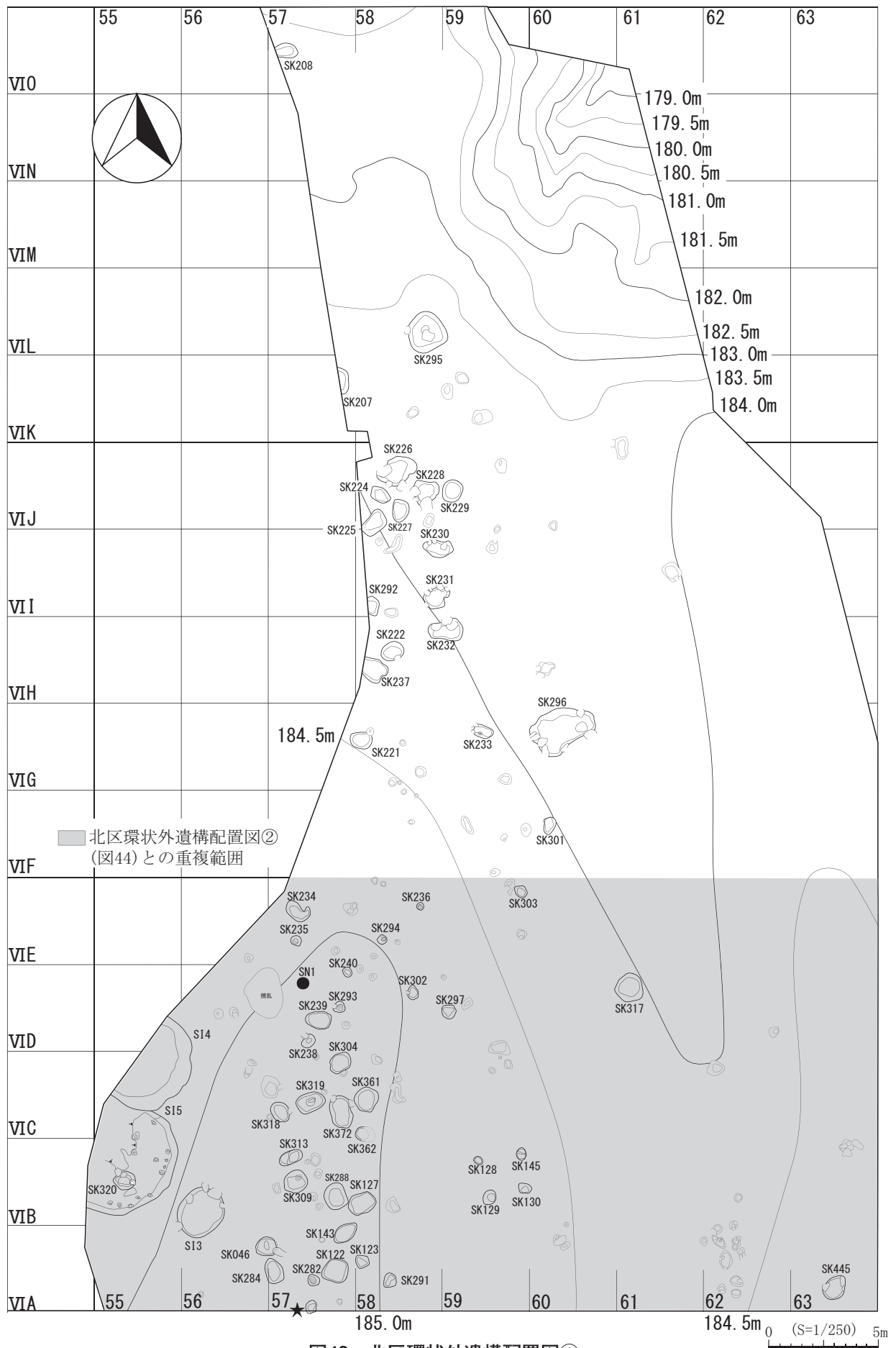


図43 北区環状外遺構配置図①

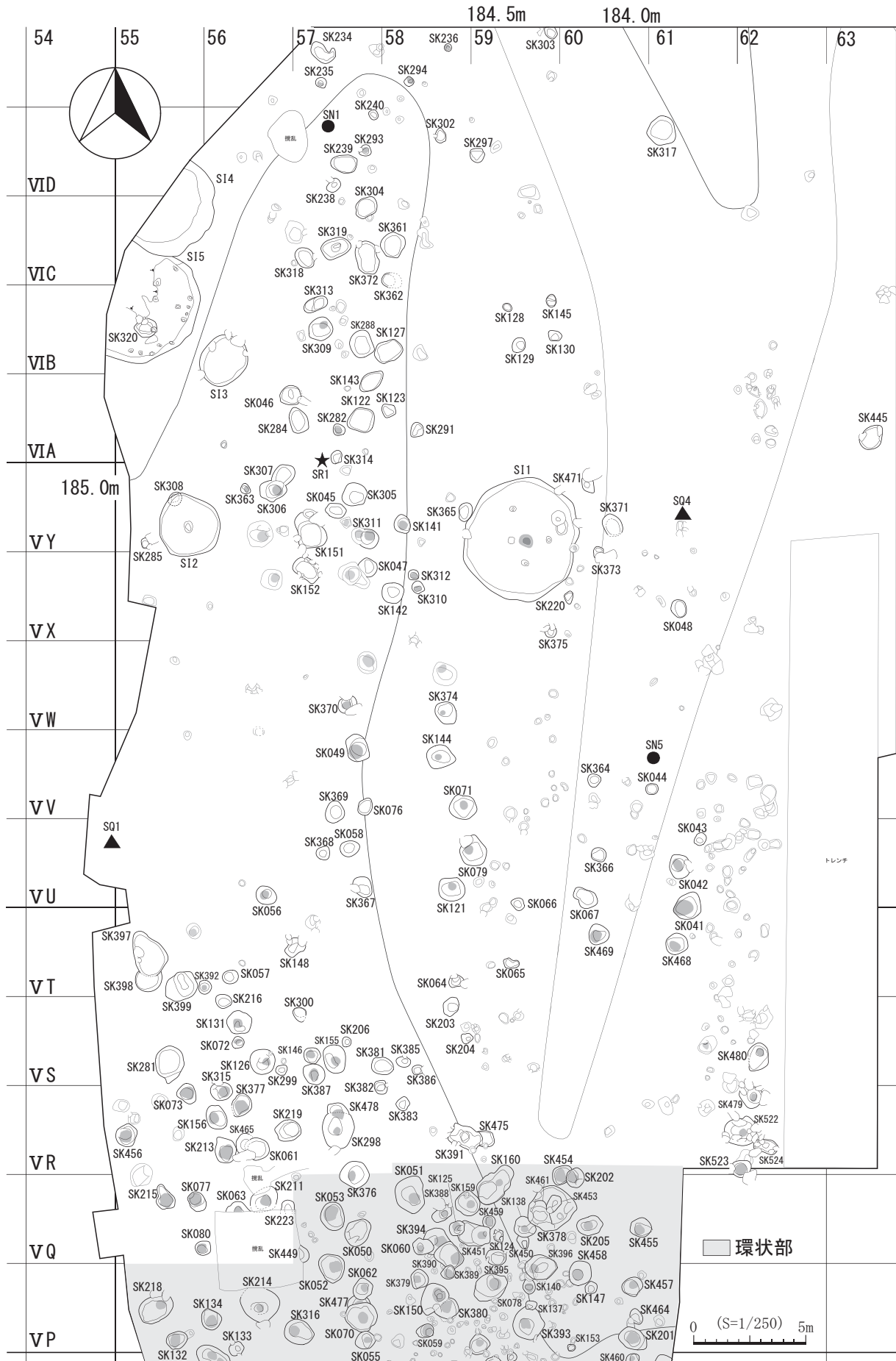
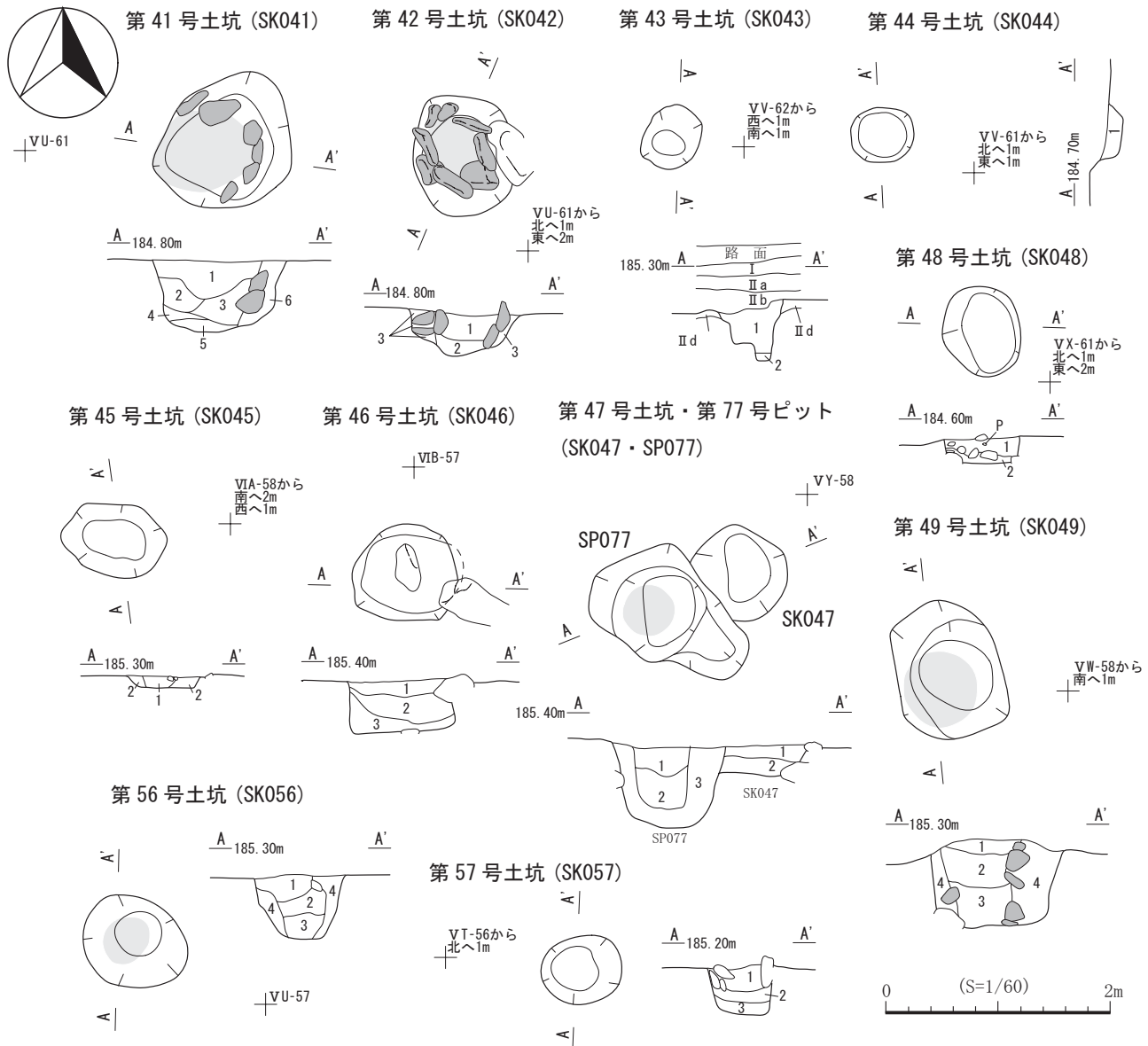


図44 北区環状外遺構配置図②



第41号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ3~5mm)3%、礫(φ2~10mm)1%混入。柱痕。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 褐色粒(φ1~3mm)3%混入。柱痕。
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 褐色粒(φ1~2mm)1%混入。柱痕。
 第4層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ2~3mm)1%混入。柱痕。
 第5層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~8mm)7%混入。柱痕。
 第6層 ———— 掘方。礫主体。

第42号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ120mm以下)2%、炭化物(φ7mm以下)1%、黄褐色土(φ2mm以下)1%未満混入。柱痕。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ20mm以下)1%未満混入。柱痕。
 第3層 ———— 掘方。

第43号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ70mm以下)・炭化物(φ3mm以下)2%、浮石(φ2mm以下)1%混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ40mm以下)2%、炭化物(φ3mm以下)1%未満混入。

第44号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ40mm以下)1%混入。
 中央部がより暗色で柱痕の可能性もある。

第45号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ30mm以下)2%、浮石(φ2mm以下)1%、炭化物(φ2mm以下)1%未満混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ30mm以下)・浮石(φ4mm以下)2%混入。

第46号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ40mm以下)3%、炭化物(φ6mm以下)2%、黄褐色土(φ2mm以下)1%混入。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ60mm以下)・炭化物(φ3mm以下)2%、黄褐色土(φ4mm以下)1%混入。
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ110mm以下)10%、炭化物(φ3mm以下)2%、黄褐色土(φ7mm以下)1%混入。

第47号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ10~30mm)10%、炭化物(φ6mm以下)1%混入。
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 砂質。礫(φ10~150mm)30%、炭化物(φ12mm)1%混入。

第77号ピット

第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ10~30mm)2%、炭化物(φ6mm以下)1%混入。柱痕。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~130mm)5%、炭化物(φ2mm以下)1%混入。柱痕。
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ160mm以下)70%混入。掘方。

第48号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ4~200mm)3%、浮石(φ2mm以下)2%、炭化物(φ1~6mm)1%混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~260mm)10%、浮石(φ1mm以下)・炭化物(φ1mm以下)1%混入。

第49号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ3mm以下)3%、炭化物(φ2mm以下)・黄褐色土(φ2mm以下)1%混入。柱痕。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ50mm以下)15%、炭化物(φ2mm以下)1%未満、黄褐色土(φ2mm以下)1%混入。柱痕。
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ30mm以下)7%、黄褐色土(φ2mm以下)1%未満混入。柱痕。
 第4層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ50~280mm)30%混入。掘方。

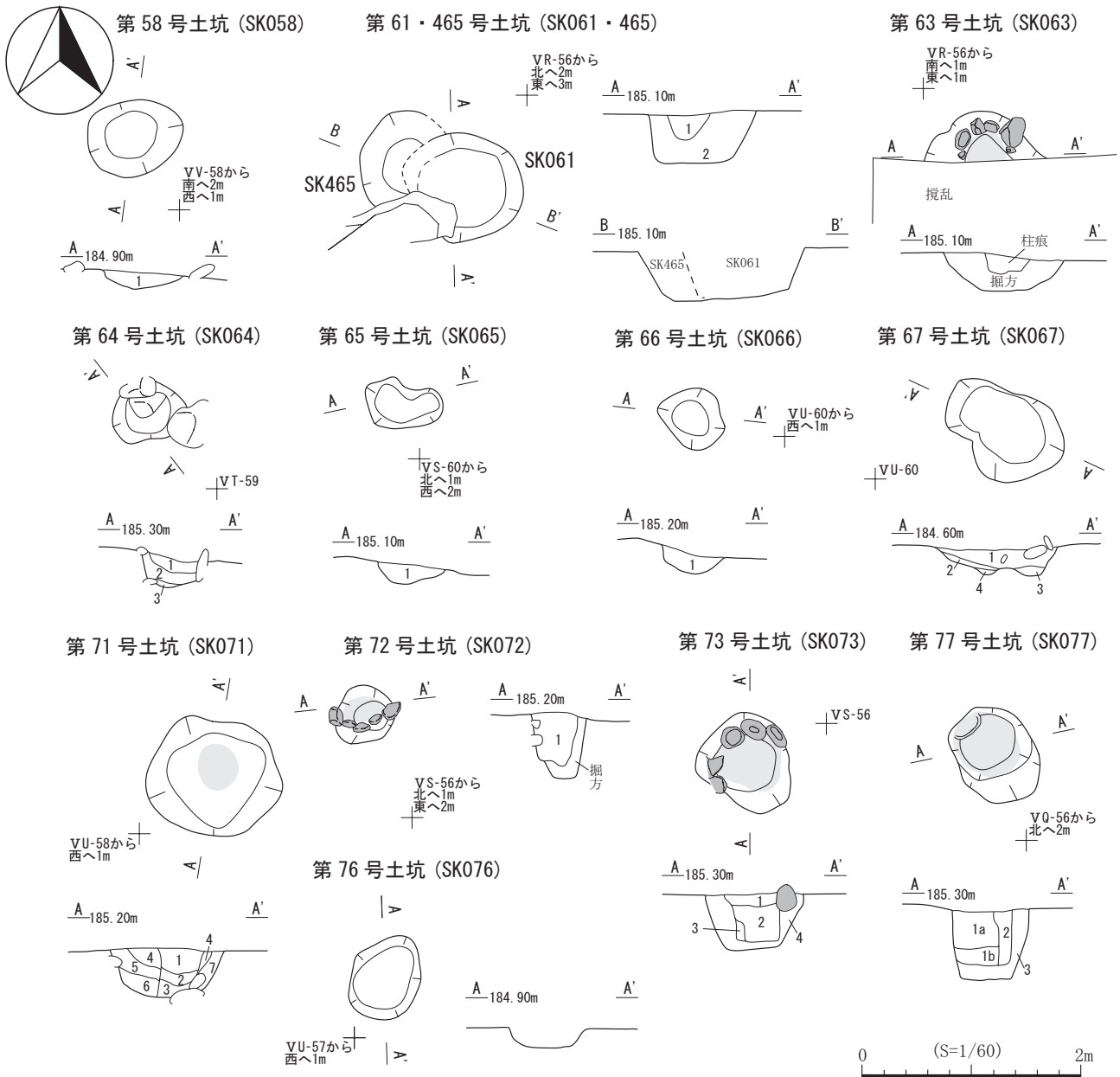
第56号土坑

第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ50~100mm)5%、炭化物(φ2mm以下)1%未満混入。柱痕。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ50~150mm)10%、炭化物(φ2mm以下)1%混入。柱痕。
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ30~60mm)・炭化物(φ4mm以下)3%混入。柱痕。
 第4層 ———— 掘方。

第57号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ20mm以下)2%、炭化物(φ2mm以下)1%未満混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ20mm以下)2%混入。
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ40mm以下)3%混入。

図45 北区環状外土坑(1) (SK041, 042, 043, 044, 045, 046, 047, 048, 049, 056, 057, SP077)



第58号土坑

第1層 10YR4/6 褐色土 礫(φ3~20mm)30%混入。

第61号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ30mm以下)3%、炭化物(φ4mm以下)1%混入。

第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ120mm以下)40%混入。

第63号土坑

柱痕 10YR2/3 黒褐色土 小礫(φ2~10mm)・浮石(φ3mm以下)1%混入。

掘方 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ7~100mm)・浮石(φ3mm以下)3%、炭化物(φ4mm以下)1%未満混入。

第64号土坑

第1層 10YR4/3 に近い褐色土 砂質礫(φ1~130mm)40%、炭化物(φ1~3mm)1%未満混入。

第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ1~50mm)50%、炭化物(φ1~3mm)1%未満混入。

第3層 10YR4/4 褐色土 礫(φ1~70mm)40%混入。

第65号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ2~5mm)3%、礫(φ3~4mm)1%混入。

第66号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ2~3mm)・浮石(φ2~3mm)1%混入。

第67号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~120mm)10%、炭化物(φ1~6mm)・浮石(φ1mm以下)1%混入。

第2層 10YR3/3暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土 礫(φ8~70mm)5%、炭化物(φ1mm以下)・浮石(φ6mm以下)1%混入。

第3層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ20~80mm)3%、炭化物(φ1mm以下)・浮石(φ1mm以下)1%混入。

第4層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~40mm)2%、炭化物(φ1mm以下)1%混入。

第71号土坑

第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ1~2mm)2%、浮石(φ1mm)1%混入。柱痕。

第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~30mm)5%、炭化物(φ3~4mm)1%混入。柱痕。

第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~30mm)3%、炭化物(φ2~5mm)1%混入。柱痕。

第4層 10YR4/4 褐色土 炭化物(φ2~4mm)1%混入。掘方。

第5層 10YR4/4 褐色土 浮石(φ1~3mm)2%混入。掘方。

第6層 10YR4/6 褐色土 炭化物(φ1~2mm)・浮石(φ1mm)1%混入。掘方。

第7層 ————

第72号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ70mm以下)7%、浮石(φ8mm以下)2%、炭化物(φ2mm以下)1%混入。柱痕。

第73号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ5mm以下)2%、礫(φ2~40mm)1%、浮石(φ2mm以下)1%未満混入。柱痕。

第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ80mm以下)3%、炭化物(φ8mm以下)2%、黄褐色土(φ15mm以下)1%混入。柱痕。

第3層 10YR4/6 褐色土 礫(φ50mm以下)40%、炭化物(φ10mm以下)・浮石(φ3mm以下)1%未満混入。柱痕。

第4層 10YR4/4 褐色土 掘方。

第77号土坑

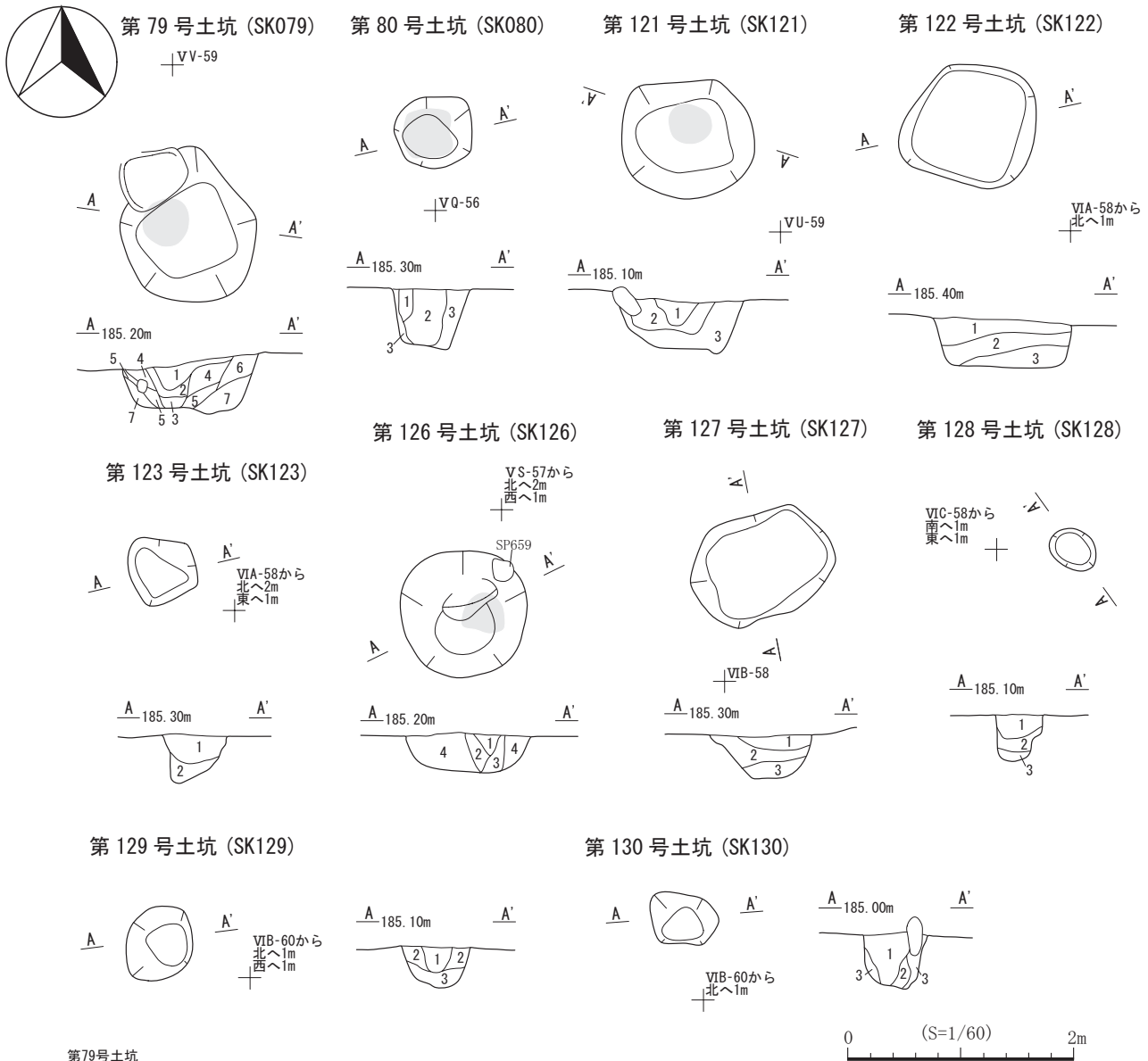
第1a層 10YR3/4 暗褐色土 小礫(φ20mm以下)・炭化物(φ4mm以下)1%混入。柱痕。

第1b層 10YR3/4 暗褐色土 小礫(φ30mm以下)2%、炭化物(φ2mm以下)1%未満混入。柱痕。

第2層 10YR4/6 褐色土 礫(φ20~110mm)50%、炭化物(φ2mm以下)1%、褐色土(φ15mm以下)1%未満混入。柱痕。

第3層 10YR4/4 褐色土 掘方。

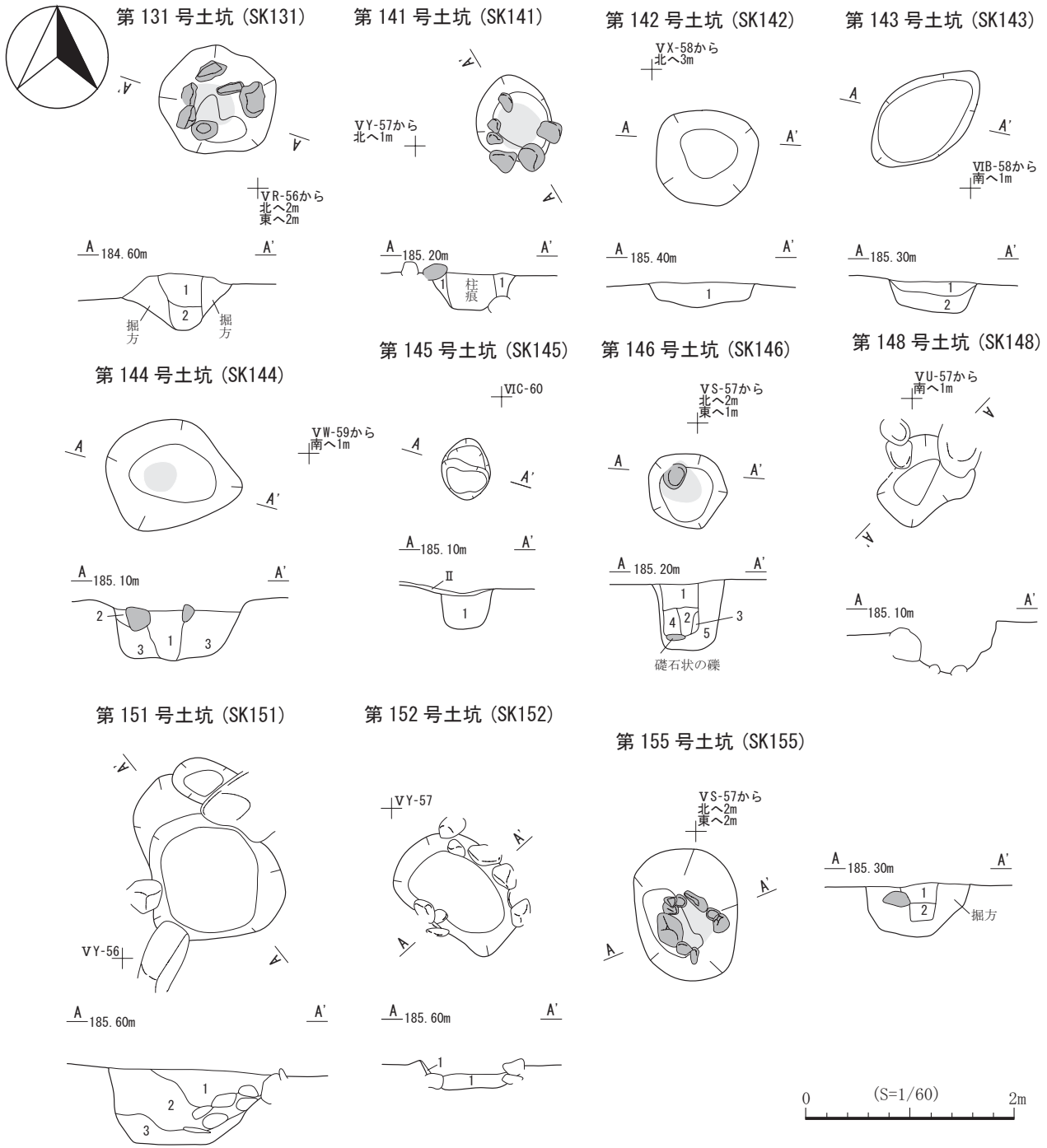
図46 北区環状外土坑(2)(SK058,061,063,064,065,066,067,071,072,073,076,077,465)



- 第79号土坑**
- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ20mm以下)2%、浮石(φ10mm以下)1%、炭化物(φ2mm以下)1%未混入。
 - 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ20mm以下)5%、浮石(φ10mm以下)1%、炭化物(φ2mm以下)1%未混入。柱痕。
 - 第3層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ20mm以下)3%、浮石(φ10mm以下)1%、炭化物(φ7mm以下)1%未混入。柱痕。
 - 第4層 10YR4/6 褐色土 礫(φ100mm以下)10%、浮石(φ7mm以下)2%、炭化物(φ2mm以下)1%未混入。掘方。
 - 第5層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ20mm以下)2%、浮石(φ2mm以下)1%混入。掘方。
 - 第6層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ150mm以下)30%、浮石(φ2mm以下)1%混入。掘方。
 - 第7層 10YR4/6 褐色土 礫(φ150mm以下)50%混入。掘方。
- 第80号土坑**
- 第1層 10YR4/4 褐色土 礫(φ5~50mm)15%、炭化物(φ1~3mm)1%混入。柱痕。
 - 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~210mm)10%、炭化物(φ1~5mm)2%、焼土(φ1~10mm)1%混入。柱痕。
 - 第3層 10YR4/6 褐色土 掘方。
- 第121号土坑**
- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ20mm以下)2%、炭化物(φ2mm以下)1%未混入。柱痕。
 - 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ60mm以下)3%、浮石(φ2mm以下)1%、炭化物(φ4mm以下)1%未混入。掘方。
 - 第3層 ———— 掘方。
- 第122号土坑**
- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ1~4mm)・黄褐色土ブロック(φ10mm以下)5%、浮石(φ1~2mm)1%混入。※P-1、実形土器が出ている。
 - 第2層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ1~4mm)・黄褐色土ブロック(φ10mm以下)3%、浮石(φ1~2mm)1%混入。
 - 第3層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~2mm)2%・黄褐色土ブロック(φ10mm以下)2%混入。

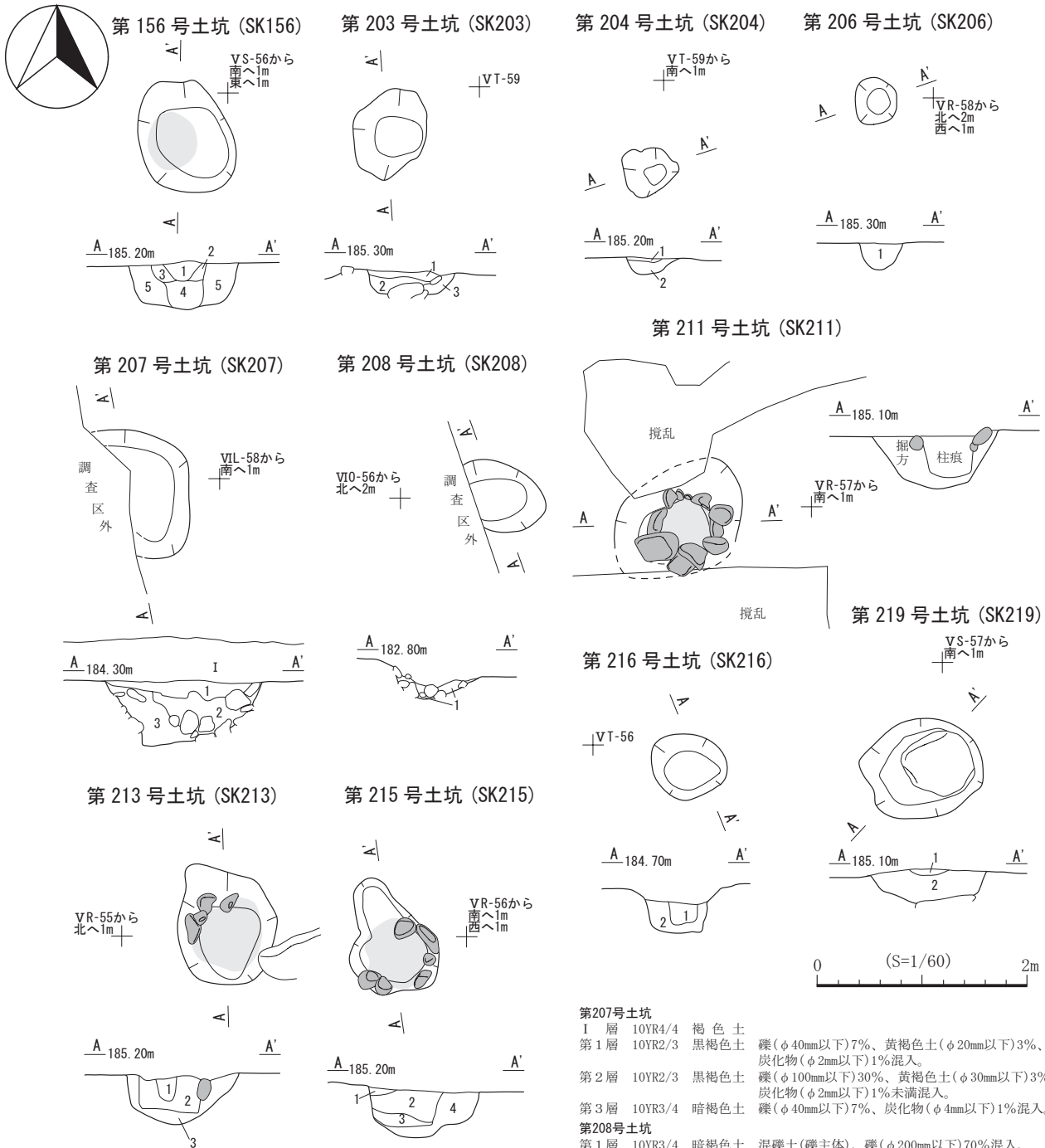
- 第123号土坑**
- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ3~5mm)5%、炭化物(φ2~4mm)3%、浮石(φ1~2mm)1%混入。
 - 第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ3~10mm)7%、浮石(φ1~2mm)1%混入。
- 第126号土坑**
- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ20mm以下)1%混入。柱痕。
 - 第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ50mm以下)20%、浮石(φ10mm以下)2%混入。柱痕。
 - 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ50mm以下)10%混入。柱痕。
 - 第4層 10YR3/4 暗褐色土 掘方。
- 第127号土坑**
- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~30mm)30%、砂質。炭化物(φ3~5mm)1%混入。
 - 第2層 10YR3/3 暗褐色土 砂質。礫(φ5~40mm)40%、褐色土5%混入。
 - 第3層 10YR3/4 暗褐色土 砂質。
- 第128号土坑**
- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~2mm)・礫(φ15~20mm)3%混入。
 - 第2層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ3~4mm)1%混入。
 - 第3層 10YR3/3 暗褐色土 ————
- 第129号土坑**
- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~5mm)2%混入。
 - 第2層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ1~4mm)・礫(φ5~6mm)2%混入。
 - 第3層 10YR3/4 暗褐色土 明黄褐色土(φ1~2mm)1%混入。
- 第130号土坑**
- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~10mm)5%、浮石(φ2~5mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。褐色土含む。
 - 第2層 10YR3/4 暗褐色土 ————
 - 第3層 10YR5/8 黄褐色土 ————

図47 北区環状外土坑(3)(SK079,080,121,122,123,126,127,128,129,130)



- 第131号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~80mm)10%混入。柱痕。
 第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ5~100mm)1%混入。柱痕。
- 第141号土坑**
 第1層 10YR4/4 褐色土 礫(φ10~40mm)3%、
 浮石(φ1mm以下)1%混入。掘方。
- 第142号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~15mm)30%、浮石(φ1~2mm)1%混入。
- 第143号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~30mm)80%混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~20mm)3%、褐色土1%混入。
- 第144号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 砂質。礫(φ10~40mm)25%混入。柱痕。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~50mm)50%混入。掘方。
 第3層 ————— 掘方。
- 第145号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ10~190mm)15%、
 炭化物(φ12mm以下)5%混入。
- 第146号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~40mm)5%混入。柱痕。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ4mm以下)・浮石(φ2mm以下)1%混入。柱痕。
 10YR3/4 暗褐色土 柱痕。
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ60mm以下)3%、浮石(φ4mm以下)1%混入。柱痕。
 第4層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ50mm以下)3%、浮石(φ2mm以下)1%未混入。柱痕。
 第5層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ200mm以下)2%混入。掘方。
- 第148号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ30~150mm)10%、炭化物(φ2~6mm)2%混入。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ60~300mm)20%、炭化物(φ2mm)3%混入。
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ60~100mm)30%混入。
 ※1・2層は崩れた柱痕、3層は掘方の可能性がある。
- 第151号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ30~150mm)10%、炭化物(φ2~6mm)2%混入。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ60~300mm)20%、炭化物(φ2mm)3%混入。
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ60~100mm)30%混入。
 ※1・2層は崩れた柱痕、3層は掘方の可能性がある。
- 第152号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 砂質強い。礫(φ5~100mm)70%混入。
- 第155号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ20mm以下)2%、浮石(φ2mm以下)1%、
 炭化物(φ4mm以下)1%未混入。柱痕。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ40mm以下)3%、浮石(φ2mm以下)1%、
 炭化物(φ2mm以下)1%未混入。柱痕。

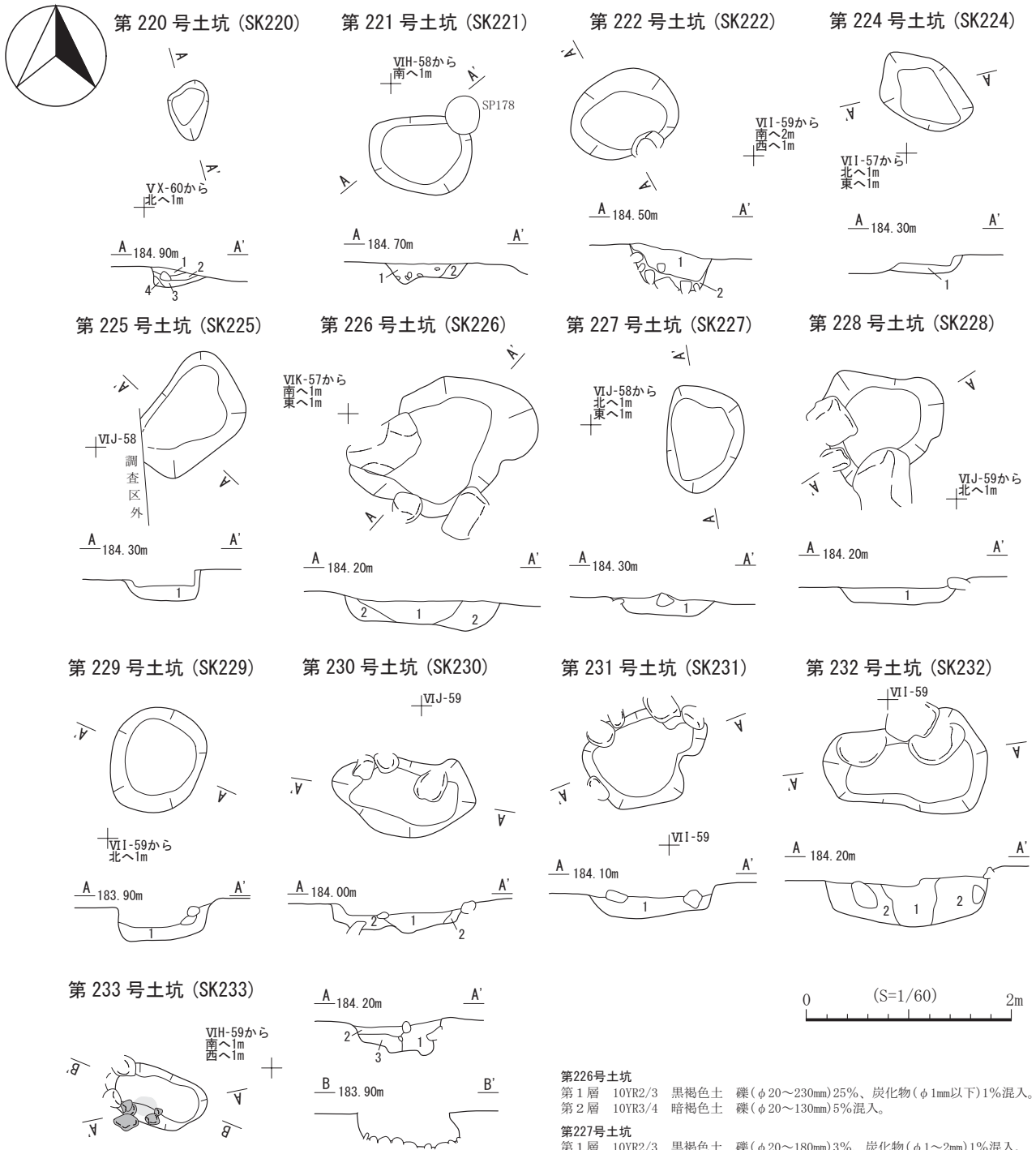
図48 北区環状外土坑(4) (SK131, 141, 142, 143, 144, 145, 146, 148, 151, 152, 155)



- 第156号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ20mm以下)2%、炭化物(φ4mm以下)1%混入。柱痕。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ2mm以下)1%混入。柱痕。
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ2mm以下)1%未満混入。柱痕。
 第4層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ20mm以下)3%、浮石(φ2mm以下)1%、炭化物(φ2mm以下)1%未満混入。柱痕。
 第5層 10YR3/3 暗褐色土 掘方。
- 第203号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 砂質。礫(φ50mm以下)1%、浮石(φ2mm以下)1%未満混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 砂質。礫(φ300mm以下)30%、浮石(φ2mm以下)1%混入。
 第3層 10YR4/6 褐色土 砂質。礫(φ20mm以下)15%混入。
- 第204号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 浮石(φ2mm以下)1%混入。
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 礫(φ10~50mm)3%、浮石(φ10mm以下)2%、炭化物(φ2mm以下)1%混入。
- 第206号土坑**
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ20~70mm)40%、浮石(φ2mm以下)1%混入。

- 第207号土坑**
 I 層 10YR4/4 褐色土
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ40mm以下)7%、黄褐色土(φ20mm以下)3%、炭化物(φ2mm以下)1%混入。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ100mm以下)30%、黄褐色土(φ30mm以下)3%、炭化物(φ2mm以下)1%未満混入。
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ40mm以下)7%、炭化物(φ4mm以下)1%混入。
- 第208号土坑**
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 混礫土(礫主体)。礫(φ200mm以下)70%混入。
- 第211号土坑**
 掘方 10YR3/4暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土
- 第213号土坑**
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ70mm以下)50%混入。柱痕。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ60mm以下)30%、炭化物(φ4mm以下)1%混入。柱痕。
 第3層 10YR3/3 暗褐色土 掘方。
- 第215号土坑**
 第1層 10YR4/4 褐色土 炭化物(φ1mm)2%混入。柱痕。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~120mm)7%、炭化物(φ1~4mm)5%、浮石(φ1mm)1%混入。柱痕。
 第3層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ2~4mm)2%混入。柱痕。
 第4層 10YR3/3 暗褐色土 砂質。掘方。
 10YR3/3 暗褐色土 掘方。
- 第216号土坑**
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物(φ5~8mm)3%混入。
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ10~30mm)20%混入。
- 第219号土坑**
 第1層 10YR4/6 褐色土 浮石(φ2mm以下)1%混入。
 第2層 10YR4/6 褐色土 礫(φ120mm以下)20%、炭化物(φ2mm以下)1%混入。

図49 北区環状外土坑(5) (SK156,203,204,206,207,208,211,213,215,216,219)



第220号土坑

第1層 10YR2/2 黒褐色土 礫(φ5~50mm)・炭化物(φ1~2mm)1%混入。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ1~3mm)1%混入。
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~2mm)1%混入。
 第4層 10YR4/6 褐色土 礫(φ10~30mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。

第221号土坑

第1層 10YR4/4 褐色土 礫(φ100mm以下)5%、炭化物粒(φ2mm以下)1%混入。
 第2層 10YR5/4 ぶい質粘土 礫(φ70mm以下)20%混入。

第222号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ100mm以下)20%、炭化物粒(φ2mm以下)1%混入。
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ200mm以下)40%、炭化物粒(φ2mm以下)1%混入。

第224号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ15~100mm)7%、炭化物(φ1mm)1%混入。

第225号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ15~60mm)5%混入。

第226号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ20~230mm)25%、炭化物(φ1mm以下)1%混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ20~130mm)5%混入。

第227号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ20~180mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。

第228号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ25~110mm)10%混入。

第229号土坑

第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ10~150mm)7%混入。

第230号土坑

第1層 10YR2/2 黒褐色土 礫(φ10~50mm)5%混入。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ10~100mm)15%混入。

第231号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ30~200mm)20%混入。

第232号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ10~150mm)30%混入。柱痕。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~150mm)10%、炭化物(φ1~5mm)1%混入。掘方。

第233号土坑

第1層 10YR3/2 黒褐色土 礫(φ10~220mm)3%混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~2mm)・礫(φ10~50mm)1%混入。
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~120mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。

図50 北区環状外土坑(6)
 (SK220, 221, 222, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 233)

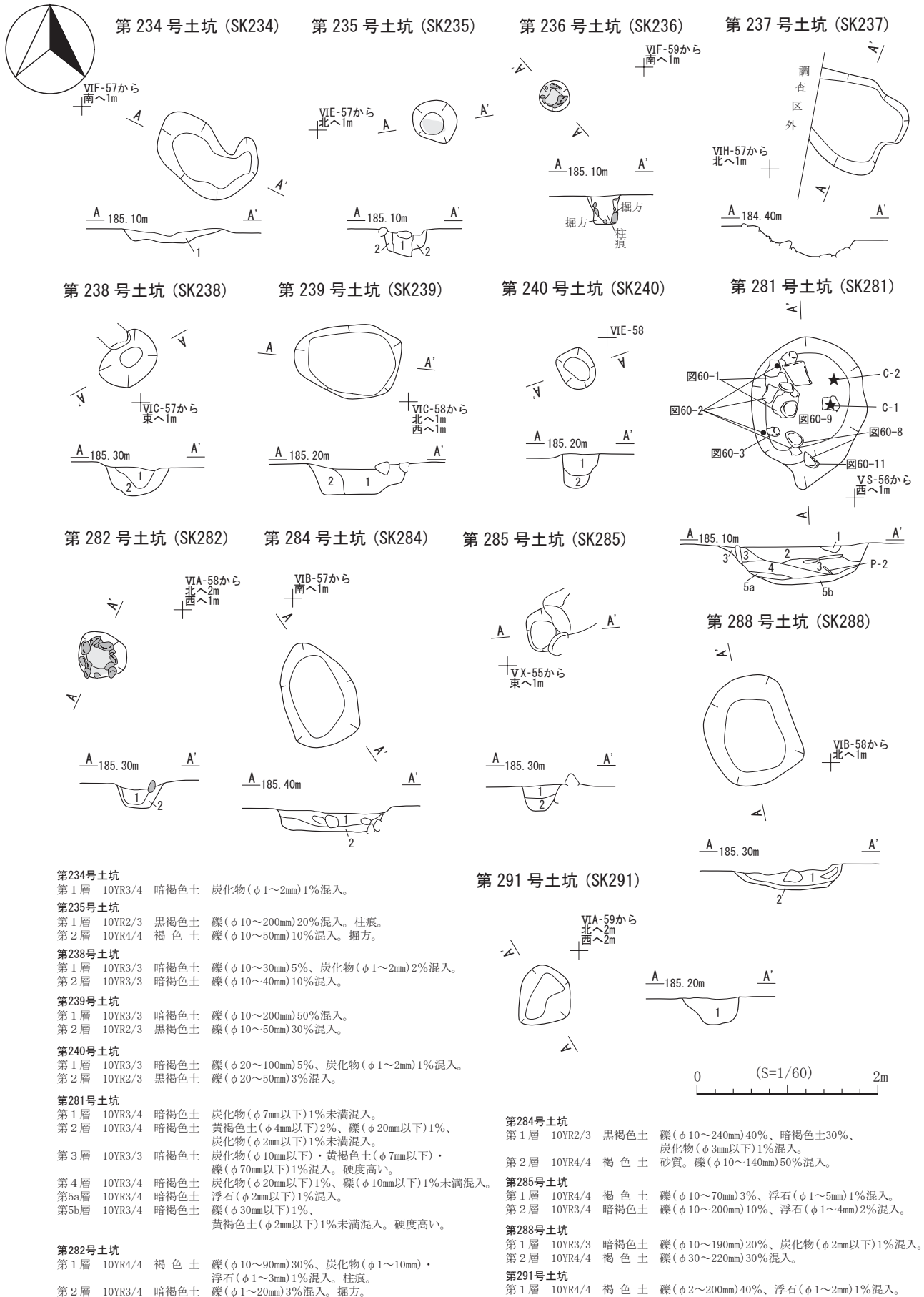
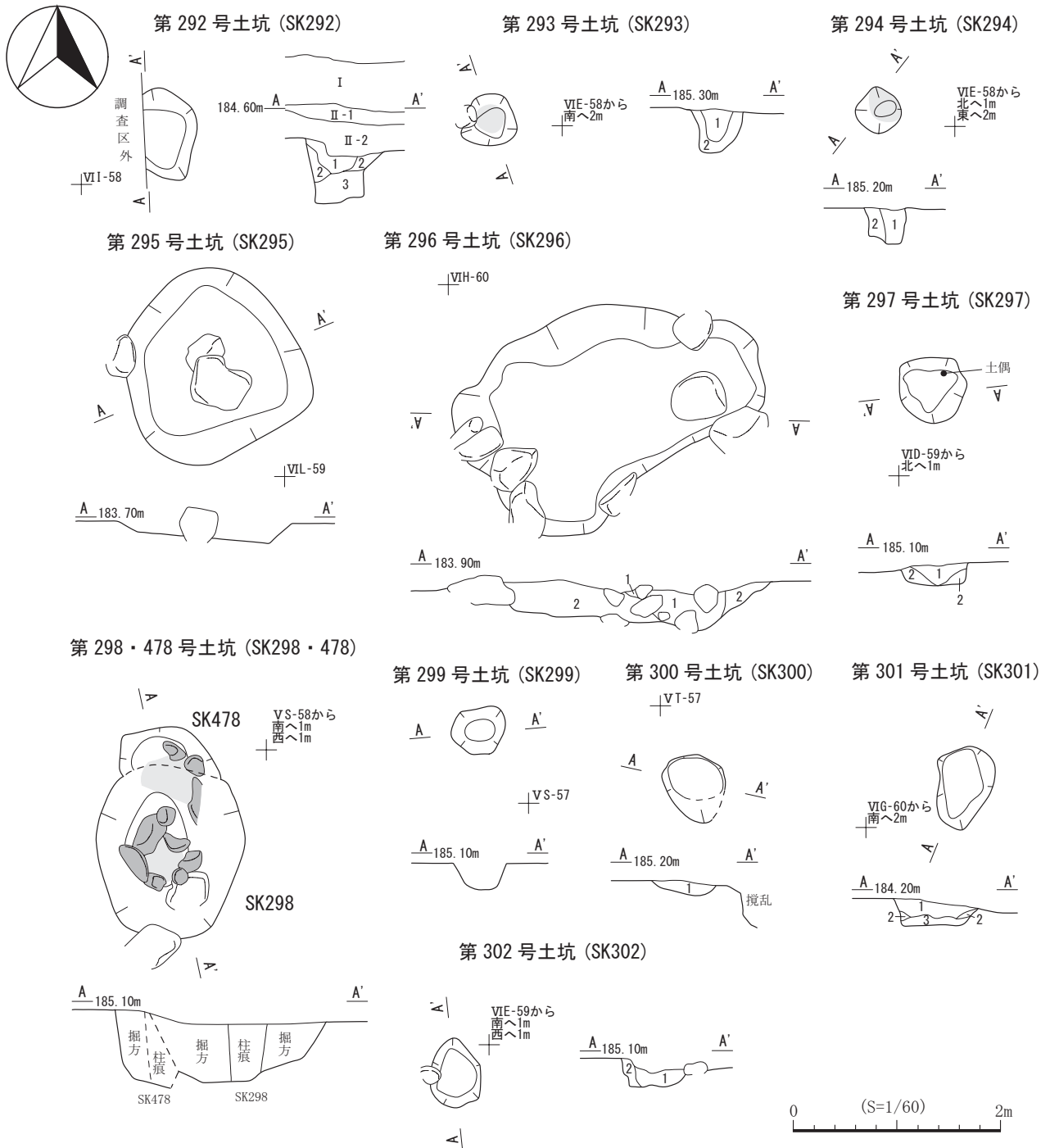


図51 北区環状外土坑 (7)
(SK234, 235, 236, 237, 238, 239, 240, 281, 282, 284, 285, 288, 291)



第292号土坑

- I 層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~170mm)7%混入。
- II-1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~200mm)1%混入。
- II-2層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ5~150mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%混入。
- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~170mm)7%、褐色土(φ50~150mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%混入。
- 第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ5~150mm)15%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~150mm)20%混入。

第293号土坑

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 礫(φ15~50mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%混入。
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ1~2mm)・礫(φ10~170mm)1%混入。

第294号土坑

- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ1~3mm)・礫(φ10~120mm)3%混入。柱痕。
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 褐色土(φ100mm)10%、礫(φ20~150mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。掘方。

第296号土坑

- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ2~4mm)1%混入。
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~2mm)1%混入。

第297号土坑

- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 黒褐色土(10YR2/2)(φ30~200mm)3%、炭化物(φ1~4mm)1%混入。
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~6mm)2%、礫(φ20~70mm)1%混入。

第298号土坑

- 掘方 10YR3/4暗褐色土と10YR3/4暗褐色砂質土の混合土

第478号土坑

- 掘方 10YR3/4 暗褐色土 ——

第300号土坑

- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ20mm以下)・黄褐色土(φ20mm以下)1%混入。

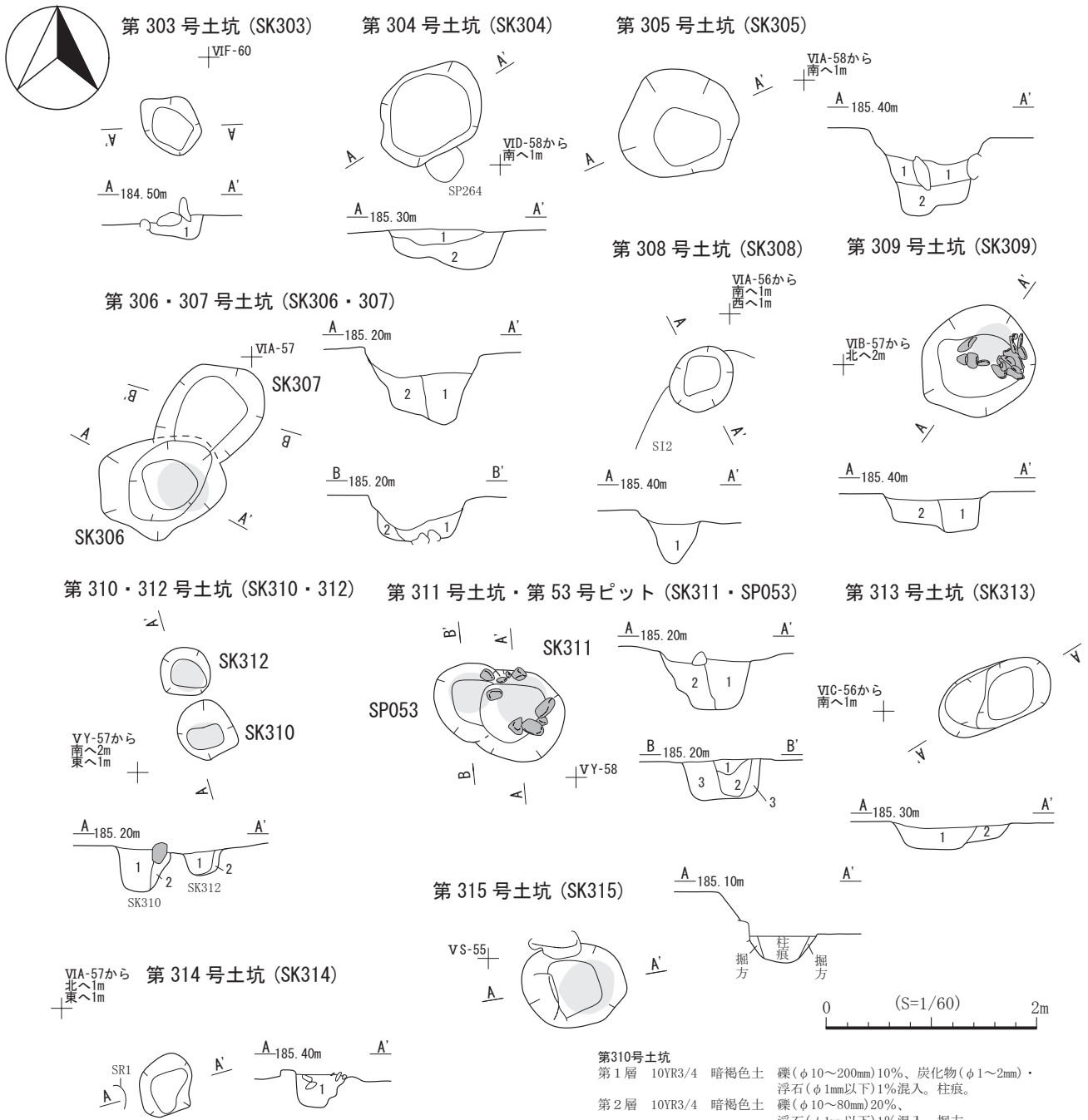
第301号土坑

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 礫(φ20~70mm)・炭化物(φ2~5mm)1%混入。
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 褐色土(φ10~80mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%混入。
- 第3層 10YR4/6 褐色土 暗褐色土(φ50~120mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。

第302号土坑

- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ15~120mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%混入。
- 第2層 10YR4/4 褐色土 炭化物(φ1~2mm)1%、礫(φ5~30mm)1%未混入。

図52 北区環状外土坑(8)(SK292,293,294,295,296,297,298,299,300,301,302,478)



第303号土坑
第1層 10YR4/4 褐色土 炭化物(φ1~4mm)・礫(φ10~240mm)1%混入。

第304号土坑
第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ10~70mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%混入。
第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~120mm)10%、炭化物(φ1~3mm)1%混入。

第305号土坑
第1層 10YR4/4 褐色土 礫(φ10~300mm)・炭化物(φ1~2mm)1%混入。
第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ10~50mm)1%混入。

第306号土坑
第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ5~50mm)3%混入。柱痕。
第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ5~200mm)40%混入。掘方。

第307号土坑
第1層 10YR4/6 褐色土 礫(φ10~100mm)40%混入。
第2層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ5~10mm)5%混入。

第308号土坑
第1層 10YR4/4 褐色土 礫(φ8~100mm)40%、浮石(φ3~12mm)3%混入。

第309号土坑
第1層 10YR4/4 褐色土 礫(φ10~70mm)15%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。柱痕。
第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~150mm)10%、炭化物(φ1~5mm)1%混入。掘方。

第310号土坑
第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~200mm)10%、炭化物(φ1~2mm)・浮石(φ1mm以下)1%混入。柱痕。
第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~80mm)20%、浮石(φ1mm以下)1%混入。掘方。

第312号土坑
第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~280mm)40%、炭化物(φ1~2mm)・浮石(φ1mm以下)1%混入。柱痕。
第2層 — — — — — 掘方。

第311号土坑
第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~200mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%未混入。柱痕。
第2層 10YR4/6 褐色土 礫(φ20~120mm)30%混入。掘方。

第53号ピット
第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~130mm)15%、炭化物(φ1~6mm)3%混入。柱痕。
第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ30~120mm)50%、炭化物(φ1~10mm)1%混入。柱痕。
第3層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ15~160mm)30%混入。掘方。

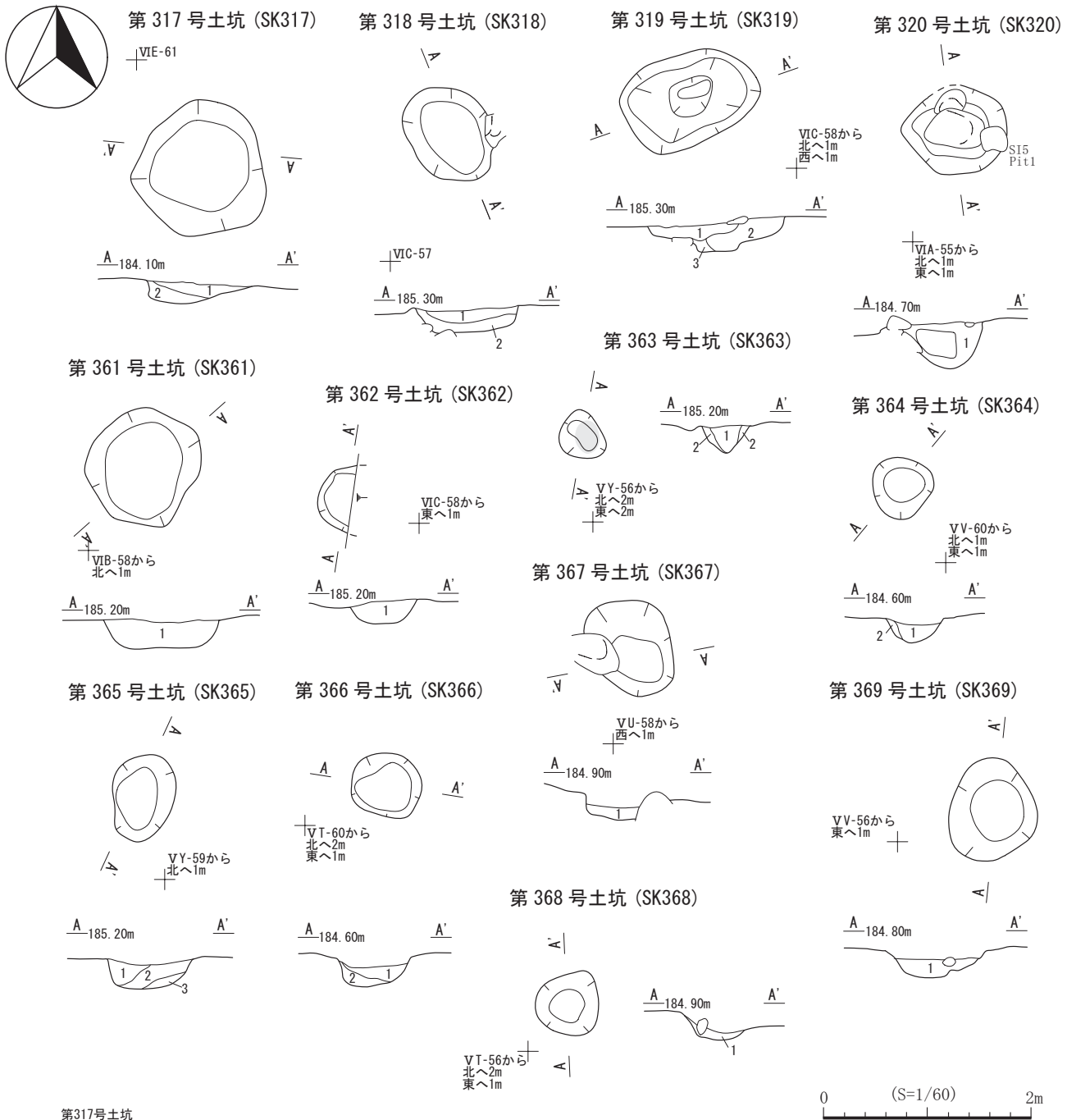
第313号土坑
第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ20~160mm)20%、炭化物(φ3mm以下)1%混入。
第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ5~80mm)5%、炭化物(φ3mm以下)1%混入。

第314号土坑
第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ10~130mm)50%混入。

第315号土坑
掘方 10YR3/3 暗褐色土 —

图53 北区環状外土坑(9)

(SK303, 304, 305, 306, 307, 308, 309, 310, 311, 312, 313, 314, 315, SP053)



第317号土坑

第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ1~3mm)・礫(φ20~120mm)1%混入。
IIa層に土質類似。

第2層 10YR4/4 褐色土 礫(φ7~120mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。

第318号土坑

第1層 10YR3/3 暗褐色土 暗褐色土(10YR3/4)20%(層左側に多く含む)、
礫(φ5~70mm)10%、炭化物(φ1~5mm)1%混入。

第2層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ5~60mm)10%混入。

第319号土坑

第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ5~40mm)30%、炭化物(φ10mm)1%混入。

第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ5~30mm)7%、炭化物(φ10mm)1%混入。

第3層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ5~10mm)10%、炭化物(φ5mm)1%混入。

第320号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ20~90mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。

第361号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ10~200mm)10%、炭化物(φ2~6mm)1%混入。

第362号土坑

第1層 10YR4/4 褐色土 小礫(φ2~10mm)3%混入。
砂質強くしまる。炭化物ごく微量に含む。

第363号土坑

第1層 10YR3/1 黒褐色土 礫(φ15~30mm)30%、炭化物(φ3~10mm)1%混入。柱痕。

第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~70mm)10%混入。掘方。

第364号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ10~20mm)・炭化物(φ1~10mm)1%混入。

第2層 10YR3/3暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土 礫(φ5~10mm)1%混入。

第365号土坑

第1層 10YR2/2 黒褐色土 礫(φ10~120mm)・炭化物(φ1~2mm)1%混入。

第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ5~70mm)3%混入。

第3層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ5~50mm)1%混入。

第366号土坑

第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ10~120mm)3%、炭化物(φ1~6mm)・

浮石(φ1mm以下)1%混入。

第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~80mm)10%、炭化物(φ1mm以下)1%混入。

第367号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~70mm)30%、浮石(φ1~2mm)1%混入。

第368号土坑

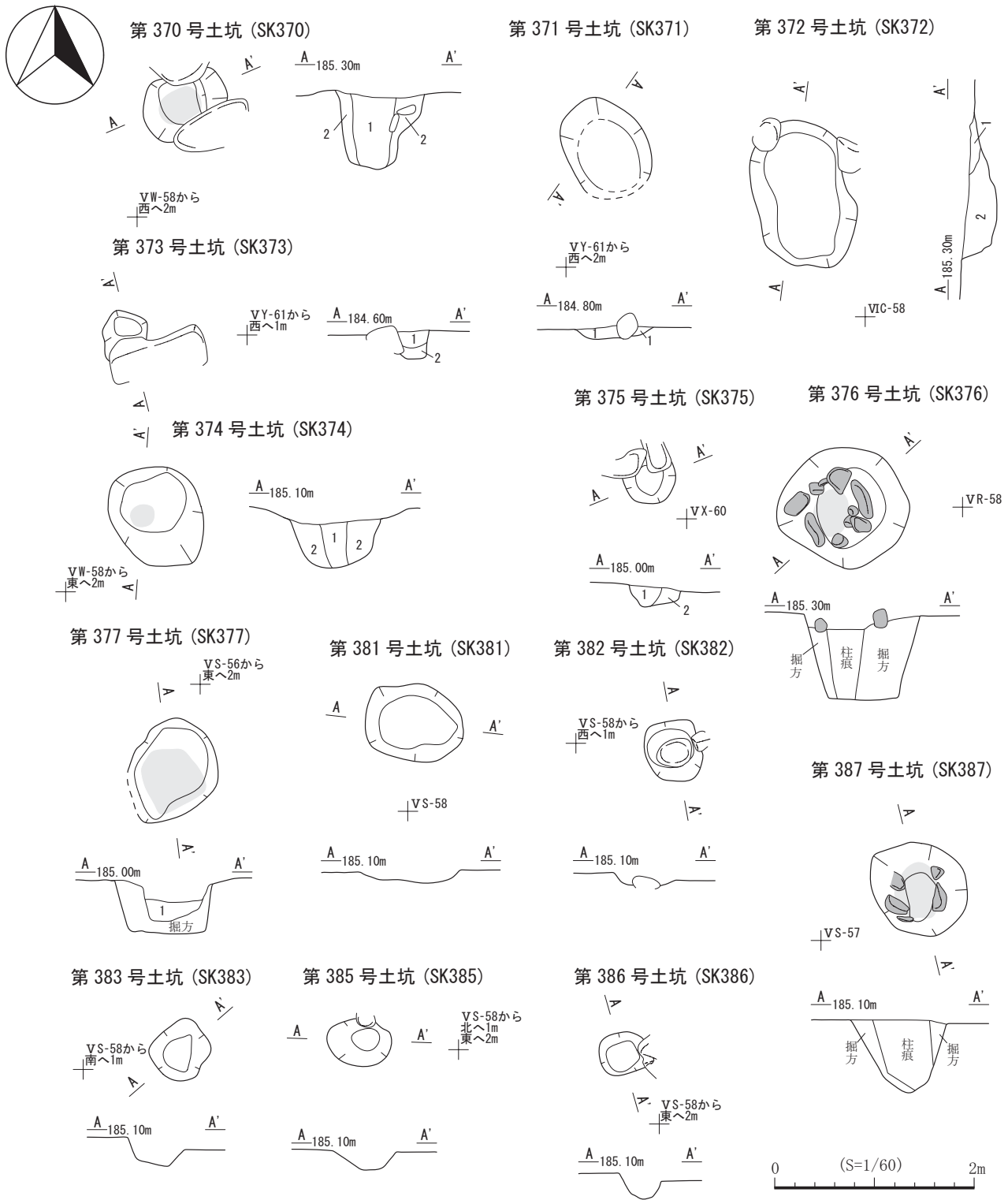
第1層 10YR3/4 暗褐色土 砂質。礫(φ10~210mm)40%、

褐色砂(10YR4/4)(III層相当)20%混入。

第369号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 砂質。礫(φ10~95mm)40%混入。

図54 北区環状外土坑 (10)
(SK317, 318, 319, 320, 361, 362, 363, 364, 365, 366, 367, 368, 369)



第370号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ300mm以下)15%混入。柱痕。
 第2層 10YR4/6 褐色土 礫(φ200mm以下)30%混入。掘方。

第371号土坑

第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物(φ1~4mm)3%、礫(φ10~60mm)1%混入。
 ※炭が多く、くすんだ感じの土。

第372号土坑

第1層 10YR2/2 黒褐色土 礫(φ100mm以下)30%、炭化物粒(φ5mm以下)7%混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ100mm以下)5%、炭化物粒(φ3mm以下)1%混入。

第373号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ1~2mm)1%混入。
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 礫(φ5~20mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。

第374号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ50mm以下)5%、炭化物粒(φ2mm以下)1%混入。柱痕。
 第2層 10YR4/6 褐色土 礫(φ200mm以下)30%混入。掘方。

第375号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ15~70mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%混入。
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 礫(φ10~50mm)・炭化物(φ1~4mm)1%混入。

第376号土坑

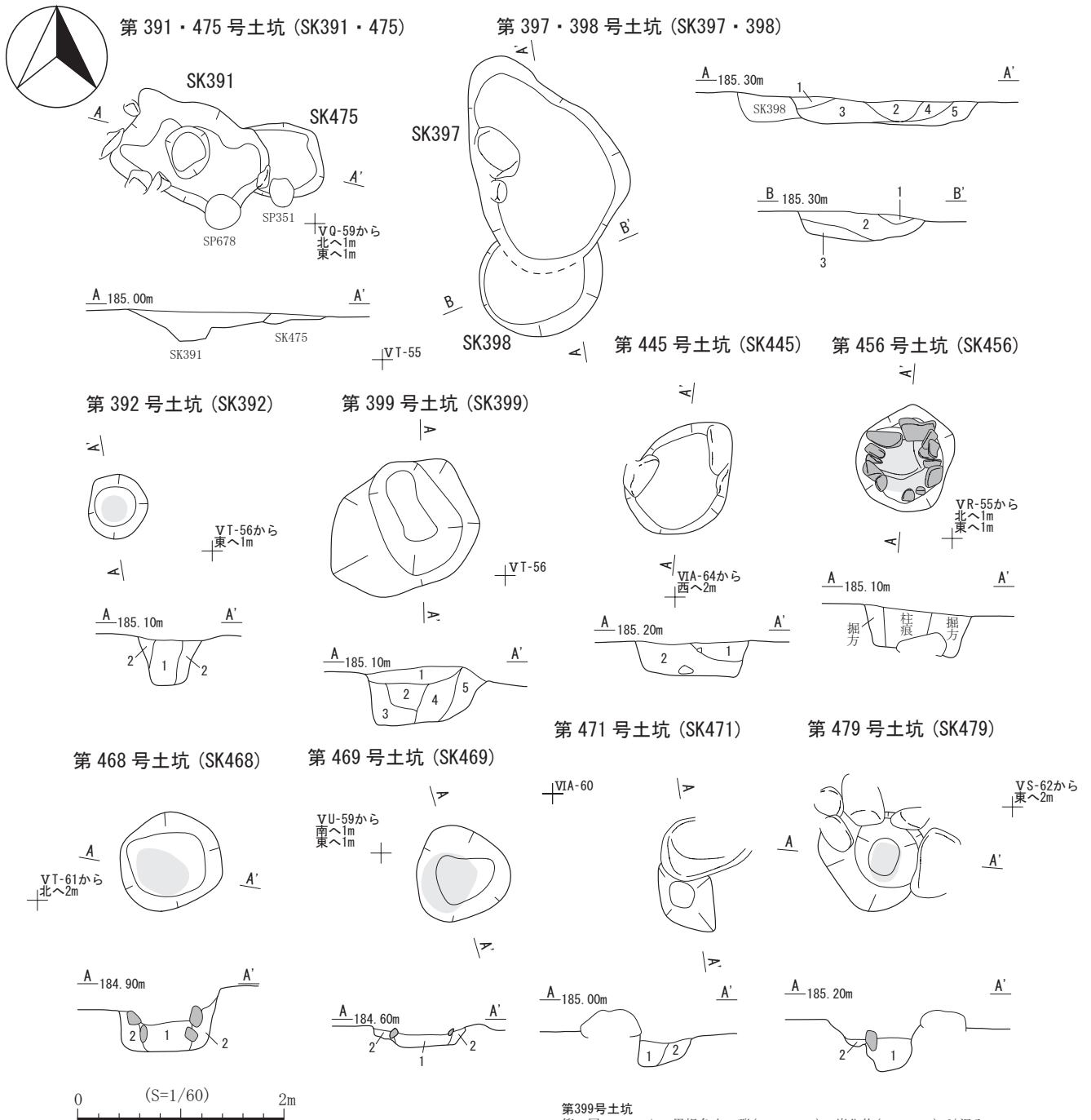
掘方 10YR3/4 暗褐色土
 10YR3/3 暗褐色土

第377号土坑

第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ30mm以下)40%混入。柱痕。

図55 北区環状外土坑 (11)

(SK370, 371, 372, 373, 374, 375, 376, 377, 381, 382, 383, 385, 386, 387)



第392号土坑

第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ7~100mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。柱痕。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ10~50mm)3%混入。掘方。

第397号土坑

第1層 10YR4/4 褐色土 炭化物(φ1~2mm)1%混入。II層相当。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~150mm)・炭化物(φ1~3mm)1%混入。
 第3層 10YR3/2 黒褐色土 礫(φ5~120mm)・炭化物(φ1~4mm)1%混入。
 第4層 10YR3/2 黒褐色土 礫(φ3~50mm)5%、炭化物(φ1~3mm)1%混入。(3層より礫が多い)
 第5層 10YR2/3 黒褐色土 ややしまっている。

第398号土坑

第1層 10YR4/4 褐色土 炭化物(φ1~2mm)・礫(φ3~70mm)1%混入。(II層相当、SK397の1層と同質)
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~2mm)3%、礫(φ5~40mm)1%混入。(SK397の3層と同質)
 第3層 10YR4/4 褐色土 炭化物(φ1~5mm)・礫(φ5~70mm)1%混入。

※397・398は、十腰内1式の包含層である黄褐色土を掘りこんでいる。

第399号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ5~40mm)・炭化物(φ1~2mm)1%混入。
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 礫(φ10~180mm)20%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。
 第3層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ10~100mm)3%混入。
 第4層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~170mm)5%混入。
 第5層 黄褐色砂礫

第445号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~3mm)・礫(φ5~50mm)1%混入。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ5~80mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。

第468号土坑

第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ1~2mm)・礫(φ10~80mm)1%混入。柱痕。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~2mm)1%混入。掘方。

第469号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ10~50mm)・炭化物(φ1~3mm)1%混入。柱痕。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 掘方。

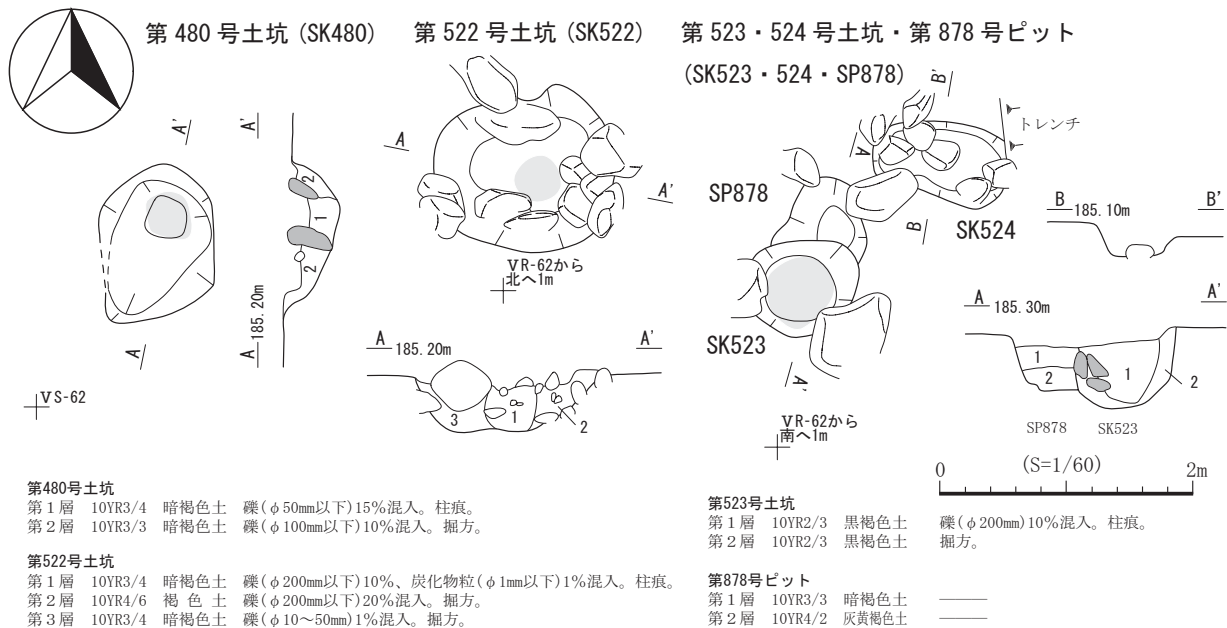
第471号土坑

第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物(φ1~2mm)・礫(φ5~20mm)1%混入。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム土(φ1~3mm)3%、礫(φ5~40mm)1%混入。

第479号土坑

第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ200mm以下)5%、炭化物粒(φ1mm以下)1%混入。柱痕。
 第2層 10YR4/6 褐色土 礫(φ30mm以下)10%混入。掘方。

図56 北区環状外土坑 (12) (SK391, 392, 397, 398, 399, 445, 456, 468, 469, 471, 475, 479)



環状部内側

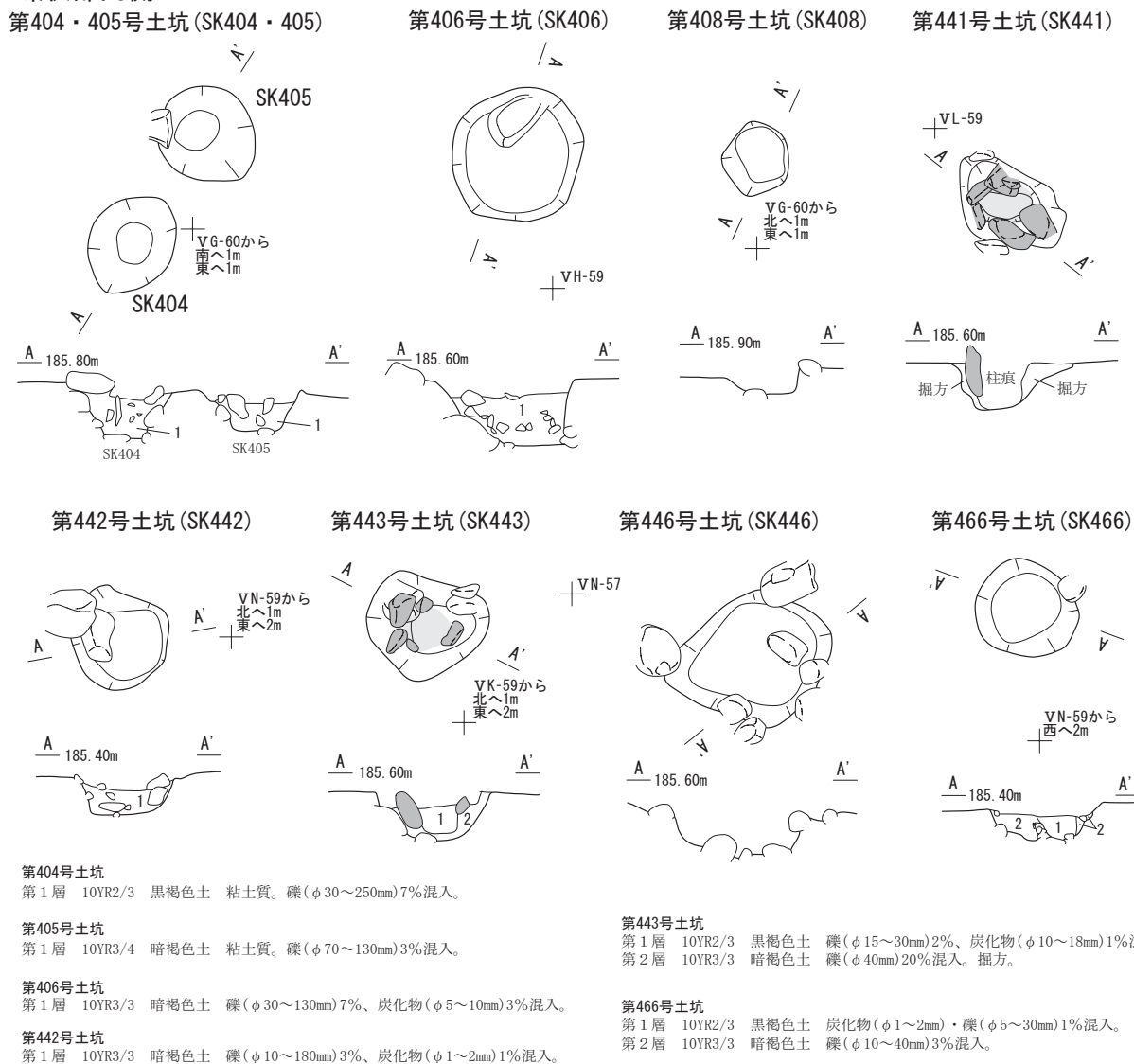


図57 北区環状外土坑 (13) (SK480, 522, 523, 524, SP878)
 環状部内側土坑 (SK404, 405, 406, 408, 441, 442, 443, 446, 466)

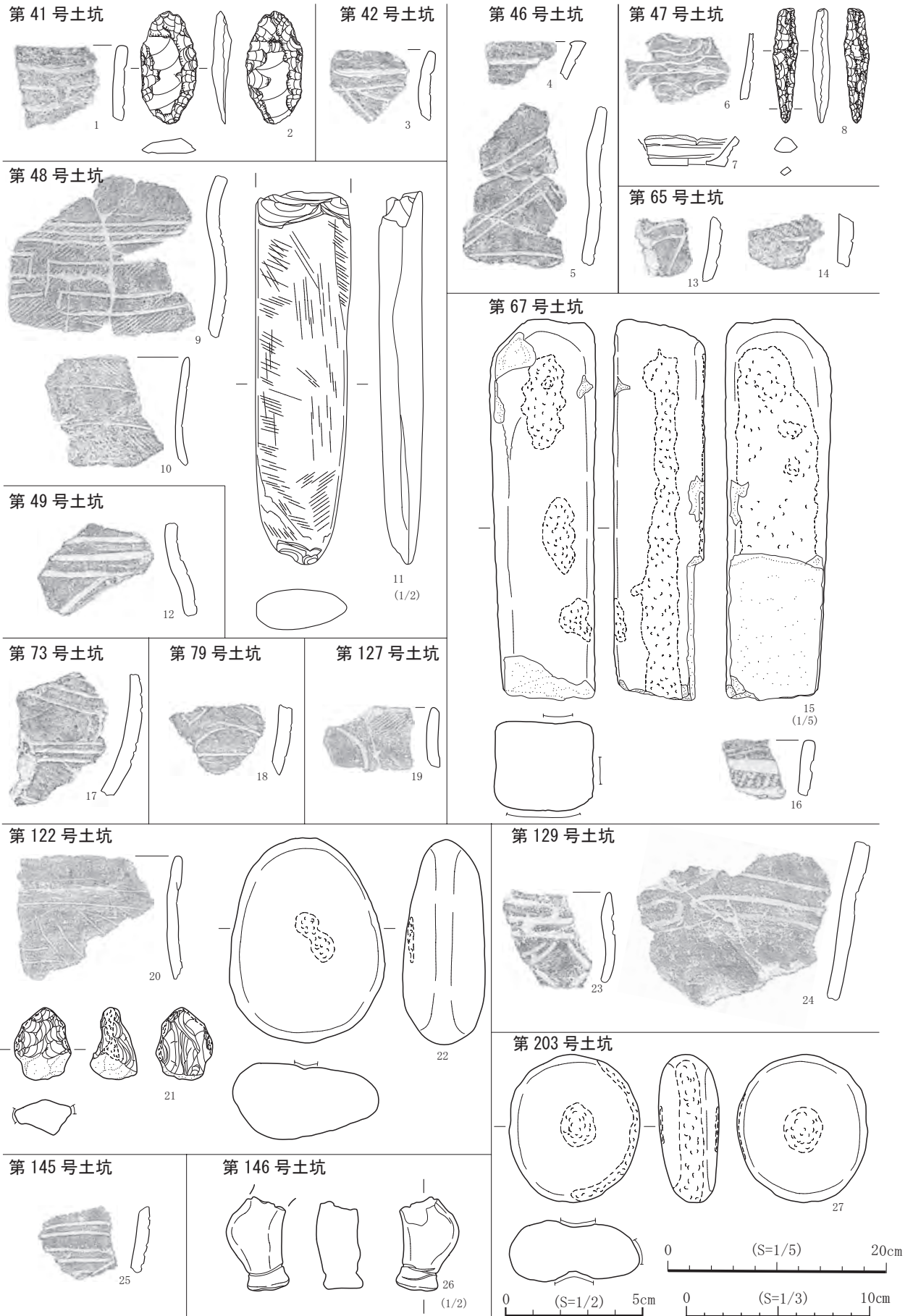
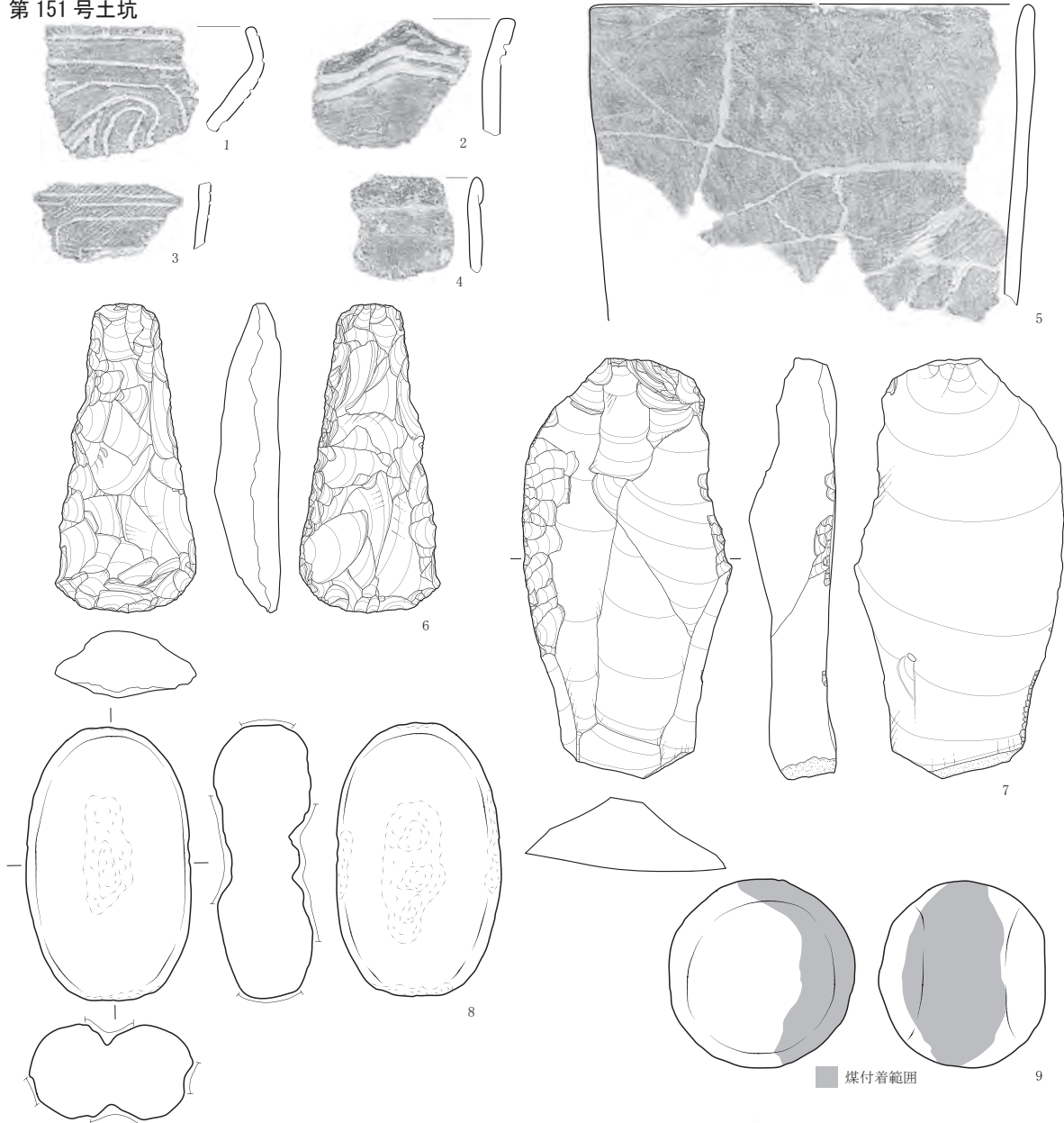


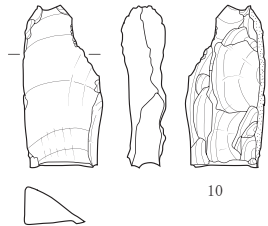
图58 北区環状外土坑出土遺物 (1)

(SK041, 042, 046, 047, 048, 049, 065, 067, 073, 079, 122, 127, 129, 145, 146, 203)

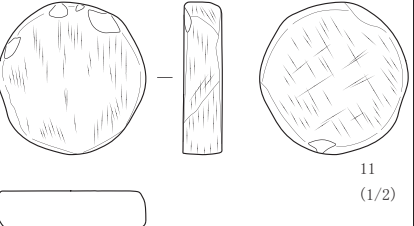
第 151 号土坑



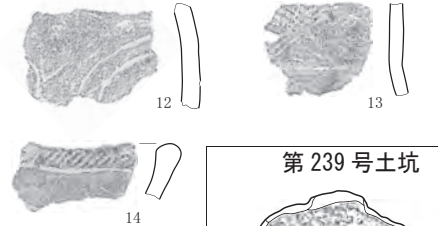
第 213 号土坑



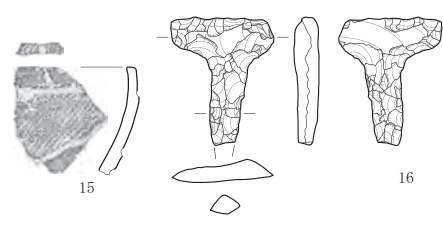
第 219 号土坑



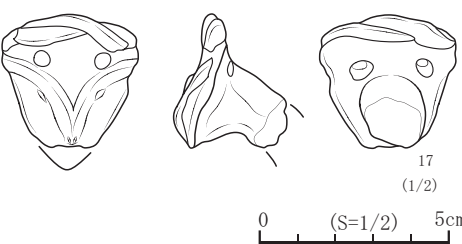
第 224 号土坑



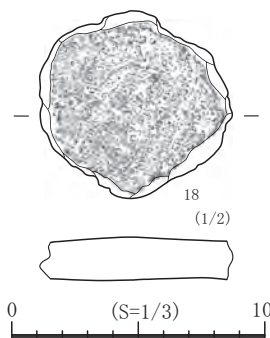
第 285 号土坑



第 297 号土坑



第 239 号土坑



0 (S=1/2) 5cm 0 (S=1/3) 10cm

图59 北区環状外土坑出土遺物（2）(SK151,213,219,224,239,285,297)

第281号土坑

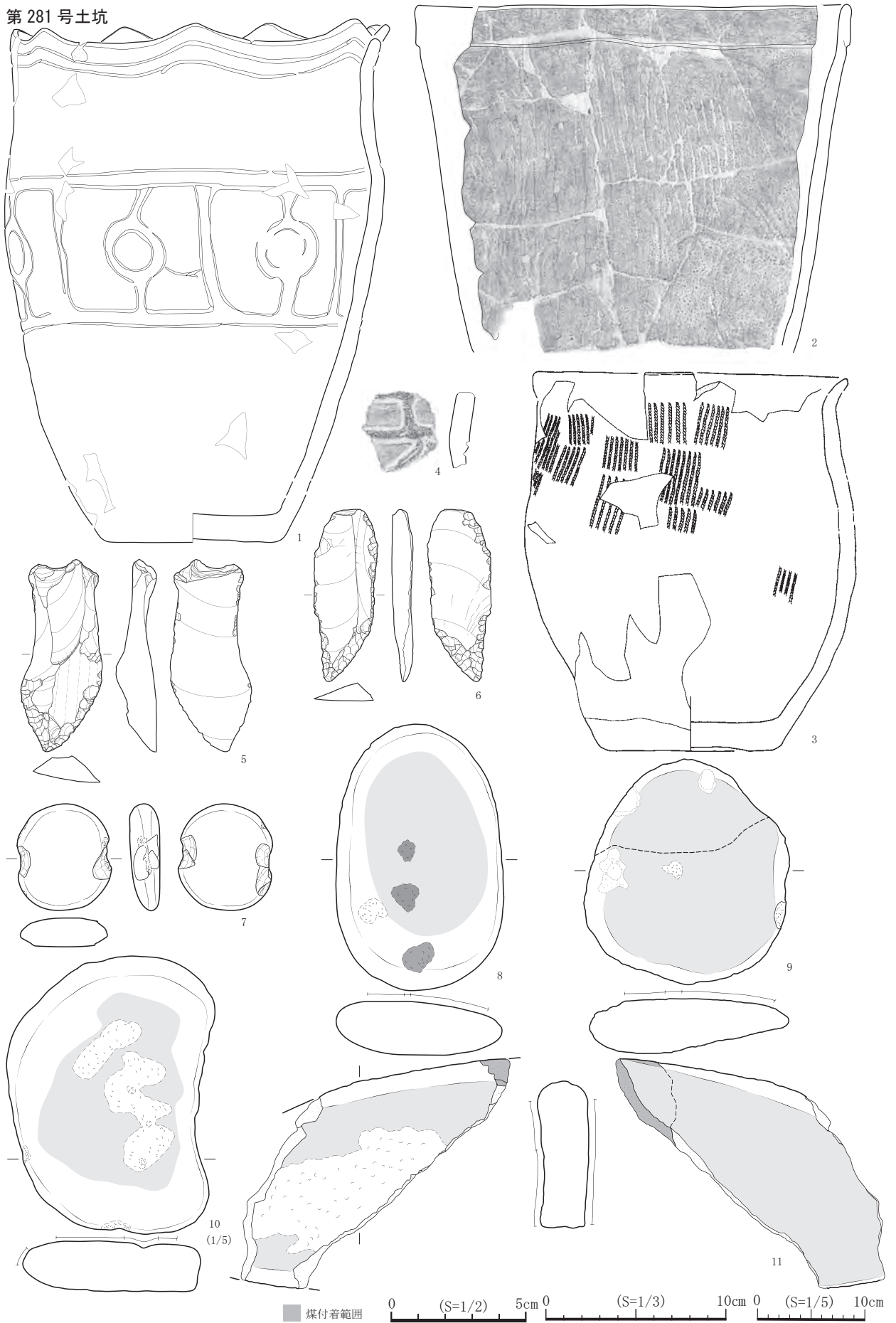


图60 北区環状外土坑出土遺物 (3) (SK281)

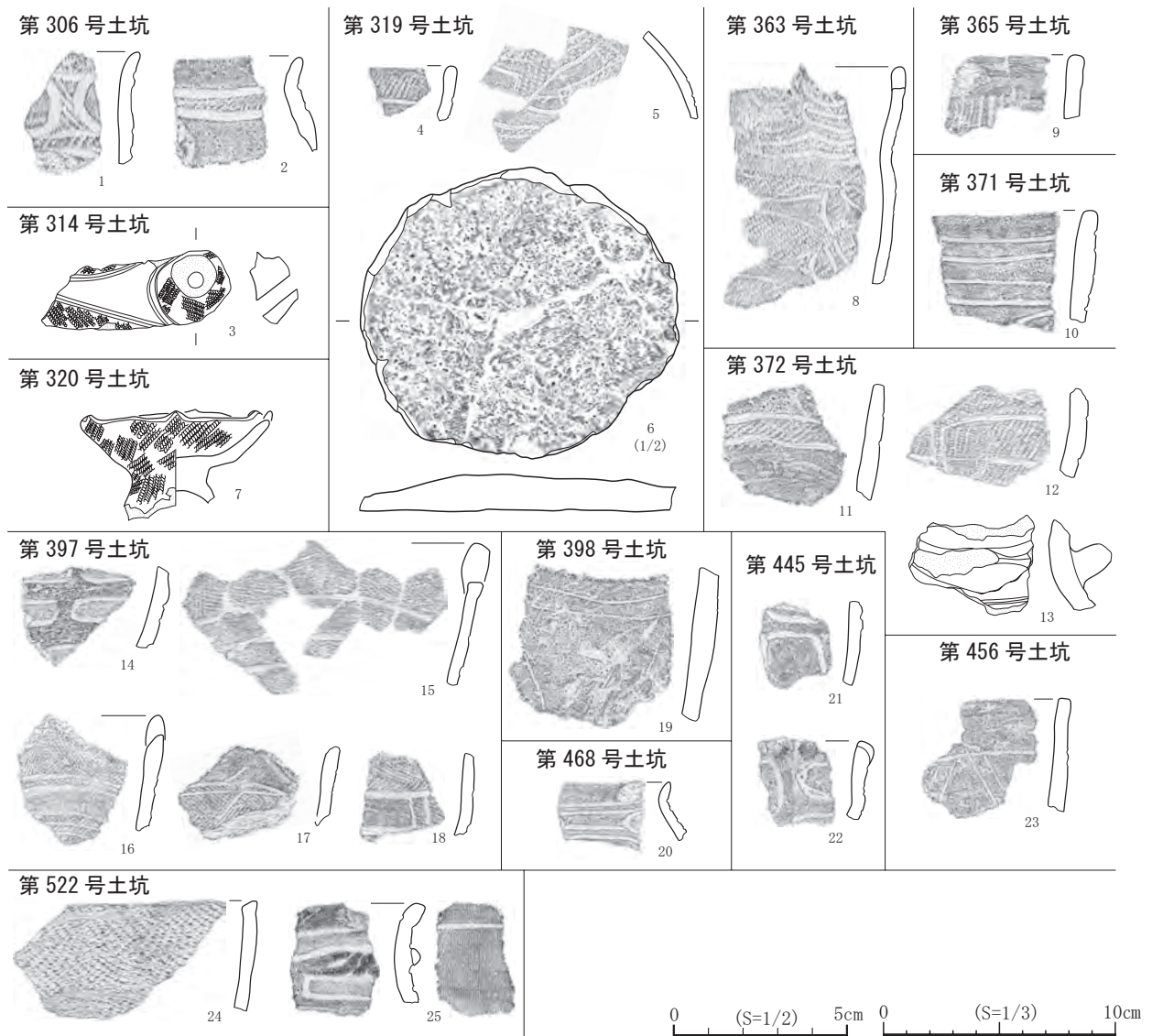


図61 北区環状外土坑出土遺物（4）

(SK306, 314, 319, 320, 363, 365, 371, 372, 397, 398, 445, 456, 468, 522)

4 環状部内側

9基検出した（第404・405・406・408・441・442・443・446・466号土坑）。Ⅲ層上面を確認面としており、すべて縄文時代に構築されたものと考えられる。直径50cm以下で平面が円形となる、深さ40cm程度の土坑が多い。柱痕が確認されたものは2基（第441・443号土坑）あるが、掘立柱建物を構成するものではなく各土坑の機能は不明である。第441号土坑は柱痕長軸が45cm、掘方長軸が115cm、第443号土坑は柱痕長軸が40cm、掘方長軸が95cmである。全体に出土遺物は少なく、また小片のため図化していない。第406号土坑で後期初頭～前葉の土器と凹石が、第442号土坑で後期前葉の土器が出土している。他地区では後期前葉の土器が中葉または後葉の土器と混在して出土している事例もあるため、後期前葉の土器が出土したことをもって当該期の遺構と判断することはできず、いずれの土坑も詳細な時期は不明とせざるを得ない。なお、空中写真では本地区内に2基の円形石組が確認できるが、これらは現代の井戸跡である。

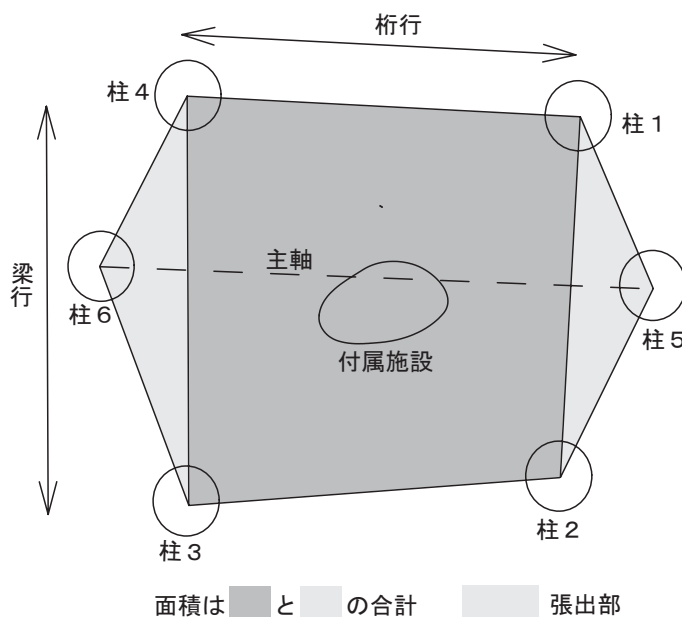
第3節 掘立柱建物跡

20棟を検出した。この中には整理作業時に平面プランを図上復元したものを含む。環状部では柱穴の集中と重複が著しいため、今回提示できなかった建物跡が存在したと考える方が合理的である。なお、6次調査の成果と組み合わせて平面プランを復元できる建物跡については、来年度以降に報告する。建物の柱穴は、土坑（略号SK）またはピット（略号SP）として調査した遺構の配置を検討して抽出した。詳細は土坑を第2節、ピットを第7節に譲る。柱穴には遺構番号とは別に任意の柱番号を付した。遺構番号との対応やその他の計測値は図中の表にまとめた。建物跡の中央に位置する焼土および規模の大きな土坑は、建物に伴う可能性もあるため付属施設として扱った。それぞれ「中央焼土」、「中央土坑」と表記したことがある。柱穴の確認面は縄文時代の地表面より下位のⅢ層上面であり、床の有無は検討できなかったため、建物構造が高床式か平地式かについては不明である。

6本柱建物の基本形は、1間×1間の両側に三角形の張出部が付属するものである。四角形に配置された柱穴を柱1～柱4、張出部に位置する2基を柱5・柱6とした。柱5・柱6は棟持柱の可能性もあるが、平面規模や深さは他の柱穴と同程度のもが多い。平面図には隣り合う柱同士を結んだ線を示し、その長さを柱間距離とした。建物規模の計測基準は次のとおりとし、模式図を下に示した。

- 主 軸：張出部に位置する2本の柱（柱5－柱6）を結ぶ線。
- 桁 行：主軸に平行する柱1－柱4、柱2－柱3のうち柱間距離の長い方。
- 梁 行：主軸に直交する柱1－柱2、柱3－柱4のうち柱間距離の長い方。
- 面 積：柱同士を結ぶ、最も外側の線に囲まれた範囲（下図の濃淡の網掛け範囲を合わせたもの）。
- 張出部：柱1－柱5－柱2、柱3－柱4－柱6を結ぶ線に囲まれた範囲（下図の淡い網掛け範囲）。

なお、1間×1間の4本柱建物は、任意の柱番号を柱1～柱4とした。隣り合う柱同士の柱間距離のうち長いものを長軸、それと直交するものを短軸とし、主軸は設定していない。面積は、4本の柱を結ぶ線に囲まれた範囲である。



柱	張出部	梁・桁の長さ		
		梁長い	桁長い	梁桁同じ
6本	両側狭い	3号 6号 7号 11号 13号 14号 15号 16号 17号 18号 19号 20号	8号 12号	9号 10号
	片側広い		4号	
	両側広い		1号 2号	
4本	なし	5号		

掘立柱建物跡計測位置と構造分類

1 南区環状外

3棟を検出した（第1・2・3号掘立柱建物跡：略号SB）。すべて6本柱建物である。隣接した位置にあるSB01・02は、両側の張出部を広くとる構造と主軸方位に共通性がある。SB01の中央では焼土が検出されている。SB03は柱穴と同規模の土坑が重複しており、同じ場所で建て替えられた可能性がある。建物構造は両側の張出部が狭く、梁行が長い。主軸方位はほぼ南北方向である。柱穴から出土した土器は縄文時代後期前葉のものが多数を占めるが、SB01柱1（SK257）・柱3（SK261）では後期後葉の土器が、柱6（SK262）では後期中葉の土器が後期前葉のものと混在して出土している（図24）。また、SB02柱3（SK264）では後期後葉の土器（図24）が、SB03建て替え時の柱穴の可能性のある土坑（SK176）からは後期後葉の土器（図23）が出土しており、SB01～SB03は縄文時代後期後葉の遺構と考えられる。

2 北区環状外

8棟を検出した（第4・5・6・7・8・9・10・11号掘立柱建物跡：略号SB）。建物同士の重複はない。SB05は4本柱建物、そのほかは6本柱建物である。主軸方位はほぼ東西方向であるものが多い。SB04は片側の張出部が広く梁行が長い構造で、中央から焼土が検出されている。SB06・07・11は両側の張出部が狭く、梁行が長い。SB06・11は中央で土坑が検出されている。SB08は両側の張出部が狭く、桁行が長い。SB09・10は両側の張出部が狭く、梁行と桁行が同程度である。各建物跡の柱穴および中央土坑で出土した土器は、縄文時代後期前葉のものが主体である。SB05柱3（SK046）など一部で後期後葉の可能性のある土器片も出土しているが、小片のため図示できなかった。SB04～SB11の構築時期は縄文時代後期と考えられるが、詳細な時期は不明である。

3 環状部

9棟を検出した（第12・13・14・15・16・17・18・19・20号掘立柱建物跡：略号SB）。すべて両側の張出部が狭い6本柱建物で、主軸は環状の円弧に沿っておかれている。SB12とSB13・14は建物が重複している。柱穴の切り合い関係からSB12はSB14より新しく、SB12とSB13の先後関係は不明である。SB17とSB18、SB18とSB19は柱穴が重複している。柱穴の切り合い関係からSB17はSB18より古く、SB18とSB19の先後関係は不明である。また、すべての建物で柱穴が他の同規模の土坑と重複するか、同一柱穴に複数の柱痕をもつため、建物は同じ場所で建て替えられた可能性がある。特にSB20周辺は重複が激しく、提示した以外の掘立柱建物跡が存在した可能性は高い。SB12は桁行が長く、SB13・14・15・16・17・18・19・20は梁行が長い構造である。各建物跡の柱穴からは縄文時代後期前葉の土器が多く出土しているが、これらと混在してSB16柱2（SK414）とSB18柱5（SK341）では後期後葉の土器が出土しており（図40）、少なくともSB16・18は後期後葉の遺構と考えられる。なお、本区域では掘立柱建物跡の柱穴としていない柱痕をもつ土坑が多数検出されており、これらでは後期前葉と後期後葉の土器が混在して出土する例がある（SK029・150・200・218・355・356）。本区域の建物跡は、縄文時代後期後葉のものである可能性が高い。

なお、環状部内側でも少数の土坑・ピットを検出しているが、掘立柱建物跡は検出されなかった。この区域は、環状部に掘立柱建物が構築されていた時期には空地であったと考えられる。

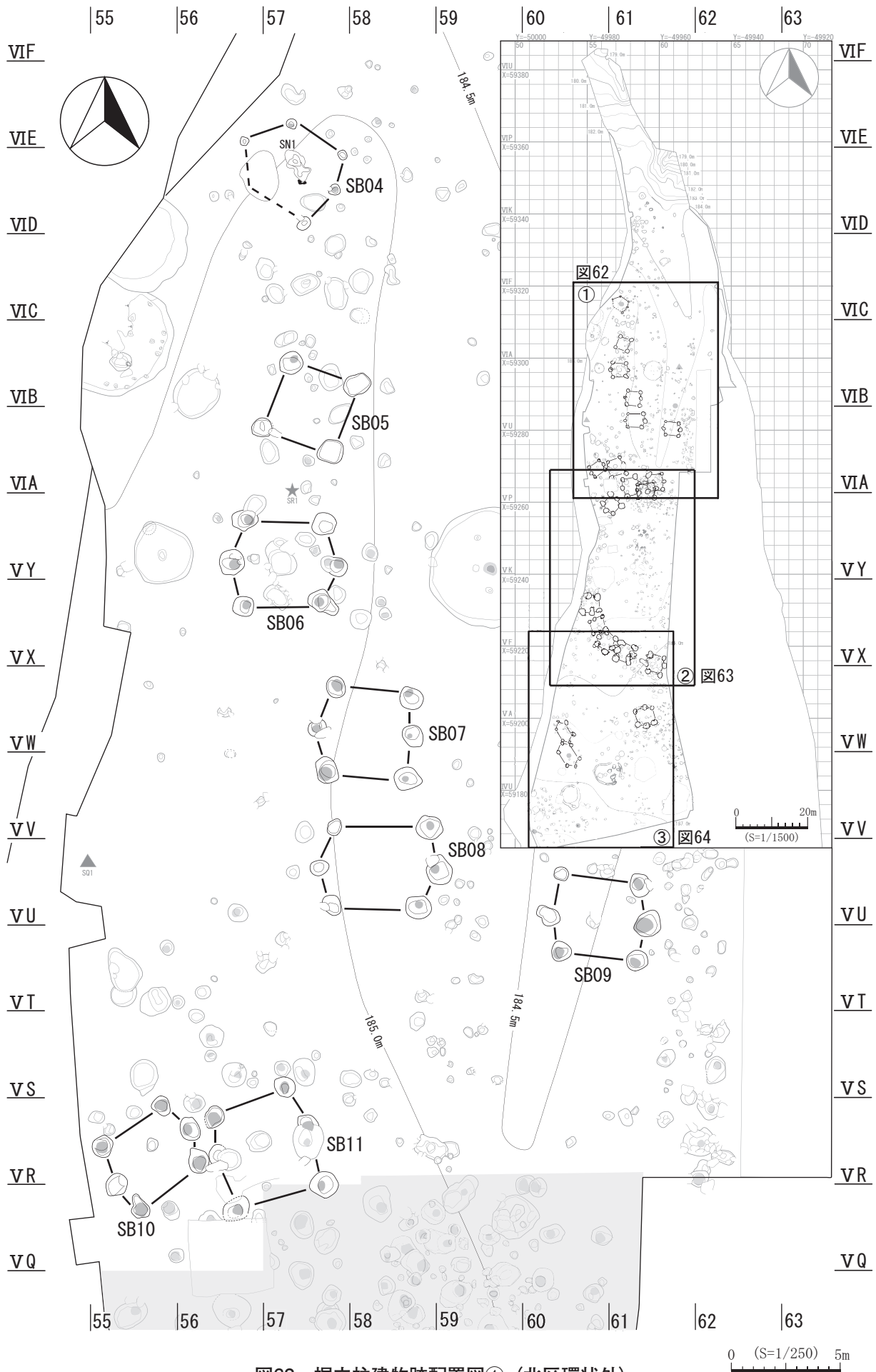


図62 掘立柱建物跡配置図①（北区環状外）

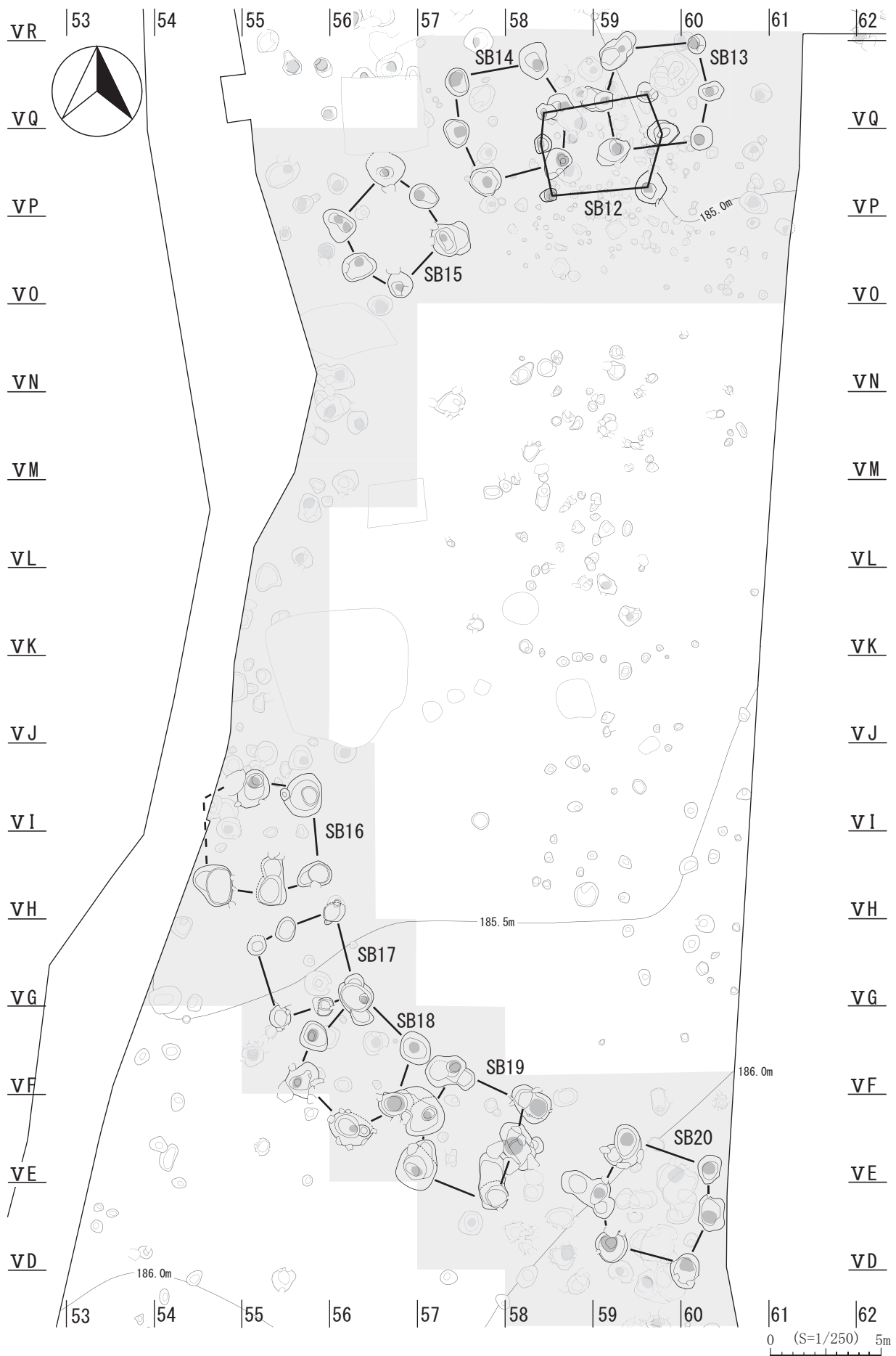


図63 掘立柱建物跡配置図②（環状部）

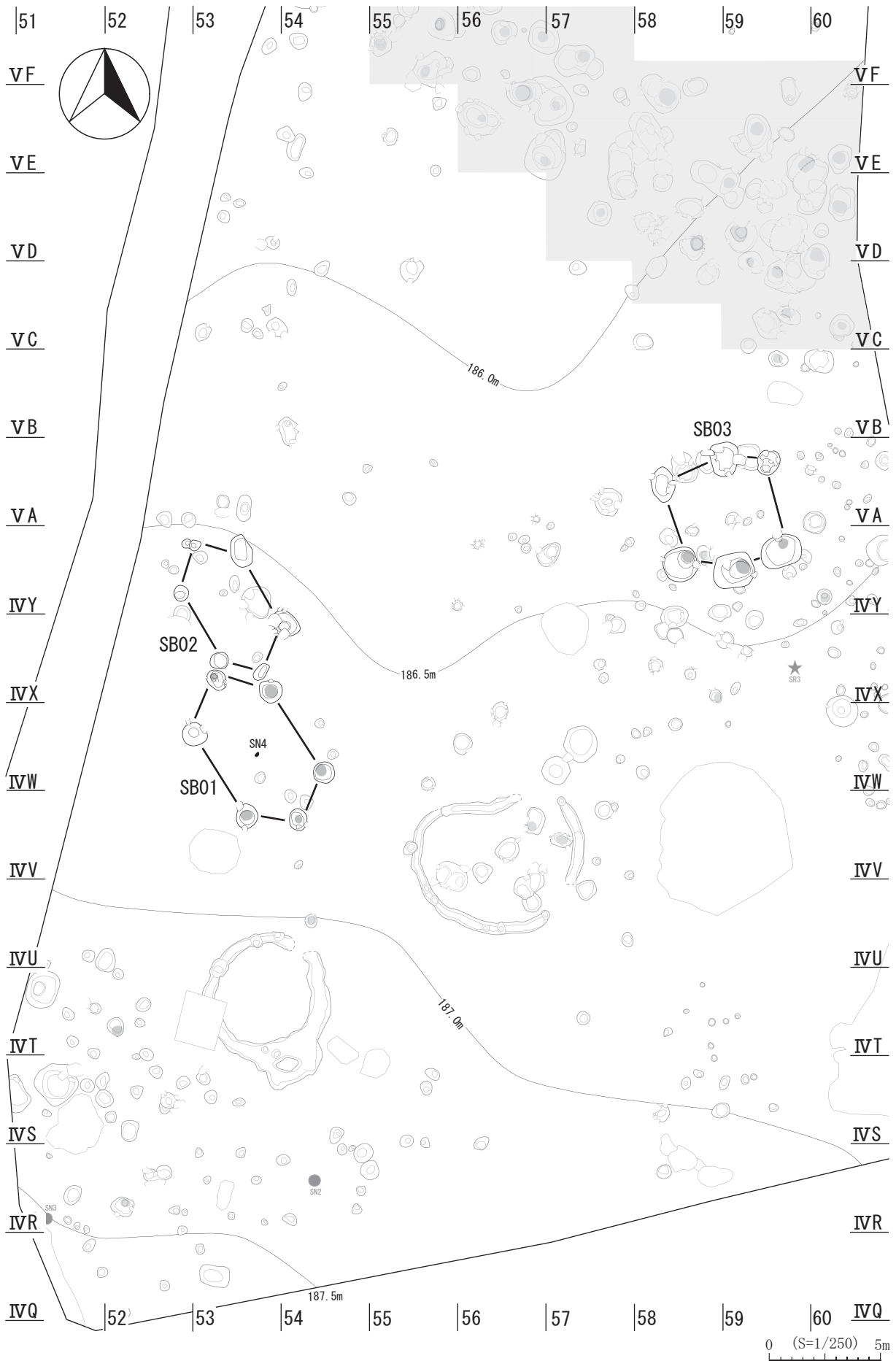
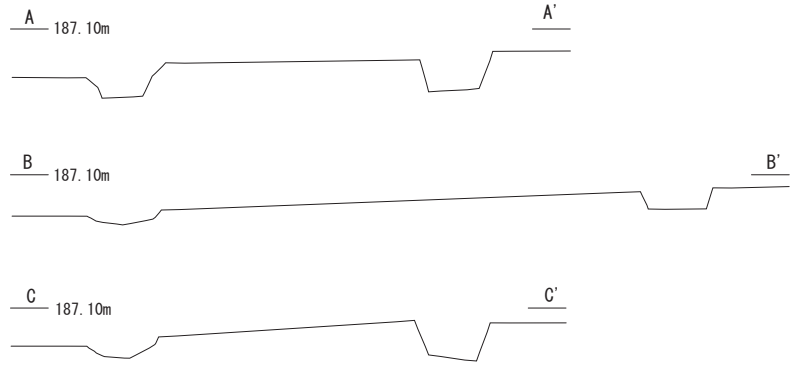
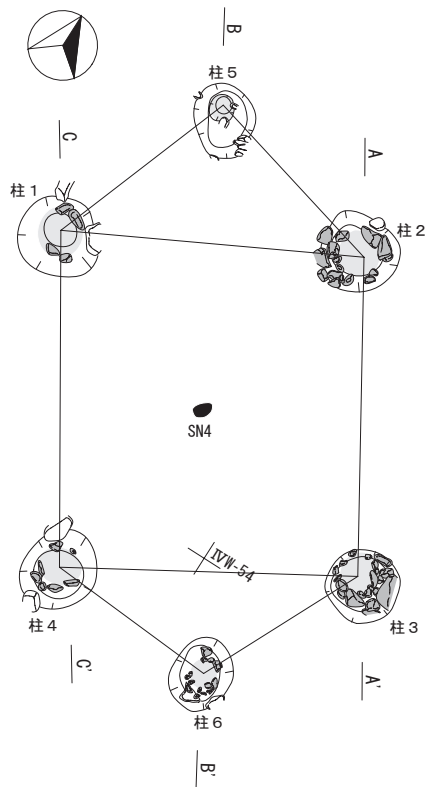


図64 掘立柱建物跡配置図③ (南区環状外)

第1号掘立柱建物跡 (SB01)



SB01

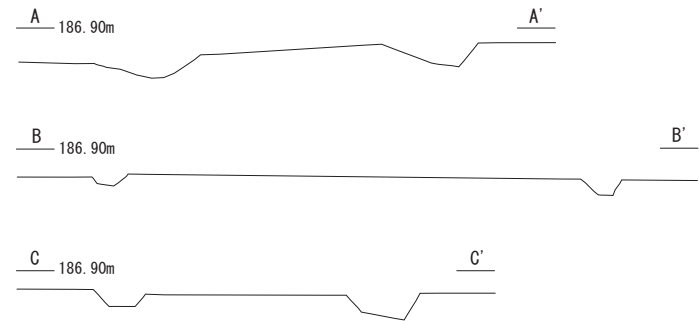
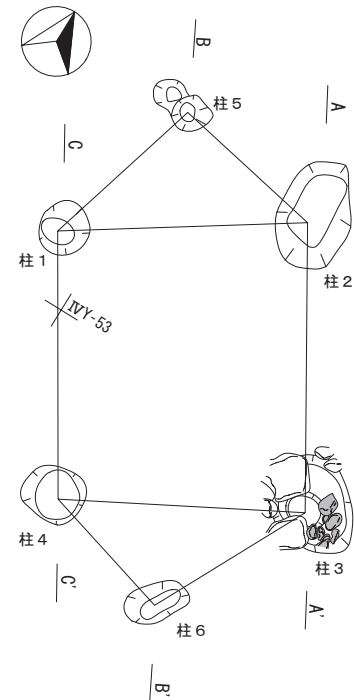
番号	遺構番号	掲載図	柱痕	底面標高	掲載遺物
柱1	SK257	図20	あり	186.40m	図24-18
柱2	SK265	図20	あり	186.20m	—
柱3	SK261	図20	あり	186.25m	図24-19・20
柱4	SK251	図19	あり	186.40m	—
柱5	SK332	図21	あり	186.40m	—
柱6	SK262	図20	あり	186.60m	図24-21~23
付属	SN4	図76	(焼土)	—	—

柱間	距離
1 - 2	3.9m
3 - 4	4.0m
1 - 4	4.5m
2 - 3	4.3m
5 - 6	7.5m

柱間	距離
1 - 5	2.6m
2 - 5	2.6m
3 - 6	2.5m
4 - 6	2.3m

面積	23.3㎡
----	-------

第2号掘立柱建物跡 (SB02)



SB02

番号	遺構番号	掲載図	柱痕	底面標高	掲載遺物
柱1	SK266	図20	—	186.40m	—
柱2	SP321	図91	—	186.20m	—
柱3	SK264	図20	—	186.40m	図24-24~27
柱4	SK275	図21	—	186.25m	—
柱5	SP318	図91	—	186.40m	—
柱6	SP609	図91	—	186.30m	—

柱間	距離
1 - 2	3.4m
3 - 4	3.3m
1 - 4	3.6m
2 - 3	4.0m
5 - 6	6.5m

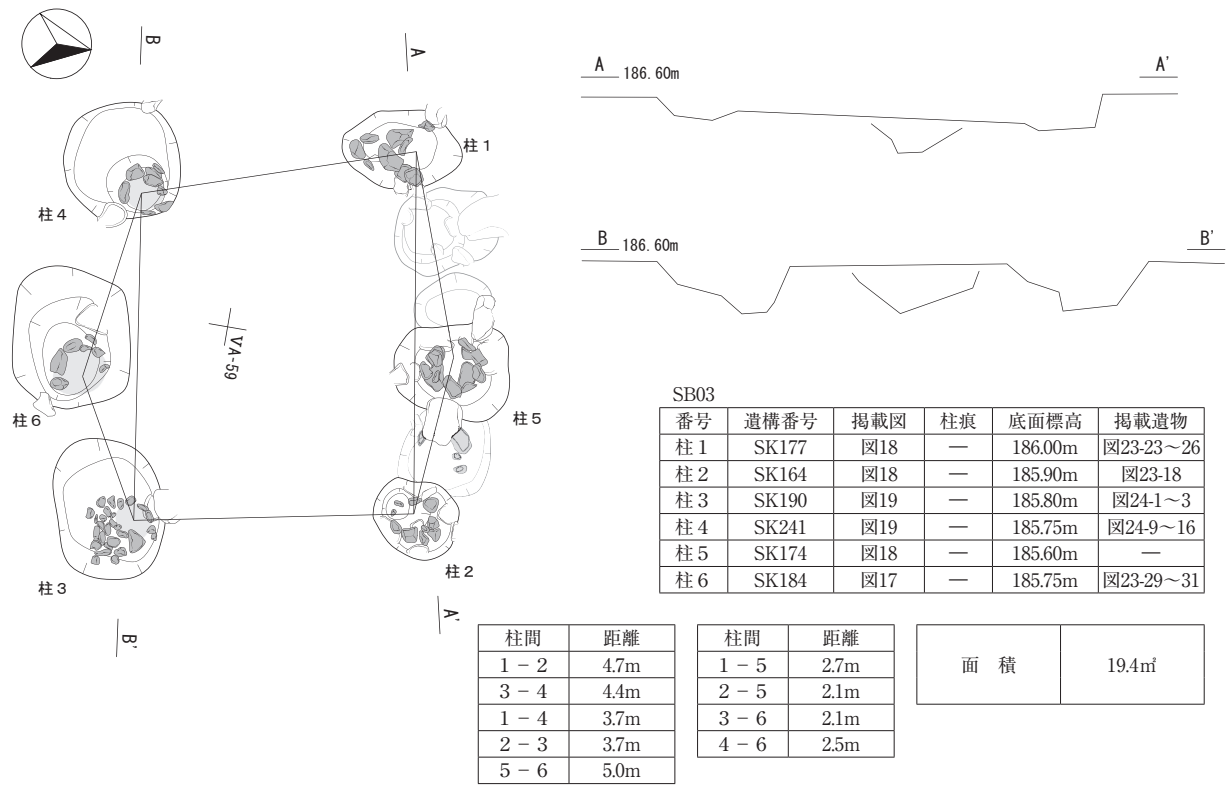
柱間	距離
1 - 5	2.2m
2 - 5	2.2m
3 - 6	2.3m
4 - 6	1.9m

面積	16.7㎡
----	-------

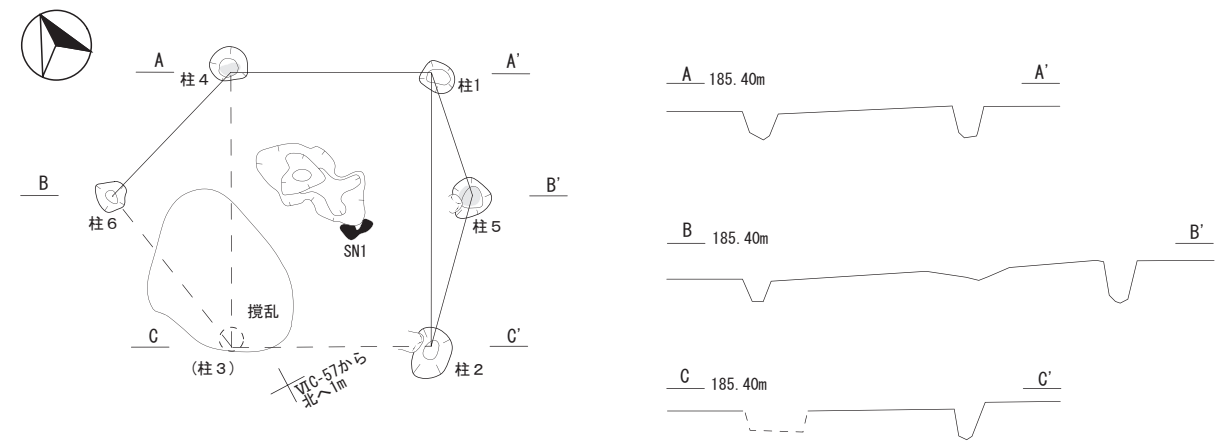
0 (S=1/100) 2m

図65 掘立柱建物跡 (1)

第3号掘立柱建物跡 (SB03)



第4号掘立柱建物跡 (SB04)



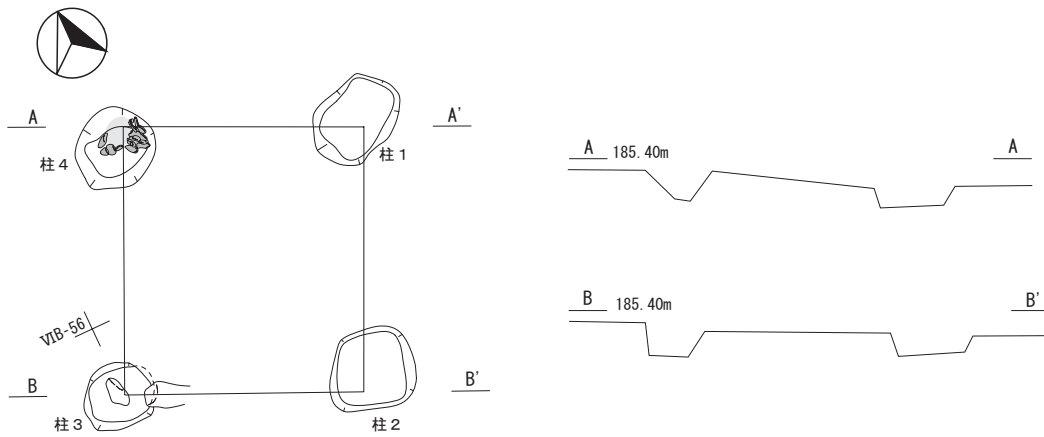
SB04

番号	遺構番号	掲載図	柱痕	底面標高	掲載遺物	柱間	距離	柱間	距離	面積	面積
柱1	SK240	図51	—	184.70m	—	1-2	3.6m	1-5	1.7m	面積	13.5m ² (推定)
柱2	SK238	図51	—	184.70m	—	3-4	—	2-5	2.1m		
柱3	(欠)	—	—	—	—	1-4	2.7m	3-6	—		
柱4	SK235	図51	あり	184.65m	—	2-3	—	4-6	2.3m		
柱5	SK293	図52	あり	184.60m	—	5-6	4.8m				
柱6	SP198	図82	—	184.65m	—						
付属	SN001	図76	(焼土)	184.80m	—						

0 (S=1/100) 2m

図66 掘立柱建物跡 (2)

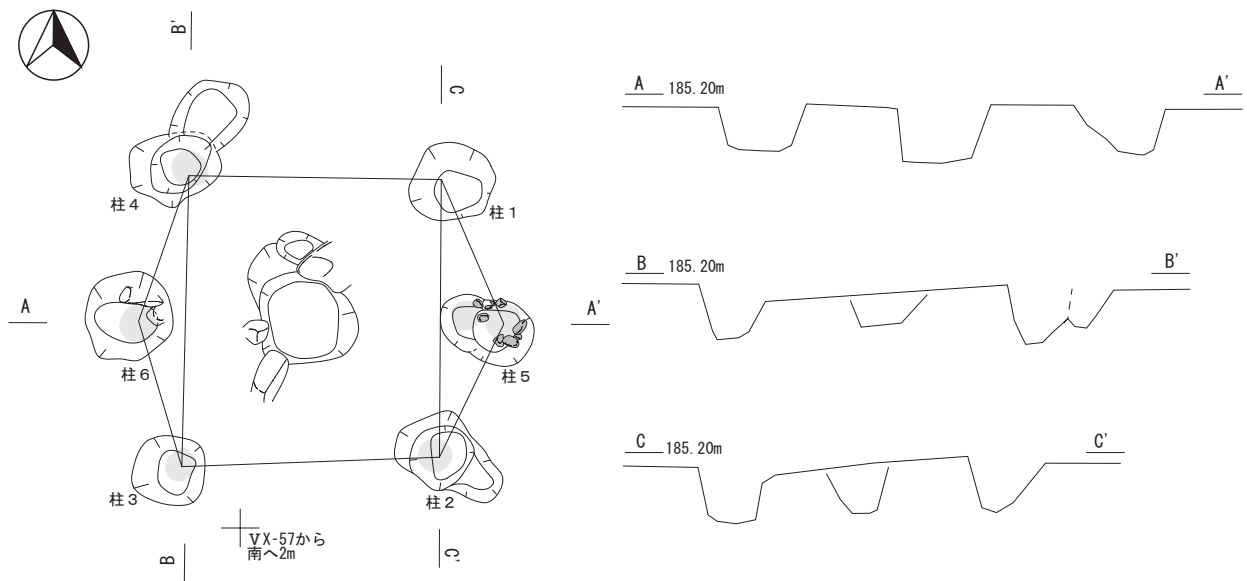
第5号掘立柱建物跡 (SB05)



SB05

番号	遺構番号	掲載図	柱痕	底面標高	掲載遺物	柱間	距離	面積	11.2㎡
柱1	SK127	図47	—	184.75m	図58-19	1-2	3.5m		
柱2	SK122	図47	—	184.80m	図58-20~22	3-4	3.5m		
柱3	SK046	図45	—	184.80m	図58-4・5	1-4	3.2m		
柱4	SK309	図53	あり	184.80m	—	2-3	3.2m		

第6号掘立柱建物跡 (SB06)



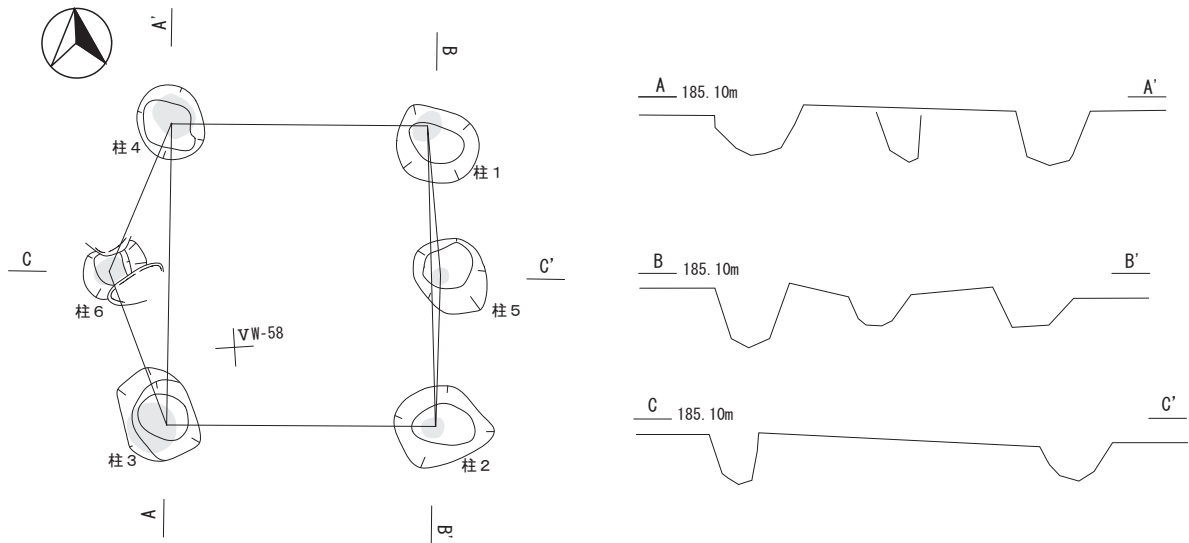
SB06

番号	遺構番号	掲載図	柱痕	底面標高	掲載遺物	柱間	距離	柱間	距離	面積	15.4㎡
柱1	SK305	図53	—	184.25m	—	1-2	3.7m	1-5	2.1m		
柱2	SP077	図84	あり	184.40m	図97-9	3-4	3.8m	2-5	1.9m		
柱3	SP078	図84	あり	184.30m	—	1-4	3.3m	3-6	2.0m		
柱4	SK306	図53	あり	184.25m	図61-1・2	2-3	3.4m	4-6	2.0m		
柱5	SK311	図53	あり	184.40m	—	5-6	4.8m				
柱6	SP055	図84	あり	184.45m	—						
付属	SK151	図48	—	184.30m	図59-1~9						

0 (S=1/100) 2m

図67 掘立柱建物跡 (3)

第7号掘立柱建物跡 (SB07)



SB07

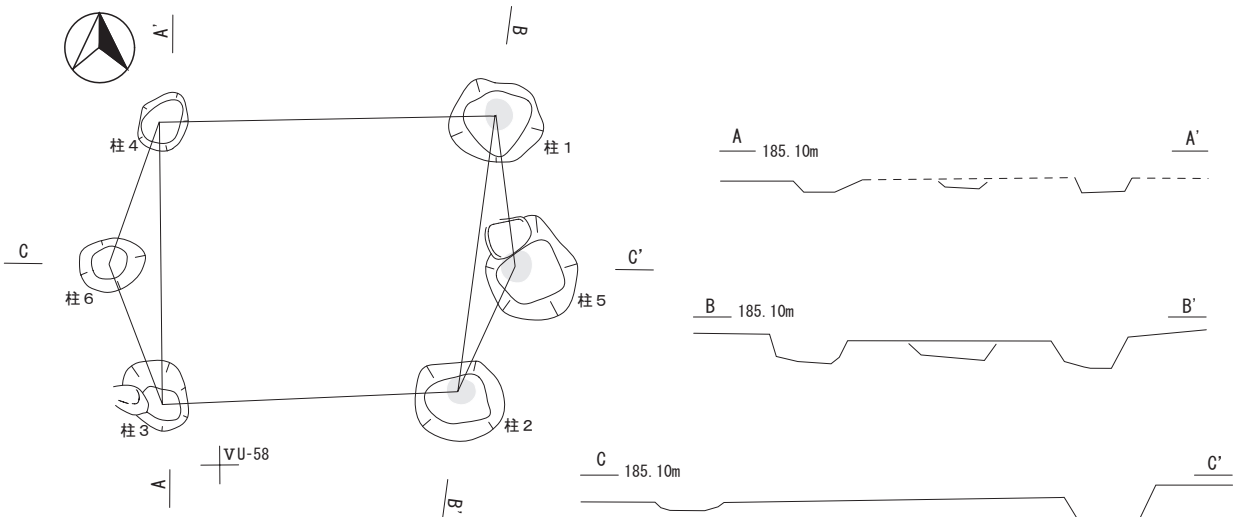
番号	遺構番号	掲載図	柱痕	底面標高	掲載遺物
柱1	SP076	図84	あり	184.10m	図97-8
柱2	SK144	図48	あり	184.40m	—
柱3	SK049	図45	あり	184.30m	図58-12
柱4	SP079	図84	あり	184.20m	—
柱5	SK374	図55	あり	184.30m	—
柱6	SK370	図55	あり	184.20m	—

柱間	距離
1 - 2	4.0m
3 - 4	4.0m
1 - 4	3.4m
2 - 3	3.5m
5 - 6	4.6m

柱間	距離
1 - 5	2.0m
2 - 5	2.0m
3 - 6	2.1m
4 - 6	2.1m

面積	15.7㎡
----	-------

第8号掘立柱建物跡 (SB08)



SB08

番号	遺構番号	掲載図	柱痕	底面標高	掲載遺物
柱1	SK071	図46	あり	184.50m	—
柱2	SK121	図47	あり	184.40m	—
柱3	SK367	図54	—	184.55m	—
柱4	SK076	図46	—	184.55m	—
柱5	SK079	図47	あり	184.50m	図58-18
柱6	SK058	図46	—	184.60m	—

柱間	距離
1 - 2	3.7m
3 - 4	3.7m
1 - 4	4.4m
2 - 3	3.9m
5 - 6	5.3m

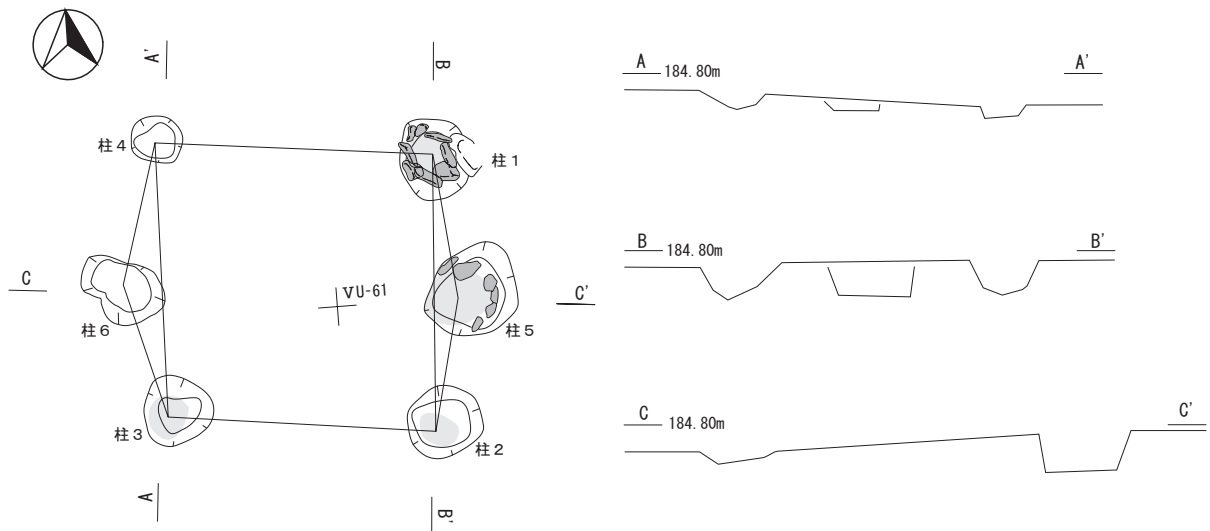
柱間	距離
1 - 5	2.0m
2 - 5	1.8m
3 - 6	2.0m
4 - 6	2.0m

面積	17.6㎡
----	-------

0 (S=1/100) 2m

図68 掘立柱建物跡 (4)

第9号掘立柱建物跡 (SB09)



SB09

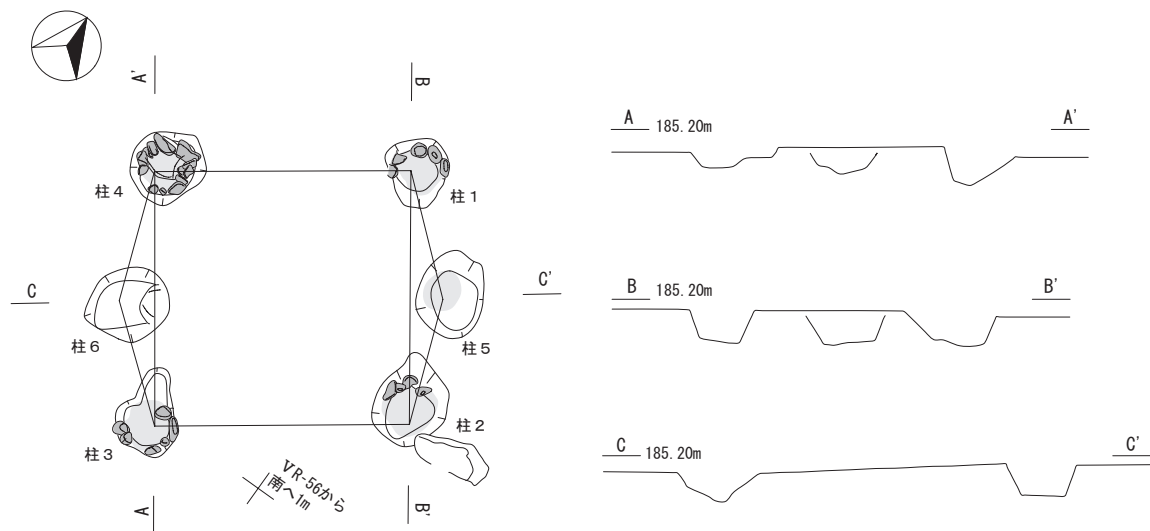
番号	遺構番号	掲載図	柱痕	底面標高	掲載遺物
柱1	SK042	図45	あり	184.15m	図58-3
柱2	SK468	図56	あり	184.20m	図61-20
柱3	SK469	図56	あり	184.30m	—
柱4	SK366	図54	—	184.20m	—
柱5	SK041	図45	あり	184.20m	図58-1・2
柱6	SK067	図46	—	184.30m	図58-15・16

柱間	距離
1 - 2	3.7m
3 - 4	3.6m
1 - 4	3.7m
2 - 3	3.5m
5 - 6	4.4m

柱間	距離
1 - 5	1.9m
2 - 5	1.8m
3 - 6	1.8m
4 - 6	1.9m

面積	14.6㎡
----	-------

第10号掘立柱建物跡 (SB10)



SB10

番号	遺構番号	掲載図	柱痕	底面標高	掲載遺物
柱1	SK073	図46	あり	184.60m	図58-17
柱2	SK213	図49	あり	184.60m	図59-10
柱3	SK215	図49	あり	184.70m	—
柱4	SK456	図56	あり	184.50m	図61-23
柱5	SK156	図49	あり	184.60m	—
柱6	SP756	図86	—	184.60m	—

柱間	距離
1 - 2	3.3m
3 - 4	3.4m
1 - 4	3.4m
2 - 3	3.4m
5 - 6	4.3m

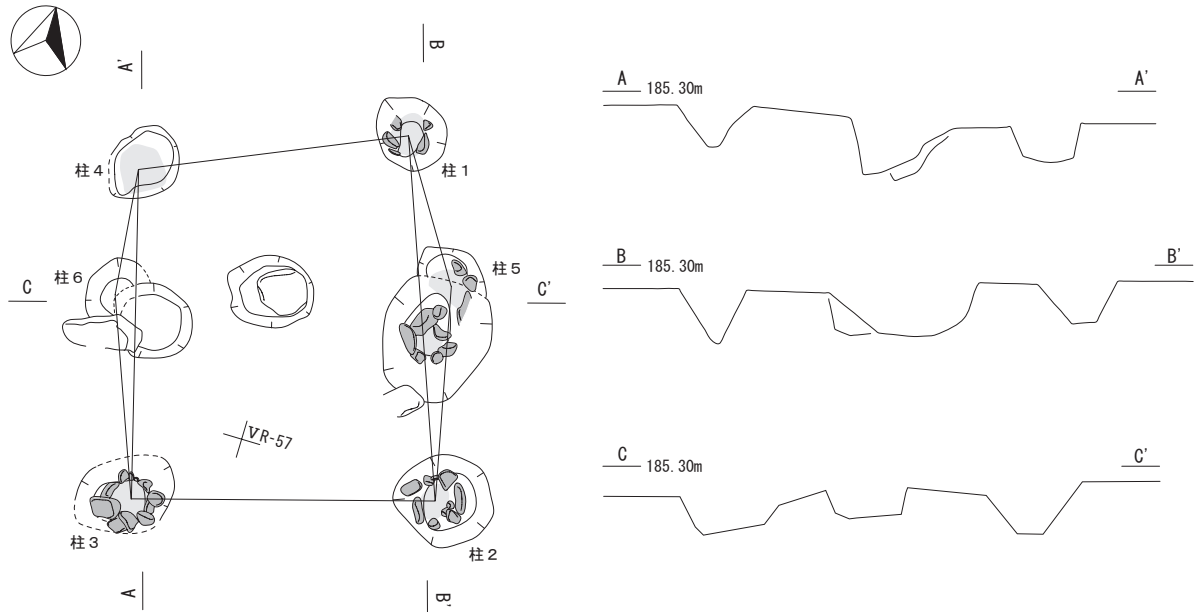
柱間	距離
1 - 5	1.7m
2 - 5	1.7m
3 - 6	1.7m
4 - 6	1.8m

面積	12.9㎡
----	-------

0 (S=1/100) 2m

図69 掘立柱建物跡 (5)

第11号掘立柱建物跡 (SB11)



SB11

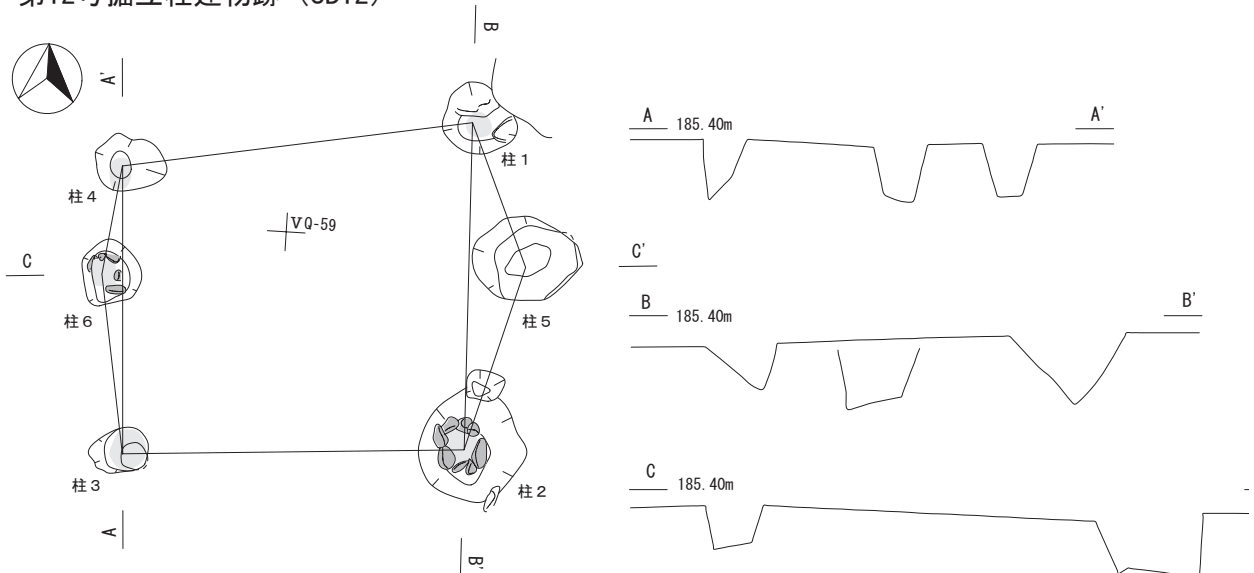
番号	遺構番号	掲載図	柱痕	底面標高	掲載遺物
柱1	SK387	図55	あり	184.25m	—
柱2	SK376	図55	あり	184.50m	—
柱3	SK211	図49	あり	184.55m	—
柱4	SK377	図55	あり	184.35m	—
柱5	SK478	図52	あり	184.40m	—
柱6	SK465	図46	—	184.10m	—
付属	SK219	図49	—	184.60m	図59-11

柱間	距離
1-2	4.8m
3-4	4.4m
1-4	3.6m
2-3	4.0m
5-6	4.5m

柱間	距離
1-5	2.1m
2-5	2.8m
3-6	2.7m
4-6	1.7m

面積	19.1㎡
----	-------

第12号掘立柱建物跡 (SB12)



SB12

番号	遺構番号	掲載図	柱痕	底面標高	掲載遺物
柱1	SK138	図35	あり	184.40m	—
柱2	SK393	図35	あり	184.20m	図42-6~8
柱3	SK059	図34	あり	184.45m	図41-5
柱4	SK060	図34	あり	184.50m	図41-6
柱5	SK396	図35	—	184.20m	図42-9・10
柱6	SK379	図37	あり	184.40m	図41-30

柱間	距離
1-2	4.3m
3-4	3.8m
1-4	4.7m
2-3	4.5m
5-6	5.6m

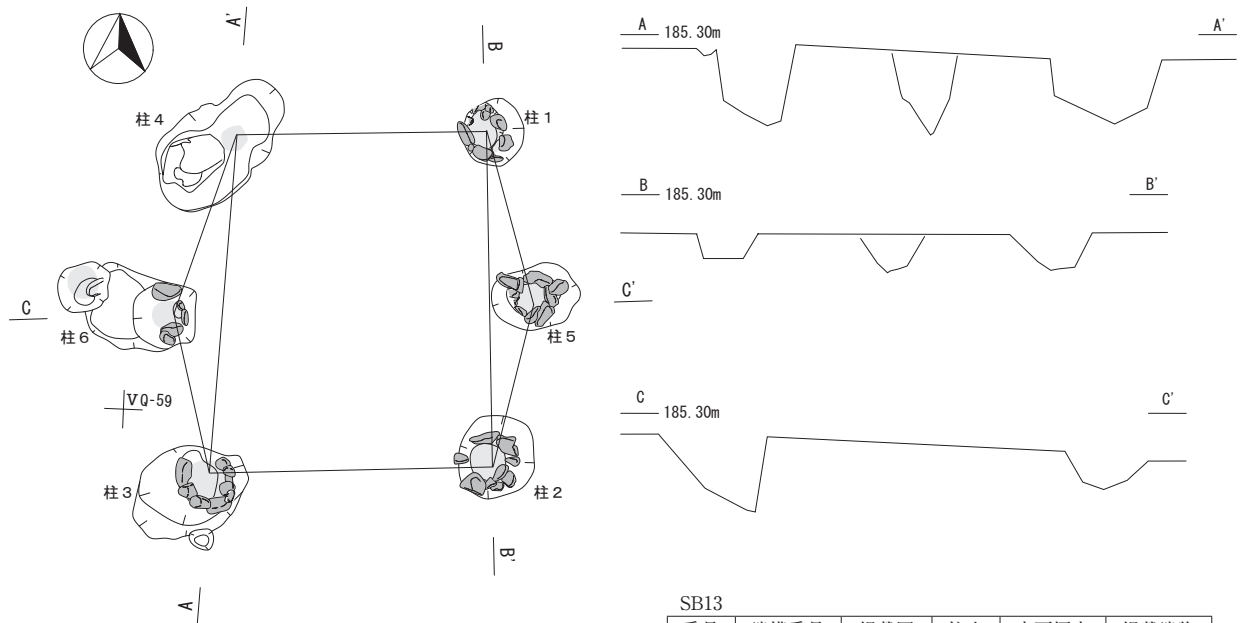
柱間	距離
1-5	2.0m
2-5	2.5m
3-6	2.4m
4-6	1.4m

面積	20.7㎡
----	-------

0 (S=1/100) 2m

図70 掘立柱建物跡 (6)

第13号掘立柱建物跡 (SB13)



柱間	距離
1 - 2	4.4m
3 - 4	4.5m
1 - 4	3.3m
2 - 3	3.7m
5 - 6	4.8m

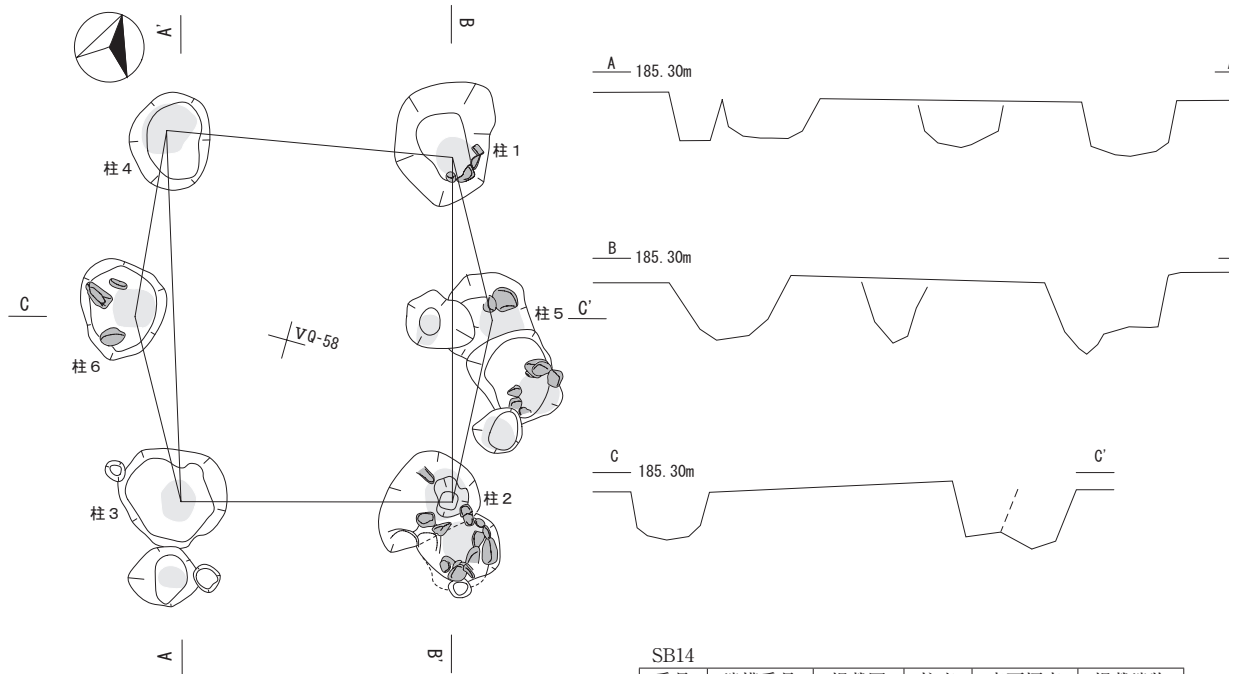
柱間	距離
1 - 5	2.4m
2 - 5	2.2m
3 - 6	2.2m
4 - 6	2.5m

面積	18.4㎡
----	-------

SB13

番号	遺構番号	掲載図	柱痕	底面標高	掲載遺物
柱1	SK202	図36	あり	184.30m	—
柱2	SK458	図38	あり	184.30m	図42-16
柱3	SK078	図34	あり	184.10m	図41-8・9
柱4	SK160	図36	あり	184.10m	図41-21~24
柱5	SK205	図36	あり	184.25m	—
柱6	SK451	図35	あり	184.00m	図42-13~15

第14号掘立柱建物跡 (SB14)



柱間	距離
1 - 2	4.5m
3 - 4	4.9m
1 - 4	3.8m
2 - 3	3.6m
5 - 6	4.7m

柱間	距離
1 - 5	2.2m
2 - 5	2.5m
3 - 6	2.5m
4 - 6	2.5m

面積	19.9㎡
----	-------

SB14

番号	遺構番号	掲載図	柱痕	底面標高	掲載遺物
柱1	SK051	図33	あり	184.30m	—
柱2	SK150	図36	あり	184.10m	図41-12~17
柱3	SK070	図34	あり	184.50m	—
柱4	SK053	図33	あり	184.30m	図41-1
柱5	SK394	図34	あり	184.30m	—
柱6	SK052	図33	あり	184.40m	—

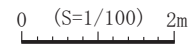
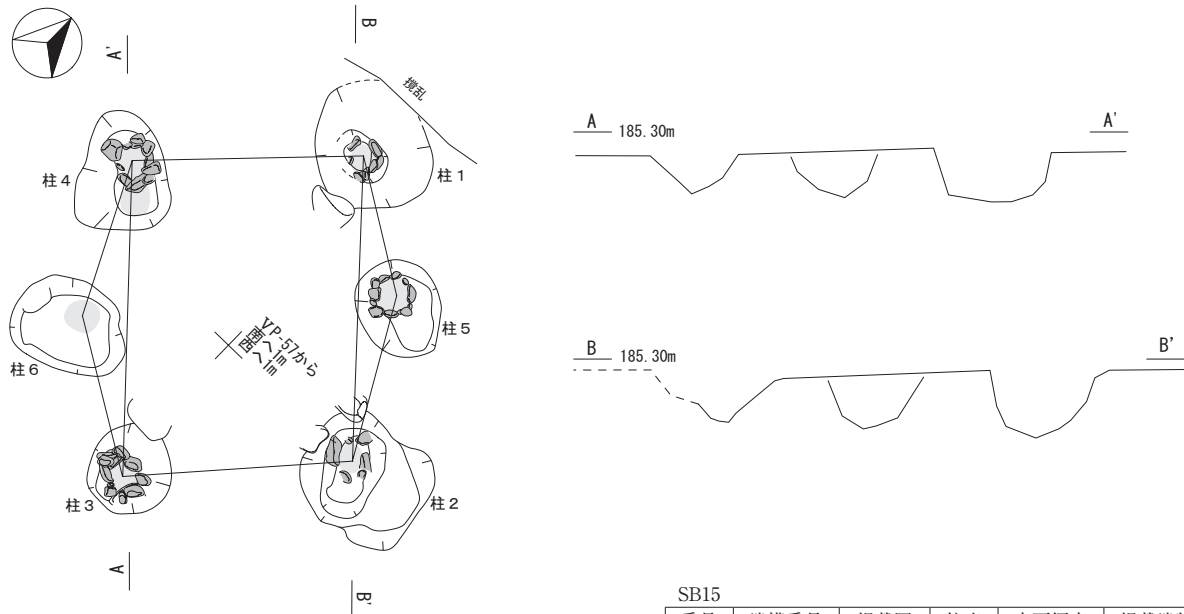


図71 掘立柱建物跡 (7)

第15号掘立柱建物跡 (SB15)



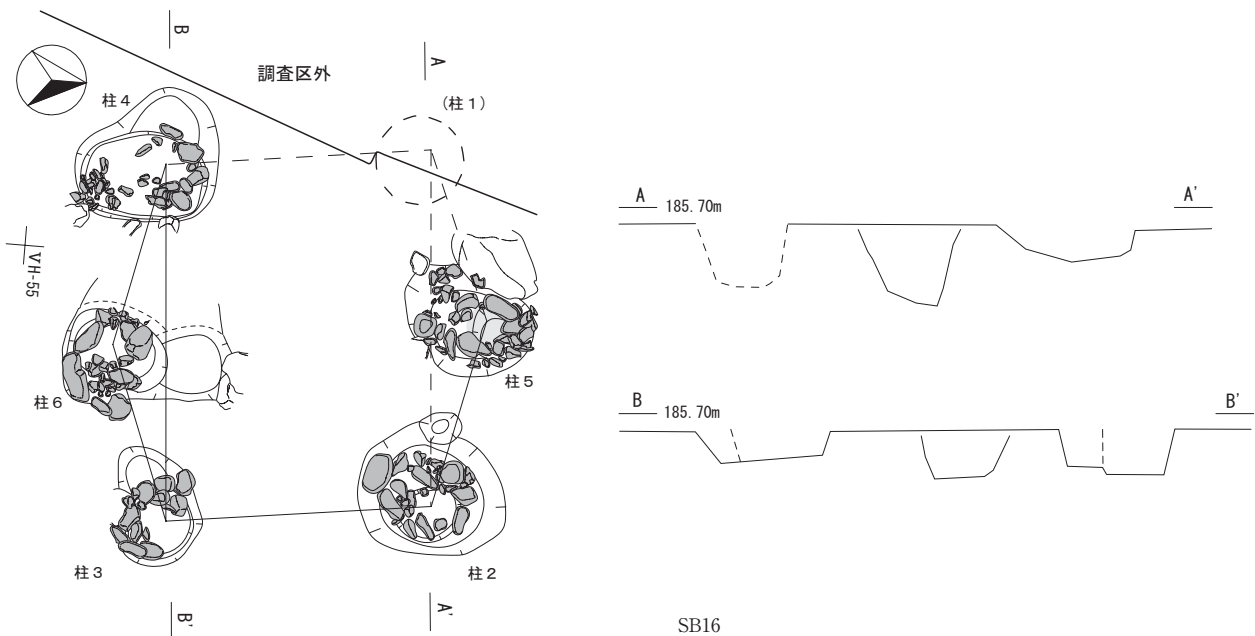
柱間	距離
1 - 2	4.0m
3 - 4	4.2m
1 - 4	3.1m
2 - 3	3.1m
5 - 6	4.2m

柱間	距離
1 - 5	1.9m
2 - 5	2.3m
3 - 6	2.2m
4 - 6	2.2m

面積	14.8㎡
----	-------

番号	遺構番号	掲載図	柱痕	底面標高	掲載遺物
柱1	SK214	図37	あり	184.45m	—
柱2	SK210	図37	あり	184.25m	図41-26
柱3	SK157	図36	あり	184.50m	図41-18・19
柱4	SK217	図37	あり	184.40m	—
柱5	SK316	図37	あり	184.40m	—
柱6	SK212	図37	あり	184.40m	—

第16号掘立柱建物跡 (SB16)



柱間	距離
1 - 2	—
3 - 4	4.8m
1 - 4	—
2 - 3	3.6m
5 - 6	5.0m

柱間	距離
1 - 5	—
2 - 5	2.6m
3 - 6	2.5m
4 - 6	2.6m

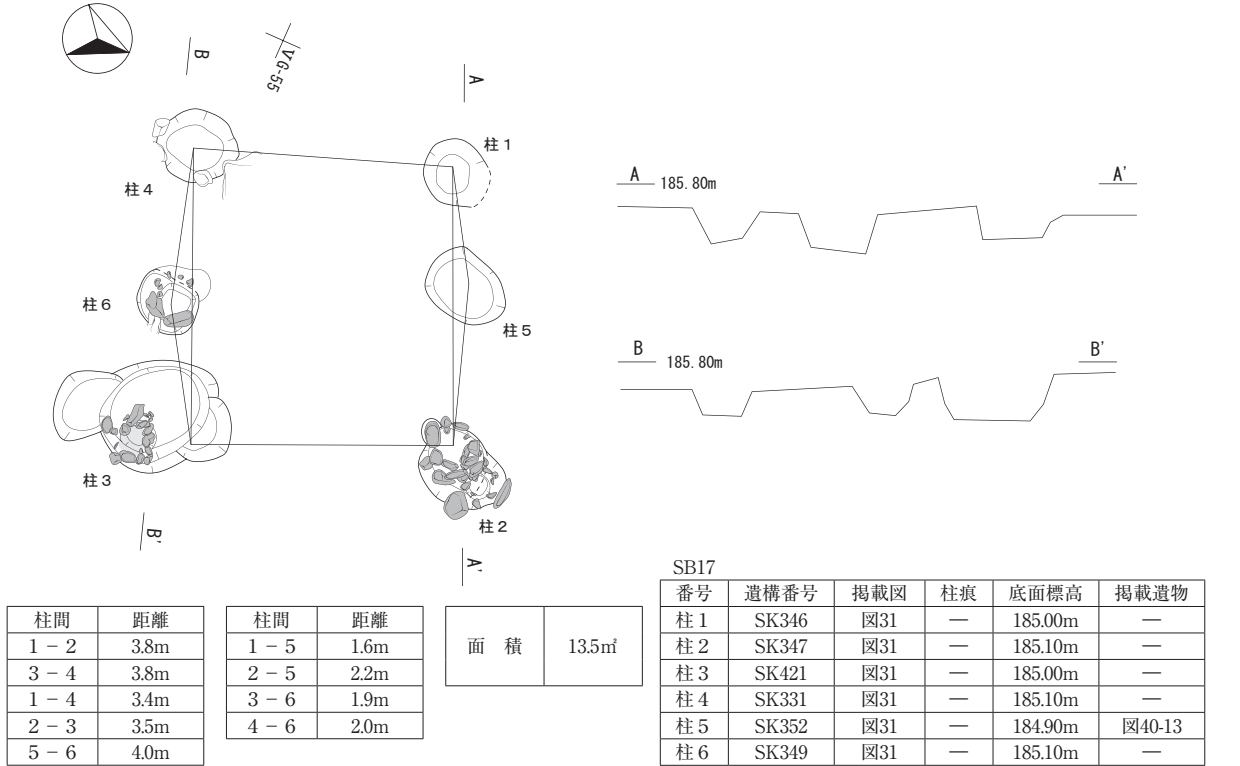
面積	20.3㎡ (推定)
----	------------

番号	遺構番号	掲載図	柱痕	底面標高	掲載遺物
柱1	(欠)	—	—	—	—
柱2	SK414	図32	—	185.00m	図40-30
柱3	SK354	図32	—	184.90m	図40-17・18
柱4	SK360	図32	—	185.05m	—
柱5	SK413	図33	あり	184.40m	図40-27~29
柱6	SK353	図31	—	184.85m	図40-14~16

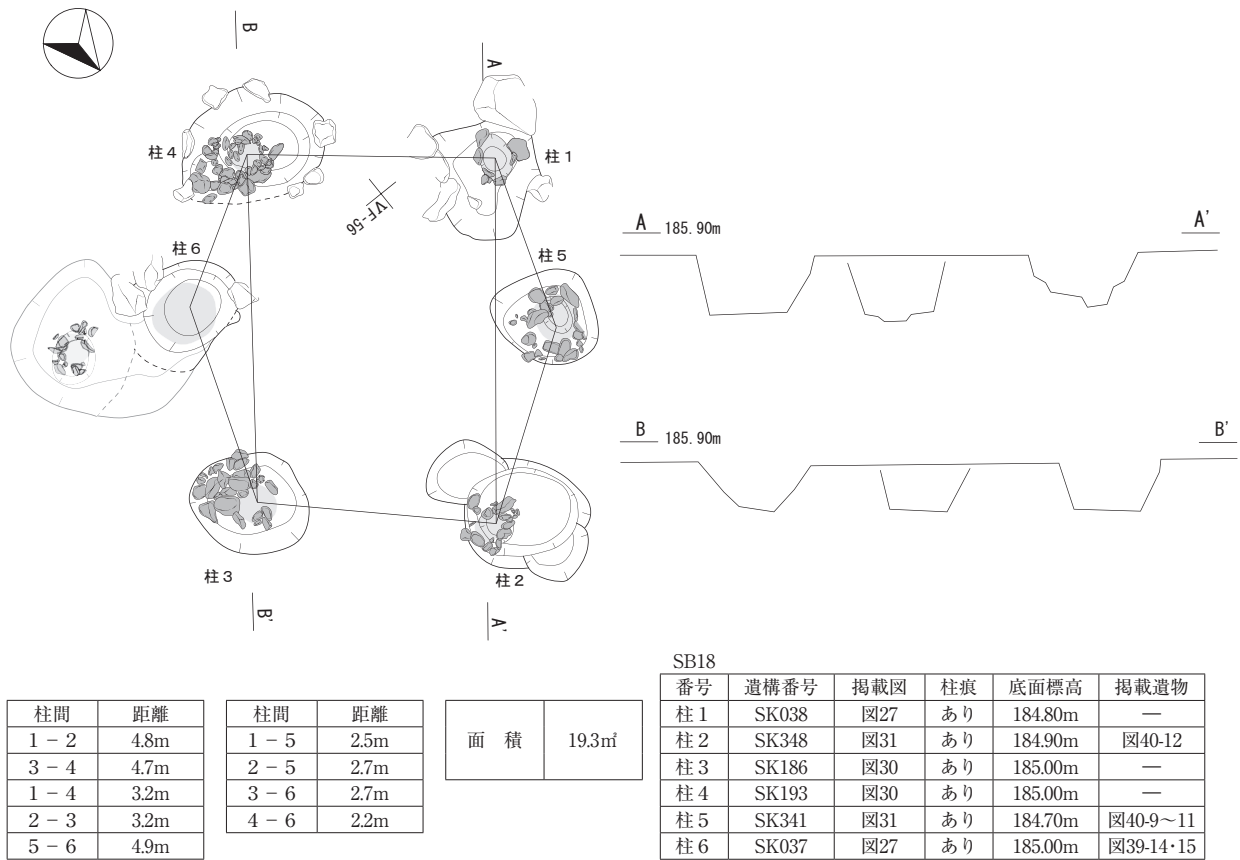
0 (S=1/100) 2m

図72 掘立柱建物跡 (8)

第17号掘立柱建物跡 (SB17)



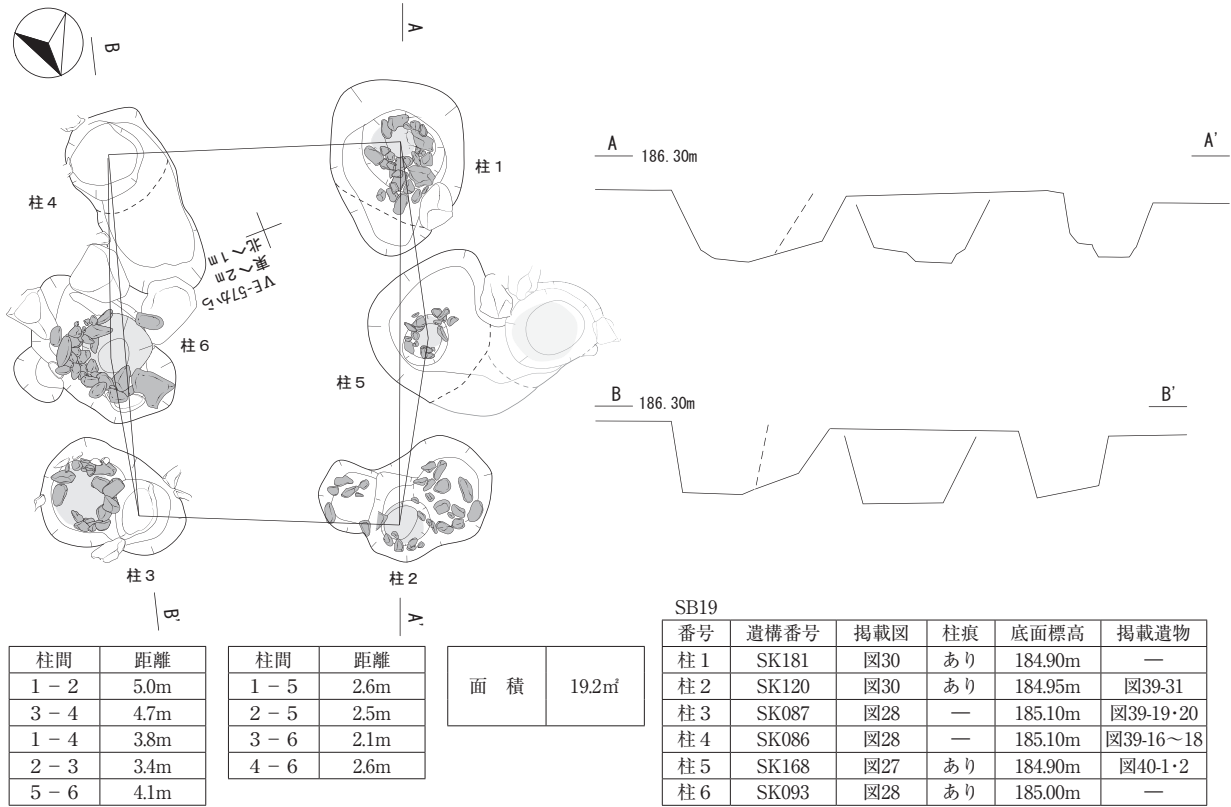
第18号掘立柱建物跡 (SB18)



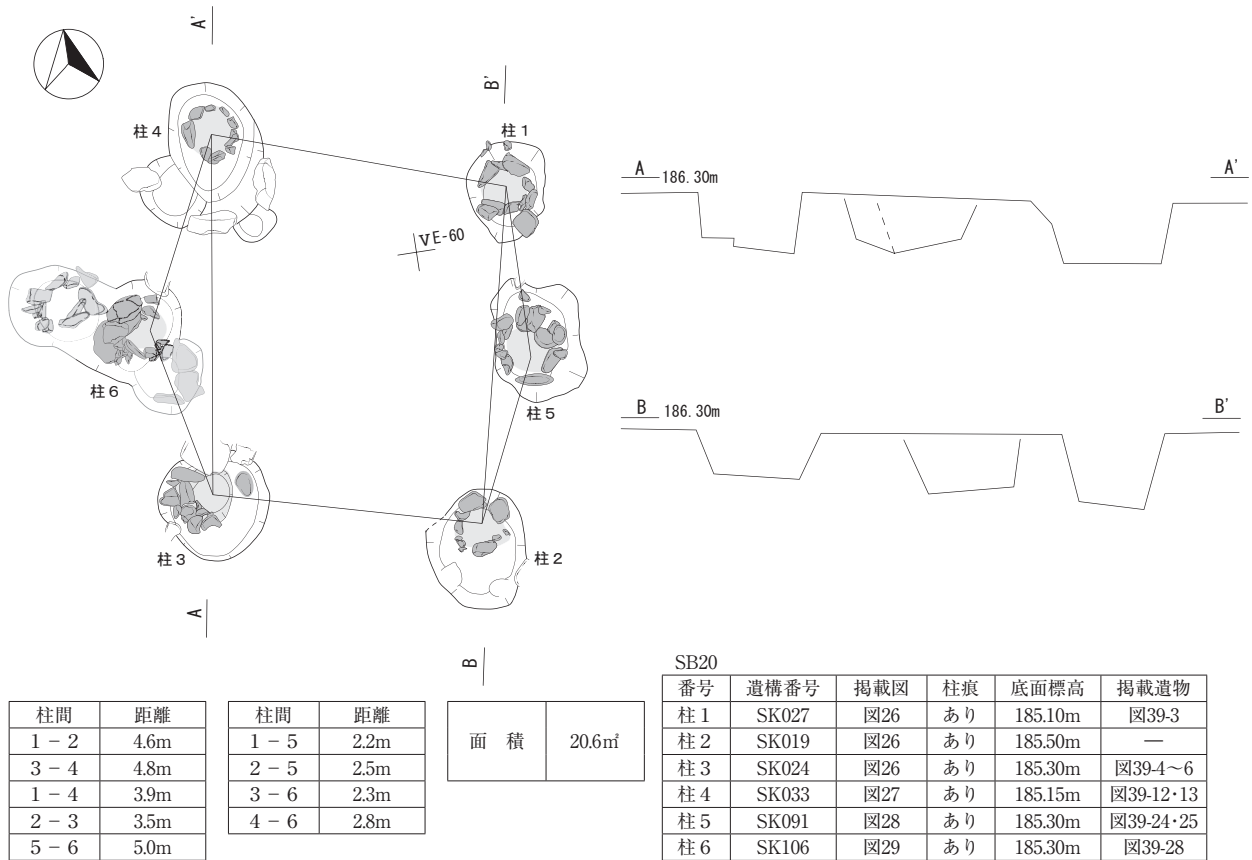
0 (S=1/100) 2m

図73 掘立柱建物跡 (9)

第19号掘立柱建物跡 (SB19)



第20号掘立柱建物跡 (SB20)



0 (S=1/100) 2m

図74 掘立柱建物跡 (10)

第4節 土器埋設遺構

遺構番号はSR5まで付したが、SR2は欠番、SR5は精査の結果、埋設ではないと判断した。

第1号土器埋設遺構（SR1）（図75）

北区環状外のVIA-57グリッドに位置し、Ⅲ層上面で確認した。第314号土坑に隣接するが重複は確認できず、前後関係は不明である。外面にスス、内面にコゲが付着した深鉢形土器の胴部が、掘方内に正位で埋設されていた。堆積土は2層に区分されるが、第1層が土器の内外で確認されるため、土器を据えた後に掘方と土器内部が同時に埋められたと考えられる。土器内からは敲石（2）が1点出土した。埋設土器本体（1）は、第Ⅲ群4類である。口縁付近及び胴部屈曲部付近に平行帯状文が施文され、この文様上には貼瘤が施されている。また、瘤の頂部には刻みが施されている。埋設土器の型式から、縄文時代後期後葉の遺構である。

第3号土器埋設遺構（SR3）（図75・76）

南区南側にあたるIVX-59グリッドに位置し、基本層序第Ⅱ層中で確認した。検出時は土器の胴部～底部付近（図76-2・3）が正立した状態で出土しており、掘方は確認できなかった。断面観察でも掘方は確認できず、底部付近が埋まっていた状況であった。使用されている土器は後期前葉の土器である。本遺構の周辺は小規模な沢地形となっており、後期前葉の遺物が密に出土している範囲である。これらの状況から、本遺構は沢に堆積した遺物である可能性もある。

第4号土器埋設遺構（SR4）（図75・76）

南区南側にあたるIVV-61グリッドに位置し、基本層序第Ⅱ層下面を精査時に、第Ⅲ群1類の土器（図76-1）が倒立した状態で検出した。第347・348号ピットと重複し、本遺構の方が新しい。掘方規模は上端50cm、下端35cmである。使用されている土器から縄文時代後期前葉に構築された遺構と考えられる。

第5節 焼土遺構

5基検出した。第1号焼土跡、第4号焼土跡は検出位置から掘立柱建物跡に伴う可能性もある。

第1号焼土遺構（SN1）（図76）

北区環状外のVID-57グリッドに所在し、Ⅲ層上面で確認した。被熱面はⅢ層で、その範囲は18×44cmの不整形に広がる。被熱範囲に接して長軸1m65cm、短軸88cm、深さ23cmの不整形な落ち込みが存在する。被熱面上部を落ち込みの第1層が覆っている状況が部分的に確認できたため、これらを一連の焼土遺構として扱った。Ⅱ層掘削後に確認しており、層位から縄文時代の遺構と考えられるが、遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明である。ただし、本遺構は第4号掘立柱建物跡の中央に位置するため、これに伴う可能性がある。同建物跡については、本章第3節に記載した。

第2号焼土遺構（SN2）（図76）

南区南側にあたるIVR-54グリッドに位置し、基本層序第Ⅱ層下面から検出した。第615号ピットを覆うように検出されており、本遺構の方が新しい。第615号ピットの堆積土には焼土を主体とした土が廃棄されており、周辺のピットとは堆積土の状況が異なっている。本遺構と関連するピットの可能性もある。本遺構は40cm×55cmの範囲で被熱しており、その厚さは最大で5cmとなっている。詳細な時期は不明であるが、確認面及び周辺の遺物出土状況から縄文時代後期頃の遺構と考えられる。

第3号焼土遺構 (SN3) (図76)

南区南側にあたるIVR-50グリッドに位置し、基本層序第Ⅱ層下面から検出した。本遺構は35cm×45cmの範囲で被熱しており、その厚さは最大で6cmとなっている。詳細な時期は不明であるが、確認面及び周辺の遺物出土状況から縄文時代後期頃の遺構と考えられる。

第4号焼土遺構 (SN4) (図76)

南区西側にあたるIVW-53グリッドに位置し、基本層序第Ⅲ層上面から検出した。検出時に本遺構の周辺にある礫も被熱していたことから、廃棄された焼土ではなく焼土遺構と認定した。本遺構は第1号掘立柱建物跡のほぼ中央に位置しており、検出位置から掘立柱建物跡に関連する遺構である可能性もある。本遺構は37cm×55cmの範囲で被熱しており、その厚さは最大で10cmとなっている。

第5号焼土遺構 (SN5) (図76)

北区環状外のVV-61グリッドに位置し、埋没沢上部にあたるⅡb層の掘削途中で確認した。被熱範囲は60×35cmの不整楕円形に広がる。被熱部分の厚さは14cmであるが、再堆積による焼土とは捉えられず、Ⅱb層が地表面であった時期に被熱したものと考えられる。遺物は伴っていない。確認面の層位から、縄文時代後期頃の遺構と考えられる。

第6節 配石遺構**第1号配石遺構 (SQ1) (図77)**

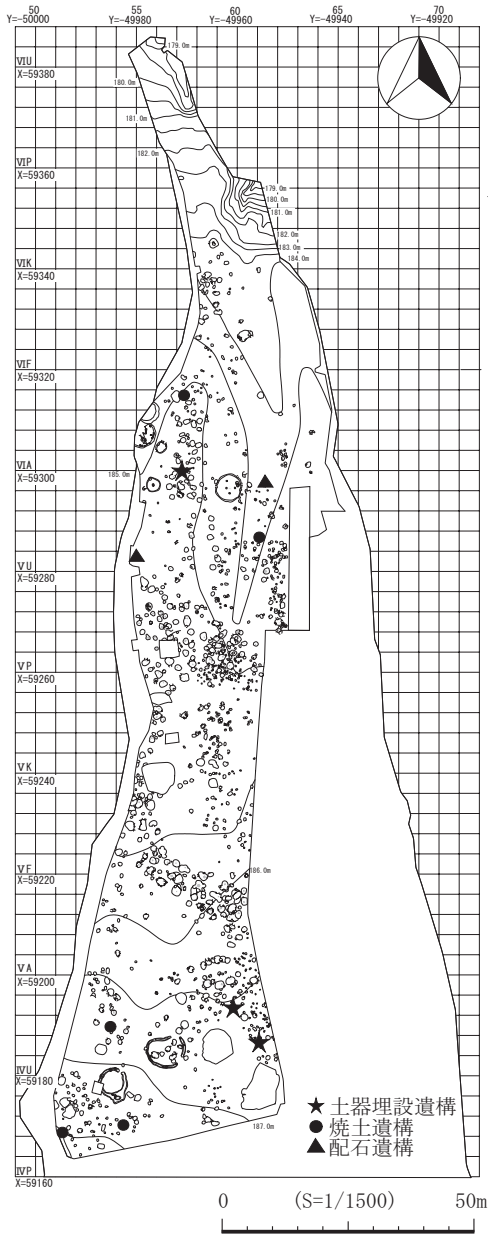
北区環状外の平坦面VU-54・55グリッドに位置し、表土直下で確認された。100個を超える大小の礫が、不整なU字ないし凹字形に配置される。配石の規模は、およそ長軸2.3m、短軸1.8mの範囲に収まる。礫は、Ⅱ層が旧地表面であった時期に上面が露出するように埋め込まれたと考えられるが、断面観察では明瞭な掘方を確認できなかった。配石下部に土坑などの施設は伴わない。遺構の長軸端部には比較的大形の礫が配置され、その間に小形礫が密に並べられている。小形礫の多くは、短軸方向を垂直にして埋め込まれたものが多い。配石上面は、ほぼ同一の高さに揃っている。

配石に用いられた礫のうち3点は石器である。1は凝灰岩の板状礫を用いた縁のない石皿で、表裏両面を使用している。特に顕著な平滑面に網掛けを施した。2は凝灰岩製の凹石で、1面を使用している。3は花崗岩の柱状礫を用いたもので、敲打痕と考えられる器面の荒れが1面認められるため台石とした。しかしながら、台石として使用するためには安定を欠く形状であり、配石として設置された後に使用されたか、露出による風化で器面が劣化した可能性もある。

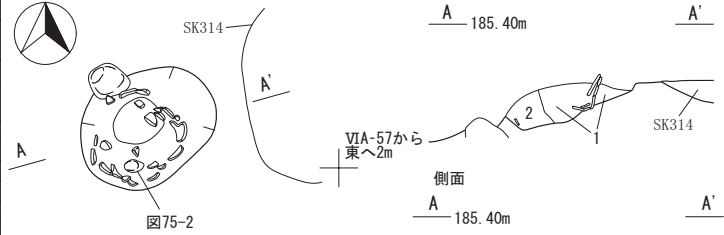
縄文時代の配石と考えられるが、詳細な時期は不明である。小形礫の側面を立てて配置する特徴は次項の第4号配石遺構に類似しており、本遺構も縄文時代後期に構築された可能性が高い。

第4号配石遺構 (SQ4) (図77)

北区環状外のVY-61グリッドに位置し、埋没沢内のⅡb層を掘削中に確認した。配石除去後に第851号ピットが検出されたが、上面では確認できなかったため関連は不明である。扁平な礫の短軸方向を立てて並べられた立石様の構造をとり、2.3mの間に断続的に配置される。埋められた礫の掘方は確認できなかった。用いられた礫はすべて自然石で、最大径は約50cmである。南端東側の礫は横転したものと考えられ、当該部では本来H字状の配列であったものと考えられる。沢を埋積するⅡb層中に構築されており、縄文時代後期の配石と考えられるが、遺物を伴わないため詳細な時期は不明である。

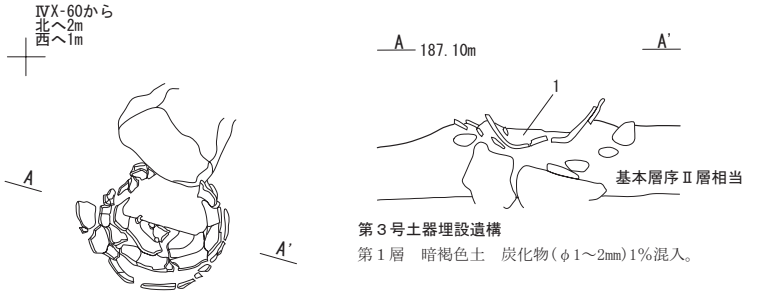


第1号土器埋設遺構 (SR1)



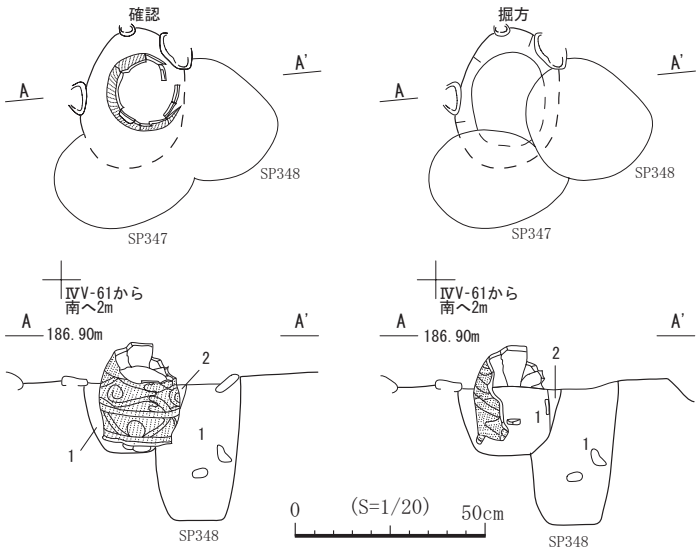
第1号土器埋設遺構
 第1層 10YR4/4 褐色土 礫(φ5~15mm)5%、炭化物(φ~3mm)1%混入。
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ~10mm)3%混入。

第3号土器埋設遺構 (SR3)



第3号土器埋設遺構
 第1層 暗褐色土 炭化物(φ1~2mm)1%混入。

第4号土器埋設遺構 (SR4)



第4号土器埋設遺構

第1層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~10mm)2%混入。
 第2層 10YR4/4 褐色土 粘土質。炭化物(φ1mm)1%混入。
 第348号ビット
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ2~70mm)5%、炭化物(φ1~10mm)混入。

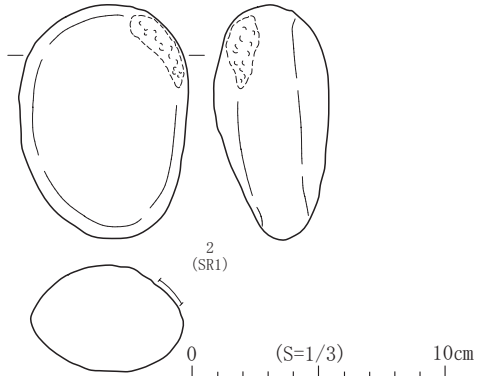
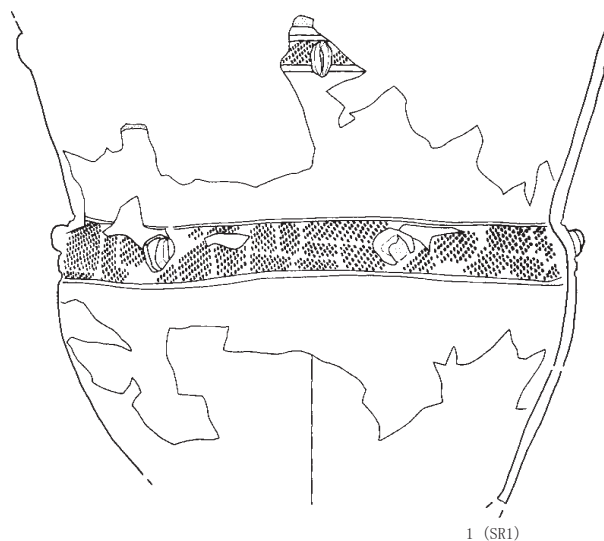
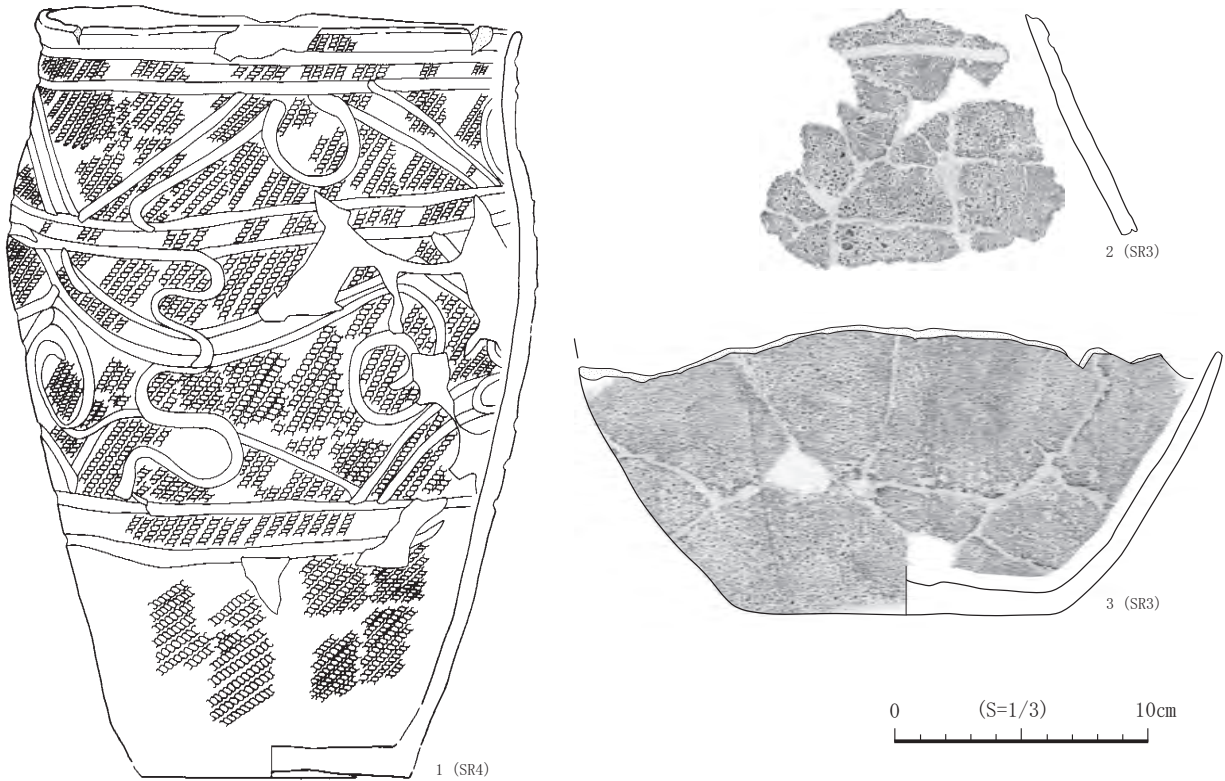
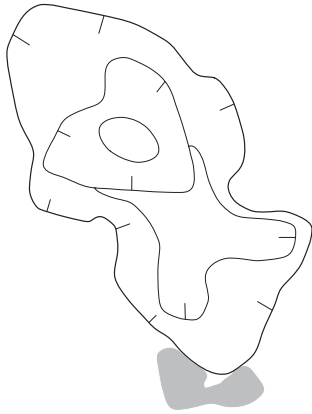


図75 土器埋設遺構・出土遺物 (SR1)



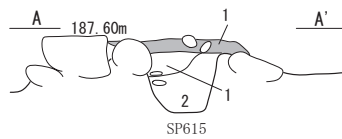
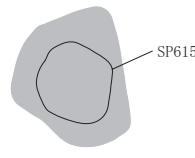
第1号焼土遺構 (SN1)

VIE-58から
西へ2m



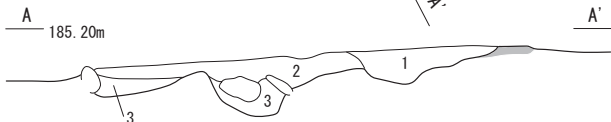
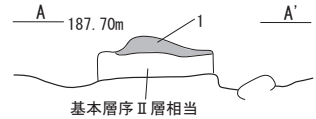
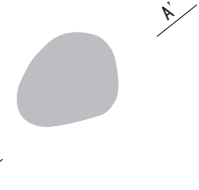
第2号焼土遺構 (SN2)

IVR-53から
北へ2m
東へ1m



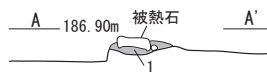
第3号焼土遺構 (SN3)

IVR-51から
東へ1m



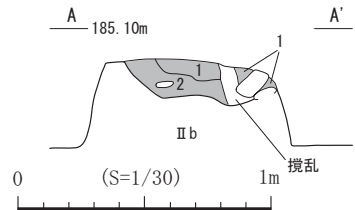
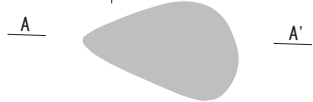
第4号焼土遺構 (SN4)

IVW-54から
北へ1m
西へ1m



第5号焼土遺構 (SN5)

VW-61から
南へ1m



第1号焼土遺構

第1層 10YR2/3 黒褐色土 礫(φ10~20mm)10%、炭化物(φ5mm)・赤褐色(5YR4/8)焼土粒(φ1~2mm)1%混入。
第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~30mm)15%混入。
第3層 10YR5/6 黄褐色土 礫(φ10~60mm)40%混入。

第2号焼土遺構

第1層 5YR3/6 暗赤褐色土 炭化物(φ1~5mm)、暗赤褐色焼土粒1%混入。

第615号ビット

第1層 10YR4/4 褐色土 礫(φ10~280mm)3%混入。
第2層 7.5YR5/6 明褐色土 礫(φ1~300mm)40%混入。円礫。

第3号焼土遺構

第1層 5YR4/6 赤褐色土 炭化物(φ1~3mm)1%混入。

第4号焼土遺構

第1層 7.5YR5/6 明褐色土 炭化物(φ1~2mm)1%混入。

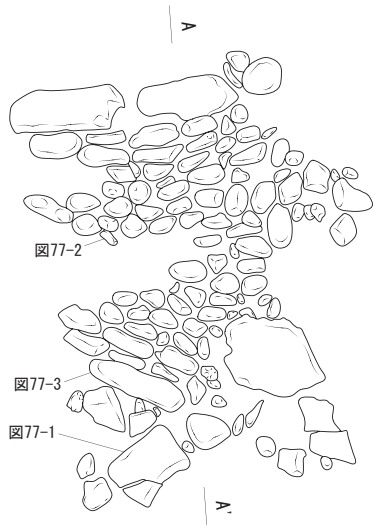
第5号焼土遺構

第1層 7.5YR4/6 褐色土 炭化物(φ1mm)2%混入。
第2層 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ15~60mm)10%、炭化物(φ2mm)1%混入。

図76 土器埋設遺構出土遺物 (SR3,4)・焼土遺構



第1号配石遺構 (SQ1)



第4号配石遺構 (SQ4)

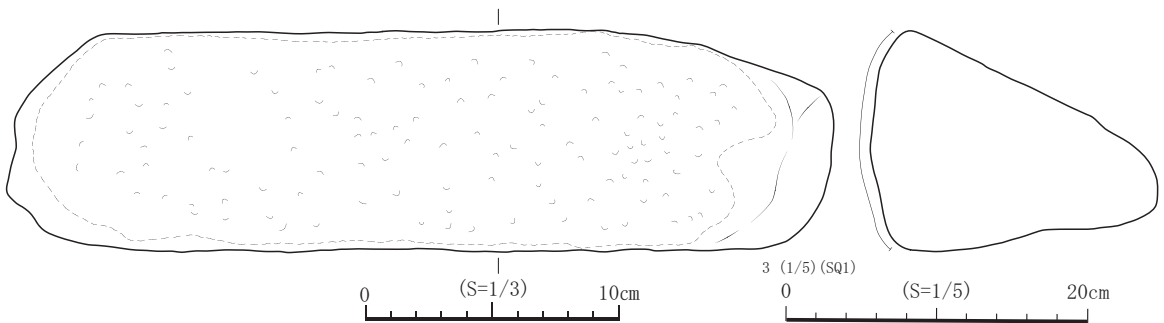
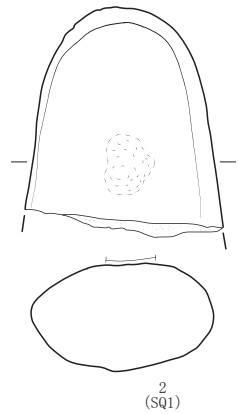
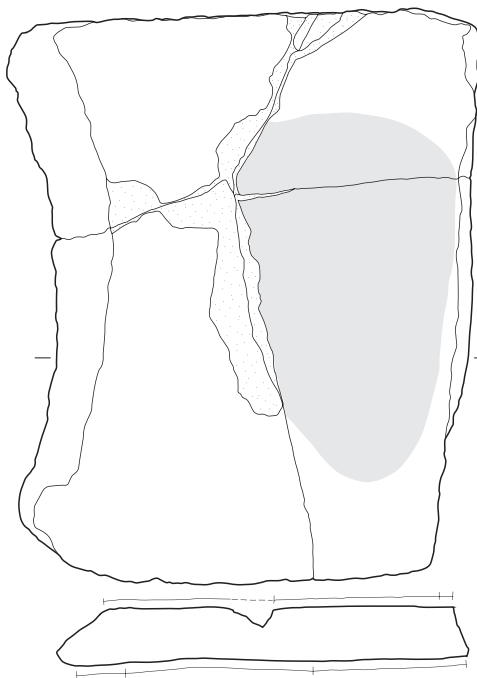
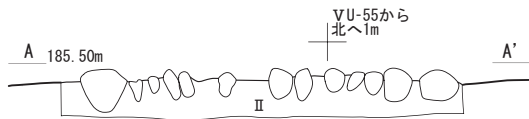
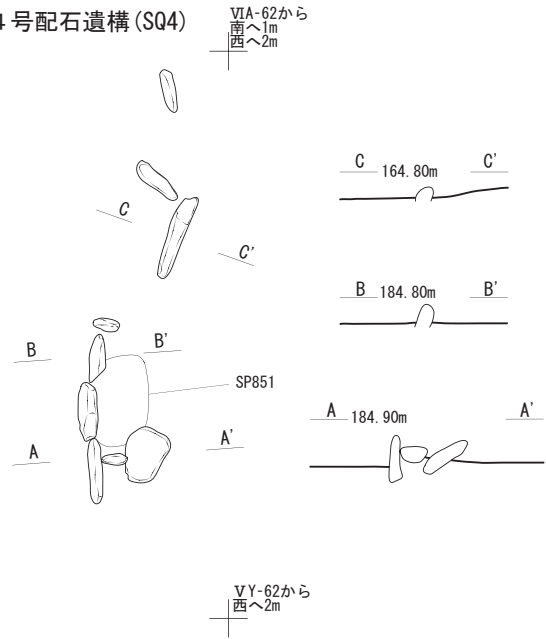


図77 配石遺構・出土遺物 (SQ1)

第7節 ピット

平面規模が小さく、堆積土が単層であることを確認した小穴をピットとして扱うことを基本としたが、土坑との区分は必ずしも明確ではない。検出時に掘方を認識できず柱痕をピットとして調査を進めたものもあり、これらについても当初の遺構番号を振り替えていないため、土坑と同じ規模・機能を有するピットが存在している。

総数729基を調査しており、詳細は計測表にまとめた。分布状況は、南区環状外が231基、環状部南側が32基、環状部北側が124基、環状部内側が103基、北区環状外が239基である。

図96には断面を図化した6基（第55・76・78・79・89・92号ピット）を示した。これらは土坑として報告した柱穴と同様のものであり、すべて北区環状外に所在している。なお、土坑と一緒に断面を図化したため、第2節に土層図を掲載したピットが5基ある。第53(SK311)・77(SK047)・527(SK413)・613(SK428)・638(SK095)・666(SK467)・878(SK523)号ピットがそれで、()内は掲載土坑番号である。また、以下のピットは掘立柱建物跡を構成する柱穴である。第318・609号ピットは第2号掘立柱建物跡、第198号ピットは第4号掘立柱建物跡、第55・77・78号ピットは第6号掘立柱建物跡、第76・79号ピットは第7号掘立柱建物跡、第756号ピットは第10号掘立柱建物跡。

遺物の出土状況は、堆積土中から復元できるような土器は出土しておらず、破片での出土が多い。各遺構から出土した土器の量も少なく、廃棄したというよりも、埋没する過程で周辺にあった遺物が混在したというような状況が推定できる。土器については、掲載にあたり、時期の判断できるものを中心に選別した。出土土器の大半は後期前葉の土器である第Ⅲ群1・2類が占めているが、これらと混在して後期中葉以降の土器である第Ⅲ群3・4類が出土した遺構もある。第Ⅲ群3・4類土器の特徴が遺構の時期を判断できる材料となるため、本項ではこれらの土器について特徴を記載していく。

後期後葉の土器が出土しているのは第33・124・304・305号ピットである。第33号ピットから出土した図97-6は異なった原体を使用した羽状縄文が表出されている。第124号ピットから出土した図97-17は口縁に貼瘤が施されている。第304号ピットから出土したものは2点図示した（図98-7・8）。7には貼瘤が施されている。8は注口土器の注口部で、注口の接合部には貼瘤が施されているほか、沈線が施文されている。第305号ピットから出土した図98-9の土器には貼瘤が施されている。

石器は少なく、出土状況に特定の傾向は窺われない。土坑の場合と同様にほとんどの石器は覆土に混入したものと考えられる。珪質頁岩製の剥片石器および凝灰岩製の礫石器については、文中の石材記載を省略した。図97-2は黒曜石の剥片である。産地推定では青森県木造出来島群に分類された。図97-3は球状礫を使用した敲石である。器面中央に軽微な敲打痕が認められる。図97-5は縦型石匙である。つまみ部を作り出し、末端に調整加工が施されているが、刃部調整はなされていない。図97-7は搔器である。刃部は背面にのみ調整加工が施されている。図97-10は黒曜石の石核である。原礫面のある垂角礫から小さな剥片を剥離している。産地推定では青森県木造出来島群に分類された。図97-14・98-13は扁平礫の短軸片側に剥離によって抉りを作り出したもので、礫形状と剥離位置から打欠石錘未成品の可能性がある。図97-20は凹石である。表裏面の中央に顕著な凹み痕が形成される。図98-1は基部を欠損した磨製石斧である。断面は円形に近く、稜の形成は弱い。敲打整形痕は部分的に確認されるのみで、丁寧な研磨によって仕上げられている。図98-11・17は有茎石鏃である。図98-14は凹石である。表裏面に各1箇所軽微な凹み痕が形成される。図98-21は小形の石槍、図98-22



図78 ピット掲載区分図(1)

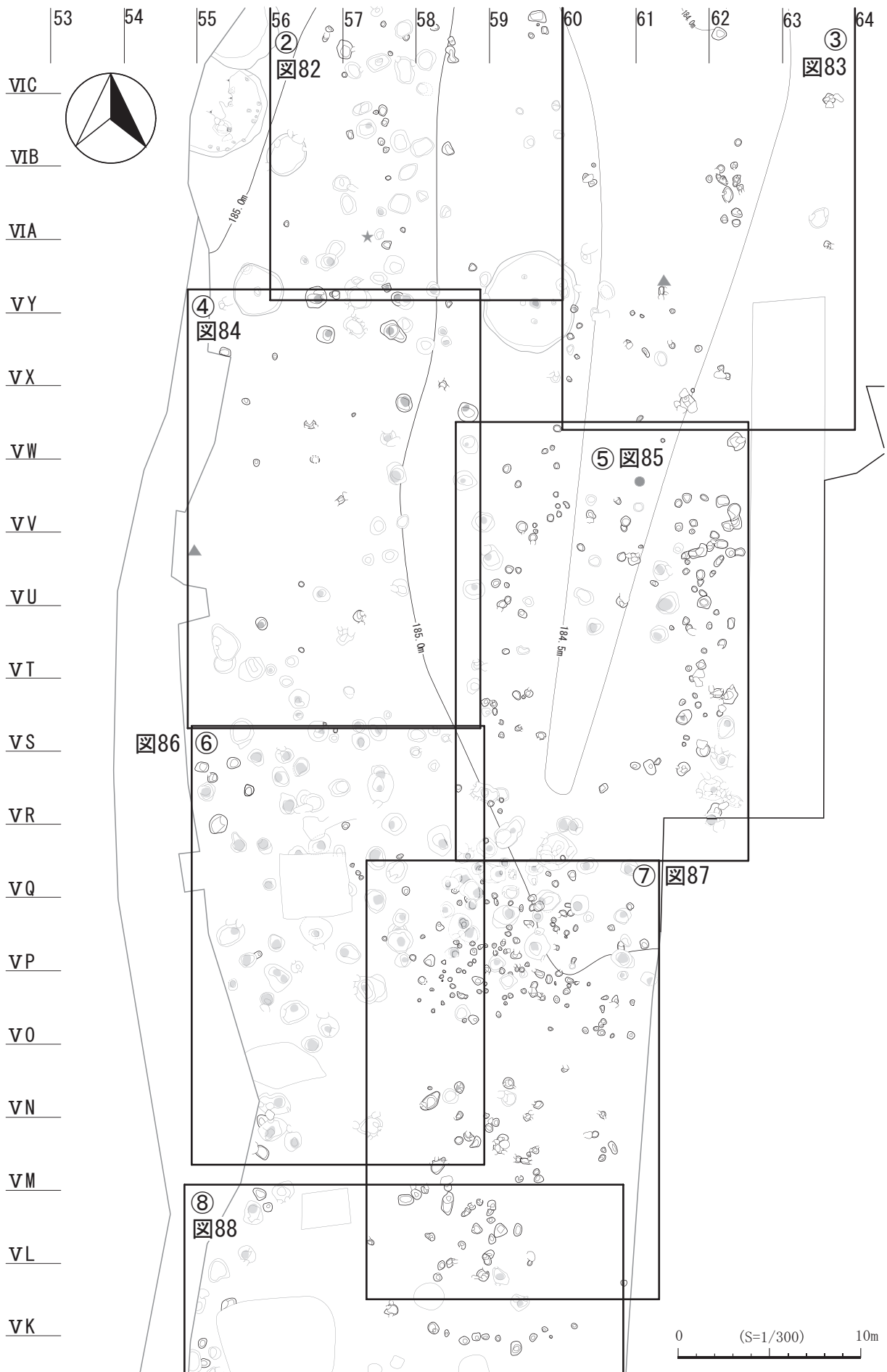


図79 ピット掲載区分図 (2)

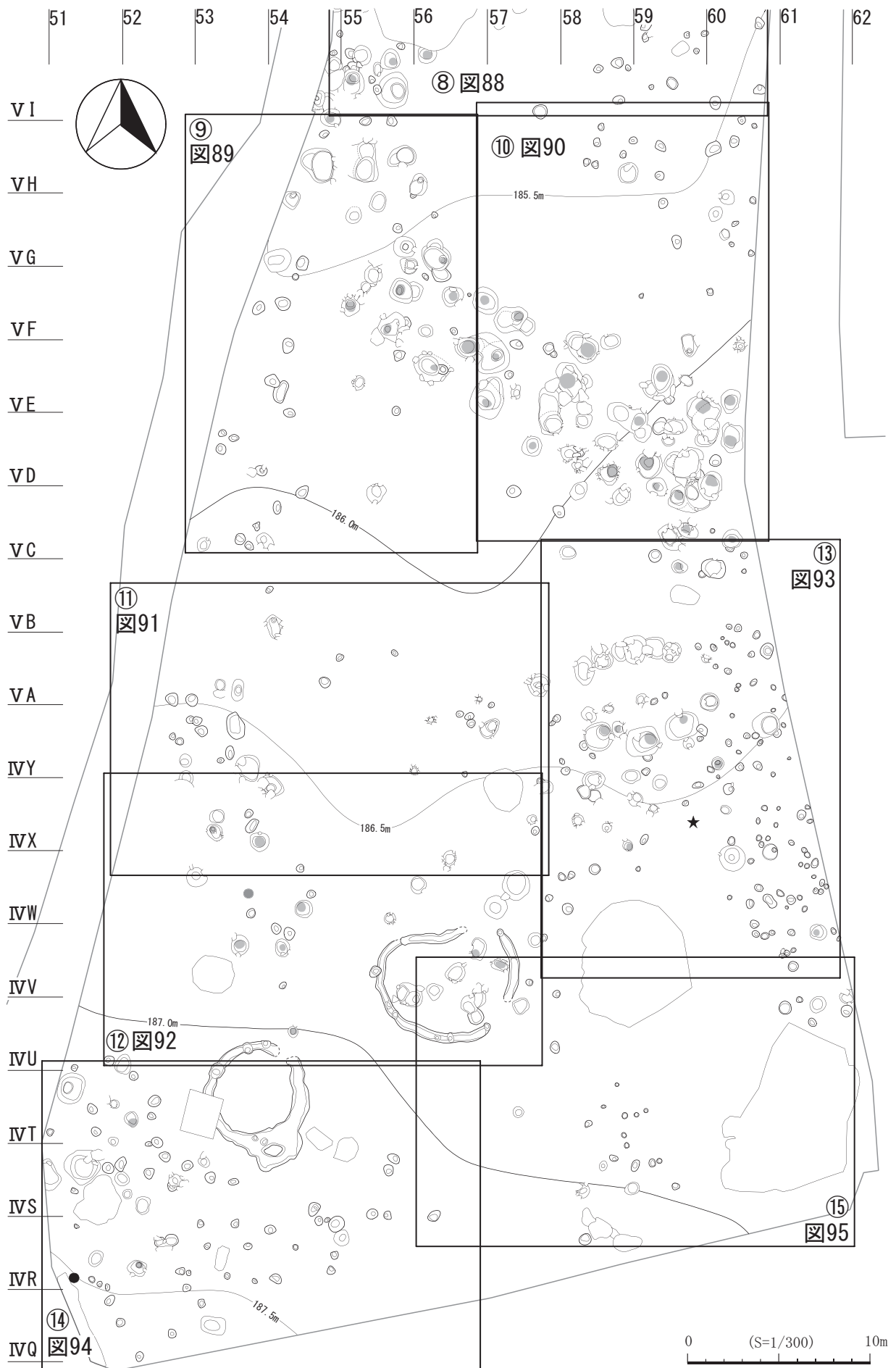


図80 ピット掲載区分図 (3)

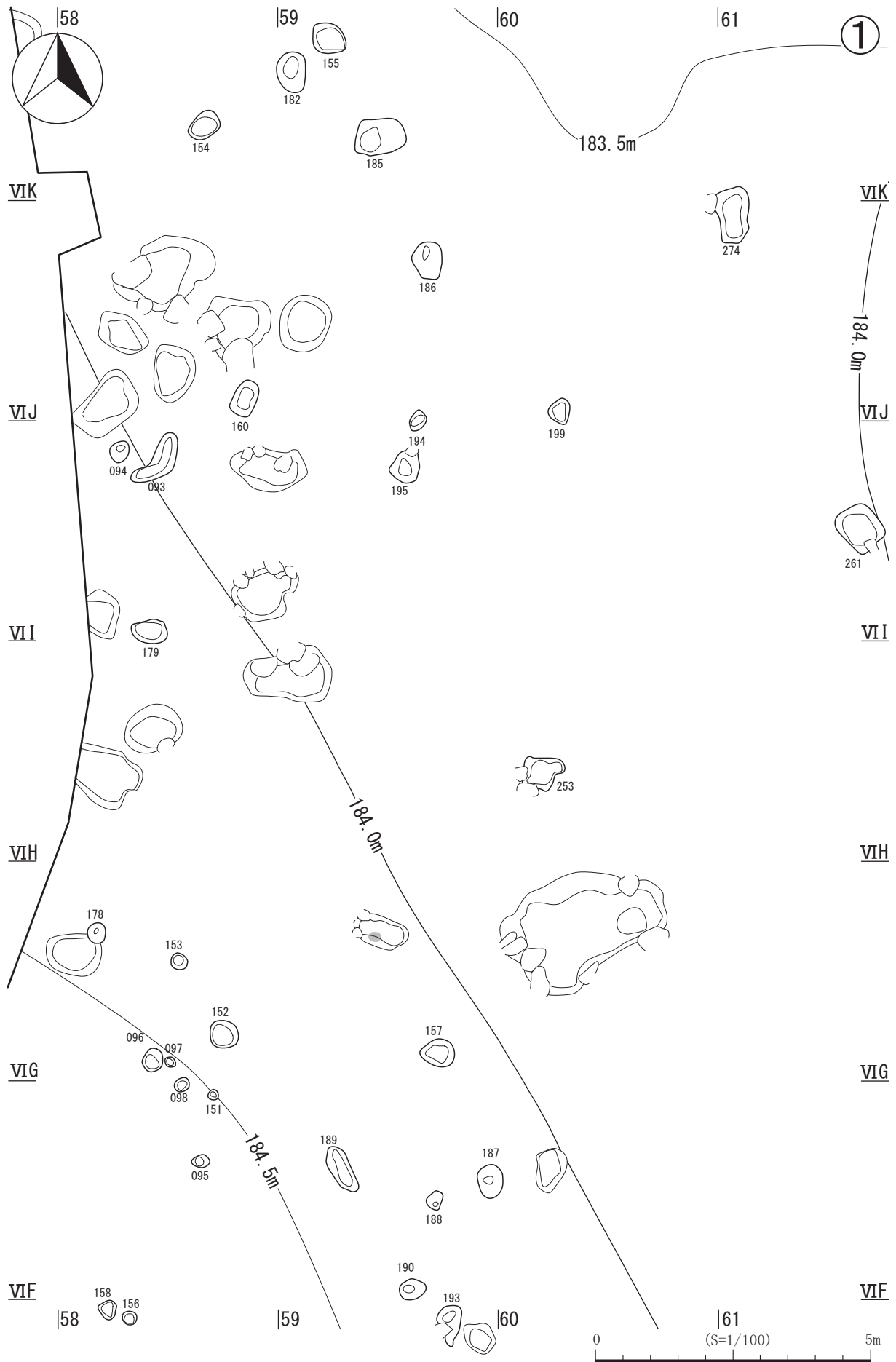


図81 ピット配置図①

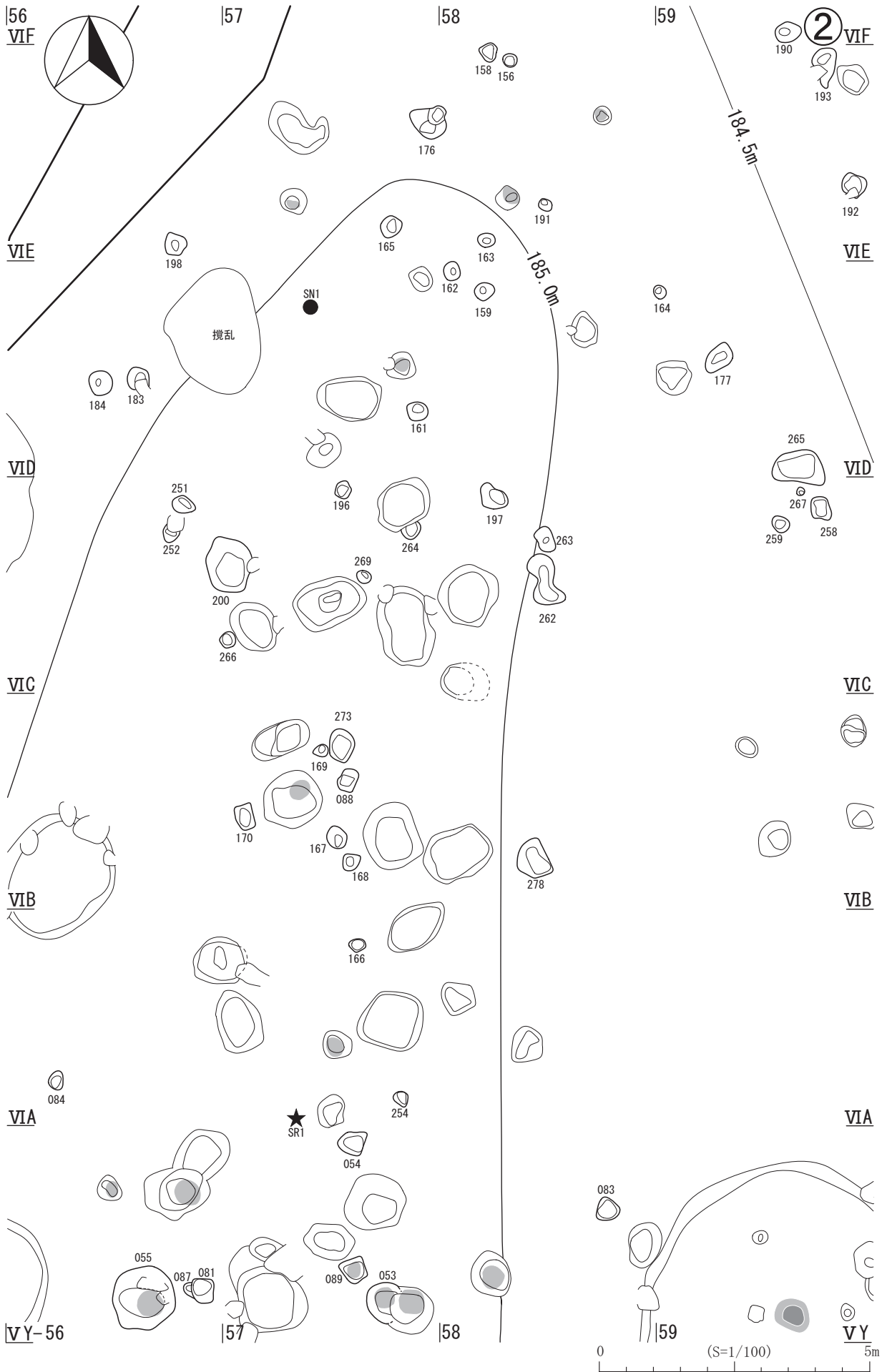


図82 ピット配置図②

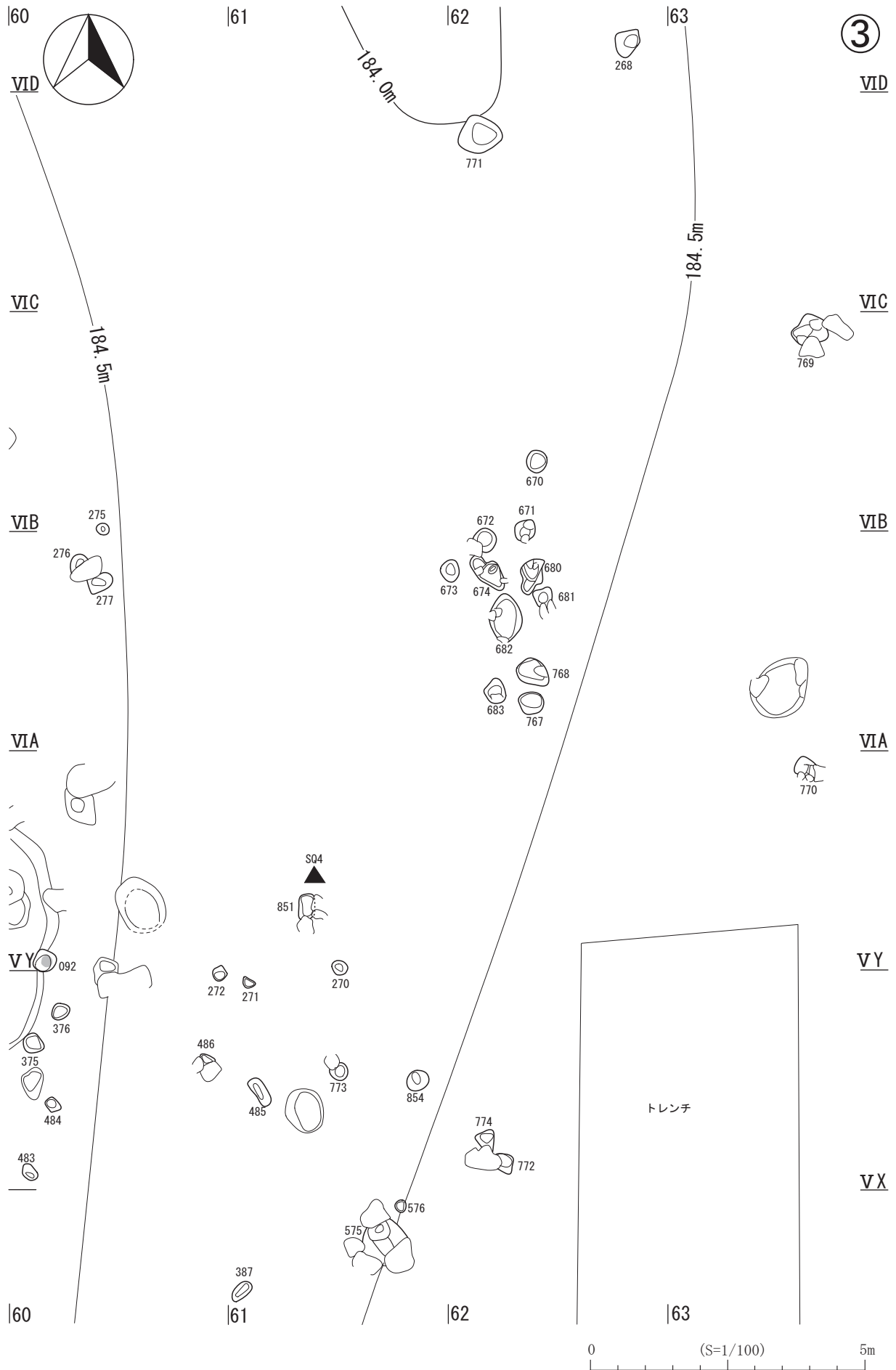


図83 ピット配置図③

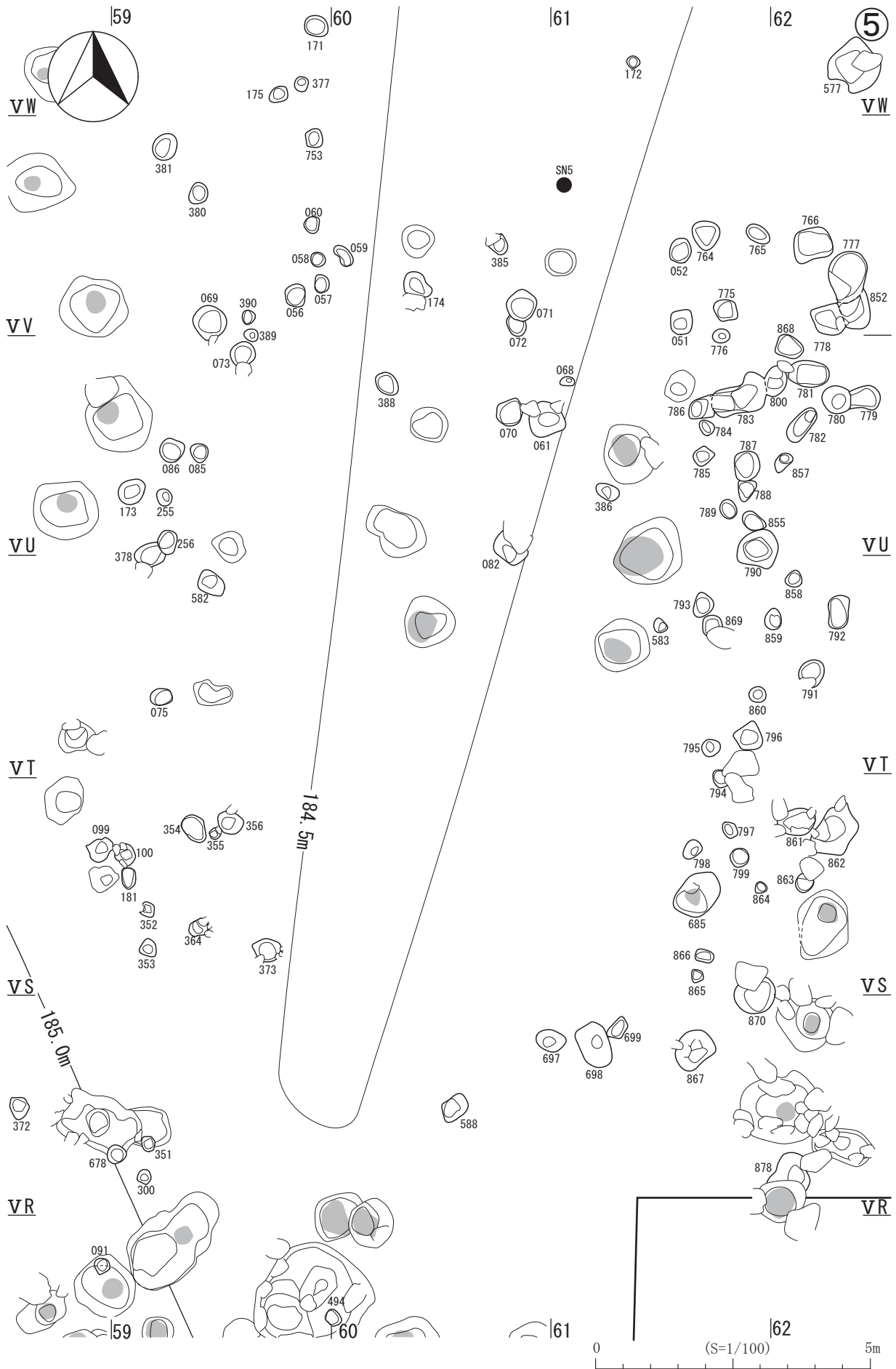


図85 ピット配置図⑤

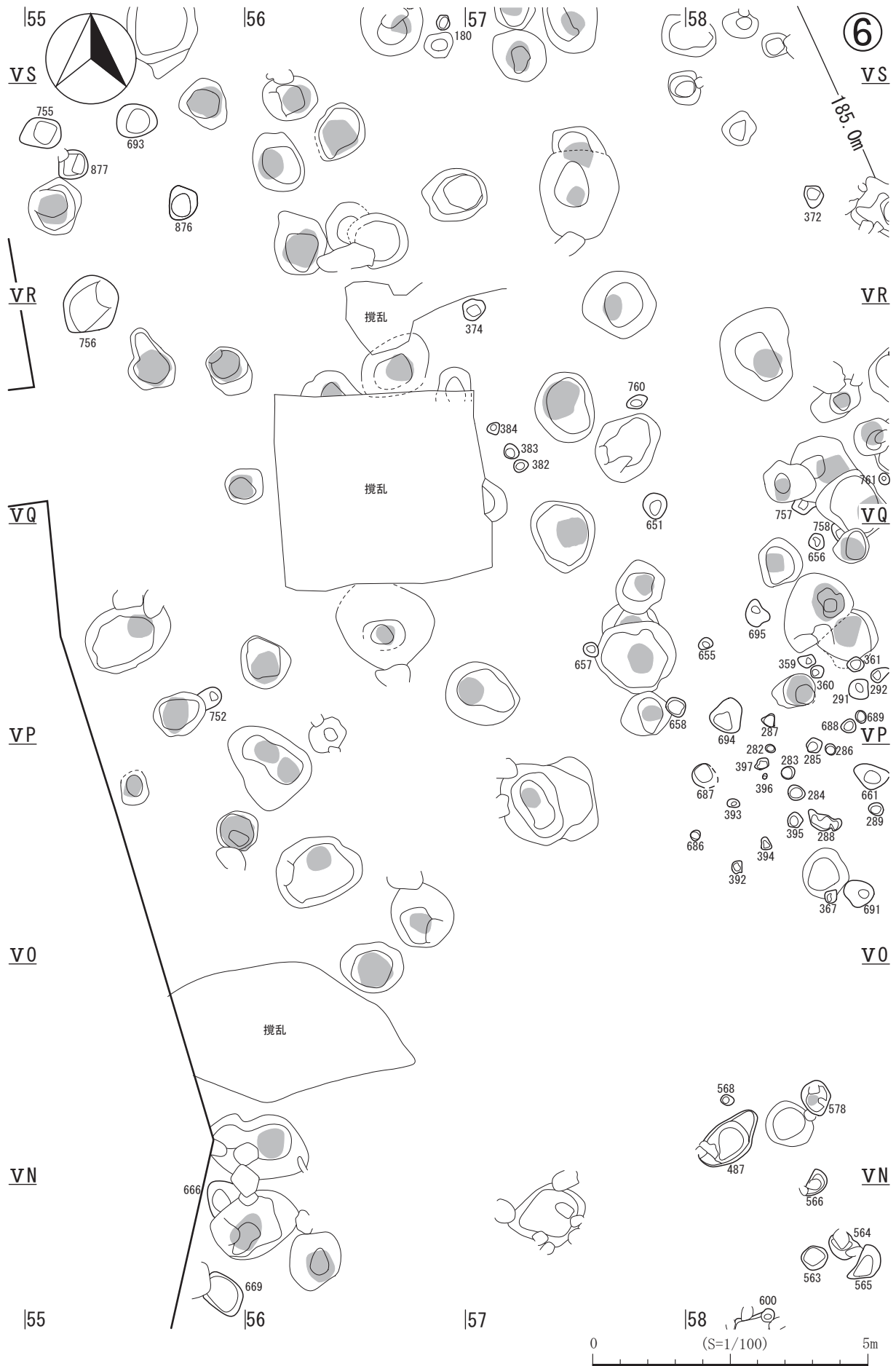


図86 ピット配置図⑥

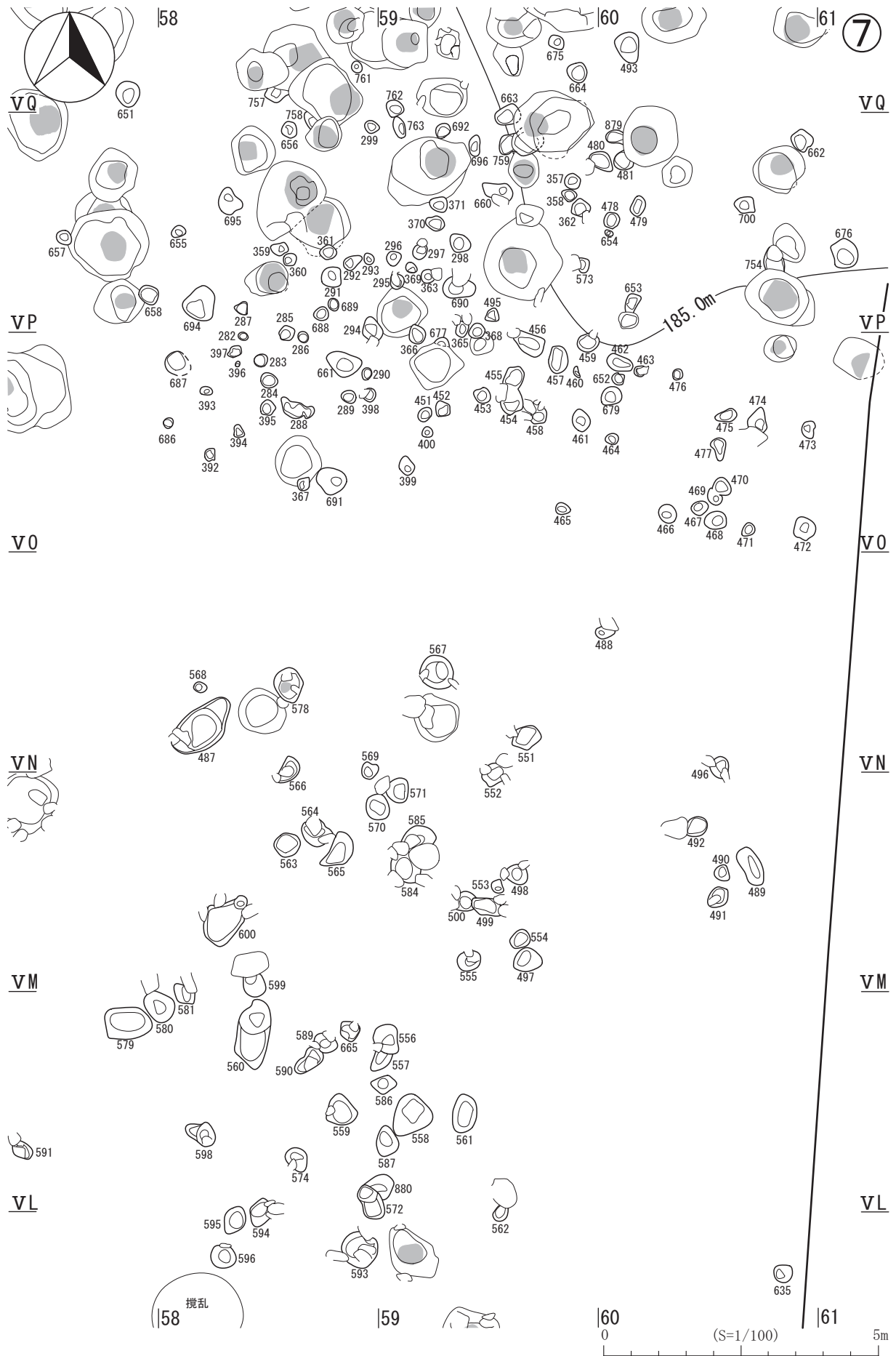


図87 ピット配置図⑦

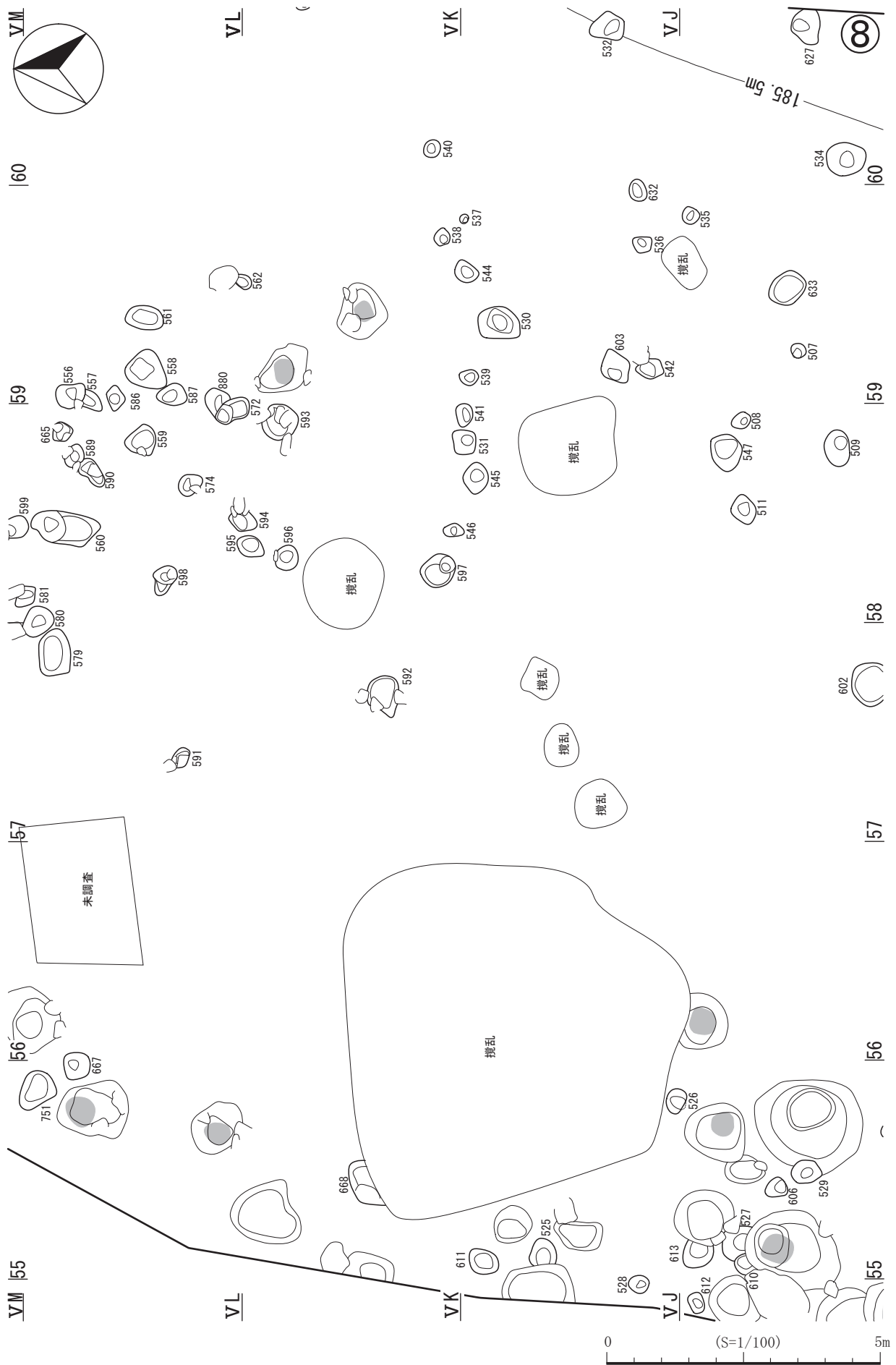


図88 ピット配置図⑧

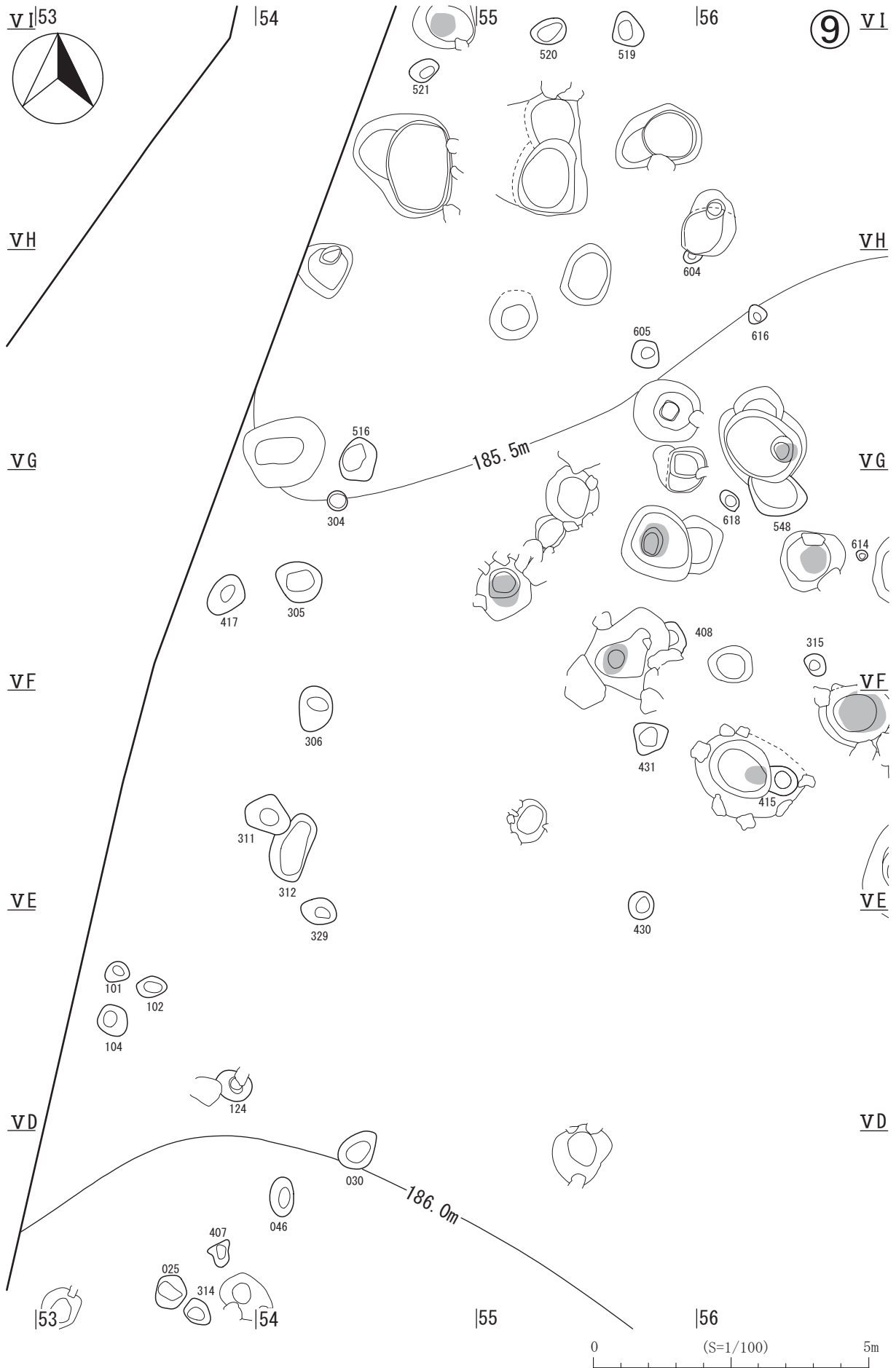


図89 ピット配置図⑨

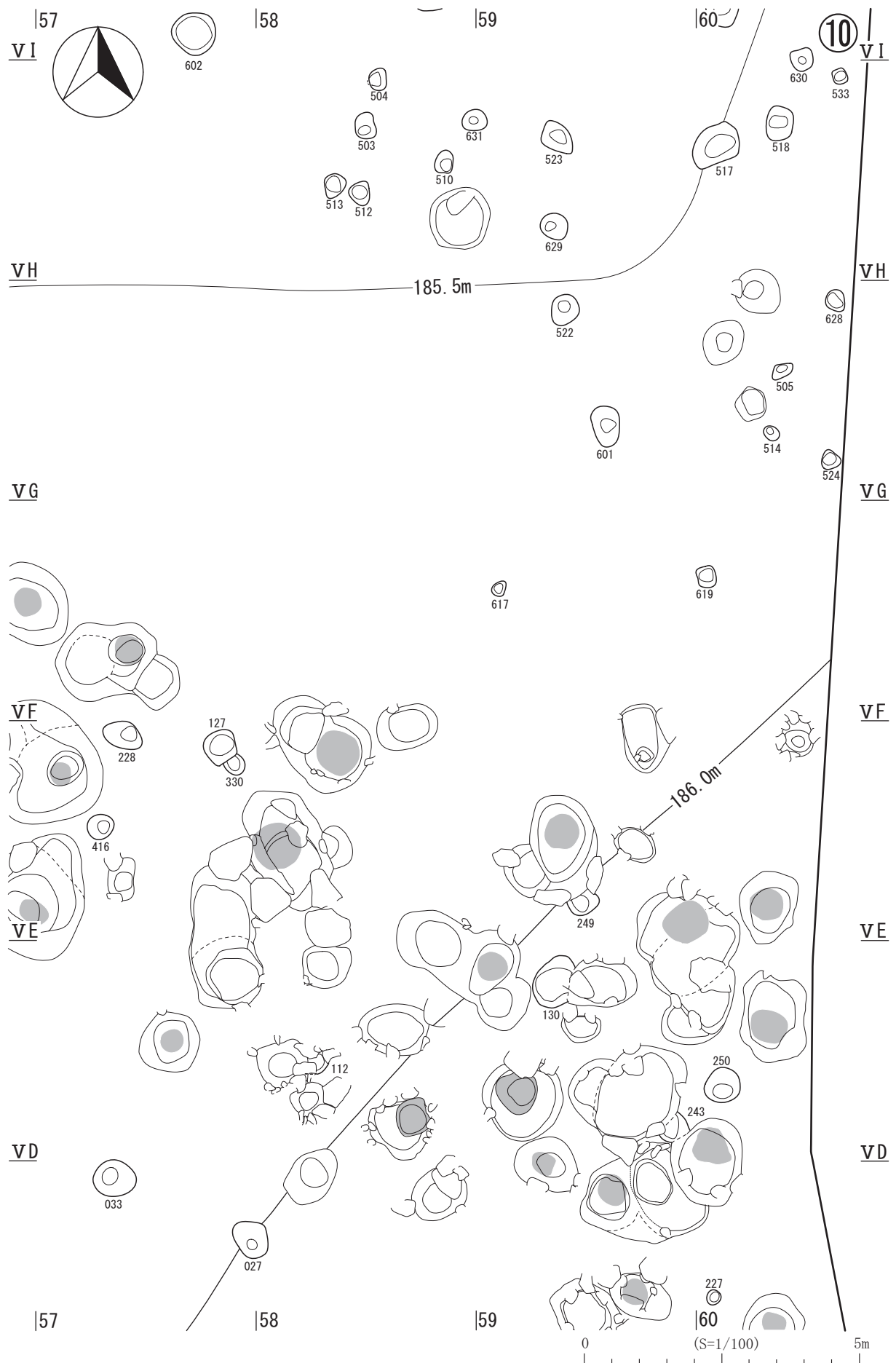


図90 ピット配置図⑩

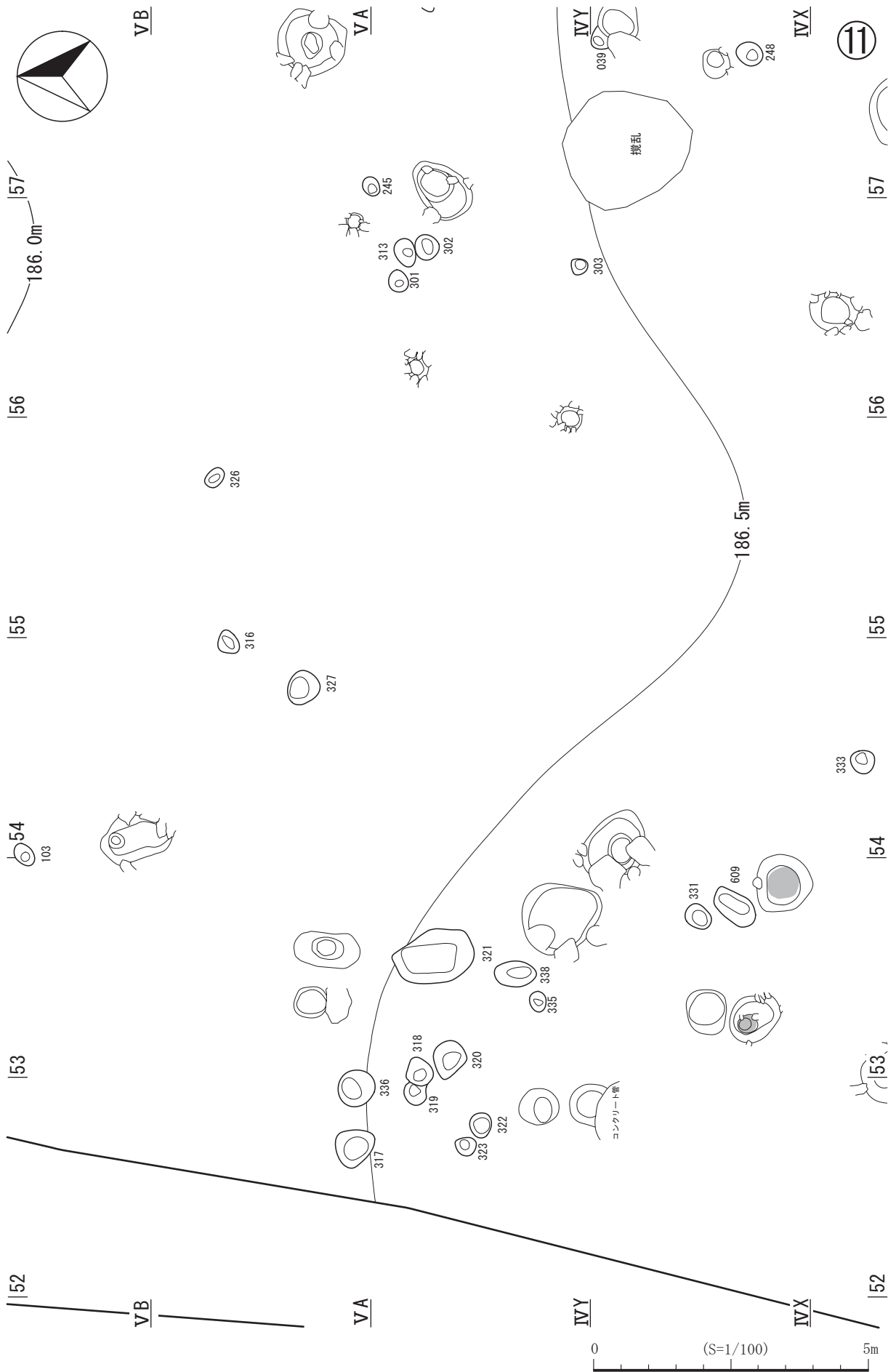


図91 ピット配置図①

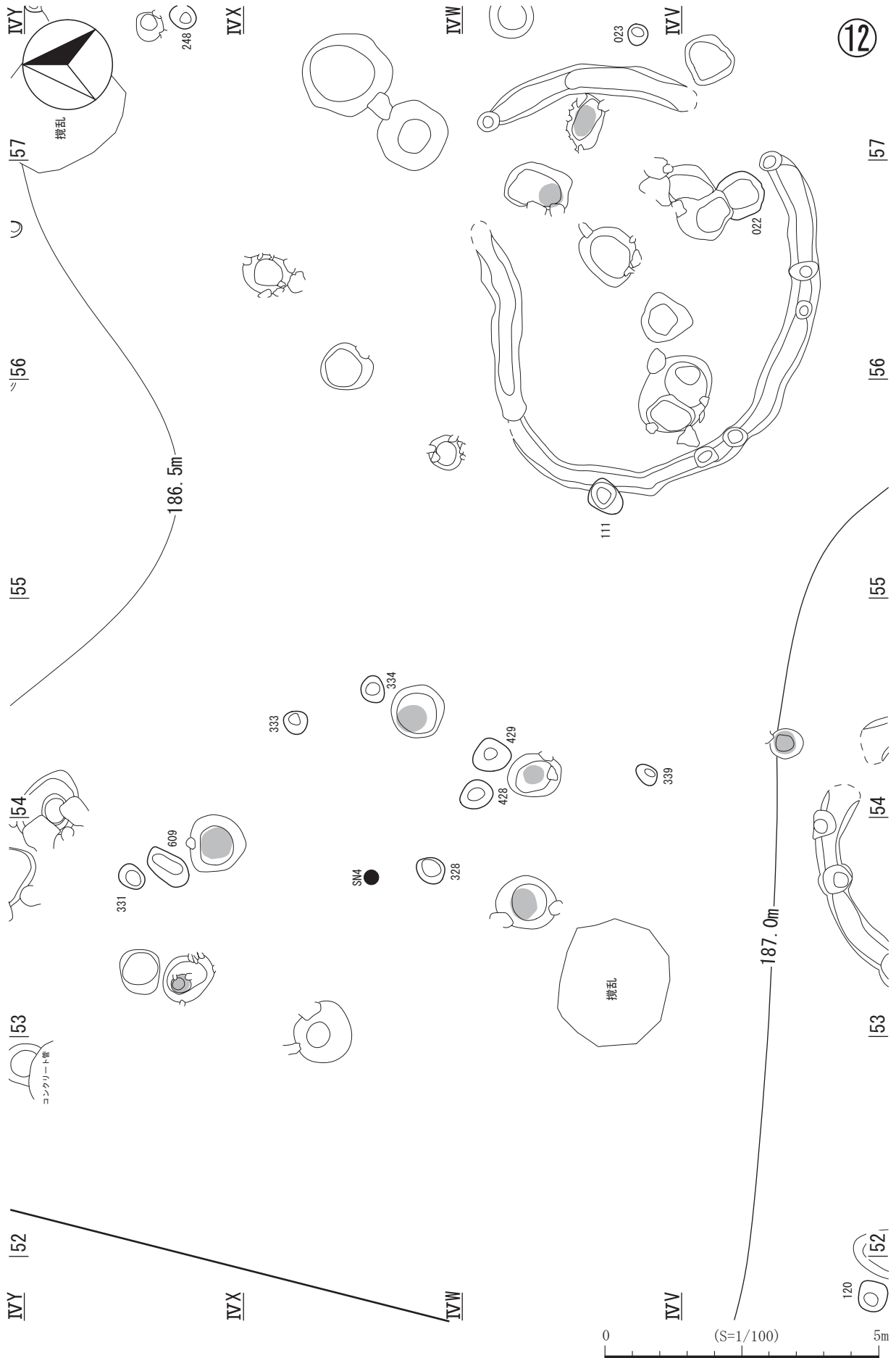


図92 ピット配置図⑫

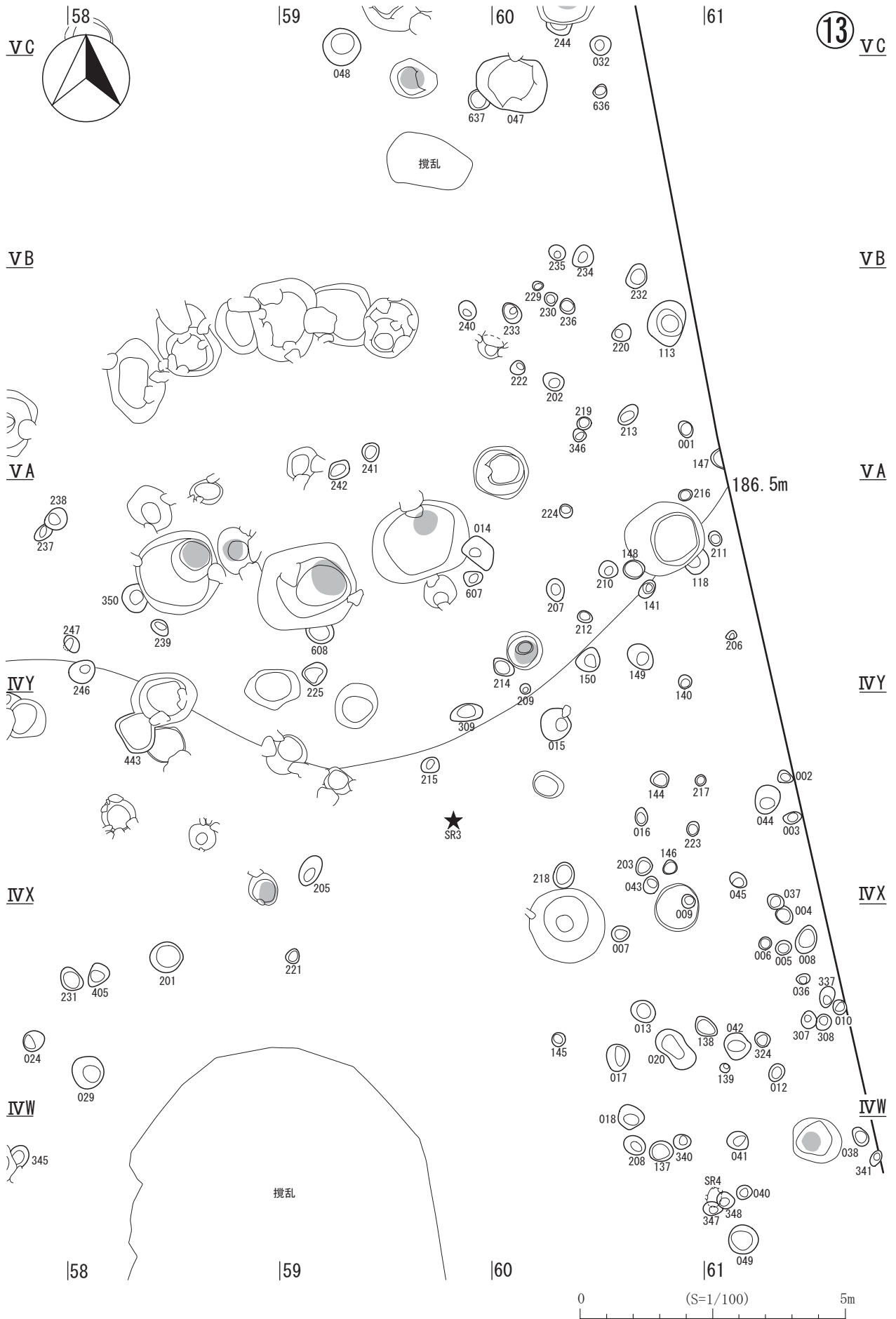


図93 ピット配置図⑬



図94 ピット配置図⑭



図95 ピット配置図⑮

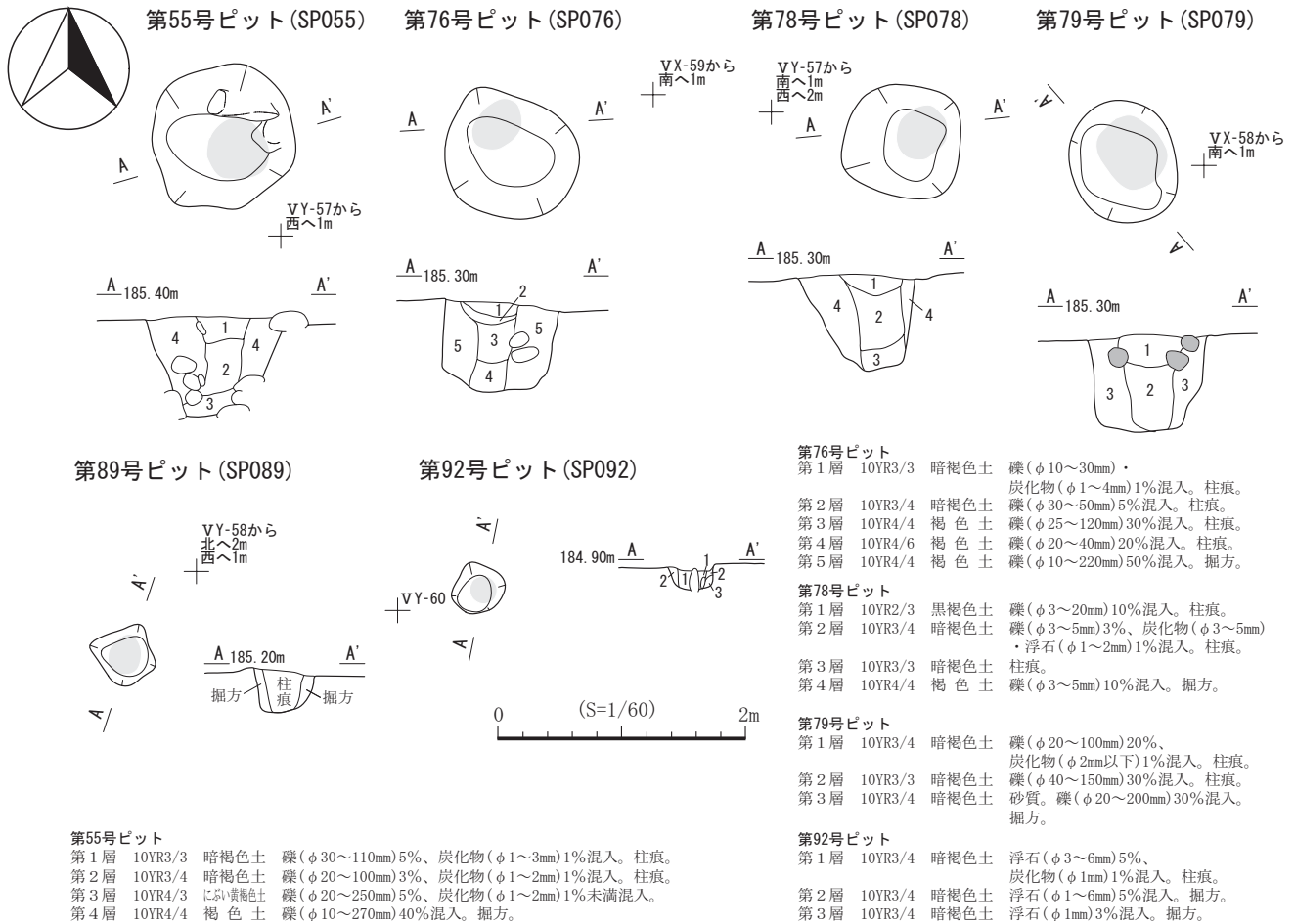


図96 北区ピット (SP055,076,078,079,089,092)

は楔形石器である。図98-25は搔器で、背面の一部に刃部調整が施されている。

土製品は第91号ピットから土偶の胴部片が出土している (図97-11)。11は堆積土中から出土した5つの破片が接合したが、胴部の一部及び頭部が足りず、完形には復元できなかった。周辺の遺構及び遺構外出土遺物から接合できる破片を探したが、周辺からは同一個体と判断できるような破片は出土していなかった。器形は三角形状となり、肩部付近には渦巻き状の沈線が、胴部下位には格子目状の沈線が施文されている。また、両肩部には斜位方向へと抜ける貫通孔がある。

石製品は1点出土した。図97-4は搬入礫として扱ったもので雨垂れ石などと呼称される自然石と考えられ、石質は凝灰岩である。器面に2箇所の自然孔が認められ、一方は貫通している。両端部の器表面に若干ざらつきがあり、軽微な敲打痕の可能性もある。

各ピットの時期については不明な点が多い。確認層位や堆積土などから基本的には縄文時代のものであり、出土遺物やその他の遺構の配置状況などから後期に属するものが多数と考えられる。また、掘立柱建物の柱穴を構成するものの一部、および後期後葉の遺物が出土した第33・124・304・305号ピットは縄文時代後期後葉のものと判断できる。

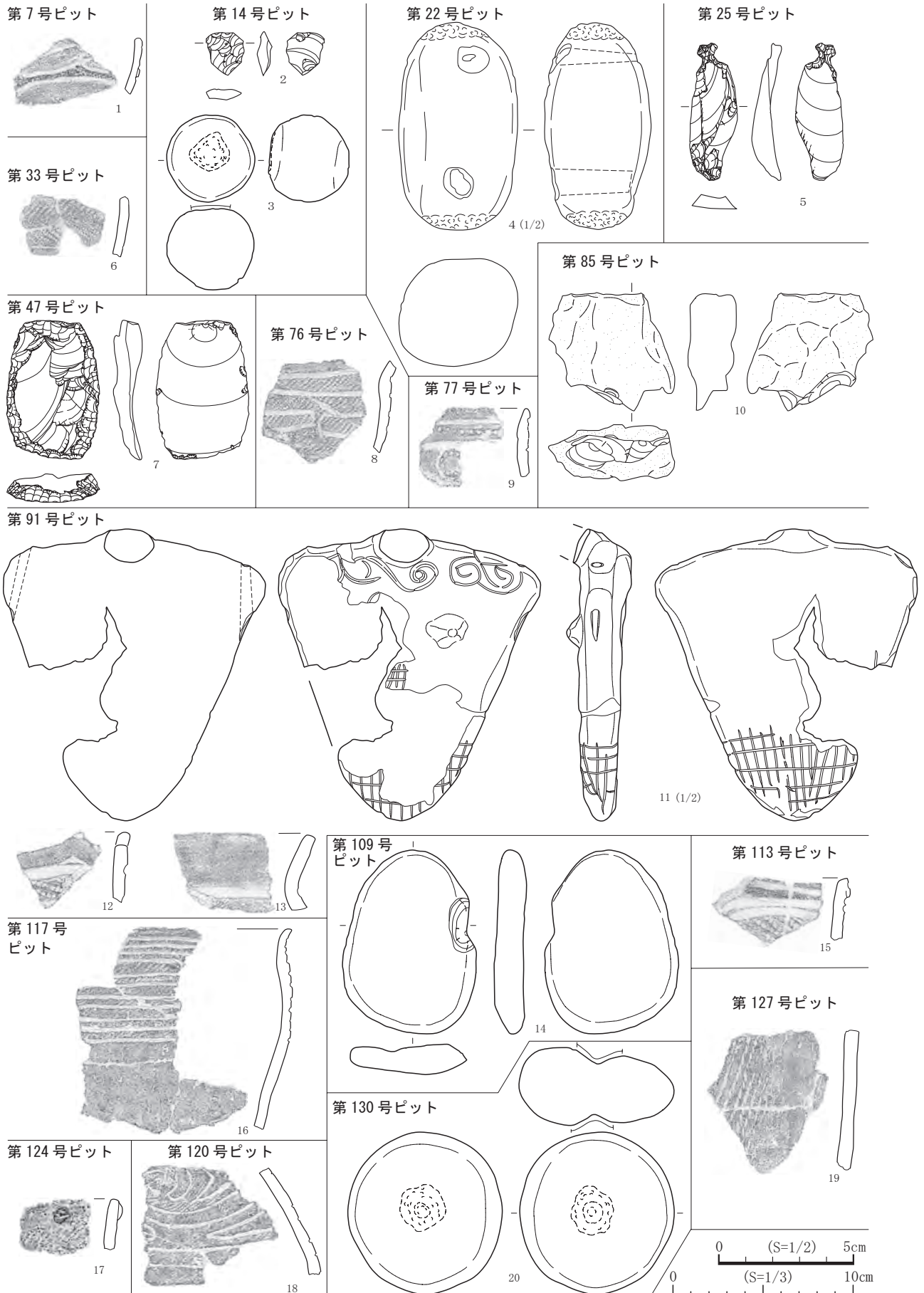


図97 ピット出土遺物 (1)

(SP007, 014, 022, 025, 033, 047, 076, 077, 085, 091, 109, 113, 117, 120, 124, 127, 130)

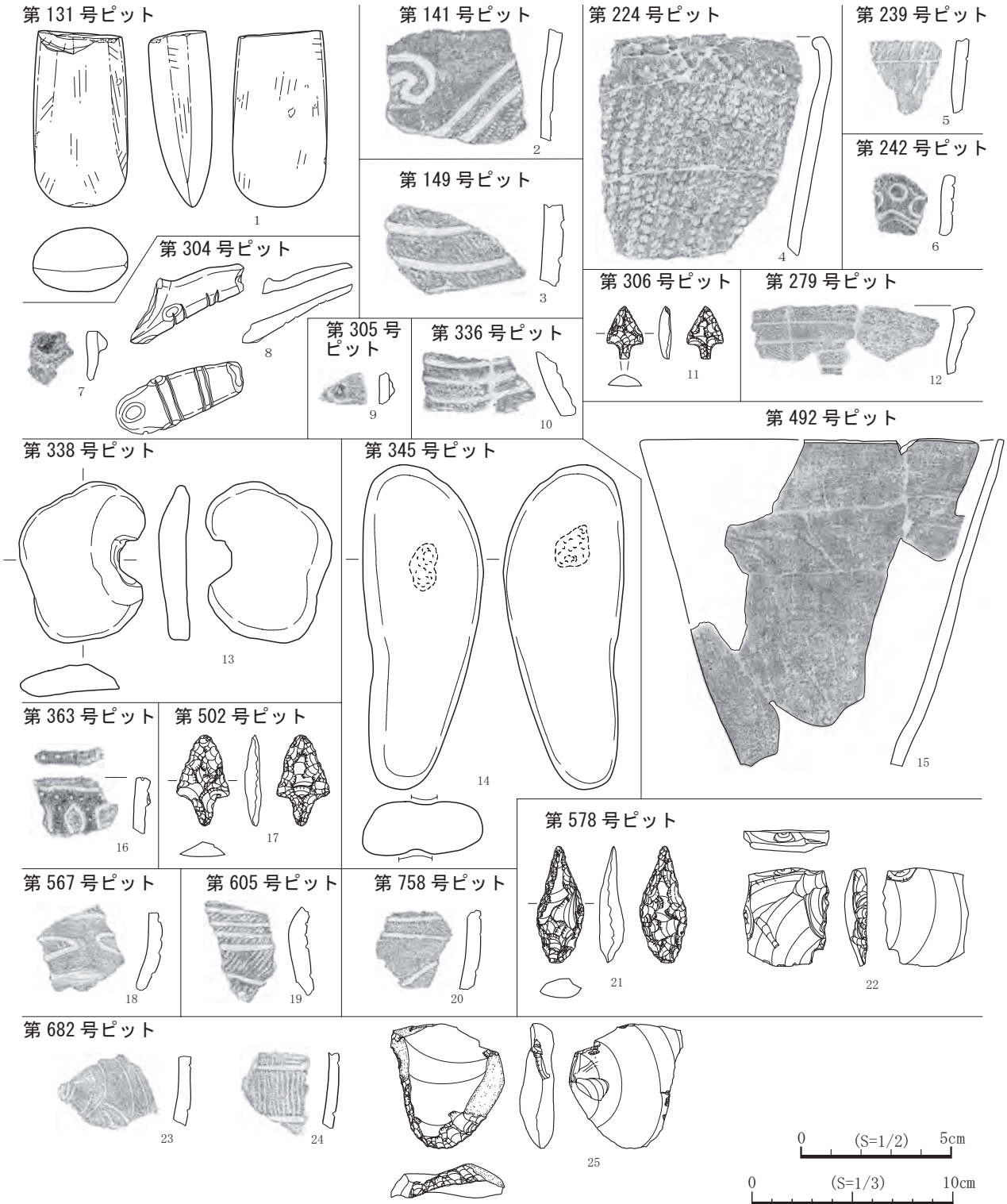


図98 ピット出土遺物 (2)

(SP131, 141, 149, 224, 239, 242, 279, 304, 305, 306, 336, 338, 345, 363, 492, 502, 567, 578, 605, 682, 758)

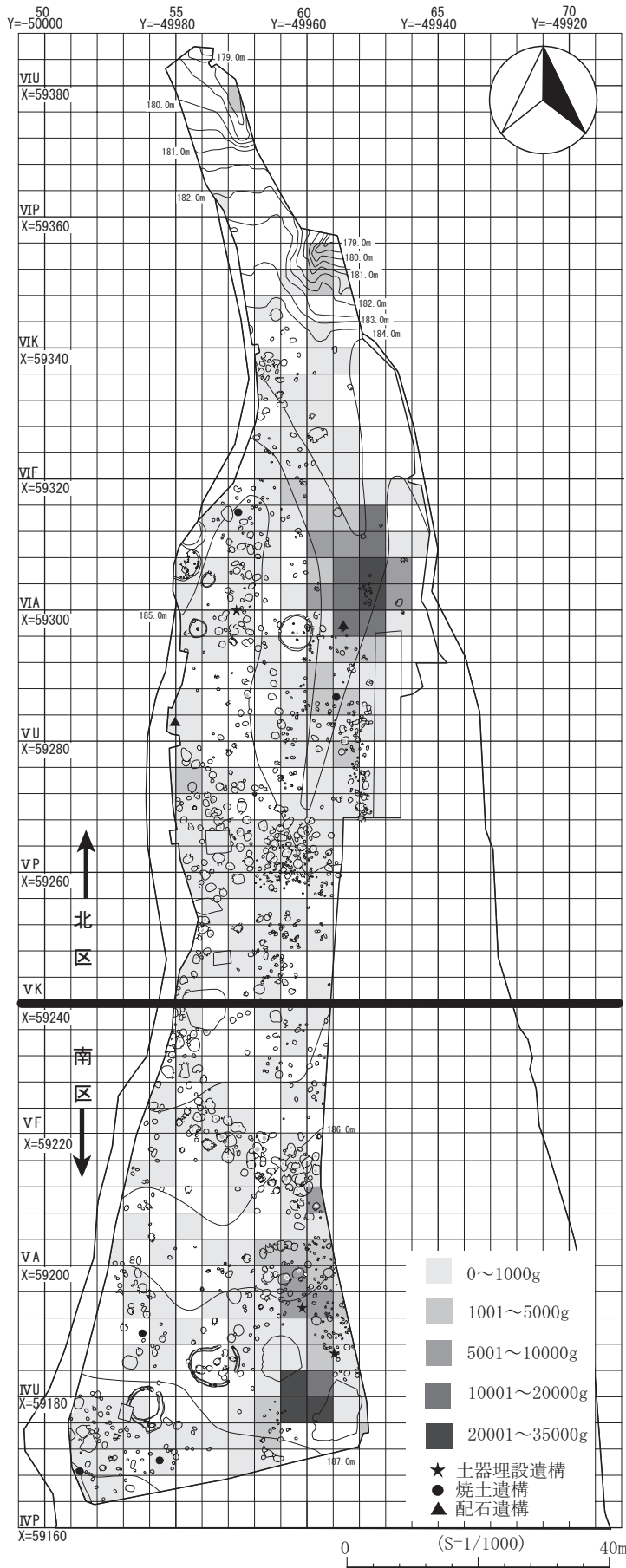


図99 土器の重量分布

第8節 遺構外出土土器

4次・5次調査の結果、遺構外からは総重量481kgの土器が出土した（図99）。4次調査では復元可能な土器についてはトータルステーションによりドット図を作成しているものの、それ以外の多くの遺物は、重機で表土を剥いだ範囲で一括して遺物を取り上げているため詳細な出土地点は不明である。そのため、図99は5次調査出土遺物の重量だけで作成している。北区ではVY～VID-60～65リッド付近、南区ではIVT～VA-59・60グリッドの範囲から多量に遺物が出土している。この範囲は、小規模な沢地形となっており、そこでは、縄文時代後期前葉の個体復元が可能な土器が潰れた状態で複数個体出土している。4次調査での南区における遺物集中範囲は5次調査と同様である。

遺構外からは縄文時代前期から後期までの土器が出土している。出土量は、前期・中期の土器はごく少数で、後期初頭から増え始め後期前葉で最大となる。その後、後期中葉で一旦減少するが、後葉になると若干増える。

遺物の掲載方法は、遺構の掲載方法と同様に環状部を基準として地区分けをしており（図3）、南区環状外、環状部、環状部内側、北区環状外の順で掲載していく。以下に出土土器の分類を示すが、各土器については、特徴から時期毎に群別し、出土量の多い後期の遺物に関しては初頭・前葉・中葉・後葉の4期に区分し、各時期の土器型式をあてた。後期の深鉢形土器で地文しか施文されていないものや、文様か

ら時期を特定できない土器に関しては、観察表中及び文中でⅢ群としか記していない。

I 群－縄文時代前期の土器

II 群－縄文時代中期の土器

- 1 中期前葉の土器－円筒上層式土器
- 2 中期末葉の土器－大木10式併行土器

III 群－縄文時代後期の土器

- 1 後期初頭の土器－蝿沢式土器（沖附式・弥栄平式土器）
- 2 後期前葉の土器－十腰内I式土器
- 3 後期中葉の土器－十腰内II・III式土器
- 4 後期後葉の土器－十腰内IV・V・VI式土器

1 南区環状外出土土器（図100～104）

南区環状外からは総重量194kgの土器が出土している。前述したように、IVT～VA-59・60グリッドの範囲から多量に遺物が出土しているほかは、概ね1kg未満の出土である。出土量の主体を占めているのは縄文時代後期前葉の土器である。なお、後期後葉の遺構と考えられる第1号掘立柱建物跡や第2号掘立柱建物跡を検出したIVV～IVY-54・55グリッド近辺からは遺物の出土量は少ないものの当該期（第Ⅲ群4類）の土器の出土が目立っている。

第Ⅲ群1類（図100-1～7）

図示したものは遺物が集中している範囲から出土したものである。1～5・7は地文施文後に沈線が施文されているもので、このうち、1～5は縄文原体が縦方向に回転されている。6は縄文に先行して沈線が施文されている。

第Ⅲ群2類（図100-8～17、図101、102-1～12）

図100-8～13は隆帯に沿って沈線が施文されているものである。図100-14～17、図101-1～3は隆帯が貼り付けられ、隆帯上には棒状工具による刺突が施されている。なお、図101-2は胴部に沈線が施文されており、沈線の間には櫛歯状の細い沈線が充填されている。図101-4は沈線が施文され、沈線間には竹管状工具による刺突が施されている。図101-5～14は沈線だけが施文されている深鉢形土器である。図101-5・6は平行沈線の間には弧状の沈線が施されている。図101-7～9は沈線間に櫛歯状の細い沈線が充填されているものである。図101-10～14は、平行に施文された沈線間に斜位の沈線が施されているものである。この中でも、図101-13・14は口縁部から底部まで復元されたものである。文様帯の幅はいずれも狭く、器高の1/3の範囲内に収まっている。

図102-1～3は壺形土器である。1はほぼ完形に復元できたものである。口縁は平口縁で、胴部最大径は器高の3/4程の高さに位置している。文様帯は頸部屈曲部から胴部最大部までの広い範囲で広がっており、文様帯内には円形と輪ゴム状の沈線が施文されている。2・3は口縁部から頸部付近までの破片である。いずれも口縁は波状となっており、屈曲部には橋状把手が貼り付けられている。図102-6～12は沈線内に縄文が充填施文されているものである。

第Ⅲ群3類（図103-41）

壺形土器の頸部片が1点出土した。器面が顕著に磨かれているほか、屈曲部の内面も磨かれている。

第Ⅲ群4類（図103-1～46）

本類は遺物の出土が集中している範囲の他に、本類に帰属すると考えられる第7号竪穴住居跡周辺のIVS・T-53・54グリッド付近や、第1号、第2号掘立柱建物跡周辺のVA-52～54グリッド付近からも出土している。

○ 口縁に刻目帯が施文されているもの（図103-1～7、17）

十腰内Ⅲ・Ⅳ式に多く見られる属性である。本調査区からは十腰内Ⅲ式の特徴である同一原体を使用した羽状縄文が出土していないことから、十腰内Ⅳ式以降に帰属する可能性が高い。この中で17には貼瘤が施されている。

○ 異なった種類の原体を併用して羽状縄文が施されているもの（図103-8～16）

十腰内Ⅳ式・Ⅴ式の前半に多く見られる属性である。10は鉢形土器で口縁から底部まで復元できたものである。口縁は平口縁で、胴部には平行に区画された文様帯の中に羽状縄文が施文されている。底部は丸底状となっており、底部中央には凹みが施されている。

○ 貼瘤が施されているもの（図103-17～31）

17～27は破片中に一つの貼瘤が、28～31は複数個の貼瘤が施されているものである。

○ 沈線と縄文が施文されているもの（図103-32～38）

32～36は平行沈線と縄文が施文されているものである。35は口唇の形状が三角形状に尖っており、器厚は同時期のものと比較すると薄くなっている。文様は幅の狭い平行沈線の中に縄文が充填されている。これらの特徴から、4類の中でも新しい段階に属する土器と考えられる。37・38は襷掛け状文や入り組状文が施文されている。

○ 地文縄文だけが施文されているもの（図103-39・40）

39は口縁に小突起が貼り付けられ、40は口縁部が内湾し肥厚している。器形から本類に含めた。

○ 注口土器の注口部（図103-42～46）

44は注口の接合部に貼瘤が施され、45は袋状にふくらんでいる。46は注口が短いもので、注口部の上部に円形の貼り付けが施されている。

その他第Ⅲ群（図102-13～19、図103-47～52、図104-1・2）

地文縄文だけが施文されているものや、無文のもので、器形などから時期を判断出来なかったものである。ただ、出土遺物の主体を縄文時代後期の土器が主体を占めていることから、これらの土器も後期に属するものと捉え第Ⅲ群として一括した。しかし、後期後半に見られる粗製土器は器形や文様などに特徴があることから、第Ⅲ群とした土器は後期前半に属する可能性が高い。図102-13～19は単軸絡条体第1類が使用されているものである。13・14は沈線間に単軸絡条体第1類が充填されているものである。一方、15～17は地文に単軸絡条体第1類が回転施文され、その後、沈線が施文されている。18・19は地文のみのもので、口縁では横位に、胴部では縦位に回転施文されている。

2 環状部出土土器（図104-3～11）

4次調査において、Ⅱ層中から出土した遺物の出土地点等について詳細を把握できなかった。5次調査はⅡ層下面から調査を開始したことから、本地区での遺物出土量は少なく、個体復元可能な土器は出土していない。3・4が第Ⅲ群2類土器で、6・9は第Ⅲ群3・4類、5・11が第Ⅲ群4類土器、

7・8・10が第Ⅲ群土器である。5は花卉状の大波状となった口縁部片で、口縁に沿って刻目帯が施されている。11は注口土器の注口部で貼瘤が複数施されており、瘤を起点として沈線が施されている。6～10は地文が施文されているだけの深鉢形土器である。6は口縁が弱く内湾し、9は異なった原体を使用して文様施文されている。これらのことから6・9は後期中葉以降に比定できると判断した。

3 環状部内側出土土器（図104-12～15）

環状部同様にⅡ層下面の調査では、土器の出土量は少なく、復元可能な個体も確認されなかった。12が第Ⅲ群1類、13が第Ⅲ群2類、14が第Ⅲ群4類、15が第Ⅲ群土器である。図104-12は地文にRLが回転施文された後に、斜行する沈線が施文されている。図104-13は沈線だけが施文されているものである。図104-14は入り組状となった縄文帯が施文されており、縄文帯にはRLが充填されている。図104-15はRLRが回転施文されている。

4 北区環状外出土土器（図104～109）

北区環状外からは総重量278kgの土器が出土している。前述したが小規模な沢地形となっているVY～VID-60～65グリッド付近からの出土量が最も多い。当該範囲では4次調査においても復元可能な個体が複数出土しており、遺物の密度が高かったと推定できる。この遺物集中範囲からは縄文時代前期末葉～後期後葉までの土器が出土しているが、出土量の主体を占めているのは縄文時代後期前葉の土器群である。

第Ⅰ群土器（図105-1～3）

円筒下層d式の土器で、本調査区で出土した最も古い土器型式となる。出土量は極めて少数で破片資料ばかりであるが、北区から比較的多く出土している。

第Ⅱ群土器（図105-4～7）

4・5は円筒上層c式、6・7は中期末葉の大木10式併行土器である。第Ⅰ群土器同様に出土量は極めて少なく、全て図示した。

第Ⅲ群1類土器（図105-8～14）

14は口縁部～底部まで復元できた深鉢形土器である。口縁部は無文で、頸部から下位の全面に地文が施文されている（RL横・斜回転）。また、地文施文後には、2本1単位となる側面圧痕が頸部、胴部下半に3単位施されており、2つの文様帯が区画されている。このうち、頸部から胴部中位までの文様帯内には斜行する側面圧痕が施されており、文様帯内が三角形に区画されている。底部外面には網代痕が認められる。8～11は地文施文後に沈線が施文されているものである。

12・13は隆帯が貼り付けられているもので、いずれも隆帯上には刻みが施されている。12は波状口縁の波頂部片で、波頂部外面にはボタン状の隆帯が貼り付けられている。13は外面に棒状工具による刺突が施されている。

第Ⅲ群2類土器（図105-15～30、図106、図107-1～12）

○ 隆帯及び隆帯に沿って沈線が施されているもの（図105-15～22）

15～18は隆帯が施されており、隆帯上及び外面には棒状工具による刺突が施されている。15・16は文様などから同一個体と考えられる。19～22は隆帯に沿って沈線が施文されているものである。

○ 沈線が施文されているもの（図105-23～30、図106-1～20）

図105-23～26は折り返し状口縁となるものである。図106-2～6は沈線間に櫛歯状の細かい沈線が充填されているものである。図106-7～11は鉢形土器、図106-12～18は壺形土器である。図106-16はほぼ完形に復元されたものである。文様は頸部屈曲部から胴部最大径のある胴部下半まで施文されており、文様帯を区画している所では隆帯に沿った沈線が、区画内部では沈線だけが施文されている。沈線のモチーフはいわゆる輪ゴム状の沈線で、入り組状、三角形がある。19・20は底部片である。19の底面外面には2重の円形沈線と、内円と外円を連結するような弧状の沈線が施文されている。

○ 沈線と縄文が施文されているもの（図106-21～25、図107-1～12）

図106-21～25、図107-1～3は方形を基調とした沈線が施文されているものである。図107-1は口縁が波状となっており、波頂部外面には4本1単位となった刻みが施されている。文様はクランク状の沈線が施されており、その内部には縄文が充填されている。図107-3もクランク状のモチーフとなる可能性がある。図107-6～12は弧状、波状、入り組状の沈線をモチーフとしたものである。図107-6は鉢形土器で口縁～胴部までが復元できたものである。口縁部と胴部下位に平行の沈線が施文され、文様帯が区画されており、文様帯内には波状の沈線が横位に展開している。

○ その他（図107-13）

13は口縁の内面が張り出して、肥厚しているもので、口唇には沈線が施文されている。外面には口縁部に3本の沈線が施文されている。器形で判断すると十腰内Ⅱ式の器形に近いが、口縁際に沈線が施文されている等の文様構成は十腰内Ⅰ式のものである。本稿では文様を優先させて、十腰内Ⅰ式に帰属させたが、十腰内Ⅱ式となる可能性もある。

第Ⅲ群3類土器（図107-13・14）

14は平行沈線内に矢羽根状の沈線が施文されているものである。

第Ⅲ群4類土器（図107-14～38、図108-1～21）

○ 口縁に刻目帯があるもの（図107-17）

十腰内Ⅲ・Ⅳ式に多く見られる属性である。本調査区からは十腰内Ⅲ式の特徴である同一原体を使用した羽状縄文が出土していないことから、十腰内Ⅳ式以降に帰属する可能性が高い。

○ 異なった種類の原体を併用して羽状縄文が施されているもの（図107-18～29）

十腰内Ⅳ式・Ⅴ式の前半に多く見られる属性である。18～25は沈線で区画された内側に充填されているものである。26～29は地文縄文として施文されているものである。29は他のものとは異なっており、縄文が帯状となるように施文され、帯と帯の間隔が広がっているものである。このような属性は十腰内Ⅵ式に多く見られる手法であり、当該期に帰属する可能性も考えられる。

○ 縄文と沈線が施文されているもの（図107-30～38、図108-1）

図107-30・31は口縁部片で、地文施文後に沈線が施文されているものである。32～38、図108-1は沈線で縄文帯が区画されているものである。図107-32～36は襷掛け状、木の葉状文が施文されているもので、図107-37・38、図108-1はコの字状の縄文体が施文されているものである。図108-1は口縁～胴部まで復元できた鉢形土器である。口縁～頸部屈曲部までは無文となり、頸部屈曲部と胴部下半に平行の帯状文が施文され、その間にコの字状の縄文帯が施文されている。土器外面の色調は他の土器と比べ、赤ないしは橙色が強い。文様などから本類の中でも新しい段階に位置づけられる可能

性がある。

○ 貼瘤が施されているもの (図108-2～11)

図108-2は壺または注口土器の口縁部片である。口縁は平口縁であるが、小突起が貼り付けられている。文様帯は口縁部付近に限定されており、沈線施文後に縄文が充填施文されている。沈線は文様帯に沿って1本の沈線が施文されるほか、これと口縁部を連結するような弧状の沈線が付加されている。2は前述した図108-1と土器外面の色調が近似しており、1と近い段階に位置づけられる可能性もある。図108-2～10は破片中に貼瘤が1つしか貼り付けられていないもので、図108-11は破片中に貼瘤が複数個貼り付けられているものである。

○ 注口土器の注口部 (図108-12・13)

12は注口の接合部付近に沈線が、13は縄文が施文されている。

○ 地文だけが施文されているもの (図108-14～21)

文様及び器形から本類に含めた。図108-14～17、19～21は地文に縄文が施文されているもので、18は条痕が施されているものである。21は底部片で、底部形状は上げ底状となっている。

○ その他 (図107-15・16)

15・16は鉢形土器で、15は口縁～底部まで復元できたものである。2点共に平口縁で、口縁の断面形は弱く内湾している。また、文様は平行帯状文が施文され、帯状内には縄文が充填されている。帯状間は磨かれており、帯状文とミガキ帯が交互に表出されているものである。平行の沈線が施文されている手法から十腰内Ⅱ式に帰属する可能性も考えたが、沈線間にミガキ帯が設けられていることと、本調査区では典型的な十腰内Ⅱ式土器の出土がごく少数であることから、本類に含めた。

第Ⅲ群 (図108-22～28、図109)

図108-22～27、図109-1は地文が施文されているだけの土器である。図108-24～27は原体が縦位に回転されて施文されたものである。図109-1は調査区北端の沢跡から出土したもので、ほぼ完形に復元できたものである。文様は外面全体にLRが回転施文(斜・横)されている。図108-28、図109-3～10は単軸絡条体により文様施文されているものである。図108-28、図109-3～7は第1類が、図109-8～10は第5類が使用されている。図109-3は折り返し状口縁となる口縁部片で、単軸絡状帯第1類を回転施文した後に、カニバサミ状の沈線が施文されている。しかし、破片資料でモチーフの一部が欠落していることから本群に含めた。図109-2は単軸絡条体の側面圧痕が施されている。

第9節 石器

遺構外出土石器は、図3の地区区分に従い南区環状外、環状部、北区環状外、環状部内側、出土地区不明に分けて掲載した。出土点数は、遺構内出土石器と合わせたものを第4章表2・表3にまとめた。剥片石器は珪質頁岩を、礫石器は凝灰岩を素材とするものが多いため、両者については文中での石材記載を省略した。黒曜石は全点産地推定をしており、詳細は第3章第3節に示した。

1 南区環状外出土石器（図110～115）

石器の分布状況は概ね土器と同様と考えられる。他地区では出土していない大石平型石鏡が出土していることや、石器製作のハンマーと考えられる珪質頁岩製の敲石がやや多いことが特徴である。

図110-1～12は有茎石鏃で、4・5・12は基部から茎部にかけてアスファルトが微量に付着している。1・2は長さ2cmほどの小形品で、1は長さに対して幅が広い。8は茎部が長く作り出されている。図110-13は小形の石槍で、基部は円基である。図110-14～21は石錐である。14～18はつまみのない棒状のもの、19・20は整形されたつまみ部のあるもの、21は剥片の一端に刃部を作り出したものである。図110-22～28は石匙で、22は斜刃型、23～28は縦型である。図110-29・30・図111-1～4は石鏡である。29・30は柄状の基部が作り出された小型品で、大石平型石鏡の呼称をもつ。1～4は平面が撥形で下端に直線的な刃部をもつものである。1・2の刃部は両面調整、3・4の刃部は片面調整である。2の腹面刃部には、部分的に光沢が認められる。スクレーパーのうち、図111-5は搔器、図111-6～13は削器である。8の両側面には2箇所ずつ抉りが施されている。図112-1・2は異形石器である。1は三脚石器に類似しているが、抉りは下端のみが顕著である。2は3箇所の先端部をもち形状は石錐に類似する。図112-3～6は楔形石器である。原礫面の残存状況から、小形礫を素材としたことがわかる。図112-7は微細剥離痕のある黒曜石剥片である。産地推定では青森県木造出来島群に分類された。図112-8・9は石核である。

図112-10は緑色凝灰岩製磨製石斧の基部片である。図112-11～13は磨石である。11は側面を機能面とし、正面中央に軽微な敲打痕が認められる。石材はデイサイトである。12は器面の広い範囲に使用痕が認められる。13は側面を主要な機能面とし、表裏両面にも磨きに近い平滑な使用痕が認められる。図113は敲石である。1～6は器面に部分的な敲打痕が認められる一般的な敲石で、5はデイサイトを素材とする。7～15は珪質頁岩を素材とする多面体敲石で、ほとんどが石核の転用と考えられる。敲打痕は当初11～13のように稜付近に形成され、使用の累積によって面状となり、最終的に7のように多面体を呈すると考えられる。図114-1～7は凹石で、すべて複数面に使用痕がみられる。図114-8～11・図115-1～7は石錘である。8・9は切目石錘で、8の正面には側面に切り込みを施したものと同様の工具によると思われる線状痕が認められる。10・11・1～7は打欠石錘である。10は珪質頁岩製で、横長剥片の短軸両端に剥離と敲打によって抉りを施している。

2 環状部出土石器（図115）

環状部で出土した石器は極めて少ない。8は先端部を欠損した黒曜石製石槍である。産地推定では北海道置戸安住群に分類された。9は円基無茎、10は円基無茎、11は有茎石鏃である。12は小片ながら黒曜石の石核で、角礫を素材としている。産地推定結果は青森県木造出来島群に分類された。13・

14は搔器である。原礫面または原礫面に近い部分に急角度の刃部が作り出されている。15は扁平な礫の周縁を打ち欠き側面を使用した磨石で、形態から縄文時代中期以前に用いられたものと推定される。

3 北区環状外出土石器（図116～123）

石器の分布状況は概ね土器と同様であり、埋没沢にあたる部分での出土量が多い。

図116-1～9は石鏃で、1は平基、2は凹基無茎石鏃である。1の平面は五角形で、最大幅は先端部に近い部分にある。2は各頂点が非常に鋭く、未使用の可能性が高い。3～9は有茎石鏃である。3～5・8・9は基部の挟りが弱く、8は尖基鏃の可能性もある。9は身部が極めて長い。図116-10～13は石錐で、10はつまみのない棒状のもの、11～13は剥片の一部に刃部を作り出したものである。13の先端は摩滅していない。図116-14～16は石匙で、14は縦型、15は横型、16は斜刃型である。図116-17・18は石鏡で、平面形は17が楕円形に近く、18が撥形である。図116-19は小形の異形石器で、形状は大石平型石鏡に類似している。図116-20は黒曜石の二次加工剥片で、欠損した削器の可能性もある。産地推定では青森県深浦八森山群に分類された。図116-21～25はスクレーパーで、21～23は削器、24・25は搔器である。21は側面に挟りを有し、図111-8に類似した形態である。24は原礫面に直接二次加工を施している。図117-1～7は楔形石器である。図117-8は微細剥離痕のある黒曜石剥片で、産地推定では青森県深浦八森山群に分類された。図117-9は円礫素材の黒曜石剥片、図117-10は角礫素材の黒曜石石核である。9・10は産地推定で青森県木造出来島群に分類された。図117-11～13・図118-1～3は石核である。図117-14は両面加工石器で、剥片石器素材の可能性もある。

図119-1～3は磨製石斧で、擦痕・敲打整形痕が比較的明瞭に認められる。1は緑色凝灰岩製で基部のみが残存している。2は花崗閃緑岩製で刃部は折損している。折損後の剥離が明瞭で刃部再生を企図した可能性がある。3は凝灰岩製で破損後の被熱により全体が赤化している。図119-4～8・図120-1・2は磨石である。4は礫の表裏両面を使用しており、不明瞭な擦痕が認められる。5～8・1・2は側面を主要な機能面とする一群である。7は砂岩、8は安山岩、1は流紋岩を素材とし、表裏の器面には研磨に類した光沢のある平滑面が形成されている。図120-3～7は敲石で、敲打痕は部分的かつ軽微なものが多い。図120-8～10・図121-1～8は凹石で、凹み痕は複数面に形成されるものが多い。図121-9～13・図122-1～12は石錘である。図121-9のみが切目石錘、その他は打欠石錘である。図121-10の正面にはススが付着しているが、挟りの位置に対応してススの付着が弱い部分が存在する。図121-11は短軸両端のほか、下端にも剥離が施されている。図122-5の挟りは幅の狭い敲打によって溝状に施されている。図123-1・2は縁のある石皿、図123-3・5はデイサイトの板状礫を素材とする縁のない石皿である。図123-4は台石で、中央部の滑らかな窪みは自然面である。

4 環状部内側出土石器（図104）

環状部内側では土器と同様に石器もほとんど出土していない。16は凹基無茎石鏃である。

5 出土地区不明（図115）

出土地区が不明の表採品等である。16は有茎石鏃である。17は凹刃の削器である。上下両端に原礫面を有し、短径5cm程度の垂円礫を素材としている。18は打欠石錘である。



図100 南区遺構外出土土器（環状外）（1）

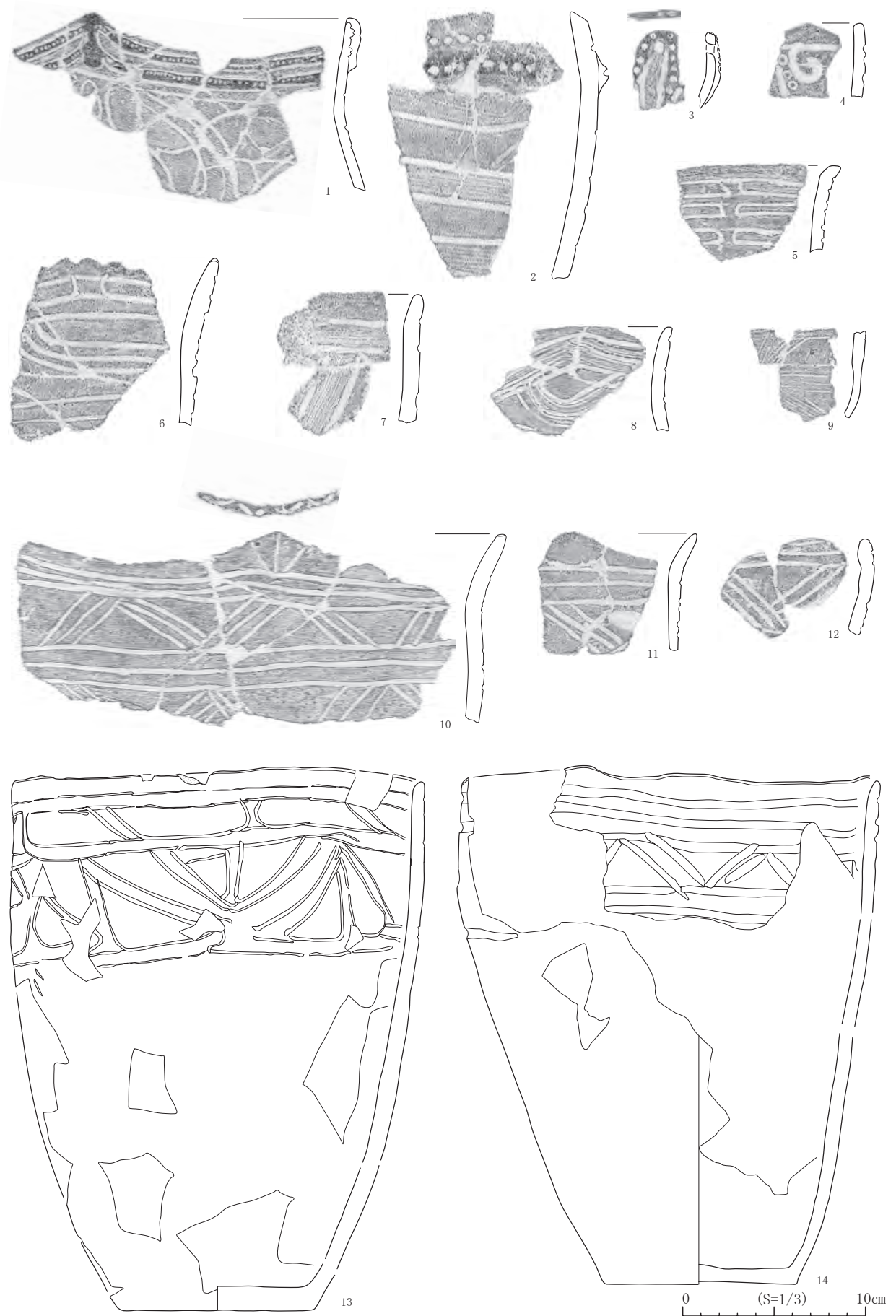


图101 南区遺構外出土土器（環状外）（2）

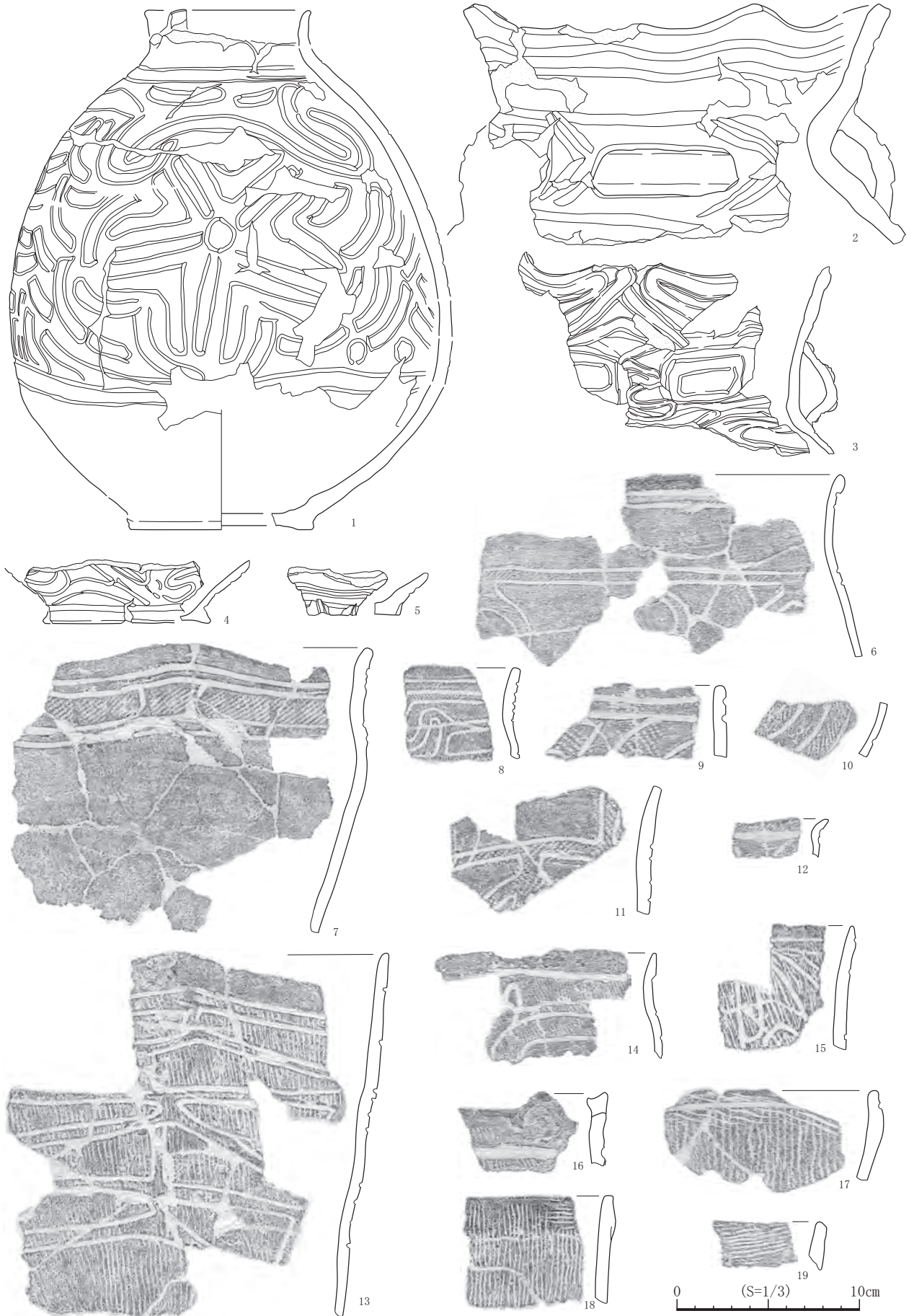


図102 南区遺構外出土土器（環状外）（3）

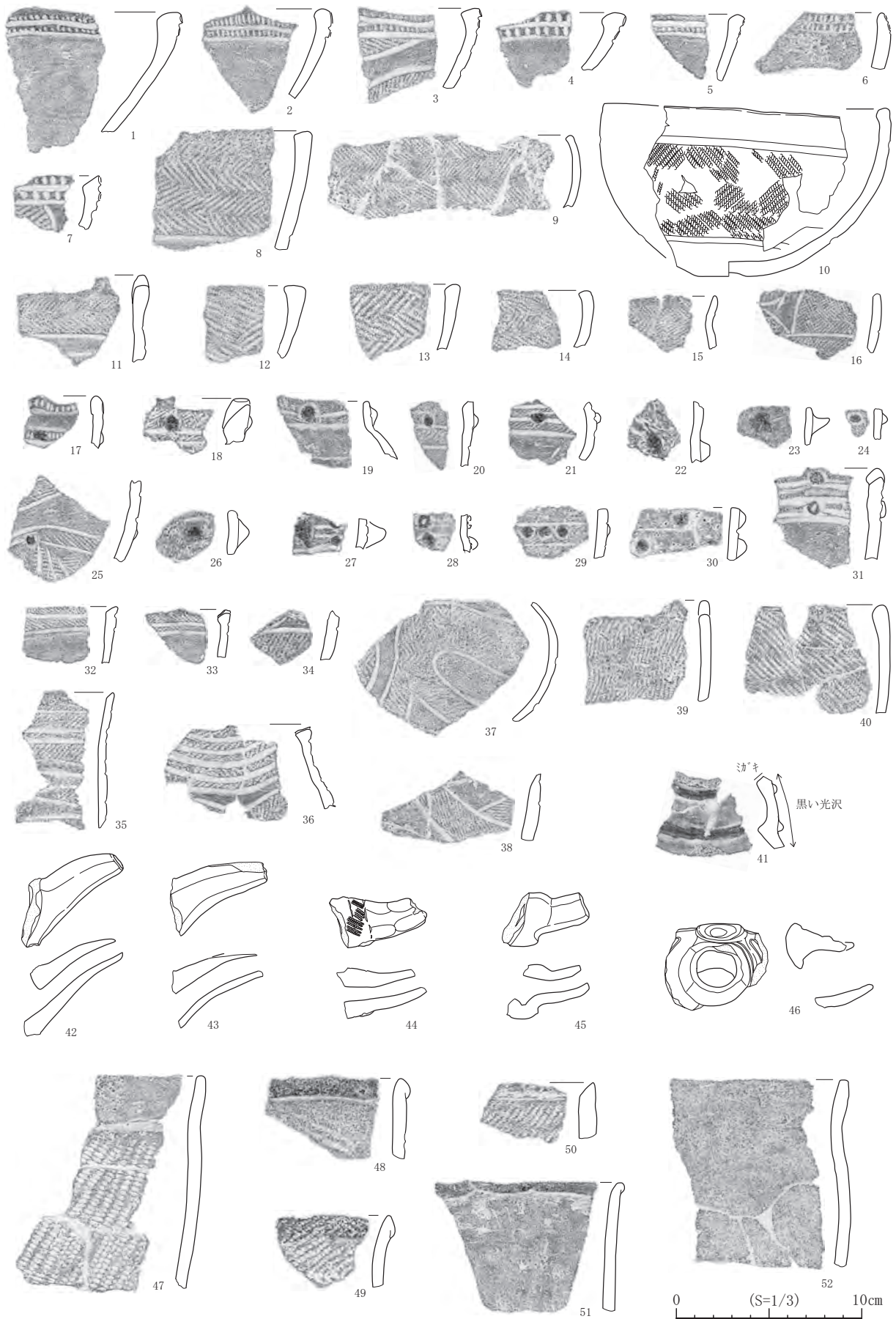
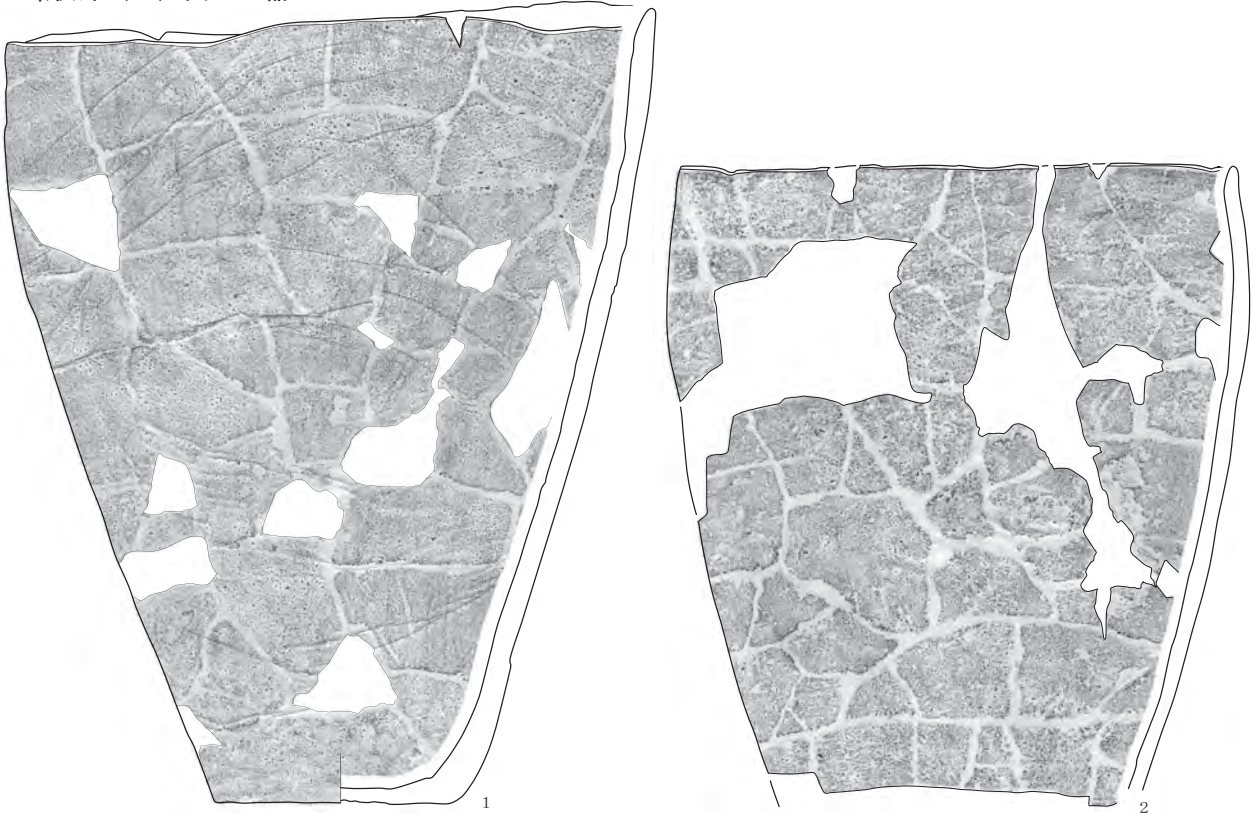
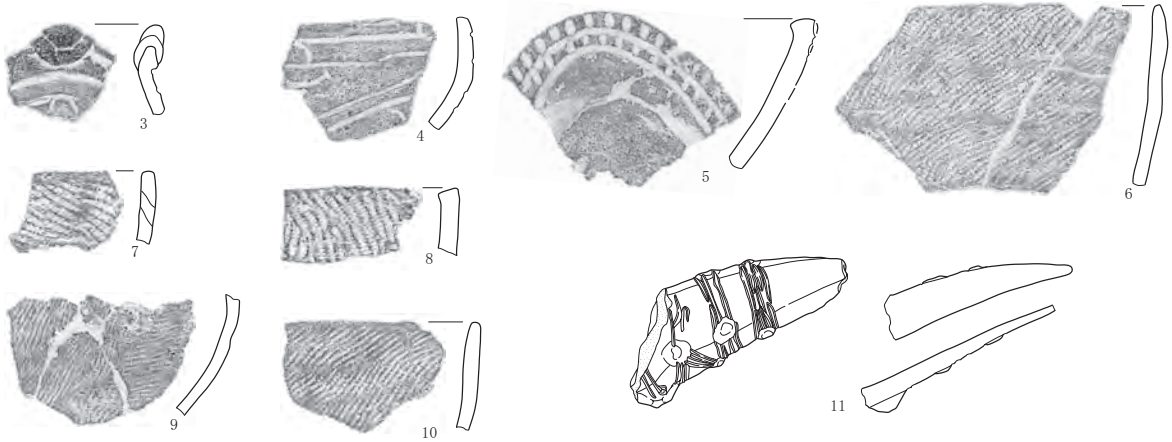


图103 南区遺構外出土土器（環状外）（4）

環状外（5）出土土器



環状部出土遺物



環状内出土遺物

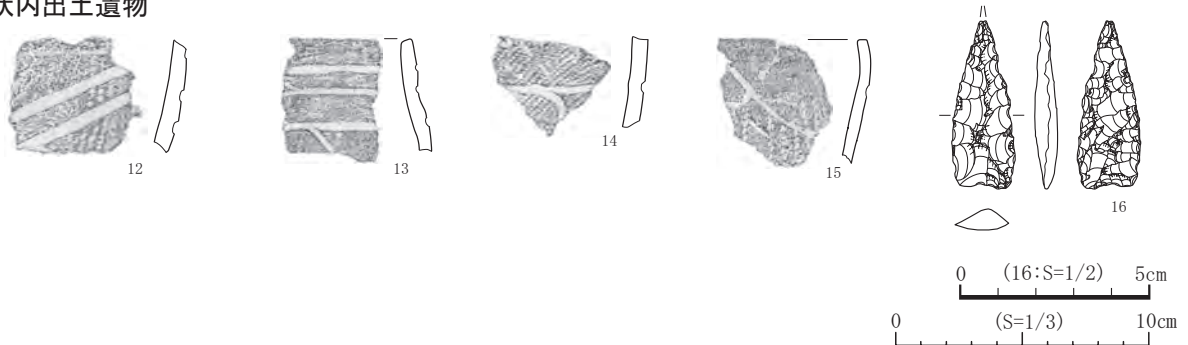


図104 南区遺構外出土土器（環状外（5）・環状部・環状内）

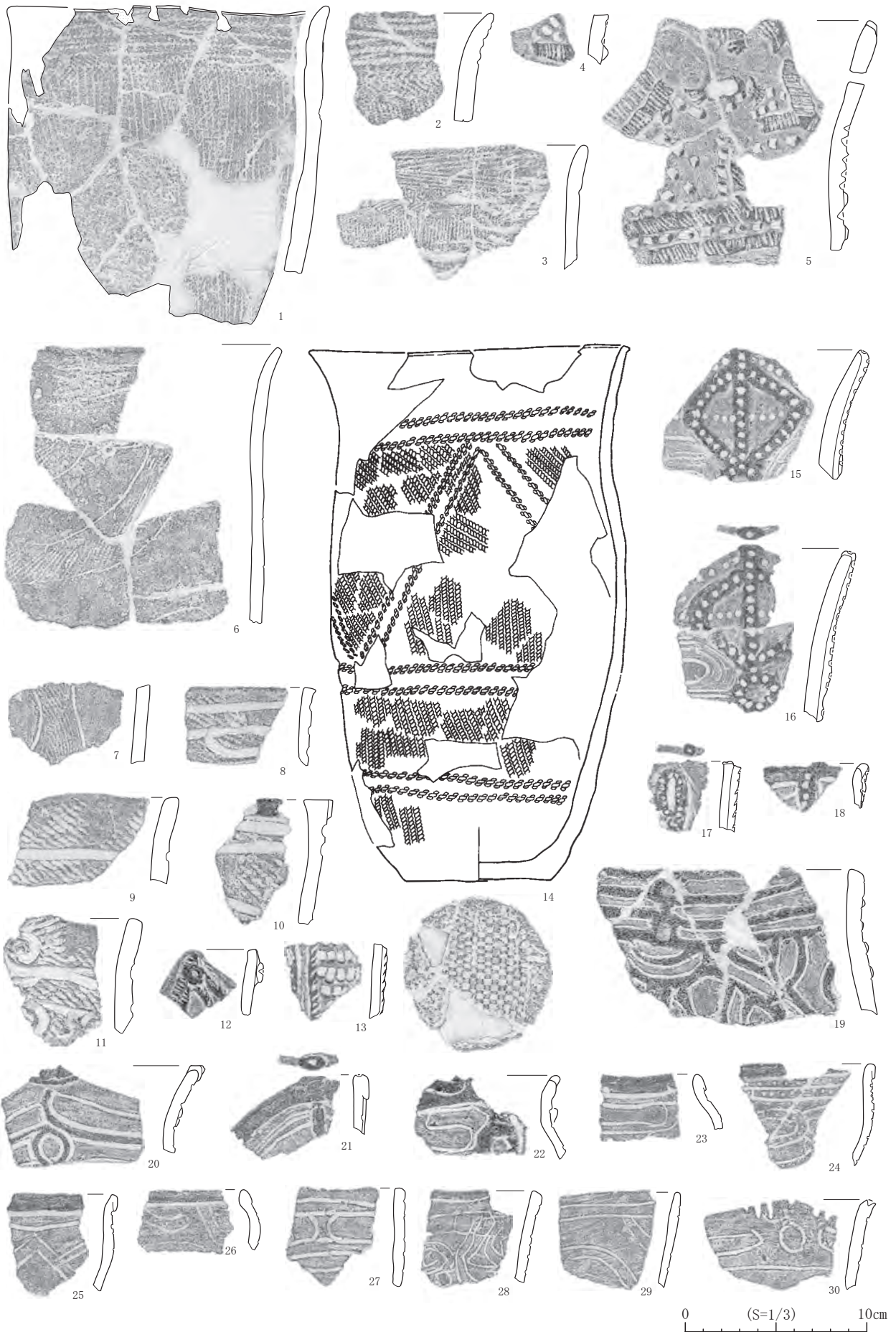


图105 北区遺構外出土土器（環状外）（1）



图106 北区遺構外出土土器（環状外）（2）

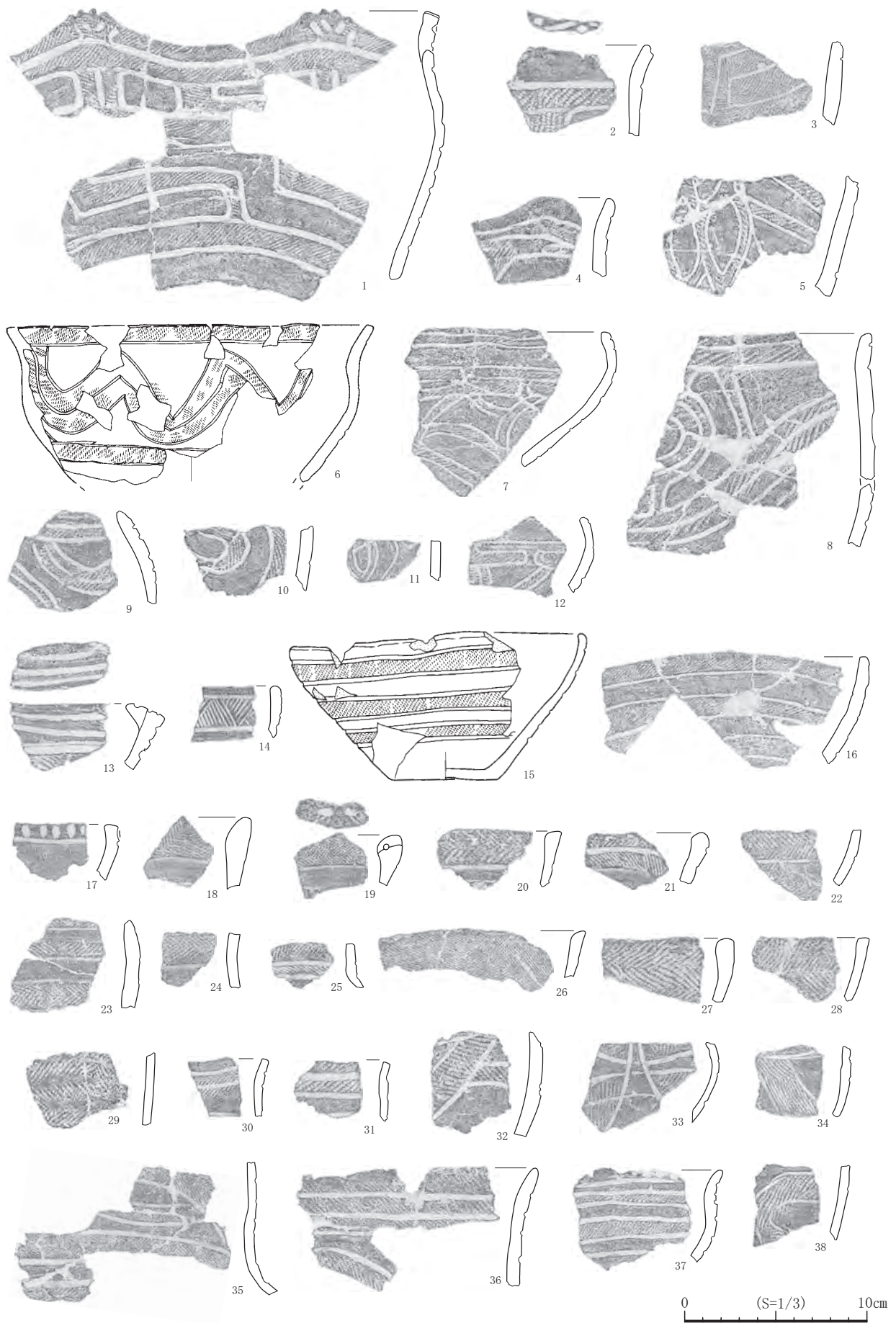


图107 北区遺構外出土土器（環状外）（3）

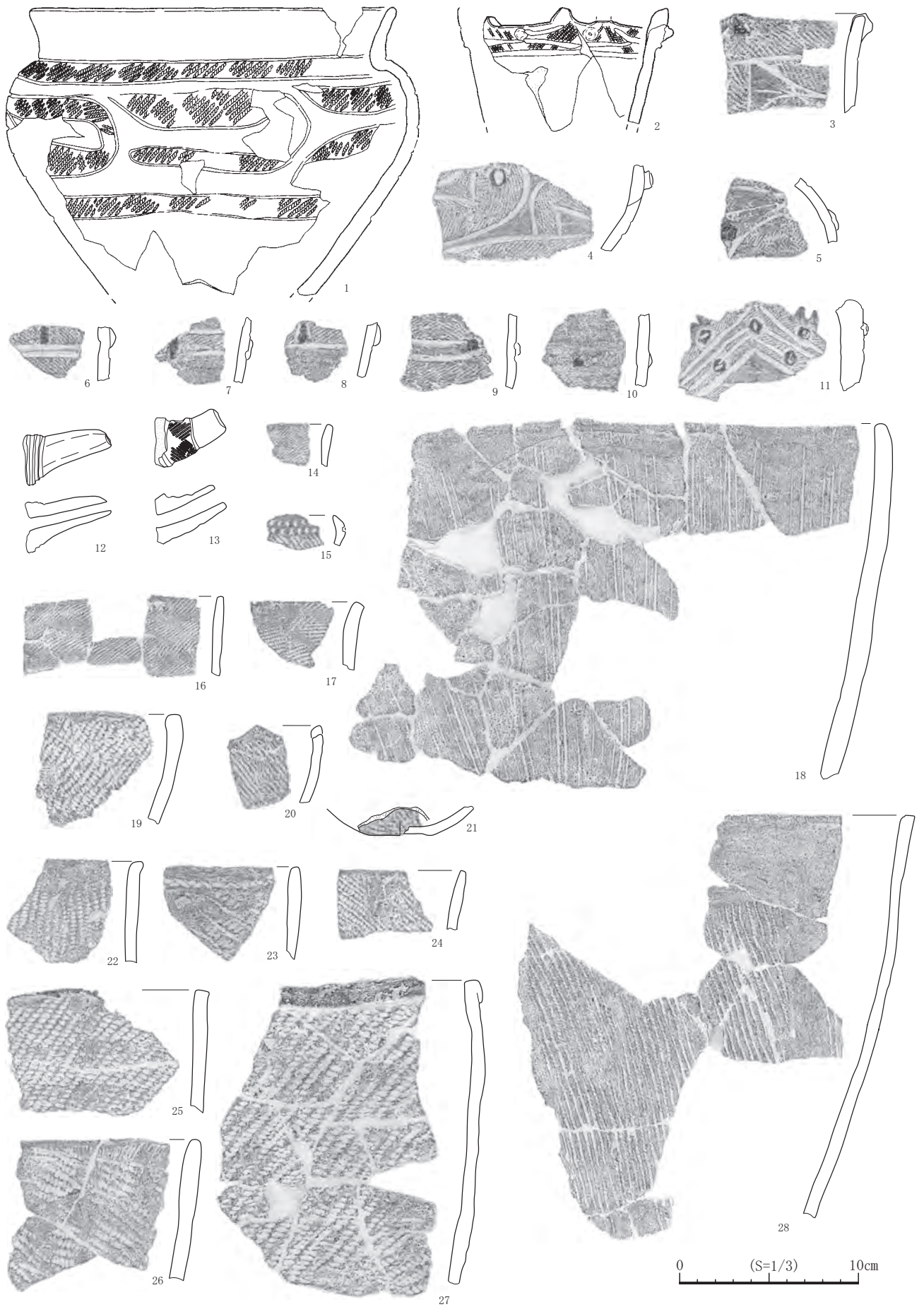


图108 北区遺構外出土土器（環状外）（4）

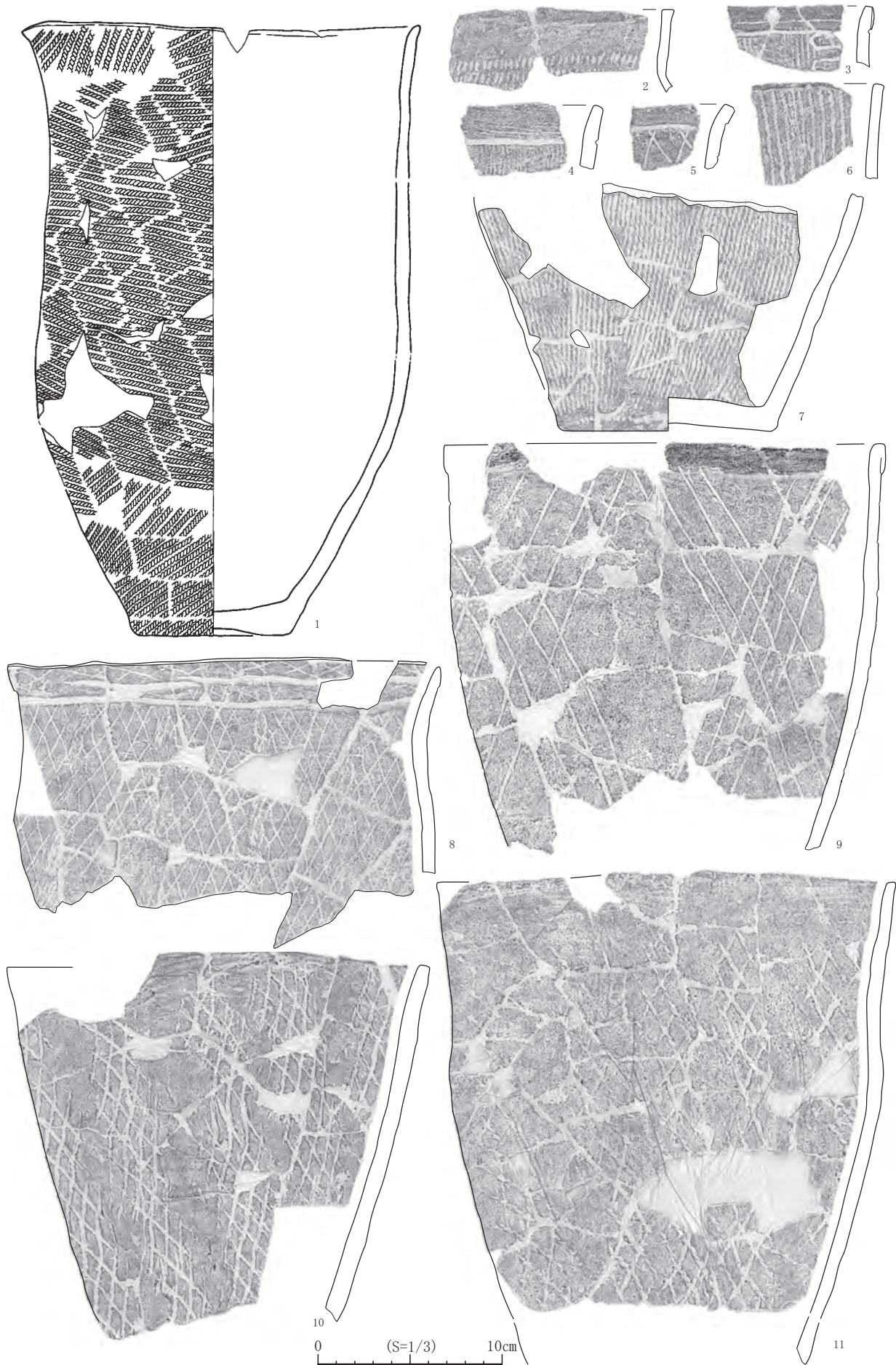


图109 北区遺構外出土土器（環状外）（5）

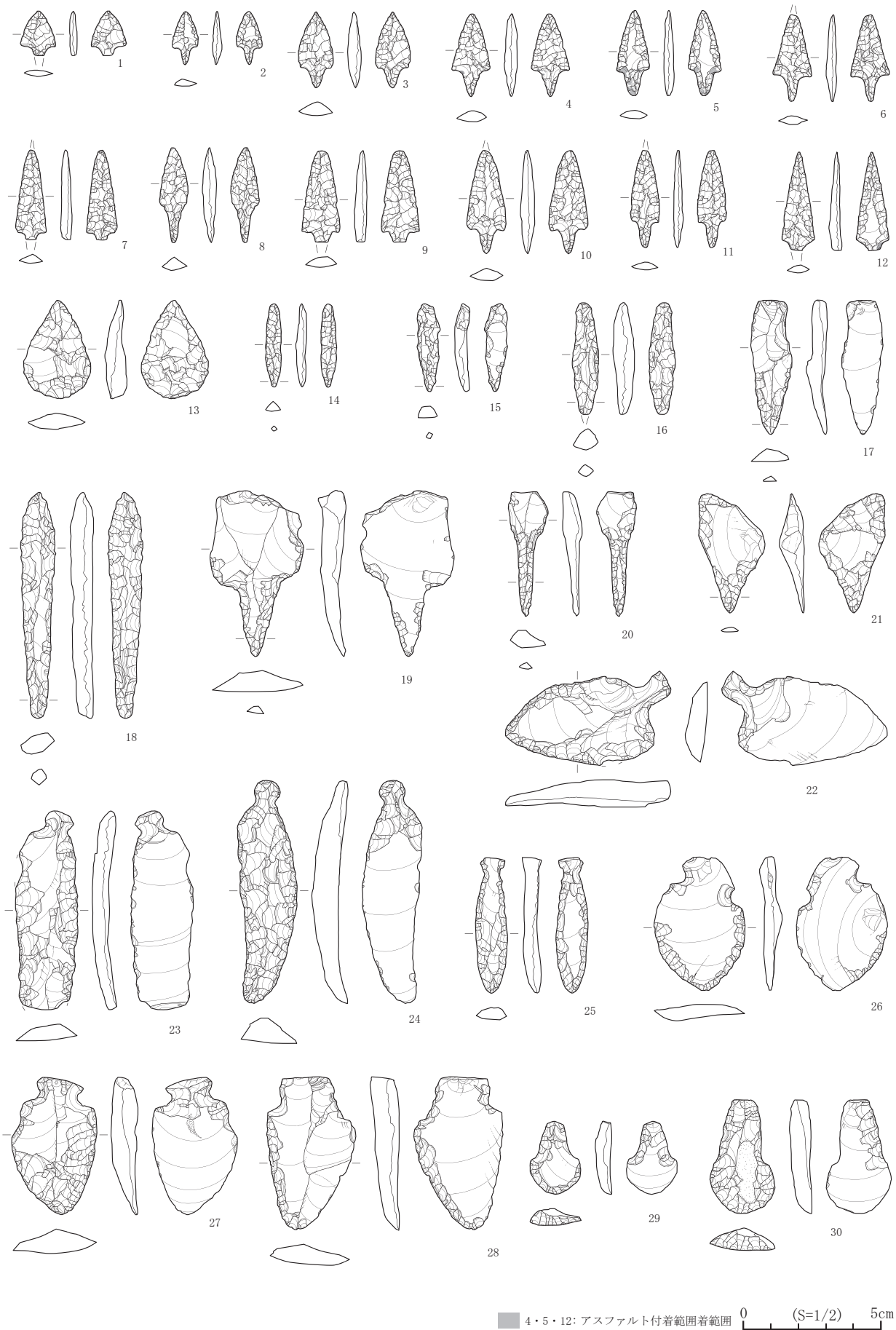


図110 南区遺構外出土石器 (1)

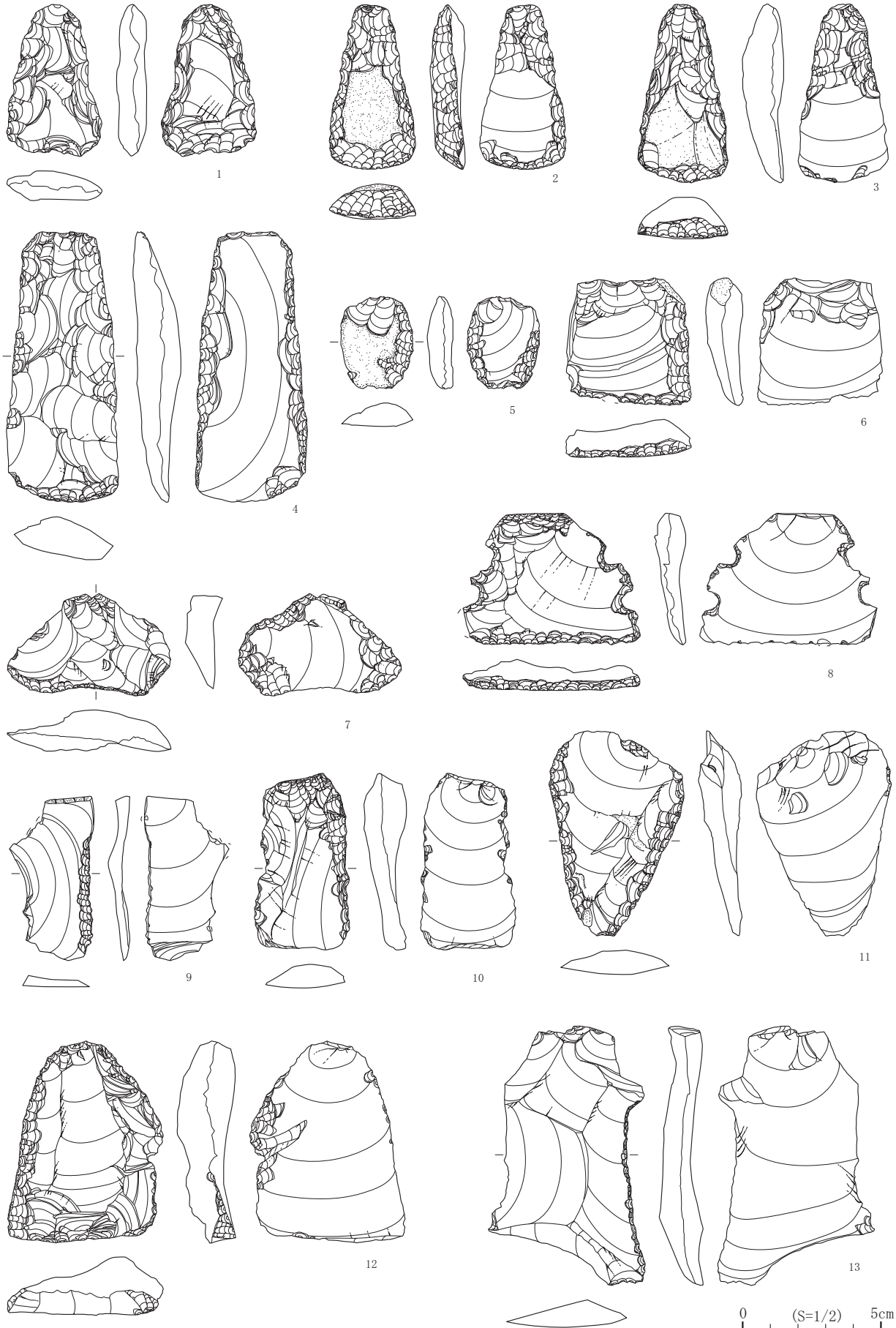


图111 南区遺構外出土石器（2）

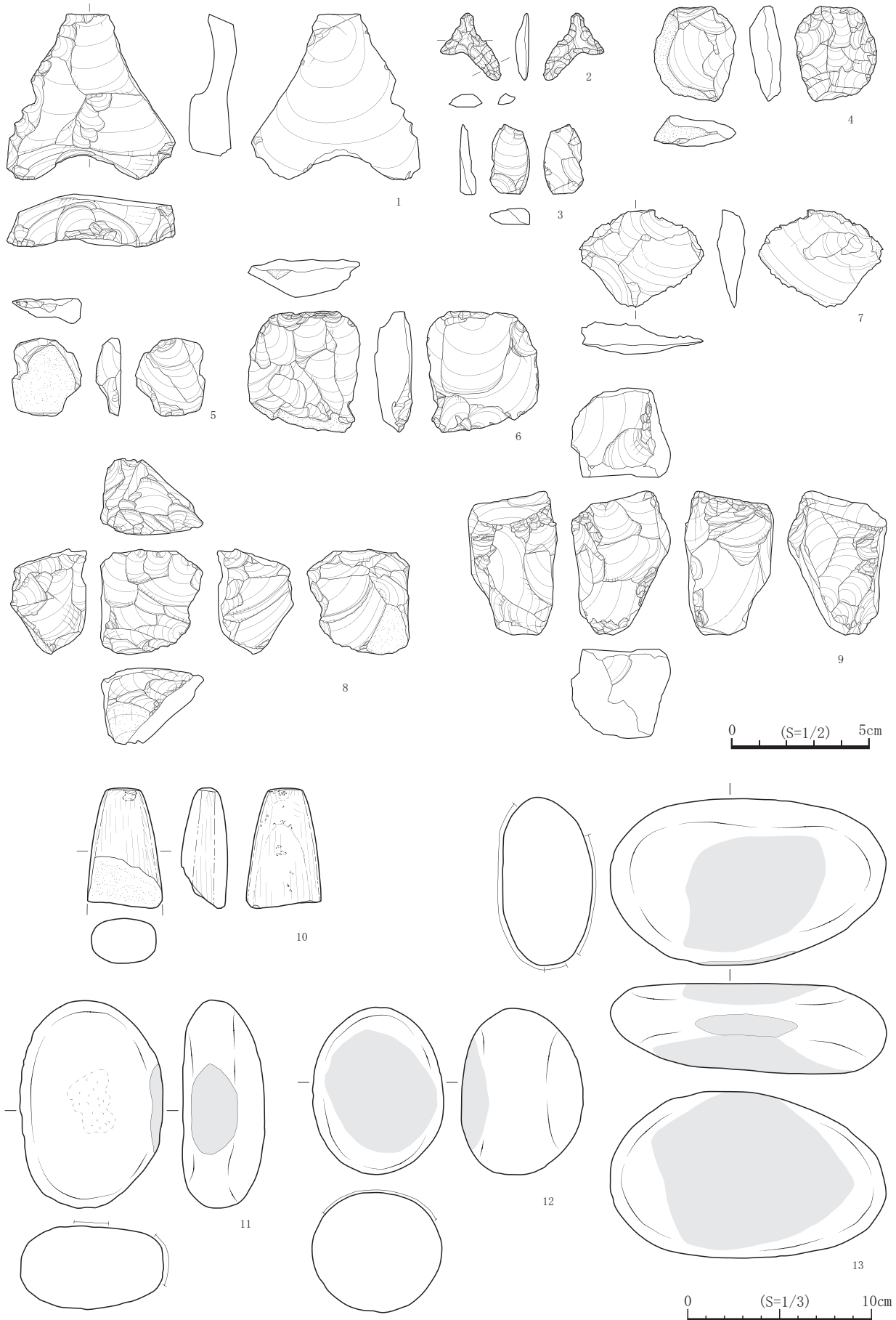


图112 南区遺構外出土石器 (3)

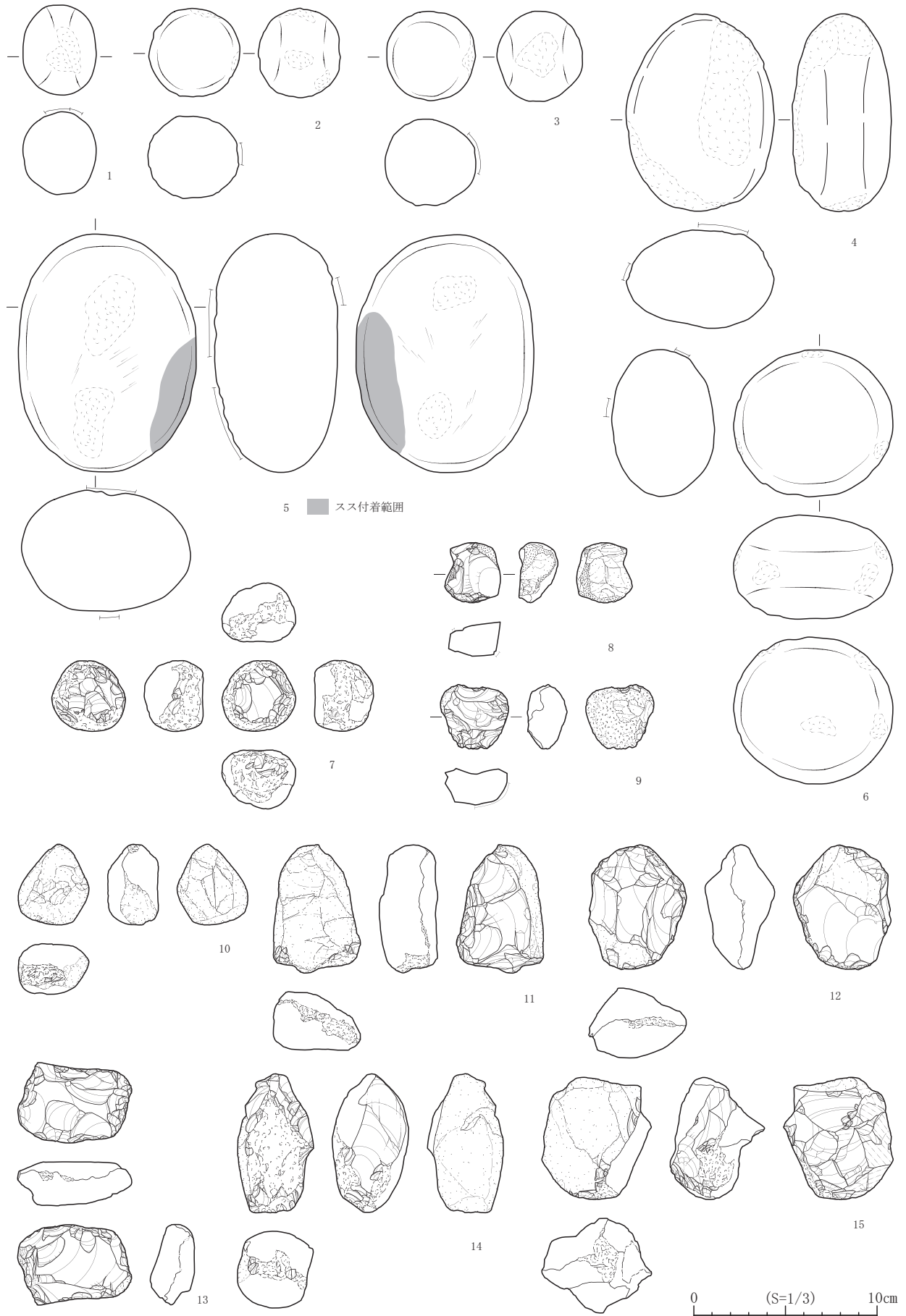


図113 南区遺構外出土石器（4）

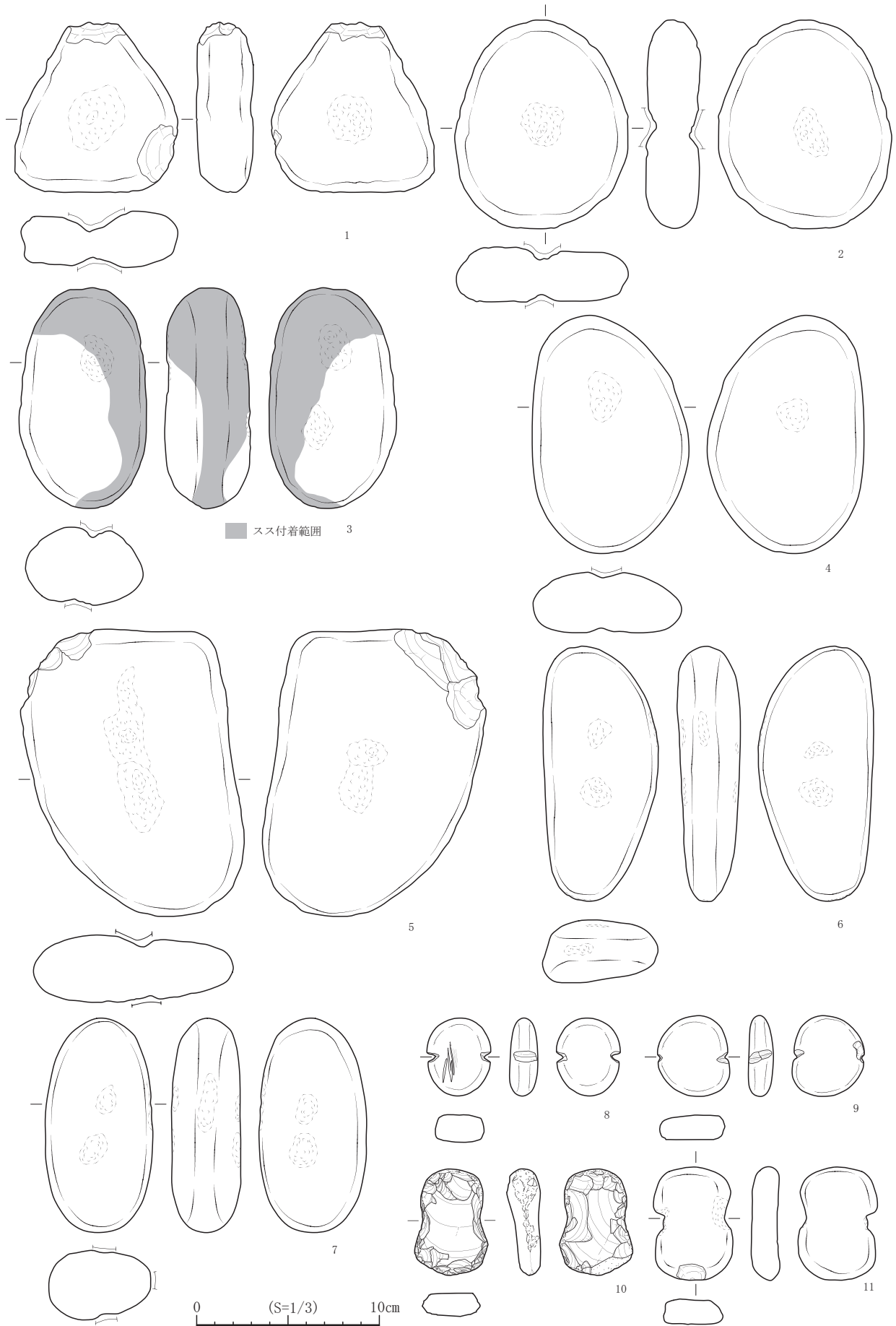
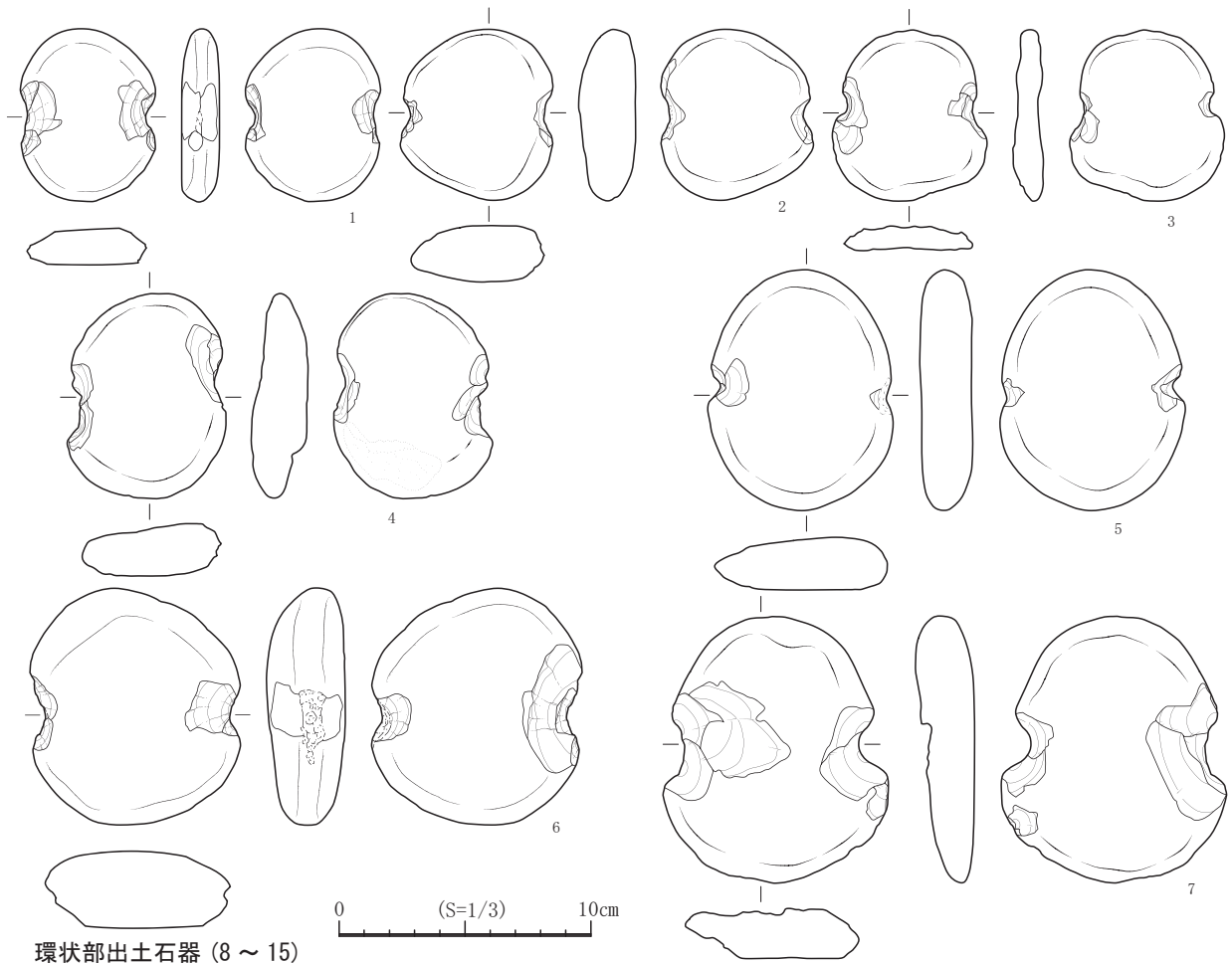
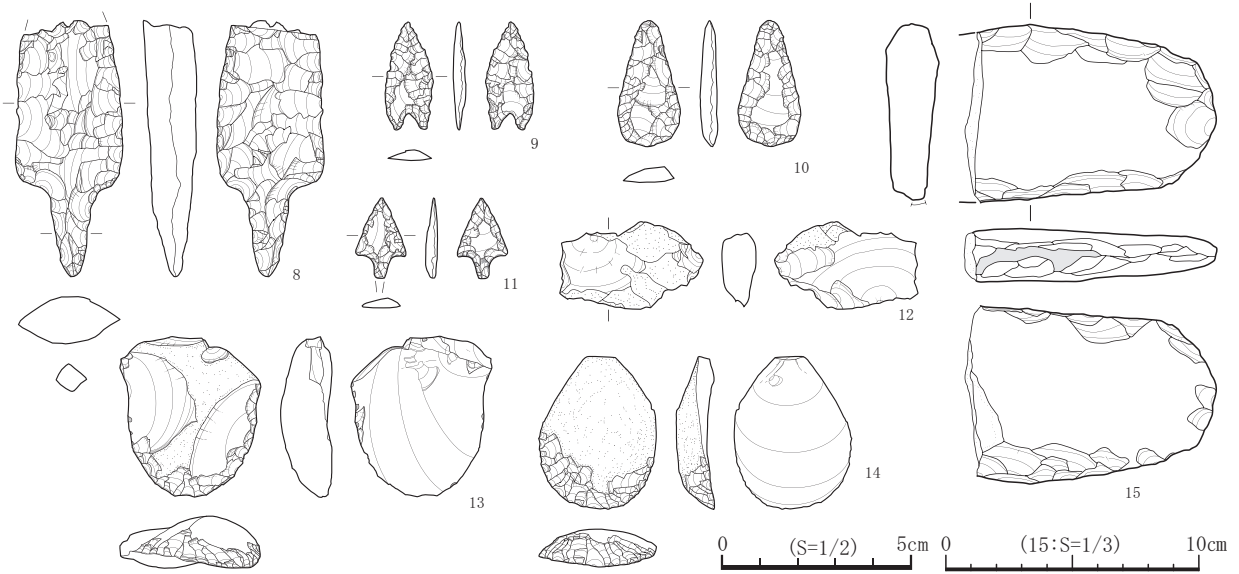


図114 南区遺構外出土石器 (5)



環状部出土石器 (8 ~ 15)



出土地区不明石器 (16 ~ 18)

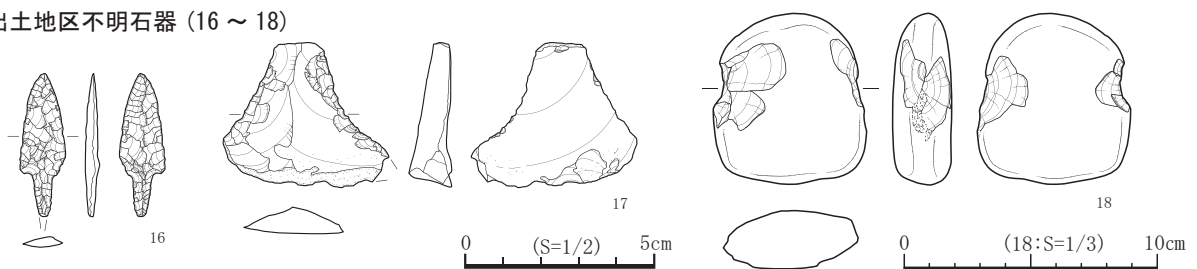


図115 南区遺構外出土石器 (6)・環状部出土石器・出土地区不明石器

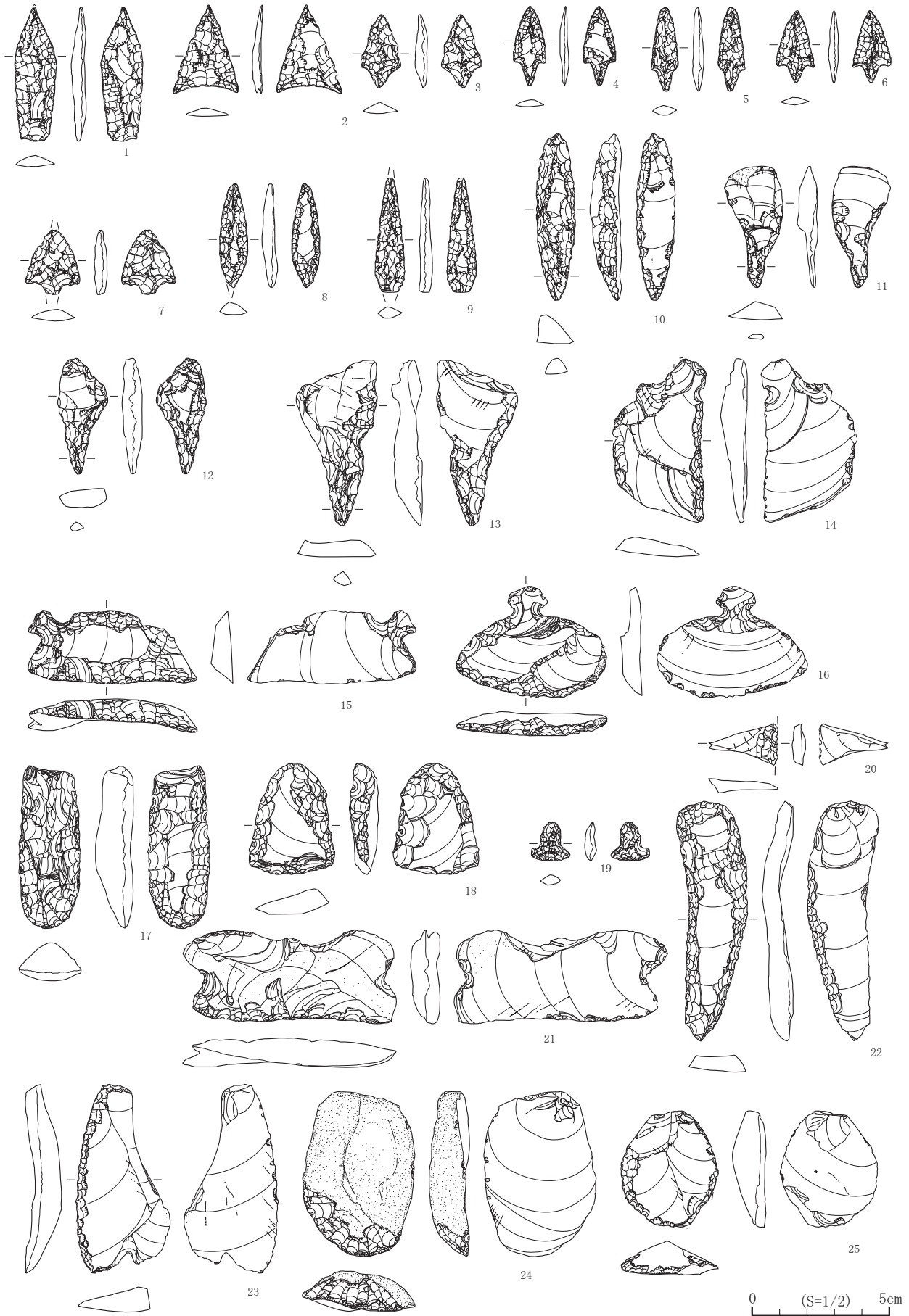


图116 北区遺構外出土石器 (1)

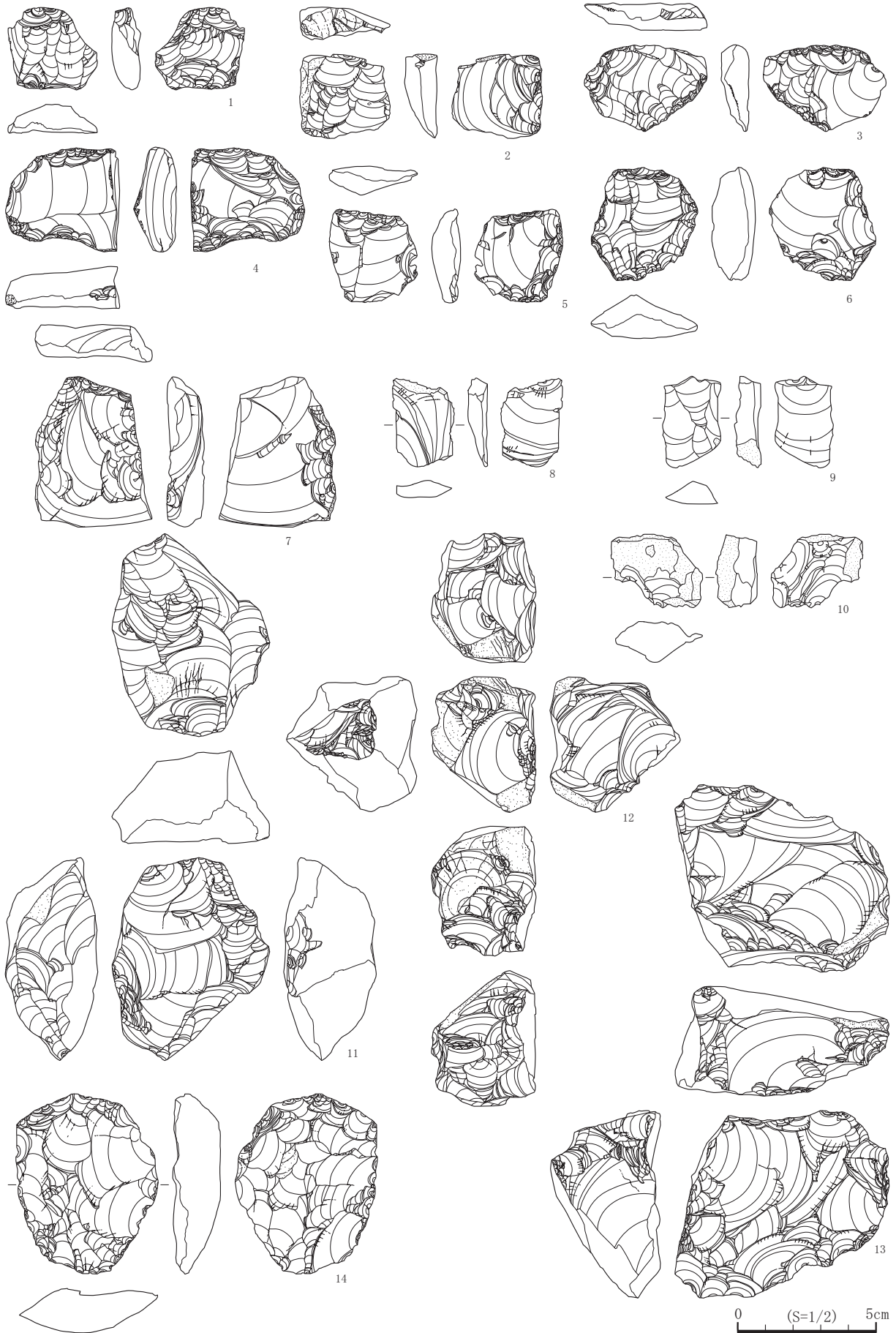


图117 北区遺構外出土石器 (2)

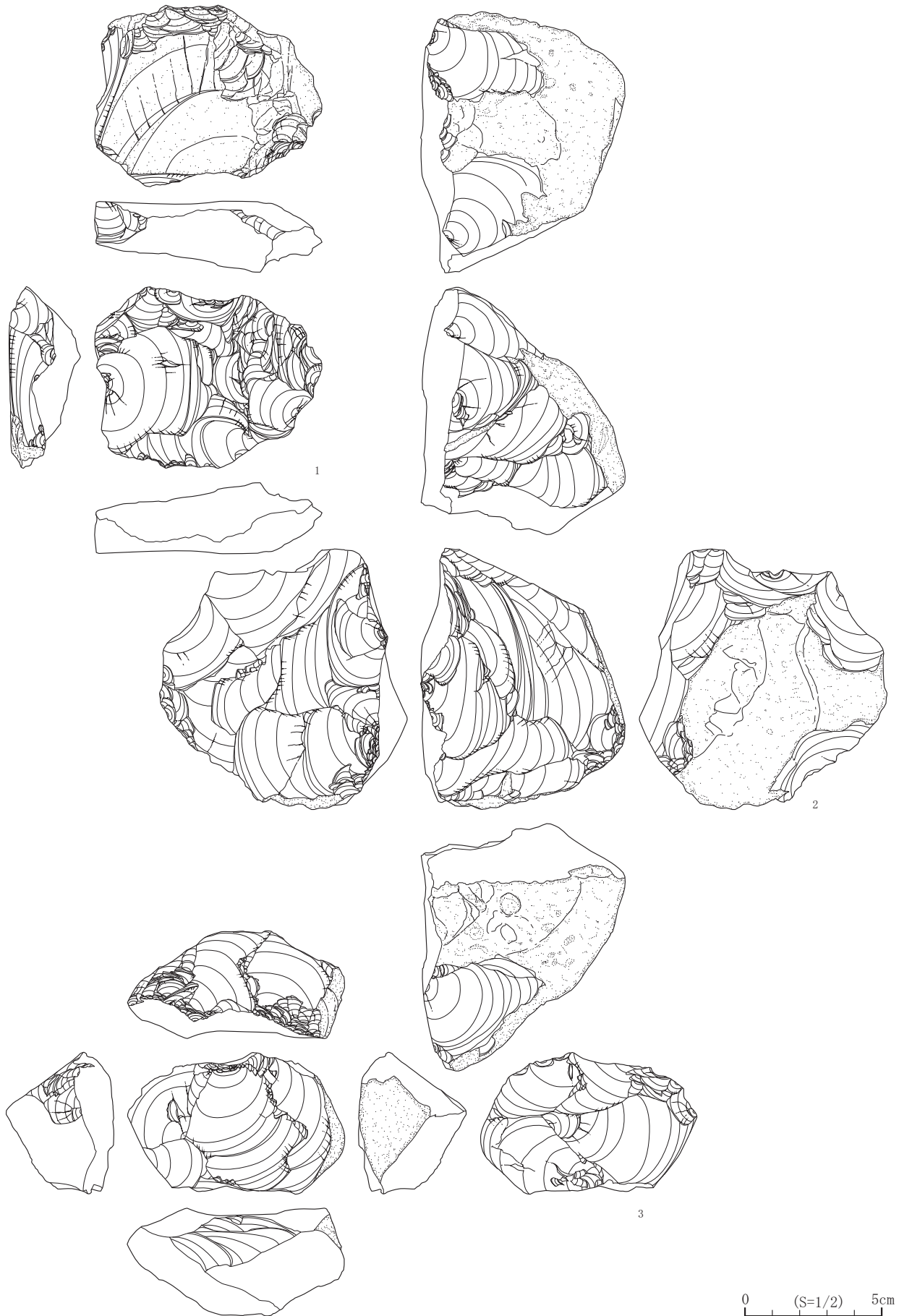


图118 北区遺構外出土石器 (3)

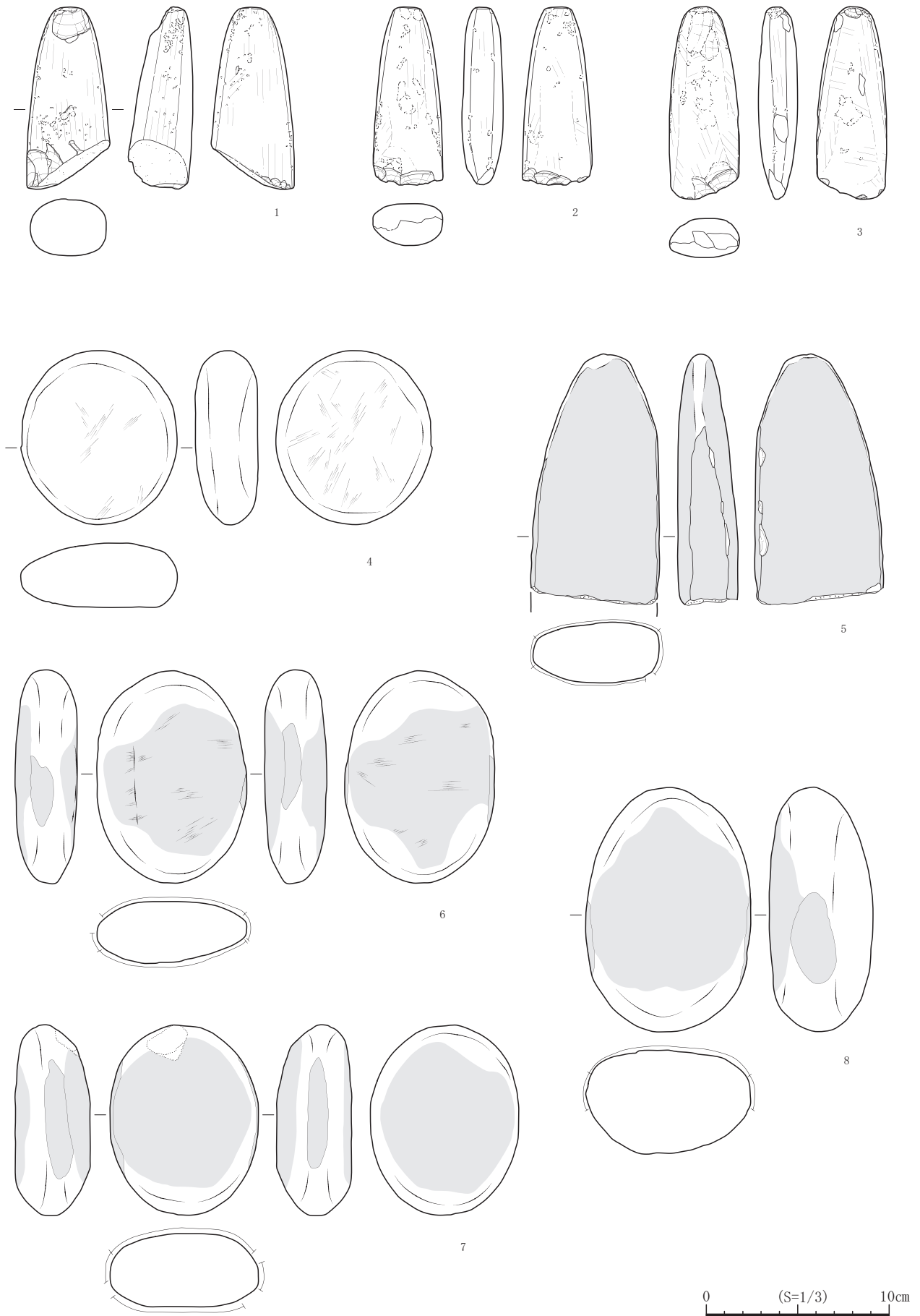


图119 北区遺構外出土石器（4）

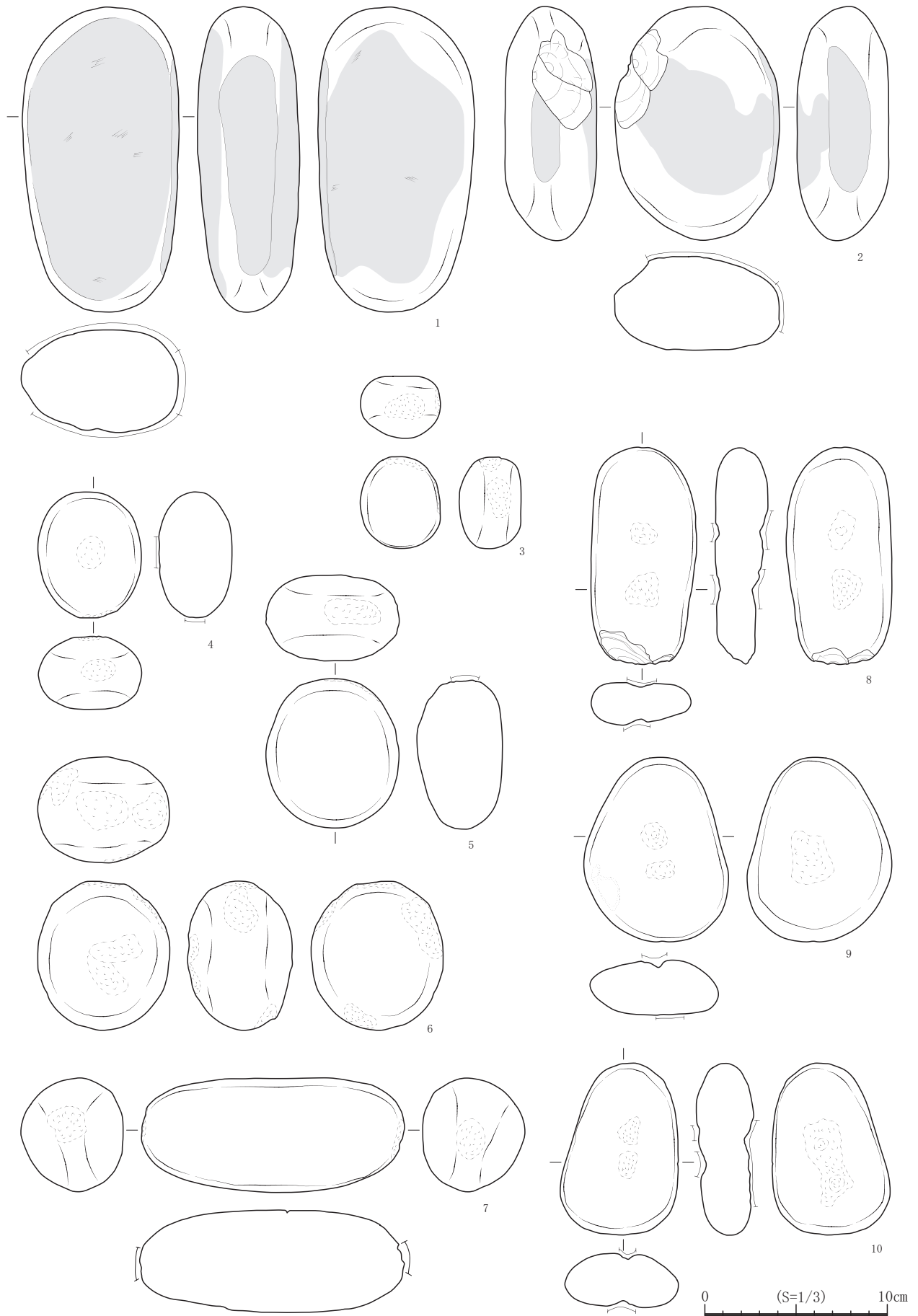


图120 北区遺構外出土石器 (5)

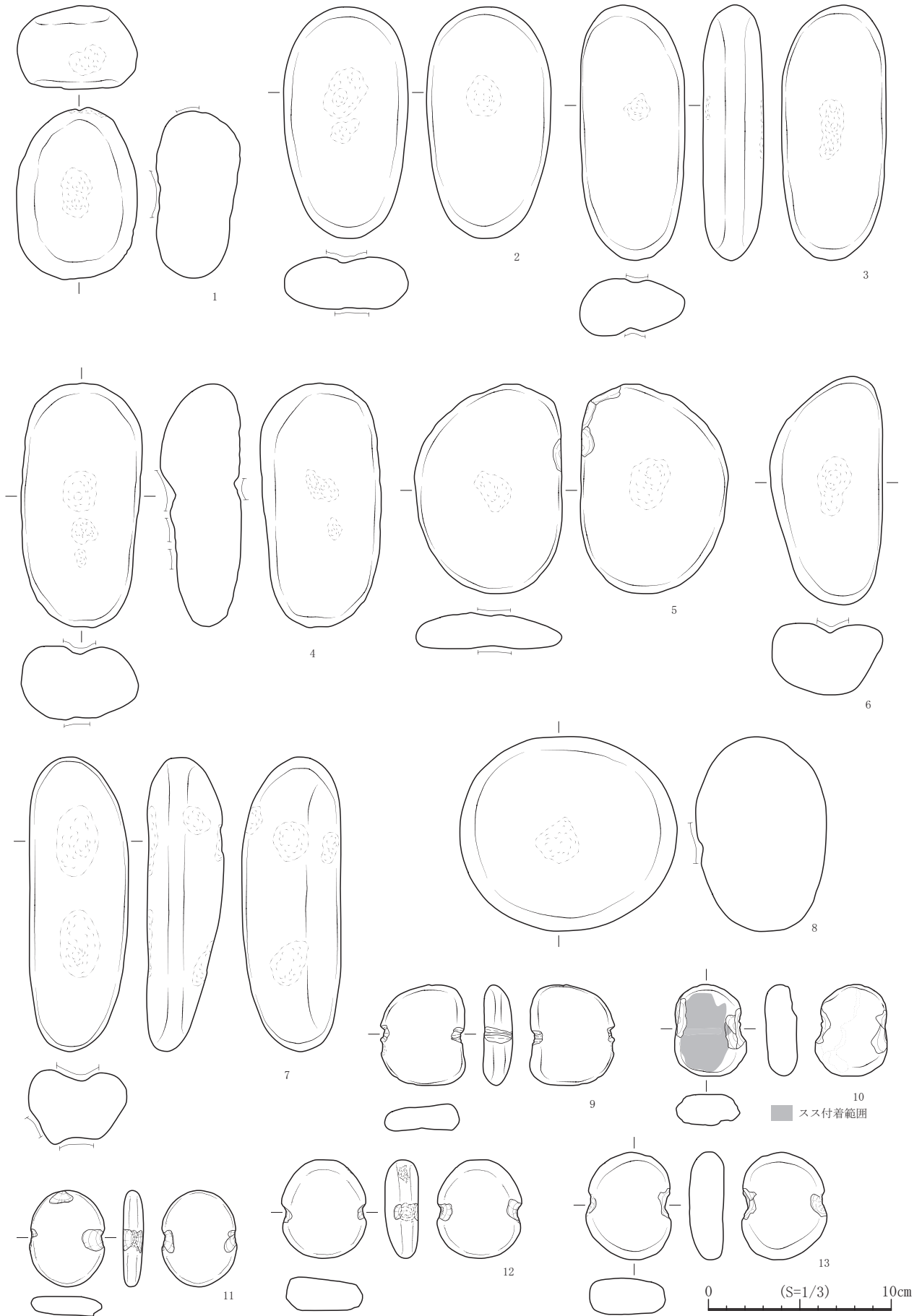


図121 北区遺構外出土石器 (6)

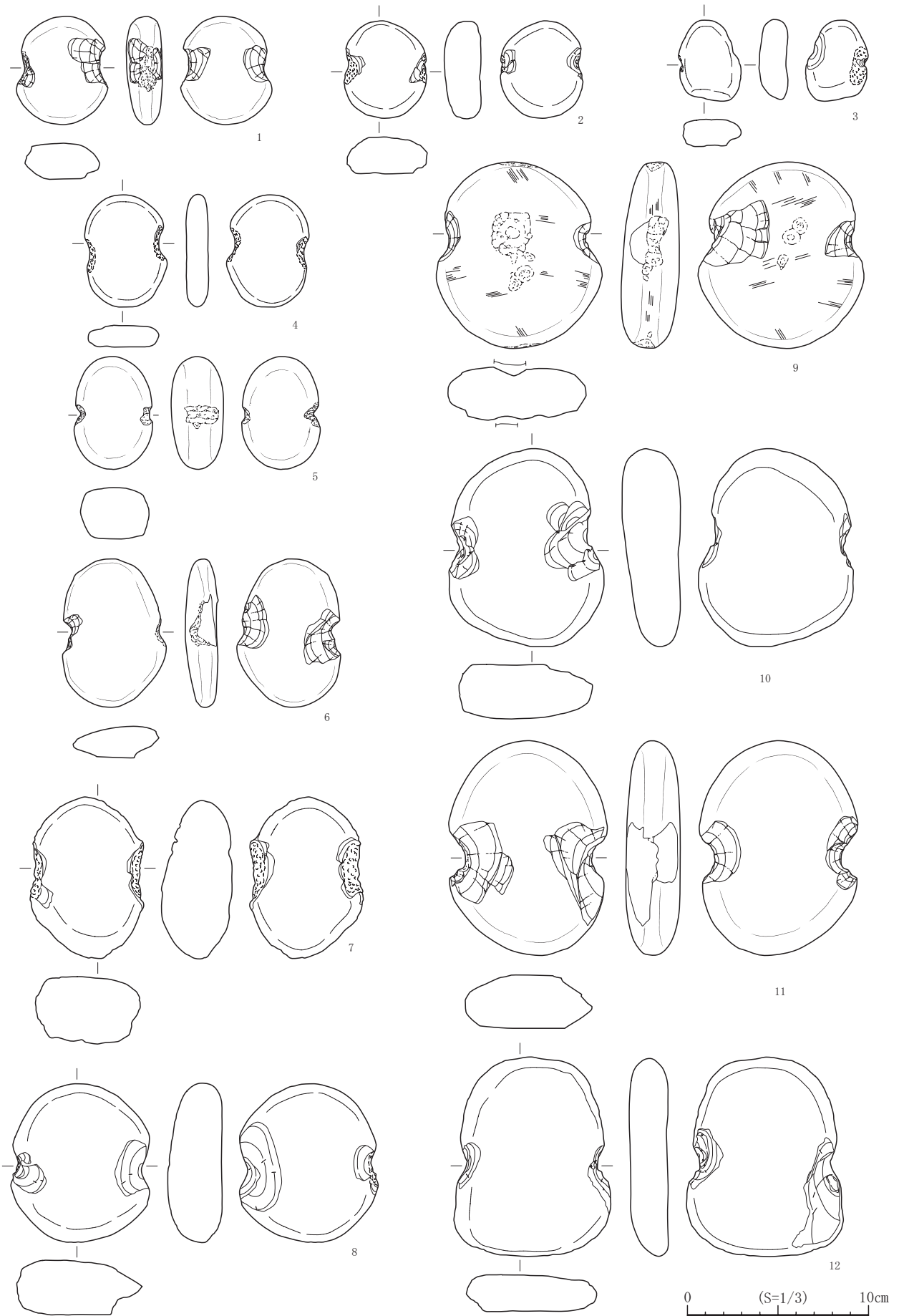


图122 北区遺構外出土石器 (7)



図123 北区遺構外出土石器 (8)

第10節 土製品・石製品

1 土製品 (図124、125)

遺構外出土の土製品には、土器片円板・土偶・動物意匠土製品・有孔土製品・耳飾り・棒状粘土製品ほかがある。また本節ではミニチュア土器も含めて記載する。土器片円板以外は全点図示した。これらは全て環状外から出土しており、環状部及び環状部内側からは出土しなかった。

図124- 1～5はミニチュア土器である。1は上半部に横位の沈線文が施されるもので、口縁部を破損欠失する。2は深鉢形土器を模した無文の手捏ね土器である。3も手捏ねで台付鉢を模したものであろうか椀状である。4は壺形土器を模したもので沈線で三角形文が施文されている。5は台付鉢の底部から台部の破片で、台部に斜め方向から対になる貫通孔が施されている。

図124- 6～27は、土器片の周縁を打ち割り再加工した土器片円板である。総数150点出土している。6～10は無文地に沈線で曲線文が施文されたものを利用している。この中でも、6はこの時期のものとしては大型であることと用いられている素材で特異である。周縁を両面から交互に打ち割り楕円形に整形されているもので、土器には湾曲がなく直線的であることから、深鉢形土器の底部または蓋が用いられているものと思われるが、底部であれば文様が施文されていることで希有であり、土器の厚さからみて蓋が用いられたものと判断している。11は地文に絡条体第1類が施されている。13～16は横位の沈線が施されるもので、16と17には縄文が充填施文されている。18と19は複節斜縄文が施された土器が用いられており、19は長方形に成形されている。20～24は無文土器。25～27は土器底部片が用いられている。これらはすべて十腰内I式土器が用いられている。

図125- 1～7は土偶である。1～3は頭部片で、逆三角形の顔面を突出させた形態のものである。1は目と口が刺突で小さく表現されている。眉と鼻は、つながったT字状の隆帯で表現されていたようだが剥落している。2も1と同様な顔面であるが、口が表現されていない。額には2つの貫通孔がある。3の表現手法もほぼ同じであるが、前二者と比べやや厳つい表情である。額はくぼめられて表現されている。4と5は腕部の破片である。2つとも表裏面に沈線で文様が施され、貫通孔も施されている。5は貫通孔のところから割れている。6は胸部破片である。無文地に乳房が粘土瘤で表現されている。7は蹲踞姿勢の土偶で頭部、腕部、脚部を欠失した胴部片である。背を丸めた状態であり正面にはL R縄文が施文されている。1～6は十腰内I式期、7は後期中葉以降の所産と思われる。

図125- 8は動物意匠土製品と思われる。大きさ約5cmの棒状塊に、破損しているが短い四肢と突出した尾、耳と思われる瘤が貼り付けられた三角形状の頭部が表現されている。尾の付け根には粘土紐が巻かれ、胴部と耳の付け根には浅い沈線が施されている。細部表現は乏しいが、一見して犬を模したものと判断される。時期は十腰内I式期の可能性がある。

図125- 9は有孔土製品とした小さく薄いドーナツ状土製品であるが、垂飾品の類としては薄く軟弱すぎるもので、土器の文様として貼り付けられ剥落した隆帯の可能性はある。

図125-10・11は耳飾りである。ともに小さく平面は円盤状、断面形は装着時に安定するよう滑車状である。10は内側と外側の双方の径が異なる作りで、径の大きい側は窪みも深く放射状に沈線文が施されている。11には穿孔が施されている。時期は不明である。

図125-12は不明土製品。平面形状は四角形で断面形状は三角形状であり、一つの面に多数の刺突が施されている。立方形状で三方を破損しており、何らかの部位と思われる。全体の形状と破損の状態

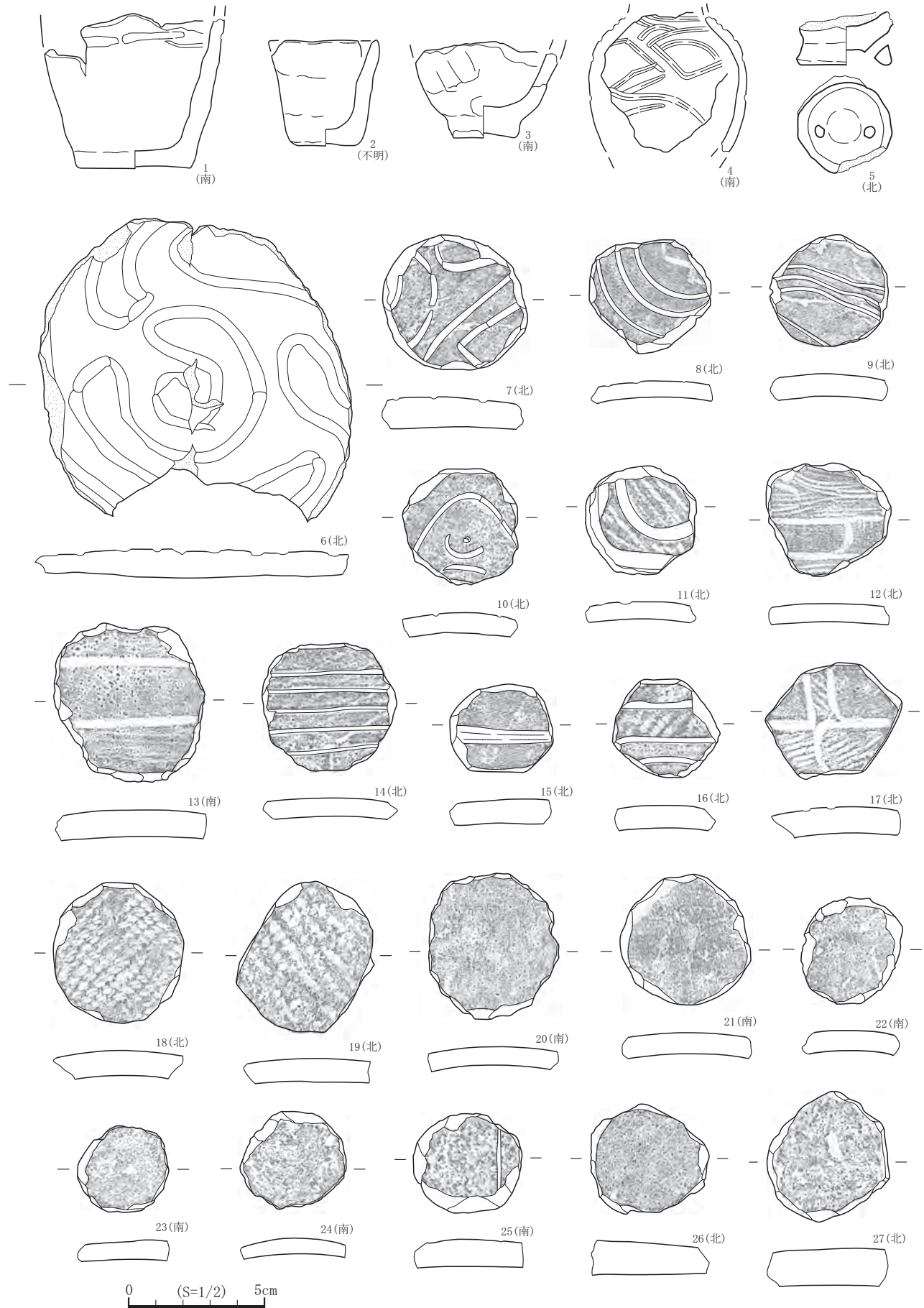


图124 遺構外出土土製品 (1)

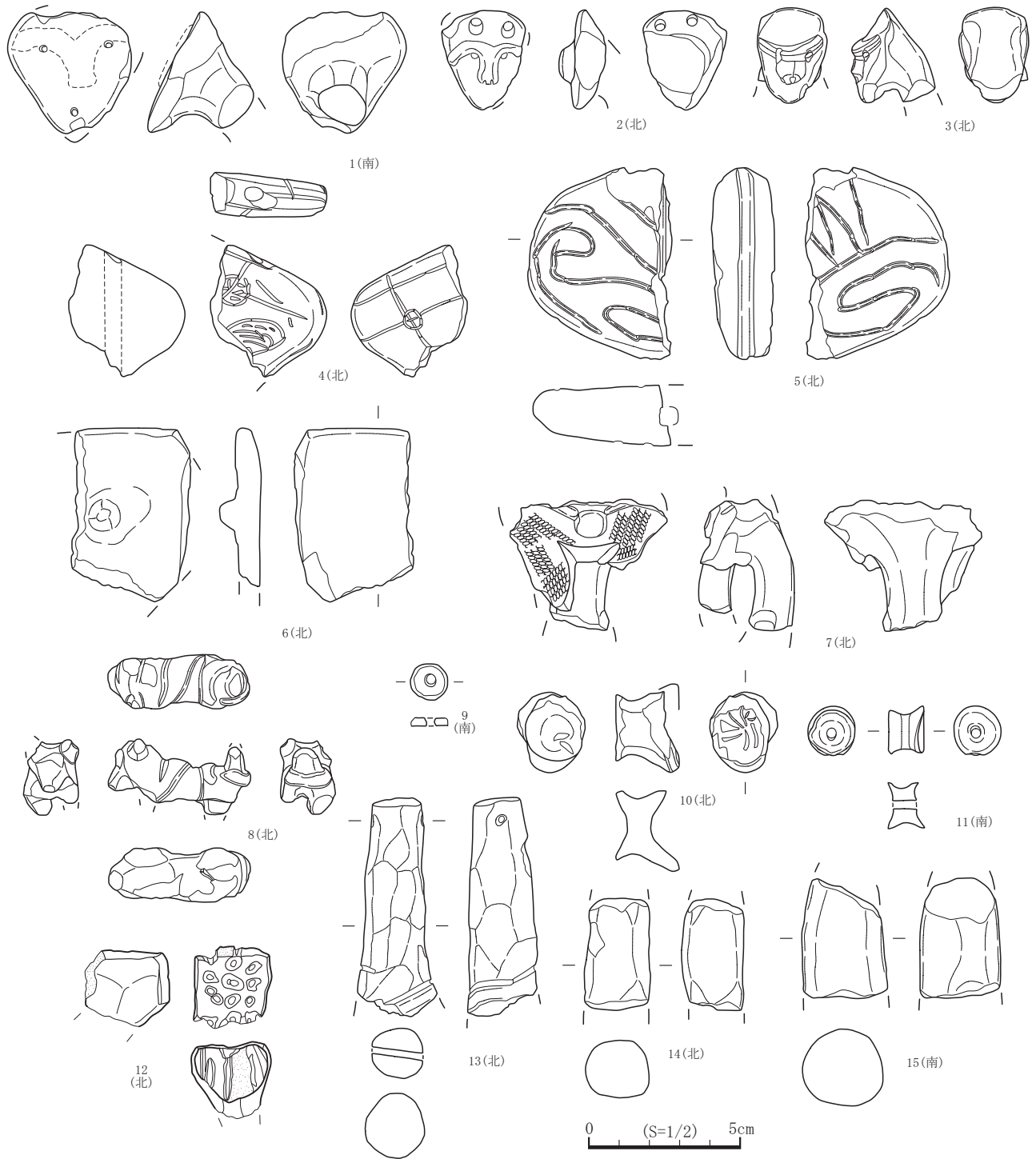


図125 遺構外出土土製品 (2)

および刺突文という点で、平成19年度調査された山田(2)遺跡の第7号竪穴住居跡出土の土偶と類似することから(青埋文報第469集)、本製品も土偶の可能性はある。しかし時期については不明である。

図125-13～15は棒状土製品。いずれも棒状に捏ねられたものであるが、13は上部から下部へ開くような形で表面はケズリ調整されて作られている。上端部には貫通孔、下端部には沈線が巡るように施されており柄として作られたものと判断される。土鈴または鐸形土製品の柄と思われる。14と15も明らかに棒状を意識して作られているが、調整痕などはみられず手捏ね以外の特徴はない。やはり何らかの柄である可能性が高い。

2 石製品（図126～129）

石製品は遺構外出土の53点のうち39点を器種ごとに掲載した。図3の区分に対応する出土地区は、各掲載番号脇の（ ）内に示した。器種の内訳は石棒2点、石冠3点、円盤状石製品27点、岩版9点、三角形岩版6点、不明石製品3点、搬入礫3点である。北区埋没沢付近での出土量が多く、環状部からは出土していない。出土土器の時期に比例して後期前半に属するものが多いと考えられるが、三角形岩版のように後期前葉に属することが確からしい器種を除き、遺物ごとの時期比定は困難である。なお、石材の記載がないものは凝灰岩製である。

図126-1は石棒で、下半を折損している。流紋岩の柱状礫を敲打整形した後研磨しており、頭部は作り出されていない。図126-2～4は、研磨加工の後各面に線刻が施された石冠である。2は累重する山形の線刻が主で、最も内側には底辺に対する短い垂線が施されている。3は四面のみ残存しており、底面には直線と菱形が、他の面には直線の線刻がみられる。4は意匠不明の粗雑な線刻である。裏面は一部欠損しているが、2本の直線を囲む円形の線刻が方形区画の中に配置されている。

円盤状石製品は周縁を打ち欠き整形したⅠ類が7点、周縁を研磨加工したⅡ類が20点出土している。図126-5～11はⅠ類で、デイサイトや流紋岩を素材とする。8・11は周縁の一部が未整形である。図127-1～9はⅡ類である。凝灰岩やシルト岩を素材とし、各面の擦痕が顕著である。1は表裏面に断面凹字形の線刻が施されている。2は表裏面に幅1mm程度のごく浅い線状痕が十字形に、4は正面に櫛歯状工具による線状痕が認められる。8の破損部にはアスファルト状の黑色物質が微量に付着している。9の各面には研磨加工時に形成された弱い稜が認められる。

岩版は9点すべて掲載した。図127-10・11は平面が大形の楕円形となるⅠ類である。10は扁平礫の1面を研磨加工しており、中央に軽微な敲打痕が認められる。11は扁平礫の表裏両面を研磨加工しており、両面に凹みが形成されている。正面の2箇所凹みには内面に擦痕が認められる。裏面の凹みは敲打によるものである。図128-1は平面が円形のⅡ類でシルト岩を素材とし、左半を欠損している。表裏両面および側面に、細沈線による同心円状の線刻が施されている。図128-2～4は平面が小形の楕円形となるⅢ類である。4の片面には一条の凹線が形成される。図128-5は平面が隅丸方形のⅣ類で、正面および側面に鋭利な工具で細沈線が施されている。図128-6・7は平面が不整形なⅤ類である。6の側面には顕著な加工痕がなく、三角形の板状礫を素材としたものと考えられる。正面にはC字文のような意匠不明の文様が、幅1mmほどの浅い線刻により描出される。7は表裏両面および側面を研磨加工し、三角に近い形状に整形されている。器面には研磨の及ばなかった凹みが随所に残る。擦痕または線状痕が顕著で、正面には錨形のような線刻が施される。

図128-8～13は三角形岩版である。12は裏面に研磨加工が及ばず、未成品の可能性もある。13は他の5点に比べて身が厚く作られており、側面の研磨も顕著である。各頂点も丸く作り出されており、通常三角形岩版と呼称されているものとは分類を異にする可能性もある。

図129-1～3は不明石製品として分類し、1・2を岩偶様のⅠ類、3を有孔のⅡ類に区分した。1は下半を欠損しており、被熱で全体が黒化している。表裏両面および側面を研磨加工後、沈線によって頭部を区画する。また、正面に3箇所、側面に左右2箇所ずつ盲孔が施されている。2は扁平礫を部分的に加工して、動物形岩偶様に整形したものである。凹みにより目・鼻・口を作り出している。上下両端および裏面にあたる部分に渦巻状の線刻が施されており、上下の渦巻は正面側に延びる斜線

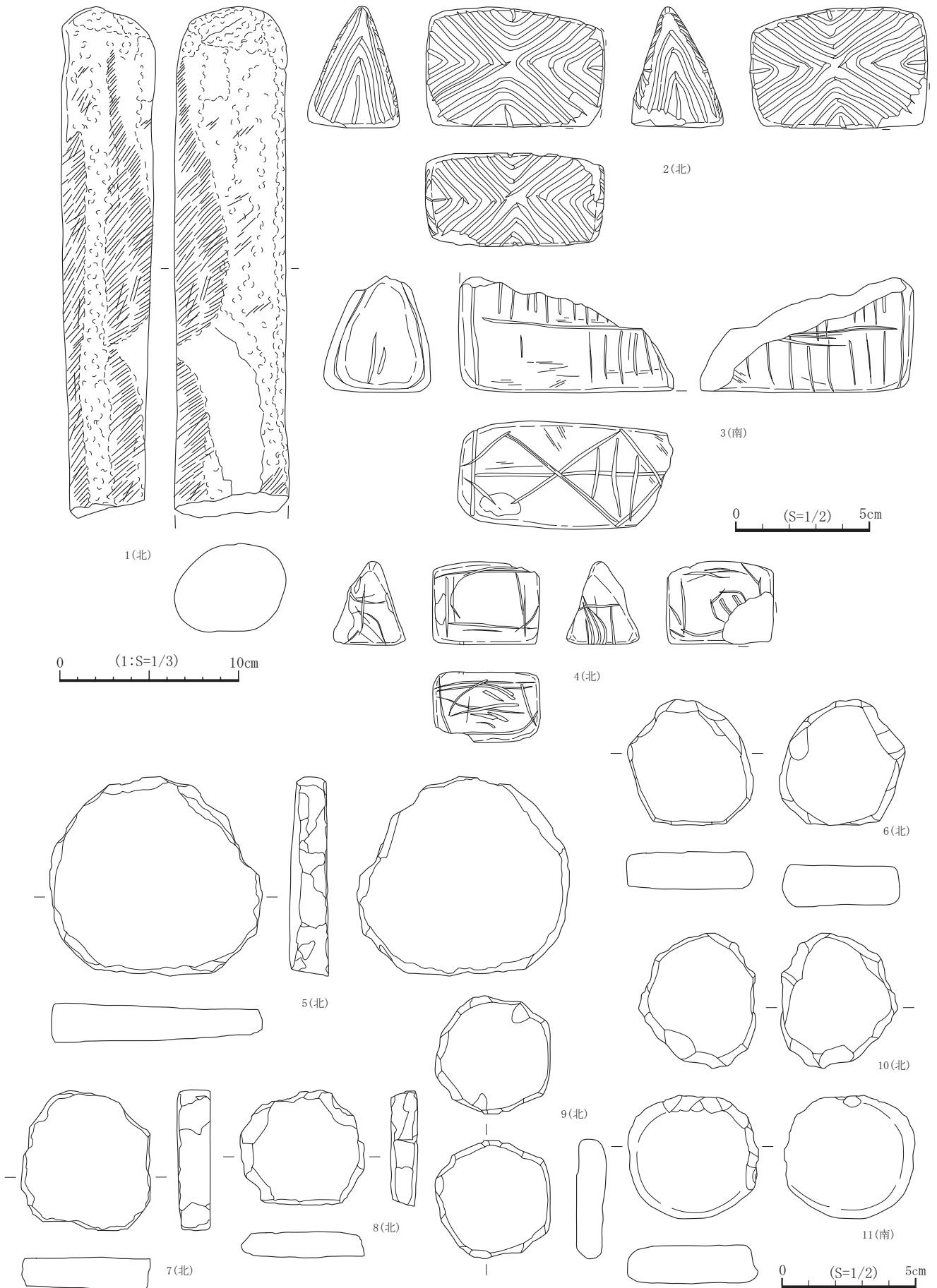


图126 遺構外出土石製品 (1)

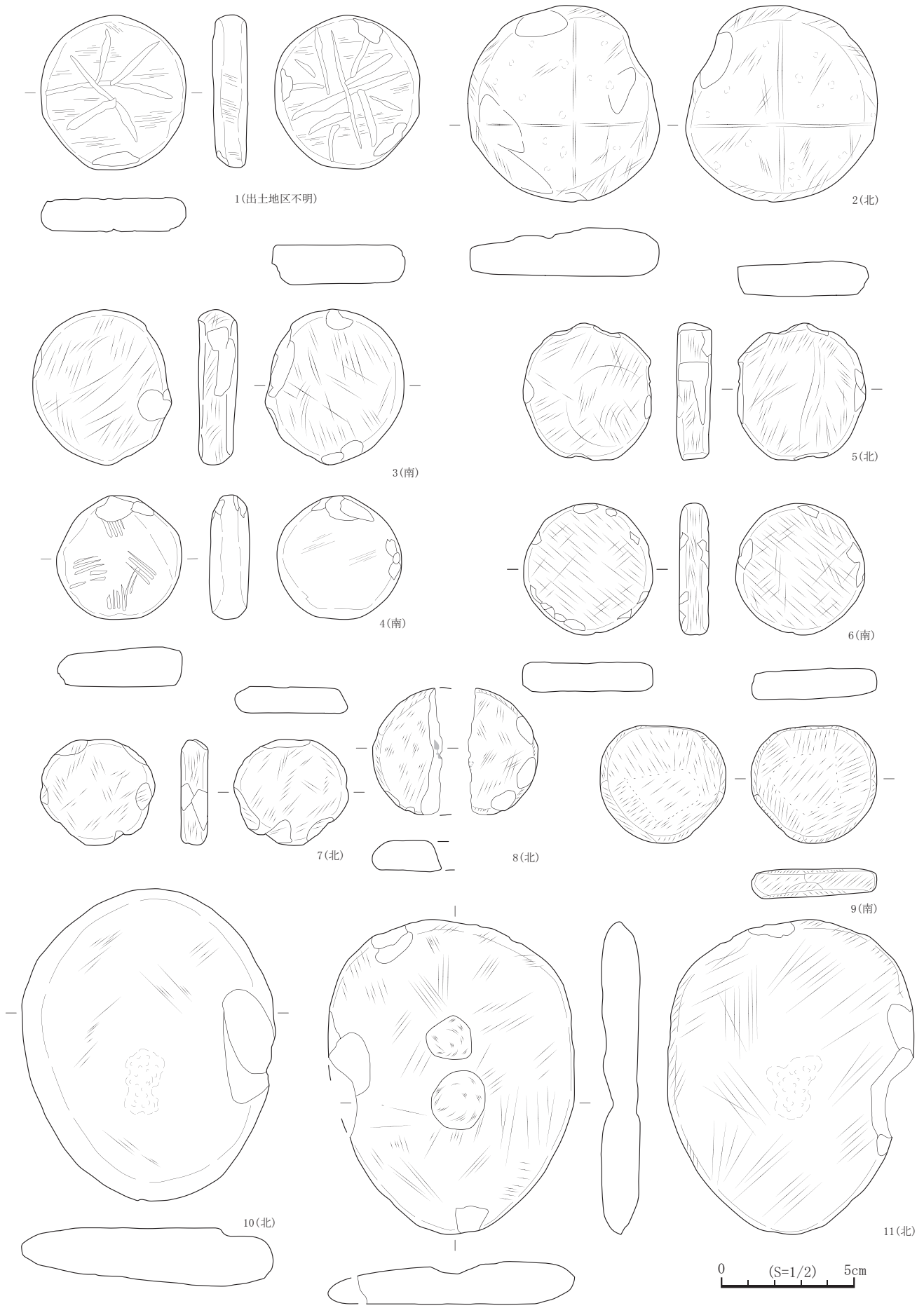


图127 遺構外出土石製品(2)

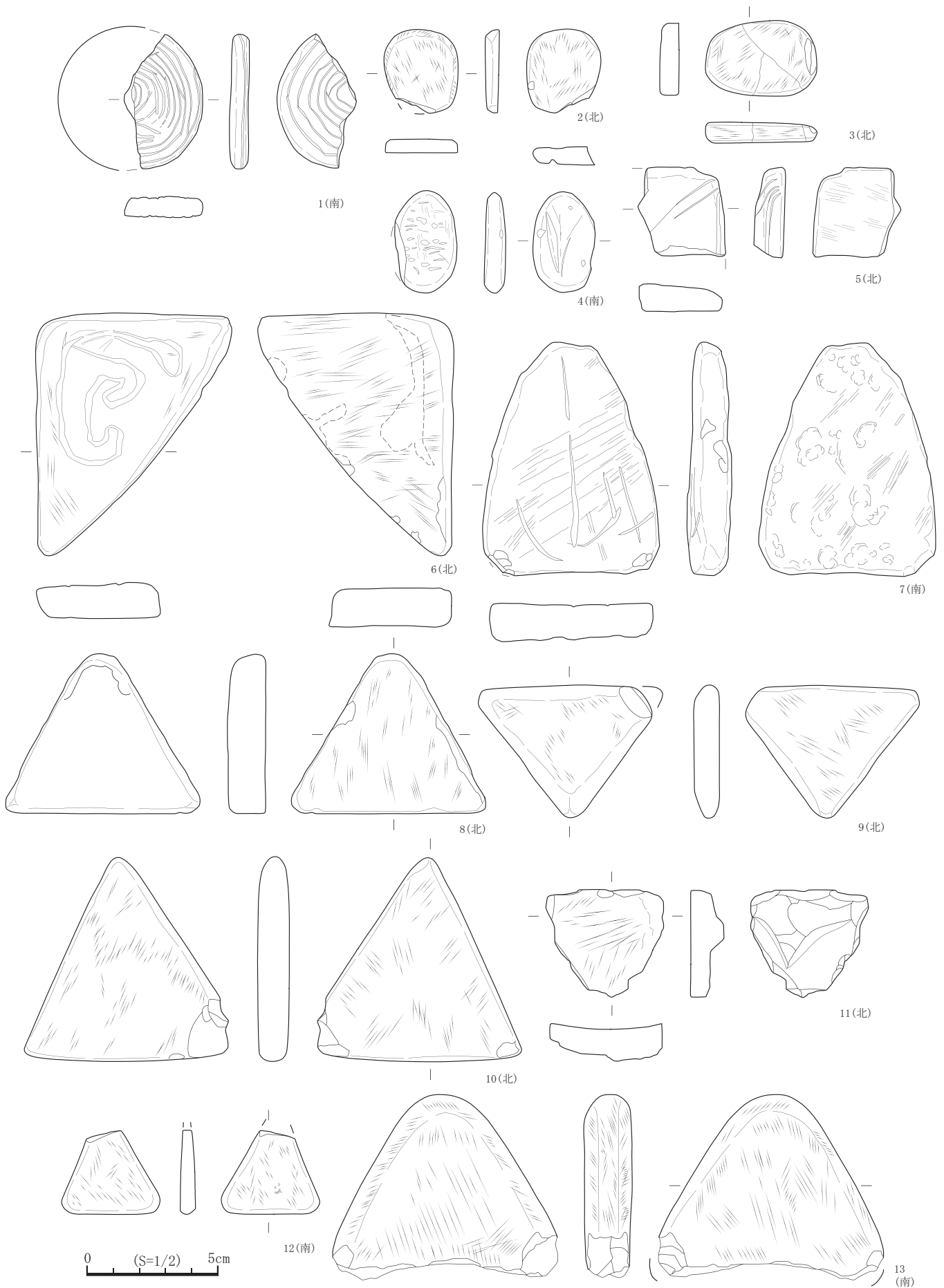


図128 遺構外出土石製品 (3)

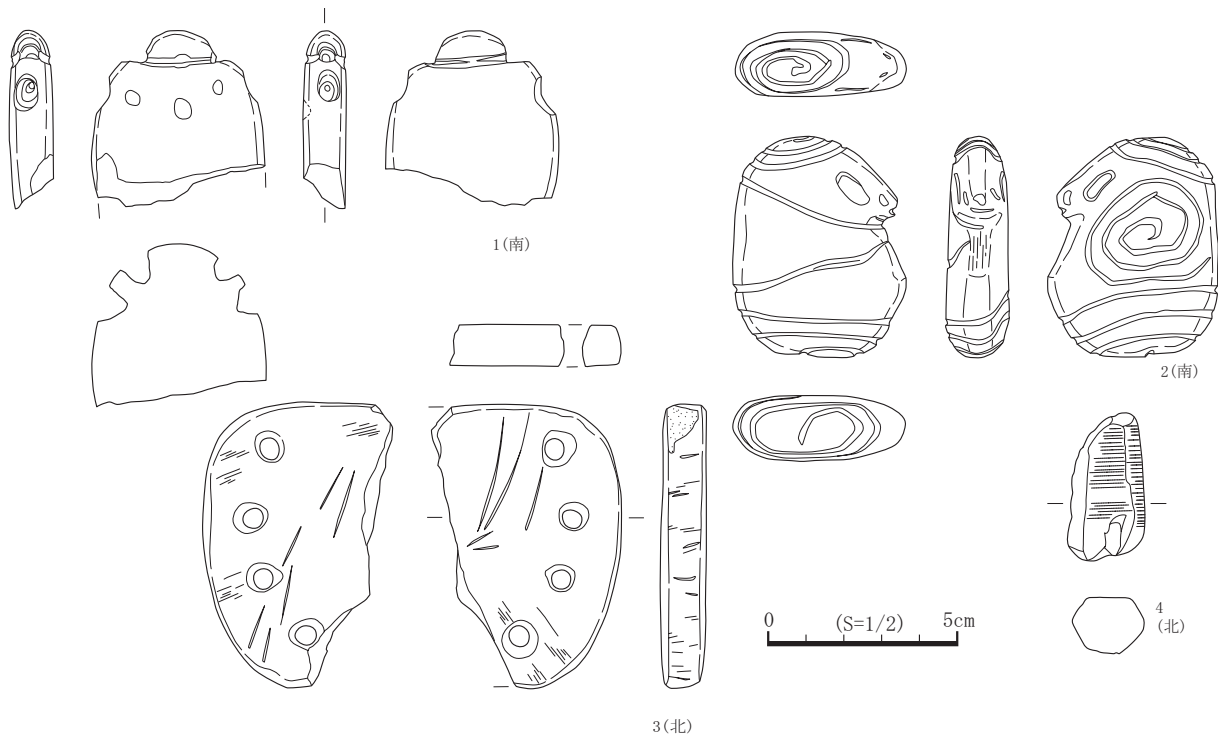


図129 遺構外出土石製品（4）

に接続する。3はシルト岩の表裏両面および側面を研磨加工し両側穿孔を施した有孔石製品で、本来の平面は楕円形ないし隅丸方形と考えられる。全面が黒褐色で、被熱している可能性もある。図129-4は搬入礫と考えられる未加工の水晶である。

下表は、4・5次調査で出土した石製品の集計である。遺構内で4点、遺構外で53点、合計57点が出土した。遺構内で出土したものは石刀1点（SK048：図58-11）、円盤状石製品1点（SK219：図59-11）、搬入礫2点（SP022：図97-4、SP413：掲載外）であるが、出土状況からは覆土への混入である可能性が高い。主要な器種は円盤状石製品で、周縁を打ち欠くものと研磨するものの2類型がある。前者には硬質な石材が、後者には軟質な石材が用いられており、用途や帰属時期が異なる可能性もある。線刻のある石製品が多いことも本遺跡の特徴である。石冠（図126-2～4）や岩偶様の石製品（図129-1・2）はその代表例であり、凝灰岩が多用されることと関連している可能性もある。

なお、石製品には区分できないが、岩版素材礫ともいべき凝灰岩の板状片や、赤色顔料原礫の可能性のある赤鉄鉱も少量出土している。三角形岩版には未成品の可能性のあるもの（図128-12）を含むため、遺跡内での製作も考えられる。赤色顔料の加工に関わる石器は出土しておらず、赤鉄鉱が搬入されたものか地山に含まれるものかは、今後検討すべき課題である。

石製品集計表

器種	石棒	石刀	石冠	円盤状石製品	岩版	三角形岩版	不明石製品	搬入礫	合計
数量(点)	2	1	3	28	9	6	3	5	57
比率(%)	3.5	1.8	5.3	49.1	15.8	10.5	5.3	8.8	100

第3章 自然科学分析



第3章 自然科学分析

第1節 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・尾崎大真・丹生越子・廣田正史・山形秀樹・小林紘一

Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・小林克也・菊地有希子

1. はじめに

青森県中津軽郡西目屋村砂子瀬字宮元に位置する砂子瀬遺跡の土坑より検出された炭化材について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。

試料は、いずれも土坑から出土した炭化材7点で、うち3点は柱穴である。柱穴出土の試料は、第59号土坑の柱痕覆土から出土した試料 No.10SKS-ASK059-C1 (PLD-17509)、第62号土坑の柱痕覆土から出土した試料 No.10SKS-ASK062-C1 (PLD-17510)、第150号土坑の覆土から出土した試料 No.10SKS-ASK150-CX (PLD-17511) である。また、それ以外の土坑出土試料は、第95号土坑から出土

表1 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	考古学的手法による想定年代	前処理データ	前処理
PLD-17509	試料 No.10SKS-ASK059-C1 遺構：第59号土坑 層位：柱痕覆土 深度：地表下約75cm	試料の種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：最外以外部位不明 採取位置：外側-2年輪	縄文時代後期頃	前処理前重量：56.40mg 燃焼量：6.73mg 精製炭素量：4.34mg 炭素回収量：0.99mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1N, 塩酸：1.2N）
PLD-17510	試料 No.10SKS-ASK062-C1 遺構：第62号土坑 層位：柱痕覆土 深度：地表下約80cm	試料の種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：最外以外部位不明 採取位置：外側-3年輪	縄文時代後期頃	前処理前重量：81.22mg 燃焼量：6.88mg 精製炭素量：4.31mg 炭素回収量：0.99mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1N, 塩酸：1.2N）
PLD-17511	試料 No.10SKS-ASK150-CX 遺構：第150号土坑 層位：覆土 深度：地表下約80cm	試料の種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：最外以外部位不明 採取位置：外側-1年輪	縄文時代後期頃	前処理前重量：41.38mg 燃焼量：6.58mg 精製炭素量：4.10mg 炭素回収量：1.00mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1N, 塩酸：1.2N）
PLD-17512	試料 No.10SKS-ASK095-CX 遺構：第95号土坑 層位：覆土	試料の種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：最外年輪 採取位置：最外-1年輪	縄文時代後期頃	前処理前重量：111.12mg 燃焼量：7.50mg 精製炭素量：4.49mg 炭素回収量：0.99mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1N, 塩酸：1.2N）
PLD-17513	試料 No.10SKS-ASK281-C1 遺構：第281号土坑 層位：覆土 深度：地表下約75cm	試料の種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：最外年輪 採取位置：最外-1年輪	縄文時代後期頃	前処理前重量：36.8mg 燃焼量：7.07mg 精製炭素量：4.38mg 炭素回収量：0.97mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1N, 塩酸：1.2N）
PLD-17514	試料 No.10SKS-ASK281-C2 遺構：第281号土坑 層位：覆土 深度：地表下約80cm	試料の種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：最外以外部位不明 採取位置：外側-2年輪	縄文時代後期頃	前処理前重量：76.74mg 燃焼量：7.09mg 精製炭素量：4.58mg 炭素回収量：0.98mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1N, 塩酸：1.2N）
PLD-17515	試料 No.10SKS-ASK274-CX 遺構：第274号土坑 層位：覆土	試料の種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：最外年輪 採取位置：最外-2年輪	縄文時代後期頃	前処理前重量：115.28mg 燃焼量：7.85mg 精製炭素量：5.43mg 炭素回収量：0.92mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1N, 塩酸：1.2N）

した試料 No.10SKS-ASK095-CX (PLD-17512)、第281号土坑から出土した試料 No.10SKS-ASK281-C1 (PLD-17513) と試料 No.10SKS-ASK281-C2 (PLD-17514)、第274号土坑から出土した試料 No.10SKS-ASK274-CX (PLD-17515) であり、いずれも覆土から出土した試料である。なお、第95号土坑の試料 No.10SKS-ASK095-CX は、当初測定予定であった試料 No.10SKS-ASK219-C1が小礫と土壌から成っており、前処理に必要な量の炭化物を含んでいなかったために使用した代替試料、第274号土坑の試料 No.10SKS-ASK274-CX は、当初測定予定であった4号焼成遺構の試料 No.10SKS-ASN004-CX が炭化物ではなかったために使用した代替試料である。

実体顕微鏡下の観察によれば、炭化材の樹種はすべて広葉樹であった。また、第95号土坑の試料 No.10SKS-ASK095-CX、第281号土坑の試料 No.10SKS-ASK281-C1、第274号土坑の試料 No.10SKS-ASK274-CX の3点は最外年輪を含む試料で、それ以外は最外年輪以外の部位不明であった(図版1)。試料の想定年代は、いずれも出土土器型式から縄文時代後期頃と推定されている。

試料は調製後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH)を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3. 結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、図1に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代(yrBP)の算出には、 ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差($\pm 1\sigma$)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い(^{14}C の半減期5730 \pm 40年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正にはOxCal4.1(較正曲線データ: IntCal09)を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4. 考察

各試料の暦年較正結果のうち、 2σ 暦年代範囲(95.4%の確率)に着目して結果を整理する。縄文時代の暦年代については、小林(2008)による縄文土器編年と暦年代との対応関係や榎本(2008)、鈴木(2008)に集成された測定例を参照した。

表2 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	測定回数	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年較正した年代範囲	
					1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-17509 試料 No.10SKS-ASK059-C1	9	-24.57 \pm 0.16	3499 \pm 23	3500 \pm 25	1881BC (10.9%) 1866BC 1848BC (57.3%) 1774BC	1888BC (95.4%) 1751BC
PLD-17510 試料 No.10SKS-ASK062-C1	9	-27.51 \pm 0.16	3501 \pm 23	3500 \pm 25	1881BC (9.9%) 1869BC 1847BC (58.3%) 1775BC	1890BC (95.4%) 1751BC
PLD-17511 試料 No.10SKS-ASK150-CX	9	-26.12 \pm 0.16	3544 \pm 23	3545 \pm 25	1932BC (55.3%) 1878BC 1840BC (8.7%) 1828BC 1792BC (4.1%) 1785BC	1951BC (64.9%) 1867BC 1848BC (30.5%) 1774BC
PLD-17512 試料 No.10SKS-ASK095-CX	9	-27.04 \pm 0.14	3549 \pm 24	3550 \pm 25	1939BC (63.5%) 1879BC 1838BC (4.7%) 1831BC	1956BC (71.0%) 1867BC 1849BC (24.4%) 1774BC
PLD-17513 試料 No.10SKS-ASK281-C1	9	-26.75 \pm 0.16	3651 \pm 24	3650 \pm 25	2117BC (12.8%) 2098BC 2039BC (55.4%) 1973BC	2132BC (22.9%) 2084BC 2056BC (72.5%) 1946BC
PLD-17514 試料 No.10SKS-ASK281-C2	9	-25.76 \pm 0.16	3694 \pm 24	3695 \pm 25	2134BC (45.7%) 2079BC 2061BC (22.5%) 2035BC	2194BC (3.0%) 2178BC 2144BC (90.6%) 2021BC 1993BC (1.8%) 1983BC
PLD-17515 試料 No.10SKS-ASK274-CX	9	-26.11 \pm 0.15	207 \pm 20	205 \pm 20	1657AD (19.4%) 1673AD 1778AD (33.3%) 1799AD 1942AD (15.6%) 1953AD	1650AD (28.5%) 1682AD 1738AD (3.6%) 1752AD 1762AD (44.2%) 1803AD 1937AD (19.0%) 1955AD

第59号土坑の試料 No.10SKS-ASK059-C1 (PLD-17509) は1888-1751 cal BC (95.4%)、第62号土坑の試料 No.10SKS-ASK062-C1 (PLD-17510) は1890-1751 cal BC (95.4%)、第150号土坑の試料 No.10SKS-ASK150-CX (PLD-17511) は1951-1867 cal BC (64.9%) および1848-1774 cal BC (30.5%)、第95号土坑の試料 No.10SKS-ASK095-CX (PLD-17512) は1956-1867 cal BC (71.0%) および1849-1774 cal BC (24.4%) の暦年代範囲を示した。これらの4試料は、いずれもおよそ紀元前1960～1750年の範囲におさまり、小林(2008)や榎本(2008)、鈴木(2008)によると縄文時代後期中葉に相当する。いずれも縄文時代後期頃という想定年代に対して総合的であった。ただし木材の場合、最外年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると最外年輪から内側であるほど古い年代が得られる(古木効果)。上に挙げた4試料のうち、第95号土坑の試料 No.10SKS-ASK095-CX 以外については、最外年輪以外の部位不明の炭化材であり、古木効果の影響、つまり試料の木材が実際に枯死もしくは伐採された年代よりも古い年代が得られている可能性を考慮する必要がある。

第281号土坑の試料 No.10SKS-ASK281-C1 (PLD-17513) は、2132-2084 cal BC (22.9%) および2056-1946 cal BC (72.5%) の暦年代範囲を示した。また、同じ土坑出土の試料 No.10SKS-ASK281-C2 (PLD-17514) は、2194-2178 cal BC (3.0%)、2144-2021 cal BC (90.6%)、1993-1983 cal BC (1.8%) の暦年代範囲を示した。いずれもおよそ紀元前2200～1950年の範囲におさまり、小林(2008)

や榎本（2008）によれば縄文時代後期前半に相当する。いずれも縄文時代後期頃という想定年代に対して整合的であった。ただし、試料 No.10SKS-ASK281-C2の方は最外年輪以外の部位不明の炭化材であるため、上述した古木効果の影響を考慮に入れる必要がある。

第274号土坑の試料 No.10SKS-ASK274-CX (PLD-17515) は、1650-1682 cal AD (28.5%)、1738-1752 cal AD (3.6%)、1762-1803 cal AD (44.2%)、1937-1955 cal AD (19.0%) の暦年代範囲を示した。これは17世紀中頃～20世紀中頃で、近代～現代の暦年代であり、想定年代である縄文時代後期頃とは大きく離れた結果となった。調査担当者によって指摘されているように、第274号土坑は、現在の攪乱により一部が破壊されているため、今回の測定試料はその部分からの混入と考えられる。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51 (1) , 337-360.
- 榎本剛治（2008）十腰内I式土器. 小林達雄編「総覧縄文土器」: 530-535, アム・プロモーション.
- 小林謙一（2008）縄文時代の暦年代. 小杉 康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学2 歴史のものさし」: 257-269, 同成社.
- 中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編「日本先史時代の¹⁴C年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 51, 1111-1150.
- 鈴木克彦（2008）宝ヶ峯式・手稲式土器. 小林達雄編「総覧縄文土器」: 552-559, アム・プロモーション.

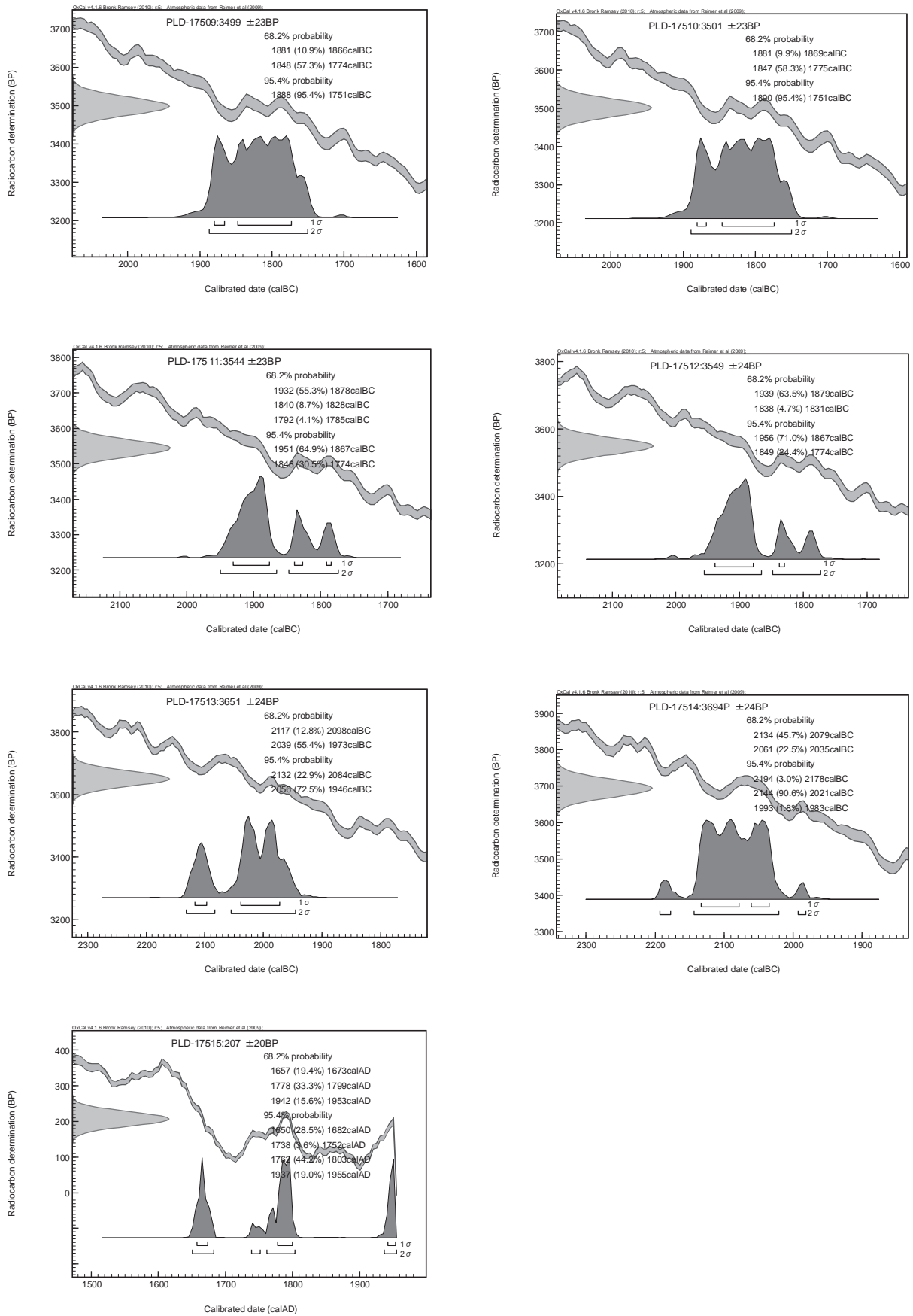
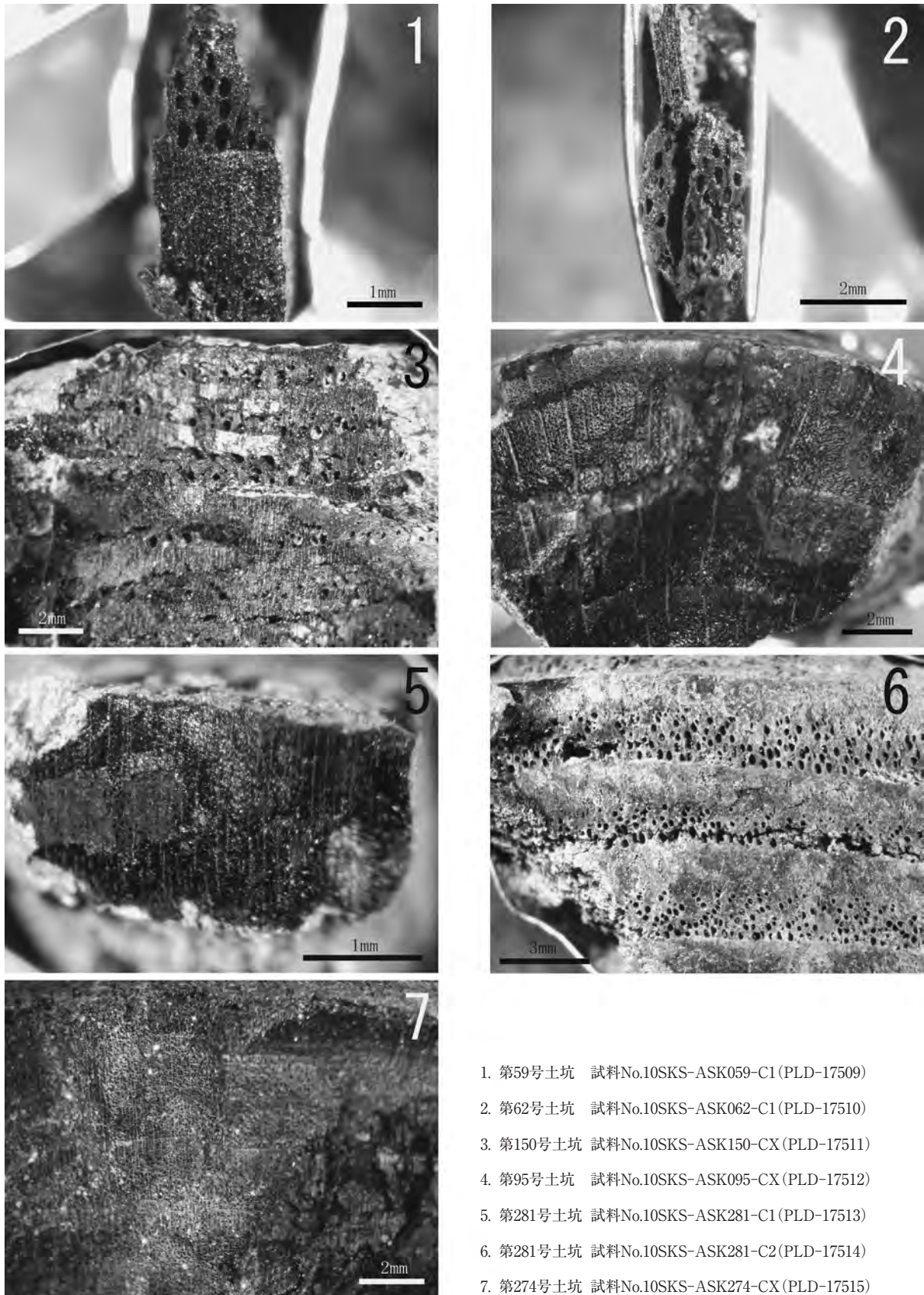


図 1 曆年較正結果



図版1 年代測定をおこなった炭化材試料

第2節 砂子瀬遺跡の火山灰

弘前大学大学院・理工学研究科
柴 正敏

西目屋村・砂子瀬遺跡より採集された火山灰サンプル6試料について、以下の観察を行った。

これら試料について、超音波洗浄器を用いて水洗し、粘土鉱物など数マイクロメートル以下の粒子を除去した後、偏光顕微鏡を用いて、火山ガラスの有無、火山ガラスが存在する場合にはその形態、構成鉱物の種類を観察・記載した。その結果を表1に示した。火山ガラスは、その形態、屈折率、化学組成、共存鉱物などにより給源火山を推定することができる（町田・新井、2003）。

ガラスの形態及び共存鉱物（表1）、ならびに軽石粒子の発泡度・色（特に褐色ガラスの有無）・粒径より、ガラスは以下のように帰属される：

- (1) 十和田aテフラ（To-a）のガラスを主とすると判断される試料
（褐色ガラス及び石英（斑晶）を含み、ホルンブレンドを含まないもの）
・ 試料 No. 1（1試料）
- (2) 十和田八戸テフラガラスのみからなると推定される試料
（発泡の良い軽石ガラス及び針状のホルンブレンドを含み、褐色ガラス及び石英（斑晶）を含まないもの）
・ 試料 No. 2, 3, 4 及び 6（4試料）。

各試料について多数のガラス片及び鉱物粒子を観察することにより、以上のようなグループ分けをすることができるが、ガラス粒子単独の顕微鏡観察でガラスの帰属が明らかにできるとは限らないことを付記しておく。

参考文献

- 青木かおり・町田 洋（2006）、日本に分布する第四紀後期広域テフラの主元素組成 — K_2O - TiO_2 図によるテフラの識別. 地質調査研究報告、第57巻、第7/8号、239-258.
- Hayakawa, Y. (1985) ,Pyroclastic geology of Towada Volcano. Bulletin of Earthquake Research Institute, vol.60, 507-592.
- Machida, H. (1999) ,Quaternary widespread tephra catalog in and around Japan : Recent progress. 第四紀研究、第38巻、194-201.
- 町田 洋・新井房夫（2003）、新編火山灰アトラス — 日本列島とその周辺 —. 東京大学出版会、pp.336.
- 柴 正敏・重松直樹・佐々木 実（2000）、青森県内に分布する広域テフラに含まれる火山ガラスの化学組成（1）. 弘前大学理工学部研究報告、第1巻、第1号、11-19.
- 柴 正敏・中道哲郎・佐々木 実（2001）、十和田火山、降下軽石の化学組成変化 — 宇樽部の一露頭

を例として - 弘前大学理工学部研究報告、第4巻、第1号、11-17.

柴 正敏・佐々木 実 (2006)、十和田火山噴出物のガラス組成変化、月刊地球、第28巻、第5号、322-325.

表1 砂子瀬遺跡の火山灰

試料No.	採取場所	層位	構成鉱物及び火山ガラス	ガラスの帰属	備考
1	基本層序①	I	火山ガラス (pm > bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	To-a	礫～砂 (0.5～3mm、軽石、岩片)、プラントオパールを含む
2	基本層序①	II a	火山ガラス (bw 僅か)、斜長石、石英、ホルンブレンド、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	再堆積 To-H	礫～砂 (0.5～3.5mm、チャート)、プラントオパールを含む
3	基本層序①	II b	火山ガラス (bw 僅か)、斜長石、石英、ホルンブレンド、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	再堆積 To-H	礫～砂 (0.5～3.7mm、流紋岩)、プラントオパールを含む
4	基本層序①	II d	火山ガラス (bw 僅か)、斜長石、石英、ホルンブレンド、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	再堆積 To-H	礫～砂 (0.5～10mm、デイサイト、砂岩、流紋岩)
5	基本層序①	III	斜長石、石英、ホルンブレンド、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	ガラスを含まず	礫～砂 (0.5～3mm、チャート、流紋岩、デイサイト)
6	基本層序④	I	火山ガラス (bw 僅か)、斜長石、石英、ホルンブレンド、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	再堆積 To-H	礫～砂 (0.5～3mm、流紋岩、凝灰岩)、プラントオパールを含む

To-H：十和田八戸テフラ、To-a：十和田 a テフラ、pm：軽石型ガラス、bw：バブルウォール型ガラス



写真：基本層序①(左)・基本層序④(右)

数字は試料番号と対応するサンプル採取位置

第3節 黒曜石産地推定

望月 明彦・(株)アルカ

1. 分析試料

砂子瀬遺跡 A 地区出土の黒曜石製石器・剥片90点が今回の分析対象である。

2. 分析方法

- ・分析法
エネルギー分散蛍光 X 線分析法 (EDX)
- ・分析装置
セイコーインスツルメンツ卓上型蛍光 X 線分析計
SEA-2110L
- ・分析条件
管電圧 50kV 管電流 自動設定
測定時間 240sec 雰囲気 真空
照射径 10mm
検出器 Si(Li)半導体検出器
- ・測定元素
Al(アルミニウム)、Si(ケイ素)、K(カリウム)、Ca(カルシウム)、Ti(チタン)、Mn(マンガン)、Fe(鉄)、Rb(ルビジウム)、Sr(ストロンチウム)、Y(イットリウム)、Zr(ジルコニウム)
- ・分析法の特徴
長所：非破壊分析
多元素同時分析
前処理不要 → 洗浄は必要
迅速分析
操作が簡単
短所：微量分析は不得意
試料を破壊せずに測定するため、分析結果は表面を測定したことになる。そのため、汚れた試料、風化した試料は汚れ、風化を測定したことになり、正確でない。類似した組成の標準試料が必要である。
- ・試料の洗浄
5分間(汚れがひどい場合は15分間)超音波洗浄器で洗浄。
さらに汚れを拭き取ってから測定。

3. 産地推定法

得られた蛍光 X 線スペクトル強度を元素記号で表すとす。2つの方法とも以下の指標を用いる。

指標：Sum=Rb+Sr+Y+Zr とする。

$$Rb \text{ 分率} = Rb/Sum$$

$$Sr \text{ 分率} = Sr/Sum$$

$$Zr \text{ 分率} = Zr/Sum$$

$$Mn*100/Fe$$

$$\log(Fe/K)$$

産地のシートに上げた黒曜石産地から、産地原石を採集し、測定する。測定結果から上記の指標を算出する。

以上から、産地原石に関するデータベースを作成する。

下記の二つの方法で産地推定を行う。

① 判別図法(図2・3 判別図参照)

用いる指標：図2 横軸-Rb分率、縦軸-Mn/Fe

特長：図3 横軸-Sr分率、縦軸-log(Fe/K)

簡単な計算であり、誰にでも作成可能
視覚的に確認でき、分かりやすい。

推定方法：遺跡出土試料を蛍光 X 線分析し、指標を計算。

指標を図にプロットする。

重なった原石産地を推定結果とする。

② 判別分析(表1 推定結果表参照)

用いる指標：算出された指標全指標

特長：各産地との類似度を距離で算出。

既知の産地のどれに類似しているかを判別する方法である。

→ 未知の産地の判別はできない。

推定方法：判別図法では遺跡出土試料と重なっている産地を推定結果とする。この産地は試料と2次元の最も距離に近い。

判別分析ではこの距離を数学的に n 次元で計算する。試料と最も距離(マハラノビス距離)に近い産地を推定結果とする。この距離から、各産地に属する確率を計算する。

表1：青森県中津軽郡西目屋村砂子瀬遺跡出土黒曜石製石器産地推定結果

研究室 年間通番	分析番号	図番号 (整理番号)	推定産地	判別図法による推定結果と判別分析による推定結果						
				判別分析						
				第1候補産地			第2候補産地			
判別群	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率				
MK11-00629	SKS-1	115-8	置戸安住群	ODAZ	ODAZ	0.64	1	TKMM	41.7	0
MK11-00630	SKS-2	112-7	木造出来島群	KDDK	KDDK	9.26	1	HGGS	50.28	0
MK11-00631	SKS-3	116-20	深浦八森山群	HUHM	HUHM	2.15	1	OKMT	214.3	0
MK11-00632	SKS-4	-	木造出来島群	KDDK	KDDK	14.51	0.9971	HGGS	27.63	0.0028
MK11-00633	SKS-5	-	木造出来島群	KDDK	KDDK	7.43	1	HGIN	42.14	0
MK11-00634	SKS-6	-	木造出来島群	KDDK	KDDK	8.96	1	HGGS	45.06	0
MK11-00635	SKS-7	117-10	木造出来島群	KDDK	KDDK	6.41	0.997	HGGS	19.39	0.003
MK11-00636	SKS-8	-	木造出来島群	KDDK	KDDK	6.19	1	HGGS	31.86	0
MK11-00637	SKS-9	115-12	木造出来島群	KDDK	KDDK	9	1	HGGS	41.62	0
MK11-00638	SKS-10	97-10	木造出来島群	KDDK	KDDK	7.37	0.9994	HGIN	22.13	0.0003
MK11-00639	SKS-11	-	木造出来島群	KDDK	KDDK	7.11	1	HGGS	63.55	0

表1-2

判別図法・判別分析からの最終推定結果

研究室 年間通番	分析番号	図番号 (整理番号)	推定産地
MK11-00640	SKS-12	-	木造出来島群
MK11-00641	SKS-13	(白 23)	木造出来島群
MK11-00642	SKS-14	-	木造出来島群
MK11-00643	SKS-15	-	木造出来島群
MK11-00644	SKS-16	-	木造出来島群
MK11-00645	SKS-17	(白 64)	木造出来島群
MK11-00646	SKS-18	(白 42)	木造出来島群
MK11-00647	SKS-19	(白 36)	木造出来島群
MK11-00648	SKS-20	(白 95)	木造出来島群
MK11-00649	SKS-21	-	木造出来島群
MK11-00650	SKS-22	(白 40)	木造出来島群
MK11-00651	SKS-23	(白 96)	木造出来島群
MK11-00652	SKS-24	(白 38)	木造出来島群
MK11-00653	SKS-25	-	木造出来島群
MK11-00654	SKS-26	39-21	木造出来島群
MK11-00655	SKS-27	-	木造出来島群
MK11-00656	SKS-28	-	木造出来島群
MK11-00657	SKS-29	(白 33)	木造出来島群
MK11-00658	SKS-30	-	木造出来島群
MK11-00659	SKS-31	-	木造出来島群
MK11-00660	SKS-32	117-8	深浦八森山群
MK11-00661	SKS-33	(白 47)	深浦八森山群
MK11-00662	SKS-34	(白 32)	木造出来島群
MK11-00663	SKS-35	(白 37)	木造出来島群
MK11-00664	SKS-36	7-23	木造出来島群
MK11-00665	SKS-37	(白 73)	木造出来島群
MK11-00666	SKS-38	42-4	木造出来島群
MK11-00667	SKS-39	59-10	木造出来島群
MK11-00668	SKS-40	117-9	木造出来島群
MK11-00669	SKS-41	(白 72)	木造出来島群
MK11-00670	SKS-42	-	木造出来島群
MK11-00671	SKS-43	(白 25)	木造出来島群
MK11-00672	SKS-44	-	木造出来島群
MK11-00673	SKS-45	-	木造出来島群
MK11-00674	SKS-46	-	木造出来島群
MK11-00675	SKS-47	-	木造出来島群
MK11-00676	SKS-48	42-5	木造出来島群
MK11-00677	SKS-49	(白 66)	木造出来島群
MK11-00678	SKS-50	-	木造出来島群
MK11-00679	SKS-51	-	木造出来島群
MK11-00680	SKS-52	-	木造出来島群
MK11-00681	SKS-53	(白 16)	木造出来島群
MK11-00682	SKS-54	(白 26)	木造出来島群
MK11-00683	SKS-55	(白 17)	木造出来島群
MK11-00684	SKS-56	(白 14)	木造出来島群
MK11-00685	SKS-57	42-10	推定不可
MK11-00686	SKS-58	-	木造出来島群
MK11-00687	SKS-59	-	木造出来島群
MK11-00688	SKS-60	(白 52)	木造出来島群
MK11-00689	SKS-61	-	木造出来島群
MK11-00690	SKS-62	-	木造出来島群
MK11-00691	SKS-63	-	木造出来島群

判別図法による推定結果と判別分析による推定結果

判別図 判別群	判別分析					
	第1候補産地			第2候補産地		
	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
KDDK	KDDK	6.63	0.9887	HGGS	16.98	0.0112
KDDK	KDDK	8.49	0.9956	HGGS	20.97	0.0039
KDDK	KDDK	2.8	1	HGGS	52.09	0
KDDK	KDDK	3.94	1	HGGS	35.77	0
KDDK	KDDK	9.45	1	HGGS	40.08	0
KDDK	KDDK	10.27	1	HGIN	39.64	0
KDDK	KDDK	7.54	1	HGGS	32.43	0
KDDK	KDDK	3.05	1	HGGS	40.74	0
KDDK	KDDK	9.49	1	HGGS	62.84	0
KDDK	KDDK	1.51	1	HGGS	38.11	0
KDDK	KDDK	21.94	1	HGGS	72.51	0
KDDK	KDDK	3.44	0.9995	HGGS	20.1	0.0005
KDDK	KDDK	10.76	1	HGGS	39.3	0
KDDK	KDDK	5.35	1	HGGS	48.62	0
KDDK	KDDK	6.77	1	HGGS	28.63	0
KDDK	KDDK	6.14	0.9926	HGGS	17.32	0.0074
KDDK	KDDK	10.27	0.9992	HGGS	25.88	0.0008
KDDK	KDDK	12.32	1	HGIN	38.73	0
KDDK	KDDK	5.98	1	HGIN	28.44	0
KDDK	KDDK	1.7	1	HGGS	40.25	0
HUHM	HUHM	0.56	1	OKMT	198.24	0
HUHM	HUHM	2.02	1	OKMT	210.85	0
KDDK	KDDK	7.46	0.975	HGGS	16.18	0.025
KDDK	KDDK	9.25	0.9948	HGGS	21.19	0.0051
KDDK	KDDK	2.32	1	HGGS	25.54	0
KDDK	KDDK	6.81	0.9999	HGGS	26.28	0.0001
KDDK	KDDK	7.67	0.933	HGGS	14.32	0.067
KDDK	KDDK	1.75	1	HGGS	29.68	0
KDDK	KDDK	7.1	1	HGIN	44.55	0
KDDK	KDDK	7.79	0.9999	HGIN	25.57	0.0001
KDDK	KDDK	3.87	1	HGIN	37.35	0
KDDK	KDDK	4.31	0.9999	HGGS	23.82	0.0001
KDDK	KDDK	6.12	1	HGIN	37.59	0
KDDK	KDDK	13.78	1	HGIN	40.14	0
KDDK	KDDK	5.79	1	HGGS	42.67	0
KDDK	KDDK	12.63	0.9998	HGIN	28.16	0.0002
KDDK	KDDK	5.73	0.9993	HGGS	21.67	0.0007
KDDK	KDDK	2.33	1	HGGS	30.6	0
KDDK	KDDK	11.68	0.9617	HGIN	17.55	0.0207
KDDK	KDDK	3.22	1	HGGS	38.1	0
KDDK	KDDK	7.47	0.999	HGGS	22.66	0.001
KDDK	KDDK	2.75	1	HGGS	29.5	0
KDDK	KDDK	3.32	0.9998	HGGS	21.9	0.0002
KDDK	KDDK	9.38	0.9997	HGIN	24.48	0.0002
KDDK	KDDK	7.66	0.9999	HGIN	23.64	0.0001
推定不可	推定不可			推定不可		
KDDK	KDDK	4.16	0.9994	HGGS	20.41	0.0006
KDDK	KDDK	6.65	1	HGGS	32.81	0
KDDK	KDDK	6.39	0.9929	HGGS	17.77	0.0067
KDDK	KDDK	6.04	1	HGGS	51.12	0
KDDK	KDDK	0.88	1	HGGS	41.22	0
KDDK	KDDK	8.03	1	HGGS	31.38	0

表 1-3

判別図法・判別分析からの最終推定結果

研究室 年間通番	分析番号	図番号 (整理番号)	推定産地
MK11-00692	SKS-64	-	木造出来島群
MK11-00693	SKS-65	-	木造出来島群
MK11-00694	SKS-66	-	木造出来島群
MK11-00695	SKS-67	(白 70)	木造出来島群
MK11-00696	SKS-68	(白 71)	木造出来島群
MK11-00697	SKS-69	(白 74)	木造出来島群
MK11-00698	SKS-70	(白 53)	木造出来島群
MK11-00699	SKS-71	(白 45)	木造出来島群
MK11-00700	SKS-72	(白 46)	木造出来島群
MK11-00701	SKS-73	(白 44)	木造出来島群
MK11-00702	SKS-74	(白 43)	木造出来島群
MK11-00703	SKS-75	(白 41)	木造出来島群
MK11-00704	SKS-76	(白 39)	木造出来島群
MK11-00705	SKS-77	(白 35)	木造出来島群
MK11-00706	SKS-78	(白 34)	木造出来島群
MK11-00707	SKS-79	(白 31)	木造出来島群
MK11-00708	SKS-80	(白 30)	木造出来島群
MK11-00709	SKS-81	(白 97)	木造出来島群
MK11-00710	SKS-82	(白 93)	木造出来島群
MK11-00711	SKS-83	97-2	木造出来島群
MK11-00712	SKS-84	(白 27)	木造出来島群
MK11-00713	SKS-85	(白 18)	木造出来島群
MK11-00714	SKS-86	(白 29)	木造出来島群
MK11-00715	SKS-87	-	木造出来島群
MK11-00716	SKS-88	-	木造出来島群
MK11-00717	SKS-89	-	木造出来島群
MK11-00718	SKS-90	-	木造出来島群

判別図法による推定結果と判別分析による推定結果

判別図 判別群	判別分析					
	第 1 候補産地			第 2 候補産地		
	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
KDDK	KDDK	7.44	0.9942	HGGS	19.1	0.0058
KDDK	KDDK	5.17	1	HGGS	46.65	0
KDDK	KDDK	11.62	1	HGIN	43.37	0
KDDK	KDDK	4.68	1	HGIN	52.59	0
KDDK	KDDK	9.8	1	HGIN	41.48	0
KDDK	KDDK	2.76	1	HGGS	47.29	0
KDDK	KDDK	5.27	0.9993	HGGS	21.25	0.0007
KDDK	KDDK	5.98	1	HGIN	39.5	0
KDDK	KDDK	5.74	1	HGIN	32.43	0
KDDK	KDDK	3.89	1	HGGS	28.38	0
KDDK	KDDK	3.34	1	HGGS	41.52	0
KDDK	KDDK	2.01	1	HGGS	41.23	0
KDDK	KDDK	6.34	1	HGGS	64.02	0
KDDK	KDDK	4.72	1	HGIN	39.8	0
KDDK	KDDK	5.31	1	HGGS	28.7	0
KDDK	KDDK	13.44	0.9998	HGGS	32.02	0.0002
KDDK	KDDK	4.36	0.9998	HGGS	22.47	0.0002
KDDK	KDDK	1.57	1	HGGS	30.01	0
KDDK	KDDK	2.59	1	HGGS	28.58	0
KDDK	KDDK	1.9	1	HGGS	28.01	0
KDDK	KDDK	8.39	1	HGIN	39.57	0
KDDK	KDDK	6.25	1	HGIN	39.72	0
KDDK	KDDK	14.86	0.9998	HGGS	33.21	0.0002
KDDK	KDDK	8.68	0.9667	HGGS	16.81	0.0333
KDDK	KDDK	14.08	1	HGGS	49.05	0
KDDK	KDDK	3.19	1	HGGS	26.83	0
KDDK	KDDK	5.17	1	HGGS	42.6	0

表 2：青森県中津軽郡西目屋村砂子瀬遺跡出土土曜石産地組成

エリア	判別群	記号	試料数	%	エリア	判別群	記号	試料数	%	エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WO)	ブドウ沢	WOBD	0	0	神津島	恩馳島	KZOB	0	0	小泊	折腰内	KDOK	0	0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0		砂糠崎	KZSN	0	0		魚津	草月上野	UTHT	0
	高松沢	WOTM	0	0	高原山	甘湯沢	THAY	0	0	高岡	二上山	TOFK	0	0
芙蓉ライト	WDHY	0	0	七尋沢		THNH	0	0	佐渡	真光寺	SDSK	0	0	
和田(WD)	鷹山	WDTY	0	0	新津	金津	NTKT	0		0	金井二ッ坂	SDKH	0	0
	小深沢	WDKB	0	0	新発田	板山	SBIY	0	0	隠岐	久見	OKHM	0	0
	土屋橋北	WDTK	0	0	深浦	八森山	HUHM	3	3.37		岬地区	OKMT	0	0
	土屋橋西	WDTN	0	0	木造	出来島	KDDK	85	95.51		箕浦	OKMU	0	0
	土屋橋南	WDTM	0	0	男鹿	金ヶ崎	OGKS	0	0	8号沢	STHG	0	0	
	古峠	WDHT	0	0		脇本	OGWM	0	0	白滝	黒曜の沢	STKY	0	0
諏訪	星ヶ台	SWHD	0	0	羽黒	月山	HGGS	0	0	赤石山頂	STSC	0	0	
蓼科	冷山	TSTY	0	0	今野川	HGIN	0	0	赤井川	曲川	AIMK	0	0	
	双子山	TSHG	0	0	北上川	折居 1 群	KKO1	0	0	豊浦	豊泉	TUTI	0	0
播鉢山	TSSB	0	0	折居 2 群		KKO2	0	0	置戸	安住	ODAZ	1	1.12	
天城	柏峠 1	AGKT	0	0		折居 3 群	KKO3	0	0	十勝	三股	TKMM	0	0
	箱根	畑宿	HNHJ	0	0	宮崎	湯ノ倉	MZYK	0	0	名寄	布川	NYHA	0
鍛冶屋		HNKJ	0	0	仙台	秋保 1 群	SDA1	0	0	旭川	高砂台	AKTS	0	0
黒岩橋		HNKI	0	0		秋保 2 群	SDA2	0	0		春光台	AKSK	0	0
上多賀		HNKT	0	0	色麻	根岸	SMNG	0	0	不明産地 1	NK	0	0	
芦ノ湯		HNAY	0	0	塩竈	塩竈港群	SGSG	0	0	下呂石	GERO	0	0	
合計			89	100										

不可など		1
総計		90

表3：産地原石判別群（SEIKO SEA-2110L 蛍光X線分析装置による）

都道府県	地図No.	エリア	新判別群	旧判別群	新記号	旧記号	原石採取地（分析数）
北海道	1	白滝	八号沢群 黒曜の沢群		STHG STKY		赤石山山頂 (19)、八号沢露頭 (31)、八号沢 (79)、 黒曜の沢 (6)、幌加林道 (4)
	2	上士幌	三股群		KSMH		十三ノ沢 (16)
	3	置戸	安住群		ODAZ		安住 (25)、清水ノ沢 (9)
	4	旭川	高砂台群 春光台群		AKTS AKSK		高砂台 (6)、雨紛台 (5)、春光台 (5)
	5	名寄	布川群		NYHK		布川 (10)
	6	新十津川	須田群		STSD		須田 (6)
	7	赤井川	曲川群		AIMK		曲川 (25)、土木川 (15)
	8	豊浦	豊泉群		TUTI		豊泉 (16)
青森	9	木造	出来島群		KDDK		出来島海岸 (34)
	10	深浦	八森山群		HUHM		八森山公園 (8)、六角沢 (8)、岡崎浜 (40)
秋田	11	男鹿	金ヶ崎群 脇本群		OGKS OGWM		金ヶ崎温泉 (37)、脇本海岸 (98) 脇本海岸 (16)
山形	12	羽黒	月山群 今野川群		HGGS HGIN		月山荘前 (30)、朝日町田代沢 (18)、櫛引町中沢 (18) 今野川 (9)、大綱川 (5)
新潟	13	新発田	板山群		SBIY		板山牧場 (40)
	14	新津	金津群		NTKT		金津 (29)
栃木	15	高原山	甘湯沢群 七尋沢群	高原山1群 高原山2群	THAY THNH	TKH1 TKH2	甘湯沢 (50)、桜沢 (20) 七尋沢 (9)、自然の家 (9)
長野	16	和田 (WD)	鷹山群	和田峠1群	WDTY	WDT1	鷹山 (53)、小深沢 (54)、東餅屋 (36)、芙蓉ライト (87)、 古峠 (50)、土屋橋北 (83)、土屋橋西 (29)、 土屋橋南 (68)、丁字御領 (18)
			小深沢群	和田峠2群	WDKB	WDT2	
			土屋橋北群	和田峠3群	WDTK	WDT3	
			土屋橋西群	和田峠4群	WDTN	WDT4	
			土屋橋南群	和田峠5群	WDTM	WDT5	
			芙蓉ライト群		WDHY		
	17	諏訪	星ヶ台群	霧ヶ峰系	SWHD SWHD	KRM	星ヶ塔第1鉱区 (36)、星ヶ塔第2鉱区 (36)、星ヶ台A (36)、 星ヶ台B (11)、水月霊園 (36)、水月公園 (13)、 星ヶ塔のりこし (36)
				冷山群	蓼科系	TSTY	TTS
	18	蓼科	双子山群		TSHG		双子池 (26)
			播鉢山群		TSSB		播鉢山 (31)、亀甲池 (8)
神奈川	19	箱根	芦ノ湯群	芦ノ湯	HNAY	ASY	芦ノ湯 (34)
	20		畑宿群	畑宿	HNHJ	HTJ	畑宿 (71)
	21		黒岩橋群	箱根系A群	HNKI	HKNA	黒岩橋 (9)
静岡	22	天城	鍛冶屋群	鍛冶屋	HNKJ	KJY	鍛冶屋 (30)
			上多賀群	上多賀	HNKT	KMT	上多賀 (18)
東京	23	神津島	恩馳島群	神津島1群	KZOB	KOZ1	恩馳島 (100)、長浜 (43)、沢尻湾 (8)
			砂糠崎群	神津島2群	KZSN	KOZ2	砂糠崎 (40)、長浜 (5)
島根	24	隠岐	久見群		OKHM		久見パーライト中 (30)、久見採掘現場 (18)
			箕浦群		OKMU		箕浦海岸 (30)、加茂 (19)、岸浜 (35)
その他			NK群		NK		岬地区 (16) 中ッ原1G、5G（遺跡試料）、原石産地は未発見

佐々木繁喜氏提供試料（まだ地図には入れていない）

青森	小泊	折腰内群	KDOK	小泊市折腰内 (8)
岩手	北上川	北上折居1群	KK01	水沢市折居 (36)、花巻日形田ノ沢 (36)、雫石小赤沢 (22)
		北上折居2群	KK02	水沢市折居 (23)、花巻日形田ノ沢 (8)、雫石小赤沢 (2)
		北上折居3群	KK03	水沢市折居 (5)
宮城	宮崎	湯ノ倉群	MZYK	宮崎町湯ノ倉 (54)
		根岸群	SMNG	色麻町根岸 (48)
仙台	秋保	秋保1群	SDA1	仙台市秋保土蔵 (17)
		秋保2群	SDA2	仙台市秋保土蔵 (35)
	塩竈	塩竈群	SGSG	塩竈市塩竈漁港 (22)



図1



+ 中部・関東の産地 × 東北北陸・隠岐の産地 Δ 北海道の産地 • 遺跡出土試料

図2

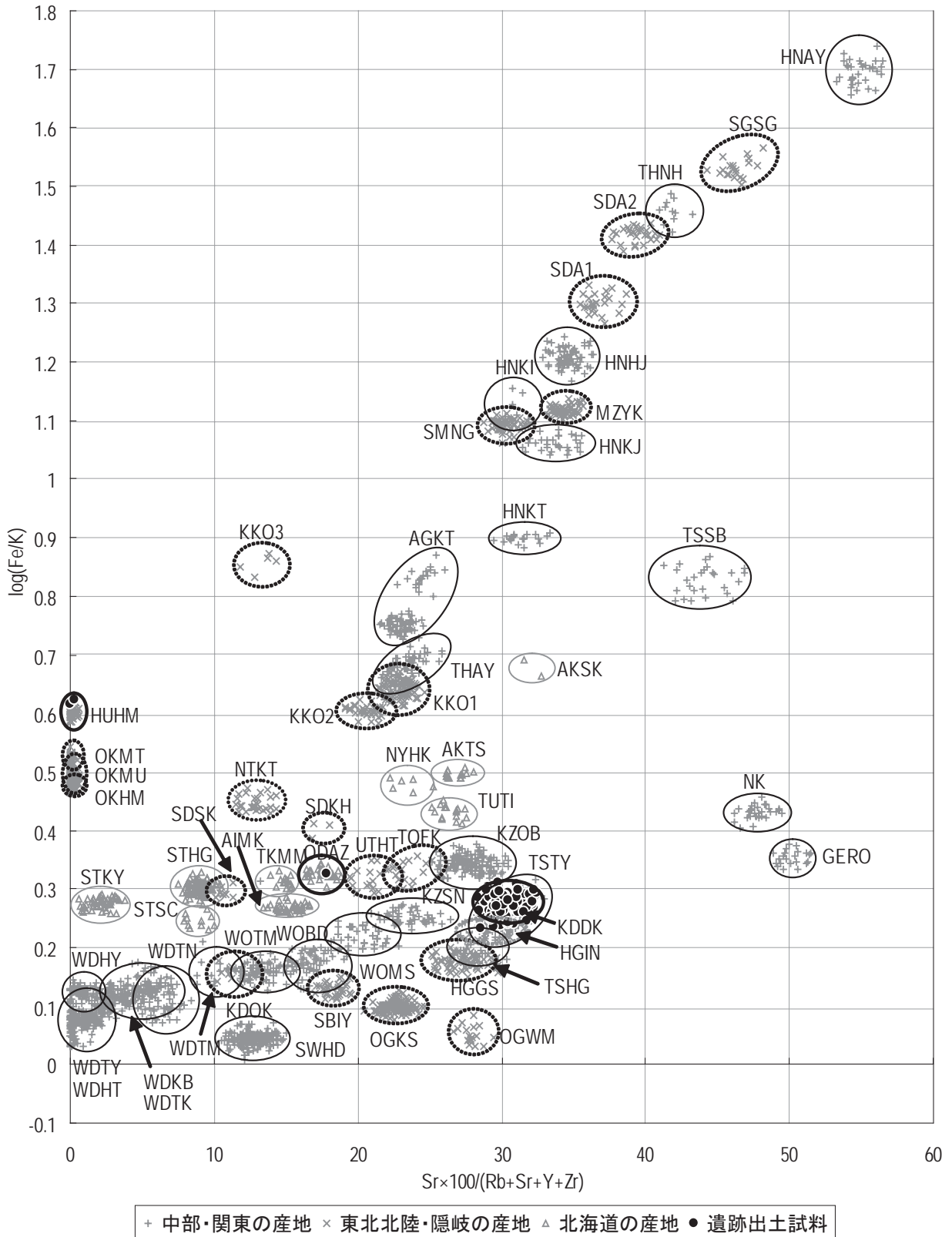


図3



SKS-1~4



SKS-5~9



SKS-10~18



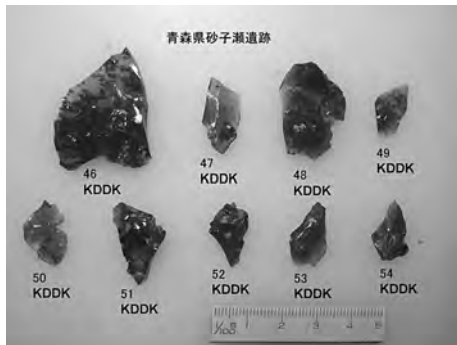
SKS-19~27



SKS-28~36



SKS-37~45



SKS-46~54



SKS-55~72



SKS-73~90

原礫形状が円礫のもの (8点)

SKS-2・18・26・36・39~42

原礫形状が角礫のもの (32点)

SKS-4~17・19~25・27~31・43・48・49・65・66・86

分析試料写真 (縮尺不同)

写真内の数字は分析番号

第4章 総括



第4章 総括

4次、5次調査では、A区の一部について調査を行った。調査範囲は舌状に張り出した台地の北端及び西側にあたり（図2）、調査面積は6,000㎡である。A区の調査対象面積は約13,000㎡であることから、約半分の調査を終了した事になる。この結果、竪穴住居跡7軒、土坑416基、土器埋設遺構3基、焼土遺構5基、配石遺構2基、ピット729基が検出された。遺構内及び遺構外から出土した土器は、縄文時代後期の土器が主体を占めているため、検出した遺構も縄文時代後期に構築されたものと考えられる。なお、土坑やピットとして調査したものの中には掘立柱建物跡の柱穴と判断できるものもあり、検出数には柱穴も含まれている。重複している柱穴が多く正確な棟数を把握するのは困難であるが、柱穴の配置状況から、掘立柱建物跡20棟を確認することができた。これらには環状を構成している一群と、それ以外の一群が認められる。以下に掘立柱建物跡についてまとめる。

環状部では9棟の掘立柱建物跡が確認され、それらの柱穴も含め162基の土坑（柱穴）を検出することができた。掘立柱建物跡は全て棟持柱が付随している6本柱建物跡で、主軸方向は環状部の円周に沿っている。各掘立柱建物跡を構成している柱穴の掘方長径の平均値は、第13～16号掘立柱建物跡、第18～20号掘立柱建物跡では136～160cmである。なお、第12・17号掘立柱建物跡では規模が小さく100cm未満である。柱穴は重複している場合が多く、掘立柱建物跡は近い場所で建て替えられていたと推定できる。特に第20号掘立柱建物跡付近では重複が激しいことから、特定の場所では建て替えが頻繁に行われた可能性もある。一方、環状部の内側では土坑・ピットを検出したが、検出数は少なく、掘立柱建物も復元できなかった。この区域は遺構外遺物の出土量が少なく、遺構内からも時期を判断できるような土器が出土していないため確実なことは言えないが、検出状況から、掘立柱建物跡が環状配置されていた時期には空白域であった可能性もある。

環状部以外からは11棟の掘立柱建物跡を確認した（第1～11号掘立柱建物跡）。第5号掘立柱建物跡を除いては棟持柱が付随している6本柱の建物跡である。これらは、検出位置及び棟持ち柱の位置、柱穴の掘方長径などから表1のように整理できる。1つ目は環状外Aとした第1・2・4号掘立柱建物跡である。第1・2号掘立柱建物跡は南側から、第4号掘立柱建物跡は北側北端から検出しており検出位置は離れている。しかし、棟持柱が柱穴と離れた位置に構築されていることと、主軸の向きが北西方向にあることなど共通点がある。また、第1・4号掘立柱建物跡では建物跡の中央から焼土遺構を検出している。柱穴掘方長径の平均値は、第1、2号掘立柱建物跡が95、105cmで、第4号掘立柱建物跡は52cmである。第4号掘立柱建物跡の平均値は今回確認した20棟の中で、最も小さいものである。2つ目は環状外Bとした第5～11号掘立柱建物跡である。環状の北側から検出しており、台地の長軸に沿って直線的に構築されている。また、主軸方向は東西方向を向いている特徴がある。柱穴掘方長径の平均値は102～111cmの範囲に収まっており、同規模の建物跡が構築されていたと推定できる。また、環状を構成している掘立柱建物跡よりも掘方規模が小さいことが分かる。なお、環状から検出した第12号掘立柱建物跡は規模及び検出位置から、第5～11号掘立柱建物跡と関連する可能性もある。3つ目は環状外Cとした第3号掘立柱建物跡である。柱穴掘方長径の平均値は162cmと規模が大きく、主軸方向はほぼ真北を向いている。規模、主軸方向共に、環状外から検出した掘立柱建物跡の中では異質なものである。

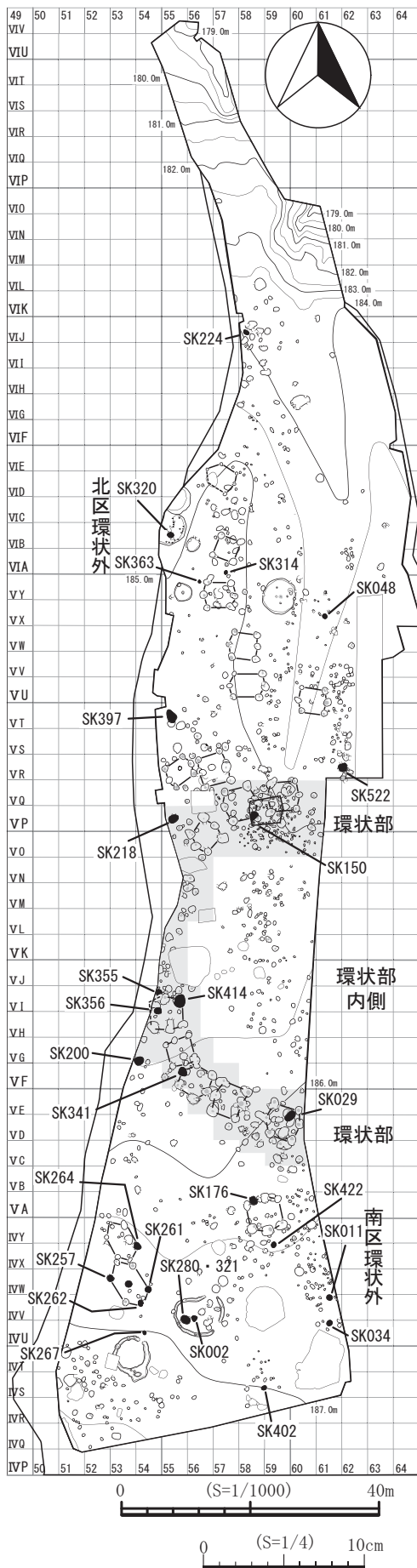


図130 第Ⅲ群3・4類出土遺構

これら、掘立柱建物跡の構築時期であるが、第1・2・16・18号掘立柱建物跡の柱穴から縄文時代後期前葉の土器と混在して後期後葉の土器が出土しており、これらについては後期後葉の遺構と考えられる。また、掘立柱建物跡は配置状況からある程度限定された期間に構築されたと推定できるため、出土土器の中で最も新しい段階である後期後葉までに構築されたと考えられる。

表1 掘立柱建物跡属性表

検出位置	検出遺構	柱穴掘方規模の平均値	出土土器	主軸	備考
環状部	SB12~20	90~100cm (SB12, 17) 136~160cm (SB13~16, SB18~20)	後期前葉主体 SB16・18から後期後葉	環状の円周に沿っている	SB12は規模、検出位置から環状外Bに関連する可能性有り
環状外A	SB01・02・04	95cm (SB01) 105cm (SB02) 52cm (SB04)	SB01・02から後期後葉	北西	SB01・04の床面中央から焼土跡検出
環状外B	SB05~11	102~111cm	後期前葉	ほぼ東西方向	
環状外C	SB03	160cm	後期前葉	真北	

遺構の詳細な検討については全ての調査が終わって刊行される報告書に譲るが、現段階では、後期後葉に、掘立柱建物跡を主体とする集落が形成され、掘立柱建物跡は、環状を形成している一群と、それ以外のものがある事を指摘できる。また、集落の構成要素には竪穴住居跡も含まれており、掘立柱建物跡群と竪穴住居跡との関連は今後の課題となる。

遺構外からは縄文時代前期から後期までの土器が出土した。主体を占めているのは後期初頭~前葉の土器である。集落の主体は後葉である可能性が考えられ、遺構外出土土器の主体を占めている時期とは差が認められる。しかし、後期前葉における遺構の所在や、後葉における遺物包含層の所在等はこれまでの所確認されていない。

出土した石器の点数は、表2・3のとおりである。共伴する土器群から、縄文時代後期の石器組成をよく表していると考えられる。剥片石器では石鏃の比率が比較的高い。石材に占める黒曜石の比率は低いが、近隣の深浦・出来島のほか北海道からの搬入品があることが産地推定により示された。出来島群と推定された中には円礫と角礫があり、後者の数が多い。出来島海岸で採取できる黒曜石は円礫のため、角礫の産出地は本遺跡の北約9kmに所在する中村川支流(齋藤ほか2010)の可能性もある。礫石器では石錘が多量に出土したことが注目される。97点のうち3点が切目石錘、94点は打欠石錘である。切目石錘の平均重量は34g、打欠石錘の平均重量は150gである。両者とも、紐掛けの袢りは短軸両端に施される。打欠石錘の袢りには剥離によるものと敲打によるものがあるが、使用に伴う稜の摩滅により、明確に区分できないものもある。

表2 剥片石器集計表

器種	石鏃	石槍	石鏃	石匙	石筥	スクレーパー(計188点)		異形	楔形	R.F.	U.F.	合計
						削器	搔器					
数量(点)	209	6	68	43	26	154	34	5	41	1373	295	2254
比率(%)	9.3	0.3	3.0	1.9	1.2	6.8	1.5	0.2	1.8	60.9	13.1	100

このほか、珪質頁岩石核I類が157点、II類が2点出土した。剥片石器重量は合計約33kg、石核重量は合計約16kgである。剥片は珪質頁岩が約147kg、その他石材(石英、黒曜石など)が約1kg出土した。

表3 礫石器集計表

器種	磨製石斧	敲磨器(計163点)			ハンマー(敲石II類)	石錘	石皿	台石	合計
		磨石	敲石I類	凹石					
数量(点)	10	18	64	81	13	97	18	16	317
比率(%)	3.2	5.7	20.2	25.6	4.1	30.6	5.7	5.0	100

参考文献

- 尾上町教育委員会 1980 『李平Ⅱ号遺跡発掘調査報告書』
- 秋田県教育委員会 1989 『八木遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第181集
- 新潟県朝日村教育委員会・新潟県 2002 『元屋敷遺跡Ⅱ（上段）』朝日村文化財報告書第22集
- 青森市教育委員会 2003 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』青森市埋蔵文化財調査報告書第70集
- 青森県教育委員会 1987 『大石平遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第103集
- 青森県教育委員会 2003 『上野尻遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第353集
- 青森県教育委員会 2005 『近野遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書第394集
- 青森県教育委員会 2006 『近野遺跡Ⅸ』青森県埋蔵文化財調査報告書第418集
- 青森県教育委員会 2006 『川原平（1）・（4）遺跡、大川添（2）遺跡、水上遺跡』
青森県埋蔵文化財調査報告書第409集
- 青森県教育委員会 2008 『水上遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第452集
- 青森県教育委員会 2009 『中平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第474集
- 青森県教育委員会 2009 『砂子瀬遺跡、水上（3）遺跡、水上（4）遺跡』
青森県埋蔵文化財調査報告書第466集
- 青森県教育委員会 2010 『砂子瀬遺跡Ⅱ、大川添（2）遺跡Ⅱ』
青森県埋蔵文化財調査報告書 第482集
- 海峡土器編年研究会 2007 『縄文時代後期末葉～晩期初頭土器群の諸問題－資料集－』
- 渡辺 誠 1973 『縄文時代の漁業』雄山閣
- 福田 友之 1984 「西目屋村砂子瀬村元出土の遺物」『青森県考古学1号』青森県考古学会
- 鈴木道之助 1991 『図録・石器入門事典〈縄文〉』柏書房
- 金子 昭彦 1999 「十腰内Ⅰ式後半期型式細分の展望－鈴木克彦氏の研究批判と細分の見通し」
『岩手考古学』第11号 岩手考古学会
- 鈴木 克彦 2001 『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣出版
- 鈴木 克彦 2002 「十腰内Ⅰ式土器の細別に係る型式学的研究－秋田県萱刈沢遺跡Ⅲ群土器の波状
文と十腰内Ⅰb式の類型－」『岩手考古学』第14号 岩手考古学会
- 石井 寛 2004 「後晩期環状配列掘立柱建物跡群をめぐって－東北地方北部を中心に－」
『縄文時代』第15号 縄文時代文化研究会
- 関根 達人 2005 「「十腰内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ群土器」に関する今日的理解」『北奥の考古学』
葛西勳先生還暦記念論文集刊行会
- 永嶋 豊 2007 「軒を連ねた縄文ムラ－青森平野東部の環状配列掘立柱建物群－」『考古学談叢』
六一書房
- 荒川 隆史 2009 「掘立柱建物と建材」『生活空間－集落と遺跡群－』縄文時代の考古学8
同成社
- 齋藤岳・島口天・長井雅史・金成太郎・杉原重夫 2010 「弘前市中村川支流の孫産童子沢に分布す
る黒曜石の全岩化学組成」『青森県立郷土館研究紀要』第34号 青森県立郷土館

土坑計測表

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※ () = 計測可能値			備考	掲載遺物	出土土器	出土土器重量(g)
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ				
15	SK001	IVX-57	SP039 とは不明	掘方(60)×73	掘方46×55	20				
15	SK002	IVU・V-56		掘方88×88	掘方48×50	43		図22-1・2	後期後葉 十腰内 I 不明	161.7
15	SK003	IVY-60	SP118,148 とは不明	掘方135×152	掘方80×85	40		図22-3~5	十腰内 I 後期初頭	1111.2
-	SK004	-	-	-	-	-	SP015 に変更	-	-	-
15	SK005	IVY・VA-59・60		掘方97×105	掘方52×55	55		図22-6	十腰内 I 後期初頭 不明	451.2
15	SK006	IVW・X-60	SP009 より新	掘方83×90	掘方75×80	13			後期前葉	43.1
15	SK007	VA-53		掘方60×120	掘方28×33	50				
15	SK008	VA-53		掘方56×58	掘方43×55	13			不明	6.9
15	SK009	IVV-56		掘方94×110	掘方65×85	30				
15	SK010	IVU-57		掘方80×86	掘方60×67	42			後期後葉	62.3
15	SK011	IVV-61		柱痕39×39 掘方85×93	掘方63×67	55		図22-7~12	後期後葉 十腰内 I	603.9
15	SK012	IVU・V-61		掘方73×(80)	掘方48×60	37			後期前葉	116.9
15	SK013	IVV-57		柱痕39×60 掘方65×105	掘方38×80	50				
16	SK014	VA・B-53・54		掘方78×130	掘方45×105	25				
16	SK015	VC-57・58		掘方75×90	掘方50×70	25				
26	SK016	VC・D-58		掘方80×113	掘方45×55	50			後期前葉	125.7
26	SK017	VC-58		掘方85×105	掘方40×50	80			不明	46.6
26	SK018	VC-59		掘方110×150	掘方65×80	62		図39-1	十腰内 I	88.5
26	SK019	VC・D-59・60	SK103,SP243 とは不明	柱痕45×45 掘方130×160	掘方100×115	65	SB20 柱 2		後期前葉 不明	708.2
26	SK020	VD-58		掘方95×125	掘方70×100	80		図39-2	十腰内 I	312.5
-	SK021	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
26	SK022	VE-59		掘方55×80	掘方50×66	12				
16	SK023	VE-55		掘方60×80	掘方37×55	23				
26	SK024	VD-59		柱痕60×60 掘方148×150	掘方115×130 ピット45×50	70	SB20 柱 3	図39-4~6	後期前半 十腰内 I	439.3
26	SK025	VD-58		柱痕65×75 掘方105×115	掘方45×50 ピット 下端45×50	掘方45 ピット 30			不明	88.5
16	SK026	VC・D-55		掘方100×110	掘方48×65	35			不明	7.0
26	SK027	VE-60		柱痕59×59 掘方105×135	掘方70×85	85	SB20 柱 1	図39-3	十腰内 I	423.5
26	SK028	VD-59・60	SK029,113 とは不明	掘方(100)	掘方(85)	80			後期前葉	250.3
26	SK029	VD・E-59・60	SK028,112 とは不明	掘方(185)	掘方(160)	75		図39-7・8	後期後葉 前葉 不明	94.8
27	SK030	VC-60	SP244 とは不明	柱痕45×45 掘方105×115	掘方70×80	55		図39-9・10	十腰内 I	327.1
-	SK031	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
27	SK032	VE・F-59		掘方70×125	掘方55×110 ピット 上端25×30 下端15×20	掘方30 ピット 12		図39-11	後期前葉	87.7
27	SK033	VE-59	SK172,SP249 とは不明	柱痕65×70 掘方120×190	掘方85×125	90	SB20 柱 4	図39-12・13	十腰内 I	647.1
16	SK034	IVU-61		掘方80×95	掘方55×60	65		図23-1	後期後葉 後期前葉	359.5
-	SK035	-	-	-	-	-	シミ	-	-	-
16	SK036	VC-53・54		掘方75×100	掘方35×45	55		図23-2	後期前葉 後葉	34.7
27	SK037	VE・F-56	SK168 とは不明	柱痕75×90 掘方(120)	掘方70×76	45	SB18 柱 6	図39-14・15	十腰内 I	755.8
27	SK038	VE・F-55	SP408 とは不明	柱痕45×60 掘方115×150	掘方70×110	95	SB18 柱 1		不明	113.8

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※ () = 計測可能値			備考	掲載遺物	出土土器	出土土器重量(g)
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ				
16	SK039	IVT-57		掘方58×60	掘方35×35	20				
27	SK040	VD-58	SP112 とは不明	掘方75×95	掘方45×50	50			後期前葉	37.3
45	SK041	VT・U-61		柱痕70×90 掘方112×131	掘方85×95	63	SB09 柱 5	図58-1・2	十腰内 I	81.2
45	SK042	VU-61		柱痕38×45 掘方94×111	掘方50×60	38	SB09 柱 1	図58-3	十腰内 I	127.2
45	SK043	VU-61		掘方47×56	掘方23×29	55				
45	SK044	VV-61		掘方50×56	掘方40×48	18				
45	SK045	VY-57		掘方64×94	掘方34×57	10				1.7
45	SK046	VA-56・57		掘方84×95	掘方70×87	47	SB05 柱 3	図58-4・5	十腰内 I 後期後葉 (小破片, 確認面)	1246.6
45	SK047	VX-57	SP077 より古	掘方(70×83)	掘方37×58	28		図58-6~8	十腰内 I	473.2
45	SK048	VX-61		掘方70×82	掘方44×72	23		図58-9~11	十腰内 I 後期後葉 不明	1080.3
45	SK049	VV-57		柱痕68×68 掘方93×126	掘方56×70	77	SB07 柱 3	図58-12	十腰内 I 不明	83.7
33	SK050	VQ-57		掘方109×128	掘方63×100	53			不明	1.4
33	SK051	VQ-58		柱痕(52) 掘方127×156	掘方63×82	54	SB14 柱 1		後期前葉 不明	97.8
33	SK052	VP・Q-57		柱痕(52×58) 掘方111×132	掘方88×108	68	SB14 柱 6		後期前葉	21.7
33	SK053	VQ-57		柱痕(60×74) 掘方106×126	掘方67×95	78	SB14 柱 4	図41-1	十腰内 I 不明	86.9
34	SK054	VN・O-56		柱痕60×65 掘方90×114	掘方68×68	57			不明	23.1
34	SK055	VP-57	SK070 より新 SP658 より古	柱痕30×40 掘方80×82	掘方42×65	76		図41-2~4	後期前半 不明	642.3
45	SK056	VU-56		柱痕40×46 掘方82×95	掘方42×42	58				
45	SK057	VT-56		掘方60×71	掘方40×40	45			不明	11.7
46	SK058	VU-57		掘方70×88	掘方40×50	16	SB08 柱 6		後期前葉	19.5
34	SK059	VP-58		柱痕45×54 掘方57×75	掘方32×38	56	SB12 柱 3 柱痕で C14 (年代は後期中葉)	図41-5	十腰内 I 不明	36.1
34	SK060	VQ-58	SK394,SP757 より新	柱痕30×41 掘方75×92	掘方29×35	70	SB12 柱 4 黒曜石分析No.56	図41-6	後期前葉 不明	114.0
46	SK061	VR-56	SK465 より新	掘方(98×112)	掘方(73×81)	50			後期前葉	6.8
34	SK062	VP-57	SK477 より新	柱痕35×38 掘方83×95	掘方51×54	70	柱痕で C14 (年代は後期中葉)	図41-7	十腰内 I 不明	210.0
46	SK063	VQ-56	攪乱により破壊	柱痕(112) 掘方(35)	掘方(45)	35				
46	SK064	VT-58		掘方50×70	掘方35×40	33			後期前葉	7.3
46	SK065	VT-59		掘方45×70	掘方27×57	22		図58-13・14	十腰内 I	73.7
46	SK066	VT・U-59		掘方55×63	掘方30×35	25			不明	27.0
46	SK067	VU-60		掘方82×116	掘方55×82	24	SB09 柱 6	図58-15・16	十腰内 I 前期	116.6
34	SK068	VO-59	SP677 とは不明	掘方75×81	掘方58×61	25	現地で切り合いの判断をしていない		後期前葉 不明	17.4
34	SK069	VO-59	SP368 より古	掘方45×45	掘方18×25	24			不明	15.8
34	SK070	VP-57	SK055,SP657 より古 SK477 より新	柱痕47×56 掘方131×147	掘方95×121	58	SB14 柱 3		後期前葉	914.9
46	SK071	VV-58・59		柱痕38×43 掘方108×116	掘方83×83	45	SB08 柱 1		後期前葉 不明	218.7
46	SK072	VS-56		柱痕23×38 掘方52×55	掘方27×32	60	柱穴		不明	5.0
46	SK073	VR・S-55		柱痕45×62 掘方75×90	掘方52×58	54	SB10 柱 1	図58-17	十腰内 I 不明	60.8
-	SK074	-	-	-	-	-	攪乱	-	-	-
-	SK075	-	-	-	-	-	攪乱	-	-	-
46	SK076	VV-57		掘方63×73	掘方48×63	20	SB08 柱 4		後期前葉	13.4

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※ () = 計測可能値			備考	掲載遺物	出土土器	出土土器重量(g)
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ				
46	SK077	VQ-55-56		柱痕55×64 掘方72×92	掘方45×53	63	柱穴			
34	SK078	VP-59	SP371 より古	柱痕44×55 掘方120×160	掘方53×69	92	SB13 柱 3	図41-8-9	後期初頭 十腰内 I 不明	328.1
47	SK079	VU-58-59		柱痕42×42 掘方115×131	掘方71×77	53	SB08 柱 5	図58-18	十腰内 I	57.6
47	SK080	VQ-55-56		柱痕40×44 掘方65×65	掘方35×50	54			後期前葉 不明	29.2
16	SK081	IVV-56		柱痕45×45 掘方80×120	掘方63×95	35		図23-3~5	十腰内 I	1760.5
16	SK082	IVW-X-60	SP218 とは不明	掘方140×145	掘方30×30	30		図23-7~10	十腰内 I	1452.8
-	SK083	-	-	-	-	-	SP124 の掘りすぎ	-	-	-
27	SK084	VE-F-58		掘方77×115	掘方58×70	35				
-	SK085	-	-	-	-	-	SK099,106 の一部	-	遺物は SK099 へ	-
28	SK086	VD-E-57-58	SK100 より新	掘方(125)	掘方75×90	92	SB19 柱 4	図39- 16~18	十腰内 I	533.6
28	SK087	VE-F-58	SK101 より古	掘方(110)	掘方(85)	110	SB19 柱 3	図39-19-20	十腰内 I 不明	484.2
28	SK088	VD-59	SK169 より新 SP243 とは不明	掘方145×180	掘方135×160	70	黒曜石分析№ 26	図39- 21~23	後期前葉 不明	873.6
-	SK089	-	-	-	-	-	SK181 の一部	-	遺物は SK181 へ	-
28	SK090	VD-58		掘方80×95	掘方50×65	45			後期前葉 不明	94.6
28	SK091	VD-60		柱痕(60×70) 掘方110×150	掘方90×110	72	SB20 柱 5	図39-24-25	後期前葉 不明	88.9
16	SK092	IVS-53		掘方55×70	掘方33×40	45		図23-6	不明	28.0
28	SK093	VE-57-58	SK188 より新	柱痕85×90 掘方145×235	掘方105×170	100	SB19 柱 6 黒曜石分析№ 43		後期前葉	217.1
16	SK094	IVR-54-55		掘方85×90	掘方30×40	45		図23-13	後期前葉 不明	174.3
16	SK095	IVS-52	SP638 より新	掘方70×75	掘方28×35	55	覆土で C14 (年代は後期中葉)	図23-11-12	十腰内 I 後期初頭 不明	37.6
16	SK096	IVT-52		柱痕45×50 掘方75×85	掘方50×60	60				
17	SK097	IVT-51		掘方47×50	掘方35×40	45				
27	SK098	VD-58		掘方52×65	掘方30×35	30				
29	SK099	VD-E-58	SK106 とは不明	掘方(110)	掘方80×80	90			後期前葉	477.4
28	SK100	VD-E-57	SK086 より古	掘方(115)	掘方(100)	70			後期	35.9
28	SK101	VE-F-58	SK087 より新	柱痕84×84 掘方(145)	掘方(95)	110			後期前葉	72.0
17	SK102	IVT-U-51-52		掘方90×110	掘方55×80	40			後期前葉	102.1
29	SK103	VC-59-60 VD-59	SK019,248 とは 不明	掘方(175)	掘方(160)	35			後期前葉	62.4
29	SK104	VD-59	SP130 とは不明	掘方(80)	掘方(70)	75		図39-26-27	後期前葉	182.8
29	SK105	VC-59		柱痕50×50 掘方75×110	掘方50×60	75			後期前葉	154.1
29	SK106	VD-E-58-59	SK099,272 とは 不明	柱痕55×55 掘方(140)	掘方75×110	55	SB20 柱 6	図39-28	十腰内 I	296.6
-	SK107	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
-	SK108	-	-	-	-	-	SK019 の掘方	-	遺物は SK019 へ	-
29	SK109	VC-D-59		柱痕40×55 掘方100×120	掘方45×55	55		図39- 29-30	十腰内 I	363.6
29	SK110	VB-59		柱痕47×47 掘方75×90	掘方50×50	65			後期前葉	54.8
29	SK111	VD-57		柱痕45×45 掘方110×110	掘方60×75	45				
26	SK112	VD-59 VE-59-60	SK029 とは不明	柱痕80×80 掘方(150)	掘方(120)	80			後期前葉	19.6
26	SK113	VD-59-60	SK028 とは不明	掘方(58)×90	掘方(40)×70	35				

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※ () = 計測可能値			備考	掲載遺物	出土土器	出土土器重量(g)
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ				
17	SK114	IVX-59		掘方45×55	掘方35×35	20		図23-14・15	十腰内 I	257.5
17	SK115	IVX-58		柱痕30×45 掘方50×55	掘方40×45	35		図23-16	十腰内 I 不明	134.8
17	SK116	IVX-60		掘方45×65	掘方35×45	20			不明	6.0
17	SK117	IVY-60		柱痕45×45 掘方65×75	掘方55×55	45			後期前葉	40.3
17	SK118	IVY-59		掘方60×65	掘方20×30	35			後期前葉	44.3
30	SK119	VF-57	SK120 より新	掘方(100)	掘方(65)	30				
30	SK120	VF-57	SK119 より古 SK276 より新	柱痕55×55 掘方(135)	掘方(80)	掘方 55 ピット 20	SB19 柱 2	図39-31	後期前葉 不明	38.3
47	SK121	VU-58		柱痕35×40 掘方105×120	掘方61×80	46	SB08 柱 2		後期前葉	16.2
47	SK122	VIA-57		掘方108×110	掘方90×93	45	SB05 柱 2	図58- 20~22	十腰内 I 後葉? (無文, 表面黒光)	666.5
47	SK123	VIA-58		掘方60×62	掘方30×45	43			後期前葉	7.8
34	SK124	VQ-59		掘方42×52	掘方24×40	10				
35	SK125	VQ-58	SK451 より新	柱痕41×45 掘方67×75	掘方25×40	41			不明	8.2
47	SK126	VS-56	SP659 より古	柱痕35×38 掘方115×115	掘方45×54	34				
47	SK127	VIB-57・58		掘方95×125	掘方70×98	38	SB05 柱 1	図58-19	後期後葉 不明	75.3
47	SK128	VIB-59		掘方34×44	掘方26×32	42			後期前葉	66.9
47	SK129	VIB-59		掘方60×65	掘方33×37	36		図58- 23-24	十腰内 I 不明	153.8
47	SK130	VIB-59		掘方43×60	掘方29×36	51			後期前葉	112.6
48	SK131	VS-56		柱痕40×47 掘方103×112	掘方35×52	55			不明, 後葉? (無文, 黒光)	11.5
34	SK132	VP-55	SP752 より新	柱痕47×69 掘方(76×95)	掘方55×72	57		図41-10	十腰内 I 不明	114.6
35	SK133	VO・P-56		掘方58×68	掘方20×25	14				
35	SK134	VP-55・56		柱痕45×51 掘方90×96	掘方52×58	76				
-	SK135	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
35	SK136	VO-55・56		柱痕61×68 掘方75×75	掘方59×64	46			後期前葉	137.6
35	SK137	VP-59	SK393 より新	掘方37×47	掘方16×25	20			後期初頭 不明	16.8
35	SK138	VQ-59	SK378 より古 SK450 より新 SK461 とは不明	柱痕35×35 掘方95×100	掘方40×70	62	SB12 柱 1		後期前葉, 後 葉? (無文, 黒っぽい)	123.7
-	SK139	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
35	SK140	VP-59	SP759 より古	柱痕45×48 掘方56×67	掘方23×35	32		図41-11	十腰内 I 不明	60.0
48	SK141	VY-58		柱痕43×53 掘方73×83	掘方50×60	37			後期前葉 不明	36.8
48	SK142	VX-58		掘方90×95	掘方46×56	22				
48	SK143	VIA-57		掘方75×126	掘方64×105	30			後期前葉 不明	55.0
48	SK144	VV-58		柱痕32×32 掘方110×128	掘方53×83	48	SB07 柱 2			
48	SK145	VIB-59		掘方45×58	掘方21×37	32		図58-25	十腰内 I 不明	204.8
48	SK146	VS-57		柱痕37×42 掘方73×73	掘方50×54	69		図58-26	不明	28.0
36	SK147	VP-60		掘方55×55	掘方26×31	20			後期前葉	21.3
48	SK148	VT-56・57		掘方72×88	掘方30×52	46				
-	SK149	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
36	SK150	VP-58	SK380 より新	柱痕58×65 掘方(100×145)	掘方25×25	92	SB14 柱 2 覆土で C14 (年代は後期中葉)	図41- 12~17	後期後葉 十腰内 I 不明	437.5

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※() = 計測可能値			備考	掲載遺物	出土土器	出土土器重量(g)
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ				
48	SK151	VY-57		掘方130×175	掘方90×102	73	SB06 付属施設 (中央土坑)	図59-1~9	十腰内 I 後期初頭 後葉? (表面 剥落するが内 面ミガキ顕著, 胎土) .不明	1502.2
48	SK152	VX-57		掘方87×127	掘方57×93	14				
36	SK153	VP-60	SP653 とは不明	掘方33×37	掘方22×30	12	現地で切り合いの判 断をしていない			
-	SK154	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
48	SK155	VS-57		柱痕40×40 掘方97×130	掘方36×72	53				
49	SK156	VR-56		柱痕48×56 掘方87×114	掘方62×79	47	SB10 柱 5		不明	4.8
36	SK157	VO-56		柱痕30×33 掘方110×118	掘方50×65	64	SB15 柱 3	図41-18-19	十腰内 I	51.2
36	SK158	VP-59	SP294,295,366 より古	柱痕36×40 掘方80×92	掘方57×72	52			後期前葉 不明	102.4
36	SK159	VQ-58-59	SP091 より古	柱痕22×25 掘方98×108	掘方65×97	75		図41-20	十腰内 I 不明	174.0
36	SK160	VQ-R-59		柱痕35×35 掘方117×204	掘方102×177	85	SB13 柱 4	図41- 21~24	十腰内 I 後葉? (胎土, 小破片) 不明	999.5
-	SK161	-	-	-	-	-	SK180 に統合	-	-	-
17	SK162	IVX-58		掘方45×50	掘方20×20	40		図23-17	十腰内 I 不明	531.3
17	SK163	VA-59-60		掘方40×42	掘方20×25	25			後期前葉	101.3
18	SK164	VA-59	SK173 とは不明	掘方100×115	掘方83×100 ピット30×30	掘方 65 ピット 20	SB03 柱 2	図23-18	後期前葉 不明	784.0
17	SK165	IVX-58	SP443 とは不明	掘方65×75	掘方58×70	20			後期前葉 不明	486.4
-	SK166	-	-	-	-	-	シミ	-	-	-
-	SK167	-	-	-	-	-	シミ	-	-	-
27	SK168	VE-F-56-57	SK037 とは不明	柱痕40×40 掘方(195)	掘方(145) ピット58×68	掘方110 ピット16	SB19 柱 5	図40-1-2	十腰内 I	121.8
28	SK169	VD-59	SK088 より古	掘方(55)×115	掘方(45)×70	55				
-	SK170	-	-	-	-	-	シミ	-	-	-
17	SK171	IVX-58		掘方60×65	掘方45×45	50				
27	SK172	VE-59	SK033 とは不明	掘方(95)	掘方(55)	45				
18	SK173	VA-59	SK164,174 とは 不明	掘方(115)	掘方(95)	30		図23-19	十腰内 I 不明	672.1
18	SK174	VA-58-59	SK173,175 とは 不明	掘方130×160	掘方85×105	65	SB03 柱 5 柱痕の 残りが最も良く, SK173,175 の中で一 番新しい可能性有		後期前葉 不明	185.1
18	SK175	VA-58	SK174 とは不明	掘方(105)	掘方(75)	23		図23-20	十腰内 I	611.5
18	SK176	VA-58		掘方105×135	掘方60×65	40		図23-21-22	後期後葉 十腰内 I	765.0
18	SK177	VA-58		掘方105×160	掘方55×95	40	SB03 柱 1	図23- 23~26	十腰内 I	628.7
17	SK178	IVY-58		掘方45×63	掘方35×46	15		図23-27	十腰内 I	31.8
29	SK179	VF-56		掘方65×82	掘方43×50	20			後期前葉	266.8
17	SK180	IVX-Y-58-59		掘方80×105	掘方50×70	55		図23-28	十腰内 I	177.0
30	SK181	VD-E-56-57	SK329 とは不明	柱痕40×60 掘方(175)	掘方40×70	105	SB19 柱 1 SK329 は本遺構の掘 方である可能性有			102.9
17	SK182	VA-59		掘方55×65	掘方30×40	25			不明	5.9
-	SK183	-	-	-	-	-	SK184 に統合	-	-	-
17	SK184	IVY-58-59	SP608 とは不明	柱痕60×75 掘方155×190	掘方73×95	65	SB03 柱 6	図23- 29~31	十腰内 I 後期	1532.3
17	SK185	IVX-57		掘方50×55	掘方30×30	20			不明	34.6

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※()=計測可能値			備考	掲載遺物	出土土器	出土土器重量(g)
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ				
30	SK186	VF-56・57		柱痕50×55 掘方130×160	掘方89×120	50	SB18 柱 3		後期前葉	126.2
-	SK187	-	-	-	-	-	SK093 の掘方	-	-	-
28	SK188	VE-58	SK093 より古	掘方(80)	掘方(40)	50			後期前葉	19.7
-	SK189	-	-	-	-	-	SK190 に統合	-	-	-
19	SK190	IVY-59	SP014 とは不明	柱痕40×50 掘方140×190	掘方80×95	55	SB03 柱 3	図24-1~3	十腰内 I	1534.5
19	SK191	IVY-56		掘方30×35	掘方20×25	15		図24-4	後期初頭~前葉 不明	55.2
19	SK192	VA-56		掘方30×30	掘方22×22	5				
30	SK193	VE-56	SP415 より新	柱痕40×40 掘方(150)×190	掘方65×93	55	SB18 柱 4 黒曜石分析No.54		後期前葉 不明	126.1
-	SK194	-	-	-	-	-	シミ	-	-	-
19	SK195	IVY-58		掘方75×90	掘方30×40	55			後期前葉	8.7
-	SK196	-	-	-	-	-	シミ	-	-	-
19	SK197	IVY-55・56		掘方45×45	掘方30×35	25		図24-5・6	後期前葉	32.7
19	SK198	IVY-56・57		掘方85×125	掘方42×45	35		図24-7	十腰内 I	164.8
19	SK199	IVX-58・59		掘方70×80	掘方40×50	40		図24-8	十腰内 I	286.8
30	SK200	VG-53・54 VF-54		掘方120×145	掘方45×90	35		図40-3~5	後期後葉 前期前葉 不明	181.0
36	SK201	VP-60	SP754 より新	柱痕32×32 掘方93×133	掘方56×77	66		図41-25	十腰内 I	236.4
36	SK202	VQ・R-60	SK454 より新	柱痕40×55 掘方81×88	掘方37×50	51	SB13 柱 1 「SK202 東」 から振替		後期前葉	52.7
49	SK203	VS-58		掘方71×89	掘方38×45	21		図58-27	後期前葉	58.1
49	SK204	VS-58		掘方47×50	掘方16×20	17			後期前葉	
36	SK205	VQ-60		柱痕30×37 掘方84×119	掘方37×72	49	SB13 柱 5		後期前葉 不明	279.8
49	SK206	VS-57		掘方42×45	掘方22×22	25				
49	SK207	VIK-57		掘方(120)	掘方(87)	59			不明	12.1
49	SK208	VI0-57		掘方(63×75)	掘方(40×53)	30				
-	SK209	-	-	-	-	-	現地で落ち込みと判断	-	-	-
37	SK210	VO-57		柱痕32×41 掘方145×167	掘方38×90	80	SB15 柱 2	図41-26	後期前葉 不明	92.5
49	SK211	VQ-56	攪乱により破壊	柱痕41×45 掘方(103×138)	掘方(53×71)	57	SB11 柱 3		後期前葉 不明	29.4
37	SK212	VO-56		柱痕46×46 掘方122×158	掘方90×122	68	SB15 柱 6		後期前葉 不明	46.1
49	SK213	VR-56		柱痕60×70 掘方94×108	掘方58×68	47	SB10 柱 2 黒曜石分析No.39	図59-10	後期前葉 不明	288.2
37	SK214	VP-56	攪乱により破壊	柱痕35×38 掘方(150×178)	掘方33×39	62	SB15 柱 1		不明 後期前葉, 後葉? (無文, 器面黒)	159.3
49	SK215	VQ-55		柱痕50×62 掘方81×114	掘方60×97	50	SB10 柱 3			
49	SK216	VS・T-56		掘方63×75	掘方37×53	30				
37	SK217	VO・P-55・56		柱痕 (東)40×40 (西)35×43 掘方120×156	掘方55×114	柱痕 東 53 西 53	SB15 柱 4 柱痕が東西 2 箇所: 西が東より新しい		後期前葉 不明	113.7
37	SK218	VP-55		柱痕45×45 掘方111×162	掘方82×117	78		図41-27・28	後期後葉 前葉	91.4
49	SK219	VR-56・57		掘方86×107	掘方70×87	31	SB11 付属施設 (中央土坑)	図59-11	後期前葉, 後葉 (瘤付き, 器面剥落)	110.9
50	SK220	VX-60		掘方40×50	掘方25×35	20			不明	6.7
50	SK221	VIG-57・58	SP178 より古	掘方74×100	掘方57×72	20			不明	3.1
50	SK222	VIH-58		掘方75×108	掘方58×83	43				
37	SK223	VQ-56	攪乱により破壊	掘方(43×53)	掘方(26×35)	18			不明	19.8

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※ () = 計測可能値			備考	掲載遺物	出土土器	出土土器重量(g)
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ				
50	SK224	VIJ-58		掘方63×100	掘方46×75	17		図59-12~14	後期後葉 十腰内 I 後期前葉, 後葉	53.9
50	SK225	VII·J-58		掘方74×117	掘方56×80	28			前葉, 後葉? (器面黒) 不明	14.0
50	SK226	VIJ-58		掘方120×150	掘方80×113	30				7.8
50	SK227	VIJ-58		掘方74×105	掘方58×76	21				
50	SK228	VIJ-58		掘方112×123	掘方67×83	18			不明	8.4
50	SK229	VIJ-59		掘方90×107	掘方67×73	36				
50	SK230	VII-58·59		掘方75×140	掘方46×100	25			不明	7.2
50	SK231	VII-58·59		掘方92×123	掘方70×98	21	被熱した石皿が出土したが, 破損著しく実測不可			
50	SK232	VIH-58·59		掘方75×160	掘方52×123	46			後期前葉, 後葉 (小破片)	141.8
50	SK233	VI G-59		柱痕20×25 掘方54×90	掘方31×94	32				
51	SK234	VI E-57		掘方68×113	掘方45×85	12			後期前葉	2.8
51	SK235	VI E-57		柱痕15×28 掘方45×50	掘方25×25	32	SB04 柱 4		不明	7.2
51	SK236	VI E-58		柱痕25×25 掘方34×34	掘方20×20	32				
51	SK237	VIH-58		掘方(104)	掘方(97)	31				
51	SK238	VI D-57		掘方47×67	掘方18×28	33	SB04 柱 2		後期前葉 不明	60.3
51	SK239	VI D-57		掘方82×116	掘方70×96	33		図59-18	後期前葉	136.7
51	SK240	VI D-57		掘方38×45	掘方20×32	37	SB04 柱 1		後期前葉 不明	7.5
19	SK241	IV Y-58	SP350 とは不明	柱痕50×50 掘方155×160	掘方120×140 ピット 上端75×75 下端55×55	掘方 35 ピット 30	SB03 柱 4	図24-9~16	後期初頭 十腰内 I	1907.9
19	SK242	IV Y-58		柱痕40×45 掘方55×85	掘方35×40	45				0.7
-	SK243	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
-	SK244	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
-	SK245	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
19	SK246	V C-53		掘方60×82	掘方38×40	40				
-	SK247	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
29	SK248	V C-59	SK103 とは不明	柱痕60×60 掘方(165)	掘方(150)	45			後期前葉	183.0
19	SK249	IV V-57	SP345 とは不明	掘方80×80	掘方50×55	40		図24-17	十腰内 I	93.8
19	SK250	IV W-55		掘方60×60	掘方40×45	10				
19	SK251	IV V-53		柱痕(55×60) 掘方100×115	掘方65×65	60	SB01 柱 4		後期前葉 不明	47.4
-	SK252	-	-	-	-	-	シミ	-	-	-
-	SK253	-	-	-	-	-	シミ	-	-	-
30	SK254	V D-59		掘方48×70	掘方36×55	20			不明	1.4
20	SK255	IV Y-53		掘方130×140	掘方110×115	30			不明	48.1
-	SK256	-	-	-	-	-	シミ	-	-	-
20	SK257	IV W-52·53		掘方105×110	掘方40×48	30	SB01 柱 1	図24-18	後期後葉 後期前葉 不明	25.3
-	SK258	-	-	-	-	-	SP333 に変更	-	-	-
-	SK259	-	-	-	-	-	SP334 に変更	-	-	-
20	SK260	IV W-56		掘方73×90	掘方50×50	35			不明	63.6
20	SK261	IV W-54		柱痕50×55 掘方90×100	掘方72×75	50	SB01 柱 3	図24-19·20	後期後葉 後期 不明	80.5

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※ () = 計測可能値			備考	掲載遺物	出土土器	出土土器重量(g)
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ				
20	SK262	IVV-54		柱痕40×40 掘方80×100	掘方55×75	30	SB01 柱 6	図24-21~23	後期中葉 後葉? (胎土) 十腰内 I 不明	76.5
-	SK263	-	-	-	-	-	SK177 に統合	-	-	-
20	SK264	IVX・Y-53・54		掘方105×135	掘方85×110 ピット 上端45×55 下端35×45	掘方 25 ピット 10	SB02 柱 3	図24-24~27	後期後葉 前葉	185.1
20	SK265	IVX-53		柱痕50×65 掘方100×110	掘方60×70	48	SB01 柱 2		後期後葉 後期前葉 不明	82.4
20	SK266	IVY-52		掘方65×73	掘方35×47	25	SB02 柱 1			
20	SK267	IVU-54		柱痕40×40 掘方55×60	掘方30×35	25		図24-28-29	後期後葉 不明	40.3
20	SK268	IVS・T-51		掘方45×55	掘方22×30	35			不明	35.2
20	SK269	IVX・Y-58	SP443 とは不明	掘方100×125	掘方60×65	63		図24-30	十腰内 I 不明	808.5
-	SK270	VF-55	-	-	-	-	SK038 の掘方	-	遺物は SK038 へ	-
30	SK271	VF-55		柱痕50×65 掘方100×115	掘方40×40	50			後期前葉	34.5
29	SK272	VD-59	SK106 とは不明	掘方90×103	掘方55×55	40			後期前葉 不明	192.1
20	SK273	IVS-51		掘方165×180	掘方100×100	70		図24-31	不明	22.4
21	SK274	IVX・Y-52	攪乱により破壊	掘方(75)	掘方(50)	50	覆土で C14 (ただし値は現代)		後期前葉	13.0
21	SK275	IVX-53		掘方75×82	掘方55×65	30	SB02 柱 4		不明	3.8
30	SK276	VF-57	SK120 より古	掘方(140)	掘方(90)	55				
21	SK277	IVS-50・51		掘方(155)	掘方(120)	50	調査区外へ延びてい る		不明	8.4
21	SK278	IVT-51		掘方140×170	掘方105×120 ピット 上端50×65 下端40×45	掘方 60 ピット 10				
30	SK279	VE-57		掘方50×80	掘方30×40	55		図40-6	十腰内 I	20.8
21	SK280	IVU・V-55・56	SK321 とは不明	掘方(105)	掘方70×85	30		図24-32-33	後期後葉	
51	SK281	VS-55		掘方128×167	掘方91×103	42	後期初頭一括資料 覆土で C14 を 2 点 (年代は後期前半)	図60-1~11	後期初頭 (完形) 十腰内 I	4854.5
51	SK282	VIA-57		柱痕26×33 掘方50×55	掘方28×36	26				
-	SK283	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
51	SK284	VIA-57		掘方80×118	掘方54×83	23				
51	SK285	VY-55		掘方35×47	掘方27×31	30		図59-15-16	後期後葉	15.2
-	SK286	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
-	SK287	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
51	SK288	VIB-57		掘方100×120	掘方62×81	30			後期前葉	24.1
-	SK289	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
-	SK290	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
51	SK291	VIA-58		掘方55×65	掘方18×53	28			後期前葉	8.2
52	SK292	VI-58		掘方(90)	掘方(55)	62				
52	SK293	VID-57		柱痕28×28 掘方50×53	掘方27×30	42	SB04 柱 5			
52	SK294	VIE-58		柱痕26×35 掘方40×42	掘方18×22	32			不明	6.0
52	SK295	VI-58-59		掘方170×177	掘方130×134	18				
52	SK296	VIG-60		掘方172×300	掘方118×243	48			不明	11.9
52	SK297	VID-59		掘方56×64	掘方40×45	20		図59-17	後期前葉 不明	131.3
52	SK298	VR-57	SK478 より新	柱痕27×27 掘方(143×166)	掘方60×73	58			後期前葉 不明	27.5

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※ () = 計測可能値			備考	掲載遺物	出土土器	出土土器重量(g)
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ				
52	SK299	VS-56		掘方44×52	掘方20×39	25				
52	SK300	VS-57		掘方56×67	掘方(40×67)	15				
52	SK301	VIF-60		掘方57×80	掘方44×64	26			後期前葉 不明	104.7
52	SK302	VID-58		掘方48×68	掘方37×46	26			後期前葉 不明	10.2
53	SK303	VE-59		掘方50×65	掘方32×40	22			不明	7.2
53	SK304	VIC-57	SP264 より新	掘方83×109	掘方70×85	38			後期前葉 不明	66.7
53	SK305	VY-57		掘方105×112	掘方55×63	81	SB06 柱 1			
53	SK306	VY-56	SK307 より新	柱痕46×52 掘方90×120	掘方66×90	73	SB06 柱 4	図61-1・2	後期初頭～十 腰内 I 不明	274.9
53	SK307	VY-56	SK306 より古	掘方(85×85)	掘方(53×65)	40				
53	SK308	VY-55	SI2 より古	掘方55×65	掘方35×43	50				
53	SK309	VIB-57		柱痕32×42 掘方97×107	掘方59×76	40	SB05 柱 4		不明	3.4
53	SK310	VX-58		柱痕25×34 掘方55×55	掘方20×34	40			後期前葉	11.6
53	SK311	VY-57	SP053 より古	柱痕50×50 掘方(85)	掘方55×62	48	SB06 柱 5			
53	SK312	VX-58		柱痕30×30 掘方47×47	掘方27×37	26				
53	SK313	VIB-57		掘方57×113	掘方42×50	25			後期前葉 不明	62.2
53	SK314	VIA-57		掘方50×55	掘方33×36	30		図61-3	後期後葉	48.2
53	SK315	VR-56		柱痕50×56 掘方80×97	掘方42×51	69	柱穴		不明	1.5
37	SK316	VP-56・57		柱痕35×40 掘方109×131	掘方70×106	67	SB15 柱 5		後期前葉 不明	84.3
54	SK317	VID-61		掘方130×133	掘方86×95	20			後期前葉 不明	132.4
54	SK318	VIC-57		掘方78×101	掘方50×78	23			後期前葉 不明	60.3
54	SK319	VIC-57		掘方88×131	掘方10×33 (ピット状)	30		図61-4～6	十腰内 I 後期後葉 不明	82.0
54	SK320	VIB-55	SI5 より古	掘方(85×95)	掘方53×75	45		図61-7	後期後葉 前葉	112.7
21	SK321	IVU・V-55・56	SK280 とは不明	掘方(110)	掘方45×70	50			後期後葉 不明	167.6
21	SK322	IVU・V-56	SP022 とは不明	掘方85×150	掘方50×85	50			後期前葉 不明	33.1
-	SK323	-	-	-	-	-	シミ	-	-	-
21	SK324	IVR-51		掘方75×95	掘方50×65	20			前期, 不明	61.9
21	SK325	IVS-52		掘方50×53	掘方35×35	30				
21	SK326	IVR-52		柱痕40×40 掘方82×100	掘方60×80	35			後期前葉	3.4
-	SK327	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
-	SK328	-	-	-	-	-	シミ	-	-	-
30	SK329	VE-56・57	SK181 とは不明	掘方(95)	掘方(60)	80				
21	SK330	IVQ-53		掘方95×135	掘方55×85	40				
31	SK331	VF-55	SK338 とは不明	掘方95×110	掘方60×75	40	SB17 柱 4		後期前葉 後葉? (小破 片, 胎土)	32.5
21	SK332	IVX-53		柱痕30×35 掘方80×100	掘方50×75	20	SB01 柱 5		後期前葉	22.2
21	SK333	IVS-51・52		掘方70×80	掘方40×55	20				
-	SK334	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
-	SK335	-	-	-	-	-	SP446,447 に変更	-	遺物は SP446 へ	-

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※ () = 計測可能値			備考	掲載遺物	出土土器	出土土器重量(g)
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ				
31	SK336	VG-54		掘方(100)	掘方70×75 ピット 上端30×45 下端18×35	掘方 35 ピット 15		図40-7	後期前葉	55.5
22	SK337	IVS-52		掘方70×95	掘方55×75	35				
31	SK338	VF-55	SK331 とは不明	掘方(55)	掘方(40)	20		図40-8	十腰内 I	
22	SK339	IVW-57		掘方150×155	掘方105×115	30				
22	SK340	IVW-56・57		掘方120×125	掘方55×65	30				
31	SK341	VF-55	SK342 より新	柱痕(55×65) 掘方125×125	掘方95×105 ピット 上端40×50 下端25×40	掘方 75 ピット 10	SB18 柱 5	図40-9~11	十腰内 I 後期後葉 不明	90.4
31	SK342	VF-55・56	SK341 より古	掘方(100)	掘方(65)	40				
22	SK343	IVS-58		掘方40×55	掘方20×20	15			後期前葉	23.1
22	SK344	IVS-58		掘方60×75	掘方25×40	30			後期前葉	45.1
22	SK345	IVW-55・56		掘方85×100	掘方65×70	40			不明	17.7
31	SK346	VG-55		掘方80×95	掘方45×55	53	SB17 柱 1		不明	3.0
31	SK347	VG・H-55・56	SK401 より新 SP604 とは不明	掘方(95)	掘方65×75	40	SB17 柱 2		不明	22.0
31	SK348	VF・G-56	SK421 より新 SP548 とは不明	柱痕35×40 掘方145×165	掘方95×120 ピット 上端40×50 下端25×30	掘方 60 ピット 10	SB18 柱 2	図40-12	十腰内 I 不明	265.4
31	SK349	VF・G-55		掘方70×85	掘方60×80 ピット 上端55×60 下端35×40	掘方 25 ピット 17	SB17 柱 6		不明	23.8
31	SK350	VG-55		掘方110×120	掘方65×73 ピット 上端30×35 下端25×28	掘方 15 ピット 10				
-	SK351	-	-	-	-	-	シミ	-	-	-
31	SK352	VG・H-55		掘方85×110	掘方65×85	50	SB17 柱 5	図40-13	十腰内 I 不明	24.1
31	SK353	VH-55	SK425 とは不明	掘方(130)	掘方85×110	60	SB16 柱 6	図40-14~16	十腰内 I 後期初頭? 不明	897.8
32	SK354	VH-55	SK416 より新	掘方(110)	掘方80×90	60	SB16 柱 3	図40-17・18	十腰内 I 後期初頭~前葉	184.1
32	SK355	VI-54		掘方(80)	掘方55×60	80	調査区外へ延びている	図40-19~21	後期後葉 不明	321.7
32	SK356	VH・I-54	SK429 より新	柱痕(45) 掘方100×115	掘方63×90	60		図40-22~24	後期後葉 前葉	292.8
-	SK357	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
-	SK358	-	-	-	-	-	掘りすぎ	-	-	-
32	SK359	VH-54	SK360 より古	掘方(115)	掘方(80)	35			後期前葉	
32	SK360	VH-54	SK359 より新	掘方115×185	掘方105×155	50	SB16 柱 4		後期前葉 不明	146.0
54	SK361	VIC-58		掘方110×110	掘方72×92	24			後期前葉	93.1
54	SK362	VIB・C-58		掘方(65)	掘方(50)	23			不明	68.3
54	SK363	VY-56		柱痕25×32 掘方42×47	掘方17×33	27		図61-8	後期後葉 不明	39.5
54	SK364	VV-60		掘方58×58	掘方33×40	23			後期前葉	19.2
54	SK365	VY-58		掘方60×85	掘方40×60	28		図61-9	十腰内 I	184.4
54	SK366	VU-60		掘方58×68	掘方43×50	26	SB09 柱 4		後期前葉 不明	37.3
54	SK367	VU-57		掘方82×103	掘方37×53	24	SB08 柱 3			
54	SK368	VU-57		掘方60×60	掘方30×30	23				
54	SK369	VU・V-57		掘方85×100	掘方50×55	25				
55	SK370	VW-57		柱痕33×45 掘方55×87	掘方37×45	72	SB07 柱 6		後期前葉 不明	63.7
55	SK371	VY-60		掘方(80×105)	掘方(58×78)	13		図61-10	十腰内 I 初頭	180.6

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※ () = 計測可能値			備考	掲載遺物	出土土器	出土土器重量(g)
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ				
55	SK372	VIC-57		掘方97×147	掘方62×126	32		図61-11~13	十腰内 I 不明	868.1
55	SK373	VX・Y-60		掘方45×52	掘方18×28	27			後期前葉	120.5
55	SK374	VW-58		柱痕25×25 掘方90×114	掘方56×68	50	SB07 柱 5			
55	SK375	VX-59		掘方45×52	掘方26×31	23			不明	3.9
55	SK376	VQ・R-57		柱痕35×48 掘方117×121	掘方68×73	85	SB11 柱 2		不明	3.9
55	SK377	VR-56		柱痕58×63 掘方90×110	掘方67×97	53	SB11 柱 4		後期前葉	14.1
35	SK378	VQ-59・60	SK138,453,461, SP494 より新	掘方175×200	掘方150×180	85	確認面で大礫出土	図41-29	十腰内 I 前期	351.0
37	SK379	VP-58		柱痕35×35 掘方77×87	掘方47×67	72	SB12 柱 6 黒曜石分析No.53	図41-30	十腰内 I 不明	246.5
36	SK380	VP-58	SK150,SP361 より古	柱痕(40×50) 掘方(85×100)	掘方(85)	115		図41-31~33	十腰内 I 不明	397.1
55	SK381	VS-57・58		掘方78×99	掘方54×78	12	「SK382北」から振替			
55	SK382	VR・S-57・58		掘方55×62	掘方37×45	13	「SK382南」から振替			
55	SK383	VR-58		掘方55×57	掘方28×36	30				
37	SK384	VO-58	SP367 より古	掘方81×81	掘方52×57	14			後期前葉 不明	36.2
55	SK385	VS-58		掘方46×65	掘方21×27	20				
55	SK386	VS-58		掘方(43×50)	掘方28×32	26				
55	SK387	VS-57		柱痕41×60 掘方91×106	掘方33×49	74	SB11 柱 1		不明	10.0
37	SK388	VQ-58		柱痕(28) 掘方55×93	掘方28×28	64		図41-34	不明	15.5
34	SK389	VP-58	SK390,SP758 より新	柱痕45×45 掘方64×64	掘方35×51	51				
34	SK390	VP・Q-58	SK389 より古 SK394,SP757,758 より新	柱痕53×53 掘方92×122	掘方77×101	75	黒曜石分析 No.38,48,55,85	図42-1~5	十腰内 I	588.3
56	SK391	VR-58・59	SK475 より新 SP678 より古	掘方95×133	掘方55×97 ピット30×45	31				
56	SK392	VT-55・56		柱痕26×26 掘方56×63	掘方40×40	45				
35	SK393	VP-59	SK137 より古	柱痕37×43 掘方142×147	掘方65×75	60	SB12 柱 2	図42-6~8	十腰内 I 不明	448.9
34	SK394	VQ-58	SK060,390 より古 SP757 より新	柱痕(33×58) 掘方(86×112)	掘方(30×40)	85	SB14 柱 5		後期前葉 不明	177.9
37	SK395	VQ-59		掘方71×92	掘方54×60	37			後期前葉	3.0
35	SK396	VP・Q-59	SP663,759 より新	柱痕42×45 掘方111×145	掘方97×112	88	SB12 柱 5 黒曜石分析No.57	図42-9-10	十腰内 I 不明	412.3
56	SK397	VT-55	SK398 より新	掘方139×212	掘方115×138	23		図61-14~18	十腰内 I 後期後葉 不明	384.2
56	SK398	VT-55	SK397 より古	掘方(110×120)	掘方(80×101)	28		図61-19	十腰内 I 後期前葉	130.9
56	SK399	VS・T-55		掘方113×150	掘方25×70	60			不明	9.2
-	SK400	-	-	-	-	-	自然の落ち込み	-	-	-
31	SK401	VH-55・56	SK347 より古	掘方(55)	掘方25×25	55				
22	SK402	IVS-58・59		掘方65×85	掘方50×55	40		図24-34	後期後葉 後期前葉	192.5
22	SK403	VA-57		掘方120×125	掘方90×95 ピット 上端40×50 下端25×35	掘方 35 ピット 10				
57	SK404	VG-60		掘方70×90	掘方30×35	45				
57	SK405	VG・H-60		掘方80×90	掘方30×40	35				
57	SK406	VH-58・59		掘方105×115	掘方85×95	55			後期初頭~前葉	288.6
32	SK407	VF-56		柱痕53×53 掘方105×120	掘方80×80	55			後期前葉 不明	19.2

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※ () = 計測可能値			備考	掲載遺物	出土土器	出土土器重量(g)
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ				
57	SK408	VG-60		掘方55×60	掘方35×45	25				
-	SK409	-	-	-	-	-	攪乱	-	-	-
32	SK410	VJ-54・55	SP525 とは不明	掘方(130)	掘方(105)	55		図40-25・26	後期前葉 後葉 不明	90.8
32	SK411	VJ-55		掘方50×90	掘方40×65	42	黒曜石分析No.84		後期前葉 不明	55.0
-	SK412	-	-	-	-	-	SK411 に統合	-	-	-
33	SK413	VI-54・55	SP527 より新 SP610 とは不明	柱痕63×63 掘方135×180	掘方85×120 ピット 上端65×70 下端45×45	掘方 70 ピット 10	SB16 柱 5	図40-27~29	後期 十腰内 I 不明	474.9
32	SK414	VI-55	SP529 とは不明	掘方180×195	掘方130×140 ピット 上端70×80 下端60×75	掘方 35 ピット 10	SB16 柱 2	図40-30	後期後葉 前葉 不明	223.7
33	SK415	VI-55・56	攪乱により破壊	柱痕56×56 掘方(100)	掘方(70)	40		図40-31	不明	55.4
32	SK416	VH-55	SK354 より古	掘方(80)	掘方(55)	45			後期前葉	9.0
33	SK417	VI-55	SK430 とは不明	柱痕45×45 掘方110×110	掘方65×80	45			後期前葉 不明	16.7
-	SK418	-	-	-	-	-	SK348 に統合	-	-	-
-	SK419	-	-	-	-	-	シミ	-	-	-
-	SK420	-	-	-	-	-	シミ	-	-	-
31	SK421	VG-56	SK348 より古	掘方(90)	掘方(60)	50	SB17 柱 3		後期前葉	14.6
22	SK422	IVX・Y-59		掘方75×90	掘方50×55	35		図24-35・36	後期後葉 十腰内 I 不明	70.5
-	SK423	-	-	-	-	-	(欠番)	-	-	-
-	SK424	-	-	-	-	-	シミ	-	-	-
31	SK425	VH-55	SK353 とは不明	掘方(105)	掘方(80)	60			後期前葉	
-	SK426	-	-	-	-	-	シミ	-	-	-
33	SK427	VJ-55		掘方65×70	掘方35×52	55				
33	SK428	VI-55	SP527 とは不明 SP613 より新	掘方100×100	掘方60×70	70			後期前葉	28.3
32	SK429	VI-54	SK356 より古 SK432 とは不明	掘方85×(90)	掘方65×(70)	40			後期前葉	
33	SK430	VI-55	SK417 とは不明	掘方50×70	掘方30×55	55				
33	SK431	VE・F-60		掘方60×70	掘方20×25	25		図40-32	下層 d 中期~後期 不明	36.5
32	SK432	VI-54	SK429 とは不明	掘方(105)	掘方(50)	105			後期前葉	75.5
SK433 ~ 440 (欠番)										
57	SK441	VK-59		柱痕30×45 掘方78×115	掘方23×50	40			不明	9.9
57	SK442	VN-59		掘方78×88	掘方55×55	30			後期前葉	33.3
57	SK443	VK-59		柱痕40×40 掘方86×95	掘方41×54	38			不明	2.2
37	SK444	VN-55・56		柱痕50×55 掘方(118×175)	掘方60×145	40		図41-35	十腰内 I 不明	16.1
56	SK445	VIA-63		掘方93×127	掘方73×97	34		図61-21・22	十腰内 I	358.8
57	SK446	VM-57		掘方107×121	掘方86×103	36				
38	SK447	VL・M-56		掘方100×110	掘方45×50	62				
38	SK448	VM-56		柱痕50×60 掘方93×102	掘方30×50	37				
38	SK449	VQ-57	攪乱により破壊	掘方(43×79)	掘方(20×51)	22				
35	SK450	VQ-59	SK138 より古	掘方48×65	掘方20×35	38		図42-11・12	十腰内 I 不明	121.7
35	SK451	VQ-58・59	SK125 より古 SK459 より新	柱痕30×30 掘方(102×150)	掘方10×20	103	SB13 柱 6	図42-13~15	十腰内 I 不明	724.9
-	SK452	-	-	-	-	-	SK396 に統合	-	-	-
35	SK453	VQ-59	SK378 より古 SK461 より新	掘方52×85	掘方21×33	15 (SK378 底面より)	SK378 底面で確認		不明	20.6

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※ () = 計測可能値			備考	掲載遺物	出土土器	出土土器重量(g)
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ				
36	SK454	VQ・R-59・60	SK202 より古	柱痕(38×48) 掘方(65×100)	掘方(50×78)	30	「SK202 西」から振替			
38	SK455	VQ-60・61		柱痕45×52 掘方86×93	掘方52×78	47		図41-36	十腰内 I 不明	270.1
56	SK456	VR-55		柱痕45×50 掘方91×104	掘方67×84	60	SB10 柱 4	図61-23	十腰内 I 不明	37.9
38	SK457	VP-60		柱痕30×47 掘方76×88	掘方65×80	55			後期前葉 不明	120.6
38	SK458	VP-60	SP481,879 より 新	柱痕40×48 掘方100×110	掘方47×50	57	SB13 柱 2	図42-16	十腰内 I 不明	349.6
35	SK459	VQ-59	SK451 より古	柱痕40×40 掘方(57×62)	掘方30×40	43			不明	30.6
38	SK460	VO-60		柱痕18×30 掘方48×60	掘方33×39	35		図42-18	不明	2.6
35	SK461	VQ-59	SK138 とは不明 SK378,453 より 古	掘方70×100	掘方45×60	15 (SK378 底面より)	SK378 底面で確認		後期前葉 不明	75.8
38	SK462	VO-55		柱痕31×42 掘方(48×62)	掘方29×39	29			後期前葉 不明	112.5
38	SK463	VO-61		柱痕(27×45) 掘方(60×70)	-	-	確認のみ		後期前葉	32.8
36	SK464	VP-60	SP754 より新	掘方49×73	掘方32×47	29			後期初頭? 不明	7.0
46	SK465	VR-56	SK061 より古	掘方(40×94)	掘方(20×47)	45	SB11 柱 6			
57	SK466	VN-58		掘方77×86	掘方52×60	25				8.3
38	SK467	VM-55・56	SP666 より新	柱痕48×70 掘方110×153	掘方35×65	50			後期前葉 不明	81.1
56	SK468	VT-61		柱痕40×55 掘方90×97	掘方60×72	62	SB09 柱 2	図61-20	十腰内 I 不明	37.7
56	SK469	VT-60		柱痕57×57 掘方90×90	掘方47×55	17	SB09 柱 3		後期前葉 不明	1.7
-	SK470	-	-	-	-	-	SK160 の掘方	-	-	-
56	SK471	VY-60		掘方50×53	掘方23×23	25				
38	SK472	VL-55		柱痕40×50 掘方82×103	掘方46×56	48			後期前葉	17.1
38	SK473	VK・L-55		掘方108×113	掘方86×90	25		図42-17	十腰内 I 不明	471.3
38	SK474	VK-55		掘方(90)	掘方(48)	30 (確認面 から)				
56	SK475	VR-59	SK391,SP351 より 古	掘方(52×71)	掘方(45×62)	8				
-	SK476	-	-	-	-	-	SK160 の掘方	-	-	-
34	SK477	VP-57	SK062,070 より 古	柱痕(43) 掘方(100)	掘方(66)	64				
52	SK478	VR-57	SK298 より古	柱痕(35×50) 掘方(55×98)	掘方(45×55)	73	SB11 柱 5			
56	SK479	VR-62		柱痕28×38 掘方95×95	掘方28×35	50			後期前葉	19.6
57	SK480	VS-62		柱痕35×38 掘方92×125	掘方67×105	43			不明	5.0
SK481 ~ 520 (欠番)										
38	SK521	VL-55		柱痕55×60 掘方95×130	掘方56×86	68			後期前葉 不明	34.0
57	SK522	VR-61・62		柱痕37×37 掘方116×143	掘方43×80	45		図61- 24・25	後期後葉 十腰内 I 不明	170.1
57	SK523	VQ・R-61・62	SP878 より新	柱痕50×55 掘方75×88	掘方60×60	63			不明	16.5
57	SK524	VR-62		掘方60×105	掘方45×95	25			後葉?(小破 片,玉小) 不明	6.1

ピット計測表

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※()=計測可能値			掲載遺物	出土土器重量(g)	備考
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ			
93	SP001	VA-60		26×34	21×26	24		45.6	出土土器：後期前葉
93	SP002	IVX-61		24×30	17×19	11			
93	SP003	IVX-61		22×35	8×13	22			
93	SP004	IVW-61	SP037 とは不明	(35)	24×26	26			
93	SP005	IVW-61		28×31	18×21	29.5			
93	SP006	IVW-61		23×25	18×18	11.5			
93	SP007	IVW-60		30×35	18×23	18.5	図 97-1	110.7	出土土器：十腰内 I
93	SP008	IVW-61		38×55	27×35	13			
93	SP009	IVW-X-60	SK006 より古	25×27	17×18	5			
93	SP010	IVW-61		27×28	14×25	13			
-	SP011	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
93	SP012	IVW-61		27×35	18×23	14			
93	SP013	IVW-60		40×48	26×29	16.5		108.5	出土土器：後期前葉
93	SP014	IVY-59	SK190 とは不明	52×69	13×23	36	図 97-2・3	16.4	出土土器：不明 黒曜石分析No 83
93	SP015	IVX-60		56×58	22×23	23		79.7	出土土器：後期前葉 SK004 から振替
93	SP016	IVX-60		23×34	16×23	55			
93	SP017	IVW-60		44×52	19×38	11.5			
93	SP018	IVV-W-60		47×49	20×29	22.5			
-	SP019	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
93	SP020	IVW-60		46×88	27×50	18		86.1	出土土器：後期前葉
95	SP021	IVU-57		51×67	32×39	46			
95	SP022	IVU-56	SK322 とは不明	(80)	(50)	22	図 97-4	104.8	出土土器：後期前葉
95	SP023	IVV-57		37×40	17×24	21			
93	SP024	IVW-57		37×43	18×28	34.5			
89	SP025	VC-53		57×64	26×45	25.5	図 97-5		
-	SP026	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
90	SP027	VC-57-58		63×76	18×20	36.5		2.9	
95	SP028	IVV-57		40×43	15×35	47		19.4	出土土器：後期前葉
93	SP029	IVW-58		61×63	31×34	31		48.6	出土土器：後期前葉
89	SP030	VC-54		60×83	33×48	39		4.0	出土土器：不明
-	SP031	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
93	SP032	VC-60		36×39	17×21	14.5			
90	SP033	VC-57		64×79	28×33	40	図 97-6	19.5	出土土器：後期後葉，不明
-	SP034	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
-	SP035	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
93	SP036	IVW-61		19×26	13×14	16.5			
93	SP037	IVW-X-61	SP004 とは不明	(35)	20×24	25			
93	SP038	IVV-61		27×39	25×25	24.5			
91	SP039	IVX-57	SK001 とは不明	(40)	13×20	32			
93	SP040	IVV-61		29×39	14×19	15.5		20.4	出土土器：後期前葉
93	SP041	IVV-61		35×41	16×25	16		33.9	出土土器：後期前葉
93	SP042	IVW-61		51×54	17×39	41.5		276.0	出土土器：後期前葉
93	SP043	IVX-60		29×34	15×20	8.5		109.9	出土土器：後期前葉
93	SP044	IVX-61		46×56	19×32	30		3.4	出土土器：不明
93	SP045	IVX-61		26×35	18×22	30		5.0	出土土器：不明
89	SP046	VC-54		44×72	19×38	28		70.1	出土土器：後期前葉
93	SP047	VB-59-60	SP637 とは不明	120×136	75×91	52.5	図 97-7	76.0	出土土器：後期前葉
93	SP048	VB-C-59		70×72	39×44	33.5			
93	SP049	IVV-61		56×56	36×40	25			
-	SP050	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
85	SP051	VV-61		43×49	21×25	16			
85	SP052	VV-61		40×46	12×36	34		12.5	出土土器：後期前葉
53・82	SP053	VY-57	SK311 より新	51×76	44×51	53		24.0	出土土器：後期前葉
82	SP054	VY-57		45×57	28×35	36		4.4	出土土器：不明
82・96	SP055	VY-56		120×127	47×85	64		20.5	出土土器：後期前葉，不明 SB06 柱 6
85	SP056	VV-59		41×43	27×34	14			
85	SP057	VV-59		27×34	20×27	15			

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※()=計測可能値			掲載遺物	出土土器重量(g)	備考
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ			
85	SP058	VV-59		27×28	18×21	7			
85	SP059	VV-50		24×44	13×37	6			
85	SP060	VV-59		28×32	17×26	14			
85	SP061	VU-60・61		63×67	25×39	42			
84	SP062	VW-57		17×25	8×16	14			
84	SP063	VW-56		45×63	17×42	22			
84	SP064	VW-55		32×46	17×24	29			
84	SP065	VT-57		51×66	22×46	18			
-	SP066	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
-	SP067	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
85	SP068	VU-61		12×27	5×10	7			
85	SP069	VU・V-59		61×64	41×44	33		29.9	出土土器:後期前葉
85	SP070	VU-60		46×53	33×46	17			
85	SP071	VV-60	SP072より新	56×58	35×41	30			
85	SP072	VV-60	SP071より古	33×43	27×33	10			
85	SP073	VU-59		39×46	30×33	30			
84	SP074	VV-55		34×41	18×22	10			
85	SP075	VT-59		32×40	23×34	11			
84・96	SP076	VW-58		106×117	50×76	84	図 97-8	66.8	出土土器:十腰内I SB07柱1
45・84	SP077	VX-57	SK047より新	97×154 柱痕77×77	51×67	80	図 97-9	74.5	出土土器:十腰内I SB06柱2
84・96	SP078	VX-56		100×104	52×60	66			SB06柱3
84・96	SP079	VW-57		86×102	64×83	69		14.5	出土土器:不明 SB07柱4
84	SP080	VV-56・57		33×46	13×33	22			
84	SP081	VY-56	SP087より新	46×53	29×34	12			
85	SP082	VT・U-60		53×65	21×33	34		18.8	出土土器:後期前葉
82	SP083	VY-58		40×45	27×35	16			
82	SP084	VIA-56		28×36	17×24	14			
85	SP085	VU-59		28×34	22×24	11	図 97-10	20.1	出土土器:後期前葉 黒曜石分析No.10
85	SP086	VU-59		32×47	29×35	16		0.4	出土土器:不明
84	SP087	VY-56	SP081より古	19×33	12×15	6		22.4	出土土器:不明
82	SP088	VIB-57		36×45	18×28	23		2.7	出土土器:不明
82・96	SP089	VY-57		51×55	33×38	32		4.3	出土土器:不明
84	SP090	VX-56		27×37	20×20	20			
85	SP091	VQ-58	SK159より新	25×30	18×22	49	図 97-11 ~ 13	177.9	出土土器:十腰内I
83・96	SP092	VX・Y-60	SIIより新	42×45	24×32	33			
81	SP093	VII-58		44×114	17×95	20		136.1	出土土器:後期前葉
81	SP094	VII-58		26×42	11×17	20		169.7	出土土器:不明
81	SP095	VIF-58		21×33	14×17	13			
81	SP096	VIG-58		33×44	17×29	20			
81	SP097	VIG-58		18×22	10×14	13		15.4	出土土器:後期前葉
81	SP098	VIF・G-58		25×30	15×19	13		3.4	出土土器:後期前葉
85	SP099	VS-58・59		41×49	20×24	46		9.3	出土土器:不明
85	SP100	VS-59		36×41	19×22	36			
89	SP101	VD-53		36×45	16×23	12.5			
89	SP102	VD-53		39×56	19×33	6			
91	SP103	VB-53・54		32×45	16×17	14.5			
89	SP104	VD-53		55×66	17×35	22			
94	SP105	IVS-55		48×70	23×31	39			
94	SP106	IVR-53・54		49×63	26×29	40.5		15.8	出土土器:不明
94	SP107	IVS-55		53×62	24×30	37			
94	SP108	IVR-S-55		55×64	9×27	26			
94	SP109	IVS-52		56×63	26×34	48.5	図 97-14	40.6	出土土器:後期前葉
94	SP110	IVS-52		53×64	26×33	56.5			
92	SP111	IVV-55	SI6とは不明	56×71	25×31	46.5		40.8	出土土器:後期 黒曜石分析No.86
90	SP112	VD-58	SK040とは不明	(40)	(30)	20		15.6	出土土器:後期前葉
93	SP113	VA-60		71×87	32×34	46.5	図 97-15	120.2	出土土器:十腰内I
94	SP114	IVT-52		40×47	18×26	23		16.8	出土土器:不明
94	SP115	IVT-51		50×63	20×30	50.5		23.8	出土土器:後期前葉

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※ ()=計測可能値			掲載遺物	出土土器重量(g)	備考
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ			
94	SP116	IVS・T-52	SP401 とは不明	55×65	22×28	34.5			
94	SP117	IVT-52		61×71	31×50	35	図 97-16	9.5	出土土器：十腰内 I
93	SP118	IVY-60・61	SK003 とは不明	(49)	(23)	50			
94	SP119	IVT-52		48×50	19×23	20			
92	SP120	IVU-51		59×61	14×30	29.5	図 97-18	34.2	出土土器：十腰内 I
94	SP121	IVR-54・55		84×93	27×53	56		22.7	出土土器：不明
94	SP122	IVS-53		35×58	17×28	25		42.6	出土土器：不明
94	SP123	IVS-53		54×63	20×21	32.5			
89	SP124	VD-53		48×64	20×30	40	図 97-17	107.8	出土土器：後期後葉, 前期前葉 SK083 から振替
-	SP125	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
94	SP126	IVR-51		33×39	21×30	20.5		7.9	出土土器：不明
90	SP127	VE-57	SP330 とは不明	64×67	37×46	25	図 97-19	110.0	出土土器：十腰内 I
95	SP128	IVT-58		27×29	22×24	10		11.5	出土土器：不明
95	SP129	IVS・T-58		28×31	19×26	13.5		13.6	出土土器：不明
29・90	SP130	VD-59	SK104 とは不明	71×101	52×71	55	図 97-20	46.3	出土土器：後期前葉
95	SP131	IVT-58		32×35	25×29	11	図 98-1	18.0	出土土器：後期前葉
-	SP132	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
95	SP133	IVT-59		25×26	18×21	12.5			
95	SP134	IVS-58・59		41×67	24×35	19		4.8	出土土器：不明
95	SP135	IVS-59		37×45	24×33	22			
95	SP136	IVT-59		24×25	14×15	17			
93	SP137	IVV-60		38×45	29×33	17.5			
93	SP138	IVW-60・61		33×48	24×36	29		24.5	出土土器：不明
93	SP139	IVW-61		17×19	8×10	42		3.3	出土土器：不明
93	SP140	IVY-60		25×27	17×21	23			
93	SP141	IVY-60		26×38	12×15	26.5	図 98-2	64.5	出土土器：十腰内 I
95	SP142	IVS-59		29×29	19×22	27.5			
95	SP143	IVU-60・61		69×72	54×56	24			
93	SP144	IVX-60		31×36	23×29	21.5		10.8	出土土器：不明
93	SP145	IVW-60		26×27	16×20	16			
93	SP146	IVX-60		25×28	20×25	33		19.7	出土土器：不明
93	SP147	VA-61		(40)	(34)	18		13.7	出土土器：不明
93	SP148	IVY-60	SK003 とは不明	37×41	30×36	13			
93	SP149	IVY-60		43×56	22×26	45	図 98-3	51.6	出土土器：十腰内 I
93	SP150	IVY-60		44×47	22×25	20			
81	SP151	VIF-58		18×20	9×13	12		10.2	出土土器：後期前葉
81	SP152	VIG-58		52×57	27×42	15			
81	SP153	VIG-58		29×32	18×19	15		43.8	出土土器：後期前葉
81	SP154	VIK-58		43×61	26×48	23			
81	SP155	VIK-59		56×70	39×56	18			
81	SP156	VIE-58		25×26	19×19	38		42.7	出土土器：後期前葉
81	SP157	VIG-59		41×63	24×43	19			
81	SP158	VIE-58		34×35	21×27	21			
82	SP159	VID-58		32×38	11×14	25			
81	SP160	VJ-58		44×67	25×39	21			
82	SP161	VID-57		38×41	11×21	23			
82	SP162	VID-58		32×36	10×13	19			
82	SP163	VIE-58		27×32	9×15	20		21.3	出土土器：後期前葉
82	SP164	VID-58・59		24×26	11×14	12		12.8	出土土器：後期前葉, 不明
82	SP165	VIE-57		38×42	16×26	28			
82	SP166	VIA-57		21×31	19×23	14			
82	SP167	VIB-57		28×43	14×23	26		55.6	出土土器：後期前葉, 不明
82	SP168	VIB-57		33×38	13×18	29		3.4	出土土器：不明
82	SP169	VIB-57		22×30	11×16	23			
82	SP170	VIB-57		37×51	10×35	38			
85	SP171	VW-59		39×46	28×33	22			
85	SP172	VW-61		23×25	15×18	11			
85	SP173	VU-59		44×53	22×32	21			
85	SP174	VV-60		44×57	20×35	17			
85	SP175	VW-59		30×38	19×21	31		24.6	出土土器：後期前葉

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※()=計測可能値			掲載遺物	出土土器重量(g)	備考
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ			
82	SP176	VI E-57-58		64×72	20×25	52		93.7	出土土器:後期前葉
82	SP177	VI D-59		38×63	16×32	23			
81	SP178	VI G-58	SK221より新	34×38	7×11	50			
81	SP179	VI H-1-58		38×68	27×48	35			
86	SP180	VS-56		23×28	14×22	28			
85	SP181	VS-59		25×39	17×36	19		2.4	出土土器:不明
81	SP182	VI K-58-59		54×74	25×40	20			
82	SP183	VI D-56		43×47	17×23	40			
82	SP184	VI D-56		45×48	9×13	30			
81	SP185	VI K-59		70×97	37×46	42			
81	SP186	VI J-59		57×71	12×26	19			
81	SP187	VI F-59-60		48×61	14×20	29		20.3	出土土器:後期前葉
81	SP188	VI F-59		28×36	10×10	28			
81	SP189	VI F-59		38×93	20×72	26		7.5	出土土器:不明
81	SP190	VI F-59		37×49	10×20	50			
82	SP191	VI E-58		21×25	9×12	16			
82	SP192	VI E-59		47×49	31×33	25			
82	SP193	VI E-59		43×74	15×27	28			
81	SP194	VI I-J-59		27×40	14×27	22			
81	SP195	VI I-59		55×61	23×32	22			
82	SP196	VI C-57		28×32	17×22	16		119.2	出土土器:後期前葉
82	SP197	VI C-58		39×58	23×35	18		48.1	出土土器:後期前葉
82	SP198	VI E-56		42×45	13×20	33		5.0	出土土器:後期前葉 SB04柱6
81	SP199	VI I-J-60		40×48	24×34	10			
82	SP200	VI C-56-57		86×110	53×65	21		41.1	出土土器:後期前葉
93	SP201	IV W-58		58×64	41×45	17.5		40.2	出土土器:後期前葉
93	SP202	VA-60		33×42	18×21	15			
93	SP203	IV X-60		31×35	25×32	21.5		44.7	出土土器:後期前葉
95	SP204	IV T-58		22×22	15×18	8			
93	SP205	IV X-59		36×61	12×33	12			
93	SP206	IV Y-61		16×21	8×12	21.5			
93	SP207	IV Y-60		34×44	18×21	21			
93	SP208	IV V-60		35×43	15×24	20.5			
93	SP209	IV X-Y-60		20×20	10×11	19			
93	SP210	IV Y-60		31×36	14×21	26			
93	SP211	IV Y-61		23×29	18×22	19.5		8.8	出土土器:不明
93	SP212	IV Y-60		22×28	16×21	25.5			
93	SP213	VA-60		29×44	16×26	10.5		7.5	出土土器:不明
93	SP214	IV Y-60		32×45	25×31	20			
93	SP215	IV X-59		32×36	14×20	31.5		115.4	出土土器:後期前葉
93	SP216	IV Y-60		22×27	17×23	7			
93	SP217	IV X-60-61		20×22	13×16	31.5			
93	SP218	IV X-60	SK082とは不明	40×49	28×37	31.5		17.6	出土土器:不明
93	SP219	VA-60		25×27	18×20	41.5		135.1	出土土器:不明
93	SP220	VA-60		32×37	11×18	97			
93	SP221	IV W-59		26×28	16×21	21			
93	SP222	VA-60		26×28	10×16	17.7		3.1	出土土器:不明
93	SP223	IV X-60		22×26	16×19	60		3.0	出土土器:不明
93	SP224	IV Y-60		24×26	14×21	24.5	図 98-4	406.0	出土土器:後期後葉
93	SP225	IV Y-59		41×48	29×34	13.5			
-	SP226	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
90	SP227	VC-60		26×28	15×20	11			
90	SP228	VE-57		50×75	27×30	35.5		44.5	出土土器:不明
93	SP229	VA-60		18×21	12×16	8			出土土器:後期前葉
93	SP230	VA-60		25×26	15×18	21		15.2	出土土器:不明
93	SP231	IV W-57-58		38×50	28×34	15.5		8.9	出土土器:不明
93	SP232	VA-B-60		37×53	26×30	13		22.2	出土土器:不明
93	SP233	VA-60		34×43	12×15	19.5		2.6	出土土器:不明
93	SP234	VB-60		39×45	12×22	33.5		16.7	出土土器:後期前葉
93	SP235	VB-60		28×32	9×19	17.5		23.8	出土土器:不明

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※()=計測可能値			掲載遺物	出土土器重量(g)	備考
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ			
93	SP236	VA-60		27×31	20×23	26		23.7	出土土器:不明
93	SP237	IVY-57	SP238 とは不明	24×37	12×23	13.5			
93	SP238	IVY-57	SP237 とは不明	39×45	20×24	21			
93	SP239	IVY-58		26×37	12×23	25	図 98-5	84.1	出土土器:十腰内I
93	SP240	VA-59		31×37	12×18	21		11.3	出土土器:不明
93	SP241	VA-59		32×36	19×26	15.5		31.9	出土土器:不明
93	SP242	VA-59		34×50	19×32	19	図 98-6	63.4	出土土器:十腰内I
90	SP243	VD-59	SK019,088 とは不明	(53)	(32)	42			
93	SP244	VC-60	SK030 とは不明	(46)	(31)	56			
91	SP245	IVY-VA-57		30×37	17×19	27		18.9	
93	SP246	IVY-58		43×50	16×20	39			出土土器:不明
93	SP247	IVY-57-58		25×36	15×25	18		13.8	出土土器:不明
91	SP248	IVX-57		43×50	20×21	29.5			
90	SP249	VE-59	SK033 とは不明	(55)	(30)	30			
90	SP250	VD-60		62×68	27×37	39			
82	SP251	VIC-56		45×45	8×27	31			
82	SP252	VIC-56		32×33	8×21	18		10.6	出土土器:後期前葉
81	SP253	VIH-60		58×74	45×68	20			
82	SP254	VIA-57		24×30	15×25	12			
85	SP255	VU-59		28×32	12×17	26			
85	SP256	VU-59	SP378 より新	36×44	23×32	24			
84	SP257	VY-58		34×40	23×26	15			
82	SP258	VIC-59		38×49	23×33	19			出土土器:後期前葉
82	SP259	VIC-59		28×34	17×20	18			
84	SP260	VW-X-58		43×44	24×36	17			
81	SP261	VI-61		82×94	54×68	41		38.9	出土土器:後期前葉
82	SP262	VIC-58		48×100	19×68	31		23.3	
82	SP263	VIC-58		32×49	8×14	23			
82	SP264	VIC-57	SK304 より古	21×37	21×27	28			
82	SP265	VIC-D-59		50×100	41×69	39			
82	SP266	VIC-56-57		30×32	17×22	25			
82	SP267	VIC-59		15×15	7×9	12			
83	SP268	VID-62		43×56	23×28	26		210.5	出土土器:不明
82	SP269	VIC-57		23×28	7×16	18			
83	SP270	VX-Y-61		21×31	12×16	14			
83	SP271	VX-61		15×25	11×19	12			
83	SP272	VX-Y-60		26×29	10×20	9			
82	SP273	VIB-57		47×63	36×46	14		15.9	出土土器:前期
81	SP274	VIJ-K-60-61		61×104	34×80	25			
83	SP275	VIA-B-60		17×24	7×10	15			
83	SP276	VIA-60		20×41	6×18	21			
83	SP277	VIA-60		30×48	10×26	19		71.6	出土土器:後期前葉
82	SP278	VIB-58		65×74	31×56	22			
84	SP279	VV-W-56		(52)	(36)	35	図 98-12	24.9	出土土器:後期後葉
84	SP280	VX-55		46×67	33×48	49			
84	SP281	VT-55		61×72	37×47	47		17.1	出土土器:後期前葉,不明
86	SP282	VO-58		15×18	11×13	14			
86	SP283	VO-58		23×25	20×21	11			
86	SP284	VO-58		26×30	17×21	27			
86	SP285	VO-P-58		27×30	16×19	21			
86	SP286	VO-58		19×21	15×16	9			
86	SP287	VP-58		24×27	20×22	10			
86	SP288	VO-58		30×65	23×50	10			
86	SP289	VO-58		23×28	14×19	13			
87	SP290	VO-58		18×22	13×16	6		2.7	出土土器:不明
87	SP291	VP-58		39×41	12×18	19			
87	SP292	VP-58		24×37	14×18	8			
87	SP293	VP-58		19×21	7×9	8			
87	SP294	VO-P-58-59	SK158 より新	36×46	18×25	24		4.1	出土土器:不明
87	SP295	VP-59	SK158 より新	27×29	4×14	19			

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※ ()=計測可能値			掲載遺物	出土土器重量(g)	備考
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ			
87	SP296	VP-59		24×27	10×12	23			
87	SP297	VP-59		25×29	15×17	15			
87	SP298	VP-59		33×40	18×23	22			
87	SP299	VP-58-59		23×28	12×16	8			
85	SP300	VR-59		26×28	12×14	7			
91	SP301	IVY-56		36×41	12×15	23.5			
91	SP302	IVY-56		44×47	19×30	20.5			
91	SP303	IVY-56		32×32	19×20	28			
89	SP304	VF-54		36×38	25×29	21	図 98-7・8	25.2	出土土器：後期後葉
89	SP305	VF-54		74×87	37×51	34.5	図 98-9	35.3	出土土器：後期後葉
89	SP306	VE・F-54		62×84	24×40	30	図 98-11		
93	SP307	IW-61	SP308 とは不明	29×34	13×14	29			
93	SP308	IW-61	SP307 とは不明	28×32	16×17	24			
93	SP309	IX-59		32×61	22×33	24.5			
-	SP310	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
89	SP311	VE-53-54	SP312 とは不明	68×86	30×35	39.5			
89	SP312	VE-54	SP311 とは不明	71×126	44×102	42.5			
91	SP313	IVY-56		37×53	4×8	22			
89	SP314	VC-53		40×53	21×31	24			
89	SP315	VF-56		34×45	19×20	38			
91	SP316	VA-54-55		38×46	15×30	12.5			
91	SP317	IVY・VA-52		65×76	40×47	37		9.3	出土土器：不明
91	SP318	IVY-52-53	SP319 とは不明	50×51	19×31	19			SB02 柱 5
91	SP319	IVY-52	SP318 とは不明	38×43	17×32	27.5			
91	SP320	IVY-53		61×72	28×38	31.5			
91	SP321	IVY-53		97×150	51×99	31.5		15.6	出土土器：不明 SB02 柱 2
91	SP322	IVY-52		40×45	28×29	22.5			
91	SP323	IVY-52		34×39	15×18	15.5			
93	SP324	IW-61		28×30	19×23	17.5			
-	SP325	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
91	SP326	VA-55		28×40	8×22	12.5			
91	SP327	VA-54		57×64	35×41	21.5			
92	SP328	IW-53		47×55	30×38	17		3.9	
89	SP329	VD・E-54		50×67	20×29	28			
90	SP330	VE-57	SP127 とは不明	38×39	23×27	17			
91	SP331	IX-53		40×51	23×30	27.5			
-	SP332	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
92	SP333	IW-54		44×44	21×23	16.5			SK258 から振替
92	SP334	IW-54		42×51	17×31	16			SK259 から振替
91	SP335	IVY-53		30×38	11×17	13.5			
91	SP336	IVY-52 VA-52-53		64×69	31×42	24	図 98-10	28.1	出土土器：十腰内 I
93	SP337	IW-61		28×40	14×16	35.5		11.0	出土土器：後期前葉
91	SP338	IVY-53		47×77	20×45	30	図 98-13	4.3	出土土器：不明
92	SP339	IVV-54		32×45	10×21	28.5			
93	SP340	IVV-60		29×33	15×18	14			
93	SP341	IVV-61		17×31	11×12	18			
95	SP342	IUV-61		60×66	21×33	32.5			
95	SP343	IUV-61		40×51	20×31	11.5			
95	SP344	IUV-61		32×35	22×26	6.5			
93	SP345	IVV-57	SK249 とは不明	(35)	(20)	12	図 98-14		
93	SP346	VA-60		24×25	12×17	6.5		19.6	出土土器：後期前葉
93	SP347	IVV-61	SR4 より古 SP348 とは不明	(33)	(20)	-			出土土器：前期～後期
93	SP348	IVV-61	SR4 より古 SP347 とは不明	(40)	(17)	70			
94	SP349	IVS-52		54×63	26×33	33			
93	SP350	IVY-58	SK241 とは不明	(55)	25×25	25			
85	SP351	VR-59	SK475 より新	24×30	18×20	14			
85	SP352	VS-59		28×30	15×19	12			
85	SP353	VS-59		31×35	16×18	11			
85	SP354	VS-59		41×54	33×48	20		23.4	

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※ ()=計測可能値			掲載遺物	出土土器重量(g)	備考
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ			
85	SP355	VS-59		21×22	13×14	10			
85	SP356	VS-59		39×49	23×27	28	12.7	出土土器:後期前葉	
87	SP357	VP-59		28×30	13×18	11	5.3	出土土器:後期前葉	
87	SP358	VP-59		22×28	16×19	15	14.9	出土土器:不明	
87	SP359	VP-58		25×33	11×12	20	8.9	出土土器:後期前葉	
87	SP360	VP-58		23×26	12×13	17			
87	SP361	VP-58	SK380より新	27×31	17×19	17			
87	SP362	VP-59		32×36	21×23	20			
87	SP363	VP-59		25×26	12×13	21	図98-16	11.5 出土土器:十腰内I	
85	SP364	VS-59		31×37	13×24	23	1.2	出土土器:不明	
87	SP365	VO-P-59		28×28	11×17	18			
87	SP366	VO-P-59	SK158より新	32×38	17×27	12	1.0		
87	SP367	VO-58	SK384より新	28×29	9×16	8	1.9	出土土器:不明	
87	SP368	VO-P-59	SK069より新	27×30	16×17	23	7.1	出土土器:不明	
87	SP369	VP-59		18×22	10×13	11			
87	SP370	VP-59		27×35	18×23	9			
87	SP371	VP-59	SK078より新	29×33	15×20	11			
86	SP372	VR-58		34×42	23×24	22			
85	SP373	VS-59		42×52	27×32	21			
86	SP374	VQ-R-57		38×43	22×27	24			
83	SP375	VX-60		37×39	25×30	16	4.0	出土土器:後期前葉	
83	SP376	VX-60		29×35	19×28	19	11.6	出土土器:不明	
85	SP377	VW-59		27×28	11×15	25			
85	SP378	VT-U-59	SP256より古	26×57	30×42	25	7.5	出土土器:後期前葉	
84	SP379	VU-56		31×32	23×25	10			
85	SP380	VV-59		32×40	22×27	17			
85	SP381	VV-59		43×51	24×35	13			
86	SP382	VQ-57		22×27	12×16	4			
86	SP383	VQ-57		26×29	16×18	7			
86	SP384	VQ-57		22×25	11×11	3			
85	SP385	VV-60		35×38	19×24	14			
85	SP386	VU-61		27×45	16×23	24			
83	SP387	VW-61		24×45	10×31	14			
85	SP388	VU-60		37×48	28×35	13			
85	SP389	VU-V-59		22×27	10×11	15			
85	SP390	VV-59		24×27	15×24	12			
84	SP391	VT-56		27×33	19×27	9	9.8	出土土器:前期 黒曜石分析No.13	
86	SP392	VO-58		21×25	13×15	12			
86	SP393	VO-58		15×23	7×10	4			
86	SP394	VO-58		19×24	11×15	9			
86	SP395	VO-58		26×29	15×18	12		出土土器:後期後葉	
86	SP396	VO-58		9×11	6×8	6			
86	SP397	VO-58		20×28	15×19	9			
87	SP398	VO-58		21×25	10×19	11			
87	SP399	VO-59		27×35	10×12	12			
87	SP400	VO-59		19×20	8×10	6			
94	SP401	IVS-T-52	SP116とは不明	25×41	6×13	12.5			
94	SP402	IVS-51-52		57×83	19×50	17			
94	SP403	IVT-51		48×55	14×24	44.5	3.0	出土土器:不明	
94	SP404	IVS-51		59×67	22×33	30			
93	SP405	IVW-58		38×48	22×26	20			
94	SP406	IVT-50-51		37×43	23×31	16	13.5	出土土器:不明	
89	SP407	VC-53		42×52	17×26	29.5			
89	SP408	VF-55	SK038とは不明	(60)	(26)	20			
94	SP409	IVQ-51		46×66	19×30	22.5			
94	SP410	IVQ-51-52		49×52	30×34	26.5	110.9	出土土器:後期前葉	
94	SP411	IVQ-52		42×55	11×19	36.5		出土土器:後期前葉	
94	SP412	IVT-U-51		37×40	10×22	23.5			
94	SP413	IVS-51		31×41	14×21	38	1.2	出土土器:不明	
94	SP414	IVR-53		32×39	12×17	28			
89	SP415	VE-56	SK193より古	(50)	(28)	32			

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※ ()=計測可能値			掲載遺物	出土土器重量(g)	備考
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ			
90	SP416	VE-57		45×50	22×24	33		6.9	出土土器：後期前葉
89	SP417	VF-53		61×80	21×35	278		19.9	出土土器：不明
94	SP418	IVR-51		21×31	11×15	33			
94	SP419	IVQ・R-52		47×54	14×19	32.5			
94	SP420	IVR-53		36×45	20×24	21.5			
94	SP421	IVR-54		24×34	10×12	23.5			
94	SP422	IVR-54		44×58	9×18	19.5			
94	SP423	IVS-54		60×92	11×23	16.5			
94	SP424	IVQ-52		47×52	14×16	22			
94	SP425	IVQ-53		44×49	20×31	18			
94	SP426	IVR-53		33×37	15×18	31.5			
-	SP427	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
92	SP428	IVV・W-54		52×62	22×32	17.5			
92	SP429	IVV-54		60×72	21×24	21.5			
89	SP430	VD・E-55		46×52	24×30	25			
89	SP431	VE-55		62×68	34×37	31.5		10.3	出土土器：後期前葉
-	SP432	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
-	SP433	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
-	SP434	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
94	SP435	IVR-53		25×31	12×23	29.5			
94	SP436	IVR-53		37×47	18×23	25.5			
94	SP437	IVQ・R-51		25×37	13×18	31			
94	SP438	IVR・S-56		53×77	31×45	20.5			
94	SP439	IVR・S-55		40×52	16×25	28			
94	SP440	IVR-52		29×31	12×14	41.5			
94	SP441	IVR-52		39×53	23×31	33			
-	SP442	-	-	-	-	-	-	-	(欠番)
20・93	SP443	IVX-58	SK165,269 とは不明	(80)	48×65	34			
94	SP444	IVR-53		46×54	22×27	23.5			
94	SP445	IVR-54		47×68	25×42	50.5			
94	SP446	IVR-52		(68)	40×58	34	39.7		SK335 から振替
94	SP447	IVS-52		(59)	38×41	38			SK335 から振替
94	SP448	IVR-51		29×37	9×11	13			
95	SP449	IVT-58		18×28	12×18	24			
95	SP450	IVS-59		38×44	33×33	10	26.3		出土土器：後期前葉
87	SP451	VO-59		22×29	14×17	6			
87	SP452	VO-59		29×31	15×23	11			
87	SP453	VO-59		28×28	16×19	9			
87	SP454	VO-59	SP455 とは不明	(49)	16×28	25	7.4		出土土器：不明
87	SP455	VO-59	SP454 とは不明	(44)	25×33	21	7.4		
87	SP456	VO・P-59		38×60	17×41	26	23.5		出土土器：不明
87	SP457	VO-59		35×51	17×42	18			
87	SP458	VO-59		27×34	16×20	17			
87	SP459	VO-59		33×41	24×30	22	24.8		出土土器：後期前葉，不明
87	SP460	VO-59		10×22	4×12	8			
87	SP461	VO-59		32×42	16×17	19			
87	SP462	VO-60		29×49	15×33	26	2.7		出土土器：不明
87	SP463	VO-60		20×21	(12)	10			
87	SP464	VO-60		21×25	10×15	11			
87	SP465	VO-59		22×28	10×16	-			深さは未計測
87	SP466	VO-60		30×35	12×16	-			深さは未計測
87	SP467	VO-60		26×31	13×17	-			深さは未計測
87	SP468	VO-60		33×41	17×20	-			深さは未計測
87	SP469	VO-60	SP470 とは不明	(33)	10×10	-			深さは未計測
87	SP470	VO-60	SP469 とは不明	(36)	20×23	-			深さは未計測
87	SP471	VO-60		22×27	14×16	-			深さは未計測
87	SP472	VO-60		42×44	15×19	21			
87	SP473	VO-60		25×32	12×14	15			
87	SP474	VO-60		35×47	16×21	13			
87	SP475	VO-60		23×40	16×25	9			

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※()=計測可能値			掲載遺物	出土土器重量(g)	備考
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ			
87	SP476	VO-60		19×21	12×14	8			
87	SP477	VO-60		28×42	-	-			
87	SP478	VP-60		29×31	17×23	10			
87	SP479	VP-60		26×37	12×25	15			
87	SP480	VP-59-60		33×49	24×37	12	30.3	出土土器:後期後葉,後期前葉	
87	SP481	VP-60	SK458より古	36×36	27×29	13	22.9	出土土器:不明	
-	SP482	-	-	-	-	-	-	(欠番)	
83	SP483	VX-60		23×34	7×17	21			
83	SP484	VX-60		24×31	15×17	13			
83	SP485	VX-61		24×56	10×31	14			
83	SP486	VX-60		(29)	11×22	11			
86	SP487	VN-58		73×131	47×61	38	114.2	出土土器:前期,後期前葉	
87	SP488	VN-59-60		(35)	8×10	12	10.8	出土土器:後期前葉	
87	SP489	VM-60		35×74	13×44	19			
87	SP490	VM-60		28×31	15×19	13			
87	SP491	VM-60		33×44	22×27	17	16.0	出土土器:不明	
87	SP492	VM-60		35×43	28×39	19	図98-15	153.8 出土土器:後期	
87	SP493	VQ-60		44×57	29×31	29			
85	SP494	VQ-59-60	SK378より古	27×32	13×26	4			
87	SP495	VP-59		25×26	13×17	11			
87	SP496	VM-N-60		35×51	17×23	16	11.1		
87	SP497	VM-59		43×54	18×31	35	6.6	出土土器:不明	
87	SP498	VM-59		30×40	18×22	30	17.0	出土土器:不明	
87	SP499	VM-59	SP500より新	(54)	24×41	16			
87	SP500	VM-59	SP499より古	(34)	20×23	26	6.5	出土土器:後期前葉	
95	SP501	IVT-58		34×48	23×25	33	7.1	出土土器:後期前葉	
95	SP502	IVS-58		34×48	19×24	38	図98-17	318.7 出土土器:後期前葉,不明	
90	SP503	VH-58		40×48	17×23	24	4.3	出土土器:不明	
90	SP504	VH-58		35×41	23×28	20			
90	SP505	VG-60		27×44	13×21	16			
-	SP506	-	-	-	-	-	-	(欠番)	
88	SP507	VI-59		27×29	15×18	12	5.4	出土土器:後期前葉	
88	SP508	VI-58		29×37	9×11	24			
88	SP509	VI-58		46×67	17×27	18	7.8	出土土器:後期前葉	
90	SP510	VH-58		34×43	21×26	21	15.7	出土土器:不明	
88	SP511	VI-58		44×58	22×25	26			
90	SP512	VH-58		38×45	24×35	24			
90	SP513	VH-58		39×45	28×30	8			
90	SP514	VG-60		24×32	10×16	17	14.9	出土土器:不明	
-	SP515	-	-	-	-	-	-	(欠番)	
89	SP516	VF-G-54		70×80	36×54	17			
90	SP517	VH-59-60		74×98	35×60	39			
90	SP518	VH-60		50×66	23×34	31			
89	SP519	VH-I-55		57×66	27×36	36			
89	SP520	VH-I-55		46×64	27×48	30	15.2	出土土器:不明	
89	SP521	VH-54		39×65	19×35	36	3.0	出土土器:不明	
90	SP522	VG-59		49×65	22×23	39	33.4	出土土器:不明	
90	SP523	VH-59		50×72	22×35	23			
90	SP524	VG-60		34×37	24×31	25			
88	SP525	VJ-55	SK410とは不明	(50)	(25)	34			
88	SP526	VI-J-55		34×47	22×31	24	5.7	出土土器:不明	
33-88	SP527	VI-55	SK413より古 SP610とは不明	(65)	(30)	45			
88	SP528	VJ-54-55		34×39	13×18	32	1.3	出土土器:不明	
88	SP529	VI-55	SK414とは不明	40×55	15×25	27	6.3	出土土器:不明	
88	SP530	VJ-59		64×83	28×33	36	21.7	出土土器:不明	
88	SP531	VJ-K-58		49×52	13×21	20			
88	SP532	VJ-60		57×66	21×35	25			
90	SP533	VH-60		29×31	17×22	18	12.5	出土土器:不明	
88	SP534	VI-60		61×73	27×29	68			
88	SP535	VI-59		30×37	10×18	22			
88	SP536	VJ-59		35×38	11×18	23			

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※()=計測可能値			掲載遺物	出土土器重量(g)	備考
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ			
88	SP537	VJ-59		16×18	8×11	21			
88	SP538	VK-59		29×34	13×20	23	21.0	出土土器：不明	
88	SP539	VJ-59		30×35	16×19	27			
88	SP540	VK-60		31×34	16×18	19	0.4		
88	SP541	VJ-K-58		32×42	13×26	26			
88	SP542	VJ-59		37×52	22×32	16			
-	SP543	-	-	-	-	-	-	(欠番)	
88	SP544	VJ-K-59		36×45	18×25	25			
88	SP545	VJ-58		46×59	23×25	22			
88	SP546	VJ-K-58		25×39	11×16	31			
88	SP547	VI-58		57×68	35×43	18			
31・89	SP548	VF-56	SK348 とは不明	(90)	(65)	30	1.5	出土土器：不明	
94	SP549	IVR-54		44×48	20×25	29			
94	SP550	IVR-54		44×48	25×31	23			
87	SP551	VN-59		42×56	28×42	21			
87	SP552	VM・N-59		28×44	16×26	29			
87	SP553	VM-59		23×26	6×11	9			
87	SP554	VM-59		33×39	20×28	21			
87	SP555	VM-59		36×44	(20)	25			
87	SP556	VL-58-59	SP557 より新	48×58	20×24	28			
87	SP557	VL-58-59	SP556 より古	33×50	16×27	22			
87	SP558	VL-59		69×82	40×44	18	10.3	出土土器：不明	
87	SP559	VL-58		58×59	33×43	27			
87	SP560	VL-58		60×128	25×27	47	1.4	出土土器：不明	
87	SP561	VL-59		43×70	25×47	20			
87	SP562	VK-L-59		24×32	17×23	10	8.0	出土土器：後期前葉	
87	SP563	VM-58		43×49	33×39	19			
87	SP564	VM-58		49×57	(38)	15			
87	SP565	VM-58		43×73	27×47	16			
87	SP566	VM・N-58		32×52	23×41	14			
87	SP567	VN-59		59×66	21×30	20	図 98-18	出土土器：十腰内 I	
87	SP568	VN-58		19×24	12×13	18			
87	SP569	VM・N-58 VN-58-59		29×33	14×19	13			
87	SP570	VM-58-59		44×49	23×32	29			
87	SP571	VM-59		40×45	21×29	31			
87	SP572	VK-L-58-59	SP880 より新	40×68	21×25	30	5.9	出土土器：不明 SP572A から振替	
87	SP573	VP-59		20×29	6×17	11	1.7	出土土器：不明	
87	SP574	VL-58		37×48	13×24	17	16.2	出土土器：不明	
83	SP575	VW-61		60×86	12×18	49			
83	SP576	VW-61		20×22	15×17	17	6.4	出土土器：後期前葉	
85	SP577	VW-62		96×103	53×62	25			
86	SP578	VN-58		54×64	31×46	25	図 98-21・22	出土土器：不明	
87	SP579	VL-57		60×88	34×64	17	11.3	出土土器：不明	
87	SP580	VL-57-58 VM-58		52×61	21×27	37			
87	SP581	VL-M-58		28×49	15×29	20			
85	SP582	VT-59		40×56	22×28	22			
85	SP583	VT-61		24×26	13×18	15	3.3	出土土器：不明	
87	SP584	VM-59	SP585 より新	46×58	31×40	31			
87	SP585	VM-59	SP584 より古	27×64	(18)	25			
87	SP586	VL-58-59		33×47	18×19	19			
87	SP587	VL-58-59		41×56	20×28	23			
85	SP588	VR-60		42×59	28×34	14			
87	SP589	VL-58	SP590 より新	22×44	16×20	25			
87	SP590	VL-58	SP589 より古	35×61	22×46	15			
87	SP591	VL-57		28×40	(24)	24			
88	SP592	VK-57		33×78	42×55	14			
88	SP593	VK-58		56×67	31×51	23			
88	SP594	VK-L-58		37×53	22×32	20			

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※()=計測可能値			掲載遺物	出土土器重量(g)	備考
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ			
88	SP595	VK-L-58		39×54	25×31	29			
88	SP596	VK-58		43×47	22×24	17			
88	SP597	VK-58		59×66	14×17	20			
88	SP598	VL-58		40×59	(15)	17			
88	SP599	VL-M-58		(47)	(23)	24			
86	SP600	VM-58		67×100	8×12	20			
90	SP601	VG-59		51×76	29×33	18			
90	SP602	VI-57		76×80	61×66	13			
88	SP603	VJ-59		53×69	16×22	34			
89	SP604	VG-55-56	SK347 とは不明	(30)	(15)	18			
89	SP605	VG-55		52×57	19×30	54	図 98-19	34.2 出土土器：十腰内 I	
88	SP606	VI-55		35×42	21×24	28			
93	SP607	IVY-59		29×34	14×21	34		39.1 出土土器：不明	
93	SP608	IVY-59	SK184 とは不明	(50)	(35)	12		55.3 出土土器：後期前葉	
91	SP609	IVX-53		56×84	15×61	31		SB02 柱 6	
88	SP610	VI-55	SK413, SP527 とは不明	(35)	(25)	30			
88	SP611	VJ-55		47×60	35×37	22			
88	SP612	VI-54		29×39	15×20	35			
33-88	SP613	VI-55	SK428 より古	(50)	(30)	35			
89	SP614	VF-56		17×22	10×13	20			
94	SP615	IVR-54	SN2 より古	24×35	10×15	19			
89	SP616	VG-56		34×35	12×17	56			
90	SP617	VF-59		21×32	16×19	21			
89	SP618	VF-56		29×44	20×22	17			
90	SP619	VF-60		41×43	25×28	32		7.1 出土土器：不明	
-	SP620	-	-	-	-	-	-	(欠番)	
-	SP621							2011 年度調査区	
-	SP622							2011 年度調査区	
-	SP623							2011 年度調査区	
-	SP624							2011 年度調査区	
-	SP625							2011 年度調査区	
-	SP626							2011 年度調査区	
88	SP627	VI-60		59×65	22×30	35			
90	SP628	VG-60		36×42	21×31	15			
90	SP629	VH-59		47×53	16×22	36		31.1 出土土器：不明	
90	SP630	VH-I-60		44×45	13×15	33			
90	SP631	VH-58-59		38×45	14×17	30			
88	SP632	VJ-59-60		31×40	16×28	22			
88	SP633	VI-59		56×74	45×62	15			
95	SP634	IVR-58		62×67	38×47	26			
87	SP635	VK-60		35×39	15×17	17			
93	SP636	VB-60		25×27	16×20	9			
93	SP637	VB-59	SP047 とは不明	37×43	31×34	15.5			
16-94	SP638	IVS-52	SK095 より古	(55)	(35)	35			
SP639～650 (欠番)									
86	SP651	VQ-57		43×47	20×28	30		4.0 出土土器：不明	
87	SP652	VO-60		22×24	13×17	11			
87	SP653	VP-60	SK153 とは不明	24×39	15×23	8		現地で切り合いの判断をしていない	
87	SP654	VP-60		11×16	5×8	9			
87	SP655	VP-58		21×27	10×15	18			
87	SP656	VP-58		28×31	10×17	29		44.5 出土土器：不明	
87	SP657	VP-57	SK070 より新	26×30	14×17	12			
87	SP658	VP-57	SK055 より新	34×38	26×29	18		23.9 出土土器：後期前葉	
84	SP659	VS-56	SK126 より新	15×23	10×11	16			
87	SP660	VP-59		27×58	13×16	24		3.2 出土土器：不明	
87	SP661	VO-58		44×66	23×30	15			
87	SP662	VP-60		40×42	20×28	14		1.4 出土土器：不明	
87	SP663	VP-Q-59	SK396 より古	36×46	24×28	30			
87	SP664	VQ-59		36×38	23×26	39		48.3 出土土器：不明	
87	SP665	VL-58		36×39	(31)	14			

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※()=計測可能値			掲載遺物	出土土器重量(g)	備考
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ			
38・86	SP666	VM・N-55	SK467より古	55×69	33×42	52		22.9	出土土器：不明
88	SP667	VL-55・56		53×55	17×21	57			
88	SP668	VK-55	攪乱により破壊	36×89	(38)	35			
86	SP669	VM-55		64×88	50×69	25		14.6	出土土器：後期前葉
83	SP670	VIB-62		38×41	27×30	22		22.4	出土土器：不明
83	SP671	VIA・B-62		37×44	18×18	19			
83	SP672	VIA・B-62		43×45	27×28	16			
83	SP673	VIA-61・62		34×40	17×22	21			
83	SP674	VIA-62		39×80	6×13	39			
87	SP675	VQ-59		26×31	11×13	21			
87	SP676	VP-61		52×54	26×32	16			
87	SP677	VO-59	SK068とは不明	(28)	(15)	9			現地で切り合いの判断をしていない
85	SP678	VR-58・59	SK391より新	33×36	22×24	26			
87	SP679	VO-60		34×40	20×21	15			
83	SP680	VIA-62		45×70	(31)	33			
83	SP681	VIA-62		36×39	17×19	33			
83	SP682	VIA-62		53×88	36×71	22	図 98-23～25	328.7	出土土器：十腰内 I
83	SP683	VIA-62		39×46	22×26	41		6.0	出土土器：不明
-	SP684								2011年度調査区
85	SP685	VS-61		68×95	44×59	44		103.2	出土土器：後期前葉
86	SP686	VO-58		18×20	12×19	13			
86	SP687	VO-58		(44)	33×35	15			
86	SP688	VP-58		25×28	15×19	18			
86	SP689	VP-58		20×24	15×18	10			
87	SP690	VP-59		39×59	20×27	14			
87	SP691	VO-58		48×55	16×19	27			
87	SP692	VP-59		25×30	17×23	19		31.8	出土土器：不明
86	SP693	VR-55		57×74	41×47	34			
87	SP694	VP-58		57×64	30×37	14			
87	SP695	VP-58		43×50	13×17	22			
87	SP696	VP-59		20×39	12×19	19			
85	SP697	VR-60・61		40×55	19×23	21			
85	SP698	VR-61		56×85	19×24	21			
85	SP699	VR-61		28×44	18×33	13			
87	SP700	VP-60		33×39	17×18	23			
SP701～750 (欠番)									
88	SP751	VL・M-55		63×77	35×54	34			
86	SP752	VP-55	SK132より古	39×48	14×18	29			
85	SP753	VV-59		35×37	19×26	22		2.0	出土土器：不明
87	SP754	VP-60	SK201,464より古	(43)	(21)	34			
86	SP755	VR-54・55		60×78	43×44	28			
86	SP756	VQ・R-55		97×115	(96)	26		1.6	出土土器：不明 SB10柱6
86	SP757	VQ-58	SK060,390,394より古	(44)	(19)	25			
86	SP758	VP-58	SK389,390より古	(33)	(18)	11	図 98-20	13.8	出土土器：十腰内 I
87	SP759	VP-59	SK140より新 SK396より古	(69)	(39)	39		38.1	出土土器：後期前葉
86	SP760	VQ-57		24×40	13×22	18			
86	SP761	VQ-58		19×22	7×8	9			
87	SP762	VP・Q-59		31×35	15×21	11			
87	SP763	VP-59		21×41	9×20	12			
85	SP764	VV-61		50×54	30×36	31		2.0	出土土器：不明
85	SP765	VV-61		30×47	18×34	18			
85	SP766	VV-62		71×77	44×65	39		57.6	出土土器：後期前葉
83	SP767	VIA-62		42×48	26×38	37		91.8	出土土器：後期前葉
83	SP768	VIA-62		48×63	35×49	33		34.1	出土土器：後期前葉
83	SP769	VIB-63		34×64	13×34	33		112.4	出土土器：後期前葉
83	SP770	VY-63		(42)	(15)	22		22.6	出土土器：後期前葉
83	SP771	VC-62		71×82	37×44	18			
83	SP772	VX-62		34×44	23×30	22			

図	遺構名	グリッド	重複	計測値(cm) ※()=計測可能値			掲載遺物	出土土器重量(g)	備考
				開口部 短軸×長軸	底面 短軸×長軸	深さ			
83	SP773	VX-61		33×34	18×21	25		3.2	出土土器:不明
83	SP774	VX-62		36×43	18×25	13			
85	SP775	VV-61		41×49	28×34	36			
85	SP776	VU・V-61		22×32	7×13	11			
85	SP777	VV-62	SP852 より新	71×96	59×82	54		11.2	出土土器:不明
85	SP778	VV-62	SP852 より新	60×69	31×46	43		65.3	出土土器:後期前葉
85	SP779	VU-62	SP780 より古	48×63	33×48	26			
85	SP780	VU-62	SP779 より新	51×55	23×29	50		19.9	出土土器:後期前葉
85	SP781	VU-62		48×74	42×57	21		18.8	出土土器:不明
85	SP782	VU-62		33×72	18×23	18			
85	SP783	VU-61	SP786.800 より新	67×103	36×50	42		35.3	出土土器:不明
85	SP784	VU-61		25×30	11×22	12			
85	SP785	VU-61		34×41	20×24	10		4.2	出土土器:不明
85	SP786	VU-61	SP783 より古	43×59	19×28	26		15.4	出土土器:後期前葉
85	SP787	VU-61	SP788 より新	50×57	34×46	28		13.5	出土土器:不明
85	SP788	VU-61	SP787 より古	33×43	27×28	17			
85	SP789	VU-61		29×36	21×29	11		3.3	出土土器:後期前葉
85	SP790	VT・U-61・62		74×79	31×42	49		30.6	出土土器:後期前葉
85	SP791	VT-62		44×51	30×37	20			
85	SP792	VT-62		34×50	22×43	29			
85	SP793	VT-61		36×46	24×28	15			
85	SP794	VS・T-61		26×35	19×25	13			
85	SP795	VT-61		31×35	13×20	14		2.7	出土土器:後期前葉
85	SP796	VT-61		54×55	29×33	14			
85	SP797	VS-61		33×35	12×20	11			
85	SP798	VS-61		30×38	11×18	13			
85	SP799	VS-61		34×35	26×29	9			
85	SP800	VU-61・62	SP783 より古	39×53	20×30	34			
SP801～850(欠番)									
83	SP851	VY-61	SQ4 より古	(50)	22×37	17			
85	SP852	VV-62	SP777.778 より古	(77)	(53)	34			
-	SP853	VU-63							2011年度調査区
83	SP854	VX-61		36×42	13×22	23			
85	SP855	VU-61		31×47	27×36	19			
-	SP856	VU-64							2011年度調査区
85	SP857	VU-62		24×40	13×17	17			
85	SP858	VT-62		29×32	19×23	19			
85	SP859	VT-61・62		31×39	19×24	17			
85	SP860	VT-61		29×30	16×18	13			
85	SP861	VS-62		49×68	33×56	24			
85	SP862	VS-62		59×105	(46)	49		1.3	出土土器:後期前葉
85	SP863	VS-62		33×35	21×30	12			
85	SP864	VS-61		21×22	12×17	9			
85	SP865	VS-61		23×25	17×18	13			
85	SP866	VS-61		23×35	14×27	13			
85	SP867	VR-61		67×78	13×36	43		6.6	出土土器:不明
85	SP868	VU-62		42×51	35×46	18			
85	SP869	VT-61		37×40	22×31	23			
85	SP870	VR・S-61・62		63×76	44×54	32			
-	SP871								2011年度調査区
-	SP872								2011年度調査区
-	SP873	VU-63							2011年度調査区
-	SP874	VV-65							2011年度調査区
-	SP875	VW-64							2011年度調査区
86	SP876	VR-55		57×63	34×43	31			
86	SP877	VR-55		54×59	32×44	32			
57・85	SP878	VR-61・62	SK523 より古	49×73	31×35	34		2.6	出土土器:不明
87	SP879	VP-60	SK458 より古	27×37	19×31	16			
87	SP880	VL-58・59	SP572 より古	46×57	21×31	23			SP572B から振替

土器観察表

図	番号	整番	年度	出土地点	層位	分類	器種	部位	特徴
6	1	012	10	SI1	炉跡北側床面	Ⅲ群4類	深鉢	底部	LR・RL 横回で羽状、底径68mm。
7	1	019	10	SI1	覆土上層	Ⅲ群1類	深鉢	口縁	波状口縁、無文(弱いミガキ)、隆帯、隆帯上に刻み。
7	2	017	10	SI1	覆土	Ⅲ群1類	深鉢	胴部	隆帯、隆帯上 LR 回転、隆帯に沿って LR の側面圧痕が2条。
7	3	015	10	SI1	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	隆沈線。
7	4	018	10	SI1	覆土上層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行、楕円形状)。
7	5	016	10	SI1	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(3条の平行、入り組状)。
7	6	008	10	SI1	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(蓮華花卉文)新段階の要素。P-233
7	7	014	10	SI1	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	単絡5縦回。
7	8	013	10	SI1	覆土	Ⅲ群	深鉢	口縁	付加条(R + LR) 横回。整007と同一個体、後期前半。
7	9	004	10	SI1	覆土	Ⅲ群4類	鉢	胴部	貼瘤、瘤頂部に刻み、ミガキ、縄文帯、LR 充填。P-83
7	10	003	10	SI1	覆土	Ⅲ群4類	鉢	胴部	ミガキ、縄文帯、LR・RL 横回の羽状文充填。P-82
7	11	011	10	SI1	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁～胴部	口縁に小突起、突起頂部に刻み、平行帯状文、LR・RL 横回の羽状文充填。P-239
7	12	009	10	SI1	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	波状口縁の波頂部、沈線、LR・RL の回転施文。P-234
7	13	001	10	SI1	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	RL 横回。P-70
7	14	002	10	SI1	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	LR・RL 横回で羽状→口縁に平行する沈線。P-78
7	15	010	10	SI1	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	ミガキ、縄文帯、LR・RL 充填。P-167、235
7	16	005	10	SI1	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	沈線、LR・RL 横回で羽状。P-88
7	17	006	10	SI1	確認面	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	LR・RL 横回で羽状。P-95
8	1	021	10	SI2	1層	Ⅲ群	深鉢	口縁	LR 縦回。P-3、後期前半。
8	2	022	10	SI2	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行)、LR 充填。
8	3	020	10	SI2	確認面	Ⅲ群	深鉢	胴～底部	無文、底径11.2cm。P-1、後期前半。
9	1	024	10	SI3	1層	Ⅲ群2類	壺	肩部	地文にLR 横回→沈線(平行、弧状)。
9	2	023	10	SI3	確認面	Ⅲ群	鉢	略完形	無文、底径5.2cm。P-1、後期前半。
10	1	028	10	SI4	覆土上層	Ⅲ群2類	壺	口縁	波状口縁、折り返し状口縁、隆帯、沈線(方形)。
10	2	027	10	SI4	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	地文に単絡1縦回→沈線(弧状)。
10	3	029	10	SI4	覆土上層	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(方形)。
10	4	032	10	SI4	覆土中層	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(長楕円形)。
10	5	026	10	SI4	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行)→LR 充填。
10	6	030	10	SI4	覆土上層	Ⅲ群2類	鉢	胴部	沈線(平行、斜行?)。
10	7	033	10	SI4	覆土中層	Ⅲ群4類	注口	注口	注口部、ミガキ。
10	8	025	10	SI4	覆土	Ⅲ群4類	注口OR壺	胴部	ミガキ、縄文帯(平行帯状、襷掛状)、LR 充填。
10	9	031	10	SI4	覆土上層	Ⅲ群	鉢	底部	底径3.6cm、上げ底状、後葉の可能性もあり。
11	1	041	10	SI5	覆土下層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	口縁直下に無文帯、頸部屈曲部のあたりからLR 横回→屈曲部に3条の平行沈線。
11	2	042	10	SI5	覆土下層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口縁に沿って縄文帯、RL・LR 横回で羽状文充填、ミガキ。
11	3	039	10	SI5	覆土中層	Ⅲ群4類	鉢	胴部	縄文帯(平行帯状?)、縄文帯にはRL・LR の横回で羽状。羽状の屈曲部に沈線。
11	4	035	10	SI5	覆土上層	Ⅲ群4類	鉢	胴部	ミガキ、縄文帯(平行帯状?)、RL・LR 横回の羽状文充填。
11	5	271	10	SI5	覆土上層	Ⅲ群4類	壺?	胴部	ミガキ、縄文帯(平行帯状文)、LR・RL 横回の羽状文充填。
11	6	036	10	SI5	覆土中層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	平口縁で口唇に突起、突起頂部に刻み、ミガキ、縄文帯(平行帯状文)、LR 充填。
11	7	040	10	SI5	覆土下層	Ⅲ群4類	注口OR壺	口縁	平口縁、縄文帯(平行帯状文)、RL・LR 充填、ミガキ。
11	8	037	10	SI5	覆土中層	Ⅲ群4類	注口	胴部	縄文帯(平行帯状)、RL 充填。
11	9	043	10	SI5	覆土下層	Ⅲ群4類	鉢	胴部	ミガキ、縄文帯(襷掛?)、LR 充填。
11	10	038	10	SI5	覆土中層	Ⅲ群3・4類	深鉢	口縁	RL 横回。P-70
11	11	034	10	SI5	床面直上	Ⅲ群	深鉢	胴～底部	底径10cm、LR 縦回。P-1、後期前半。
13	1	046	10	SI7	覆土	Ⅲ群2類	注口OR壺	胴部	LR 回転施文→沈線(平行、斜行)。
13	2	045	10	SI7	覆土	Ⅲ群4類	鉢	胴部	RL 横回(帯の間隔が広い)。
22	1	050	10	SK002	覆土	Ⅲ群4類	注口OR壺	胴部	貼瘤、平行沈線、沈線間に縦位の沈線。
22	2	051	10	SK002	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	多重沈線(5本)新しい要素。
22	3	052	10	SK003	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、返し部の下端に沿って沈線、入り組状沈線。
22	4	053	10	SK003	覆土	Ⅲ群1類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、口縁部にはLR 横回転施文、胴部にはLR が縦回転施文。
22	6	054	10	SK005	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	地文の原形は摩滅により不明、沈線(平行)。
22	7	055	10	SK011	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、沈線(平行)。
22	8	056	10	SK011	2層	Ⅲ群4類	注口OR壺	胴部	貼瘤、ミガキ、縄文帯(平行帯状、弧状)、LR 充填。
22	9	057	10	SK011	2層	Ⅲ群4類	鉢	口縁	波状口縁、口縁に沿って刻目帯。
22	10	059	10	SK011	2層	Ⅲ群4類	台付き鉢	胴部	土器の表裏に縄文施文、(表面)LR・RL 横回で羽状、(裏面)沈線、RL 横回。
22	11	058	10	SK011	2層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	LR 横回。
23	1	070	10	SK034	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口縁に突起、突起頂部に刻み、口縁に沿って刻目帯、ミガキ、縄文帯、LR・RL が充填。
23	3	076	10	SK081	覆土	Ⅲ群2類	鉢	口縁	口縁に沿ってLR 側圧。
23	4	077	10	SK081	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、沈線(平行)。
23	7	078	10	SK082	覆土	Ⅲ群2類	台付き土器	胴～脚部	底径4.8cm、沈線(平行、縦位区切り)。

図	番号	整番	年度	出土地点	層位	分類	器種	部位	特徴
23	8	079	10	SK082	覆土	Ⅲ群2類	鉢	胴部	沈線(平行)。
23	9	080	10	SK082	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、沈線(平行)。
23	10	081	10	SK082	覆土	Ⅲ群1類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、単絡1縦回、沈線。
23	11	085	10	SK095	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行、弧状区切り)、LR充填。
23	14	089	10	SK114	覆土	Ⅲ群2類	壺	胴部	隆沈線(平行、弧状)。
23	15	090	10	SK114	覆土	Ⅲ群2類	壺	頸部	無文、頸部に隆帯。ⅣX-59Ⅱ層と接合。
23	16	091	10	SK115	掘方	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行、斜行)。
23	17	092	10	SK162	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	隆沈線(斜行)。
23	19	152	10	SK173	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(弧状沈線の内側に沈線を充填)新しい要素。
23	20	153	10	SK175	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行、斜行)。
23	21	095	10	SK176	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	貼瘤、瘤を起点に沈線。
23	22	096	10	SK176	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行、入り組状)。
23	23	121	10	SK177	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	隆沈線。
23	24	097	10	SK177	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(方形)。
23	25	123	10	SK177	覆土	Ⅲ群	深鉢	口縁	無文。
23	27	098	10	SK178	覆土	Ⅲ群2類	壺	胴部	隆沈線(平行)。
23	28	099	10	SK180	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁の波頂部、波頂部に粘土紐貼り付け、折り返し状口縁。
23	29	102	10	SK184	覆土	Ⅲ群	深鉢	胴部	単絡1縦回。後期前半。
23	30	101	10	SK184	柱痕	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	折り返し状口縁。
24	1	103	10	SK190	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	隆沈線(平行、方形)。
24	2	104	10	SK190	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、口縁に沿って平行沈線。
24	4	105	10	SK191	覆土	Ⅲ群1類	深鉢	口縁	波状口縁、RL縦回転→口縁に沿って2条の平行沈線。
24	5	100	10	SK197	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(2条の平行、斜行)、沈線間に竹管工具による刺突。
24	7	106	10	SK198	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、口縁に沿って1条の沈線、斜行する2条の沈線。
24	8	107	10	SK199	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	隆沈線。
24	9	111	10	SK241	覆土	Ⅲ群2類	鉢	口縁	波状口縁、沈線(平行、入り組状)。
24	10	110	10	SK241	覆土	Ⅲ群1類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、沈線→LR縦回。
24	11	112	10	SK241	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行、渦巻き状?)、沈線間にLR充填。
24	17	113	10	SK249	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、返し部に沿って沈線。
24	18	115	10	SK257	覆土	Ⅲ群4類	鉢	胴部	ミガキ、縄文帯(平行帯状)、LR・RL横回の羽状文充填。
24	19	116	10	SK261	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	平口縁、貼瘤。
24	20	117	10	SK261	覆土	Ⅲ群4類	-	胴部	貼瘤、ミガキ、瘤を起点に沈線。
24	21	118	10	SK262	覆土	Ⅲ群3類	鉢	胴部	平行沈線で区画された内側に矢羽根状の沈線が施文。
24	22	120	10	SK262	柱痕	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	RL横回施文後に3条の平行沈線。
24	23	119	10	SK262	柱痕	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	隆沈線、隆起部にはRL回転。
24	24	126	10	SK264	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口縁小突起、口縁に沿って縄文帯、RL・LR充填。
24	25	127	10	SK264	覆土	Ⅲ群4類	鉢	胴部	ミガキ、縄文帯(木の葉状)、縄文帯にはRL充填。
24	26	125	10	SK264	覆土	Ⅲ群4類	壺OR注口	胴部	貼瘤、ミガキ、縄文帯(木の葉状?)、縄文帯には縄文が施文されているが原体不明。
24	27	124	10	SK264	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	LR・RLを2段単位で帯状に横回施文。
24	28	128	10	SK267	柱痕	Ⅲ群4類	鉢	胴部	ミガキ、縄文帯、LR充填。
24	29	129	10	SK267	柱痕	Ⅲ群4類	鉢	口縁	口縁に沿って刻目帯、沈線。
24	30	130	10	SK269	覆土	Ⅲ群2類	壺	胴部	隆沈線(方形)。
24	32	617	10	SK280	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	ミガキ、縄文帯、LR・RL充填。
24	33	131	10	SK280	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	ミガキ、縄文帯、LR・RL横回の羽状文充填。
24	34	144	10	SK402	覆土	Ⅲ群4類	-	胴部	貼瘤、瘤を起点に沈線。
24	35	149	10	SK422	柱痕	Ⅲ群2類	鉢	底部	底径5.6cm、沈線(2条の連弧状)。
24	36	150	10	SK422	柱痕	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	ミガキ、縄文帯(平行帯状)、LR充填、整148と同一?遺構は離れている。
39	1	060	10	SK018	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行、円形)。
39	2	061	10	SK020	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(方形)。
39	3	065	10	SK027	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、口縁に沿い2条の沈線、波頂部下に円形沈線。
39	4	063	10	SK024	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線。
39	5	064	10	SK024	覆土	Ⅲ群2類	鉢	口縁	折り返し状口縁、返し部に沿って沈線。
39	6	062	10	SK024	覆土	Ⅲ群	鉢	胴部	無文、後期前半。
39	7	066	10	SK029	1層	Ⅲ群3類	鉢	口縁	ミガキ、縄文帯(平行帯状)、LR充填。
39	9	067	10	SK030	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、口縁際に刺突、沈線(平行、弧状?)。
39	10	068	10	SK030	覆土	Ⅲ群2類	鉢	胴部	沈線(方形)。
39	12	069	10	SK033	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	隆沈線、沈線(弧状)。
39	14	075	10	SK037	2層	Ⅲ群2類	壺	胴部	沈線(方形、平行)。
39	15	074	10	SK037	覆土	Ⅲ群2類	鉢	胴部	沈線(平行、方形?)、LR充填。
39	16	083	10	SK086	3層	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行)、沈線間LR充填。
39	20	084	10	SK087	3・4層	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行、三角形)。
39	28	086	10	SK106	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	隆沈線、隆帯上に刺突。
39	30	087	10	SK109	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(弧状、斜行)。
40	1	094	10	SK168	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行)。
40	3	109	10	SK200	覆土	Ⅲ群4類	壺OR注口	胴部	貼瘤、瘤を起点に沈線。

図	番号	整番	年度	出土地点	層位	分類	器種	部位	特徴
40	4	108	10	SK200	覆土	Ⅲ群4類	鉢	胴部	縄文帯、RL充填。ミガキ。
40	6	154	10	SK279	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行、渦巻き状)。
40	8	132	10	SK338	覆土	Ⅲ群2類	壺	頸部	橋状把手、把手上沈線、器面には方形区画の沈線。
40	9	134	10	SK341	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	縄文帯(弧状?)、LR充填。
40	10	133	10	SK341	覆土	Ⅲ群2類	鉢	胴部	沈線(平行、斜行)。
40	12	135	10	SK348	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行、斜行)、沈線間にLR充填。
40	13	136	10	SK352	覆土	Ⅲ群2類	壺	肩部	沈線(平行)、沈線間にLR充填。
40	14	138	10	SK353	覆土	Ⅲ群2類	壺	胴部	沈線(弧状沈線の内側に沈線を充填)新しい要素。
40	15	137	10	SK353	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	蓮華花卉文、沈線(クランク状、平行)、クランク状の沈線間には縄文充填(原体不明)新しい要素。
40	17	139	10	SK354	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行)、沈線間にLRを充填。
40	19	140	10	SK355	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	波状口縁、口唇に小突起、貼瘤、縄文帯、LR充填。
40	20	141	10	SK355	覆土	Ⅲ群4類	鉢	胴部	刺突、ミガキ、縄文帯(平行帯状)、LR充填。
40	21	397	10	SK355	覆土	Ⅲ群4類	注口	注口	ミガキ。注口。
40	22	142	10	SK356	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	平口縁で口唇に小突起、突起頂部に刻み、突起の下位に瘤、瘤を挟んで左右対称に3条の平行沈線。
40	23	143	10	SK356	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	貼瘤、平行沈線。
40	25	618	10	SK410	覆土	Ⅲ群3・4類	深鉢	口縁	LR横回。
40	27	147	10	SK413	掘方	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、波頂付近に粘土紐を貼り付け、折り返し口縁、口縁の下端に沿って沈線。
40	28	146	10	SK413	柱痕	Ⅲ群	鉢	胴部～底部	無文。
40	29	145	10	SK413	柱痕	Ⅲ群	鉢	口縁～胴部	無文。
40	30	148	10	SK414	柱痕	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	ミガキ、縄文帯(平行帯状)、LR充填。整150と同一?遺構は離れている。
40	32	151	10	SK431	覆土	I群	深鉢	口縁	円筒下層d式、RL側面圧痕。
41	1	166	10	SK053	柱痕	Ⅲ群2類	壺	胴部	沈線(平行、渦巻き状)、LR充填。
41	2	167	10	SK055	確認面	Ⅲ群	深鉢	口縁	RL斜回。
41	5	168	10	SK059	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線。
41	7	169	10	SK062	掘方	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行、弧状)、LR充填。
41	8	174	10	SK078	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線。
41	9	175	10	SK078	覆土	Ⅲ群1類	深鉢	胴部	RL横回→RL側圧。
41	10	181	10	SK132	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(3本1組でクランク状、弧状区切り)。
41	11	182	10	SK140	覆土	Ⅲ群2類	壺	胴部	隆沈線(平行)、沈線(弧状、縦位の鎖状)。
41	12	184	10	SK150	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行、弧状区切り)。P-5
41	13	185	10	SK150	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口縁に沿って縄文帯、LR充填、ミガキ。
41	18	191	10	SK157	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行、弧状?)。
41	19	614	10	SK157	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(カニバサミ状、平行)、沈線内に縄文充填。
41	20	192	10	SK159	覆土	Ⅲ群2類	壺	口縁	平口縁、橋状把手、沈線(平行)。P-1
41	21	193	10	SK160	柱痕	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行、円状)。
41	22	244	10	SK160	確認面	Ⅲ群2類	壺	口縁	波状口縁、波頂部に粘土紐貼り付け、刺突、沈線。P-3
41	23	242	10	SK160	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	単絡1縦回→沈線(楕円形)。
41	24	243	10	SK160	覆土	Ⅲ群2類	鉢	口縁～底部	折り返し状口縁、沈線(平行、入り組状)。
41	25	194	10	SK201	掘方	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	小波状口縁、沈線(平行)。
41	27	195	10	SK218	掘方	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	LR横回。
41	28	196	10	SK218	掘方	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	LR・RLの横回で羽状。
41	29	217	10	SK378	確認面	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(横走、斜行)。P-3
41	30	218	10	SK379	掘方	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行、弧状)、LR充填。
41	32	220	10	SK380	覆土	Ⅲ群2類	壺	口縁	口唇に粘土紐貼り付け、隆沈線。
41	33	221	10	SK380	柱痕	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(楕円形、弧状)。
41	35	231	10	SK444	掘方	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(方形)。
41	36	238	10	SK455	覆土	Ⅲ群2類	鉢形	口縁	ミガキ、沈線(横走)。
42	1	223	10	SK390	掘方	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、沈線(格子目)。
42	6	224	10	SK393	掘方	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、沈線(平行、斜行)。
42	9	272	10	SK396	覆土	Ⅲ群2類	壺	口縁～胴部	口縁～頸部まで無文、沈線(2条の平行、入り組状、三角形)、節の非常に細かいLR充填。P-1、9、10。SK452覆土P-1と接合。
42	11	234	10	SK450	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(クランク状?)、LR充填。
42	13	235	10	SK451	掘方	Ⅲ群2類	鉢	口縁～胴部	沈線(平行、弧状)。
42	14	236	10	SK451	掘方	Ⅲ群2類	鉢	口縁	沈線(平行)。
42	15	237	10	SK451	柱痕	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行)、LR充填。
42	16	240	10	SK458	柱痕	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、沈線(平行)。
42	17	245	10	SK473	確認面	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	隆沈線(方形区画)。
58	1	157	10	SK041	掘方	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、返し部に沿って沈線、沈線(方形)。
58	3	158	10	SK042	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、返し部に沿って沈線、沈線(横走、斜行)。
58	4	159	10	SK046	3層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	平口縁、沈線(口縁に沿って横走)。
58	5	160	10	SK046	確認面	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(横走、斜行)。
58	6	161	10	SK047	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行、弧状)。
58	7	162	10	SK047	覆土	Ⅲ群2類	鉢	底部	底径4.1cm、沈線(平行)。
58	9	163	10	SK048	覆土	Ⅲ群2類	鉢	胴部	ミガキ、沈線(平行、クランク状)、LR充填。

図	番号	整番	年度	出土地点	層位	分類	器種	部位	特徴
58	10	164	10	SK048	確認面	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	平口縁、縄文帯(平行帯状)、RL充填。
58	12	165	10	SK049	覆土	Ⅲ群2類	鉢	胴部	沈線(平行、斜行)。
58	13	170	10	SK065	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(弧状、斜行)。
58	14	171	10	SK065	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	RL横回、沈線。
58	16	172	10	SK067	2層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行)、LR横回。
58	17	173	10	SK073	掘方	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行、弧状区切り、弧状)。
58	18	176	10	SK079	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(横走、弧状)。
58	19	178	10	SK127	1層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	沈線(弧状)、LR横回、ミガキ。
58	20	177	10	SK122	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、沈線(平行、弧状)。
58	23	179	10	SK129	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(方形、弧状)。
58	24	180	10	SK129	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(方形、平行)。
58	25	183	10	SK145	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行、斜行)。
59	1	189	10	SK151	1層	Ⅲ群2類	鉢	口縁	沈線(平行、入り組状)。
59	2	187	10	SK151	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、口縁に沿って2条の沈線。
59	3	188	10	SK151	掘方	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	LR横回→沈線(平行、クランク状)。
59	4	190	10	SK151	1・2層	Ⅲ群	深鉢	口縁	折り返し状口縁。後期前半。
59	5	186	10	SK151	覆土	Ⅲ群	深鉢	口縁～胴部	平口縁、内・外面ミガキ。
59	12	198	10	SK224	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(弧状)。
59	13	199	10	SK224	1層	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	LR、RL横回。
59	14	197	10	SK224	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口縁に沿って縄文帯、LR充填、ミガキ。
59	15	615	10	SK285	2層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	縄文帯、LR充填。口唇に縄文回転。
60	1	200	10	SK281	覆土	Ⅲ群1類	深鉢	略完形	口径21.2cm、器高29.2cm、底径9.6cm、7単位の小波状口縁、口縁に沿って2条の平行沈線、胴部には7単位の方形区画、区画中央には円形沈線、円形沈線は方形を区画している沈線に連結。P-13、14
60	2	201-a	10	SK281	覆土	Ⅲ群	深鉢	口縁～胴部	折り返し状口縁、口径(12cm)、平口縁、単絡1縦回、整201bと同一。P-7、9、10、12、15
60	3	202	10	SK281	覆土	Ⅲ群	鉢	略完形	口径17.5cm、器高21cm、底径9cm、単絡1縦回。P-11、13、14、16
60	4	204	10	SK281	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	隆沈線(方形、斜行)。
61	1	206	10	SK306	覆土	Ⅲ群1・2類	深鉢	口縁	LR縦回、沈線(平行、弧状区切り)。
61	2	207	10	SK306	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行)、充填された縄文は摩滅のため不明。
61	3	208	10	SK314	覆土	Ⅲ群4類	注口	胴部	ミガキ、縄文帯、RL充填。
61	4	616	10	SK319	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	縄文帯、LR充填。
61	5	209	10	SK319	覆土	Ⅲ群2類	壺	胴部	沈線(クランク状?)、LR充填。
61	7	210	10	SK320	確認面	Ⅲ群4類	台付き土器	略完形	口唇に小突起貼り付け、LR回転、内面ミガキ。P-1
61	8	211	10	SK363	1層(柱痕)	Ⅲ群4類	深鉢	口縁～胴部	平口縁、口唇に小突起貼り付け、口縁から頸部屈曲部まではLRを回転施文後、4本の弧状沈線が施文、胴部は木の葉状の縄文帯、LR充填。
61	9	212	10	SK365	覆土	Ⅲ群	深鉢	口縁	単絡1縦回。
61	10	213	10	SK371	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行)。
61	11	215	10	SK372	1層	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行)、沈線間にLR充填。
61	12	216	10	SK372	2層	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	LR横回→沈線(クランク状)。
61	13	214	10	SK372	覆土	Ⅲ群2類	壺	頸部	橋状把手。
61	14	225	10	SK397	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	隆沈線。
61	15	229	10	SK397	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	波状口縁、ミガキ、縄文帯(平行帯状)、LR・RL充填。VU-55と接合。
61	16	227	10	SK397	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	波状口縁、ミガキ、縄文帯(平行帯状)、LR・RL充填。
61	17	226	10	SK397	覆土	Ⅲ群4類	壺OR注口	胴部	ミガキ、縄文帯(平行帯状)、LR・RL横回の羽状文充填。
61	18	228	10	SK397	覆土	Ⅲ群4類	壺OR注口	胴部	ミガキ、縄文帯、LR・RL充填。
61	19	230	10	SK398	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行、弧状)。
61	20	241	10	SK468	柱痕	Ⅲ群2類	鉢	口縁	沈線(平行、楕円形)。
61	21	232	10	SK445	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	隆沈線(方形)。
61	22	233	10	SK445	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	隆沈線(方形)、口唇に粘土紐貼り付け。
61	23	239	10	SK456	掘方	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(横走、斜行)。
61	24	246	10	SK522	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	LR・RL横回。
61	25	247	10	SK522	柱痕	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	隆沈線(平行、方形)、内面にも沈線。
75	1	047	10	SR1	-	Ⅲ群4類	深鉢	口縁～胴部	ミガキ、貼瘤、貼瘤頂部に刻み、口縁と胴部屈曲部に縄文帯(平行帯状)、LR充填。
76	1	049	10	SR4	-	Ⅲ群1類	深鉢	略完形	略完形、口径19.8cm、器高30.5cm、底径10.8cm、RL縦回→沈線(平行、三角形、円形、S字状)。
76	2	396	10	SR3	-	Ⅲ群2類	壺	胴部	沈線(横走)。
76	3	048	10	SR3	-	Ⅲ群	壺	底部	無文(弱いミガキ)、底径13cm。
97	1	248	10	SP007	2層	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	隆沈線。
97	6	249	10	SP033	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	LR・RL横回で羽状、沈線。
97	8	262	10	SP076	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	LR横回→沈線(平行、方形)。
97	9	263	10	SP077	柱痕	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行、弧状区切り?)、沈線間に刺突。
97	12	264	10	SP091	覆土	Ⅲ群1・2類	深鉢	口縁	波状口縁、折り返し状口縁、沈線、RL横回。
97	13	265	10	SP091	覆土	Ⅲ群1・2類	深鉢	口縁	口縁無文(弱いミガキ)、沈線。

図	番号	整番	年度	出土地点	層位	分類	器種	部位	特徴
97	15	251	10	SP113	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、沈線→RL横回。
97	16	252	10	SP117	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	LR横回→沈線(平行)。IVT-52と接合。
97	17	082	10	SP124	1層	Ⅲ群4類	壺?	口縁	貼瘤、ミガキ。
97	18	253	10	SP120	覆土	Ⅲ群2類	壺	肩部	沈線(入り組状、平行)、LR充填。
97	19	254	10	SP127	覆土	Ⅲ群	深鉢	胴部	単絡1縦回。
98	2	255	10	SP141	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(渦巻き状、斜行)、LR充填?
98	3	256	10	SP149	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行)、RL回転。
98	4	273	10	SP224	覆土	Ⅲ群	深鉢	口縁	LRL横回。
98	5	257	10	SP239	覆土	Ⅲ群	深鉢	胴部	単絡1斜回→沈線(横走)。
98	6	258	10	SP242	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(円形、弧状)。
98	7	275	10	SP304	覆土	Ⅲ群4類	-	胴部	貼瘤。
98	8	398	10	SP304	覆土	Ⅲ群4類	注口	注口	ミガキ、貼瘤、沈線。注口。
98	9	259	10	SP305	覆土	Ⅲ群4類	-	胴部	貼瘤、縄文(原体不明)回転。
98	10	260	10	SP336	覆土	Ⅲ群2類	壺	肩部	沈線(平行)。
98	12	274	10	SP279	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	平口縁、ミガキ、縄文帯(平行带状)、RL充填。
98	15	267	10	SP492	覆土	Ⅲ群	深鉢	口縁	口径(18cm)、無文(弱いミガキ)。
98	16	266	10	SP363	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	隆沈線、隆帯及び口唇に刺突。
98	18	268	10	SP567	覆土	Ⅲ群2類	鉢	胴部	沈線(平行、楕円形)。
98	19	261	10	SP605	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	LR横回→沈線(平行、斜行)。
98	20	276	10	SP758	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行、斜行)。
98	23	269	10	SP682	覆土	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(入り組状)。
98	24	270	10	SP682	覆土	Ⅲ群	深鉢	胴部	単絡1縦回→沈線(平行)。
100	1	311	10	IVU-60	Ⅱ層	Ⅲ群1類	深鉢	口縁～胴部	口径16.6cm、4単位の波状口縁、波状部には隆帯貼り付け、隆帯の縁辺及び口頸部の屈曲部に沿って沈線、口縁部縄文帯は無文(弱いミガキ)、胴部文様は単絡1を縦回後沈線(縦位方向へ長い波状)施文。
100	2	309	10	IVT-59	Ⅱ層	Ⅲ群1類	深鉢	略完形	口縁小波状、口径22cm、器高25.8cm、底径7cm、口縁無文、胴部RL縦回→沈線(波状、渦巻き状)。P-14
100	3	310	10	IVT-59	Ⅱ層	Ⅲ群1類	深鉢	胴部～底部	底径7.8cm、LR縦回→沈線(平行、弧状、三角形状、円状)。
100	4	359	10	IVU-60	Ⅱ層	Ⅲ群1類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、LR縦回→沈線。
100	5	342	10	IVT-60	Ⅱ層	Ⅲ群1類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、LR縦回→沈線。
100	6	362	10	IVU-60	Ⅱ層	Ⅲ群1類	深鉢	口縁	沈線、LR充填。
100	7	071	10	IVV-61	覆土	Ⅲ群1類	深鉢	胴部	RL横回→沈線(平行、蛇行、沈線の屈曲点に刺突が施されている箇所もあり)。
100	8	320	9	IVU-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁～胴部	口縁は弱い波状口縁、波頂部の下位には円形状の隆帯、また口縁部縄文帯は隆沈線、胴部文様は沈線(弧状、入り組状)。PC-18
100	9	350	10	IVU-59	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	隆沈線(方形状)。
100	10	354	9	IVU-59	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	隆沈線(方形状)。PC-51
100	11	305	10	VA-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	隆沈線(方形状)。
100	12	281	10	IVV-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	鉢	口縁	隆沈線(方形区画)。
100	13	334	10	IVT-59	Ⅱ層	Ⅲ群2類	鉢	口縁	隆沈線(平行)。
100	14	344	10	IVT-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	壺	口縁	折り返し状口縁、鋸歯状に粘土紐貼り付け。
100	15	335	10	IVT-59	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、波頂部に隆帯、沈線(楕円形状、弧状)。
100	16	343	10	IVT-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	壺	口縁	口縁に沿って隆帯を貼り付け、その隆帯に深い沈線を施す。地文を施文しているが摩滅のため原体不明。沈線(平行)。
100	17	288	10	IVX-59	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、波頂部には垂下する隆帯貼り付け、隆帯は2本の粘土紐を交互に貼り付け、沈線(平行)。
101	1	283	9	IVW-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、口縁に沿って隆帯を2本貼り付け、隆帯上には棒状工具による刺突、沈線(入り組状)、沈線間にLR充填(節が非常に細かい)。PC-10
101	2	331	10	IVT-59	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	胴部屈曲部に隆帯貼り付け、隆帯上に刺突、また隆帯の端部に沿って刺突列、沈線、沈線間に櫛歯状沈線を充填。P-10
101	3	356	10	IVU-59	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁の波頂部、隆帯を貼り付け、隆帯上及び口唇に刺突。
101	4	363	10	IVU-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(横走、C字状)、竹管工具による刺突。
101	5	351	10	IVU-59	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(方形状)。
101	6	329	10	IVS-58	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、波頂部に刻み、沈線(平行、弧状区切り、波状)。
101	7	358	9	南区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線、沈線間に櫛歯状沈線を充填。PC-19
101	8	323	10	IVU-59	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線、沈線間に櫛歯状沈線を充填。P-1
101	9	349	10	IVU-59	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線、沈線間に櫛歯状沈線を充填。
101	10	321	10	IVR-58	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、波頂部の口唇端に刻み、沈線(3本一組の平行、斜行)。PC-52
101	11	339	9	IVT-59	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、沈線(平行、斜行)。PC-45
101	12	287	10	IVX-58	Ⅱ層	Ⅲ群2類	鉢	胴部	沈線(平行、斜行)。
101	13	307	10	IVU-59	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	略完形	平口縁、口径22.6cm、器高30cm、底径10.6cm、沈線(平行、弧状区切り、三角形状)。P-5
101	14	312	9	IVT-59	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	略完形	弱い波状口縁、口径22.5cm、器高28.5cm、底径10.5cm、沈線(平行、斜行)。PC-48
102	1	313	9	IVU-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	壺	略完形	平口縁、口径9.2cm、器高28.6cm、底径(10cm)、胴部最大径24.5cm、沈線(平行、輪ゴム状、円状)。PC-21

図	番号	整番	年度	出土地点	層位	分類	器種	部位	特徴
102	2	314	9	IVU-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	壺	口縁	波状口縁、口径(23.5cm)、橋状把手、把手上には斜行沈線、胴部文様:沈線(平行)。PC-20
102	3	315	10	IVT-59・60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	壺	口縁	波状口縁、口縁部縄文帯隆沈線、橋状把手、把手上粘土紐貼り付け、沈線(方形区画)。P-9、10
102	4	317	10	IVU-61	Ⅱ層	Ⅲ群2類	壺	底部	底径(9.0cm)、沈線(横走、弧状、S字状)。
102	5	318	10	IVU-59	Ⅱ層	Ⅲ群2類	壺	底部	底径2.7cm、底面から器体上側に向かって刻みが2箇所、沈線(平行)。
102	6	297	9	IVY-59	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁~胴部	沈線(平行、円形、斜行)、沈線間に縄文充填。PC-44
102	7	322	10	IVU-61	Ⅱ層	Ⅲ群2類	鉢	口縁~胴部	波状口縁、沈線(平行、弧状区切り)、LR充填。PC-61
102	8	341	10	IVT-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行、入り組状)、LR充填(節が非常に細かい)。
102	9	301	9	VA-59	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行、入り組状)、LR充填。
102	10	296	10	IVX-61	Ⅱ層	Ⅲ群2類	鉢	胴部	沈線(入り組状?)、LR充填。
102	11	293	10	IVX-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(クランク状、入り組状?)、LR充填。
102	12	337	10	IVT-59	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	口縁に沿ってLR横回、沈線(横走、弧状)。
102	13	292	9	IVX-60	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、折り返し状口縁、沈線(平行、三角形状、方形状)、単絡1充填、一部単絡1を切る沈線もある。PC-04
102	14	361	10	IVU-60	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁	口縁部付近無文、沈線(横走、入り組状?)、単絡1充填。
102	15	304	10	VA-60	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁	単絡1回転施文後に沈線(平行、入り組状)。
102	16	338	10	攪乱 IVT-59	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁	波状口縁、波頂部の口唇端に刻み、単絡1縦回、沈線(横走)。
102	17	298	9	IVY-59	Ⅱ層	Ⅲ群	鉢	口縁	口縁際に沈線と単絡1横回、胴部は単絡1縦回。PC-16
102	18	289	10	IVX-59	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁	折り返し状口縁、単絡1縦回。
102	19	336	10	IVT-59	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁	単絡1横回。
103	1	386	9	南区環状外	表採	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口縁に沿って刻目帯3列、沈線、ミガキ。
103	2	340	10	IVT-60	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口縁に沿って刻目帯2列、沈線。
103	3	381	9	南区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口唇に沿って刻目帯、縄文帯(入り組状)、RL、LR充填。
103	4	385	9	南区環状外	Ⅲ層上	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口縁に沿って刻目帯2列、沈線、ミガキ。
103	5	072	10	IVV-61	覆土	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口縁に沿って刻目帯。
103	6	299	10	IVY-59	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口縁に沿って刻目帯2列。
103	7	345	10	IVT-62	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口縁に沿って刻目帯2列、沈線、縄文帯、LR充填。
103	8	360	10	IVU-60	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	縄文帯、LR・RL横回の羽状文充填。
103	9	369	10	IVR-54 IVS-56	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	LR・RL横回で羽状。
103	10	316	10	IVU-61	Ⅱ層	Ⅲ群4類	鉢	略完形	口径(15.4cm)、器高9.3cm、底径2.4cm、平口縁、ミガキ、縄文帯(幅広の平行帯状)、LR・RL充填。
103	11	327	10	南区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口唇に小突起、ミガキ、縄文帯(平行帯状)、LR・RL横回の羽状文充填。
103	12	387	9	南区環状外	表採	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	RL・LR横回。
103	13	388	9	南区環状外	I層	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	RL・LR横回で羽状。
103	14	375	10	IVT-53	攪乱	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	LR・RL横回で羽状。
103	15	355	10	IVU-59	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	LR・RL横回で羽状。
103	16	373	10	IVS-54	攪乱	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	ミガキ、縄文帯、LR・RL充填。
103	17	384	9	南区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	鉢	口縁	波状口縁、口縁に沿って刻目帯、ミガキ、貼瘤。
103	18	367	10	IVR-54	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口縁小突起、突起頂部に刻み、突起下位に貼瘤、口縁に沿って縄文帯、LR充填。
103	19	383	9	南区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	壺	口縁	貼瘤、沈線、口縁部にLR回転、ミガキ。
103	20	357	10	IVU-59	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	貼瘤、縄文帯、LR充填。
103	21	374	10	IVT-53	攪乱	Ⅲ群4類	壺OR注口	胴部	貼瘤、LR施文後に沈線、ミガキ。
103	22	371	10	IVS-53	風倒木	Ⅲ群4類	壺OR注口	胴部	貼瘤。
103	23	390	9	南区環状外	排土	Ⅲ群4類	-	胴部	貼瘤。
103	24	114	10	IVY-53	覆土	Ⅲ群4類	-	胴部	貼瘤。
103	25	389	9	南区環状外	排土	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	縄文帯(入り組状)、RL充填、文様の起点に貼瘤。
103	26	286	10	IVW-61	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	貼瘤、沈線。
103	27	346	9	IVU-57	Ⅱ層	Ⅲ群4類	注口?	胴部	貼瘤、沈線、土器表面に赤色顔料残存。RP-1
103	28	347	9	IVU-57	Ⅱ層	Ⅲ群4類	注口?	胴部	貼瘤、瘤を起点に刻目帯、ミガキ。RP-1
103	29	306	10	VA-61	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	貼瘤、沈線(平行)。
103	30	372	10	IVS-53	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	貼瘤、沈線。
103	31	376	10	IVT-53	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口縁小突起、突起頂部は指頭圧痕、沈線、貼瘤。
103	32	382	9	南区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口縁に沿って縄文帯、RL充填、ミガキ顕著。
103	33	364	10	IVX-53	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口唇に小突起、突起頂部に刻み、口縁に沿って縄文帯、LR充填。
103	34	073	10	IVV-61	覆土	Ⅲ群4類	鉢	胴部	ミガキ、縄文帯、LR充填。
103	35	365	10	VA-52	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	ミガキ、縄文帯(平行帯状)、LR充填。
103	36	370	10	IVS-53	風倒木	Ⅲ群4類	壺	口縁	口唇に小突起、地文にLR回転施文後沈線、ミガキ顕著。
103	37	380	9	南区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	壺	胴部	沈線、縄文帯(入り組状)、LR充填。
103	38	282	10	IVV-61	Ⅱ層	Ⅲ群4類	壺OR注口	胴部	ミガキ、縄文帯(樽状)、LR充填。
103	39	303	10	VA-60	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	平口縁、口唇に小突起貼り付け、LR横回。
103	40	368	10	IVR-54	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	RL横回。
103	41	366	10	VA-54	Ⅱ層	Ⅲ群3類	壺	頸部	器面は磨かれており、黒い光沢を帯びている。また、内面の屈曲部も磨かれている。隆帯貼り付け。

図	番号	整番	年度	出土地点	層位	分類	器種	部位	特 徴
103	42	393	9	南区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	注口	注口	ミガキ、注口の根元に貼瘤。注口-3
103	43	395	9	IVX-59	Ⅱ層	Ⅲ群4類	注口	注口	ミガキ。注口-4
103	44	391	9	南区環状外	排土	Ⅲ群4類	注口	注口	注口の根元に貼瘤、LR回転。
103	45	392	9	南区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	注口	注口	注口の根元が袋状にふくらむ、ミガキ顕著。注口-1
103	46	394	10	IVW-60	Ⅱ層	Ⅲ群4類	注口	注口	ミガキ、沈線。
103	47	353	10	IVU-59	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁～胴部	口縁無文(弱いミガキ)、胴部RL縦回。
103	48	294	10	IVX-60	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁	折り返し状口縁、縄文施文(摩滅のため原体不明)。
103	49	295	10	IVX-61	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁	折り返し状口縁、LR横回。
103	50	285	10	IVW-60	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁	口縁際にLR側面圧痕、LR横回。
103	51	290	10	IVX-59	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁	折り返し状口縁、無文(弱いミガキ)。
103	52	348	9	IVU-59	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁～胴部	無文(弱いミガキ)。PC-24
104	1	280	9	IVW-59	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	略完形	無文(弱いミガキ)、口径25.6cm、器高31.8cm、底径9.5cm。PC-34
104	2	308	10	IVT-59	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁～胴部	平口縁、口径22cm、無文(弱いミガキ)。P-11。IVT-59と接合。
104	3	277	10	VD-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	壺OR注口	口縁	波状口縁、波頂部に粘土紐貼り付け、折り返し状口縁、沈線(平行、円形)。
104	4	278	10	VD-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	鉢	胴部	沈線(平行、斜行、弧状区切り)。
104	5	557	9	北区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口縁に沿って刻目帯2列、沈線、ミガキ。
104	6	279	10	VG-54	I層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	LR横回。
104	7	540	10	VJ-55	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁	LR縦回。
104	8	543	10	VP-57	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁	RL横・斜回。
104	9	542	10	VK-55	I層	Ⅲ群4類	鉢	胴部	LR横回、RL縦回、原体の異なる縄文を施文している事から後葉に含めた。
104	10	541	10	VK-55	I層	Ⅲ群	深鉢	口縁	LR横回。
104	11	551	9	環状部	不明	Ⅲ群4類	注口	注口	貼瘤多数、瘤を起点に沈線施文。注-4
104	12	556	10	VN-59	Ⅱ層	Ⅲ群1類	深鉢	胴部	地文にRL回転→沈線。
104	13	553	10	VL-57	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行、弧状)。
104	14	552	10	VL-56	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	縄文帯、RL充填。
104	15	554	10	VN-59	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁	RL斜回、沈線(弧状)。
105	1	539	9	VS-59	Ⅱa、Ⅱc層	I群	深鉢	口縁～胴部	口縁部:LR・RL側圧、胴部:単絡1縦回。
105	2	494	9	北区環状外	Ⅱ層	I群	深鉢	口縁	口縁:RL側圧、胴部:RL横回、斜回。
105	3	549	9	VS以北	Ⅱa、Ⅱc層	I群	深鉢	口縁～胴部	口縁:単絡1横回、胴部:単絡1縦回。
105	4	435	10	VIB-61	Ⅱ層	Ⅱ群1類	深鉢	胴部	刺突、隆帯、隆帯上(縄文原体側圧)。整458と同一?
105	5	458	10	VIA-61	Ⅱ層下部	Ⅱ群1類	深鉢	口縁	波状口縁、刺突、隆帯(R側圧)、貫通孔。整435と同一?
105	6	462	10	VIB-61	Ⅱ層	Ⅱ群2類	鉢	口縁～胴部	沈線(弧状)、LR充填。
105	7	515	10	VX-55	Ⅱ層	Ⅱ群2類	深鉢	胴部	沈線、LR充填。
105	8	439	10	VD-62	Ⅱ層	Ⅲ群1類	深鉢	口縁	RL縦回→沈線(平行、楕円形状)。
105	9	525	9	VX-59	Ⅱa層	Ⅲ群1類	深鉢	口縁	LR縦回→沈線。
105	10	550	9	VS-59	Ⅱa層	Ⅲ群1類	深鉢	口縁	口唇に角張った隆帯を貼り付け、隆帯上ミガキ顕著、口縁に沿って沈線、LR縦回。
105	11	493	9	北区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群1類	深鉢	口縁	波状口縁、LR回転施文後沈線(入り組状)。
105	12	475	10	VIC-60	Ⅱ層	Ⅲ群1類	深鉢	口縁	波状口縁、隆帯貼り付け、隆帯上に刻み。
105	13	530	9	VX-59	Ⅱa層	Ⅲ群1類	深鉢	胴部	隆帯、隆帯上に連続する刻み、刺突列。整529と同一。
105	14	449	10	VW-60	Ⅱ層	Ⅲ群1類	深鉢	略完形	口径17.7cm、器高29.5cm、底径8.0cm、RLを横位に側圧し文様帯を区画、区画内では斜位に側圧、RL横、斜回、底面に網代痕。VW-59と接合。
105	15	418	10	VIA-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、波頂部には波頂部から垂下する隆帯を中心として菱形の隆帯が貼り付け、隆帯上及び器面には竹管工具による刺突、沈線。整535と同一?
105	16	535	9	VY-59	Ⅱa層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	整418と同一?
105	17	522	9	VW-59	Ⅱa層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	口唇及び器面に輪ゴム状の隆帯貼り付け、隆帯上刺突。
105	18	443	10	VID-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	隆沈線、隆帯部に刺突。
105	19	548	9	VS以北	Ⅱa層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	隆沈線(円形、方形状、入り組状)。
105	20	420	10	VIA-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、波頂部に粘土紐貼り付け、隆沈線(円形、方形状)。
105	21	526	9	VX以北	Ⅱa層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、波頂部に輪ゴム状の粘土紐貼り付け、その中央に刺突、波頂部から垂下する隆帯、折り返し状口縁、沈線。
105	22	468	10	VIB-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、波頂部には粘土紐貼り付け、折り返し状口縁、隆帯、沈線(入り組状)。
105	23	427	10	VIA-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、沈線(平行、方形)。
105	24	425	10	VIA-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行、楕円形状)、沈線間には棒状工具による刺突。
105	25	432	10	VIB-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、沈線(平行、斜行)。
105	26	478	10	VIC-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	折り返し状口縁、沈線(横走、方形状)。
105	27	440	10	VID-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行、弧状区切り)。
105	28	469	10	VIB-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行、入り組状)。
105	29	424	10	VIA-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線(平行、弧状)。

図	番号	整番	年度	出土地点	層位	分類	器種	部位	特徴
105	30	465	10	VIB-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、波頂部の口唇には刻み、刻みの中央には刺突、沈線(円状、方形状)。
106	1	436	10	VID-59-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁～胴部	沈線(平行、入り組状)。
106	2	487	10	VY-61	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、口唇部に刻み、5～6本の多重沈線(平行、円状)、内面にも沈線1条。
106	3	477	10	VIC-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線、沈線間に櫛歯状沈線を充填。
106	4	423	10	VIA-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線、沈線間に櫛歯状沈線を充填。
106	5	467	10	VIB-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線、沈線間に櫛歯状沈線を充填。
106	6	433	10	VIB-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	沈線、沈線間に櫛歯状沈線を充填。
106	7	536	9	VY-59	Ⅱa層	Ⅲ群2類	鉢	口縁	沈線(平行、入り組状)。
106	8	426	10	VIA-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	鉢	口縁	波状口縁、波頂部にボタン状の突起貼り付け、沈線(平行、方形状)。
106	9	428	10	VIA-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	鉢	胴部	沈線(平行、斜行)。
106	10	408	10	VIA-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	鉢	略完形	口径6.7cm、器高5.4cm、底径4cm、平口縁、沈線(平行、弧状区切り、弧状)、底面に円形の沈線。小型。
106	11	412	10	VIA-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	鉢	胴部～底部	底径(5.0cm)、沈線(平行、入り組状)。
106	12	454	10	VIB-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	壺	口縁	波状口縁、波頂部から垂下する隆帯、沈線(方形状)。
106	13	402	10	VIM-60	Ⅱ-3層	Ⅲ群2類	壺	口縁～胴部	波状口縁、口径(8.0cm)、沈線(口縁部:波状、胴部:入り組状、沈線)。整403と同一。
106	14	403	10	VIM-60	Ⅱ-3層	Ⅲ群2類	壺	頸部～胴部	沈線(平行、入り組状、入り組状沈線と平行沈線を結ぶ弧状沈線)。整402と同一。
106	15	413	10	VIA-62	不明	Ⅲ群2類	鉢	胴部～底部	底径4.4cm、沈線(方形状、平行)。
106	16	537	9	VS-55	確認面	Ⅲ群2類	壺	略完形	口径(13.2cm)、器高34.1cm、底径14.2cm、胴部最大径26.6cm、口頸部及び胴部最大径付近の文様は隆沈線(平行、方形、弧状区切り)、他は沈線(入り組状、三角形)。P-2、3、7、8、10、11、12、13、14、16、17、18、21、22、24、25、26、29、32、40、43、44、45、46、47、49、52、53、54、55、56、57、60、64、X。PC-01
106	17	452	10	VIC-D-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	壺	口縁～胴部	口径11.2cm、平口縁、橋状把手、沈線(平行、方形状、弧状区切り、入り組状)。
106	18	453	10	VIB-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	壺	胴部	胴部最大径18.8cm、沈線(平行、方形状、入り組状が縦位に)。
106	19	415	10	VID-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	鉢	底部	底径7.0cm、胴部:沈線(横走)、底部:沈線(二重の円、内側の円と外側の円を繋ぐ弧状沈線)。
106	20	533	9	VY-59	Ⅱa層	Ⅲ群2類	深鉢	底部	底径7.4cm、沈線(円形、方形)、上げ底状底面、底面に円形沈線。
106	21	421	10	VIA-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、波頂部の口唇端に刻み、折り返し状口縁、沈線、RL充填。
106	22	437	10	VID-61	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、口唇端刻み、沈線(横走、方形状)、LR充填。
106	23	441	10	VID-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、沈線(平行、楕円形状)、LR充填。
106	24	419	10	VIA-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、波頂部に刻み、沈線(平行、方形状)、LR充填。
106	25	406	10	VIN-60	Ⅱ-3層	Ⅲ群2類	深鉢	胴～底部	底径7.4cm、沈線(平行、弧状)、L充填。整405と同一。
107	1	404	10	VIN-60	Ⅱ-3層	Ⅲ群2類	鉢	口縁～胴部	波状口縁、波頂部に刻み、波頂部下には4単位の刺突、沈線(方形区画、クランク状)、LR(節の非常に細かい)充填。
107	2	430	10	VIA-63	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、口唇端に刻み、刺突、沈線(平行、方形状)、LR充填。
107	3	500	9	北区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(方形)、LR充填。
107	4	466	10	VIB-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁	波状口縁、沈線(平行)、LR充填。
107	5	470	10	VIB-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(縦弧状、斜行)、RL充填。
107	6	405	10	VIN-60	Ⅱ-3層	Ⅲ群2類	鉢	口縁～胴部	平口縁、口径(20.0cm)、口縁に沿って縄文帯、沈線(波状、平行)、L充填。整406と同一。
107	7	472	10	VIB-63	Ⅱ層	Ⅲ群2類	鉢	口縁～胴部	沈線(平行、方形、入り組状)、RL充填。
107	8	474	10	VIC-60	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	口縁～胴部	沈線(平行、入り組状、渦巻き状)、LR充填。
107	9	489	10	VY-61	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(平行、弧状)、LR充填。
107	10	482	10	VU-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	深鉢	胴部	沈線(入り組状)、LR充填。
107	11	417	10	VIA-61	Ⅱ層	Ⅲ群2類	鉢	胴部	沈線(入り組状)、RL充填。
107	12	429	10	VIA-62	Ⅱ層	Ⅲ群2類	鉢	胴部	沈線(弧状、方形状)、縄文充填。
107	13	459	10	VIA-61	Ⅱ層	Ⅲ群2・3類	深鉢	口縁	口縁の内面に粘土を貼り付け肥厚化させている。口唇及び口縁に沈線(平行)、RL横回。
107	14	480	10	VIC-62	Ⅱ層	Ⅲ群3類	鉢	口縁	沈線(矢羽根状)。
107	15	410	10	VID-62	Ⅱ層	Ⅲ群3・4類	鉢	略完形	口径16.7cm、器高8.1cm、底径5.8cm、平口縁、ミガキ顕著、縄文帯(平行帯状)、縄文帯にLR充填。
107	16	414	10	VID-62	Ⅱ層	Ⅲ群3・4類	鉢	口縁～胴部	平口縁、縄文帯(平行帯状)、縄文帯にLR充填。
107	17	528	9	VX-59	Ⅱa層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口縁に沿って刻目帯、沈線、ミガキ。
107	18	497	9	北区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	波状口縁、波頂部内面の肥厚している部分に貫通孔、口縁に沿って縄文帯、LR・RL横回の羽状文充填、ミガキ。
107	19	513	10	VU-55	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	波状口縁、波頂部突起、ミガキ、LR・RL横回羽状。
107	20	496	9	北区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	縄文帯、LR・RL横回の羽状文充填、ミガキ。
107	21	499	9	北区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	縄文帯、LR・RL横回の羽状文充填、ミガキ。
107	22	501	9	北区環状外	Ⅱa層	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	縄文帯(平行帯状、入り組状?)、LR・RL横回の羽状文充填。
107	23	448	10	VG-67	Ⅱ層	Ⅲ群4類	壺OR注口	頸部	ミガキ、縄文帯(平行帯状)、縄文帯内にはLR・RL横回(羽状になる縄文帯もある)。

図	番号	整番	年度	出土地点	層位	分類	器種	部位	特徴
107	24	514	10	VU-55	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	LR・RL 横回で羽状。
107	25	484	10	VV-60	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	沈線(平行)、ミガキ、LR、RL 充填。
107	26	512	10	VIB-55	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	RL 回転。
107	27	485	10	VV-61	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	LR・RL 横回で羽状。
107	28	498	9	北区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	LR・RL 横回で羽状。
107	29	544	10	VQ-55	褐色土層	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	LR・RL 横回、文様間は若干隙間が空く。
107	30	481	10	VT-61	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	LR 横回→沈線(平行)、ミガキ。
107	31	490	10	VY-62	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	LR 横回→沈線、ミガキ。
107	32	488	10	VY-61	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	整486と同一、縄文帯(入り組状)、RL 充填。
107	33	442	10	VID-62	Ⅱ層	Ⅲ群4類	鉢	胴部	ミガキ、縄文帯(木の葉状)、LR 充填。
107	34	504	9	北区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	縄文帯(入り組状)、RL 充填。
107	35	511	10	VIB-55	Ⅱ層	Ⅲ群4類	壺OR注口	口頸部	沈線、ミガキ、縄文帯(平行帯状、入り組状)、LR・RL 横回 の羽状文充填。
107	36	486	10	VY-61	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	RL 横回→沈線(平行、入り組状)、ミガキ、胎土・色調及び ミガキの度合いが後期後葉とした整409に似る。 整488と同一。
107	37	516	9	VU以北	Ⅱa層	Ⅲ群4類	鉢	胴部	縄文帯(平行帯状)、LR 充填、ミガキ顕著。
107	38	476	10	VIC-60	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	ミガキ顕著、縄文帯(入り組状)、縄文帯にはLR 充填。
108	1	409	10	VIC-D-62	Ⅱ層	Ⅲ群4類	鉢	口縁～胴部	口径(20.0cm)、胴部最大径23cm、平口縁、口縁無文(弱い ミガキ)、縄文帯(平行帯状、コの字状)、LR 充填。
108	2	455	9	北区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	壺	口縁	平口縁、口唇に小突起、ミガキ顕著、口縁に沿って縄文帯、 LR 充填、貼瘤。
108	3	547	10	VS-56	攪乱	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	貼瘤、縄文帯(平行帯状、木の葉状、クランク状?)、RL 充 填。
108	4	447	10	VIG-67	Ⅱ層	Ⅲ群4類	鉢	胴部	縄文帯(入り組状)、LR 充填、貼瘤、瘤の頂部に刻み。
108	5	545	10	VR-55	I層	Ⅲ群4類	壺OR注口	胴部	貼瘤、ミガキ、縄文帯(木の葉状)、縄文帯にはLR・RL 羽 状。整546と同一?
108	6	523	9	VW-59	Ⅱa層	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	貼瘤、ミガキ、縄文帯(平行帯状)、縄文帯にはRL 充填。
108	7	507	9	北区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	貼瘤、縄文帯(平行帯状)、LR 充填、弱いミガキ。 整506と同一。
108	8	506	9	北区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	貼瘤、縄文帯(平行帯状)、LR 充填。整507と同一。
108	9	546	10	VR-55	I層	Ⅲ群4類	壺OR注口	口頸部	ミガキ、貼瘤、縄文帯(平行帯状)、LR 充填、所によりLR とRLを充填している箇所もある。整545と同一?
108	10	502	9	北区環状外	Ⅱa層	Ⅲ群4類	深鉢	胴部	貼瘤、弱いミガキ。
108	11	446	10	VIG-67	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	波状口縁、口唇小突起、突起頂部に刻みを施し、頂部は二股 になる。貼瘤、縄文帯、LR 充填、ミガキ。
108	12	510	10	VIB-55	Ⅱ層	Ⅲ群4類	注口	注口	ミガキ、注口の根元に沈線。
108	13	509	9	北区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	注口	注口	縄文帯、LR 充填、ミガキ顕著。
108	14	416	10	VIA-61	Ⅱ層	Ⅲ群4類	鉢	口縁	LR 横回、口唇端にもLR 回転。
108	15	505	9	北区環状外	Ⅲ層	Ⅲ群4類	-	胴部	刺突(斜方向から)、RL 横回。
108	16	473	10	VIB-63	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	LR(節が非常に細かい)横回。
108	17	495	9	北区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	LR 横回、斜回。
108	18	411	10	VE-59	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁～胴部	条痕文。
108	19	492	9	北区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	LR 横回。
108	20	483	10	VV-60	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	口縁	口唇に小突起、RL 横回。
108	21	503	9	北区環状外	Ⅱ層	Ⅲ群4類	深鉢	底部	底径(3.4cm)、上げ底状、LR 回転。
108	22	519	9	VW-59	Ⅱa層	Ⅲ群	深鉢	口縁	RL 斜回。
108	23	422	10	VIA-62	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁	直前段合熱、その原体の側面圧痕。
108	24	461	10	VIA-62	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁	LR 縦回。
108	25	518	9	VW-59	Ⅱa層	Ⅲ群	深鉢	口縁	RL 縦回。
108	26	534	9	VY-59	Ⅱa層	Ⅲ群	深鉢	口縁	LR 縦回。
108	27	464	10	VIB-C-62	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁～胴部	折り返し状口縁、RL 縦回。
108	28	407	10	VIN-60	Ⅱ-3層	Ⅲ群	深鉢	口縁～胴部	口縁部無文、胴部単絡1縦回。
109	1	400	10	VT-57	Ⅱ-3c層	Ⅲ群	深鉢	完形	口径21.3cm、器高33.4cm、底径8.7cm、胴部最大径21cm、平口縁、 LR 斜回、横回。P-1、X
109	2	517	9	VW-59	Ⅱc層	Ⅲ群	鉢	口縁	頸部屈曲部に単絡1側圧2列。
109	3	520	9	VW-59	Ⅱa層	Ⅲ群	深鉢	口縁	折り返し状口縁、単絡1縦回→沈線(横走、蓮華花卉?)。
109	4	434	10	VIB-61	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁	沈線(横走)、口縁:単絡1横回、単絡1縦回。
109	5	479	10	VIC-62	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁	沈線(方向の異なる斜行沈線を施して網目状)。
109	6	431	10	VIB-60	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁	単絡1縦回。
109	7	451	10	VT・V-61	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	胴部～底部	底径11.7cm、単絡1縦回。
109	8	538	9	VS-55	確認面	Ⅲ群	深鉢	口縁～胴部	口径23.5cm、口縁:単絡5横回、沈線(横走)、胴部:単絡5 縦回。P-2、6、8、11、28、35、41、45、46、47、48、33、35、 36、37、38、39、42、50、51、61、68、69、X。PC-01
109	9	401	10	VIM-59-60	Ⅱ-3層	Ⅲ群	深鉢	口縁～胴部	口径(24.0cm)、平口縁、折り返し状口縁、沈線。
109	10	456	10	VIA-62	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁～胴部	口径(23.0cm)、単絡5縦回。
109	11	450	10	VIA-62	Ⅱ層	Ⅲ群	深鉢	口縁～胴部	口径(25.2cm)、単絡5縦回。

遺構内出土剥片石器

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
図 7-18	SI1	床面	石鎌Ⅱ	(20.8)	12.3	5.4	(0.8)	珪質頁岩	基部破損。
図 7-19	SI1	床面	石鎌Ⅱ	(24.8)	12.3	4.6	(1.0)	珪質頁岩	基部アスファルト付着。先端部破損。
図 7-20	SI1	確認面	石匙Ⅱ	47.2	74.2	13.6	43.3	珪質頁岩	
図 7-21	SI1	確認面	スクレーパーⅠ	(72.2)	27.7	15.2	(20.8)	珪質頁岩	破損。
図 7-22	SI1	覆土上層	スクレーパーⅠ	95.5	61.6	20.5	102.7	珪質頁岩	原礫面残存。
図 7-23	SI1	確認面	R.F.	33.0	29.0	12.5	8.7	黒曜石	原礫面残存。凹礫素材。 産地推定：木造出来島群 (SKS-36)
図 7-24	SI1	覆土	石核Ⅰ	67.6	42.1	39.7	108.1	珪質頁岩	
図 8-4	SI2	確認面	石鎌Ⅱ	(21.1)	11.0	4.5	(0.8)	珪質頁岩	基部アスファルト付着。茎部破損。
図 10-10	SI4	覆土上層	スクレーパーⅡ	(31.1)	(27.3)	11.0	(11.0)	珪質頁岩	被熱して下半を破損。
図 10-11	SI4	覆土中層	楔形	37.7	32.9	11.1	11.6	珪質頁岩	原礫面残存。
図 10-12	SI4	覆土中層	石匙Ⅰ	(73.7)	21.3	13.5	13.5	珪質頁岩	先端部破損。
図 22-5	SK003	2層	石筥Ⅱ	(49.5)	(21.4)	10.4	(12.3)	珪質頁岩	刃部破損。
図 23-5	SK081	覆土	石筥Ⅱ	54.1	28.4	11.8	19.6	珪質頁岩	腹面刃部に弱い光沢あり。
図 23-6	SK092	覆土	石鎌Ⅱ	15.4	10.7	2.2	0.2	珪質頁岩	
図 23-12	SK095	覆土	楔形	49.8	50.1	13.9	31.9	珪質頁岩	
図 23-13	SK094	覆土	楔形	36.3	38.4	12.2	15.0	珪質頁岩	
図 23-31	SK184	覆土	楔形	20.1	21.1	5.0	2.0	珪質頁岩	
図 24-6	SK197	覆土	石鎌Ⅱ	(28.2)	10.7	4.9	(1.0)	珪質頁岩	先端部破損。
図 24-12	SK241	覆土	石鎌Ⅱ	37.8	17.6	8.4	4.1	珪質頁岩	未成品。
図 24-13	SK241	覆土	石鎌Ⅱ	24.1	11.8	3.0	0.5	珪質頁岩	基部アスファルト付着。
図 39-8	SK029	1層	石錐Ⅱ	47.8	24.8	9.0	5.8	珪質頁岩	
図 39-11	SK032	覆土	石核Ⅰ	28.9	28.7	26.9	25.2	珪質頁岩	
図 39-17	SK086	覆土	石鎌Ⅱ	25.8	(17.6)	5.2	(1.4)	珪質頁岩	破損。
図 39-18	SK086	1層	石鎌Ⅱ	19.9	(13.0)	3.0	(0.4)	珪質頁岩	破損。
図 39-21	SK088	覆土	剥片	20.5	20	6.5	3.2	黒曜石	原礫面残存。凹礫素材。 産地推定：木造出来島群 (SKS-26)
図 39-22	SK088	覆土	石錐Ⅱ	51.5	21.9	6.2	4.6	珪質頁岩	
図 39-25	SK091	覆土	石鎌Ⅱ	(25.1)	11.5	3.8	(1.0)	珪質頁岩	茎部破損。
図 39-26	SK104	覆土	石鎌Ⅱ	(25.2)	(17.3)	4.2	(1.0)	珪質頁岩	先端部破損。
図 39-27	SK104	覆土	石鎌Ⅱ	23.2	13.5	3.5	0.5	珪質頁岩	
図 39-31	SK120	覆土	石核Ⅰ	47.6	39.7	37.0	65.3	珪質頁岩	
図 40-2	SK168	覆土	石鎌Ⅱ	36.1	12.8	5.2	1.7	珪質頁岩	
図 40-11	SK341	覆土	石鎌Ⅱ	25.2	12.3	3.5	0.6	珪質頁岩	
図 40-24	SK356	覆土	楔形	(28.0)	(34.0)	7.7	(6.2)	珪質頁岩	破損。
図 41-3	SK055	柱痕	石鎌Ⅱ	29.2	10.7	4.7	0.9	珪質頁岩	
図 41-6	SK060	覆土	石鎌Ⅱ	22.2	12.5	4.2	0.6	珪質頁岩	
図 41-15	SK150	掘方	石鎌Ⅰ d	(38.2)	12.6	5.3	(2.2)	珪質頁岩	先端部破損。
図 41-16	SK150	柱痕	石鎌Ⅱ	(25.5)	13.7	4.1	(1.0)	珪質頁岩	先端部破損。
図 41-17	SK150	柱痕	石鎌Ⅱ	26.6	10.8	4.6	0.6	珪質頁岩	
図 41-26	SK210	掘方	石錐Ⅲ	29.6	11	7.3	1.6	珪質頁岩	
図 41-31	SK380	覆土	石核Ⅰ	45.7	48.8	44.1	89.1	珪質頁岩	
図 41-34	SK388	柱痕	石鎌Ⅱ	23.9	11.7	4.5	0.5	珪質頁岩	
図 42-2	SK390	覆土	石筥Ⅰ	55.9	23.5	14.7	15.0	珪質頁岩	未成品。
図 42-4	SK390	掘方	楔形	35.0	31.0	7.0	6.2	黒曜石	両極剥片。 産地推定：木造出来島群 (SKS-38)
図 42-5	SK390	掘方	剥片	27.0	19.5	5.5	2.0	黒曜石	産地推定：木造出来島群 (SKS-48)
図 42-10	SK396	覆土	剥片	31.0	22.0	8.5	4.9	黒曜石	表面風化。 産地推定：推定不可 (SKS-57)
図 58-2	SK041	覆土	スクレーパーⅠ	41.4	21.0	7.3	4.6	珪質頁岩	
図 58-8	SK047	確認面	石錐Ⅰ	42.0	9.4	6.5	2.3	珪質頁岩	
図 59-6	SK151	2層	石筥Ⅰ	91.1	41.7	19.9	66.2	珪質頁岩	
図 59-7	SK151	1・2層	スクレーパーⅠ	123.8	61.8	25.6	172.7	珪質頁岩	
図 59-10	SK213	掘方	U.F.	43.0	21.0	11.5	9.1	黒曜石	原礫面残存。凹礫素材。 産地推定：木造出来島群 (SKS-39)

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
図 59-16	SK285	2層	石錐Ⅱ	(34.0)	27.4	7.0	(3.8)	珪質頁岩	先端部破損。
図 60-5	SK281	覆土	スクレーパーⅠ	71.7	30.3	15.2	17.9	珪質頁岩	背面に節理面。
図 60-6	SK281	覆土	スクレーパーⅠ	64.2	24.2	8.0	11.3	珪質頁岩	
図 97-2	SP014	覆土	剥片	16.0	15.0	6.0	1.1	黒曜石	産地推定：木造出来島群 (SKS-83)
図 97-5	SP025	覆土	石匙Ⅰ	51.2	18.0	11.2	4.9	珪質頁岩	つまみ部のみ作出。
図 97-7	SP047	覆土	スクレーパーⅡ	51.8	34.7	10.7	16.5	珪質頁岩	
図 97-10	SP085	覆土	石核Ⅰ	44.0	47.0	18.0	41.6	黒曜石	原礫面残存。角礫素材。 産地推定：木造出来島群 (SKS-10)
図 98-11	SP306	覆土	石鎌Ⅱ	(17.7)	12.3	4.4	(0.6)	珪質頁岩	茎部破損。
図 98-17	SP502	覆土	石鎌Ⅱ	30.6	17.8	5.6	2.0	珪質頁岩	
図 98-21	SP578	覆土	石槍	39.0	15.8	8.5	3.1	珪質頁岩	未成品。
図 98-22	SP578	覆土	楔形	33.0	28.7	7.6	9.0	珪質頁岩	
図 98-25	SP682	覆土	スクレーパーⅡ	41.7	38.0	11.5	13.9	珪質頁岩	原礫面残存。

遺構外出土剥片石器（環状部内側）

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
図 104-16	VK~KP 埋没沢	Ⅱ層	石鎌Ⅰa	(44.7)	17.0	6.2	(3.7)	珪質頁岩	先端部破損。

遺構外出土剥片石器（南区環状外）

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
図 110-1	IVU-59	Ⅱ層	石鎌Ⅱ	(16.4)	13.0	2.8	(0.5)	珪質頁岩	茎部破損。
図 110-2	IVX-60	Ⅱ層	石鎌Ⅱ	19.5	9.7	3.6	0.4	珪質頁岩	
図 110-3	IVT-59	Ⅱ層	石鎌Ⅱ	27.8	12.8	5.1	1.3	石英	
図 110-4	IVY-58	Ⅱ層	石鎌Ⅱ	30.2	14.1	4.9	1.4	珪質頁岩	基部・茎部アスファルト付着。
図 110-5	IVY-60	Ⅱ層	石鎌Ⅱ	31.2	12.1	3.9	1.2	珪質頁岩	基部・茎部アスファルト付着。
図 110-6	IVU-59	Ⅱ層	石鎌Ⅱ	(31.7)	14.3	3.9	(1.1)	珪質頁岩	先端部破損。
図 110-7	IVX-59	Ⅱ層	石鎌Ⅱ	(32.8)	11.4	4.4	(1.4)	珪質頁岩	先端部・茎部破損。
図 110-8	IVY-59	Ⅱ層	石鎌Ⅱ	34.7	10.5	5.3	1.3	珪質頁岩	
図 110-9	VA-60	Ⅱ層	石鎌Ⅱ	(33.5)	14.0	4.8	(1.9)	鉄石英	茎部破損。先端は丸いが剥離が入っており、破損ではない。
図 110-10	VA-60	Ⅱ層	石鎌Ⅱ	(37.7)	14.4	5.3	(2.2)	珪質頁岩	先端部破損。
図 110-11	VA-58	Ⅱ層	石鎌Ⅱ	(35.5)	10.8	3.6	(1.0)	珪質頁岩	先端部破損。
図 110-12	IVU-58	Ⅱ層	石鎌Ⅱ	(36.0)	12.0	4.9	(1.3)	珪質頁岩	基部アスファルト付着。
図 110-13	VF以南	Ⅱ層	石槍	36.0	24.5	8.3	5.3	珪質頁岩	
図 110-14	IVY-59	Ⅱ層	石錐Ⅰ	30.4	6.0	4.1	0.6	珪質頁岩	
図 110-15	IVX-59	Ⅱ層	石錐Ⅰ	32.1	8.6	5.7	1.6	珪質頁岩	
図 110-16	IVX-59	Ⅱ層	石錐Ⅰ	(40.8)	9.8	8.1	(3.0)	珪質頁岩	先端部破損。
図 110-17	VF以南	Ⅱ層	石錐Ⅰ	49.0	15.2	7.9	3.8	珪質頁岩	
図 110-18	IVV-60	Ⅱ層	石錐Ⅰ	82.4	13.1	8.6	8.8	珪質頁岩	先端磨減。
図 110-19	IVV-59	Ⅱ層	石錐Ⅱ	60.5	34.3	10.3	12.9	珪質頁岩	
図 110-20	IVV-59	Ⅱ層	石錐Ⅱ	45.4	14.7	7.3	2.6	珪質頁岩	
図 110-21	土器集中	Ⅱ層	石錐Ⅲ	43.5	24.3	9.3	6.6	珪質頁岩	
図 110-22	IVR-54	Ⅱ層	石匙Ⅱ	(34.6)	60.3	10.1	(16.9)	珪質頁岩	刃部破損。
図 110-23	VF以南	Ⅱ層	石匙Ⅰ	72.4	22.9	9.1	10.5	珪質頁岩	
図 110-24	VF以南	排土	石匙Ⅰ	81.1	22.0	13.4	14.4	珪質頁岩	
図 110-25	IVX-59	Ⅱ層	石匙Ⅰ	49.5	11.9	7.3	3.4	珪質頁岩	
図 110-26	IVT-59	Ⅱ層	石匙Ⅰ	48.8	33.4	8.4	9.0	珪質頁岩	
図 110-27	IVU-60	Ⅱ層	石匙Ⅰ	50.1	31.1	9.9	12.3	珪質頁岩	
図 110-28	VF以南	表採	石匙Ⅰ	55.8	32.7	10.8	15.2	珪質頁岩	
図 110-29	IVY-60	Ⅱ層	石筥Ⅲ	26.8	18.7	6.2	2.7	珪質頁岩	大石平型石筥。
図 110-30	IVY-60	Ⅱ層	石筥Ⅲ	41.5	23.9	8.3	7.4	珪質頁岩	大石平型石筥。
図 111-1	VA-60	Ⅱ層	石筥Ⅰ	55.2	34.7	11.0	22.1	珪質頁岩	
図 111-2	VF以南	Ⅱ層	石筥Ⅰ	59.8	31.5	12.9	25.5	珪質頁岩	腹面刃部に光沢あり。

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
図 111-3	IVX-59	Ⅱ層	石筥 I	64.9	32.8	15.2	30.3	珪質頁岩	
図 111-4	IVW-59	Ⅱ層	石筥 I	98.0	40.8	17.5	60.4	珪質頁岩	
図 111-5	IVU-60	Ⅱ層	スクレーパーⅡ	33.3	26.3	9.4	9.5	珪質頁岩	
図 111-6	VF以南	Ⅱ層	スクレーパーⅠ	(46.2)	45.4	13.7	(27.1)	珪質頁岩	刃部破損。側縁に抉り。
図 111-7	IVU-60	Ⅱ層	スクレーパーⅠ	37.2	59.3	15.2	24.9	珪質頁岩	
図 111-8	VF以南	Ⅱ層	スクレーパーⅠ	47.8	(64.2)	11.5	(21.7)	珪質頁岩	破損。
図 111-9	IVU-59	Ⅱ層	スクレーパーⅠ	59.7	(30.7)	8.1	(7.6)	珪質頁岩	破損。
図 111-10	IVU-59	Ⅱ層	スクレーパーⅠ	64.1	34.6	15.4	28.6	珪質頁岩	
図 111-11	VF以南	表採	スクレーパーⅠ	74.4	49.1	16.0	38.0	珪質頁岩	
図 111-12	VF以南	Ⅱ層	スクレーパーⅠ	73.1	56.5	21.1	64.9	珪質頁岩	
図 111-13	土器集中	Ⅱ層	スクレーパーⅠ	93.8	56.8	16.0	52.9	珪質頁岩	
図 112-1	VF以南	表土	異形石器	60.7	61.5	19.3	51.1	珪質頁岩	三脚石器に類似するが、右側縁は未調整。
図 112-2	IVY-60	Ⅱ層	異形石器	24.5	22.3	5.2	1.4	珪質頁岩	三方が突起状となる。長い部分の先端摩滅。左の突起先端が鋭い。
図 112-3	IVU-59	Ⅱ層	楔形	25.6	14.6	6.0	2.1	珪質頁岩	
図 112-4	IVX-59	Ⅱ層	楔形	34.9	29.8	11.4	11.9	珪質頁岩	原礫面残存。
図 112-5	IVT-59	Ⅱ層	楔形	28.7	25.5	9.4	5.5	珪質頁岩	原礫面残存。
図 112-6	IVT-60	Ⅱ層	楔形	44.3	41.1	13.9	24.2	珪質頁岩	原礫面残存。
図 112-7	土器集中	Ⅱ層	U.F.	35.5	45.5	11.5	11.1	黒曜石	原礫面残存。円礫素材。 産地推定：木造出来島群 (SKS-2)
図 112-8	IVT-59	Ⅱ層	石核Ⅰ	27.9	37.4	38.5	36.2	珪質頁岩	原礫面残存。
図 112-9	IVU-60	Ⅱ層	石核Ⅰ	52.6	36.1	32.6	65.5	珪質頁岩	

遺構外出土剥片石器（環状部）

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
図 115-8	VG-54	Ⅱ層	石槍	(67.9)	28.7	14.6	(24.5)	黒曜石	先端部破損。 産地推定：置戸安住群 (SKS-1)
図 115-9	VC-60	Ⅱ層	石鏃Ⅰ a	28.8	12.9	3.6	1.0	珪質頁岩	
図 115-10	VI-54	Ⅱ層	石鏃Ⅰ c	33.6	16.8	4.9	2.7	珪質頁岩	
図 115-11	VE-58	Ⅱ層	石鏃Ⅱ	(21.4)	13.6	3.3	(0.6)	珪質頁岩	基部破損。
図 115-12	VO-55	Ⅱ層	石核Ⅰ	23.0	38.0	9.0	10.7	黒曜石	原礫面残存。角礫素材。 産地推定：木造出来島群 (SKS-9)
図 115-13	VP-55	Ⅰ層	スクレーパーⅡ	42.5	37.4	13.8	19.4	珪質頁岩	原礫面残存。
図 115-14	VM-56	Ⅱ層	スクレーパーⅠ	40.7	31.4	10.2	11.5	珪質頁岩	原礫面残存。

遺構外出土剥片石器（出土地不明）

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
図 115-16	不明	表採	石鏃Ⅱ	(38.1)	12.3	4.1	(1.3)	珪質頁岩	茎部破損。
図 115-17	不明	排土	スクレーパーⅠ	38.4	(44.1)	11.5	(12.8)	珪質頁岩	破損。原礫面残存。

遺構外出土剥片石器（北区環状外）

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
図 116-1	VIC-61	Ⅱ層	石鏃Ⅰ b	49.1	15.6	5.7	3.3	珪質頁岩	平面五角形。
図 116-2	VS-59	Ⅱ層	石鏃Ⅰ a	32.5	23.8	3.9	1.6	珪質頁岩	各頂点が非常に鋭く完全品。 未使用か。
図 116-3	VI A-61	Ⅱ層	石鏃Ⅱ	27.0	14.7	4.6	1.3	珪質頁岩	
図 116-4	VX-59	Ⅱa層	石鏃Ⅱ	29.0	12.0	3.5	0.9	珪質頁岩	
図 116-5	VY-61	Ⅱ層	石鏃Ⅱ	30.7	10.0	4.4	1.1	石英	
図 116-6	VS-59	Ⅱa層	石鏃Ⅱ	26.6	14.2	3.8	0.9	珪質頁岩	
図 116-7	VY-61	Ⅱ層	石鏃Ⅱ	(23.8)	20.0	4.9	(1.8)	珪質頁岩	先端部。茎部破損。
図 116-8	VY-61	Ⅱ層	石鏃Ⅱ	(38.2)	10.5	5.9	(1.9)	珪質頁岩	茎部破損。先端は剝離が入っており破損ではない。
図 116-9	VIU-60	Ⅱ層	石鏃Ⅱ	(41.9)	11.0	5.0	(2.2)	珪質頁岩	先端部・茎部破損。

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
図 116-10	VIC-60	Ⅱ層	石錐Ⅰ	61.0	14.5	11.8	9.8	珪質頁岩	
図 116-11	VW-59	Ⅱ層	石錐Ⅲ	44.3	21.6	7.7	4.6	珪質頁岩	
図 116-12	VY-59	Ⅱa層	石錐Ⅲ	42.4	18.4	7.5	4.7	珪質頁岩	
図 116-13	VT以北 埋没沢	Ⅱ層	石錐Ⅲ	60.7	29.8	11.5	11.9	メノウ	摩滅は認められない。
図 116-14	VE-59	Ⅱ層	石匙Ⅰ	(59.8)	34.3	9.9	(15.5)	鉄石英	つまみ部破損。
図 116-15	VT以北	Ⅱ層	石匙Ⅱ	27.2	61.8	12.6	15.3	珪質頁岩	
図 116-16	VIC-62	Ⅱ層	石匙Ⅲ	40.8	55.2	9.0	13.8	珪質頁岩	原礫面残存。
図 116-17	VIA以北	排土	石籠Ⅱ	59.6	22.9	14.0	19.9	珪質頁岩	
図 116-18	VIB-62	Ⅱ層	石籠Ⅰ	40.7	31.6	10.9	13.7	珪質頁岩	
図 116-19	VP~VT	Ⅱ層	異形石器	14.2	14.3	4.6	0.5	珪質頁岩	形状は大石平型石籠に類似。
図 116-20	VIH-60	Ⅱ層	R.F.	(15.0)	25.0	5.0	(1.1)	黒曜石	産地推定：深浦八森山群 (SKS-3)
図 116-21	VS-59	Ⅱ層	スクレーパーⅠ	34.3	78.0	10.8	27.9	珪質頁岩	側縁に抉り。原礫面残存。
図 116-22	VP~VT	Ⅱ層	スクレーパーⅠ	87.6	26.2	11.5	19.5	珪質頁岩	
図 116-23	VIN-60	Ⅱ層	スクレーパーⅠ	68.9	34.5	13.4	20.4	珪質頁岩	
図 116-24	VP~VT	Ⅱ層	スクレーパーⅡ	60.5	41.2	14.9	39.6	珪質頁岩	原礫面残存。
図 116-25	VIB-62	Ⅱ層	スクレーパーⅡ	42.5	35.6	12.4	(14.9)	珪質頁岩	破損。
図 117-1	VT-55	Ⅱ層	楔形	30.0	32.5	10.7	9.1	珪質頁岩	
図 117-2	VIB-63	Ⅱ層	楔形	30.6	32.9	12.0	11.4	珪質頁岩	原礫面残存。
図 117-3	VU-60	Ⅱ層	楔形	31.5	44.6	10.1	14.0	珪質頁岩	
図 117-4	VIB-56	Ⅱ層	楔形	37.9	41.4	15.6	25.6	珪質頁岩	
図 117-5	VIA-62	Ⅱ層	楔形	34.0	32.1	10.5	9.8	珪質頁岩	
図 117-6	VW-61	Ⅱ層	楔形	41.1	38.5	16.0	22.7	珪質頁岩	
図 117-7	VY-62	Ⅱ層	楔形	54.6	42.5	13.9	31.2	珪質頁岩	
図 117-8	VIG-61	Ⅱ層	U.F.	32.0	22.0	7.0	4.0	黒曜石	原礫面残存。 産地推定：深浦八森山群 (SKS-32)
図 117-9	VIA-62	Ⅱ層	剥片	33.0	21.0	9.5	6.0	黒曜石	原礫面残存。円礫素材。 産地推定：木造出来島群 (SKS-40)
図 117-10	VS-61	Ⅱ層	石核Ⅰ	27.0	33.0	15.0	10.4	黒曜石	原礫面残存。角礫素材。 産地推定：木造出来島群 (SKS-7)
図 117-11	VU-59	Ⅱa層	石核Ⅰ	57.1	73.5	33.6	124.8	珪質頁岩	
図 117-12	VIA-60	Ⅱ層	石核Ⅰ	38.0	49.1	47.0	91.3	珪質頁岩	
図 117-13	VIA-62	Ⅱ層	石核Ⅰ	77.7	67.9	39.9	198.1	珪質頁岩	
図 117-14	VS-59	Ⅱa層	石核Ⅱ	65.3	51.7	17.5	53.9	珪質頁岩	
図 118-1	VY-62	Ⅱ層	石核Ⅰ	83.5	66.7	26.2	128.3	珪質頁岩	
図 118-2	VIA-62	Ⅱ層	石核Ⅰ	74.8	95.7	90.7	558.5	珪質頁岩	
図 118-3	VR-59	Ⅱc層	石核Ⅰ	52.0	79.5	39.5	145.2	珪質頁岩	

遺構内出土礫石器

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
図 8-5	SI2	覆土	凹石Ⅱ	91	62	40	246	凝灰岩	表裏両面凹み。
図 11-12	SI5	床面	石皿Ⅱ	602	320	91	19900	凝灰岩	表裏両側。出土時の上面がより使い込まれている。
図 22-12	SK011	2層	磨石Ⅱ a	113	89	32	374	安山岩	正面は研磨に近い平滑面。 表裏面に敲打痕。
図 23-2	SK036	覆土	磨製石斧	79	49	26	164	凝灰岩	欠損部周辺に剥離痕。 切断または敲石への転用か。
図 23-18	SK164	覆土	石錘Ⅱ	87	68	31	179	凝灰岩	剥離による抉り。
図 23-26	SK177	覆土	凹石Ⅰ	97	65	42	276	砂質凝灰岩	表面に軽微な凹み。
図 24-3	SK190	覆土	凹石Ⅰ	95	83	50	362	凝灰岩	裏面の大きな凹みは自然面。
図 24-14	SK241	覆土	石錘Ⅱ	69	59	29	136	凝灰岩	剥離と敲打による抉り。
図 24-15	SK241	覆土	石錘Ⅱ	69	51	17	62	凝灰岩	剥離と敲打による抉り。
図 24-16	SK241	覆土	石錘Ⅱ	77	52	28	166	凝灰岩	剥離と敲打による抉り。
図 24-31	SK273	覆土	石錘Ⅱ	63	55	20	92	凝灰岩	剥離と敲打による抉り。

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備考
図 39-13	SK033	覆土	敲石 I	59	51	45	136	凝灰岩	端部および側面に軽微な敲打。
図 39-19	SK087	3・4層	石錘 II	109	89	37	521	凝灰岩	裏面と下端部に敲打痕。 敲石の転用か。 剥離による抉り。
図 39-24	SK091	覆土	敲石 I	138	102	80	1497	凝灰岩	部分的にスス付着。
図 40-26	SK410	覆土	石錘 II	86	58	20	122	凝灰岩	剥離と敲打による抉り。
図 40-31	SK415	覆土	凹石 II	88	77	43	369	凝灰岩	
図 41-4	SK055	覆土	磨石 II b	(97)	87	61	(580)	玄武岩	破損。 正面に非常に平滑な広いスリ面。
図 42-3	SK390	掘方	石錘 II	92	64	31	200	凝灰岩	剥離と敲打による抉り。
図 42-7	SK393	柱痕	凹石 II	136	85	53	710	凝灰岩	両端部は軽微な敲打痕。
図 42-8	SK393	柱痕	凹石 II	142	102	44	779	凝灰岩	
図 42-12	SK450	覆土	石錘 II	62	45	21	59	凝灰岩	全体にスス付着。剥離による抉り。
図 58-15	SK067	覆土	台石	347	97	82	4250	凝灰岩	柱状の自然礫を使用。
図 58-21	SK122	覆土	敲石 II	40	30	26	28	珪質頁岩	後に敲打痕。
図 58-22	SK122	1層	敲石 I	113	87	45	435	凝灰岩	正面に軽微な敲打痕。
図 58-27	SK203	確認面	凹石 II	83	71	32	266	凝灰岩	一側面に軽微な敲打痕。
図 59-8	SK151	覆土	凹石 II	120	73	43	435	凝灰岩	両端部に平坦面を形成するような敲打痕。
図 59-9	SK151	1層	磨石 III	83	81	73	599	流紋岩	被熱。使用痕は顕著でない。 部分的にスス付着。
図 60-7	SK281	覆土	石錘 II	60	53	17	53	凝灰岩	剥離と敲打による抉り。
図 60-8	SK281	覆土	台石	248	157	53	2664	凝灰岩	敲打痕内に黒色物質付着。
図 60-9	SK281	覆土	台石	210	192	51	2274	凝灰岩	破線より上部は赤化、下部はスス付着。
図 60-10	SK281	覆土	台石	259	194	47	3742	凝灰岩	原礫面全体に黒色物質付着。
図 60-11	SK281	覆土	石皿 I	(250)	(213)	48	(2100)	凝灰岩	破損。被熱、スス付着。表裏両面使用。
図 75-2	SR1	覆土	敲石 I	93	67	46	361	凝灰岩	端部付近に軽微な敲打痕。
図 77-1	SQ1	II層	石皿 II	381	313	40	6050	凝灰岩	表裏の平坦面全体を使用。特に平滑な部分に網かけ。
図 77-2	SQ1	II層	凹石 I	(91)	(79)	43	(442)	凝灰岩	中央で破損。
図 77-3	SQ1	II層	台石	548	148	180	24850	花崗岩	実測図正面を上方にして設置し、配石としている。
図 97-3	SP014	覆土	敲石 I	48	49	45	107	凝灰岩	
図 97-14	SP109	覆土	石錘 II	102	74	18	168	凝灰岩	短軸片側へのみ剥離による抉り。 未成品。
図 97-20	SP130	覆土	凹石 II	90	86	43	398	凝灰岩	
図 98-1	SP131	覆土	磨製石斧	88	473	32	203	凝灰岩	丁寧な研磨。
図 98-13	SP338	覆土	石錘 II	80	63	16	73	凝灰岩	短軸片側へのみ剥離による抉り。 未成品。
図 98-14	SP345	覆土	凹石 II	162	60	27	337	砂質凝灰岩	

遺構外出土礫石器 (南区環状外)

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備考
図 112-10	IVT-60	II層	磨製石斧	(66)	(41)	25	(103)	緑色凝灰岩	破損。擦切技法かどうかは不明。
図 112-11	IVT-60	II層	磨石 II a	113	79	45	504	凝灰岩	正面に軽微な敲打痕。
図 112-12	VF以南	II層	磨石 II b	91	71	66	579	デイサイト	スリ面は非常に平滑。
図 112-13	VF以南	II層	磨石 II a	150	91	49	872	凝灰岩	側面は粗い使用痕。表裏面は磨きに近い平滑面。
図 113-1	IVU-60	II層	敲石 I	49	40	45	108	凝灰岩	端部に軽微な敲打痕。
図 113-2	土器集中	II層	敲石 I	49	50	45	105	凝灰岩	軽微な敲打痕。
図 113-3	IVS-57	II層	敲石 I	49	49	47	117	凝灰岩	軽微な敲打痕。
図 113-4	IVY-59	II層	敲石 I	108	81	54	544	凝灰岩	使用痕範囲は広いが、使用頻度は低い。
図 113-5	VF以南	II層	敲石 I	130	97	67	1113	デイサイト	敲打痕周囲には範囲の不明瞭な弱いスリ面。
図 113-6	IVU-60	II層	敲石 I	87	80	56	416	凝灰岩	軽微な敲打痕。

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
図 113-7	IVU-59	Ⅱ層	敲石Ⅱ	39	40	32	63	珪質頁岩	多面体敲石。
図 113-8	VF以南	Ⅱ層	敲石Ⅱ	33	31	21	24	珪質頁岩	多面体敲石。
図 113-9	VF以南	Ⅱ層	敲石Ⅱ	35	37	22	31	珪質頁岩	多面体敲石。
図 113-10	VF以南	Ⅱ層	敲石Ⅱ	44	39	28	53	珪質頁岩	端部を使用。
図 113-11	VF以南	Ⅱ層	敲石Ⅱ	70	48	32	120	珪質頁岩	端部を使用。
図 113-12	IVU-60	Ⅱ層	敲石Ⅱ	68	53	38	124	珪質頁岩	稜の一部を使用。
図 113-13	VF以南	Ⅱ層	敲石Ⅱ	62	44	24	70	珪質頁岩	稜の一部を使用。
図 113-14	VF以南	Ⅱ層	敲石Ⅱ	76	42	42	137	珪質頁岩	多面体敲石。
図 113-15	VF以南	Ⅱ層	敲石Ⅱ	67	60	52	154	珪質頁岩	端部を主に使用。
図 114-1	VF以南	Ⅱ層	凹石Ⅱ	93	90	32	301	凝灰岩	
図 114-2	VB-60	Ⅱ層	凹石Ⅱ	115	95	30	391	凝灰岩	
図 114-3	IVV-60	Ⅱ層	凹石Ⅱ	121	70	47	497	凝灰岩	器面広範囲にスス付着。
図 114-4	IVR-58	Ⅱ層	凹石Ⅱ	130	86	33	517	砂質凝灰岩	
図 114-5	IVY-59	Ⅱ層	凹石Ⅱ	157	122	37	818	凝灰岩	
図 114-6	IVT-59	Ⅱ層	凹石Ⅱ	140	63	35	408	デイサイト	側面と端部は軽微な敲打痕。
図 114-7	土器集中	Ⅱ層	凹石Ⅱ	117	59	38	407	凝灰岩	側面に軽微な敲打痕。
図 114-8	IVU-60	Ⅱ層	石錘Ⅰ	43	35	16	25	凝灰岩	鋭利な工具で短軸両端に切込みを入れる。 正面に線状痕。
図 114-9	IVT-59	Ⅱ層	石錘Ⅰ	44	40	14	23	凝灰岩	鋭利な工具で短軸両端に切込みを入れる。
図 114-10	VF以南	Ⅱ層	石錘Ⅱ	59	40	19	49	珪質頁岩	珪質頁岩の石錘は本例のみ。 縦長剥片の短軸両端に剥離と敲打による挟り。
図 114-11	VF以南	覆土	石錘Ⅱ	62	43	16	61	安山岩	敲打による挟り。端部にも剥離。
図 115-1	IVT-59	Ⅱ層	石錘Ⅱ	69	54	15	80	凝灰岩	剥離と敲打による挟り。
図 115-2	VIB-62	覆土	石錘Ⅱ	68	61	23	127	凝灰岩	剥離と敲打による挟り。
図 115-3	土器集中	Ⅱ層	石錘Ⅱ	68	62	13	64	凝灰岩	剥離による挟り。
図 115-4	土器集中	Ⅱ層	石錘Ⅱ	81	63	22	137	凝灰岩	剥離による挟り。
図 115-5	VA以南	Ⅱ層	石錘Ⅱ	96	74	21	188	凝灰岩	剥離と敲打による挟り。
図 115-6	土器集中	Ⅱ層	石錘Ⅱ	94	84	32	297	凝灰岩	剥離と敲打による挟り。
図 115-7	VJ以南	Ⅱ層	石錘Ⅱ	106	90	24	240	砂質凝灰岩	剥離による挟り。

遺構外出土礫石器 (環状部)

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
図 115-15	VQ-59	Ⅱ層	磨石Ⅰ	(100)	70	21	(213)	デイサイト	破損。狭く細長いスリ面。

遺構外出土礫石器 (出土地不明)

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
図 115-18	不明	Ⅱ層	石錘Ⅱ	68	61	24	128	凝灰岩	剥離と敲打による挟り。

遺構外出土礫石器 (北区環状外)

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
図 119-1	VIA-61	Ⅱ層	磨製石斧	100	46	36	224	緑色凝灰岩	全体に擦痕が顕著。
図 119-2	VT以北埋没沢	Ⅱ層	磨製石斧	97	39	23	142	花崗閃緑岩	切損後の剥離が顕著。
図 119-3	VT以北埋没沢	Ⅱ層	磨製石斧	105	39	22	127	凝灰岩	破損後全体に被熱し赤化。
図 119-4	VP~VT	Ⅱ層	磨石Ⅱb	95	86	35	373	砂質凝灰岩	使用痕線状痕のみ。
図 119-5	VIC-61	Ⅱ層	磨石Ⅱa	(137)	(69)	33	(463)	凝灰岩	破損。 表裏面は研磨に近い平滑な使用痕。
図 119-6	VP~VT	Ⅱ層	磨石Ⅱa	117	82	34	465	凝灰岩	磨きに近く平滑な使用痕。
図 119-7	VT以北埋没沢	Ⅱ層	磨石Ⅱa	104	81	41	530	砂岩	表裏面は磨きに近く平滑な使用痕。
図 119-8	VIA-62	Ⅱ層	磨石Ⅱa	134	90	57	994	安山岩	正面は研磨に近い非常に平滑な面。

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
図 120-1	VP~VT	II層	磨石 II a	167	86	56	1156	流紋岩	表裏面は磨きに近い平滑面。
図 120-2	VS-59	IIa層	磨石 II a	128	90	50	808	砂質凝灰岩	正面は磨きに近い平滑面となっている。
図 120-3	VIA-62	II層	敲石 I	50	44	34	100	凝灰岩	端部と側面に軽微な敲打痕。
図 120-4	VP~VT	II層	敲石 I	69	57	40	210	緑色凝灰岩	端部と正面に軽微な敲打痕。
図 120-5	VID-62	II層	敲石 I	82	73	47	368	凝灰岩	端部に敲打痕。
図 120-6	VL-56	II層	敲石 I	82	72	57	370	凝灰岩	各所に軽微な敲打痕。
図 120-7	VT以北埋没沢	II層	敲石 I	144	63	56	698	凝灰岩	端部にやや強い敲打痕。
図 120-8	VIB-61	II層	凹石 II	119	58	29	268	凝灰岩	
図 120-9	VIB-62	II層	凹石 II	101	80	30	312	凝灰岩	
図 120-10	VY-62	II層	凹石 II	94	65	32	217	凝灰岩	
図 121-1	VY-62	II層	凹石 II	93	66	46	371	凝灰岩	端部に軽微な敲打痕。
図 121-2	VIA-62	II層	凹石 II	127	68	29	324	凝灰岩	
図 121-3	VY-62	II層	凹石 II	140	57	33	370	凝灰岩	
図 121-4	VY-62	II層	凹石 II	134	66	44	447	凝灰岩	
図 121-5	VY-62	II層	凹石 II	114	81	20	254	凝灰岩	
図 121-6	VIA-62	II層	凹石 I	125	62	39	365	凝灰岩	
図 121-7	VY-61	II層	凹石 II	161	54	42	425	凝灰岩	
図 121-8	VIA-62	II層	凹石 I	119	107	72	1285	凝灰岩	
図 121-9	VY-62	II層	石錘 I	55	46	16	54	花崗閃緑岩	鋭い工具で短軸両端に切り込みを入れる。 左辺は切り込みの下に敲打痕。
図 121-10	VIA-63	II層	石錘 II	50	40	18	42	凝灰岩	挟り位置に対応して幅 3mmほどススの付着が弱い部分がある。紐かけの痕跡か。剥離による挟り。
図 121-11	VIA-62	II層	石錘 II	53	41	11	30	凝灰岩	剥離と敲打による挟り。 下端部にも剥離。
図 121-12	VIB-62	II層	石錘 II	54	47	18	60	凝灰岩	剥離と敲打による挟り。 右側面は挟り箇所以外にも敲打痕。
図 121-13	VIB-62	II層	石錘 II	59	46	19	77	凝灰岩	剥離と敲打による挟り。
図 122-1	VIB-62	II層	石錘 II	60	51	20	65	凝灰岩	剥離と敲打による挟り。
図 122-2	VIB-62	II層	石錘 II	54	46	20	59	凝灰岩	剥離と敲打による挟り。
図 122-3	VIB-62	II層	石錘 II	45	34	16	27	凝灰岩	短軸片側へのみ剥離による挟り。 未成品か。
図 122-4	VIA-63	II層	石錘 II	62	46	13	47	凝灰岩	剥離による挟り。
図 122-5	VIC-62	II層	石錘 II	62	44	29	90	凝灰岩	剥離と敲打による挟り。
図 122-6	VIA-62	II層	石錘 II	82	58	19	83	凝灰岩	剥離による挟り。 被熱により、一部は赤化、一部にスス付着。
図 122-7	VIB-62	II層	石錘 II	90	63	39	252	凝灰岩	剥離と敲打による挟り。
図 122-8	VIA-62	II層	石錘 II	88	76	30	214	凝灰岩	剥離と敲打による挟り。
図 122-9	VIA-62	II層	石錘 II	103	92	32	355	凝灰岩	剥離と敲打による挟り。 打欠部位は長軸のやや上方に寄る。 凹石の転用品。
図 122-10	VIA-62	II層	石錘 II	109	86	32	341	凝灰岩	敲打による挟り。
図 122-11	VIA-62	II層	石錘 II	119	88	31	387	凝灰岩	剥離と敲打による挟り。
図 122-12	VY-62	II層	石錘 II	110	87	22	347	砂質凝灰岩	剥離による挟り。
図 123-1	VT以北埋没沢	II層	石皿 I	(193)	(189)	28	(1355)	砂質凝灰岩	破損。敲打範囲は成形時の痕跡。
図 123-2	VIA-61	II層	石皿 I	(298)	(235)	43	(3050)	凝灰岩	破損。スリ面は非常に平滑。
図 123-3	VIB-62	II層	石皿 II	625	329	51	10000	デイサイト	平坦面全体を使用したと考えられるが、中央が特に平滑。
図 123-4	VIA-61	II層	台石	397	307	135	25550	凝灰岩	使用痕は軽微なスリ。
図 123-5	VIB-62	II層	石皿 II	597	401	91	28700	デイサイト	平坦面全体を使用。中央が特に平滑。

土製品観察表

図	番号	器種	エリア	出土位置	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	特徴	年度	整番
7	25	土器片円盤	北外	SI1	覆土	4.1 × 3.3 × 0.7	11.9	単絡5回転、P-106	10	611
39	23	土偶	環状南	SK088	覆土	4.8 × 5.8 × 1.7	37.8	胴部下半、臍 = 突起、沈線文様	10	566
39	29	土器片円盤	環状南	SK109	覆土	3.3 × 3.1 × 0.9	10.3	横位沈線文	10	088
40	5	両頭土製品	環状南	SK200	覆土	6.7 × 2.5 × 2.5	38.7	石棒状、スタンプ形、縄文、沈線	10	561
40	7	土器片円盤	環状南	SK336	覆土	3.7 × 3.7 × 0.7	10.6	沈線文(楕円形文)	10	155
40	16	耳飾	環状南	SK353	覆土	3.4 × 1.5 × 1.5	5.3	円柱状、両端から盲孔、沈線文	10	558
40	18	土器片円盤	環状南	SK354	覆土	4.3 × 4.1 × 0.9	19.2	無文(底部片?)	10	156
41	14	土偶	環状北	SK150	覆土	6.1 × 5.3 × 1.4	46.3	腕部、穿孔、P-1	10	567
42	18	三角形土製品	環状北	SK460	柱痕 覆土	6.1 × 5.5 × 1.3	34.3	一部破損、研磨整形、土-1	10	563
58	26	土偶	北外	SK146	柱痕	3.5 × 2.3 × 1.5	11.6	脚部、湾曲形、沈線	10	564
59	17	土偶	北外	SK297	2層	3.6 × 3.6 × 3.0	15.0	頭部、目・鼻孔 = 刺突、眉・髪 = 隆帯、穿孔	10	565
59	18	土器片円盤	北外	SK239	1層	5.1 × 5.0 × 1.2	30.8	無文(底部片?)	10	612
61	6	土器片円盤	北外	SK319	1層	9.1 × 8.4 × 1.0	62.7	無文(底部片)	10	613
97	11	土偶	環状北	SP091	覆土	10.9 × 9.8 × 2.4	109.8	頭部欠失、沈線文(渦巻文・格子状文)	10	568
124	1	ミナチア土器	南外	IVT-59	II層	器高(5.7),口径(-), 底径4.0	58.5	深鉢模倣、横位沈線文、P-12	10	576
124	2	ミナチア土器	不明	不明	II層	器高3.9,口径(3.8) 底径2.0	16.7	無文	10	580
124	3	ミナチア土器	南外	IVU-60	II層	器高(3.5),口径(-), 底径(2.2)	34.1	無文	10	577
124	4	ミナチア土器	南外	IVY-?	II層	器高(5.0),口径(-), 底径(-)	13.9	壺形模倣、沈線文	10	578
124	5	ミナチア土器	北外	VIA-60	II層	器高(1.9),口径(-), 底径3.2	16.6	台部、斜位方向から穿孔	10	457
124	6	土器片円盤	北外	VIB-62	II層	11.5 × 11.1 × 1.0	155.0	大型、蓋形土器素材? 沈線文(曲線文)	10	463
124	7	土器片円盤	北外	VIB-62	II層	5.3 × 5.0 × 1.2	34.5	沈線文(楕円形文)	10	601
124	8	土器片円盤	北外	IVT-60	II層	4.5 × 4.2 × 0.6	15.4	沈線文(重弧状文?)	10	590
124	9	土器片円盤	北外	VIA-62・63	II層	4.3 × 4.1 × 0.8	19.1	沈線文	10	600
124	10	土器片円盤	北外	VIA-62	II層	4.3 × 4.2 × 0.7	17.0	沈線文(弧状・曲線文)	10	598
124	11	土器片円盤	北外	VIB-62	II層	4.1 × 4.0 × 0.7	10.8	地文単軸絡条体、沈線文	10	602
124	12	土器片円盤	北外	VID-61	II層	4.6 × 4.2 × 0.7	17.5	沈線文(楕円形文)	10	596
124	13	土器片円盤	南外	IVT-60	II層	5.9 × 5.5 × 1.0	39.2	沈線文(横位)	10	589
124	14	土器片円盤	北外	VIC-60	II層	5.0 × 4.7 × 0.7	21.0	沈線文(横位)	10	603
124	15	土器片円盤	北外	VX-59	IIa層	3.9 × 3.2 × 0.9	14.0	沈線文(横位)	9	608
124	16	土器片円盤	北外	VIA-62	II層	4.0 × 3.7 × 0.8	12.7	沈線文(横位)、充填縄文	10	599
124	17	土器片円盤	北外	VW-59	IIa層	5.1 × 4.3 × 1.0	19.8	沈線文(方形・楕円形文)、充填縄文	9	606
124	18	土器片円盤	北外	VIC-62	II層	5.2 × 4.8 × 1.0	29.7	複節斜縄文	10	604
124	19	土器片円盤	北外	VU-59以北	IIc層	5.6 × 4.2 × 0.9	25.3	単節斜縄文	9	605
124	20	土器片円盤	南外	IVU-58	II層	5.3 × 4.8 × 0.7	24.3	無文	10	591
124	21	土器片円盤	南外	IVU-60	II層	4.8 × 4.7 × 0.8	20.4	無文	10	592
124	22	土器片円盤	南外	IVX-59	II層	3.9 × 3.6 × 0.8	11.6	無文	10	587
124	23	土器片円盤	南外	IVX-59	II層	3.2 × 3.4 × 0.8	8.5	無文	10	586
124	24	土器片円盤	南外	VC-60	II層	3.9 × 3.6 × 0.7	10.7	無文	10	585
124	25	土器片円盤	南外	IVY-59	II層	4.0 × 3.7 × 1.0	16.0	縦位沈線?	10	588
124	26	土器片円盤	北外	VX-59	IIa層	4.3 × 4.1 × 1.3	19.2	底部片	9	607
124	27	土器片円盤	北外	VY-61	II層	4.8 × 4.6 × 1.4	29.0	底部片	10	597
125	1	土偶	南外	IVQ-51	II層	4.0 × 4.1 × 3.5	23.0	頭部、口・目 = 刺突、眉・鼻 = 剥落	10	569
125	2	土偶	北外	北沢	III層	3.3 × 3.8 × 1.6	8.0	頭部、目・鼻孔 = 刺突、鼻 = 隆帯、穿孔	9	573
125	3	土偶	北外	VIC-62	II層	3.2 × 2.3 × 2.8	12.3	頭部、目・鼻孔 = 刺突、鼻 = 隆帯、額湾曲	10	571
125	4	土偶	北外	VY-62	II層	4.4 × 3.9 × 1.5	17.0	腕部、沈線文様、穿孔	10	574
125	5	土偶	北外	VIB-62	II層	6.4 × 4.8 × 2.1	52.6	腕部、沈線文様、穿孔部破損、土-1	10	575
125	6	土偶	北外	VIA-62	II層	5.8 × 3.9 × 1.4	22.0	胴部上半、乳房 = 突起、無文	10	460
125	7	土偶	北外	北沢	II層	4.3 × 5.2 × 3.2	33.8	胴部、蹲踞形土偶、前面縄文	9	572
125	8	動物形土製品	北外	北沢	II層	4.7 × 1.8 × 2.5	10.3	脚・耳破損、沈線文様、犬?	9	562
125	9	耳飾	南外	IVU-58	III層	1.2 × 1.2 × 0.3	0.2	円形薄形、土器裝飾隆帯?	9	560
125	10	耳飾	北外	VIB-62	II層	2.1 × 2.7 × 2.2	6.8	沈線文様(放射状)	10	581
125	11	耳飾	南外	IVU-59	II層	1.2 × 1.6 × 1.6	1.8	小型、穿孔、耳飾-1	9	559
125	12	土製品・不明	北外	VX-59	IIa層	2.7 × 2.6 × 2.6	13.0	方形状、刺突・穿孔、土偶?	9	524
125	13	棒状土製品	北外	北沢	II層	7.2 × 2.1 × 2.1	33.9	ケズリ整形、沈線、土鈴の柄	9	584
125	14	棒状土製品	北外	VY-61	II層	3.7 × 2.2 × 1.9	16.6	手捏ね、土偶脚?	10	583
125	15	棒状土製品	南外	IVU-60	II層	4.0 × 2.8 × 2.6	28.4	手捏ね、土偶脚?	10	582

遺構内出土石製品

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
図 58-11	SK048	覆土中層	石刀	(136.0)	35.0	16.0	(117.8)	凝灰岩	折損。右側縁に稜。
図 59-11	SK219	覆土	円盤Ⅱ	40.5	39.5	10.5	22.1	凝灰岩	擦痕顕著。
図 97-4	SP022	覆土	搬入礫	77.0	44.0	40.0	167.5	凝灰岩	2箇所の自然孔。

遺構外出土石製品

掲載番号	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
図 126-1	V T以北 埋没沢	Ⅱ層	石棒	(287.0)	64.0	52.0	(1571.8)	流紋岩	折損。柱状礫を敲打整形した後研磨。
図 126-2	VIB-62	Ⅱ層	石冠	45.4	67.3	34.9	109.0	凝灰岩	線刻幅1mm程度、断面V字、深さ0.5mm程度。
図 126-3	IVX-59	Ⅱ層	石冠	43.7	(81.3)	40.6	(123.3)	凝灰岩	破損。線刻は幅1mm程度、深さ1mm未満。
図 126-4	VX-61	Ⅱa層	石冠	31.1	40.8	27.3	33.4	凝灰岩	線刻は幅、深さとも1mm未満。
図 126-5	VIB-62	Ⅱ層	円盤Ⅰ	75.0	80.0	14.5	129.9	デイサイト	表裏面に顕著な加工痕はない。
図 126-6	V T以北 埋没沢	Ⅱ層	円盤Ⅰ	47.0	45.0	14.0	53.9	流紋岩	表裏面の加工は顕著ではないが、平滑。
図 126-7	VY-62	Ⅱ層	円盤Ⅰ	53.0	47.5	12.5	53.6	デイサイト	表裏面に顕著な加工痕はない。
図 126-8	VIB-62	Ⅱ層	円盤Ⅰ	43.0	46.0	10.0	31.4	流紋岩	図の下部の直線部は自然面。
図 126-9	VIC-62	Ⅱ層	円盤Ⅰ	43.0	44.0	11.0	30.6	デイサイト	表裏面の加工は顕著ではないが、平滑。
図 126-10	VY-62	Ⅱ層	円盤Ⅰ	51.0	44.0	15.0	53.6	デイサイト	表裏面はやや平滑。
図 126-11	VF以南	Ⅱ層	円盤Ⅰ	46.0	49.0	14.0	49.9	凝灰岩	未成品か。表裏面にわずかに擦痕。
図 127-1	不明	表採	円盤Ⅱ	57.5	54.8	13.9	49.2	シルト岩	各面に擦痕顕著。表裏面に幅広く断面凹字状の線刻。
図 127-2	VIC-62	Ⅱ層	円盤Ⅱ	74.0	71.0	18.0	60.8	凝灰岩	表裏面に幅1mm程のごく浅い線状痕が十字に入る。
図 127-3	VJ以南	Ⅱ層	円盤Ⅱ	58.5	52.5	15.0	57.0	凝灰岩	擦痕顕著。
図 127-4	IVU-59	Ⅱ層	円盤Ⅱ	46.3	47.6	15.8	39.2	凝灰岩	正面に櫛歯状工具による線状痕。
図 127-5	VIN-60	Ⅱ-3層	円盤Ⅱ	52.0	48.0	13.0	35.2	凝灰岩	擦痕顕著。
図 127-6	IVU-59	Ⅱ層	円盤Ⅱ	50.0	49.0	11.0	35.0	凝灰岩	擦痕は不明瞭。
図 127-7	VIC-62	Ⅱ層	円盤Ⅱ	40.0	43.0	10.0	11.6	凝灰岩	擦痕顕著。
図 127-8	VY-62	Ⅱ層	円盤Ⅱ	47.0	(26.0)	12.0	(16.4)	凝灰岩	破損。破面にアスファルト状の黒色物質が付着。
図 127-9	IVU-59	Ⅱ層	円盤Ⅱ	44.0	47.0	11.0	26.5	凝灰岩	各面に研磨の単位による弱い稜。
図 127-10	VS-59	Ⅱa層	岩版Ⅰ	118.0	94.0	22.0	325.8	凝灰岩	正面中央に軽微な敲打痕。
図 127-11	VW-59	Ⅱa層	岩版Ⅰ	119.0	(98.0)	16.0	(209.8)	緑色凝灰岩	正面に2箇所、裏面に1箇所の凹み。
図 128-1	VF以南	Ⅲ層	岩版Ⅱ	(51.2)	(30.5)	8.2	(11.6)	シルト岩	破損。表裏および側面に細沈線による同心円状の線刻。
図 128-2	V T以北 埋没沢	Ⅱa層	岩版Ⅲ	(32.0)	28.5	5.5	(5.9)	凝灰岩	表裏面は平滑。
図 128-3	VIB-63	Ⅱ層	岩版Ⅲ	42.5	29.0	7.5	11.6	凝灰岩	表面は平滑。
図 128-4	VF以南	Ⅱ層	岩版Ⅲ	39.0	(24.0)	8.3	(9.3)	凝灰岩	正面にやや太い一条のくぼみ。
図 128-5	VIC-62	Ⅱ層	岩版Ⅳ	(35.0)	(32.7)	12.0	(10.5)	凝灰岩	破損。側面および正面に細沈線。
図 128-6	VIA-62	Ⅱ層	岩版Ⅴ	93.0	74.0	14.0	998.7	砂質凝灰岩	正面に幅1mm程度の工具によりC字文のような線刻。何度かなぞり直して太く見えている。
図 128-7	VF以南	Ⅱ層	岩版Ⅴ	89.1	67.5	17.3	90.0	凝灰岩	擦痕および線状痕顕著。正面に幅1mm程度の工具で線刻。
図 128-8	VIA-62	Ⅱ層	三角形岩版	61.0	74.0	15.0	66.8	凝灰岩	正面は平滑。
図 128-9	VIA-63	Ⅱ層	三角形岩版	51.0	(65.0)	10.0	(30.3)	凝灰岩	片面を研磨加工。
図 128-10	VIA-62	Ⅱ層	三角形岩版	78.0	79.0	13.0	83.5	凝灰岩	側面加工は顕著でない。
図 128-11	VIA-62	Ⅱ層	三角形岩版	41.0	46.0	15.0	22.5	凝灰岩	未成品。片面研磨加工、裏面自然面。
図 128-12	VF以南	Ⅱ層	三角形岩版	(32.0)	38.0	6.0	(7.1)	凝灰岩	側面加工は顕著でない。
図 128-13	IVX-59	Ⅱ層	三角形岩版	(71.0)	(86.0)	18.5	(127.0)	凝灰岩	底辺部分は破損。
図 129-1	VF以南	Ⅱ層	不明石製品Ⅰ	(46.2)	(46.2)	11.5	(32.4)	砂質凝灰岩	破損。被熱により表面黒化。底面に3箇所、側面に4箇所の盲孔。
図 129-2	IVX-59	Ⅱ層	不明石製品Ⅰ	58.3	45.6	17.3	56.9	砂質凝灰岩	線刻は幅1mm内外、深さは1mm未満で浅い。
図 129-3	VU-59	Ⅱ層	不明石製品Ⅱ	(74.2)	(51.8)	11.8	(53.2)	シルト岩	破損。有孔。両側穿孔。
図 129-4	VS-60	Ⅱ層	搬入礫	40.0	20.0	15.0	17.2	水晶	未加工の自然礫(水晶)。

写真図版





上方が北

写真1 調査区全景



北西から（岩木川と湯ノ沢川の合流点）



南西から（山稜の奥に岩木山頂を望む）

写真2 遺跡遠景



上方が西

中央付近の円形石組2基は現代の井戸



南から

写真3 環状部



南区 (上方が西)



北区 (上方が西)

写真4 環状外



南区遺物集中域（南西から）



南区作業風景



北区埋没沢作業風景



SB06 作業風景



基本層序①VX-61（西から）



基本層序②VW-61（北から）



基本層序③VIM-60（西から）



基本層序④VIT-57（西から）

写真5 遺物出土状況・作業風景・基本層序



SI1 完掘 (北から)



SI1 炉検出 (南東から)



上段：SI1 土層 A-A' 下段：SI1 土層 B-B'



SI2 完掘 (南から)



SI2 土層 B-B'



SI3 完掘 (東から)



SI3 土層 B-B'

写真6 竪穴住居跡 (1)



SI4 土層 A-A'



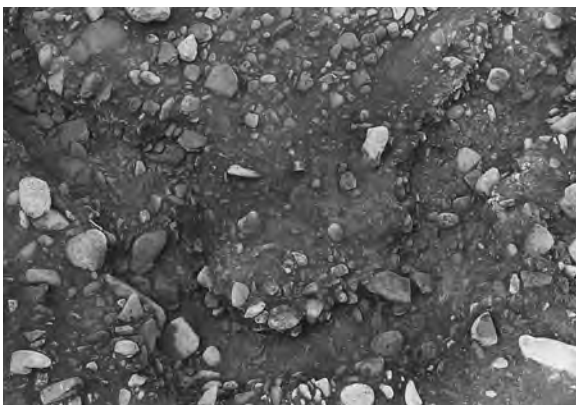
SI5 全景 (東から)



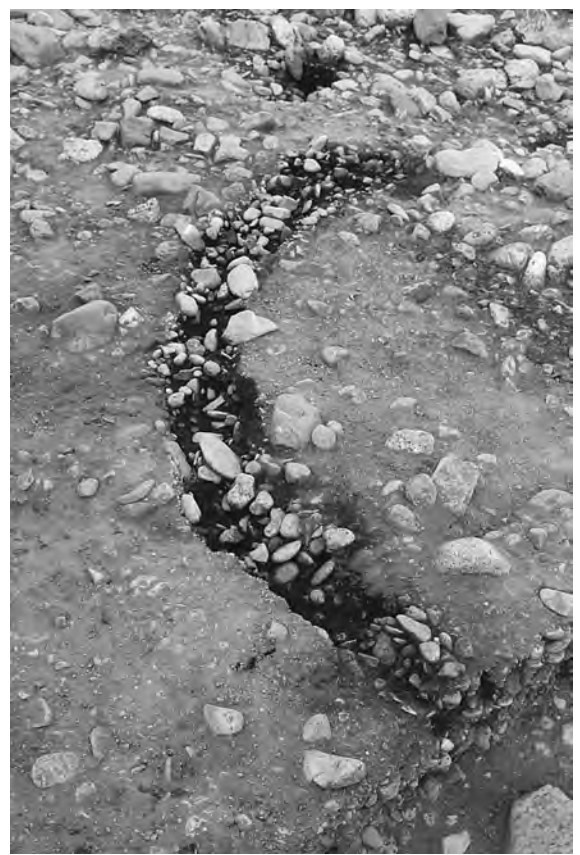
SI6・SI7 確認 (上方が北西：右が SI6)



SI6 土層 A ライン

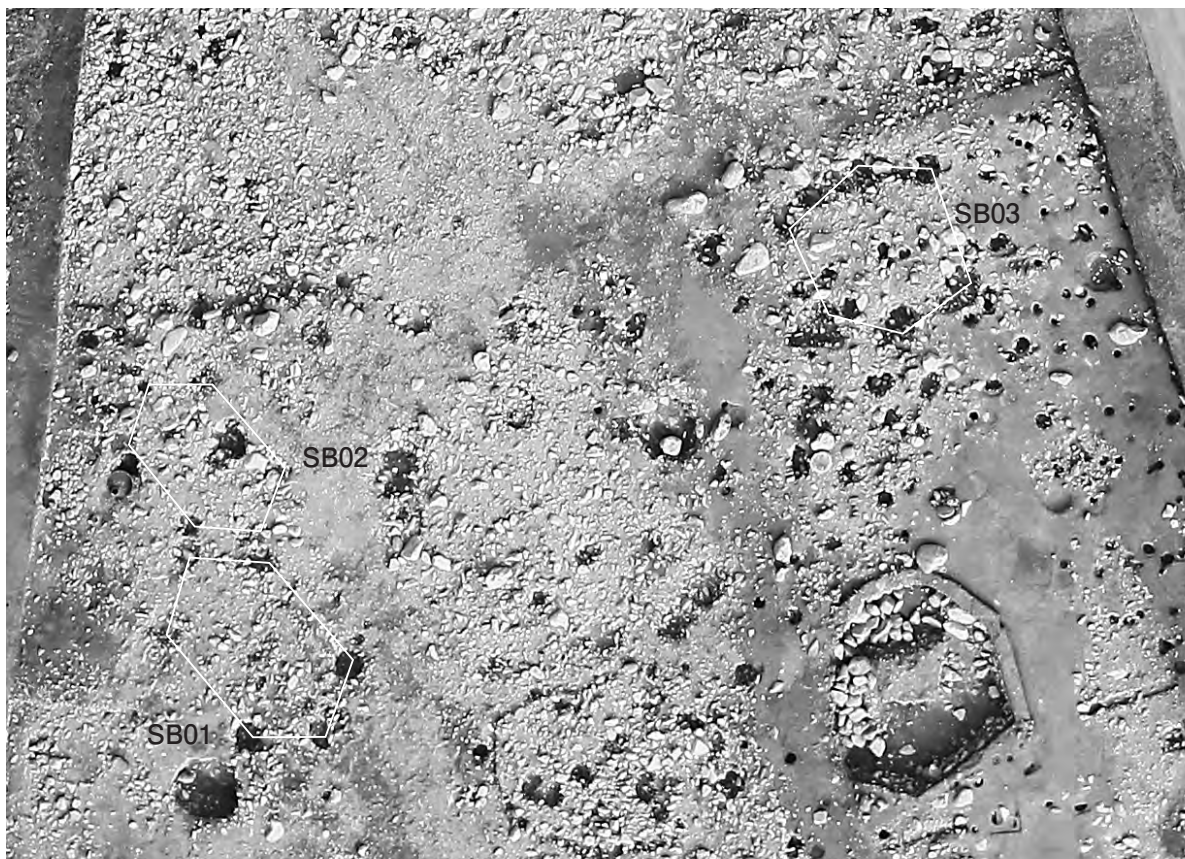


SI7 張出部 (南から)



SI7 周溝完掘 (西から)

写真7 竪穴住居跡 (2)



SB01～03完掘（上方が北）



SB01検出（南東から）



SB01中央焼土確認（SN4：南東から）



SB01柱1完掘（SK257：西から）



SB01柱2完掘（SK265：西から）

写真8 掘立柱建物跡（1）



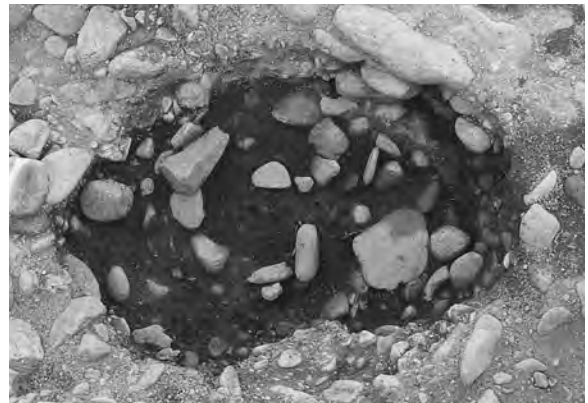
SB01 柱 3 柱痕完掘 (SK261 : 西から)



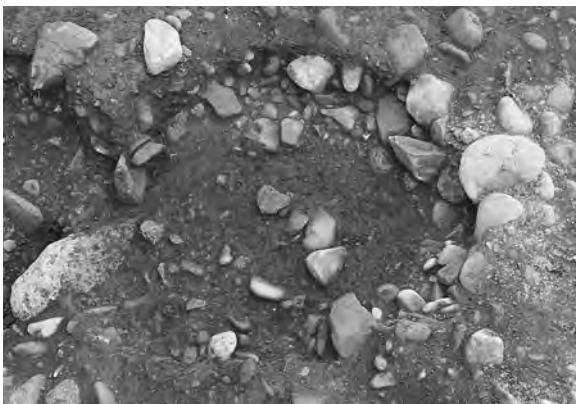
SB01 柱 4 確認 (SK251 : 西から)



SB01 柱 5 完掘 (SK332 : 西から)



SB01 柱 6 確認 (SK262 : 西から)



SB02 柱 1 確認 (SK266 : 南から)



SB02 柱 1 完掘 (SK266 : 東から)

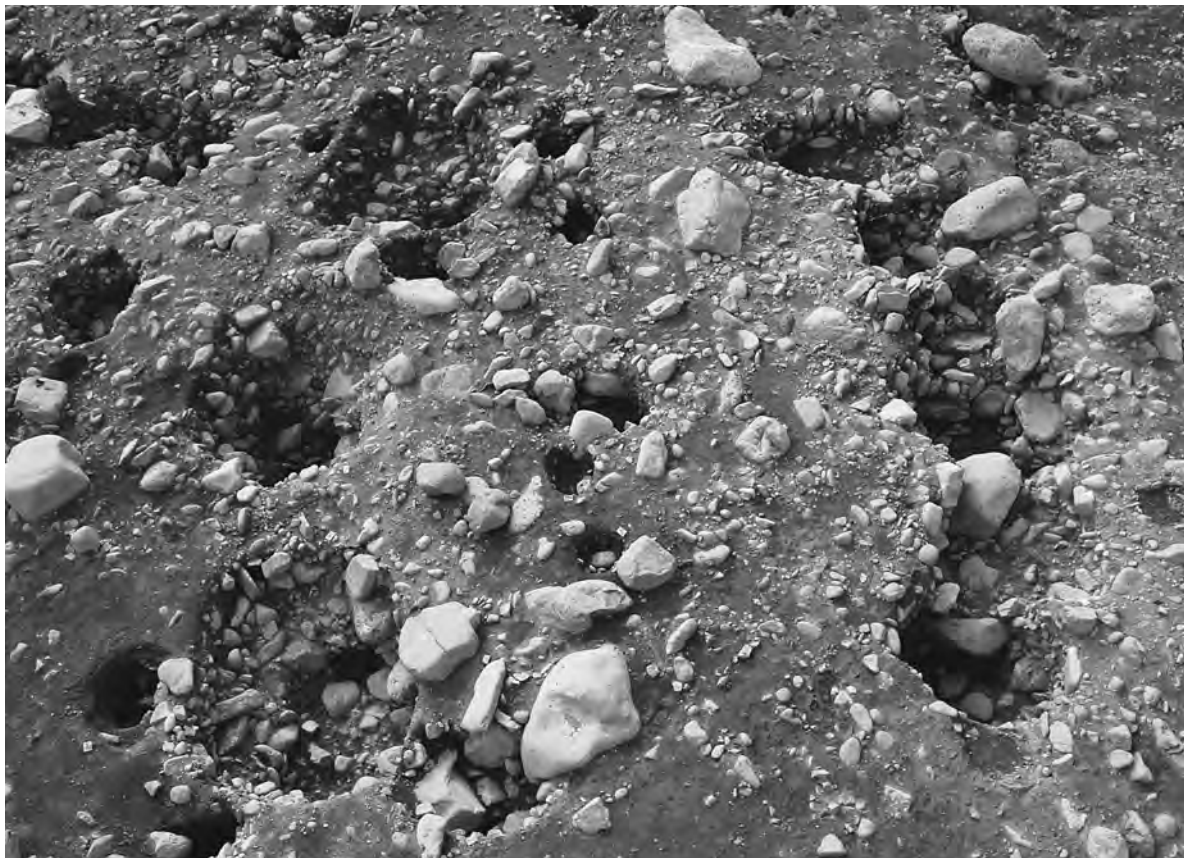


SB02 柱 3 土層 (SK264 : 東から)



SB02 柱 4 完掘 (SK275 : 西から)

写真9 掘立柱建物跡 (2)



SB03 完掘 (東から)



SB03 柱 1・2・5 ほか確認 (東から)



SB03 柱 2・5 ほか完掘 (南から)



SB03 柱 3 土層 (SK190: 北東から)

写真10 掘立柱建物跡 (3)



SB04～09 完掘 (上方が西)



SB04 完掘 (南東から)



SB04 中央焼土完掘 (SN1: 北西から)

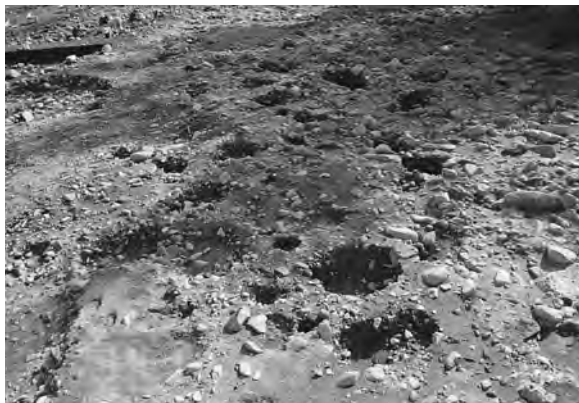


SB04 柱4 完掘 (SK235: 南西から)



SB04 柱4 土層 (SK293: 東から)

写真11 掘立柱建物跡 (4)



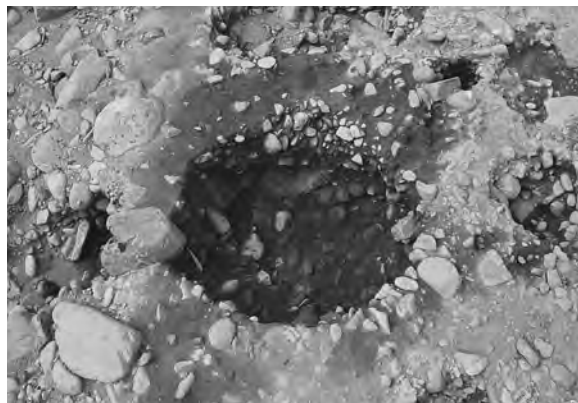
SB05 完掘 (北から)



SB05 柱 1 完掘 (SK127: 東から)



SB05 柱 2 完掘 (SK122: 南東から)



SB05 柱 4 完掘 (SK309: 南東から)



SB05 柱 3 土層 (SK046: 南から)



SB05 柱 3 完掘 (SK046: 南西から)



SB06 完掘 (東から)



SB06 柱 1 完掘 (SK305: 東から)

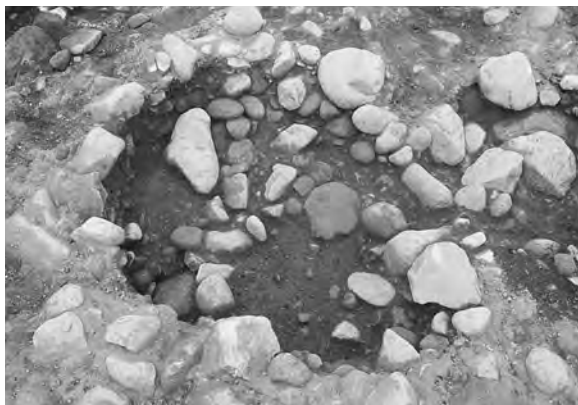
写真12 掘立柱建物跡 (5)



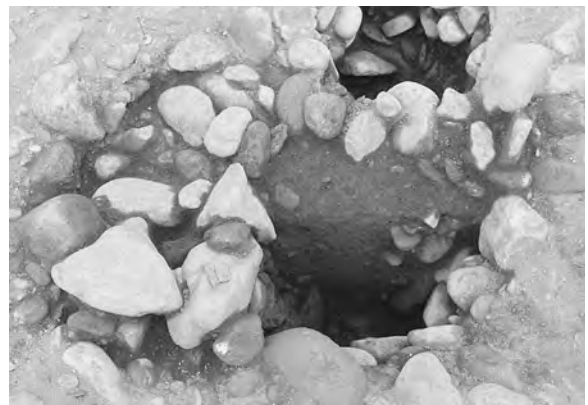
SB06 柱 3 土層 (SP078 : 南から)



SB06 柱 2 完掘 (SP077 : 南から)



SB06 柱 4 確認 (SK306 : 南東から)



SB06 柱 5 土層 (SK311 : 東から)



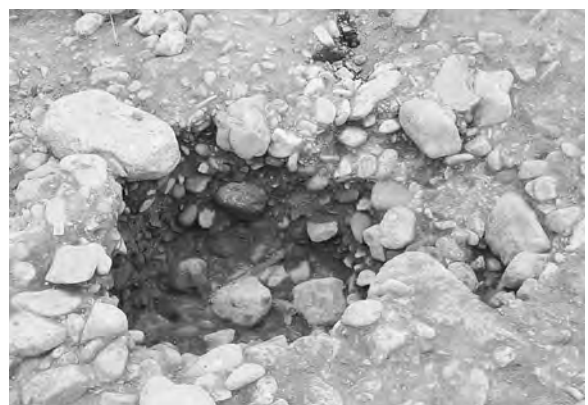
SB06 柱 6 土層 (SP055 : 南から)



SB06 柱 6 完掘 (SP055 : 南から)



SB06 中央土坑土層 (SK151 : 北東から)



SB06 中央土坑完掘 (SK151 : 東から)

写真13 掘立柱建物跡 (6)



SB07・08 完掘 (北から)



SB07 柱 1 完掘 (SP076 : 南から)



SB07 柱 2 完掘 (SK144 : 南から)



SB07 柱 3 土層 (SK049 : 東から)



SB07 柱 4 完掘 (SP079 : 東から)

写真14 掘立柱建物跡 (7)



SB07 柱 5 完掘 (SK374: 東から)



SB07 柱 6 確認 (SK370: 東から)



SB08 柱 1 完掘 (SK071: 北西から)



SB08 柱 2 完掘 (SK121: 北から)



SB08 柱 3 完掘 (SK367: 北から)



SB08 柱 4 完掘 (SK076: 東から)



SB08 柱 5 土層 (SK079: 南から)



SB08 柱 6 土層 (SK058: 東から)

写真15 掘立柱建物跡 (8)



SB09 完掘 (西から)



SB09 柱 1 柱痕完掘 (SK042: 東から)



SB09 柱 2 土層 (SK468: 南から)



SB09 柱 3 土層 (SK469: 西から)



SB09 柱 4 土層 (SK366: 南から)



SB09 柱 4 完掘 (SK366: 南から)

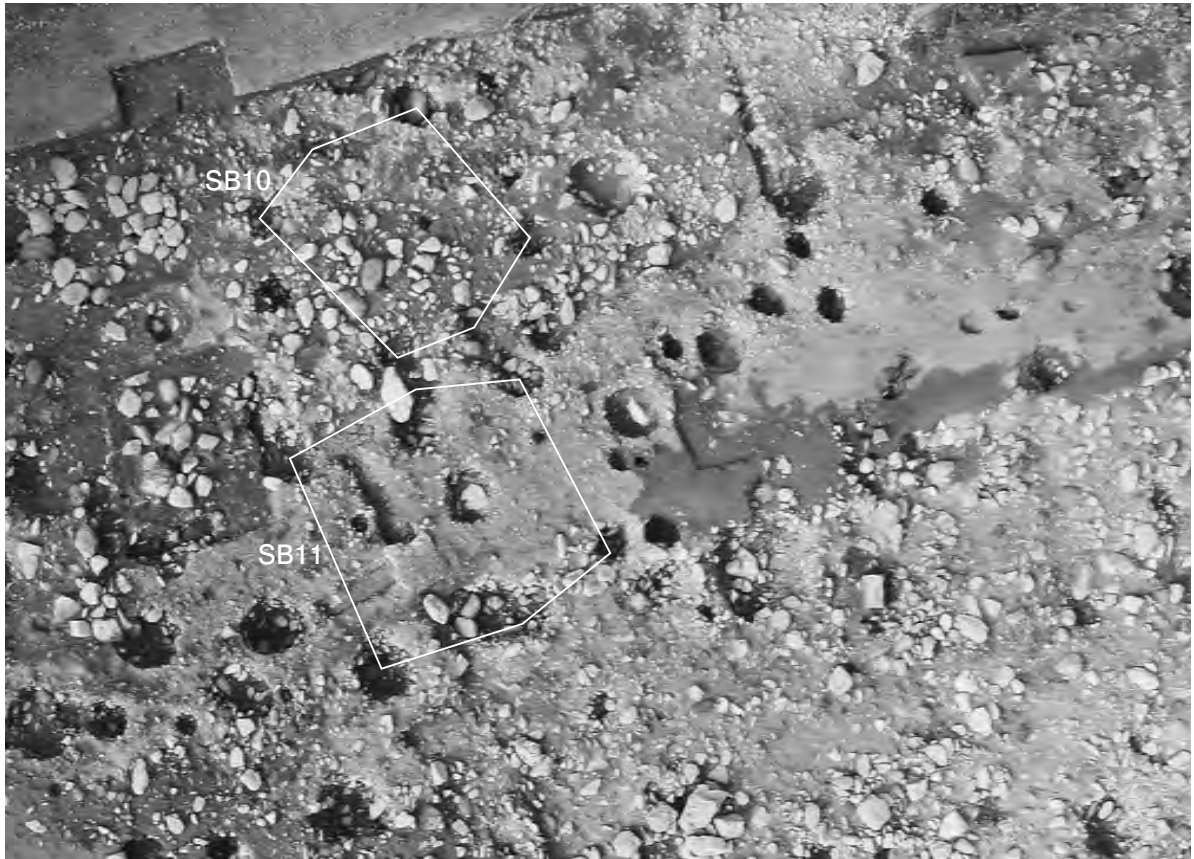


SB09 柱 5 柱痕完掘 (SK041: 西から)



SB09 柱 6 遺物出土状況 (SK067: 北東から)

写真16 掘立柱建物跡 (9)



SB10・11 完掘 (上方が西)



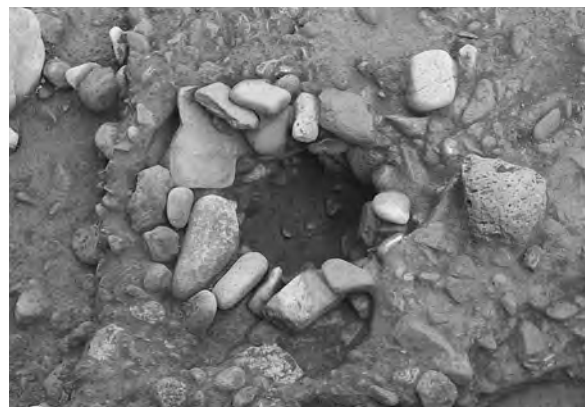
SB10 柱 1 完掘 (SK073 : 南から)



SB10 柱 2 土層 (SK213 : 東から)



SB10 柱 3 柱痕完掘 (SK215 : 東から)



SB10 柱 4 柱痕完掘 (SK456 : 西から)

写真 17 掘立柱建物跡 (10)



SB10 柱 5 土層 (SK156 : 東から)



SB10 柱 6 完掘 (SP756 : 南から)



SB11 柱 1 確認 (SK387 : 南から)



SB11 柱 2 確認 (SK376 : 南から)



SB11 柱 3 確認 (SK211 : 南から)



SB11 柱 4 確認 (SK377 : 東から)



SB11 中央土坑土層 (SK219 : 南東から)



SB11 中央土坑完掘 (SK219 : 南から)

写真18 掘立柱建物跡 (11)



SB12～15完掘（上方が北）



SB12・13検出（南から）

写真19 掘立柱建物跡（12）



SB12・13 検出 (北東から)



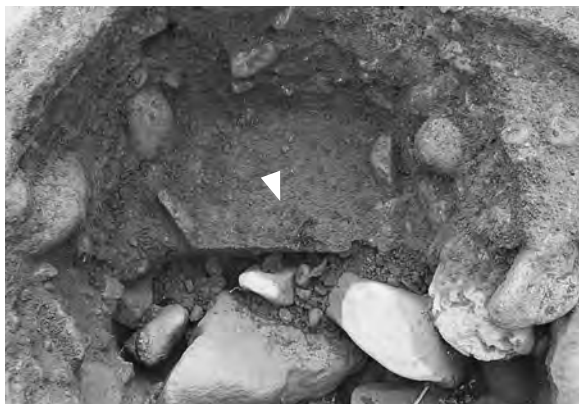
SB12 柱 1 柱痕完掘 (SK138: 南から)



SB12 柱 2 柱痕完掘 (SK393: 南から)



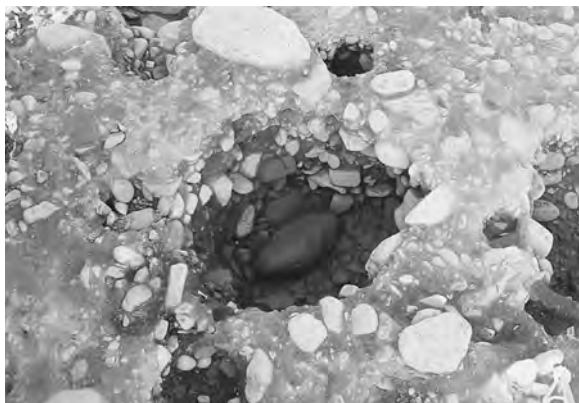
SB12 柱 4 完掘 (SK060: 南から)



SB12 柱 3 柱痕 炭化物出土状況 (SK059)



SB12 柱 3 柱痕完掘 (SK059: 北から)



SB12 柱 5 完掘 (SK396: 南から)

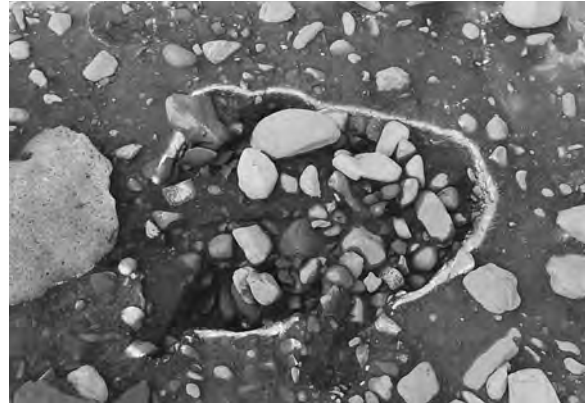


SB12 柱 6 柱痕完掘 (SK379: 西から)

写真20 掘立柱建物跡 (13)



SB13 柱 1 柱痕完掘 (SK202 : 北から)



SB13 柱 3 確認 (SK078 : 南から)



SB13 柱 2 柱痕完掘 (SK458 : 南から)



SB13 柱 2 完掘 (SK458 : 北から)



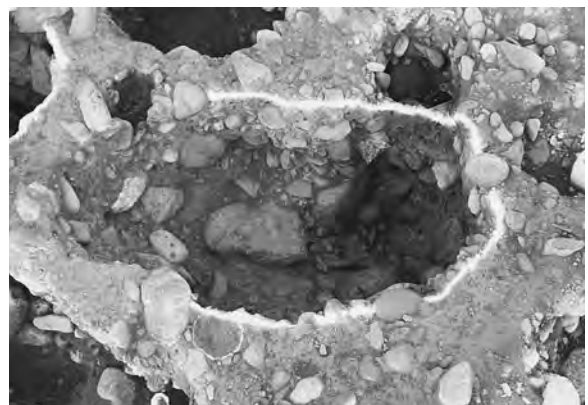
SB13 柱 4 完掘 (SK160 : 北西から)



SB13 柱 4 柱痕完掘 (SK160 : 北西から)



SB13 柱 5 柱痕完掘 (SK205 : 南から)



SB13 柱 6 完掘 (SK451 : 南から)

写真21 掘立柱建物跡 (14)



SB14 検出 (南から)



SB14 柱 1 土層 (SK051 : 西から)



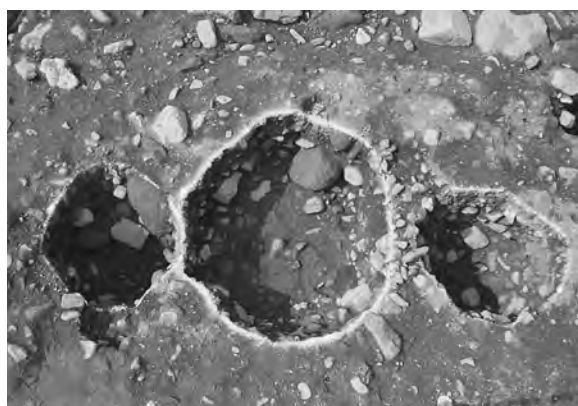
SB14 柱 2 完掘 (SK150 (右) : 北東から)



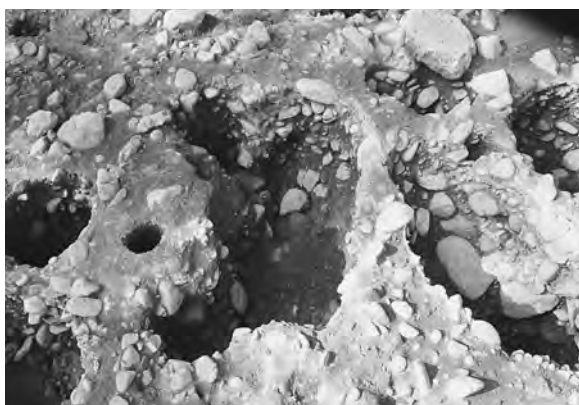
SB14 柱 4 土層 (SK053 : 東から)



SB14 柱 3 ほか柱痕完掘 (SK055・062・070 : 東から)



SB14 柱 3 ほか完掘 (SK055・062・070 : 東から)



SB14 柱 5 ほか完掘 (SK060・389・390・394 : 南東から)



SB14 柱 6 柱痕完掘 (SK052 : 東から)

写真22 掘立柱建物跡 (15)



SB15 検出 (南東から)



SB15 柱 1 土層 (SK214 : 南東から)



SB15 柱 2 確認 (SK210 : 南から)



SB15 柱 3 確認 (SK157 : 南から)



SB15 柱 4 完掘 (SK217 : 東から)

写真23 掘立柱建物跡 (16)



SB15 柱 5 柱痕完掘 (SK316 : 南から)



SB15 柱 6 柱痕完掘 (SK212 : 北西から)



SB16 ~ 20 完掘 (上方が北)

写真24 掘立柱建物跡 (17)



SB16 柱 2 土層 (SK414 : 東から)



SB16 柱 3 確認 (SK354 : 東から)



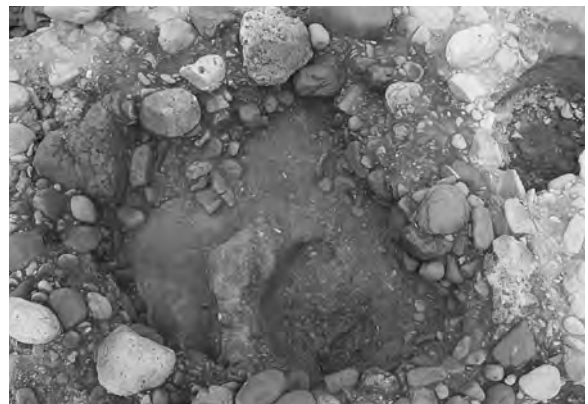
SB16 柱 4 土層 (SK360 : 南から)



SB16 柱 5 確認 (SK413 : 東から)



SB16 柱 6 土層 (SK353 : 南から)



SB16 柱 6 ほか完掘 (SK353・425 : 南から)



SB17 柱 1 完掘 (SK346 : 西から)

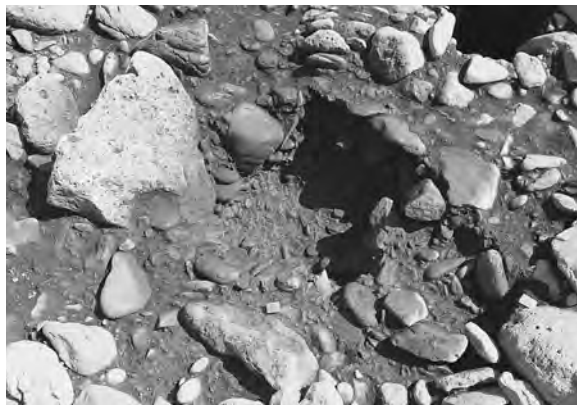


SB17 柱 2 土層 (SK347 : 南東から)

写真25 掘立柱建物跡 (18)



SB17 柱 3 (SK421)・SB18 柱 2 (SK348) 完掘 (東から)



SB17 柱 4 完掘 (SK331 : 西から)



SB17 柱 5 確認 (SK352 : 東から)



SB17 柱 6 (SK349)・SK350 完掘 (東から)



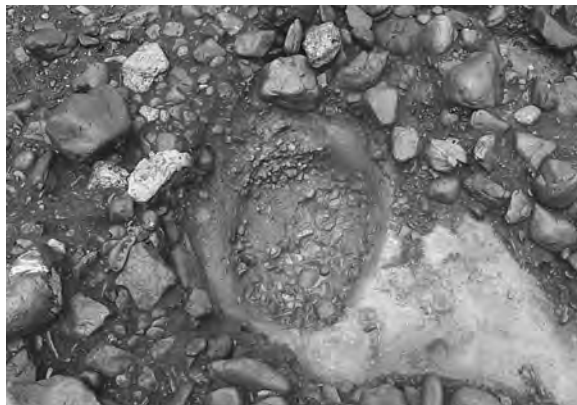
SB18 柱 1 柱痕完掘 (SK038 : 北西から)



SB18 柱 2 土層 (SK348 : 南から)



SB18 柱 3 確認 (SK186 : 西から)



SB18 柱 4 完掘 (SK193 : 東から)

写真26 掘立柱建物跡 (19)



SB18 柱 5 完掘 (SK341 : 南から)



SB18 柱 6 完掘 (SK037 : 北から)



SB19 柱 1 完掘 (SK181 : 南西から)



SB19 柱 2 土層 (SK120 : 北から)



SB19 柱 3 土層 (SK087 : 南東から)



SB19 柱 4 完掘 (SK086 : 西から)



SB19 柱 5 (SK168) ほか完掘 (北から)



SB19 柱 6 完掘 (SK093 : 北東から)

写真27 掘立柱建物跡 (20)



SB20 柱 1 土層 (SK027: 西から)



SB20 柱 1 柱痕完掘 (SK027: 西から)



SB20 柱 2 柱痕完掘 (SK019: 西から)



SB20 柱 2 完掘 (SK019: 東から)



SB20 柱 3 完掘 (SK024: 東から)



SB20 柱 4 柱痕完掘 (SK033: 西から)



SB20 柱 5 柱痕完掘 (SK091: 南西から)



SB20 柱 6 土層 (SK106: 北西から)

写真28 掘立柱建物跡 (21)



SK002 土層 (南東から)



SK003 土層 (南から)



SK011 土層 (東から)



SK095 土層 (南東から)



SK274 完掘 (西から)



SK278 土層 (南から)

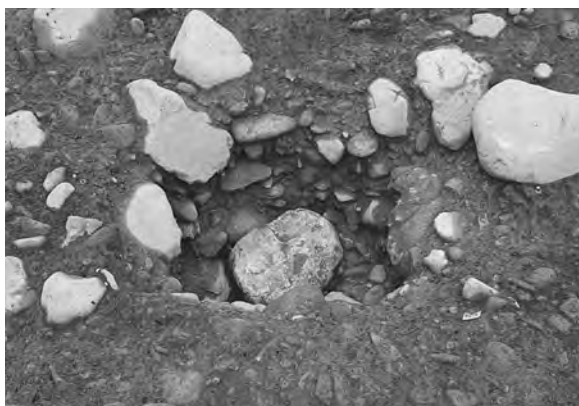


SK339 完掘 (北から)

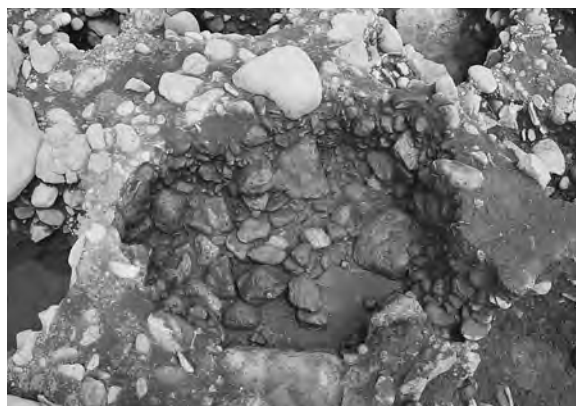


SK402 土層 (南東から)

写真29 土坑 (南区環状外)



SK018 完掘 (西から)



SK088・169・SP243 完掘 (南から)



SK119・120・276 完掘 (北から)



SK200 完掘 (南東から)



SK336 礫出土状況 (東から)



SK336 完掘 (南から)



SK428 土層 (北から)



SK429・432 完掘 (東から)

写真30 土坑 (環状部南側)



SK201 確認 (西から)



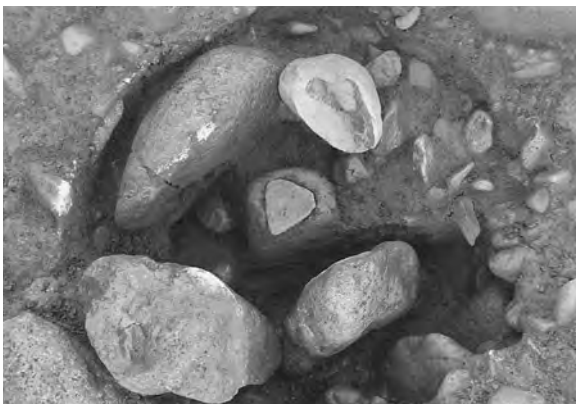
SK384 土層 (南から)



SK378 巨礫出土状況 (東から)



SK378 完掘 (東から)



SK460 三角形土版出土状況 (南から)



SK463 柱痕確認 (南から)



SK442 土層 (南から)



SK443 土層 (南から)

写真31 土坑 (環状部北側・環状部内側)



SK043 土層 (西から)



SK224 ~ 229 完掘 (東から)



SK230 ~ 232 完掘 (北東から)



SK231 石皿出土状況 (北東から)



SK281 土層 (東から)



SK281 土器出土状況 (東から)

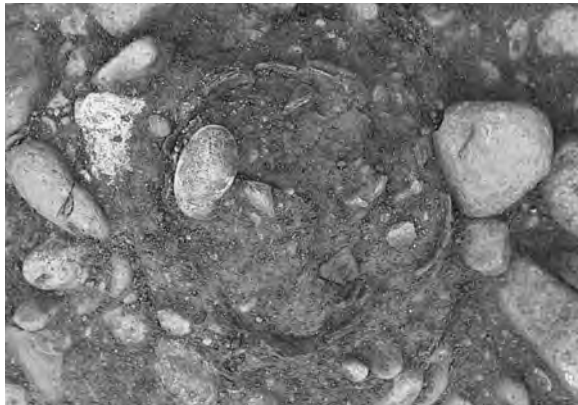


SK236 柱痕完掘 (東から)



SK522 土層 (南から)

写真32 土坑 (北区環状外)



SR1 確認 (東から)



SR1 土層 (南から)



SR3 確認 (南から)



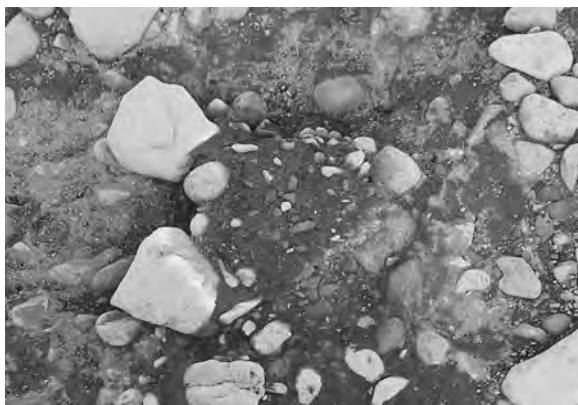
SR3 側面 (南から)



SR4 側面 (南から)



SR4 土層 (南から)



SN2 確認 (西から)

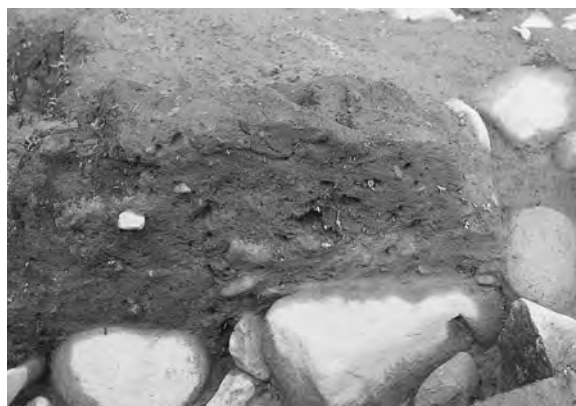


SN2 土層 (西から)

写真33 土器埋設遺構・焼土遺構 (1)



SN3 確認 (東から)



SN3 土層 (南から)



SN5 確認 (南から)



SN5 土層 (南から)



SQ1 確認 (北東から)



SQ1 礫設置状況 (東から)



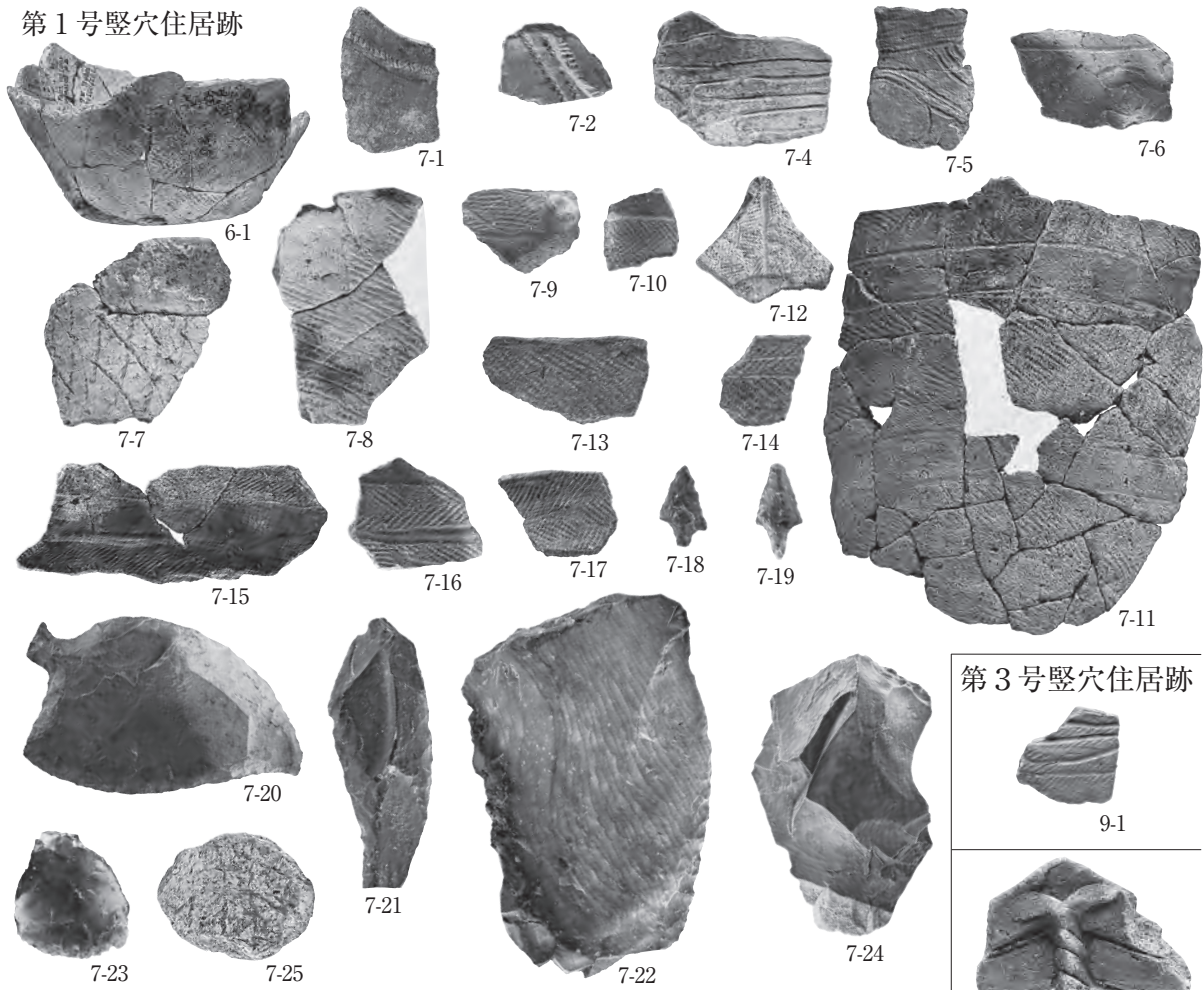
SQ4 確認 (南から)



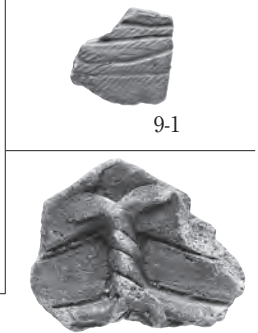
SQ4 礫設置状況 (南から)

写真34 焼土遺構 (2)・配石遺構

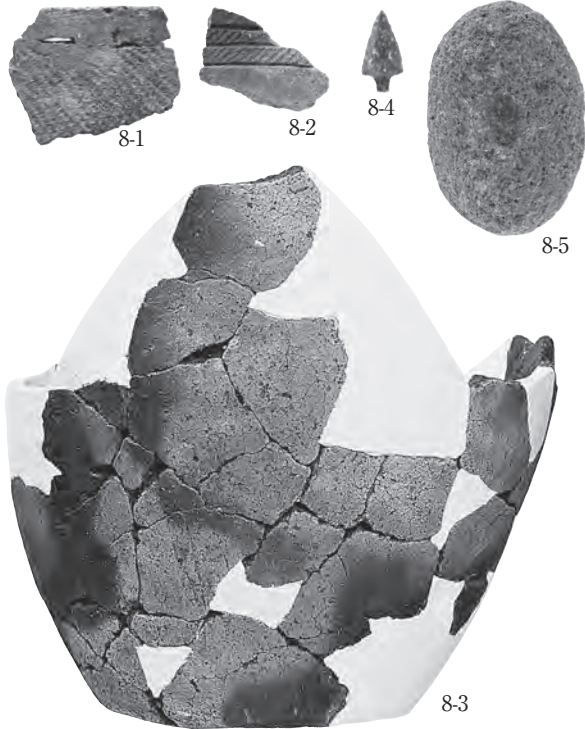
第1号竖穴住居跡



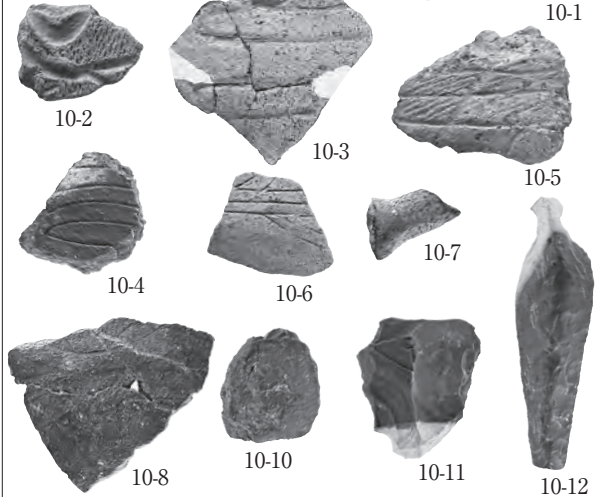
第3号竖穴住居跡



第2号竖穴住居跡



第4号竖穴住居跡



第5号竖穴住居跡①

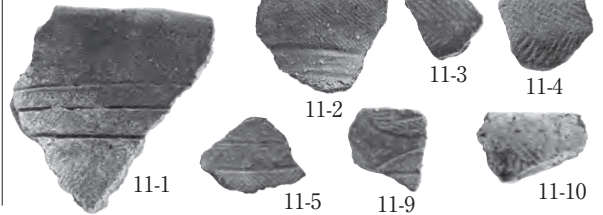
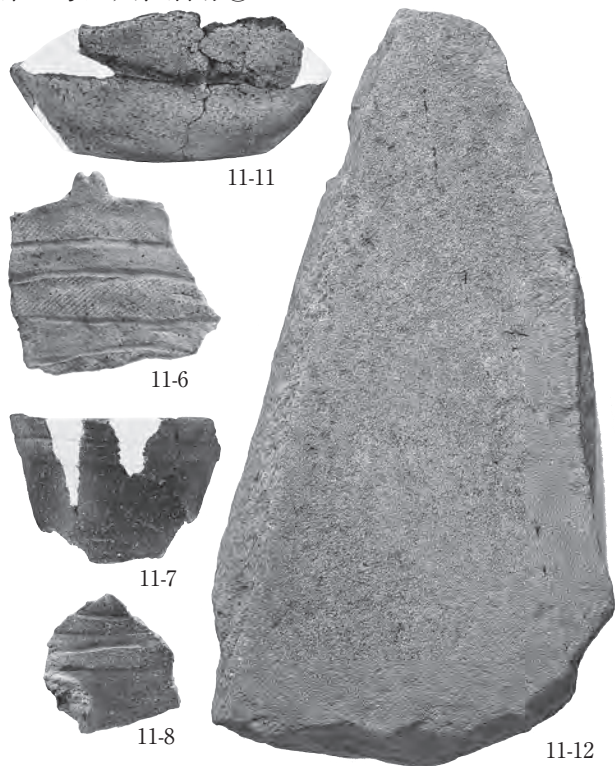


写真35 竖穴住居跡出土遺物①

第5号竖穴住居跡②

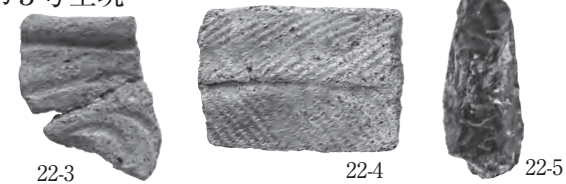


第7号竖穴住居跡

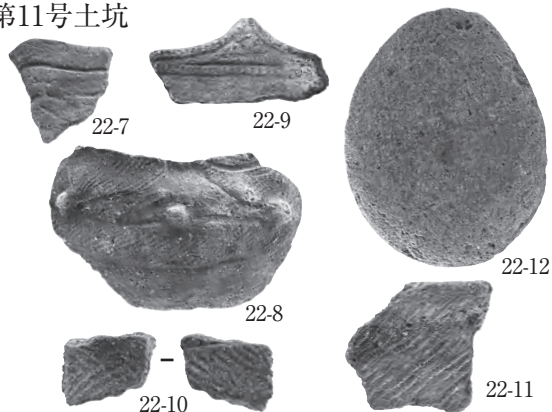
南区環状外土坑出土遺物



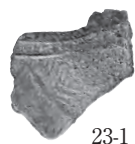
第3号土坑



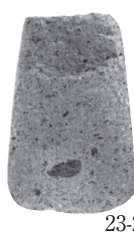
第11号土坑



第34号土坑



第36号土坑



第81号土坑



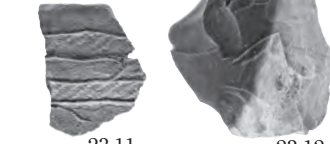
第82号土坑



第92号土坑



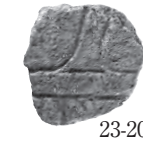
第95号土坑



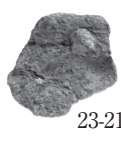
第173号土坑



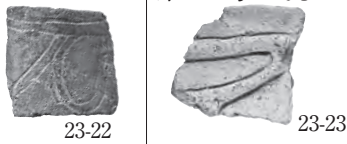
第175号土坑



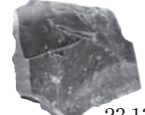
第176号土坑



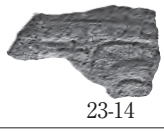
第177号土坑



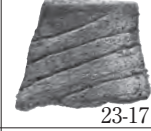
第94号土坑



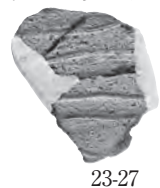
第114号土坑



第162号土坑



第178号土坑



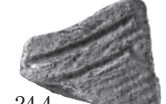
第184号土坑



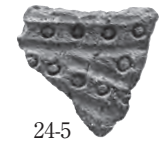
第190号土坑



第191号土坑



第197号土坑



第198号土坑



第180号土坑



第177号土坑



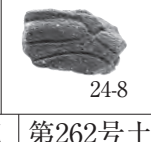
第241号土坑



第199号土坑



第199号土坑



第180号土坑



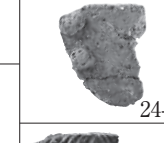
第241号土坑



第257号土坑



第261号土坑



第262号土坑

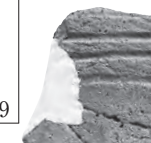


写真36 竖穴住居跡出土遺物②、土坑出土遺物①

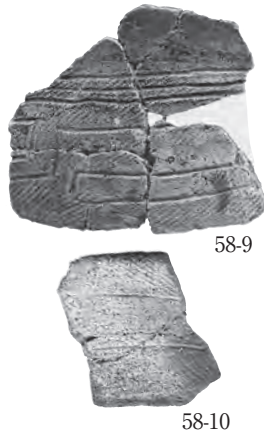


写真37 土坑出土遺物②



写真38 土坑出土遺物③

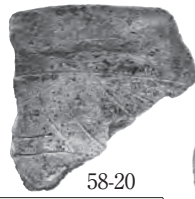
第48号土坑



第73号土坑



第122号土坑



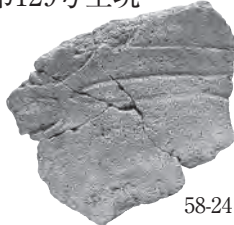
第127号土坑



第145号土坑



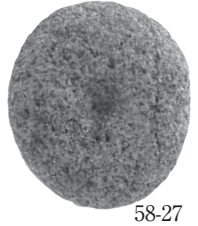
第129号土坑



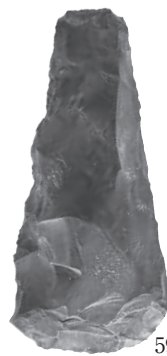
第146号土坑



第203号土坑



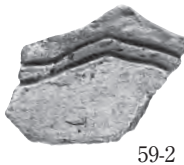
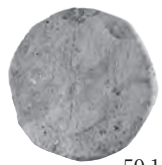
第151号土坑



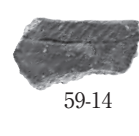
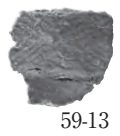
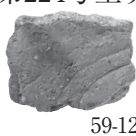
第213号土坑



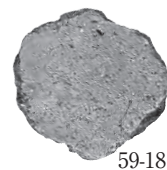
第219号土坑



第224号土坑



第239号土坑



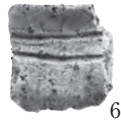
第285号土坑



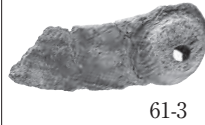
第297号土坑



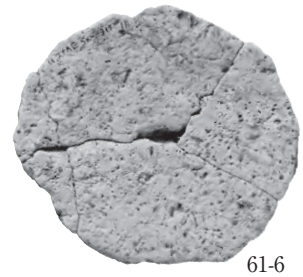
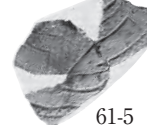
第306号土坑



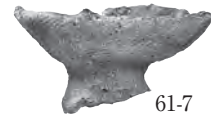
第314号土坑



第319号土坑



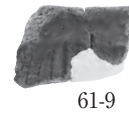
第320号土坑



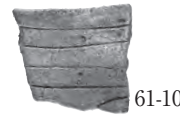
第363号土坑



第365号土坑



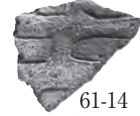
第371号土坑



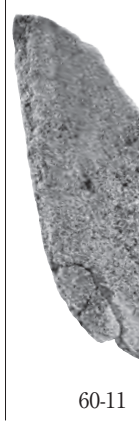
第372号土坑



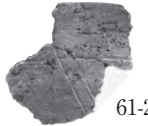
第397号土坑



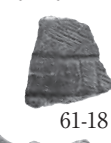
第281号土坑①



第456号土坑



第522号土坑



第468号土坑

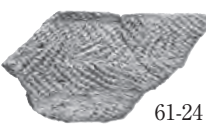


写真39 土坑出土遺物④

第281号土坑②



60-1



60-2



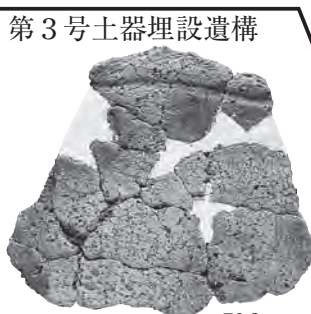
60-3



60-5

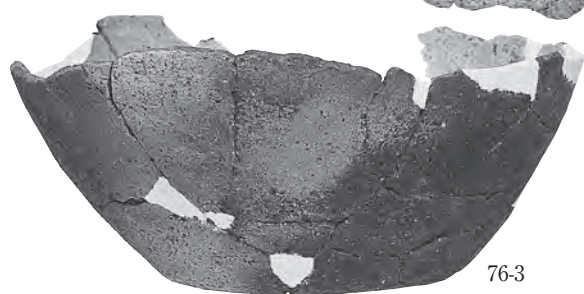


60-6



76-2

第3号土器埋設遺構



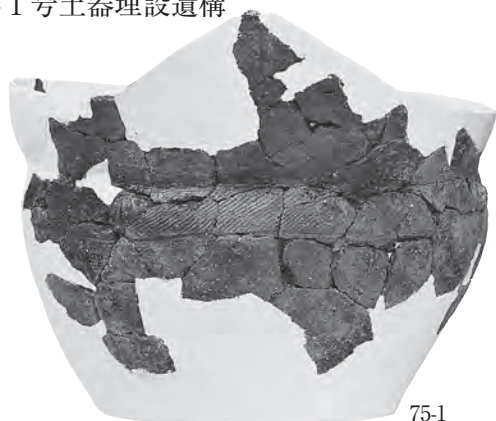
76-3

第4号土器埋設遺構



76-1

第1号土器埋設遺構



75-1



75-2

写真40 土坑出土遺物⑤、土器埋設遺構

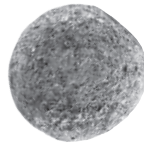
第1号配石遺構



第14号ピット



97-2



97-3

第22号ピット



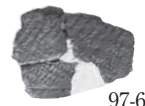
97-4

第25号ピット



97-5

第33号ピット



97-6

第47号ピット



97-7

第76号ピット



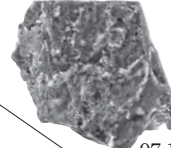
97-8

第77号ピット



97-9

第85号ピット



97-10

第113号ピット



97-15

第124号ピット



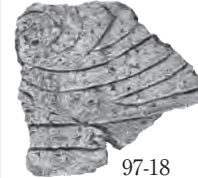
97-17

第117号ピット



97-16

第120号ピット



97-18

第127号ピット



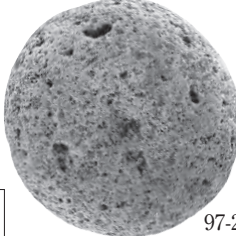
97-19

第91号ピット



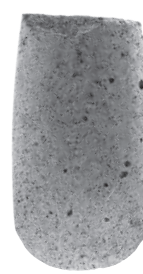
97-11

第130号ピット



97-20

第131号ピット



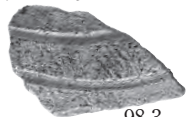
98-1

第141号ピット



98-2

第149号ピット



98-3

第224号ピット



98-4

第242号ピット



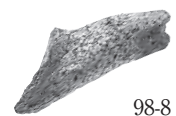
98-6

第279号ピット



98-12

第304号ピット



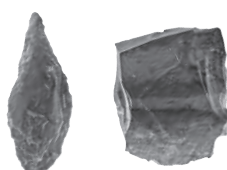
98-8

第345号ピット



98-14

第578号ピット



98-21

98-22

第502号ピット



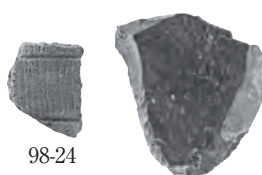
98-17

第605号ピット



98-19

第682号ピット



98-24

98-25

第758号ピット



98-20

写真41 配石遺構出土遺物、ピット出土遺物

南区遺構外出土土器（環状外）

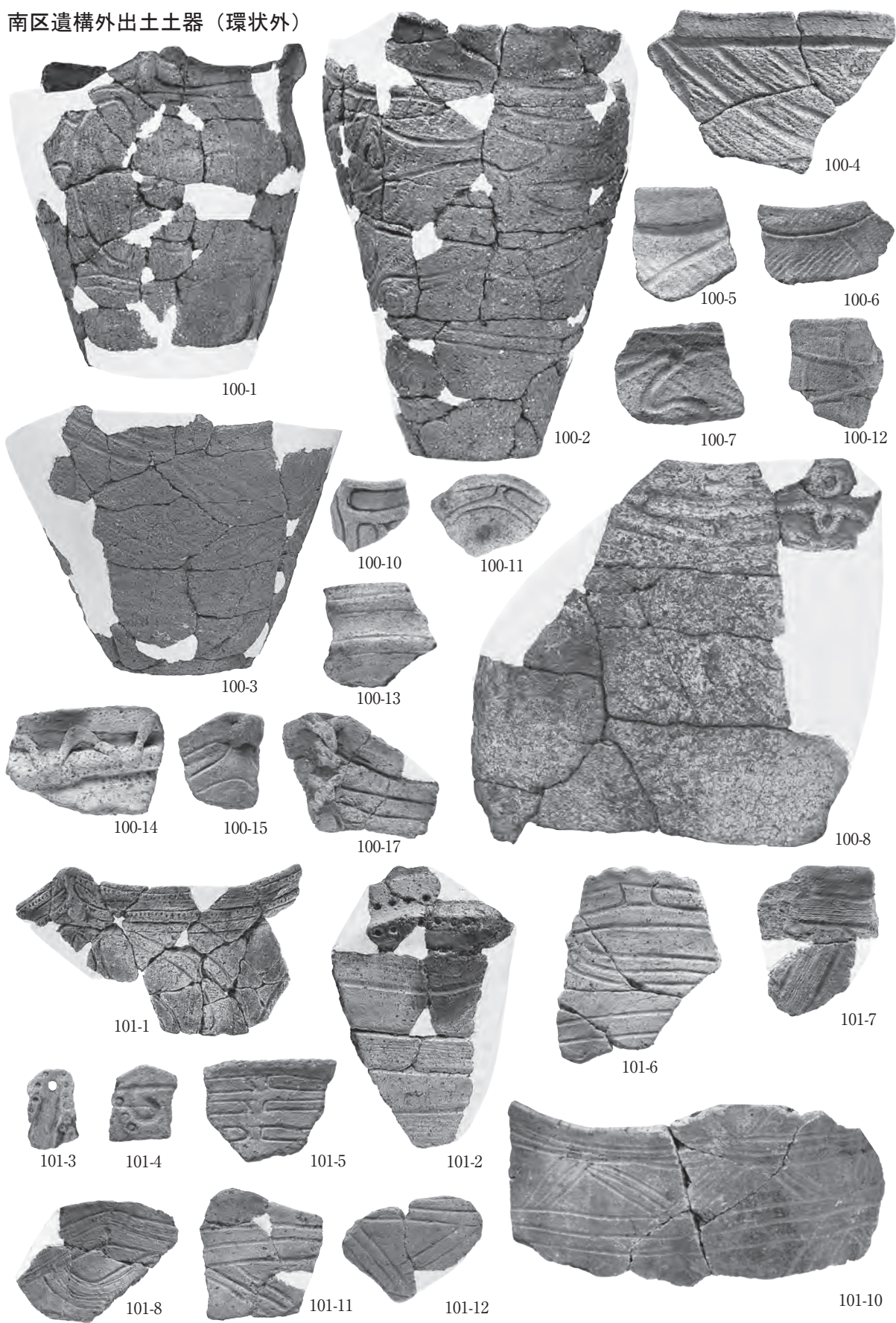


写真42 遺構外出土土器（1）（南区環状外①）

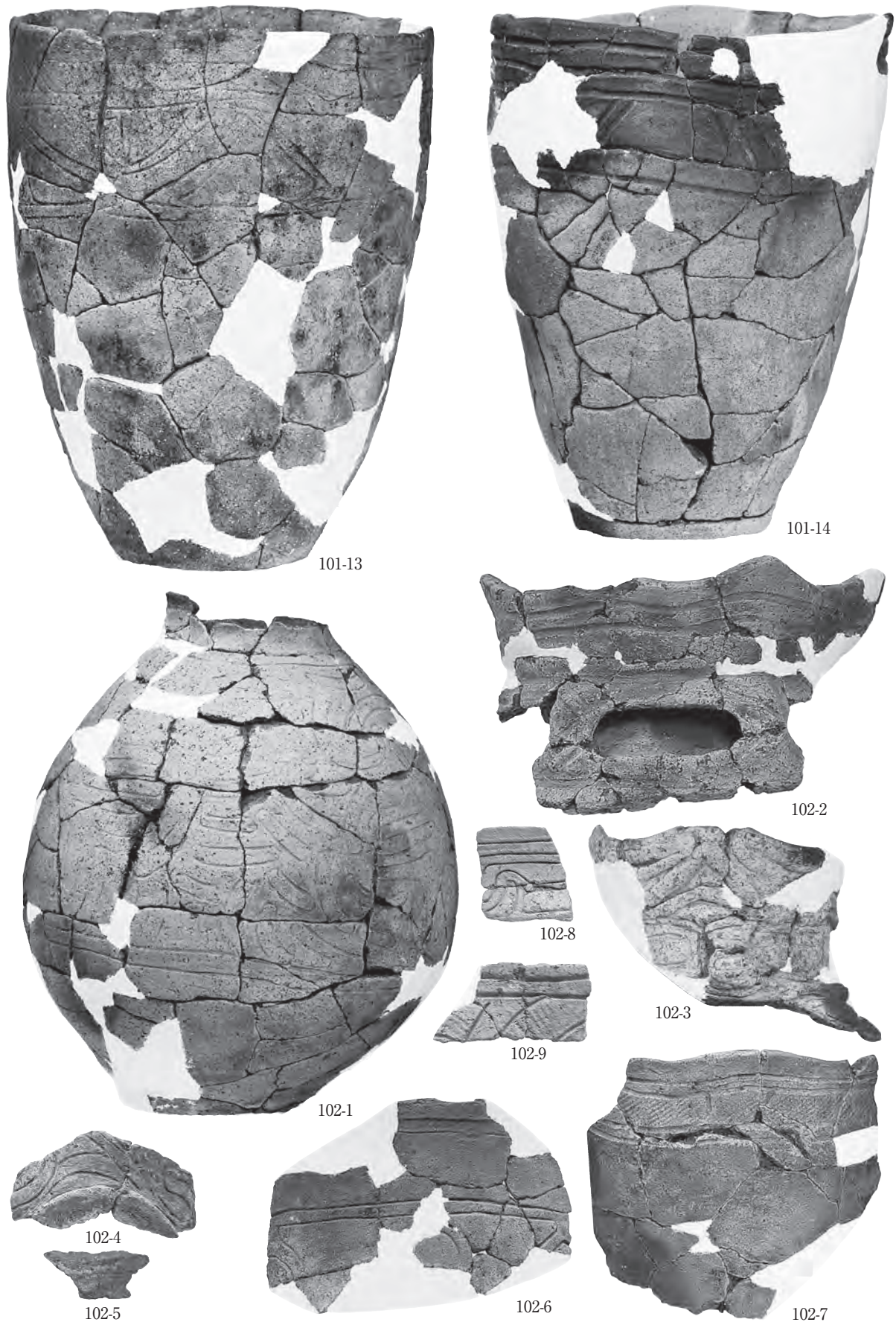


写真43 遺構外出土土器（2）（南区環状外②）

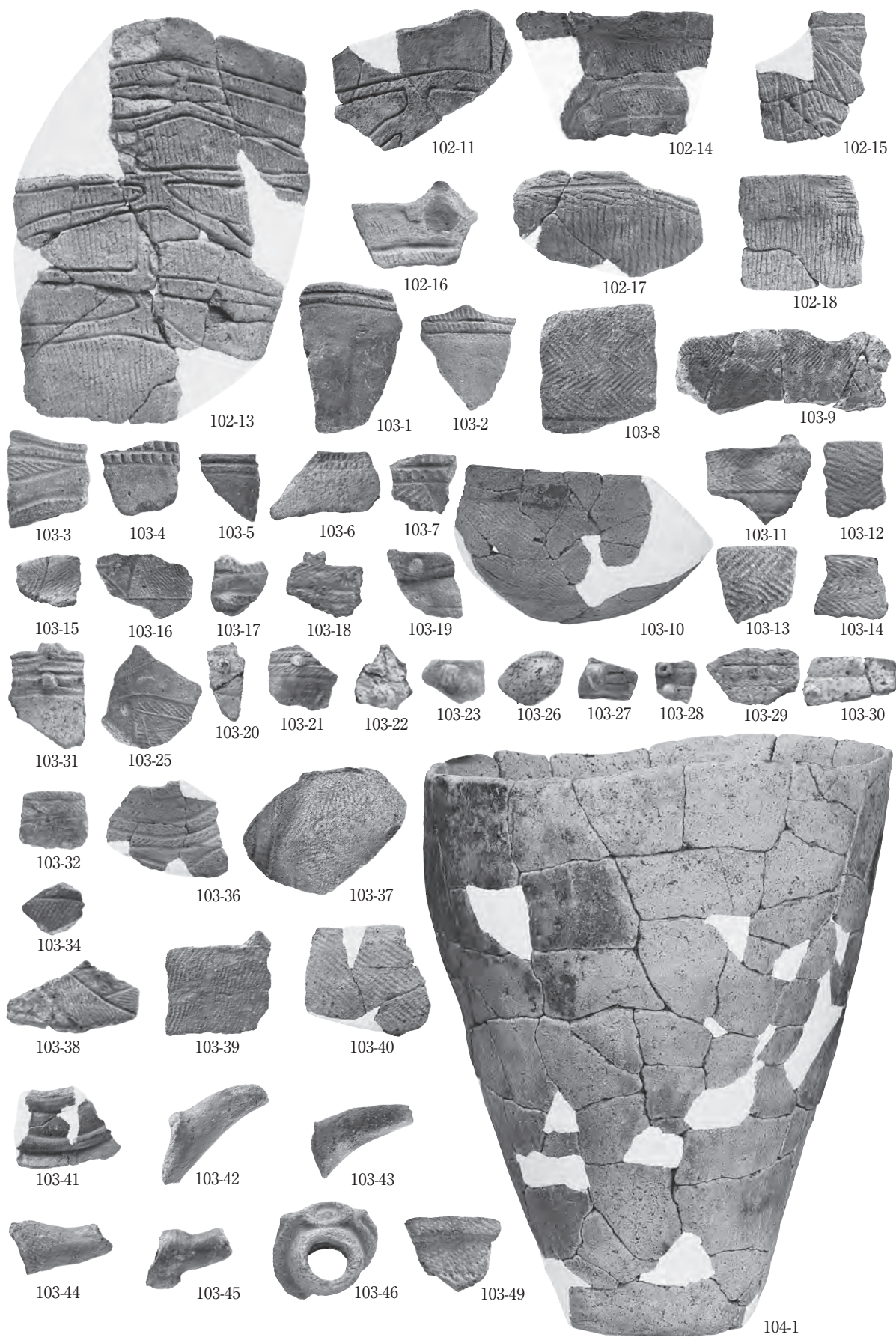
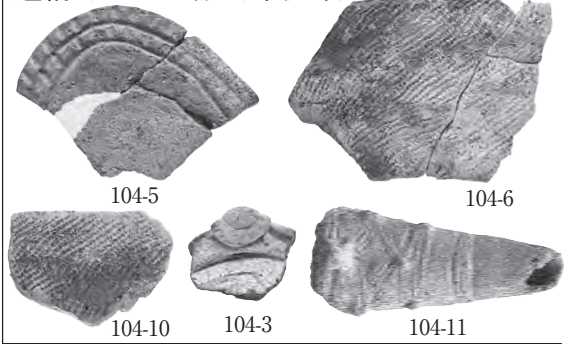


写真44 遺構外出土土器 (3) (南区環状外③)



遺構外出土土器（環状部）



遺構外出土石器（環状部内側）



北区遺構外出土土器（環状外）

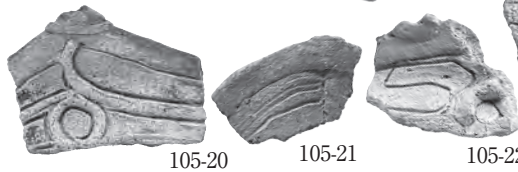
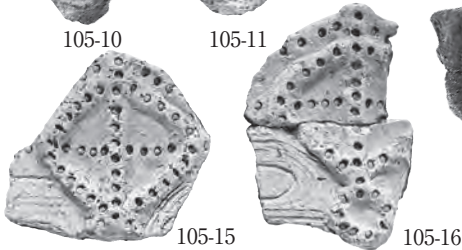
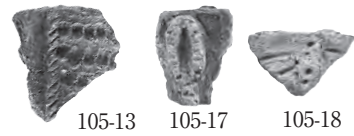
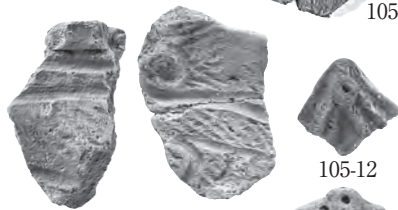
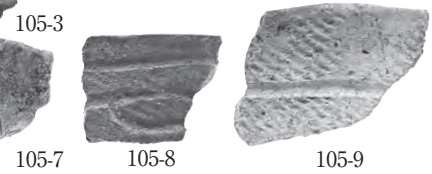
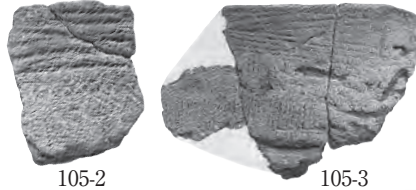


写真45 遺構外出土土器（4）（南区環状外④・環状部・環状部内側・北区環状外①）

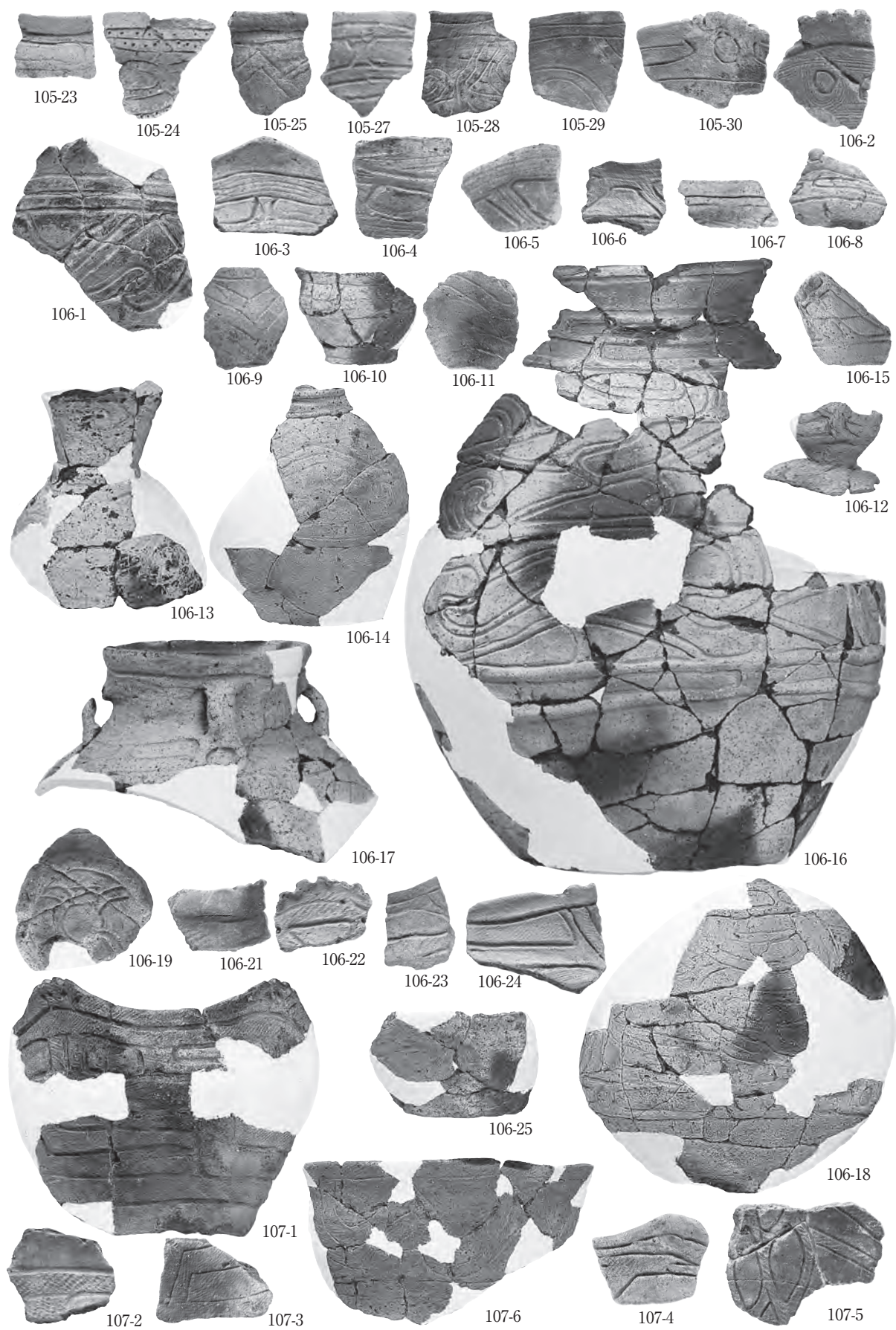


写真46 遺構外出土土器 (5) (北区環状外②)

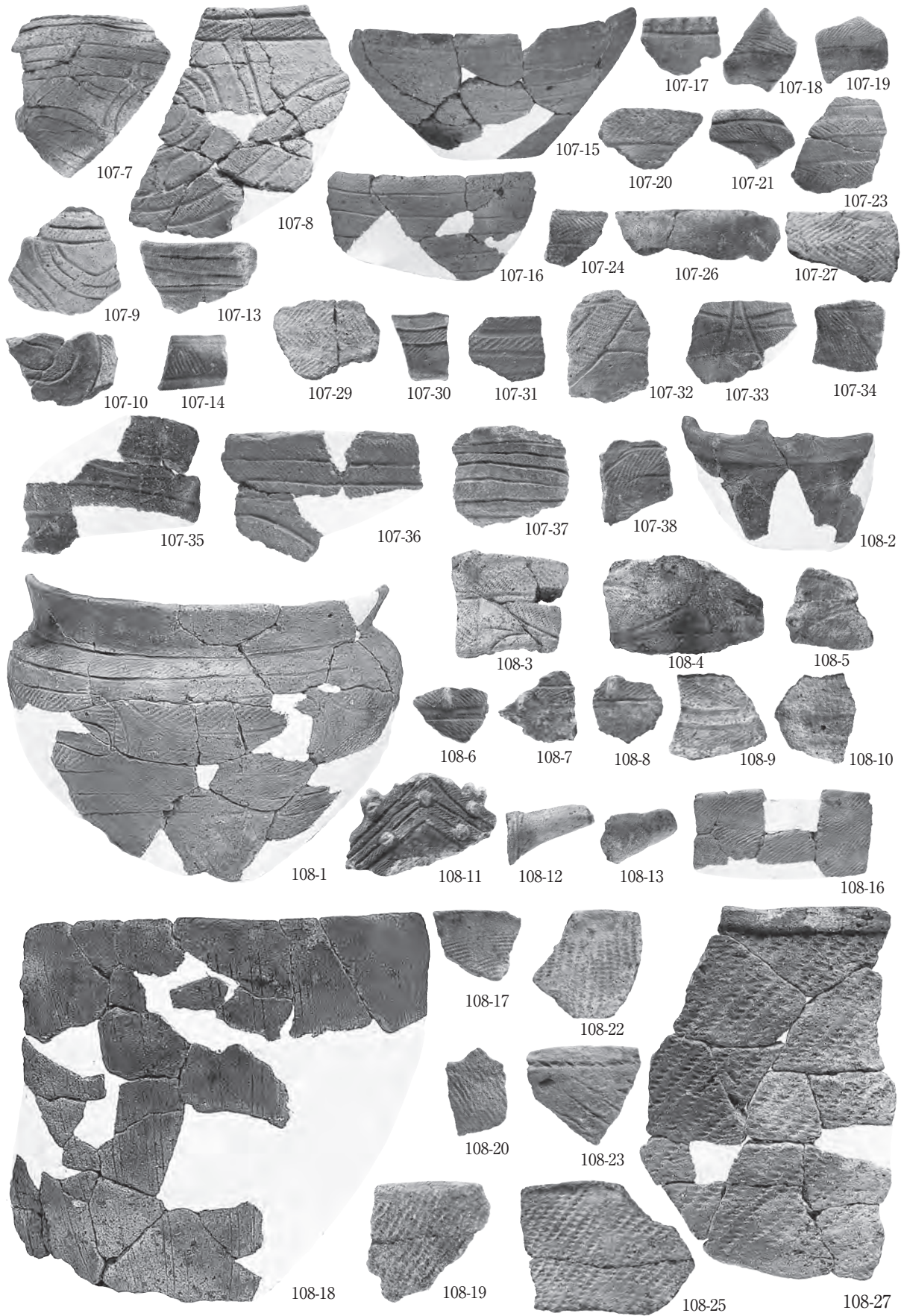


写真47 遺構外出土土器（6）（北区環状外③）

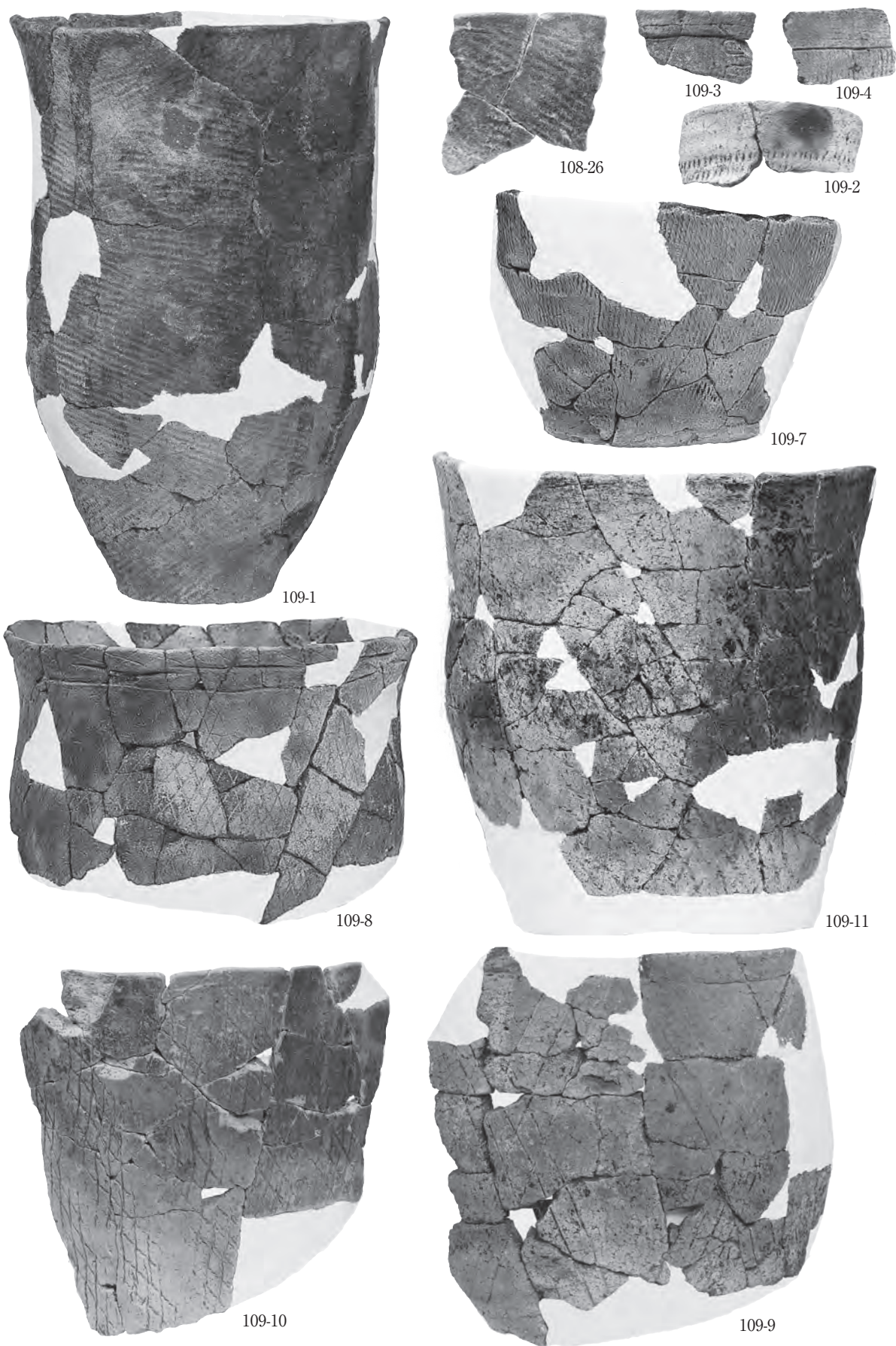


写真48 遺構外出土土器 (7) (北区環状外④)



南区遺構外出土石器(環状外)

写真49 遺構外出土石器(1)(南区環状外①)

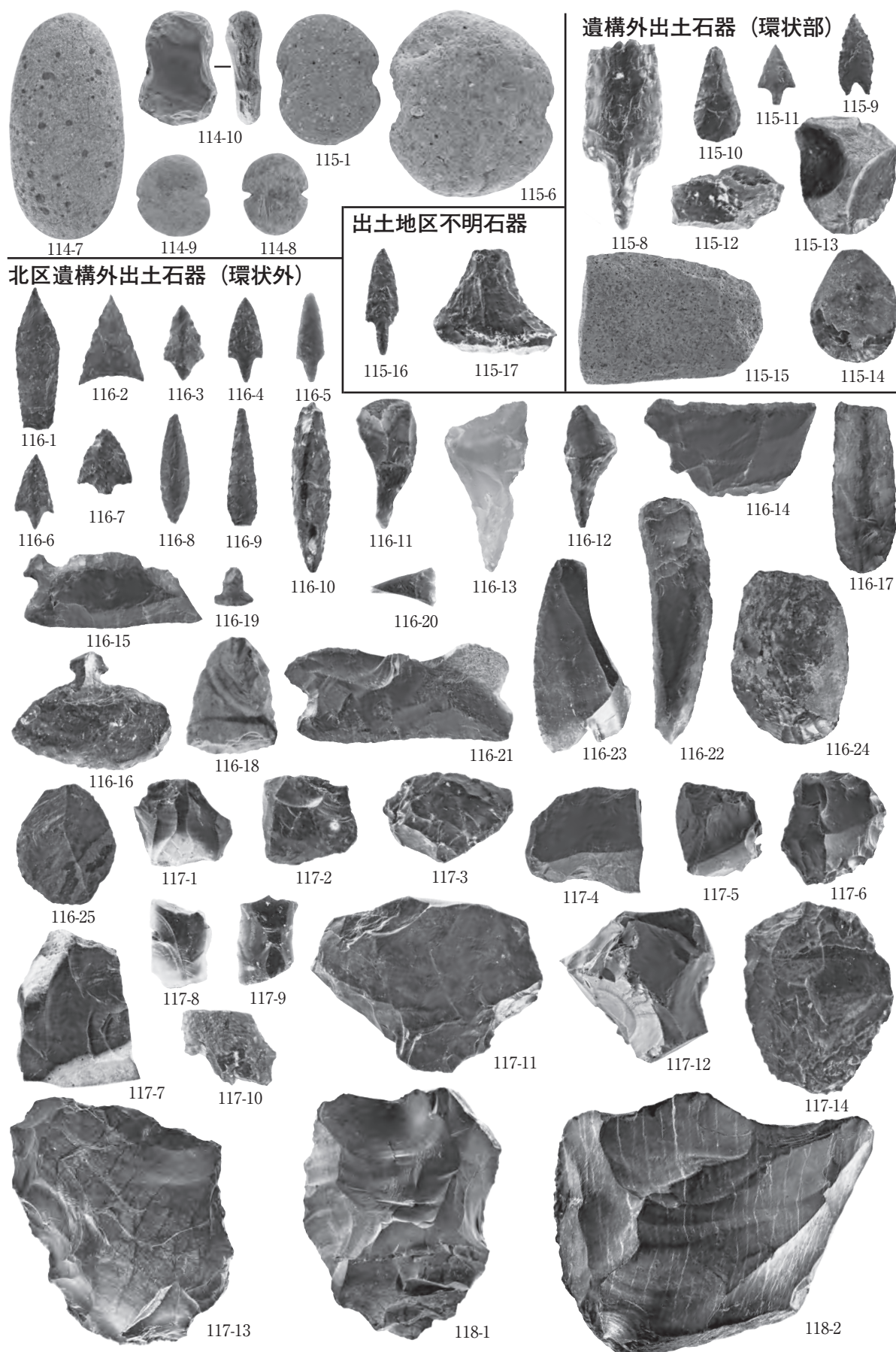


写真50 遺構外出土石器 (2) (南区環状外②・環状部・出土地区不明・北区環状外①)



写真51 遺構外出土石器（3）（北区環状外②）

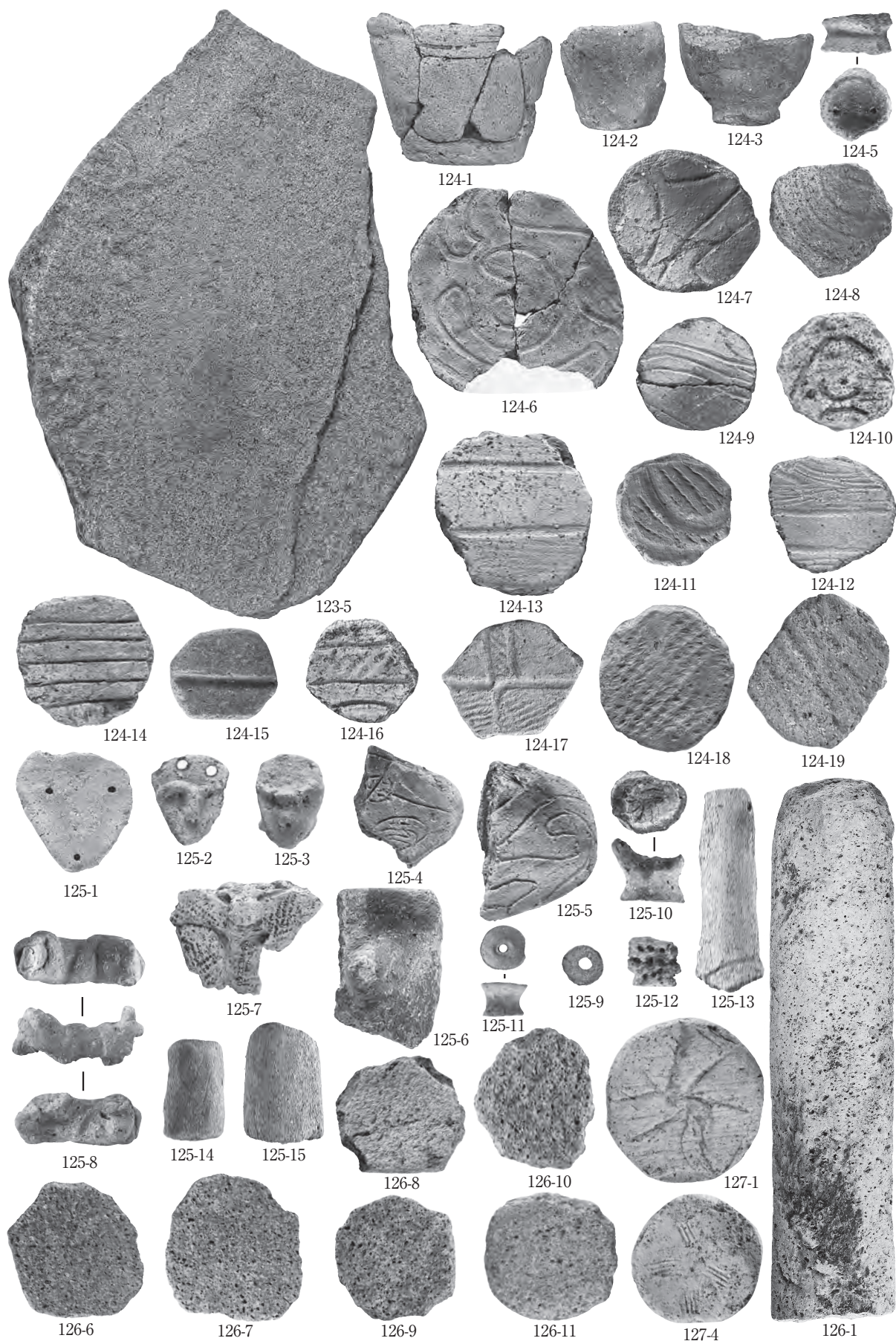


写真52 遺構外出土石器 (4) (北区環状外③)、遺構外出土製品・石製品 (1)

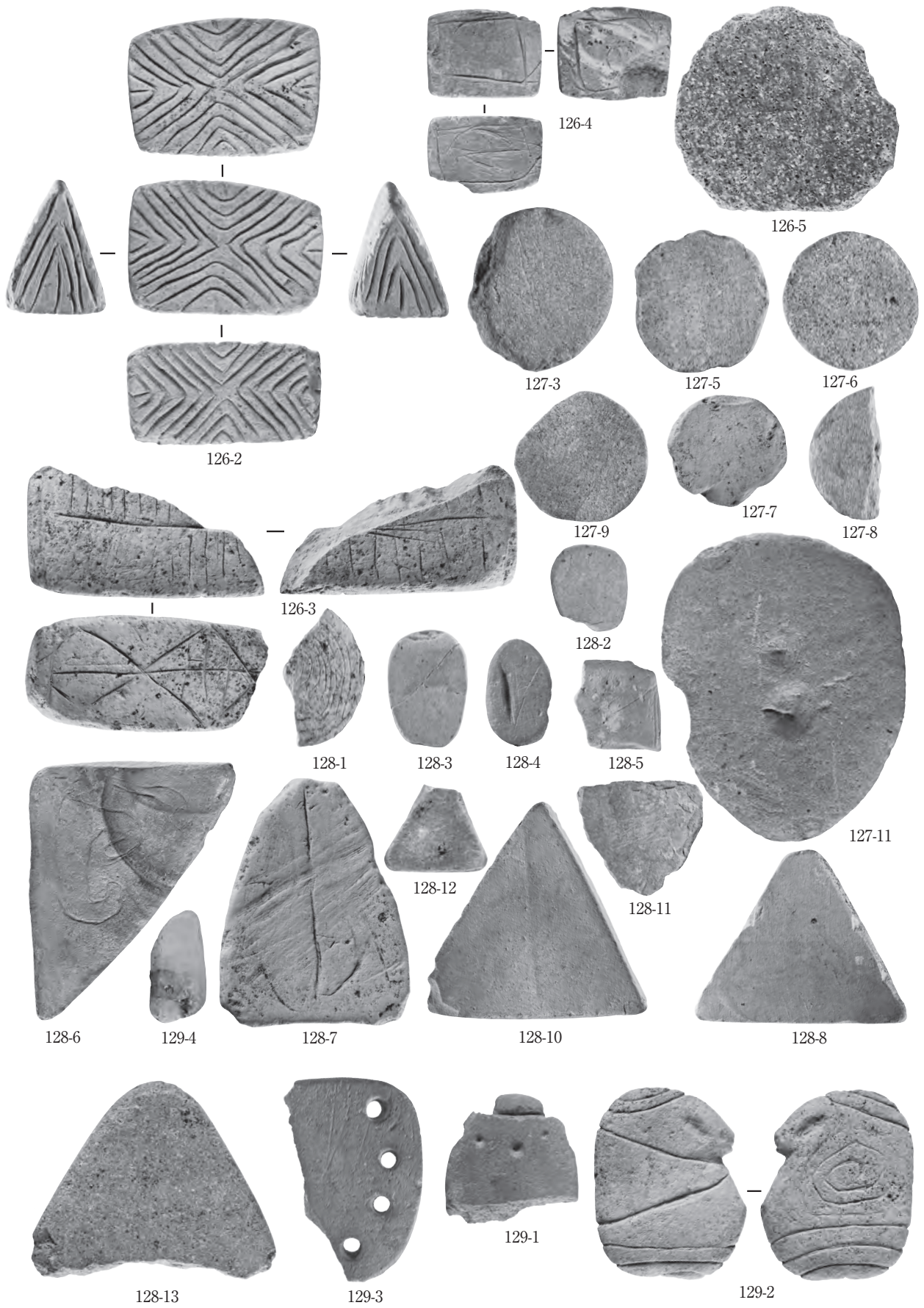


写真53 遺構外出土石製品（2）

報告書抄録

ふりがな	すなこせいせき さん							
書名	砂子瀬遺跡Ⅲ							
副書名	津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第513集							
編著者名	小山 浩平・岡本 洋・小田川 哲彦							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒038-0042 青森市新城字天田内152-15 TEL 017-788-5701							
発行機関	青森県教育委員会							
発行年月日	2012年3月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
すなこせいせき 砂子瀬遺跡	あおもりけんなかつがるぐんにしめ 青森県中津軽郡西目 やむらおおあざすなこせいあざみや 屋村大字砂子瀬字宮 もと元	02343	343008	日本測地系 (Tokyo Datum)		20090507 ～20091113 (4次調査) 20100506 ～20101028 (5次調査)	6,000㎡	津軽ダム建設事業に伴う事前調査
				40° 31' 38"	140° 14' 48"			
				世界測地系 (JGD2000)				
				40° 31' 48"	140° 14' 36"			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
砂子瀬遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 7軒 土坑 416基 掘立柱建物跡 20棟 土器埋設遺構 3基 焼土遺構 5基 配石遺構 2基 ピット 729基 (土坑・ピットの数には掘立柱建物跡の柱穴としたものも含む)	縄文土器(前期～後期)・ 石器・土製品・石製品	縄文時代後期の環状に巡る掘立柱建物群の西半部を検出。			
要約	<p>竪穴住居跡7軒、土坑416基、土器埋設遺構3基、焼土遺構5基、配石遺構2基、ピット729基を検出した。遺構内及び遺構外から出土した土器は、縄文時代後期の土器が主体を占めているため、検出した遺構も縄文時代後期に構築されたものと考えられる。なお、土坑やピットとして調査したものの中には掘立柱建物跡の柱穴と判断できるものもあり、これらの検出数には柱穴も含まれている。重複している柱穴が多いため正確な棟数を把握するのは困難であるが、柱穴の配置状況から、掘立柱建物跡20棟を確認することができた。</p> <p>掘立柱建物跡は環状を構成している一群と、それ以外の一群が認められる。掘立柱建物跡の構築時期であるが、第1・2・16・18号掘立柱建物跡の柱穴から縄文時代後期前葉の土器と混在して後期後葉の土器が出土しており、これらについては後期後葉の遺構と考えられる。また、掘立柱建物跡は配置状況から、ある程度限定された期間に構築されたと推定できるため、出土土器の中で最も新しい段階である後期後葉までに構築されたと考えられる。</p>							

青森県埋蔵文化財調査報告書 第513集

砂子瀬遺跡Ⅲ

－津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－

発行年月日 2012年3月28日
発行 青森県教育委員会
編集 青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042 青森市大字新城字天田内152-15
TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702
印刷 長尾印刷株式会社
〒030-0931 青森市平新田字森越17-1
TEL 017-726-7121 FAX 017-726-9237
